

---

# Groupmax Workflow Version 6

## システム管理者ガイド

解説・手引・文法書

3000-3-477-30

マニュアルの購入方法

このマニュアル，および関連するマニュアルをご購入の際は，  
巻末の用紙をご利用ください。

**HITACHI**

## 対象製品

P-1646-514 Groupmax Workflow Server Version 6 06-00 (適用 OS : HI-UX/WE2)  
P-1646-524 Groupmax Workflow Server Version 6 06-00 (適用 OS : HI-UX/WE2)  
P-1646-7B4 Groupmax Workflow Multi-Server Version 6 06-02 (適用 OS : HI-UX/WE2)  
P-1646-7F4 Groupmax Workflow Server - Connection Version 6 06-00 (適用 OS : HI-UX/WE2)  
P-1B46-5141 Groupmax Workflow Server Version 6 06-52 (適用 OS : HP-UX)  
P-1B46-5241 Groupmax Workflow Server Version 6 06-52 (適用 OS : HP-UX)  
P-1B46-7B41 Groupmax Workflow Multi-Server Version 6 06-52 (適用 OS : HP-UX)  
P-1B46-7F41 Groupmax Workflow Server - Connection Version 6 06-00 (適用 OS : HP-UX)  
P-1M46-5241 Groupmax Workflow Server Version 6 06-52 (適用 OS : AIX)

なお、印のプログラムプロダクトについては変更ありません。

## 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

## 商標類

AIX は、米国における米国 International Business Machines Corp. の登録商標です。

HP-UX は、米国 Hewlett-Packard Company のオペレーティングシステムの名称です。

Java 及びすべての Java 関連の商標及びロゴは、米国及びその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

Microsoft は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

Microsoft Excel は、米国 Microsoft Corp. の商品名称です。

Microsoft Word は、米国 Microsoft Corp. の商品名称です。

Visual Basic は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

Visual C++ は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

Windows は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

Windows NT は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

## 発行

平成 13 年 3 月 (第 1 版) 3000-3-477 (廃版)

平成 13 年 9 月 (第 2 版) 3000-3-477-10 (廃版)

平成 14 年 9 月 (第 3 版) 3000-3-477-20 (廃版)

平成 16 年 6 月 (第 4 版) 3000-3-477-30

## 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2001, 2004, Hitachi, Ltd.

## 変更内容

### 変更内容 ( 3000-3-477-30 ) Groupmax Workflow Server Version 6 06-52

追加・変更機能	変更箇所
サポートする AIX のバージョンを追加しました。	2.3.1
メッセージ ID ごとのデータの有無において、次の項目の誤記を修正しました。 種別を変更したメッセージ ID、メッセージ種別 18 put_root_case 20 cancel_work 34 end_of_root_case 35 end_of_work 日時、時刻、優先度、処理期限：日付、処理期限：期限を 変更したメッセージ ID、メッセージ種別 4 begin_work 34 end_of_root_case	付録 B.2
ワークフローログレコードのメッセージ内容において、次の項目の誤記を修正しました。 ・BEGIN_WORK (ワークの生成) ・MOVE_ROOT_CASE (案件のノード遷移) ・PUT_ROOT_CASE (案件の投入) ・CANCEL_WORK (ワークのキャンセル) ・END_OF_ROOT_CASE (案件の遷移の終了 (シンク)) ・END_OF_WORK (ワークの終了) ・RETRY_MOVE_ROOT_CASE (案件のノード遷移失敗による再遷移)	付録 B.3
セグメントサイズと初期割り当て量において、次の項目の式の変数名の誤記を修正し、 変数の説明内容を追加しました。 (18)WF_send_area	付録 E.3

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

### 変更内容 ( 3000-3-477-20 ) Groupmax Workflow Server Version 6 06-50

追加・変更機能
環境設定ファイルに指定できるオペランドとして、re_login オペランドを追加した。
AIX 版 Groupmax Workflow のポート番号に関する注意事項を追加した。
AIX 版でのサポートコマンドを追加した。
運用コマンド実行時の注意事項を追加した。
メッセージを追加した。 KDWS011-I, KDWS167-E, KDWS203-W, KDWS722-E, KDWS723-E

### 変更内容 ( 3000-3-477-10 ) Groupmax Workflow Server Version 6 06-00

追加・変更機能
サポートする OS に AIX を追加した。
/dev/console へのメッセージ出力を抑制する機能を追加した。

---

追加・変更機能

---

障害情報収集コマンドを追加した。

---

メッセージを追加，変更した。

---

メッセージを削除した。

---

# はじめに

---

Groupmax Workflow Version 6 は、文書の回覧処理を自動化して、業務の効率の向上を支援するワークフロー管理システムです。

このマニュアルでは、Groupmax Workflow Version 6（以降、Groupmax Workflow と呼びます）を構成する次のプログラムプロダクトの機能と使い方について記述しています。

- ・ Groupmax Workflow Server Version 6
- ・ Groupmax Workflow Multi-Server Version 6
- ・ Groupmax Workflow Server - Connection Version 6

マニュアル内では、Groupmax Version 6i を Groupmax と呼びます。

## 対象読者

このマニュアルは、Groupmax Workflow の環境を管理・運用するシステム管理者を対象としています。

## マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す章と付録から構成されています。

### 第 1 章 Groupmax Workflow を使用する環境

Groupmax Workflow のプログラム構成やシステム構成について説明しています。

### 第 2 章 Groupmax Workflow の環境設定

Groupmax Workflow を使用する前に必要な環境設定について説明しています。

### 第 3 章 Groupmax Workflow の運用

Groupmax Workflow のシステムの運用手順について説明しています。

### 第 4 章 Groupmax Workflow の運用コマンド

Groupmax Workflow の運用コマンドの機能及び文法について説明しています。

### 第 5 章 障害対策

Groupmax Workflow で障害が発生した場合の対処について説明しています。

### 付録 A 旧バージョンのワークフローログの出力

旧バージョンのビジネスプロセス定義を使用した場合の、ワークフローログの出力方法について説明しています。

### 付録 B ワークフローログのデータ形式

Groupmax Workflow が出力するワークフローログのデータ形式について説明しています。

### 付録 C 旧バージョンのワークフローログのデータ形式

旧バージョンのビジネスプロセス定義を使用した場合の、ワークフローログの出力データ形式について説明しています。

はじめに

#### 付録 D メッセージとコード

Groupmax Workflow が出力するメッセージ及びコードについて説明しています。

#### 付録 E ディスク占有量の計算式

ワークフローデータベースの容量を決定するための計算式について説明しています。

#### 付録 F システム共通定義ファイルの設定

Groupmax Object Server のシステム共通定義項目の算出方法について説明しています。

#### 付録 G Groupmax Workflow Server - Connection がサポートする機能の範囲

ドメイン間連携機能を使用する場合に使用する Groupmax Workflow Server - Connection の機能のサポート範囲について説明しています。

#### 付録 H ドメイン間連携機能の送受信ログ

ドメイン間連携機能を使用する場合に出力されるメッセージ送受信ログの出力項目や、出力内容について説明しています。

#### 付録 I 用語解説

Groupmax Workflow で使用する用語について説明しています。

## 関連マニュアル

このマニュアルの関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

- HI-UX/WE2 システム管理 導入・保守編 (3000-9-106)
- HI-UX/WE2 システム管理 導入・保守編 (3000-9-107)
- HI-UX/WE2 システム管理 導入・保守編 (3000-9-701)

Groupmax Workflow を 3050RX グループ /3500 シリーズに組み込む場合に参照してください。  
参照するマニュアルは機種によって異なります。

- HI-UX/WE2 リファレンス 2 (3000-3-109)

HI-UX/WE2 の環境を設定する場合に参照してください。

- Groupmax Workflow Version 6 概説 (3020-3-B31)

Groupmax Workflow の全体像や概略を知りたい場合に参照してください。

- Groupmax Workflow - Library Version 6 プログラミングガイド (3020-3-B68)

クライアント又はサーバ上の業務プログラムを、API を使用して開発する場合に参照してください。

- Groupmax Workflow Version 6 ビジュアル定義・シミュレータ・運用モニタ ユーザーズガイド (3020-3-B43)

ワークフローの定義、業務の進捗の管理、及び運用状況のシミュレーションをする場合に参照してください。

- Groupmax Integrated Desktop Version 6 ユーザーズガイド (3020-3-B38)

Groupmax の統合作業環境を使用して Groupmax Workflow を操作する場合に参照してください。

- Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド (3000-3-475)

ワークフローデータベースを設定する場合に参照してください。

- Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド 基本操作編 (3000-3-471)

Groupmax Workflow を使用するユーザを設定する場合に参照してください。

- Groupmax System Agent - TCP/IP Version 5 システム管理者ガイド (3000-3-A50)

HI-UX/WE2 又は HP-UX でシステム統合運用管理機能を使用する場合に参照してください。

- Windows NT Groupmax System Manager - TCP/IP / System Agent - TCP/IP Version 5 システム管理者ガイド (3020-3-A82)

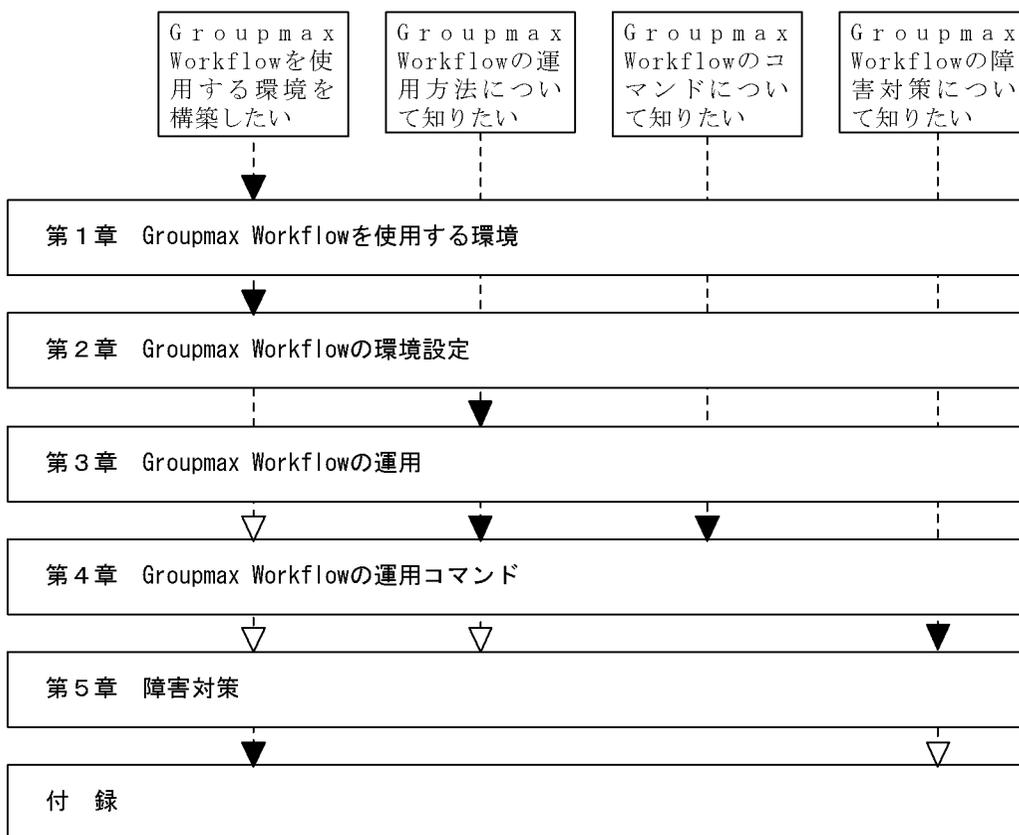
Windows NT でシステム統合運用管理機能を使用する場合に参照してください。

- Groupmax Address - Assist Version 6 システム管理者ガイド (3020-3-B50)

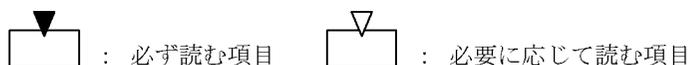
Groupmax Address - Assist の Groupmax 連携機能を使用する場合に参照してください。

### 読書手順

このマニュアルは、利用目的に合わせて直接章を選択して読むことができます。利用目的別に、次の手順でお読みいただくことをお勧めします。



(凡例)



## マニュアルで使用する記号

このマニュアルで使用する記号を、次のように定義します。

記号	説明
[ ]	ウィンドウやダイアログボックスの名称又は項目を示します。 コマンドの説明では、この記号で囲ったオプションを省略できることを示します。
{   }	この記号で囲ったオプションのうち、必ず一つを選択して指定することを示します。
[ ] + [ ]	+の前のキーを押したまま、+の後ろのキーを押すことを示します。

記号	説明
	算出結果を指定された単位で切り上げることを示します。
	算出結果を指定された単位で切り下げることを示します。

## 図中で使用する記号

このマニュアルの図中で使用する記号を、次のように定義します。

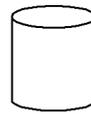
●ワークステーション、パーソナルコンピュータ



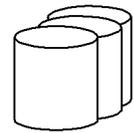
●プログラム



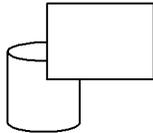
●ファイル



●ファイル(複数)



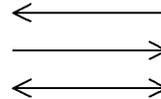
●ファイルの内容



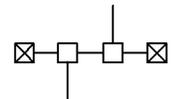
●データの流れ



●制御の流れ



●バス形のLAN



## マニュアルでの表記

このマニュアルでは、製品名称を次の略称で表記しています。

製品名称	略称
Groupmax Workflow Server Version 6	Groupmax Workflow Server
Groupmax Workflow Multi-Server Version 6	Groupmax Workflow Multi-Server
Groupmax Workflow Version 6 for Active Server Pages	Groupmax Workflow for Active Server Pages
Groupmax Workflow Server - Library Version 6	Groupmax Workflow Server - Library , 又は Groupmax Workflow - Library
Groupmax Workflow Server - Library Extension Version 6	Groupmax Workflow Server - Library Extension
Groupmax Workflow Client - Library Version 6	Groupmax Workflow Client - Library , 又は Groupmax Workflow - Library
Groupmax Workflow Client - Library Extension Version 6	Groupmax Workflow Client - Library Extension
Groupmax Workflow Library for the Java™ Platform	Groupmax Workflow Library for Java
Groupmax Workflow Server - Connection Version 6	Groupmax Workflow Server - Connection

はじめに

製品名称	略称
Groupmax Workflow Client Version 6	Groupmax Workflow Client
Groupmax Workflow Definer Version 6	Groupmax Workflow Definer
Groupmax Workflow Monitor Version 6	Groupmax Workflow Monitor
Groupmax Workflow Simulator Version 3	Groupmax Workflow Simulator
Groupmax Workflow - Specialist Tools Version 5 for WWW	Groupmax Workflow - Specialist Tools for WWW
Groupmax Workflow - End - user Tools Version 5 for WWW	Groupmax Workflow - End - user Tools for WWW
Groupmax Integrated Desktop Version 6	Groupmax Integrated Desktop
Groupmax Object Server Version 6	Groupmax Object Server
Groupmax High-end Object Server Version 6	Groupmax High-end Object Server
Groupmax Address Server Version 6	Groupmax Address Server , 又は Groupmax Address
Groupmax Address - Assist Service Version 6	Groupmax Address - Assist Service , 又は Groupmax Address - Assist
Groupmax Address - Assist Viewer Version 6	Groupmax Address - Assist Viewer , 又は Groupmax Address - Assist
Groupmax Mail Server Version 6	Groupmax Mail Server , 又は Groupmax Mail
Groupmax Mail - SMTP Version 6	Groupmax Mail - SMTP
Groupmax Document Manager Version 6	Groupmax Document Manager
Groupmax Document Manager - Development Kit Version 6	Groupmax Document Manager - Development Kit
Groupmax Form Version 6	Groupmax Form
Groupmax Form Client Version 6	Groupmax Form Client
Groupmax System Manager - TCP/IP Version 5	Groupmax System Manager - TCP/IP 又は Groupmax System Manager
Groupmax System Agent - TCP/IP Version 5	Groupmax System Agent - TCP/IP 又は Groupmax System Agent
Groupmax Server - Scan Version 6	Groupmax Server - Scan
JP1/Automatic Job Scheduler	JP1/AJS
AIX 5L 又は AIX 5L V5.1	AIX
Microsoft <sup>(R)</sup> Excel	Excel
Microsoft <sup>(R)</sup> Visual Basic <sup>(R)</sup>	Visual Basic
Microsoft <sup>(R)</sup> Visual C++ <sup>(R)</sup>	Visual C++
Microsoft <sup>(R)</sup> Windows <sup>(R)</sup> Millennium Edition Operating System	Windows Me

製品名称	略称
Microsoft <sup>(R)</sup> Windows NT <sup>(R)</sup> Server Network Operating System Version4.0 Microsoft <sup>(R)</sup> Windows NT <sup>(R)</sup> Workstation Operating System Version4.0	Windows NT
Microsoft <sup>(R)</sup> Windows <sup>(R)</sup> 2000 Professional Operating System Microsoft <sup>(R)</sup> Windows <sup>(R)</sup> 2000 Server Operating System Microsoft <sup>(R)</sup> Windows <sup>(R)</sup> 2000 Advanced Server Operating System	Windows 2000
Microsoft <sup>(R)</sup> Windows <sup>(R)</sup> 95 Operating System	Windows 95
Microsoft <sup>(R)</sup> Windows <sup>(R)</sup> 98 Operating System	Windows 98
Microsoft <sup>(R)</sup> Word	Word

Windows 2000 を御使用の方は、本文中の「Windows NT」を「Windows 2000」と置き換えてお読みください。

HI-UX/WE2 以外のオペレーティングシステムを使用している場合は、マニュアルの本文中で使用されているディレクトリ名「/Flowmate/」を、「/opt/Flowmate/」と置き換えてお読みください。

## 適用 OS 別の機能のサポート

適用 OS 別の機能のサポート状況を次に示します。

機能	HI-UX /WE2	HP-UX	AIX
サーバ機能			
マネージャ機能			
ディレクトリ管理機能			
マルチサーバ機能			×
ドメイン間連携機能			×
ライブラリ開発 (Server)			×
システム統合運用管理機能			×
Groupmax Address - Assist の Groupmax 連携機能			
JP1 連携機能			×
複数サービス機能	×		×
稼働中バックアップ機能			
クラスタ対応	×		

(凡例)

：サポート

×：未サポート

### 常用漢字以外の漢字の使用について

このマニュアルでは、常用漢字を使用することを基本としていますが、次に示す用語については、常用漢字以外の漢字を使用しています。

宛先（あてさき）、貼り付け（はりつけ）、必須（ひつす）、閉塞（へいそく）

### KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト）、1MB（メガバイト）、1GB（ギガバイト）、1TB（テラバイト）はそれぞれ 1,024 バイト、 $1,024^2$  バイト、 $1,024^3$  バイト、 $1,024^4$  バイトです。

# 目次

<b>1</b>	<b>Groupmax Workflow を使用する環境</b>	<b>1</b>
1.1	Groupmax Workflow のプログラム構成	2
1.1.1	Groupmax Workflow を構成するプログラム	2
1.1.2	Groupmax Workflow の前提・関連プログラム	3
1.2	Groupmax Workflow のシステム構成	5
1.3	ドメイン間連携機能のシステム構成	7
<b>2</b>	<b>Groupmax Workflow の環境設定</b>	<b>11</b>
2.1	環境設定の流れ	12
2.2	環境設定の準備	14
2.2.1	ワークフローデータベース容量の決定	14
2.2.2	ディレクトリ構成の決定	14
2.3	プログラムの組み込み	16
2.3.1	前提プログラムの組み込み	16
2.3.2	Groupmax Workflow の組み込み	17
2.4	サーバでの設定	22
2.4.1	オペレーティングシステムでの環境設定	22
2.4.2	Groupmax Object Server での環境設定	25
2.4.3	Groupmax Workflow での環境設定	26
2.4.4	ドメイン間連携機能の定義ファイルの作成	51
2.4.5	ユーザの設定	55
2.5	旧バージョンとの互換のための環境設定	61
2.5.1	バージョンによるビジネスプロセス定義の機能差	61
2.5.2	窓口名と部署名の設定	62
2.6	ワークフローデータベースの移行	65
2.6.1	ワークフローデータベースの移行手順	65
2.6.2	構成変更パラメタファイルの作成	66
2.7	AIX 版 Groupmax Workflow のポート番号に関する注意事項	67
<b>3</b>	<b>Groupmax Workflow の運用</b>	<b>69</b>
3.1	Groupmax Workflow の運用の流れ	70
3.2	システムの起動	72

3.2.1	前提プログラムの起動	72
3.2.2	Groupmax Workflow の起動	72
3.3	システムの終了	73
3.3.1	Groupmax Workflow の終了	73
3.3.2	前提プログラムの終了	73
3.4	ワークフローログの出力	74
3.4.1	ワークフローログの種類	74
3.4.2	ワークフローログの利用方法	75
3.5	終了ワークに関する注意事項	77
3.6	ファイルのバックアップとリストア	78
3.6.1	バックアップの対象となるファイル	78
3.6.2	バックアップの取得方法	79
3.6.3	バックアップからのリストア	79
3.6.4	ジャーナル回復に関する注意事項	80
3.7	システム統合運用管理機能を使用した運用	82
3.7.1	システム統合運用管理機能を使用した起動	82
3.7.2	システム統合運用管理機能を使用した停止	85
3.8	Groupmax Address - Assist の Groupmax 連携機能を使用した運用	91
3.9	その他の運用と運用時の注意事項	92
3.9.1	ビジネスプロセス定義の定義時の注意事項	92
3.9.2	ユーザ，ロールの登録内容の変更	98
3.9.3	案件の配布規則	102
3.9.4	Groupmax Address Server 上での組織変更時の Workflow の運用	110
3.9.5	案件操作の注意事項	114
3.9.6	Groupmax Form で案件を処理する場合の注意事項	115
3.9.7	システム構成変更に関する注意事項	117
3.9.8	ドメイン間連携機能の運用上の注意事項	120
3.9.9	マルチサーバ構成時のサーバ間接続形態に関する注意事項	128
3.9.10	累積リソースに関する運用上の注意事項	128
3.9.11	システム・ログに関する注意事項	131
3.9.12	/dev/console へのメッセージ出力を抑制する機能	131
3.9.13	再ログイン時の設定値に対するクライアントのログイン結果一覧	132
4	Groupmax Workflow の運用コマンド	137
4.1	運用コマンド一覧	138
4.2	運用コマンドの指定方法	141

4.3	運用コマンドの文法	142
4.4	運用コマンド実行時の注意事項	228

## 5

	<b>障害対策</b>	<b>229</b>
5.1	システムに障害が発生して正常に戻るまで	230
5.2	障害の切り分け	231
5.3	障害への対処	232
	5.3.1 障害要因の排除	232
	5.3.2 障害情報の採取	232
5.4	障害の回復	240
	5.4.1 Groupmax Workflow Server 障害時の回復方法	240
	5.4.2 Groupmax Workflow Multi-Server 障害時の回復方法	240
	5.4.3 Groupmax Object Server 障害時の回復方法	240
	5.4.4 セッション異常終了時の回復方法	240
	5.4.5 案件の遷移エラー時の回復方法	240
	5.4.6 ドメイン間連携中の障害回復方法	241
5.5	環境設定時の障害対策	245
	5.5.1 サーバでの環境設定時の対処	245
	5.5.2 サーバへログインができない場合の対処	246

## 付録

	<b>付録</b>	<b>247</b>
	<b>付録 A 旧バージョンのワークフローログの出力</b>	<b>248</b>
	付録 A.1 稼働状況解析機能の概要	248
	付録 A.2 稼働状況を解析するための準備	250
	付録 A.3 ワークフローログの編集	251
	付録 A.4 稼働実績の集計	253
	付録 A.5 解析結果の利用方法	255
	付録 A.6 運用コマンドのパラメタファイル	256
	<b>付録 B ワークフローログのデータ形式</b>	<b>262</b>
	付録 B.1 データの形式	262
	付録 B.2 メッセージ ID ごとのデータの有無	263
	付録 B.3 ワークフローログレコードのメッセージ内容	265
	<b>付録 C 旧バージョンのワークフローログのデータ形式</b>	<b>274</b>
	付録 C.1 ユーザ実績ファイルのデータ形式	274
	付録 C.2 ビジネスプロセス実績ファイルのデータ形式	277

付録 C.3	ワークフローログレコードファイルのデータ形式	281
付録 D	メッセージとコード	294
付録 E	ディスク占有量の計算式	701
付録 E.1	ワークフローデータベースのディスク占有量	701
付録 E.2	Groupmax High-end Object Server を使用するときのシステムジャーナル容量	724
付録 E.3	セグメントサイズと初期割り当て量	727
付録 E.4	マルチサーバの作業用ディレクトリのディスク占有量	744
付録 E.5	Groupmax Workflow Server - Connection のディスク容量	745
付録 F	システム共通定義ファイルの設定	747
付録 F.1	常駐化の指定 (resipool, resiobj)	747
付録 F.2	グローバルキャッシュパラメタの指定 (gcache)	749
付録 F.3	静的共有メモリ数 (static_shmpool_size)	751
付録 F.4	最大同時排他要求数 (lck_limit)	751
付録 G	Groupmax Workflow Server - Connection がサポートする機能の範囲	753
付録 H	ドメイン間連携機能の送受信ログ	755
付録 H.1	メッセージ送受信ログの出力内容	755
付録 H.2	メッセージ送受信ログの出力項目一覧	757
付録 H.3	オペレーションエラーコード一覧	758
付録 H.4	メッセージ送受信ログの出力ディレクトリと出力ファイル名	759
付録 H.5	世代ファイルの管理	760
付録 I	用語解説	761

## 索引

767

## 目次

図 1-1	Groupmax Workflow のシステム構成 (HI-UX/WE2 版及び HP-UX 版の場合)	5
図 1-2	Groupmax Workflow のシステム構成 (AIX 版の場合)	6
図 1-3	ドメイン間連携機能を使用する場合のシステム構成	8
図 1-4	直列連携	9
図 1-5	階層連携	10
図 2-1	Groupmax Workflow の環境設定の流れ	13
図 2-2	サーバのディレクトリ構成	20
図 2-3	ビジネスプロセス間連携での部署名と窓口名の関係	62
図 3-1	Groupmax Workflow の運用の流れ	71
図 3-2	ロール定義情報出力ファイルの例	99
図 3-3	案件の再配布の概要	105
図 3-4	案件の上長への自動配布の概要	109
図 3-5	Groupmax Address Server 上で組織を変更する場合の操作の流れ	111
図 4-1	ロール定義更新ログ出力ファイルの出力例	164
図 4-2	ユーザ定義更新ログ取得ファイルの出力例	176
図 4-3	ユーザ定義コマンド (WFregusr) のレポート形式例	212
図 5-1	システムで障害が発生してから正常に戻るまでの作業の流れ	230
図 A-1	稼働状況解析機能の入出力の概要	249
図 A-2	稼働実績集計結果のマージ方法	254

## 表目次

表 2-1	Groupmax Workflow の前提プログラム	16
表 2-2	環境設定ファイルの参照プログラム	45
表 2-3	メールサーバ定義ファイルの定義項目と内容	54
表 2-4	連携情報定義ファイルの定義項目と内容	55
表 3-1	ワークフローログの種類	74
表 3-2	ユーザ処理リストの定義内容と対応する処理方法	96
表 3-3	組織ロールの種別による編集内容	100
表 3-4	ノードの属性	102
表 3-5	作業者にユーザを指定したときの配布規則	106
表 3-6	作業者にロールを指定したときの配布規則 (ランダム配布)	106
表 3-7	作業者にロールを指定したときの配布規則 (条件配布)	107
表 3-8	作業者にロールを指定したときの配布規則 (再配布対象ノード指定時)	108
表 3-9	差し戻し時の配布規則	110
表 3-10	Groupmax Address Server 上の組織変更後の組織ロールへの影響とその対処方法	112
表 3-11	Groupmax Address Server 上の組織変更後のユーザ権限への影響とその対処方法	113
表 3-12	連携元の連携状態	125
表 3-13	連携元での対処 (その 1)	126
表 3-14	連携元での対処 (その 2)	126
表 3-15	連携先の連携状態	127
表 3-16	連携先での対処	127
表 3-17	ホームサーバが Workflow 管理サーバの場合のログイン結果	132
表 3-18	ホームサーバが Workflow 管理サーバ以外の場合のログイン結果	134
表 4-1	Groupmax Workflow の運用コマンド一覧	138
表 4-2	処理コード, 更新対象ロール名, 更新対象コード及び機能の一覧	166
表 4-3	更新対象コードと更新値	168
表 4-4	更新対象コードと更新値	174
表 4-5	ジャーナルのスワップエラー発生時の要因と対処方法	184
表 4-6	出力対象ロール種別コード	191
表 4-7	ロール定義情報の出力形式	192
表 4-8	ユーザ定義情報の出力形式	195
表 4-9	送信要求情報の出力内容 (WFifscon コマンド)	201
表 4-10	送信要求情報の出力内容 (WFifsreq コマンド)	203
表 4-11	受信要求情報の出力内容	204

表 4-12	オプションの指定による処理の違い	216
表 4-13	WFshowcq コマンドの出力内容	219
表 5-1	障害検出元プログラムの切り分け	231
表 5-2	採取する障害情報	233
表 5-3	連携元で障害が発生した場合の対処	241
表 5-4	連携先で障害が発生した場合の対処	243
表 5-5	Groupmax Workflow の環境設定時に障害が発生したときの対処	245
表 A-1	メッセージ種別	257
表 B-1	ワークフローログレコードのデータ形式	262
表 B-2	ワークフローログレコードの項目データの有無 (その 1)	263
表 B-3	ワークフローログレコードの項目データの有無 (その 2)	264
表 C-1	ワークフローログレコードの項目データの有無	285
表 G-1	ドメイン間連携機能の概要	753
表 G-2	IF4 規定オペレーションのサポート範囲	754
表 H-1	メッセージ送受信ログの出力内容	755
表 H-2	メッセージ送受信ログの出力項目一覧	757
表 H-3	オペレーションエラーコード一覧	758
表 H-4	メッセージ送受信ログの出力ファイル名	759



# 1

## Groupmax Workflow を使用する環境

この章では、Groupmax Workflow を構成するプログラムの概要、及び Groupmax Workflow のシステム構成について説明します。

---

1.1 Groupmax Workflow のプログラム構成

---

1.2 Groupmax Workflow のシステム構成

---

1.3 ドメイン間連携機能のシステム構成

---

## 1.1 Groupmax Workflow のプログラム構成

---

ここでは、Groupmax Workflow を構成するプログラムと、Groupmax Workflow の前提プログラム及び関連プログラムについて、それぞれの機能の概要を説明します。

### 1.1.1 Groupmax Workflow を構成するプログラム

Groupmax Workflow は、クライアント・サーバシステムの形態で稼働します。サーバとクライアントの間は、TCP/IP (Transmission Control Protocol/Internet Protocol) で接続します。

#### (1) サーバで動作するプログラム

AIX 版の場合は、次に示すプログラムのうち、Groupmax Workflow Server をサポートしています。

##### Groupmax Workflow Server

ユーザが定義したビジネスプロセスを管理するプログラムで、Groupmax Workflow のプログラム群の中で中心的な役割を果たします。クライアントから要求される各種操作を制御するサーバ機能と、ワークフローとして定義された経路に従って案件を遷移させるマネージャ機能から構成されます。

##### Groupmax Workflow Multi-Server

サーバ間で案件の受け渡しをするためのマルチサーバ機能を提供します。マルチサーバ機能は、ワークフローサーバのマネージャ機能からの要求を受け、案件を遷移先のサーバに送付するメッセージ送信機能と、送付された案件を受け付け、マネージャ機能に対し案件の遷移要求をするメッセージ受信機能から構成されます。

##### Groupmax Workflow Server - Connection

Groupmax Workflow ドメイン間や WfMC Interface4 (以降、IF4 と呼びます) をサポートしているワークフローシステムと連携するためのプログラムです。マネージャ機能からの要求を受け、連携先のワークフローシステムに案件を送付します。連携先では送付されてきた案件をワークフローシステムに投入します。

##### Groupmax Workflow Server - Library

サーバ上の業務プログラムの開発を支援するプログラムです。API (Application Programming Interface) として、C、C++、及び Visual Basic とのインタフェースを提供します。

##### Groupmax Workflow Server - Library Extension

Workflow の管理業務 (案件の振り替えや処理期限の過ぎた案件の遷移など) アプリケーションの開発を支援するプログラムです。API として、C、C++、及び Visual Basic とのインタフェースを提供します。

## (2) クライアントで動作するプログラム

AIX 版の場合は、次に示すプログラムのバージョン 02-10 以降を使用してください。

### Groupmax Workflow Definer

案件の回覧経路を定義したり、Groupmax Workflow を使用するユーザを定義したりするためのプログラムです。アイコンと矢印を組み合わせることで業務の流れ（ワークフロー）をビジュアルに描画できます。

### Groupmax Workflow Simulator

業務を稼働させる前に、運用状況をシミュレーションするためのプログラムです。稼働時の処理時間などを事前に算出することで、効率の良いワークフローの構築を支援します。

### Groupmax Workflow Monitor

業務の進捗状況や状況を管理するためのプログラムです。業務の負荷状況及びユーザの作業状況が表示され、必要に応じて業務の処理状態を変更できます。

### Groupmax Workflow Client - Library

クライアント上の業務プログラムの開発を支援するプログラムです。API として、Visual C++ 及び Visual Basic とのインタフェースを提供します。

### Groupmax Workflow Client - Library Extension

クライアント上の Workflow の管理プログラムの開発を支援するプログラムです。API として、Visual C++ 及び Visual Basic とのインタフェースを提供します。

## 1.1.2 Groupmax Workflow の前提・関連プログラム

### (1) オペレーティングシステム

Groupmax Workflow Server は、HI-UX/WE2、HP-UX 及び AIX 上で動作します。Groupmax Workflow Server 以外の、サーバの各プログラムは、HI-UX/WE2、及び HP-UX 上で動作します。

クライアントの各プログラムは、Windows NT、Windows 2000、Windows 95、Windows 98 及び Windows Me 上で動作します。

### (2) 前提プログラム

Groupmax Workflow を動作させるために必要なプログラムを次に示します。すべてサーバで動作するプログラムです。

#### Groupmax Object Server 又は Groupmax High-end Object Server

Groupmax の各プログラムでデータベースを共有するためのオブジェクトサーバです。Groupmax High-end Object Server は、Groupmax Object Server よりも高い性能及び信頼性が要求される場合に使用します。ディスク障害時に、障害直前の状態にワークフローデータベースを回復するなどの機能を持ちます。

## 1. Groupmax Workflow を使用する環境

このマニュアルでは、特に区別する必要がない場合に限り、Groupmax Object Server 及び Groupmax High-end Object Server をまとめて Groupmax Object Server と呼びます。

### Groupmax Address Server

Groupmax で電子アドレス帳の機能を担うプログラムです。Groupmax の各製品のユーザ情報を一元管理します。

### Groupmax Mail Server

Groupmax で、電子メール機能及びメッセージング基盤機能を担うプログラムです。Groupmax Workflow Multi-Server を使用する場合に必要です。Groupmax Workflow Multi-Server は、HI-UX/WE2 版及び HP-UX 版で使用できます。

### インターネットメールサーバ

Groupmax Workflow Server - Connection を使用する場合に必要です。Groupmax Workflow Server - Connection は、HI-UX/WE2 版及び HP-UX 版で使用できます。

## (3) 関連プログラム

### Groupmax Integrated Desktop

Groupmax の各プログラムと連携して、統合的にグループウェア作業をするためのプログラムです。このプログラムを使用すると、アイコンを利用した文書の受発信、メニューを使用した Groupmax Workflow の機能の利用などの Groupmax Workflow の一連の作業が、業務プログラムを開発することなくできます。

### Groupmax System Manager 及び Groupmax System Agent

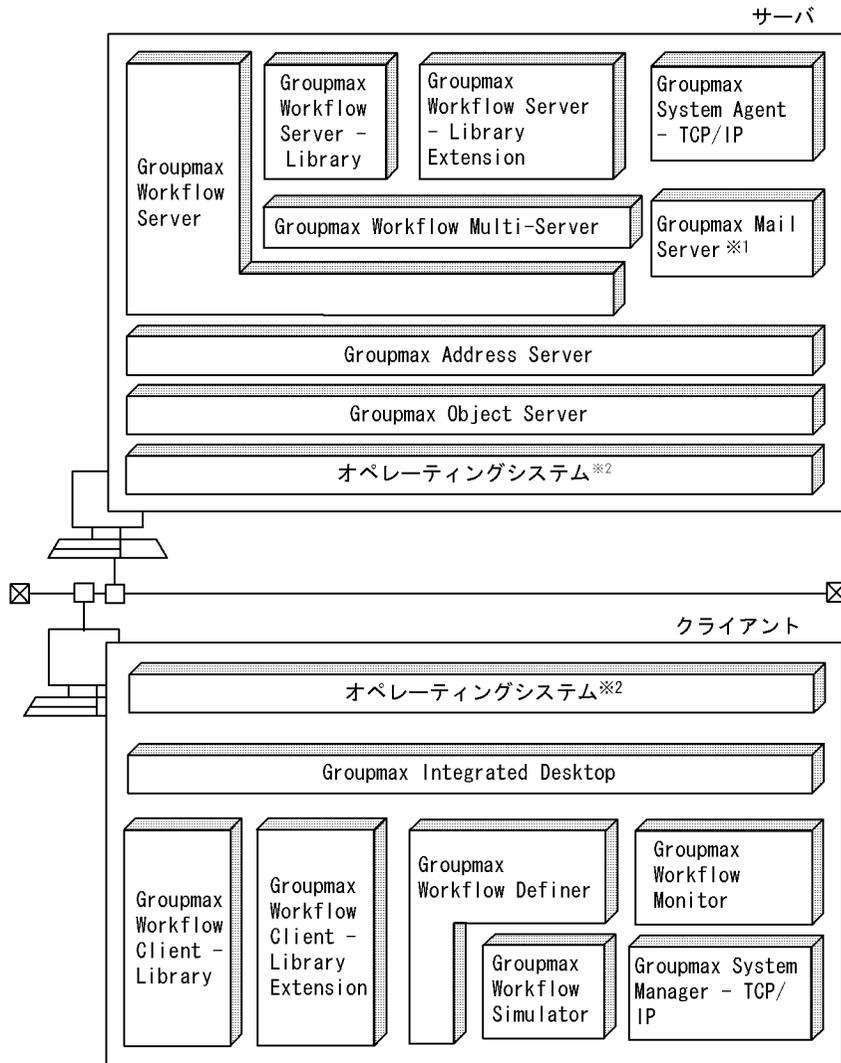
システム統合運用管理機能を使用する場合に必要なプログラムです。システム統合運用管理機能は Groupmax System Manager と Groupmax System Agent で構成されます。この機能を使用すると、ネットワーク上に分散している複数の Groupmax サーバを一元管理できます。

システム統合運用管理機能は、HI-UX/WE2 版及び HP-UX 版で使用できます。

## 1.2 Groupmax Workflow のシステム構成

Groupmax Workflow のシステム構成を、図 1-1 及び図 1-2 に示します。

図 1-1 Groupmax Workflow のシステム構成 (HI-UX/WE2 版及び HP-UX 版の場合)

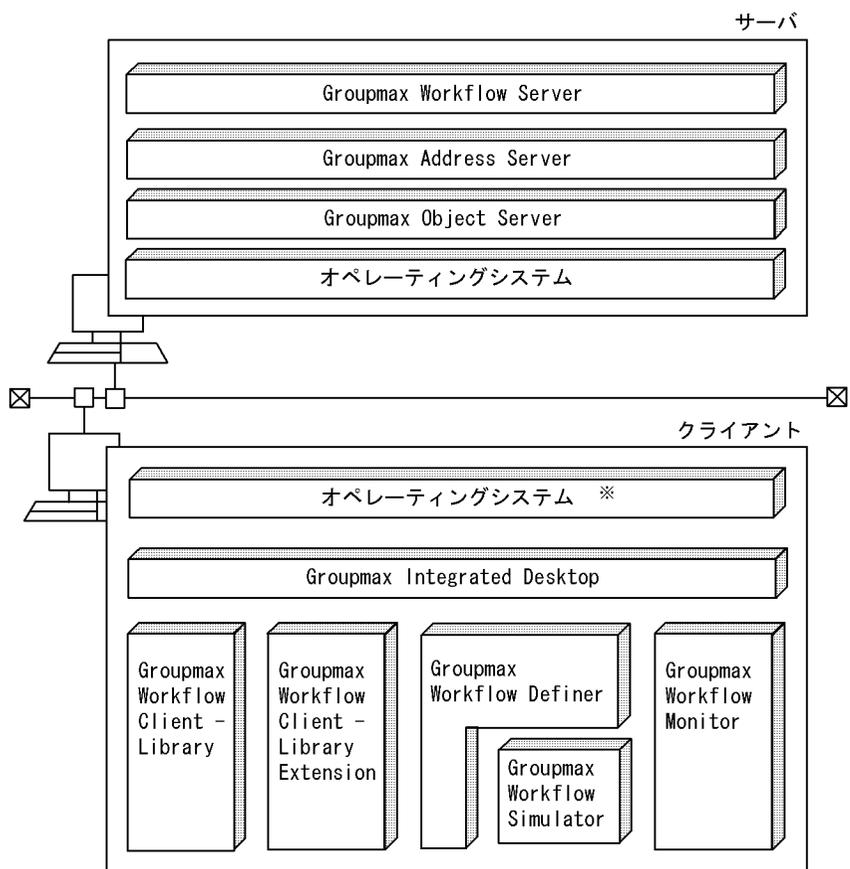


注※1 Groupmax Workflow Multi-Serverを使用する場合に必要です。

注※2 使用するハードウェア及び用途に応じたオペレーティングシステムを選択してください。

1. Groupmax Workflow を使用する環境

図 1-2 Groupmax Workflow のシステム構成 (AIX 版の場合)



注※ 使用するハードウェア及び用途に応じたオペレーティングシステムを選択してください。

## 1.3 ドメイン間連携機能のシステム構成

---

ドメイン間連携機能は、HI-UX/WE2 版及び HP-UX 版で使用できます。

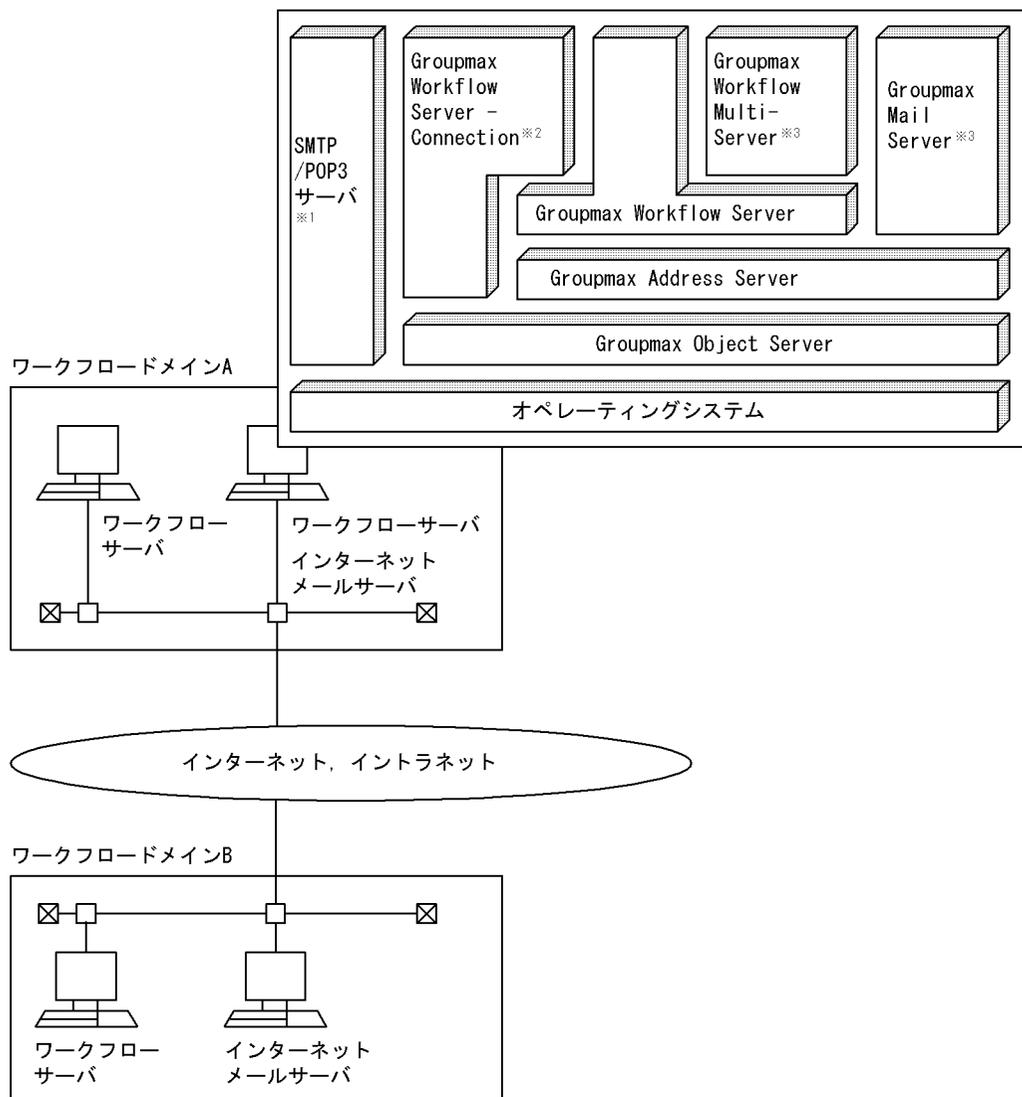
ドメイン間連携機能を使用すると、Groupmax Workflow ドメイン間や IF4 をサポートしているワークフローシステムと連携できます。

この機能を実現するプログラムが Groupmax Workflow Server - Connection です。Groupmax Workflow Server - Connection がサポートする機能の範囲については、「付録 G Groupmax Workflow Server - Connection がサポートする機能の範囲」を参照してください。

ドメイン間連携機能を使用する場合のシステム構成を、図 1-3 に示します。

## 1. Groupmax Workflow を使用する環境

図 1-3 ドメイン間連携機能を使用する場合のシステム構成



注※1 インターネットメールサーバは別マシンにすることもできます。

注※2 Groupmax Workflow Server - Connectionは別ドメインのビジネスプロセス定義と連携するビジネスプロセス定義の登録サーバに必要です。

注※3 ドメイン内をマルチサーバ構成にする場合に必要です。

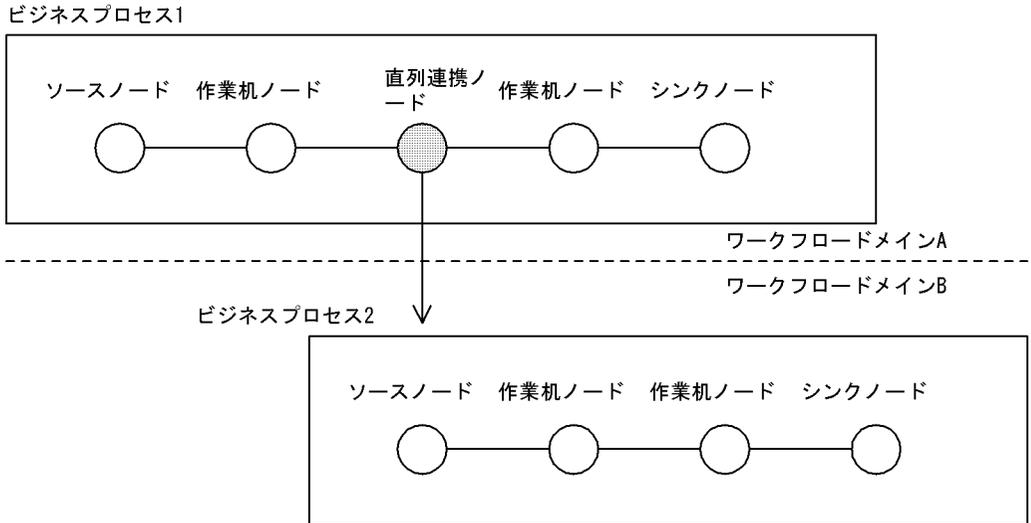
ドメイン間連携機能には、次の二つの連携方法があります。

直列連携

階層連携

図 1-4 と図 1-5 で、直列連携の場合と階層連携の場合のビジネスプロセスの処理の流れを説明します。

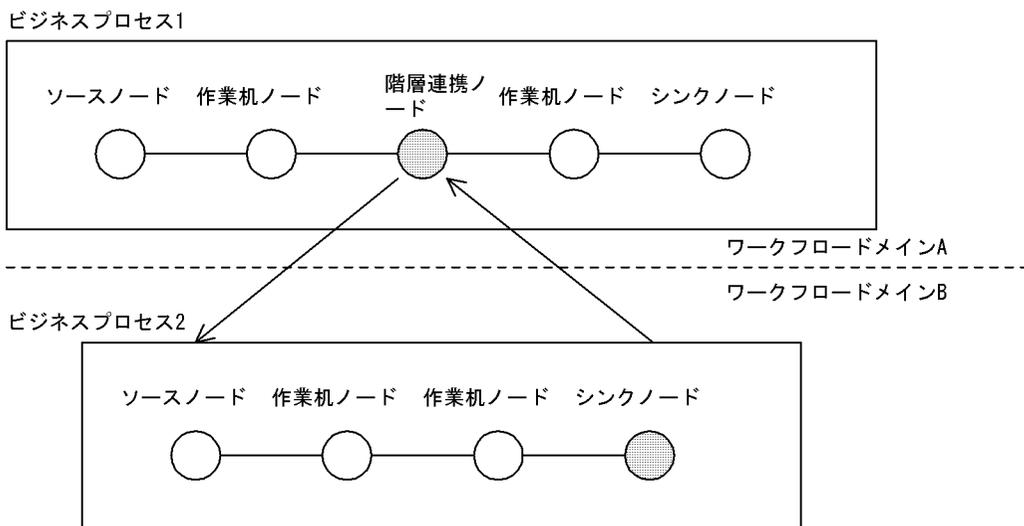
図 1-4 直列連携



1. 案件が直列連携ノードに到着したとき、Groupmax Workflow Server - Connection が案件情報をメールに変換して、連携先のサーバへ転送します。
2. 転送先のGroupmax Workflow Server - Connectionが案件情報のメールを受信して指定されたビジネスプロセスに案件を投入します。
3. 連携元の案件は、連携先での投入完了通知を受け、案件を次ノードに遷移させます。

## 1. Groupmax Workflow を使用する環境

図 1-5 階層連携



1. 案件が階層連携ノードに到着したとき、Groupmax Workflow Server - Connection が案件情報をメールに変換して連携先のサーバへ転送します。
2. 転送先のGroupmax Workflow Server - Connectionが案件情報のメールを受信して指定されたビジネスプロセスに案件を投入します。
3. 案件が連携先のビジネスプロセスのシンクノードに到着したとき、連携元のサーバに Groupmax Workflow Server - Connectionが案件情報をメールに変換して転送します。
4. 連携元の案件に連携先の案件情報を反映し、次ノードに案件を遷移させます。
5. 連携元での処理完了の通知を受け、連携先の案件が遷移終了します。

### 注 1

ビジネスプロセスを連携させる場合、完結しない連携の定義はしないでください。完結しない連携の例を次に示します。

- 連携元のビジネスプロセス定義の連携ノードに連携先のビジネスプロセス名を指定するとき、自分のビジネスプロセス名を指定する。
- 一つのビジネスプロセス連携から始まる一連のビジネスプロセス連携の中に、同じビジネスプロセス定義が存在する。

### 注 2

ビジネスプロセスを連携させる場合、連携する案件には同じファイル名の添付ファイルを指定できません。

### 注 3

直列連携ノード・階層連携ノードからの次ノードへの遷移は、ドメイン間連携機能が実行します。この場合、ドメイン間連携機能はユーザ ID が「system」のユーザで実行されます。このため、Groupmax Address に system ユーザが登録されていない場合、案件の履歴表示などでのユーザの表示が「\*\*\*\*」となります。

# 2

## Groupmax Workflow の環境設定

この章では、Groupmax Workflow を起動する前に必要な環境設定について説明します。

---

2.1 環境設定の流れ

---

2.2 環境設定の準備

---

2.3 プログラムの組み込み

---

2.4 サーバでの設定

---

2.5 旧バージョンとの互換のための環境設定

---

2.6 ワークフローデータベースの移行

---

2.7 AIX 版 Groupmax Workflow のポート番号に関する注意事項

---

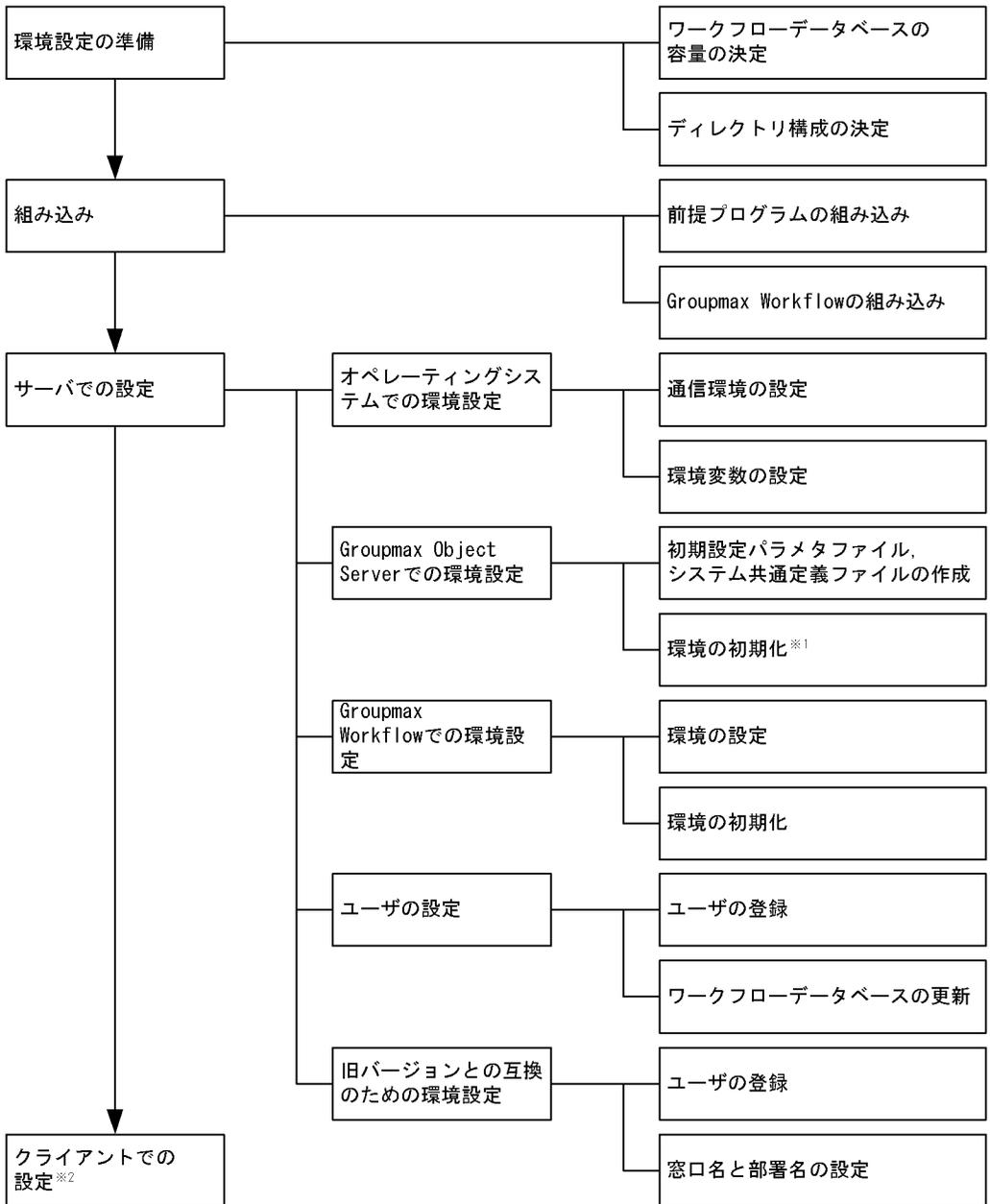
## 2.1 環境設定の流れ

---

この節では、Groupmax Workflow の環境設定の流れについて説明します。Groupmax Workflow の環境設定の流れを、図 2-1 に示します。

図 2-1 に示した環境設定の流れに従って、2.2 節から環境設定の操作方法を説明します。

図 2-1 Groupmax Workflow の環境設定の流れ



注※1 Groupmax Object Serverの環境の初期化方法については、マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。

注※2 クライアントでの設定には、Groupmax Workflow Definerを使用します。

## 2.2 環境設定の準備

---

この節では、Groupmax Workflow の環境を設定する前の準備について説明します。

環境を設定する前に、Groupmax Workflow で使用するワークフローデータベースの容量、及びディレクトリの構成を決めておく必要があります。

ワークフローデータベースの容量を決定するための計算式については、「付録 E ディスク占有量の計算式」を参照してください。

### 2.2.1 ワークフローデータベース容量の決定

Groupmax Workflow で回覧する文書の数やサイズ、サーバで管理するユーザ、ロール、及びビジネスプロセス定義の数を基に、ワークフローデータベースの容量を決定します。

### 2.2.2 ディレクトリ構成の決定

「2.2.1 ワークフローデータベース容量の決定」で決定した内容を基に、ディレクトリ構成を決定します。

ディレクトリ構成を決定する場合は、次のことに注意してください。

Workflow のディレクトリは、すべてローカルなファイルシステムに割り当ててください。

バックアップを容易にするためや、将来の拡張性を確保するために、それぞれを別のファイルシステムにすることをお勧めします。

同時にログインするユーザの数に応じて、十分なスワップファイルの領域を確保してください。

次に、Workflow のディレクトリを示します。

- Groupmax Workflow システムディレクトリ (/Flowmate)
- Groupmax Workflow ワークエリアディレクトリ (/Flowmate/export)
- Groupmax Workflow 文書実体ディレクトリ (/Flowmate/doc)
- Groupmax Object Server システムディレクトリ (/usr/HiOODB)
- Groupmax Object Server ホームディレクトリ (/usr/HiOODB 以外の任意)
- ワークフローデータベース用のディレクトリ (任意)
- ユーザデータ格納ディレクトリ (/Flowmate/userdata)
- ワークフローログ出力ディレクトリ (/Flowmate/wflog)

次のディレクトリは、HI-UX/WE2 版及び HP-UX 版の場合に使用します。

- ドメイン間連携作業ディレクトリ (/Flowmate/WFmc/tmp)
- ドメイン間連携メール格納ディレクトリ (/Flowmate/WFmc/mail)

- ドメイン間連携送受信ログ出力ディレクトリ (/Flowmate/WFmc/SRlog)
- ドメイン間連携不当メール格納ディレクトリ (/Flowmate/WFmc/tmp)

## 2.3 プログラムの組み込み

この節では、Groupmax Workflow の各プログラムの組み込み方法について説明します。

### 2.3.1 前提プログラムの組み込み

Groupmax Workflow の稼働に必要な前提プログラムを、表 2-1 に示します。

表 2-1 Groupmax Workflow の前提プログラム

ソフトウェア名	バージョン	機能
HI-UX/WE2/BASE 次のどれかを使用。 P-1611-111 P-1611-171 P-1611-112 P-1611-113	06-02 以降 04-03 以降 06-02 以降 07-02 以降	Groupmax Workflow の稼働に必要なオペレーティングシステム。 HI-UX/WE2/BASE, HP-UX, AIX 5L のどれか一つが必要。
HP-UX	10.20, 11.00, 11.11	
AIX 5L	5.1, 5.2	
Groupmax Object Server, 又は Groupmax High-end Object Server	06-00 以降	ワークフローデータベースの共有に必要なプログラム。どちらか一つが必要。
Groupmax Address Server	06-00 以降	ユーザ情報の管理に必要なプログラム。
Groupmax Mail Server	06-00 以降	Groupmax Workflow Multi-Server を使用する場合に 必要なプログラム。HI-UX/WE2 版及び HP-UX 版の場合に使用。

オペレーティングシステムを組み込んだ後、オペレーティングシステムの標準組み込み機能を使用して、その他の前提プログラムを組み込んでください。オペレーティングシステムの標準組み込み機能については、マニュアル「HI-UX/WE2 システム管理 導入・保守編」、又はそれぞれのオペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

なお、Groupmax Object Server を組み込む前に、Groupmax Object Server のシステムディレクトリを作成しておく必要があります。システムディレクトリは、オペレーティングシステムごとに、次のように異なります。

- /usr/HiOODB : HI-UX/WE2 の場合
- /opt/HiOODB : HI-UX/WE2 以外の場合

また、Groupmax Object Server を組み込んだ後、プログラムを実行するためのホームディレクトリ (Groupmax Object Server のシステムディレクトリ以外の任意) を作成します。ホームディレクトリを作成したユーザが Groupmax Object Server のシステム管理者となり、Groupmax Object Server のコマンドを実行できます。

## 2.3.2 Groupmax Workflow の組み込み

前提プログラムが組み込み済みであることを確認し、サーバで動作する Groupmax Workflow の各プログラムを組み込みます。ここでは、各プログラムの組み込み方法、及びサーバのディレクトリ構成について説明します。

### (1) 組み込み方法

オペレーティングシステムの標準組み込み機能、又は日立 PP インストーラを使用して、Groupmax Workflow Server、Groupmax Workflow Multi-Server、Groupmax Workflow Server - Connection の順に組み込んでください。

Groupmax Workflow Server - Library を使用して業務処理プログラムを開発する場合は、Groupmax Workflow Server - Library を組み込んでください。また、Groupmax Workflow Server - Library Extension を使用して業務管理プログラムを開発する場合は、Groupmax Workflow Server - Library Extension を組み込んでください。組み込み方法については、マニュアル「Groupmax Workflow - Library Version 6 プログラミングガイド」を参照してください。

オペレーティングシステムごとに組み込み方法を説明します。

#### (a) HI-UX/WE2 版の場合

オペレーティングシステムの標準組み込み機能によってインストールします。オペレーティングシステムの標準組み込み機能については、マニュアル「HI-UX/WE2 システム管理 導入・保守編」を参照してください。

#### (b) HP-UX 版の場合 (DAT)

次の手順に従って組み込みます。

1. テープを DAT ドライブにセットする
2. スーパーユーザでログインし、「tar xvf /dev/rmt/0mn」を実行する  
下線部分は、環境によってデバイススペシャルファイル名が異なります。使用する環境に合わせてファイル名を変更してください。ただし、「/etc/hitachi\_setup」コマンドが既にマシン上に展開されている場合は、この操作は不要です。
3. 日立 PP インストーラである「/etc/hitachi\_setup -i /dev/rmt/0mn」を実行する  
下線部分は、環境によってデバイススペシャルファイル名が異なります。使用する環境に合わせてファイル名を変更してください。また、自動巻き戻し機能のないデバイススペシャルファイル名を指定してください。
4. 「I Install Software」を入力する
5. カーソルを移動させ、スペースキーで組み込むプログラムを選択し、「I Install」を入力する

## 2. Groupmax Workflow の環境設定

インストール処理が開始されます。

6. インストール処理が完了したら、「Q Quit」を入力して終了する

(c) HP-UX 版の場合 (CD-ROM)

次の手順に従って組み込みます。

1. 「mkdir /cdrom」を実行してマウント用の /cdrom ディレクトリを作成する  
既にマウント用ディレクトリを作成している場合は、この操作は不要です。
2. プログラムの CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットする
3. 「mount /dev/dsk/c1t2d0 /cdrom」を実行して CD-ROM ドライブをマウントする  
下線部分には、使用する CD-ROM デバイススペシャルファイル名を指定してください。
4. スーパーユーザでログインし、日立 PP インストーラである「/cdrom/HPUX/SETUP /cdrom」を実行する  
なお、既に CD-ROM セットアッププログラムを実行し、日立 PP インストーラがハードディスク上にある場合は、直接日立 PP インストーラ (/etc/hitachi\_setup) を起動し、「/etc/hitachi\_setup -i /cdrom」を実行してください。下線部分には、使用する CD-ROM のマウントディレクトリ名を指定してください。
5. 「I) Install Software」を入力する
6. カーソルを移動させ、スペースキーで組み込むプログラムを選択し、「I) Install」を入力する  
インストール処理が開始されます。
7. インストール処理が完了したら、「Q) Quit」を入力して終了する

(d) AIX 版の場合 (CD-ROM)

次の手順に従って組み込みます。

1. 「mkdir /cdrom」を実行してマウント用の /cdrom ディレクトリを作成する  
既にマウント用ディレクトリを作成している場合は、この操作は不要です。
2. プログラムの CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットする
3. 「mount -r -v cdrfs /dev/cd0 /cdrom」を実行して CD-ROM ドライブをマウントする  
下線部分には、使用する CD-ROM デバイススペシャルファイル名を指定してください。
4. 環境変数 LANG に Ja\_JP を設定する

B シェルの場合

```
LANG=Ja_JP;export LANG
```

C シェルの場合

```
setenv LANG Ja_JP
```

なお、既に環境変数 LANG に Ja\_JP が設定されている場合は、この操作は不要です。

5. スーパーユーザでログインし、日立 PP インストーラである「/cdrom/aix/setup /  
cdrom」を実行する  
なお、既に CD-ROM セットアッププログラムを実行し、日立 PP インストーラが  
ハードディスク上にある場合は、直接日立 PP インストーラ (/etc/hitachi\_setup) を  
起動し、「/etc/hitachi\_setup -i /cdrom」を実行してください。下線部分には、使用する  
CD-ROM のマウントディレクトリ名を指定してください。
6. 「I) Install Software」を入力する
7. カーソルを移動させ、スペースキーで「Groupmax Workflow Server」を選択し、「I)  
Install」を入力する  
インストール処理が開始されます。
8. インストール処理が完了したら、「Q) Quit」を入力して終了する

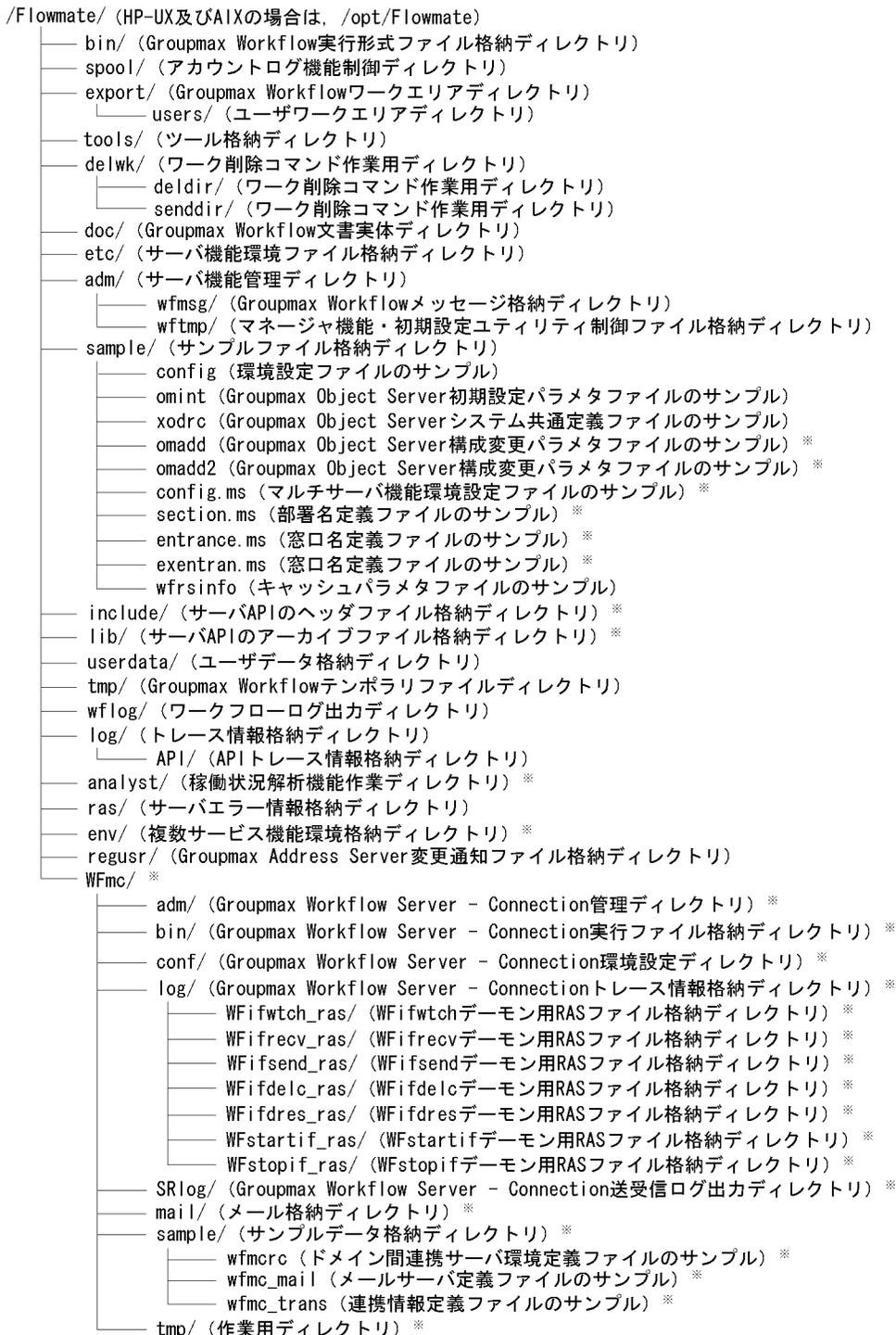
## (2) サーバのディレクトリ構成

Groupmax Workflow Server、Groupmax Workflow Multi-Server 及び Groupmax  
Workflow Server - Connection の組み込みによって作成されるディレクトリ及びファイ  
ル(サンプルファイル)を図 2-2 に示します。これらのディレクトリ及びファイルの形式  
はすべてオペレーティングシステムファイルです。

また、HI-UX/WE2 以外のオペレーティングシステムを使用している場合は、マニユア  
ルの本文中で使用されているディレクトリ名 /Flowmate/ を、/opt/Flowmate/ と置き換え  
てお読みください。

## 2. Groupmax Workflow の環境設定

図 2-2 サーバのディレクトリ構成



注※ HI-UX/WE2版及びHP-UX版で作成されるディレクトリ及びファイル

### (3) 組み込み時の注意事項

Groupmax Workflow Server , 及び Groupmax Workflow Multi-Server を組み込む場合の注意事項を次に示します。

- 同一マシン内のプログラムプロダクトのバージョンアップは、同時に実施してください。  
バージョンが一致していない場合は、動作不正が発生します。
- サーバとクライアントのバージョンアップは、できるだけ同時に実施してください。  
同時に実施できない場合は、サーバを先にバージョンアップしてください。  
また、サーバのバージョンアップでは、Workflow 管理サーバをバージョンアップした後その他の Workflow サーバをバージョンアップしてください。
- Groupmax Workflow Server 06-00 へのバージョンアップを実施すると、ワークフローデータベースの移行が必要です。WFconvertdb コマンドを最初に行ってください。ワークフローデータベースの移行については、「2.6 ワークフローデータベースの移行」を参照してください。
- Groupmax Workflow Multi-Server 02-10 より前のバージョンから 06-00 のバージョンにバージョンアップする場合は、Groupmax Workflow Multi-Server が使用するメールアドレスを Workflow システム組織下に移動する必要があります。このときの注意事項を次に示します。
  - ユーザ ID は変更しないでください。
  - WFshowcq コマンドで転送データ一覧を取得して、サーバ間連携機能を使用しているすべてのサーバの転送データがなくなったことを確認した後、実行してください。このとき、ワークフローマネージャを停止して案件を遷移させないことをお勧めします。もし、この手順を省略した場合、転送されない案件や転送先でエラーとなる案件ができる場合があります。この場合、WFshowcq コマンドで転送データ一覧を取得して、転送されない案件、及びエラーとなった案件を取得して、WFretrans コマンドで再送してください。

## 2.4 サーバでの設定

---

この節では、Groupmax Workflow を使用するための環境設定の方法について説明します。

### 2.4.1 オペレーティングシステムでの環境設定

システム管理者は、Workflow 管理サーバで、Groupmax Workflow の稼働に必要なオペレーティングシステムの環境を次の順序で設定します。

1. 通信環境の設定
2. 環境変数の設定

#### (1) 通信環境の設定

Groupmax Workflow では、ネットワーク環境に TCP/IP を使用しています。このため、次に示す通信環境の設定が必要です。

##### (a) サーバの IP アドレスの登録

/etc/hosts ファイル、又は DNS (Domain Name System) のデータベースに自サーバ、及び Workflow 管理サーバの IP アドレスを記述します。IP アドレスの記述形式を次に示します。

形 式

IP アドレス ホスト名 [ホスト名の別名]

オペランド

自サーバの IP アドレス

自サーバの IP アドレスを記述します。

自サーバのホスト名

サーバのホスト名を、英数字、ハイフン又はピリオドからなる文字列で記述します。Groupmax Workflow を使用する場合は、64 バイト以内で記述する必要があります。

自サーバのホスト名の別名

自サーバのホスト名の別名を記述します。別名は、省略できます。

記述例

```
194.68.137.121 sj413 NTserver
```

##### (b) サービス名の登録

通信設定ファイル (/etc/services) に、Groupmax Workflow のサービス名、ポート番号、及びプロトコル名を記述します。また、前提プログラムである Groupmax Mail のサービス名も同様に登録してください。Groupmax Mail のサービス名及びポート番号については、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド 基本操作

編」を参照してください。

通信設定ファイルの記述形式を次に示します。

形式

サービス名 ポート番号 / プロトコル名

オペランド

サービス名

Groupmax Workflow のサービス名は「workflow」です。

ポート番号

Groupmax Workflow のポート番号は「40076」です。

AIX 版 Groupmax Workflow のポート番号の設定については、「2.7 AIX 版 Groupmax Workflow のポート番号に関する注意事項」を参照してください。

プロトコル名

「tcp」と記述します。

記述例

workflow 40076/tcp

## (2) 環境変数の設定

Groupmax Workflow Server, Groupmax Workflow Multi-Server, 及び Groupmax Object Server に共通の環境変数を設定します。「.profile」, 「.login」などのファイルで設定すると便利です。

### (a) 内容及び記述形式

環境変数の内容及び記述形式を次に示します。

PATH : コマンドパス名

Groupmax Object Server のコマンドを格納するディレクトリ (\$XODDIR/bin) をフルパス名で指定します。この変数は省略できません。

NLSPATH : メッセージファイルパス名

Groupmax Workflow Server のメッセージテキスト格納ディレクトリ (/Flowmate/adm/wfmsg/%N.%L) を指定します。

また, Groupmax Workflow Server - Connection を使用する場合は, Groupmax Workflow Server - Connection のメッセージ格納ディレクトリ (/Flowmate/WFmc/adm/%N.%L) も指定します。

この変数は省略できません。

LANG : 使用言語

使用する言語環境を指定します。

HI-UX/WE2 及び HP-UX の場合

省略又は下記以外を指定すると「C」が仮定されます。

## 2. Groupmax Workflow の環境設定

- ja\_JP.SJIS : 日本語
- C : 英語

AIX の場合

- Ja\_JP : 日本語
- 省略又は Ja\_JP 以外 : 英語

XODDIR : オブジェクトサーバホームディレクトリ

Groupmax Object Server のホームディレクトリ ( \$XODDIR ) をフルパス名で指定します。この変数は省略できません。

XODCONFPATH : オブジェクトサーバシステム共通定義ファイルパス名

Groupmax Object Server のシステム共通定義ファイルを格納するディレクトリ ( \$XODDIR/conf/ ) をフルパス名で指定します。この変数は省略できません。

### (b) 記述例

B シェル及び C シェルでの環境変数の記述例を次に示します。

B シェルの場合

```
PATH=$PATH:/users/DB1/bin
NLSPATH=$NLSPATH:/Flowmate/adm/wfmsg/%N.%L
LANG=ja_JP.SJIS
XODDIR=/users/DB1
XODCONFPATH=/users/DB1/conf
export PATH NLSPATH LANG XODDIR XODCONFPATH
```

C シェルの場合

```
setenv PATH "$PATH"/users/DB1/bin
setenv NLSPATH "$NLSPATH"/Flowmate/adm/wfmsg/%N.%L
setenv LANG ja_JP.SJIS
setenv XODDIR /users/DB1
setenv XODCONFPATH /users/DB1/conf
```

### (c) 参照するプログラム

環境変数は、参照するプログラムの起動時の値が有効となります。そのため、環境変数を変更した場合は、参照するプログラムを再起動してください。参照するプログラムが複数ある場合は、プログラム間の同期ずれを防止するため、参照するすべてのプログラムを停止した後に環境変数を変更し、プログラムを再起動してください。

環境変数を参照するプログラムを次に示します。

PATH , NLSPATH , LANG

- Groupmax Workflow Server
- Groupmax Workflow Multi-Server

XODDIR , XODCONFPATH

- Groupmax Object Server

### (3) システム・ログに関する設定 (AIX の場合だけ)

Groupmax Workflow では、システム・ログが必要となります。AIX の場合、システム・ログはデフォルトでは出力されないため、次の手順を実行して、システム・ログが出力されるよう設定してください。

1. スーパユーザでログインする
2. /etc/syslog.conf ファイルを編集する  
指定内容及び指定例を次に示します。

#### 【指定内容】

記述形式：<selector> <action>[<rotation>]

<selector>：機能及び優先順位レベルを "."(ドット) で区切って指定します。

機能："user" 又は "\*"

優先順位レベル："info"

詳細は、syslogd コマンドリファレンスを参照してください。Groupmax Workflow システムでは OS が出力するログも障害時に必要となるため、"\*" を推奨します。

<action>：ログファイルの絶対パス名を指定します。

<rotation>：オプションのため、指定を省略できます。

詳細は、syslogd コマンドリファレンスを参照してください。

#### 【指定例】

```
*.info /usr/adm/syslog.log rotate size 1m file 10 compress
```

3. 指定したファイルパスに対し、次のコマンドを実行する  
touch ログファイルパス
4. syslogd デーモンを起動し直す (OS 再起動) か、又はハングアップシグナル (kill -HUP) を送り、設定したログファイルにロギング情報が出力されているかを確認する

システム・ログは障害発生時の採取資料となるため、Workflow システム起動から停止までを含めて、最低 1 か月以上、システム・ログを保持することを推奨します。

システム・ログの 1 ファイル当たりのサイズは、ユーザの規模や運用によって変わるため、テスト期間を利用して、Workflow システム運用に適した値を見積もってください。

## 2.4.2 Groupmax Object Server での環境設定

Groupmax Object Server は、ワークフローデータベースを共有するためのプログラムです。Groupmax Workflow が Groupmax Object Server の環境を使用するためには、次の 2 種類のファイルを作成して、エリアのセグメントサイズなどを設定する必要があります。

## 2. Groupmax Workflow の環境設定

す。

### 初期設定パラメタファイル

ワークフローデータベースの初期設定情報を記述するファイルです。

初期設定パラメタファイルでの Groupmax Workflow に関連する設定については、「付録 E ディスク占有量の計算式」を参照してください。

### システム共通定義ファイル

Groupmax Object Server のシステムに共通する定義情報を記述するファイルです。

システム共通定義ファイルでの Groupmax Workflow に関連する設定については、「付録 F システム共通定義ファイルの設定」を参照してください。

これらのファイルは、Groupmax Object Server が提供するサーバ環境設定ユティリティを使用すると、簡単に作成できます。また、Groupmax Workflow では、それぞれのファイルに対し、サンプルファイルを提供していますので、これを利用して作成することもできます。Groupmax Object Server での環境設定の詳細については、マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。なお、Groupmax Workflow が提供しているサンプルファイルのファイル名は次のとおりです。

- 初期設定パラメタファイル：/Flowmate/sample/omint
- システム共通定義ファイル：/Flowmate/sample/xodrc

## 2.4.3 Groupmax Workflow での環境設定

Groupmax Workflow を使用する環境を定義するためのファイルを環境設定ファイル（/Flowmate/etc/config）といいます。ここでは、環境設定ファイルの作成方法について説明します。

環境設定ファイルは、サンプルファイルが提供されていますので、コピーして使用してください。サンプルファイルのファイル名は次のとおりです。

- マルチサーバ機能を使用しない場合：/Flowmate/sample/config
- マルチサーバ機能を使用する場合：/Flowmate/sample/config.ms

### （1）環境の設定

#### （a）環境設定ファイルの記述形式

環境設定ファイルの記述形式を次に示します。オペランドに指定できる値の範囲を（（ ））内に、また、ユーザがオペランドを省略した場合にシステムが取る値を《 》内に示します。

なお、同じオペランドを 2 回以上指定した場合は、後に記述した方が有効となります。

形 式

「 」は、AIX 版でもサポートしていることを表します。

work\_effective\_period = ワーク保存期間  
 sleep\_interval = マネージャスリープ時間  
 load\_scripts = 定義スクリプト読み込み数  
 lock\_retry\_interval = ロックエラーリトライスリープ時間  
 wf\_log\_level = ワークフローログレベル  
 wf\_log\_dir = ワークフローログ出力ディレクトリ名  
 multi\_server\_func = サーバ間連携機能指定  
 multi\_server\_config\_path = マルチサーバ環境設定ディレクトリ名  
 multi\_server\_working\_dir = マルチサーバ作業ディレクトリ名  
 multi\_server\_send\_interval = マルチサーバ送信インターバル時間  
 mail\_receive\_interval = メール受信インターバル時間  
 mail\_send\_retry\_times = メール再送リトライ回数  
 multi\_server\_mail\_message\_max\_size = 最大転送データサイズ  
 max\_login\_user = 最大ログインユーザ数  
 max\_login\_userV2 = パージョン 02-10 以降のクライアントの最大ログインユーザ数

max\_session\_service\_process = セッションサービスプロセス数  
 user\_data\_dir = ユーザデータ格納ディレクトリ名  
 management\_server = Workflow 管理サーバホスト名  
 system\_organization\_id = Workflow システム組織 ID  
 ap\_download\_type = アプリケーションダウンロード方式  
 specify\_worker\_check = 作業者指定の作業権限チェック  
 workflow\_server\_watch\_interval = Workflow サーバ監視インターバル時間  
 broadcast\_send\_back = 回収後の同報前への差し戻し  
 source\_node\_send\_back = 複数ケースソースノードへの差し戻し  
 multi\_server\_send\_retry\_interval = 転送リトライインターバル時間  
 multi\_server\_send\_retry\_times = 転送リトライ回数  
 socket\_option\_keepalive = 通信ソケット KEEPALIVE オプション指定  
 no\_session\_time\_out = 無通信セッション監視時間  
 server\_session\_timeout = サーバ間通信監視時間  
 session\_resource\_per\_user = 1 ユーザ当たりの同時接続セッション数  
 default\_user\_history\_max = ユーザヒストリ取得最大数  
 post\_rank\_display = 役職名の順位付け番号表示  
 case\_select\_data\_cache\_size = 案件一覧表示用作業領域のサイズ  
 workid\_information\_delayed\_write = ワーク ID 採番用管理情報遅延更新機能  
 dictsv\_stop\_time\_out = ワークフローディレクトリサービス終了監視時間

## 2. Groupmax Workflow の環境設定

server\_stop\_time\_out = サーバ機能終了監視時間  
manager\_stop\_time\_out = マネージャ機能終了監視時間  
multi\_server\_stop\_time\_out = マルチサーバ機能終了監視時間  
addr\_update\_auto\_reflect = Address ユーザ情報の Workflow 自動反映  
error\_skip\_in\_auto\_reflect = ユーザ情報自動反映時のエラースキップ  
wfmc\_domain\_connect\_function = ドメイン間連携機能指定  
document\_name\_check = 添付文書ファイル名称チェック  
re\_login = 再ログイン

### オペランド

work\_effective\_period = ワーク保存期間 ((0 ~ 1000)) 《7》

ワークが終了（シンク又はキャンセル）した後、一定期間保存するための日数を指定します（単位：日）。ワークの終了日時に保存日数を加えた値がワークの保存期限となります。ワークの保存期限が過ぎたワークは、ワーク削除コマンド（WFdelwork）で削除できます。ワーク保存期間に 0 を指定した場合は、ワーク削除コマンド（WFdelwork）を実行すると、終了したワークが無条件に削除されます。

ただし、Groupmax Workflow Definer で、登録するビジネスプロセス定義のワーク属性の [ ワークを保存する日数 ] を設定している場合は、ここで設定される値よりもその値の方が優先されます。

sleep\_interval = マネージャスリープ時間 ((1 ~ 60)) 《60》

マネージャ機能のスリープ（処理の休止）時間を指定します（単位：秒）。マネージャ機能は、送付要求のあった案件をすべて送付した後、一定時間処理を休止します。マネージャ機能は、このオペランドで指定された時間、スリープした後、再び案件の送付処理を開始します。マネージャスリープ時間を小さくするとシステムの負荷が高くなり過ぎるおそれがありますので、基本的には 60 を指定してください。

load\_scripts = 定義スクリプト読み込み数 ((1 ~ 16)) 《5》

メモリ上に読み込むビジネスプロセス定義の実行形式ファイル数を指定します（単位：個）。指定した数の実行形式ファイルを読み込むためのメモリが確保できない場合、その旨を示すメッセージ（メモリ不足）を出力し、マネージャ機能を終了します。

lock\_retry\_interval = ロックエラーリトライスリープ時間 ((1 ~ 10)) 《5》

案件の送付処理のロックエラーリトライスリープ時間を指定します（単位：秒）。マネージャ機能は、案件の送付処理中にロック処理に失敗した場合に、一定時間スリープしてからリトライ処理をします。ロックエラーとなってからリトライを開始するまでのスリープ時間を、ロックエラーリトライスリープ時間といいます。

wf\_log\_level = ワークフローログレベル ((0 ~ 2)) 《2》

バージョンが 02-10 より前の Groupmax Workflow Definer で登録したビジネスプロセス定義について、ワークフローログを取得するレベルを指定します。稼働状況解析機能を利用する場合は、2 を指定することをお勧めします。

ワークフローログレベルを設定しないと、Groupmax Workflow Server はワークフローログを出力します。このため、Groupmax Object Server のシステム共通定義ファイルで、ユーザジャーナルを設定する必要があります。

ワークフローログが必要ない場合は、ワークフローログを取得しないモード（未取得モード）を設定してください。

なお、バージョンが 02-10 以降の Groupmax Workflow Definer で登録したビジネスプロセス定義については、各ビジネスプロセス定義の属性定義でワークフローログを取得するかどうかを指定するため、このオペランドは指定できません。

0：未取得モード

稼働状況の統計情報が不要の場合に指定します。

1：簡易取得モード

ノードやユーザについての統計情報は必要でなく、ワークの統計情報だけを必要とする場合に指定します。

2：標準取得モード

ユーザ及びワークについて、すべての統計情報を必要とする場合に指定します。

`wf_log_dir` = ワークフローログ出力ディレクトリ名 《/Flowmate/wflog》

ワークフローログの出力先ディレクトリを、フルパス名で指定します。1 バイトから 128 バイトまでの文字列で指定します。このディレクトリには大量のデータが出力されるため、ドライブの空き容量とファイルサイズに留意し、ルートファイルシステムのあるドライブを避けて指定してください。

ワークフローログファイルのディスク容量については、「3.4.1(1) ワークフローログファイルのディスク容量見積もり」を参照してください。

`multi_server_func` = サーバ間連携機能指定 ((use 又は nouse) 《nouse》

マルチサーバ機能を使用するかどうかを指定します。

nouse

マルチサーバ機能を使用しません。

use

マルチサーバ機能を使用します。

`multi_server_config_path` = マルチサーバ環境設定ディレクトリ名 《/Flowmate/etc》

部署名定義ファイル (section)、及び窓口名定義ファイル (entrance 又は exentran) のあるディレクトリの名称を指定します。1 バイトから 128 バイトまでの文字列で指定します。Groupmax Workflow Multi-Server (root ユーザ権限) で書き込みができるディレクトリを指定してください。entrance と exentran の両方の窓口名定義ファイルがある場合は、exentran が優先されます。

このオペランドは、バージョンが 02-10 より前の Groupmax Workflow Definer

## 2. Groupmax Workflow の環境設定

で登録したビジネスプロセス定義を「multi\_server\_func = use」で使用する場合  
だけが必要です。

multi\_server\_working\_dir = マルチサーバ作業ディレクトリ名 《/Flowmate/spool》  
送信用メールファイルを作成する作業ディレクトリの名称を指定します。1 バ  
イトから 128 バイトまでの文字列で指定します。Groupmax Workflow  
Multi-Server (root ユーザ権限) で書き込みができるディレクトリを指定して  
ください。

このオペランドは、マルチサーバ機能を使用する場合だけが必要です。

マルチサーバ作業ディレクトリのディスク占有量については、「付録 E.4 マルチ  
サーバの作業用ディレクトリのディスク占有量」を参照してください。

multi\_server\_send\_interval = マルチサーバ送信インターバル時間 ((1 ~ 600)) 《60》  
メッセージ送信機能のスリープ時間を指定します (単位: 秒)

メッセージ送信機能は、送付要求のあった案件をすべて送付した後、一定時間  
処理を休止します。メッセージ送信機能は、このオペランドで指定された時間  
スリープし、その後、再び案件の送付処理を開始します。

このオペランドは、マルチサーバ機能を使用する場合だけが必要です。

mail\_receive\_interval = メール受信インターバル時間 ((1 ~ 600)) 《60》

メッセージ受信機能のスリープ時間を指定します (単位: 秒)

メッセージ受信機能は、メールボックスの案件をすべて処理した後、一定時間  
処理を休止します。メッセージ受信機能は、このオペランドで指定された時間、  
スリープし、その後、再び案件の受信処理を開始します。

このオペランドは、マルチサーバ機能を使用する場合だけが必要です。

mail\_send\_retry\_times = メール再送リトライ回数 ((0 ~ 99)) 《10》

メール不達時の、メール再送リトライ回数を記述します (単位: 回)。メール再  
送リトライ回数を超えた案件は、エラートレイに送付されます。

このオペランドは、マルチサーバ機能を使用する場合だけが必要です。

multi\_server\_mail\_message\_max\_size = 最大転送データサイズ ((2 ~ 16)) 《4》

通信手段が Groupmax Mail の場合の、転送データの最大サイズを指定します  
(単位: メガバイト)。最大サイズを超えた案件は、エラートレイに送付されま  
す。

このオペランドは、マルチサーバ機能を使用する場合だけが必要です。

max\_login\_user = 最大ログインユーザ数 ((1 ~ 200)) 《32》

Workflow サーバに、同時にログインできる管理者用ログインと代行者用ログイン  
のユーザ数を設定します。

Workflow サーバは、クライアントからのログイン要求を受け付けると「セシ  
ョン」という単位で資源を確保します。セッションとは、Groupmax Workflow での  
サーバとクライアント間の論理的な接続単位のことです。

Workflow サーバでは、ログインをユーザとセッションで管理しています。管理者  
用ログイン若しくは代行者用ログインでログインしたユーザ数が

max\_login\_user オペランドで指定した値を超える場合、又は管理者用ログイン

若しくは代行者用ログインによるセッション数が最大セッション数を超える場合、それ以上ログインできません。

セッションは、クライアントのプログラムやバージョンによって、1 ユーザで複数のセッションを使用する場合があります。このため、ログインしているユーザ数が最大ログインユーザ数を超えていなくても、最大セッション数を超えてログインできなくなる場合がありますので、注意してください。

クライアントごとに使用するセッション数を次に示します。

1. Groupmax Workflow Definer を使用する場合  
同時に実行するプログラム（ワークフロー定義，ワークフローロール定義，ワークフローユーザ定義，配布管理）数分のセッションが必要となります。
2. Groupmax Workflow Monitor を使用する場合  
1 セッションが必要となります。
3. Groupmax Workflow Client - Library Extension 及び Groupmax Workflow Server - Library Extension を使用する場合  
同時にアプリケーションからログインするログイン数分のセッションが必要となります。
4. Groupmax Workflow - Specialist Tools for WWW 及び Groupmax Workflow - End - user Tools for WWW を使用する場合  
ブラウザからログインする数のセッションが必要となります。
5. バージョン 02-10 より前の C/S クライアントを使用する場合  
同時に実行するプログラム数分のセッションが必要となります。
6. バージョン 02-20 より前の Groupmax World Wide Web Version2.0/ ワークフローを使用する場合  
ブラウザからログインする数のセッションが必要となります。
7. Groupmax Integrated Desktop 「不在者のトレーを開く」の場合  
1 セッションが必要となります。
8. Groupmax Workflow Client - Library から HwfSubstitutionLogin 関数又は WFocSubstitutionLogin メソッドを発行する場合  
同時に上記関数又はメソッド発行する数分のセッションが必要となります。
9. Groupmax Workflow for Active Server Pages から WFaxSubstitutionLogin メソッドを発行する場合  
同時に上記メソッド発行する数分のセッションが必要となります。
10. Groupmax Workflow Library for Java から wfjaSubstitution メソッドを発行する場合  
同時に上記メソッド発行する数分のセッションが必要となります。

なお、マルチサーバ構成の場合、上記 1. ~ 4. のプログラムは Workflow 管理サーバとの間でセッションを使用しますので注意してください。

max\_login\_userV2 = バージョン 02-10 以降のクライアントの最大ログインユーザ数 ((1 ~ 1000)) 《64》

Workflow サーバに、同時にログインできる一般用ログインユーザ数を設定します。

## 2. Groupmax Workflow の環境設定

一般用ログインとは、次のプログラムからのログインのことです。

- Groupmax Integrated Desktop
- Groupmax Form Client
- Groupmax Workflow for Active Server Pages で作成したアプリケーション
- バージョン 02-20 以降の Groupmax World Wide Web Desktop/ ワークフロー
- Groupmax Workflow Client - Library 又は Groupmax Workflow Server - Library で作成したアプリケーション

Workflow サーバは、クライアントからのログイン要求を受け付けると「セッション」という単位で資源を確保します。セッションとは、Groupmax Workflow でのサーバとクライアント間の論理的な接続単位のことです。

Workflow サーバでは、ログインをユーザとセッションで管理しています。一般用ログインでログインしたユーザ数が max\_login\_userV2 オペランドで指定した値を超える場合、又は一般用ログインによるセッション数が一般用最大セッション数を超える場合、それ以上ログインできません。

一般用最大セッション数は、次の計算式で求めた値となります。

一般用最大セッション数 = max\_login\_userV2 × session\_resource\_per\_user

ただし、計算式で求めた値が 4096 を超えた場合は、4096 となります。

マルチサーバ構成の場合は、各サーバでサーバ台数分のセッションがシステムで使用されるため、クライアントから使用できるセッション数は、この数を引いた値となります。

セッション数については、セッションサービスプロセス数

(max\_session\_service\_process オペランド) の指定値による上限もありますので、注意してください。

max\_session\_service\_process = セッションサービスプロセス数 ((1 ~ 64)) 《3》

クライアントからの処理要求をベースサービスプロセスへ中継するプロセス (セッションサービスプロセス) の数を指定します。ベースサービスプロセスとは、Groupmax Object Server (ワークフローデータベース) にアクセスし、クライアントからの要求を処理するプログラムです。

セッションサービスプロセス当たり、一般用ログインのセッションを 64 まで中継できます。

一般用ログインによるセッション数が、セッションサービスプロセスが中継できるセッション数を超える場合、一般用最大セッション数を超えていなくてもそれ以上ログインできません。このため、次の計算式で求めた値が一般用最大セッション数以上となるように、セッションサービスプロセス数を指定してください。ただし、ハードウェア (CPU, メモリ) の能力を超えて増やすと、レスポンスやスループットが悪化したり、メモリ不足になったりするおそれがあるため、注意が必要です。

セッションサービスプロセスが中継できるセッション数 =

max\_session\_service\_process × 64

一般用最大セッション数については、max\_login\_userV2 の説明を参照してくだ

さい。

`user_data_dir` = ユーザデータ格納ディレクトリ名 《/Flowmate/userdata》

ビジネスプロセス定義のユーザ処理リストで指定したアプリケーションプログラムなど、ユーザ任意のデータを格納するディレクトリを、フルパス名で指定します。1 バイトから 128 バイトまでの文字列で指定します。

このディレクトリに格納するファイルの名称には、英大文字を使用できません。

`management_server` = Workflow 管理サーバホスト名

Workflow 管理サーバのホスト名を指定します。1 バイトから 256 バイトまでの文字列で指定します。省略すると、自ホストを Workflow 管理サーバとして認識します。

なお、このオペランドで指定するホスト名は、`/etc/hosts` ファイルに登録しておくか、又は DNS データベースによるアドレス解決ができるように設定しておく必要があります。

`system_organization_id` = Workflow システム組織 ID 《workflow》

Groupmax Workflow Multi-Server がサーバ間の転送手段として使用する

Groupmax Mail のメールユーザの、所属する組織の ID を指定します。1 バイトから 8 バイトまでの文字列で指定します。

`ap_download_type` = アプリケーションダウンロード方式 ((system 又は bp))

《system》

ビジネスプロセス定義のユーザ処理リスト「AP 起動」又は「Groupmax フォーム表示」で指定したファイルは、必要になった時点でサーバからクライアントにダウンロードされます。

このときのダウンロード方式を設定します。

system

クライアントで指定したディレクトリにダウンロードします。ダウンロード先ディレクトリが一つであるため、例えば、異なるビジネスプロセス内の同一のファイル名を持つファイルをダウンロードすると、先にダウンロードしたファイルは後でダウンロードしたファイルによって上書きされます。

この場合、Groupmax Integrated Desktop の帳票欄から同じファイル名のアプリケーションを同時に実行すると、動作が不正になることがあるため、注意してください。

bp

クライアントで指定したディレクトリの下にビジネスプロセス定義ごとにディレクトリを作成し、作成したディレクトリにダウンロードします。異なるビジネスプロセス内の同一のファイル名を持つファイルをダウンロードしても、ファイルが上書きされることはありません。

クライアントで指定したディレクトリとは、Groupmax 統合セットアップで指定した個人フォルダ用のディレクトリ下の Workflow ディレクトリです。

`specify_worker_check` = 作業員指定の作業権限チェック ((yes 又は no)) 《no》

ビジネスプロセス定義のユーザ処理リストでノードに対して「作業員の指定」

## 2. Groupmax Workflow の環境設定

をした場合、次に示す方法から作業者の指定方法を選択します。

- システム宛先台帳からユーザを選択して指定する  
システム宛先台帳に表示されたユーザから選択して指定します。  
システム宛先台帳には、該当するノードで作業権限があるユーザだけが表示されます。
- ローカル宛先台帳からユーザを選択して指定する  
ローカル宛先台帳に表示されたユーザから選択して指定します。  
ローカル宛先台帳には、ローカル宛先台帳に登録されたユーザすべてが表示されます。
- ユーザを直接指定  
システム宛先台帳又はローカル宛先台帳から選択しないで、ユーザのニックネームを直接指定します。

上記の方法で指定された作業者の作業権限をチェックするかどうかを指定します。作業権限は、ビジネスプロセス定義のノードで指定されたものです。ここでの指定は、すべてのビジネスプロセス定義に適用されます。

yes

指定したユーザに作業権限があるかどうかをチェックし、作業権限がないときはエラーとします。Groupmax Workflow Client - Library を使用している場合は、次の API 関数、又は OCX インタフェースを発行したときにチェックします。

- nextuser パラメタを指定した HwfPutCase 関数
- nextuser パラメタを指定した HwfSuffixCase 関数
- reqmode パラメタに 0 を指定した HwfSelectNextUser 関数
- PutNextUserInfnEx プロパティに 1 以上を指定した WFocPutCase メソッド
- next\_user\_num パラメタに 1 以上を指定した SetSuffixInfnEx メソッド発行後の WFocSuffixCase メソッド
- reqmode パラメタに 0 を指定した WFocSelectNextUser メソッド

no

指定したユーザに作業権限があるかどうかのチェックをしないで、そのユーザに案件を移します。

workflow\_server\_watch\_interval = Workflow サーバ監視インターバル時間 ((1 ~ 1440)) 《30》

Groupmax Workflow Multi-Server では、案件などの情報を転送するときに、転送先サーバを確認するために、転送先サーバに対してログインを実行します。ここでは、ログインの実行に失敗した場合、再度ログインを実行する間隔を指定します（単位：分）。

この値を大きくすると、案件などの情報転送やワーク操作が遅れることがあります。通常は、デフォルト値のままにするか、デフォルト値より小さい値を設定してください。

また、ここに設定した値よりも環境設定ファイルの multi\_server\_send\_interval オペランド（マルチサーバ送信インターバル時間）

で設定した値の方が大きい場合、サーバ監視インターバル時間よりもマルチサーバ送信インターバル時間が優先されます。

`broadcast_send_back` = 回収後の同報前への差し戻し ((yes 又は no)) 《no》

回収後の処理ノードから同報前の処理ノードへ、案件を差し戻せるようにするかどうかを指定します。この指定は、すべてのビジネスプロセス定義に適用されます。

yes

同報前の処理ノードへ案件を差し戻せるようにします。

no

同報前の処理ノードへ案件を差し戻せないようにします。

`source_node_send_back` = 複数ケースソースノードへの差し戻し ((yes 又は no))

《no》

複数のケースを定義しているソースノードへ、案件を差し戻せるようにするかどうかを指定します。この指定は、すべてのビジネスプロセス定義に適用されます。

yes

複数のケースを定義しているソースノードへ、案件を差し戻せるようにします。

no

複数のケースを定義しているソースノードへ、案件を差し戻せないようにします。

`multi_server_send_retry_interval` = 転送リトライインターバル時間 ((10 ~ 1440))

《60》

案件、ワーク操作などを他のサーバへ転送しようとしてエラーが発生した場合、再送するまでの間隔（リトライインターバル時間）を指定します（単位：分）。このオペランドは、マルチサーバ機能を使用する場合だけ必要です。

`multi_server_send_retry_times` = 転送リトライ回数 ((0 ~ 999)) 《10》

案件、ワーク操作などを他のサーバへ転送しようとしてエラーが発生した場合の、再送回数（リトライ回数）を指定します。再送回数がここで指定する転送リトライ回数を超えると、その案件などは再送されません。

転送リトライ回수에 0 を設定した場合、再送はされません。

このオペランドは、マルチサーバ機能を使用する場合だけ必要です。

`socket_option_keepalive` = 通信ソケット KEEPALIVE オプション指定 ((use 又は

nouse)) 《use》

Workflow サーバがクライアントとの通信に使用するソケットに対して、KEEPALIVE オプションを指定するかどうかを指定します。

KEEPALIVE オプションは、通信ソケットに対して、キープアライブパケットを送信するように指示します。KEEPALIVE オプションを指定すると、TCP/IP によってクライアントへの接続が監視されますが、ルータによる通信状態監視機能は使用できません。

use

## 2. Groupmax Workflow の環境設定

KEEPALIVE オプションを指定します。

これを指定すると、TCP/IP の機能によって、一定間隔でクライアントに関する接続が監視されます。クライアントに障害が発生した場合は、一定時間の後、異常を検出してセッションを終了し、資源が解放されます。

ただし、一定間隔でクライアントへ送信するため、ルータなどによる通信状態監視機能は使用できません。

nouse

KEEPALIVE オプションを指定しません。

これを指定すると、TCP/IP はクライアントとの接続を監視しないため、ルータなどによる通信状態監視機能が使用できるようになります。

ただし、クライアントに障害が発生した場合にも異常が検出されないため、セッション（リソース）は解放されないでサーバが停止するまで残ります。障害が発生したユーザは、同一 IP アドレスのクライアントからはログインできませんが、異なる IP アドレスのクライアントからはログインできません。

no\_session\_time\_out = 無通信セッション監視時間 ((0 ~ 60)) 《0》

クライアントが Groupmax Workflow サーバと通信していない状態（無通信状態）を監視する時間を指定します（単位：分）。無通信状態が指定した時間を超過した場合、クライアントとサーバとの接続を自動的に切り離し、次回、クライアントから Groupmax Workflow サーバにアクセス要求があった場合、自動的に再接続します。

ただし、指定した値が 0 の場合、自動的な切り離しと再接続機能は実行しません。

また、この指定は次に示す二つの条件を満たすアプリケーションでだけ、有効となります。

- 03-00 以降の Groupmax Integrated Desktop, Groupmax Form, 又は Groupmax Workflow Client - Library で作成したアプリケーションであること。
- アプリケーションの中で、HwfStartUpWorkflow 関数のパラメタ「shared\_mode」、又は OCX インタフェースの WFocStartUp メソッドのパラメタ「sharedmode」に、0 を設定していること。

注

自動的に切り離した後自動的に再接続するまでの間に、異なる IP アドレスのクライアントから同じユーザ ID でログインできます。ただし、異なる IP アドレスのクライアントから同じユーザ ID でログインしている状態で自動的に再接続しようとする、接続できません。

server\_session\_timeout = サーバ間通信監視時間 ((0 ~ 7200)) 《7200》

マルチサーバ構成の場合、クライアントからの処理要求が自 Workflow サーバ内で完結しないときは、他 Workflow サーバへ自動的にログインしてデータを取得することがあります。このときのログイン先サーバからの応答待ち時間を指定します（単位：秒）。シングルサーバ構成の場合は、このオペランドの指定

は無視されます。

0 を指定した場合は、応答待ち時間が無限になります。そのため、ログイン先サーバが何かの障害で応答を返せなくなった場合、自サーバが応答待ち状態を続けることとなりますので、通常は 0 以外の値を指定してください。

ただし、0 以外の値を指定して、その値が小さ過ぎる場合、サーバ間の通信速度が低速であったり、ログイン先サーバに多量の負荷が掛かっていたりしたときに、タイムアウトとなってクライアントにエラーが返ることがあります。そのため、サーバ間の通信形態や各サーバの負荷状況によって適切な値を指定するようにしてください。

指定値の例として、サーバ間が LAN で接続されている場合は、約 60 秒が妥当です。サーバ間が WAN で接続されている場合は、一般的に通信に時間が掛かりますので、60 秒よりも大きな値を設定するようにしてください。

また、0 以外の値を指定して、サーバに以下のエラーメッセージが頻繁に出力される場合は、値を大きくしてください。

- KDWS103-E のメッセージで付加情報に WFbaseSV receive time out. 又は WFsesserv receive time out. が表示されるもの

session\_resource\_per\_user = 1 ユーザ当たりの同時接続セッション数 ((1 ~ 5)) 《2》  
一般用でログインする 1 ユーザ当たりの平均の同時接続セッション数を指定します。

セッションは、クライアントのプログラムやバージョンによって、1 ユーザで複数のセッションを使用する場合があります。このため、ログインしているユーザ数が一般用最大ログインユーザ数を超えていなくても、一般用最大セッション数、又はセッションサービスプロセスが中継できるセッション数を超えてログインできなくなる場合がありますので、注意してください。また、この値を大きくするとサーバの使用メモリ量が増加するため、注意してください。

クライアントで使用するセッション数を次に示します。

- Groupmax Integrated Desktop Version2.0 を使用する場合  
INBOX 画面，案件エディタ画面，投入画面，送信ログ画面，帳票棚画面，及び Groupmax Form Client の伝票発行画面を実行した数のセッションが必要となります。  
エージェントクライアントによる Workflow の着信監視を使用する場合は、別に 1 セッションが必要となります。
- Groupmax Integrated Desktop Version 3 を使用する場合  
INBOX 画面，案件エディタ画面，投入画面，送信ログ画面，帳票棚画面，及び Groupmax Form Client の伝票発行画面を合わせて、1 セッションが必要となります。  
エージェントクライアントによる Workflow の着信監視を使用する場合は、別に 1 セッションが必要となります。
- Groupmax Integrated Desktop Version 5 以降を使用する場合  
INBOX 画面，案件エディタ画面，投入画面，送信ログ画面，帳票棚画面，Groupmax Form Client の伝票発行画面，及びエージェントクライアントに

## 2. Groupmax Workflow の環境設定

よる Workflow の着信監視を合わせて、1 セッションが必要となります。

- Groupmax Workflow for Active Server Pages を使用する場合  
ユーザごとに 1 セッションが必要となります。ただし、同一ユーザで複数プロセスからログインすると、そのプロセス数分のセッションが必要となります。
- 02-20 以降の Groupmax World Wide Web Desktop/ ワークフローを使用する場合  
ブラウザからログインする数のセッションが必要となります。
- Groupmax Workflow Client - Library を使用する場合  
HwfStartUpWorkflow で非共用モードを指定したアプリケーションプログラムでは、同時に実行するプログラム数分のセッションが必要となります。  
HwfStartUpWorkflow で共用モードを指定したアプリケーションプログラムでは、共用モードを指定した複数のアプリケーションプログラムで 1 セッションが必要となります。  
ただし、Groupmax Workflow Client - Library の前提プログラムである Groupmax Workflow Client が 03-00 より前のバージョンでは、  
HwfStartUpWorkflow で共用モードを指定しても非共用モードとなりますので注意してください。
- Groupmax Workflow Server - Library を使用する場合  
同時に実行するプログラム数分のセッションが必要となります。

default\_user\_history\_max = ユーザヒストリ取得最大数 ((0 ~ 1023)) 《50》

新規に登録するユーザのユーザヒストリ取得最大数を指定します (単位: 個)。0 を指定した場合は、ユーザヒストリは取得されません。

ユーザヒストリは、ユーザ単位に取得する案件の投入、遷移、相談、回答、差し戻し、引き戻しの作業履歴です。一つの操作ごとに一つのユーザヒストリが取得され、ユーザヒストリ取得最大数の数だけ保持されます。ユーザヒストリ取得最大数を超過してユーザヒストリを取得すると、古いユーザヒストリから削除されます。

ユーザヒストリは Groupmax Integrated Desktop では送信ログに表示され、作業履歴から履歴表示、引き戻し、キャンセル、などの操作ができます。削除されたユーザヒストリについては送信ログに表示されないため、取得最大数が少ない場合は送信ログからの案件操作を行うことができなくなる可能性があります。

したがって、業務内容に応じて、ユーザヒストリ取得最大数に適切な値を設定する必要があります。

ここで設定した値は、ユーザ定義コマンド (WFregusr) でのユーザ登録時に適用されます。また、登録されたユーザのユーザヒストリ取得最大数は、ユーザ定義更新コマンド (WFdefusr)、Groupmax Workflow Definer、Groupmax Workflow Monitor を使用してユーザ単位に変更することもできます。

post\_rank\_display = 役職名の順位付け番号表示 ((yes 又は no)) 《no》

役職名に順位付け番号が設定されている場合に、この番号を Groupmax Integrated Desktop、Groupmax Workflow Monitor などで表示するかどうかを

設定します。

順位付け番号とは、同じ役職名に対して設定されている番号で、例えば、課長 #1, 課長 #2 のように設定されます (#1, #2 の部分が順位付け番号と呼ばれます)。

yes

役職名を表示するときに順位付け番号も表示します。

no

役職名を表示するときに順位付け番号を表示しません。

case\_select\_data\_cache\_size = 案件一覧表示用作業領域のサイズ ((0 ~ 10)) 《0》  
 案件の一覧を表示するための作業領域のサイズを設定します (単位: キロバイト)。クライアントで案件の一覧を表示するときは、一覧を作成するための作業領域をサーバ側で確保する必要があります。ここでは、その作業領域のサイズを設定します。同時ログインユーザ数が多い場合、作業領域が有効であれば、案件一覧表示の応答時間が改善されます。  
 設定の目安となる計算式を次に示します。  
 案件一覧表示用作業領域のサイズ (キロバイト) = 表示する案件数 × 0.01  
 サイズに 0 を指定した場合、又は表示する案件数が作業領域のサイズを超える場合は、作業ディレクトリ (/tmp) に一時作業ファイルが展開されます。  
 作業領域のサイズを指定すると、サーバでは、次に示すサイズのメモリが占有されます。  
 max\_login\_userV2 で指定するバージョン 02-10 以降のクライアントの最大ログインユーザ数 × 指定した値

workid\_information\_delayed\_write = ワーク ID 採番用管理情報遅延更新機能 ((use 又は nouse)) 《nouse》

ワーク ID の自動採番を定義したビジネスプロセスに案件を投入すると、ワークフローデータベースにワーク ID 採番のための情報の更新が発生します。この場合に、一定の間隔ごとにまとめてワークフローデータベースを更新するか、案件投入ごとにワークフローデータベースを更新するかを設定します。

一定間隔ごとにワークフローデータベースを更新する場合、ビジネスプロセス情報は、いったん共有メモリに読み込まれ、管理されます。複数の案件投入があった場合でも、一度にワークフローデータベースを更新するので、案件投入処理の性能が良くなります。

一定間隔ごとにワークフローデータベースを更新する場合、Workflow サーバに障害が発生してシステムダウンすると、次の Workflow サーバ起動時にワークフローデータベースを補正します。その際、採番されるワーク ID に抜けが発生することがあります。同一ワーク ID が重複して採番されることはありません。

use

一定間隔ごとにワークフローデータベースを更新します。案件投入でのワーク ID 採番は、いったん共有メモリに読み込まれたビジネスプロセス情報を基に行います。

## 2. Groupmax Workflow の環境設定

nouse

案件投入ごとにワークフローデータベースを更新します。

dictsv\_stop\_time\_out = ワークフローディレクトリサービス終了監視時間 ((0 ~ 7200)) 《7200》

JP1/Automatic Job Scheduler から WFajssade コマンドを実行してワークフローディレクトリサービスを終了させたときの、プロセスの終了監視時間を指定します (単位: 秒)。

ワークフローディレクトリサービスの計画終了処理では、キャッシュメモリの情報がハードディスクに格納されます。このため、キャッシュメモリのサイズを大きくすると、プロセスの終了時間も長くなります。キャッシュメモリのサイズを参考にして、適切な終了監視時間を設定してください。キャッシュメモリのサイズは、キャッシュパラメタファイルの CACHE\_COMP パラメタで設定します。

このオペランドに 0 を指定した場合、プロセスの終了が無限に監視されます。そのため、キャッシュメモリにアクセスしている常駐プロセスがあると、WFajssade コマンドが無限に待ち状態になります。

通常は、このオペランドに 0 以外の値を指定します。その場合、サーバ間通信監視時間 (server\_session\_timeout オペランド) 以上の値を指定してください。このオペランドに 0 以外の値を指定していて、WFajssade コマンドの実行結果がタイムアウト (100) になる場合は、キャッシュメモリにアクセスしている常駐プロセスがないか確認する、オペランドの値を大きくするなどの対処をしてください。

server\_stop\_time\_out = サーバ機能終了監視時間 ((0 ~ 7200)) 《7200》

JP1/Automatic Job Scheduler から WFajssve コマンドを実行してサーバ機能を終了させたときの、プロセスの終了監視時間を指定します (単位: 秒)。

このオペランドに 0 を指定した場合、プロセスの終了が無限に監視されます。0 以外の値を指定する場合、サーバ間通信監視時間 (server\_session\_timeout オペランド) 以上の値を指定してください。

このオペランドに 0 以外の値を指定していて、WFajssve コマンドの実行結果がタイムアウト (100) になる場合は、オペランドの値を大きくしてください。

manager\_stop\_time\_out = マネージャ機能終了監視時間 ((0 ~ 7200)) 《7200》

JP1/Automatic Job Scheduler から WFajsmge コマンドを実行してマネージャ機能を終了させたときの、プロセスの終了監視時間を指定します (単位: 秒)。

このオペランドに 0 を指定した場合、プロセスの終了が無限に監視されます。0 以外の値を指定する場合、サーバ間通信監視時間 (server\_session\_timeout オペランド) 以上の値を指定してください。

このオペランドに 0 以外の値を指定していて、WFajsmge コマンドの実行結果がタイムアウト (100) になる場合は、オペランドの値を大きくしてください。

multi\_server\_stop\_time\_out = マルチサーバ機能終了監視時間 ((0 ~ 7200)) 《7200》

JP1/Automatic Job Scheduler から WFajsmse コマンドを実行してメッセージ

送信機能及びメッセージ受信機能を終了させたときの、プロセスの終了監視時間を指定します（単位：秒）。

このオペランドに 0 を指定した場合、プロセスの終了が無限に監視されます。0 以外の値を指定する場合、サーバ間通信監視時間（server\_session\_timeout オペランド）以上の値を指定してください。

このオペランドに 0 以外の値を指定していて、WFajsmse コマンドの実行結果がタイムアウト（100）になる場合は、オペランドの値を大きくしてください。

addr\_update\_auto\_reflect = Address ユーザ情報の Workflow 自動反映 ((yes 又は no))  
《no》

Groupmax Address Server でのユーザ情報の更新を、Groupmax Workflow に自動反映するかどうかを設定します。ユーザ情報の更新を自動反映するには、Groupmax Address - Assist の Groupmax 連携機能を使用します。詳細は、「3.8 Groupmax Address - Assist の Groupmax 連携機能を使用した運用」を参照してください。

yes

Groupmax Address Server 上でユーザ情報を更新すると、自動的に Groupmax Workflow のユーザ定義コマンド（WFregusr）を起動して、更新情報を Workflow データベースに反映します。

ただし、通信障害やユーザ定義コマンドと同時に実行できない処理との競合などにより、ユーザ定義コマンドの実行に失敗する場合があります。更新情報が Workflow データベースに正しく反映されていることを、必ず確認してください。

no

Groupmax Address Server 上でユーザ情報を更新しても、自動的に更新情報を Workflow データベースに反映しません。任意にユーザ定義コマンド（WFregusr）を実行して、更新情報を反映したい場合に指定します。

error\_skip\_in\_auto\_reflect = ユーザ情報自動反映時のエラースキップ ((yes 又は no))  
《no》

Groupmax Address Server でのユーザ情報の更新を、Groupmax Workflow に自動反映する（addr\_update\_auto\_reflect = yes）場合に、自動反映時のエラーをスキップするかどうかを設定します。

このオペランドは、自動反映時のエラーをすぐに取り除くことができない場合で、他のユーザ情報を自動反映する処理を完了させる必要があるときなどに使用します。次に示す場合に、エラーがスキップされます。

- 自動反映の対象となるユーザが Groupmax Workflow Server にログインしている場合
- Groupmax Address Server 上でユーザの「Workflow サーバ」を変更したが、マルチサーバ機能で使用するメールユーザが Groupmax Address Server に未登録である場合
- Groupmax Address Server 上でユーザを削除するか、又はユーザの

## 2. Groupmax Workflow の環境設定

「Workflow サーバ」を変更したが、該当ユーザが作業机に作業者として直接割り当てられている場合

yes

ユーザ情報の自動反映時に、継続できるエラーが発生した場合、ユーザ登録処理を継続します。

no

ユーザ情報自の動反映時にエラーが発生すると、ユーザ登録処理を中断します。

wfmc\_domain\_connect\_function = ドメイン間連携機能指定 ((use 又は nouse))

《nouse》

ドメイン間連携機能を使用するかどうかを指定します。

ドメイン間連携ノードをビジネスプロセスで定義する場合は、use を指定しておく必要があります。

ドメイン間連携ノードが定義されているビジネスプロセスの登録又は配布時、nouse を指定していた場合はエラーになります。

use

ドメイン間連携機能を使用します。

nouse

ドメイン間連携機能を使用しません。

document\_name\_check = 添付文書ファイル名称チェック ((yes 又は no)) 《yes》

Version 5 までは、案件に添付する文書ファイル名に使用できる文字コードに、Workflow による制限がありました。Version 6 からはこの制限を解除できます。制限を解除することで、OS 上で作成できるファイル名を扱えるようになるため、これまで使用できなかった半角スペースや全角スペースなどの文字が添付文書ファイル名に使用できるようになります。

添付文書ファイル名に使用できる文字コードを制限するかどうかは、添付文書ファイル名をチェックするかどうかで指定します。

yes

添付文書ファイル名をチェックします（使用できる文字コードが制限されます）。

no

添付文書ファイル名をチェックしません（使用できる文字コードは制限されません）。

添付文書ファイル名のチェックは、次の制限に基づいて実施されます。

半角コード

半角コードのコード番号 0x20 ~ 0x7E, 又は 0xA1 ~ 0xDF の範囲のコードが使用できます。ただし、半角スペース, 「/」, 「¥」, 「?」, 「"」, 「<」, 「>」, 「\*」, 「|」, 「:」 は使用できません。

全角コード

シフト JIS コードのコード番号で、2 バイトコードの先頭 1 バイトの値が 0x81 ~ 0x9F, 又は 0xE0 ~ 0xEF のどちらかの範囲に含まれ、なおかつ、後ろ 1 バ

イトの値が 0x40 ~ 0x7E, 又は 0x80 ~ 0xFC のどちらかの範囲に含まれる全角コードが使用できます。ただし, 全角スペースは使用できません。

添付文書ファイル名のチェックは, 添付文書ファイルの登録及び更新時に実施されます。

添付文書ファイル名をチェックしない場合 ("no" を指定する場合は), 必ず次の注意事項を参照して, 問題がないことを確認してください。

- 次に示すクライアントは, ファイル名に使用できる文字コードの制限の解除に対応していません。したがって, これらのクライアントを使用している場合は, "no" を指定できません。
  - Groupmax Desktop ( 16bit 版 )
  - Groupshop
- 次に示す Groupmax Workflow · Library のバージョン 1 互換用関数は, ファイル名に使用できる文字コードの制限の解除に対応していません。したがって, 独自の業務アプリケーションプログラムにこれらの関数が使用されている場合, "no" を指定できません。
  - HwfGetObjectInstance
  - HwfGetObjectInstanceToFile
  - HwfSetObjectInstance
  - HwfUpdateObjectInstance
  - HwfGetCaseInf
  - HwfGetMemo
  - HwfGetMemoToFile
  - HwfPutMemo
  - HwfUpdateMemo
- Version 5 まで添付文書ファイル名に使用できなかった文字コードを含むファイル名で登録した文書やメモを参照するときに次のものを使用した場合, そのファイル名は「ファイル名称変換規則」に示すとおりに変換されます。
  - 06-00 より前のバージョンの Groupmax Integrated Desktop
  - 06-00 より前のバージョンの Groupmax Workflow · Library の関数 (バージョン 1 互換用関数を除く)

ファイル名称変換規則

Version 5 までの添付文書ファイル名に使用できる文字コード以外の半角コードは「~」(1 バイト), 全角コードは「~~」(2 バイト)に変換されます。
- Version 6 以降のクライアント (クライアントライブラリ, サーバライブラリを含む) の OS として複数の異なる OS を使用している場合, 添付ファイル名はそれらの OS のすべてでファイル名として使用できる範囲で運用してください。その範囲外で使用した場合, クライアントマシンの OS によって, 添付ファイルの取得に成功したり失敗したりすることがあります。特に, HI-UX/WE2 版又は HP-UX 版サーバライブラリを使用して作成したファイル

## 2. Groupmax Workflow の環境設定

を案件に添付する場合、HI-UX/WE2 又は HP-UX と Windows で扱えるファイル名の差異によって、Windows マシンのクライアントで添付ファイルを取得できなくなることがあります。この場合は、Windows でファイル名として扱える範囲で運用してください。

- マルチサーバ環境では次の点に注意してください。
  - Version 5 以前のサーバが存在する場合、"no" を指定できません。
  - すべて Version 6 以降のサーバである場合、この指定を全サーバで統一してください。
  - サーバに HI-UX/WE2 版又は HP-UX 版と Windows 版が混在する場合、Windows で使用できるファイル名の範囲で運用してください。
- Workflow Server-Connection を複数台運用管理している場合は、上記のマルチサーバ環境と同様の点に注意して運用してください。

re\_login = 再ログイン ((yes, no 又は client) 《client》

異なる IP アドレスのクライアントから、既にログインしているユーザのユーザ ID と同じユーザ ID で再ログインした場合に、どのクライアントのログインが有効になるかを設定します。

yes, no 又は client で設定します。デフォルトは client です。

なお、同じ IP アドレスのクライアントからは、このオプションの設定に関係なく、既にログインしているユーザのユーザ ID と同じユーザ ID で再ログインできます。

yes

後からログインしたクライアントを優先します。

この場合、既にログインしているクライアントは、すべて強制的にログアウトされ、後からログインしたクライアントのログインが有効になります。

yes を設定すると、PPP (Point-to-Point Protocol) 接続のクライアントの接続切れや、クライアントの障害などによって強制的にログアウトされた場合、異なる IP アドレスのクライアントから再ログインできます。

ただし、同じユーザ ID を複数の人が共有しているような場合、先にログインしているクライアントが不当にログアウトされたり、ユーザ同士で再ログインを繰り返したりすることがあるので、注意してください。

また、強制ログアウト後に再ログインして、Groupmax Integrated Desktop で案件を処理しようとする時、該当する案件はほかのプログラムで使用中の可能性があるとメッセージが表示されることがあります。その場合は、「処理を続行しますか？」の問い合わせて「はい」を選択して、処理を続行してください。

注

Groupmax Address Server のログイン制御の設定で、通常ログイン（先着優先）が設定されている場合、Groupmax のクライアントのバージョンによっては再ログインできないことがあります。詳細については、「3.9.13 再ログイン時の設定値に対するクライアントのログイン結果一覧」を参照してください。

no

既にログインしているクライアントを優先します。

この場合、後からログインしようとしたクライアントは、エラーとなってログインできません。

no を設定すると、PPP 接続のクライアントの接続切れや、クライアントの障害などによって強制的にログアウトされて、異なる IP アドレスのクライアントから再ログインしたい場合は、以下の条件が満たされているときに再ログインできます。

- 環境設定ファイルの通信ソケット KEEPALIVE オプション指定 (socket\_option\_keepalive オペランド) に use を設定していること。

ただし、TCP/IP がクライアントとの接続を監視するための一定時間が経過するまでは、再ログインできません。

client

ログインしようとしているクライアントでの設定に従います。

ただし、05-00 より前のバージョンのクライアント及び 16bit 版のクライアントからのログイン時には、既にログインしているクライアントが優先されます。また、管理者用ログイン又は代行者ログインの場合、先にログインしているクライアントが優先されます。

#### (b) 参照するプログラム

環境設定ファイルは、参照するプログラムの起動時の値が有効となります。環境設定ファイルを変更した場合は、参照するプログラムを再起動してください。参照するプログラムが複数ある場合は、プログラム間の同期ずれを防止するため、参照するすべてのプログラムを停止した後に環境設定ファイルを変更し、プログラムを再起動してください。

環境設定ファイルを参照する Groupmax Workflow のプログラムを表 2-2 に示します。

表 2-2 環境設定ファイルの参照プログラム

オペランド	内 容	参照するプログラム			
		サーバ機能	マネージャ機能	マルチサーバ機能	ドメイン間連携機能
work_effective_period	ワーク保存期間				-
sleep_interval	マネージャスリープ時間	-		-	-
load_scripts	定義スクリプト読み込み数	-		-	-
lock_retry_interval	ロックエラーリトライスリープ時間	-		-	-
wf_log_level	ワークフローログレベル				-
wf_log_dir	ワークフローログ出力ディレクトリ名		-	-	-
multi_server_func	サーバ間連携機能指定				

## 2. Groupmax Workflow の環境設定

オペランド	内 容	参照するプログラム			
		サーバ機能	マネージャ機能	マルチサーバ機能	ドメイン間連携機能
multi_server_config_path	マルチサーバ環境設定ディレクトリ名	-	-		-
multi_server_working_dir	マルチサーバ作業ディレクトリ名	-	-		-
multi_server_send_interval	マルチサーバ送信インターバル時間	-	-		-
mail_receive_interval	メール受信インターバル時間	-	-		-
mail_send_retry_times	メール再送リトライ回数	-	-		-
multi_server_mail_message_max_size	最大転送データサイズ	-	-		-
max_login_user	最大ログインユーザ数		-	-	-
max_login_userV2	バージョン 02-10 以降のクライアントの最大ログインユーザ数		-	-	-
max_session_service_process	セッションサービスプロセス数		-	-	-
user_data_dir	ユーザデータ格納ディレクトリ名		-	-	-
management_server	Workflow 管理サーバホスト名				-
system_organization_id	Workflow システム組織 ID				
ap_download_type	アプリケーションダウンロード方式		-	-	-
specify_worker_check	作業者指定の作業権限チェック		-	-	-
workflow_server_watch_interval	Workflow サーバ監視インターバル時間	-	-		-
broadcast_send_back	回収後の同報前への差し戻し		-	-	-
source_node_send_back	複数ケースソースノードへの差し戻し		-	-	-
multi_server_send_retry_interval	転送リトライインターバル時間	-	-		-
multi_server_send_retry_times	転送リトライ回数	-	-		-

オペランド	内 容	参照するプログラム			
		サーバ機能	マネージャ機能	マルチサーバ機能	ドメイン間連携機能
socket_option_keepalive	通信ソケット KEEPALIVE オプション 指定		-	-	-
no_session_time_out	無通信セッション監視時間		-	-	-
server_session_timeout	サーバ間通信監視時間		-		-
session_resource_per_user	1 ユーザ当たりの同時接続セッション数		-	-	-
default_user_history_max	ユーザヒストリ取得最大数		-	-	-
post_rank_display	役職名の順位付け番号表示		-	-	-
case_select_data_cache_size	案件一覧表示用作業領域のサイズ		-	-	-
workid_information_delayed_write	ワーク ID 採番用管理情報遅延更新機能		-	-	-
dictsv_stop_time_out	ワークフローディレクトリサービス終了監視時間		-	-	-
server_stop_time_out	サーバ機能終了監視時間		-	-	-
manager_stop_time_out	マネージャ機能終了監視時間	-		-	-
multi_server_stop_time_out	マルチサーバ機能終了監視時間	-	-		-
addr_update_auto_reflect	Address ユーザ情報の Workflow 自動反映		-	-	-
error_skip_in_auto_reflect	ユーザ情報自動反映時のエラースキップ		-	-	-
wfmc_domain_connect_function	ドメイン間連携機能指定		-	-	
document_name_check	添付文書ファイル名称チェック		-	-	-
re_login	再ログイン		-	-	-

(凡例) は参照すること、- は参照しないことを示します。

## (2) Groupmax Workflow の環境の初期化

この節では、Groupmax Workflow の環境の初期化について説明します。

## 2. Groupmax Workflow の環境設定

なお、Groupmax Workflow の環境を初期化する前に、Groupmax Object Server の環境を初期化しておく必要があります。Groupmax Object Server の環境の初期化については、マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。

### (a) 環境の初期化

Groupmax Workflow の環境を初期化し、ワークフローデータベースを新規に作成する方法を次に示します。環境の初期化は、Groupmax Object Server を起動した状態で行ってください。

#### 1. サーバ環境の初期化とワークフローデータベースの作成

サーバ機能環境初期化コマンド (WFinitsv) を使用して、サーバ機能の環境を初期化します。同時に、ワークフローデータベースが作成されます。

サーバ機能環境初期化コマンドは、環境を初めて定義するときや、環境を再構築するときだけ実行します。

なお、Groupmax Workflow を前提とする他のプログラムによって既にデータベースが作成されている場合は、サーバ機能環境初期化コマンドの -o オプション (ワークフローデータベース名称) に既存のデータベース名称を指定してください。

#### 2. ワークフローディレクトリサービスの起動

ワークフローディレクトリサービス起動コマンド (WFstartad) を使用して、ワークフローディレクトリサービスを起動します。

#### 3. サーバ機能の起動

サーバ機能起動コマンド (WFstartsv) を使用して、サーバ機能を起動します。

#### 4. マネージャ機能の環境の初期化

マネージャ機能環境初期化コマンド (WFinitmgr) を使用して、マネージャ機能の環境を初期化します。

各コマンドの使用方法については、「4.3 運用コマンドの文法」の、「WFinitsv (サーバ機能環境初期化コマンド)」、「WFstartad (ワークフローディレクトリサービス起動コマンド)」、「WFstartsv (サーバ機能起動コマンド)」、及び「WFinitmgr (マネージャ機能環境初期化コマンド)」の項を参照してください。

### (b) データベースの常駐指定の有効化

Groupmax Object Server のデータベースページを共有メモリ上に常駐化させることによって、データベースの入出力回数を削減し、性能向上を図ることができます。

データベースの常駐化は、システム共通定義ファイルで指定します。ここでは、システム共通定義ファイルで指定したデータベースの常駐指定を有効にする方法を説明します。ここに示す手順は、初期設定時 (Groupmax Workflow の環境を初期化する前) にデータベースの常駐化を指定する場合の手順です。既に Groupmax Workflow の運用を開始した後で指定する場合、2. ~ 5. の操作は不要となります。

1. システム共通定義ファイルでデータベースの常駐化を指定する
2. Groupmax Object Server をオペレーティングシステムに登録する (xodsetup)
3. Groupmax Object Server のデータベース環境を初期化する (xodbinit)
4. Groupmax Object Server を起動する (xodstart)  
この時点では、システム共通定義ファイルで指定したスキーマ (ワークフローデータベース) がないので、スキーマ名誤りの警告メッセージ (KFXO38002-W 及び KFXO38004-W) が出力されます。このメッセージは無視してください。
5. Groupmax Workflow の環境を初期化する (WFinitsv, WFstartad, WFstartsv, WFinitmgr)
6. Groupmax Workflow 及び Groupmax Object Server を一度終了し、Groupmax Object Server を再起動する (WFstopsv, WFstopad, xodstop, xodstart)  
この時点でデータベースの常駐指定が有効になります。xodstart コマンドを実行した後に、KFXO38001-W ~ KFXO38012 のメッセージが出力された場合は、システム共通定義ファイルを見直してください。また、対処方法の詳細については、マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。

#### (c) 環境の再構築

Groupmax Workflow の環境を再構築する場合は、Groupmax Workflow の環境を一度削除し、再度環境の初期化を実行します。Groupmax Workflow の環境を再構築する手順を次に示します。なお、環境の初期化は Groupmax Object Server を起動した状態で行ってください。また、Groupmax Object Server のデータベースの常駐化を指定している場合は、この指定を解除しておいてください。

1. 登録済み定義情報のダウンロード  
再構築後の環境で再利用できるように、ユーザ、ロール、及びビジネスプロセスの定義情報を、Groupmax Workflow Definer を使用してクライアントにダウンロードしておきます。  
ユーザ、ロールについては、サーバでユーザ定義情報出力コマンド (WFexpusr) 及びロール定義情報出力コマンド (WFexprl) を使用して、定義情報をファイルに出力しておくこともできます。  
ユーザ定義情報出力コマンド及びロール定義情報出力コマンドの使用方法については、「4.3 運用コマンドの文法」の「WFexpusr (ユーザ定義情報出力コマンド)」及び「WFexprl (ロール定義情報出力コマンド)」の項を参照してください。
2. Groupmax Workflow の環境の削除  
環境削除コマンド (WFdelldb) を使用して、Groupmax Workflow の環境を削除します。環境削除コマンドの使用方法については、「4.3 運用コマンドの文法」の「WFdelldb (環境削除コマンド)」の項を参照してください。
3. Groupmax Workflow の環境の初期化

## 2. Groupmax Workflow の環境設定

「2.4.3(2)(a) 環境の初期化」の手順に従って、Groupmax Workflow の環境を初期化します。

### 4. ユーザ定義コマンドの実行

ユーザ定義コマンド (WFregusr) で -s オプションを指定して、Groupmax Address に登録済みのユーザのユーザトレイを作成します。ユーザ定義コマンドの使用方法については、「4.3 運用コマンドの文法」の「WFregusr (ユーザ定義コマンド)」の項を参照してください。

### 5. 定義情報の再登録

1. でダウンロードしたファイルを利用し、必要に応じて、ユーザ定義、ロール定義、及びビジネスプロセス定義を再登録します。この操作は、クライアントから、Groupmax Workflow Definer を使用して実行します。

1. でユーザ定義情報出力コマンド (WFexpusr) 及びロール定義情報出力コマンド (WFexprl) を使用して定義情報を出力した場合は、必要に応じてユーザ、ロールの定義情報を再登録します。この操作は、サーバでユーザ定義更新コマンド (WFdefusr) 及びロール定義更新コマンド (WFdefrl) を使用して実行します。

ユーザ定義更新コマンド及びロール定義更新コマンドの使用方法については、「4.3 運用コマンドの文法」の「WFdefusr (ユーザ定義更新コマンド)」及び「WFdefrl (ロール定義更新コマンド)」の項を参照してください。

#### (d) 環境を初期化する場合の注意事項

Groupmax Workflow の環境を初期化する前に、Groupmax Object Server を前提とする他のプログラムが既に導入されている場合は、それらのプログラムが作成したデータベースのバックアップを取得しておいてください。初期化時にエラーが発生した場合に、バックアップしたファイルから回復する必要があります。

同様に、Groupmax Workflow 導入後に他のプログラムを追加する場合も、ワークフローデータベースのバックアップを取得してから実行してください。

### (3) Groupmax Address Server アンインストール時の対処

#### (a) Groupmax Address Server を誤ってアンインストールした場合

Groupmax Address Server をアンインストールすると、すべてのユーザ情報が失われます。Groupmax Address Server を誤ってアンインストールした場合は、次の手順でユーザ情報を回復してください。ロールなどの再定義は必要ありません。

なお、このとき Groupmax Workflow Server はアンインストールしないでください。

1. Groupmax Address Server を再インストールする
2. Groupmax Address Server をセットアップし、ユーザ情報を再登録する
3. Groupmax Workflow Server を再インストールする
4. -s オプションを指定して、ユーザ定義コマンドを実行する (WFregusr -s)

(b) Groupmax Address Server を故意にアンインストールした場合

すべての情報を初期状態に戻してやり直したいなどの理由で Groupmax Address Server を故意にアンインストールした場合は、環境の再構築が必要になります。

## 2.4.4 ドメイン間連携機能の定義ファイルの作成

ドメイン間連携機能を使用する場合、次の三つの定義ファイルを作成します。

ドメイン間連携サーバ環境定義ファイル (wfmcrc ファイル)

このファイルは、Groupmax Workflow Server - Connection の動作に関する情報を定義するためのファイルです。

メールサーバ定義ファイル (wfmc\_mail ファイル)

このファイルは、Groupmax Workflow Server - Connection が使用するメールサーバに関する情報を定義するためのファイルです。このファイルは CSV 形式で作成します。

連携情報定義ファイル (wfmc\_trans ファイル)

このファイルは、Groupmax Workflow Server - Connection で送信する E-Mail のメール宛先に関する情報を定義します。このファイルは CSV 形式で作成します。

これらのファイルは /Flowmate/WFmc/conf に格納します。

これらのファイルにはサンプルがあります。サンプルファイルは /Flowmate/WFmc/sample に格納されています。

### (1) ドメイン間連携サーバ環境定義ファイルの作成

記述形式

以下の形式で記述します。

```
send_mail_retry_times = ドメイン間連携メール送受信リトライ回数
send_mail_interval = ドメイン間連携メール送信インターバル時間
receive_mail_interval = ドメイン間連携受信メールチェックインターバル時間
mail_response_interval = メールサーバ通信監視インターバル時間
work_directory = ドメイン間連携作業ディレクトリ名
mail_send_limit_size = 送信メール制限サイズ (1 メール分)
resend_mail_watch_interval = ドメイン間連携再送メール監視間隔
mail_directory = ドメイン間連携メール格納ディレクトリ名
connection_log_directory = ドメイン間連携送受信ログ出力ディレクトリ名
connection_log_save_type = ドメイン間連携送受信ログ保存形式
resend_interval = ドメイン間連携再送インターバル時間
resend_times = ドメイン間連携再送回数
```

## 2. Groupmax Workflow の環境設定

mail\_receive\_limit\_interval = ドメイン間連携メール処理期限  
connection\_info\_keep\_interval = ドメイン間連携管理情報最大保存期間

### オペランド

オペランドに指定できる値の範囲を( ( ) )内に、また、ユーザがオペランドを省略した場合にシステムが取る値を《 》内に示します。

なお、同じオペランドを2回以上指定した場合は、後に記述した方が有効となります。

send\_mail\_retry\_times = ドメイン間連携メール送受信リトライ回数 ((1 ~ 99)) 《10》  
メールに対する送受信処理に失敗した場合の自動リトライ回数を指定します。

send\_mail\_interval = ドメイン間連携メール送信インターバル時間 ((1 ~ 3600))  
《10》

メール送信要求がない場合に、次に送信要求の有無を確認するまでの間隔を指定します(単位:秒)。

receive\_mail\_interval = ドメイン間連携受信メールチェックインターバル時間 ((1 ~ 3600)) 《10》

受信メールがない場合に、次に受信メールの有無を確認するまでの間隔を指定します(単位:秒)。

mail\_response\_interval = メールサーバ通信監視インターバル時間 ((1 ~ 600)) 《1》  
メールサーバへの通信要求に対する応答を待つ時間を指定します(単位:分)。  
時間内に応答がない場合は、通信エラーになります。

work\_directory = ドメイン間連携作業ディレクトリ名 《/Flowmate/WFmc/tmp》  
ドメイン間連携機能で、一時的に使用する作業ファイルを作成するディレクトリを指定します。

mail\_send\_limit\_size = 送信メール制限サイズ(1メール分)((0 ~ 2000000))  
《1000》

送信できるメールサイズの最大値を指定します(単位:キロバイト)。メールの送信サイズが最大値を超えた場合、送信エラーになります。

0を指定した場合、メールサイズに関係なくすべてのメールを送信します。

resend\_mail\_watch\_interval = ドメイン間連携再送メール監視間隔 ((0 ~ 10080))  
《1440》

再送する必要がある要求メールの有無をチェックする間隔を指定します(単位:分)。

指定した時間ごとにチェックされ、再送が必要な要求メールがあった場合、自動的に再送されます。

値に0を指定した場合、チェックされません。したがって、再送が必要な要求メールがあっても自動的に再送されません。

mail\_directory = ドメイン間連携メール格納ディレクトリ名 《/Flowmate/WFmc/mail》  
メールサーバから取得したメールを格納するディレクトリを指定します。ディレクトリを変更する場合は、ディレクトリ下の情報をすべて移動する必要があります。

ります。

connection\_log\_directory = ドメイン間連携送受信ログ出力ディレクトリ名 《/Flowmate/WFmc/SRlog》

ドメイン間連携機能で取得する送受信ログを格納するディレクトリを指定します。

connection\_log\_save\_type = ドメイン間連携送受信ログ保存形式 ((all 又は rnd))  
《rnd》

ドメイン間連携機能で取得する送受信ログの保存形式を取得します。形式には、全保存と上書き保存があります。

all

全保存形式で保存します。全保存形式の場合、ログデータは上書きされないで、追加保存されていきます。そのためディスク容量に空きがなくなる前に、ログデータを待避する必要があります。

rnd

上書き保存形式で保存します。上書き保存形式の場合、データは容量の上限サイズまで上書きされます。そのため、古いログは削除されます。

resend\_interval = ドメイン間連携再送インターバル時間 ((30 ~ 10080)) 《360》

ドメイン間連携で要求メールを送信した後、応答メールが返却されない場合、自動的に要求メールを再送するときの再送間隔を指定します (単位: 分)

この項目の詳細及び設定時に基準とする値については、「3.9.8 ドメイン間連携機能の運用上の注意事項」を参照してください。

resend\_times = ドメイン間連携再送回数 ((1 ~ 100)) 《5》

ドメイン間連携で要求メールを送信した後、応答メールが返却されない場合、自動的に要求メールを再送するときの最大再送回数を指定します。

この項目の詳細及び設定時に基準とする値については、「3.9.8 ドメイン間連携機能の運用上の注意事項」を参照してください。

mail\_receive\_limit\_interval = ドメイン間連携メール処理期限 ((0 ~ 10080)) 《360》

ドメイン間連携でメールを受信した場合に、送信時から一定時間を経過すると、そのメールが無効になる時間を指定します (単位: 分)

受信時刻が「送信時間」+「ドメイン間連携メール処理期限」を過ぎた場合、無効になります。

値に 0 を指定した場合、処理期限が無くなり、すべてのメールは無限に有効になります。

ドメイン間連携メール処理期限を変更する場合、まず、連携するすべてのサーバに対して連携中の案件がないことを確認してください。確認するには、未応答要求表示コマンド (WFifscn) を -a オプションを指定して実行します。確認後、Groupmax Workflow Server - Connection を停止して、値を変更してください。

この項目の詳細及び設定時に基準とする値については、「3.9.8 ドメイン間連携

機能の運用上の注意事項」を参照してください。

connection\_info\_keep\_interval = ドメイン間連携管理情報最大保存期間 ((0 ~ 10080)) 《2520》

ドメイン間連携で管理する情報を、連携終了後最大どのくらいの期間保存するかを指定します(単位:分)

指定値は、ドメイン間連携メール処理期限より大きい値を指定することをお勧めします。

なお、ドメイン間連携管理情報は、連携が正常に終了した場合、システムによって、自動的に保存期間が設定され削除されます。

この項目の詳細及び設定時に基準とする値については、「3.9.8 ドメイン間連携機能の運用上の注意事項」を参照してください。

## (2) メールサーバ定義ファイル及び連携情報定義ファイルの作成

メールサーバ定義ファイル及び連携情報定義ファイルは CSV 形式で作成します。

記述形式

- 項目と項目の間は、「,」(コンマ)で区切ります。
- 文字列の先頭と末尾のスペースは無視されます。
- 1行を一つの情報として定義します。
- 1カラム目に「#」(シャープ)を記述した行をコメントとみなします。

表 2-3 及び表 2-4 に、それぞれの CSV ファイルに必要な項目と内容を示します。

表 2-3 メールサーバ定義ファイルの定義項目と内容

項目	内容	パラメタ指定
E-Mail アドレス	ドメイン間連携機能が使用するメールボックスの E-Mail アドレスを指定します(最大 63 バイト)。	
E-Mail アカウント	E-Mail アドレスに対応する受信メールサーバの POP3 アカウントを指定します(最大 8 バイト)。	
E-Mail パスワード	E-Mail アカウントの POP3 パスワードを指定します(最大 63 バイト)。	
SMTP サーバ名	送信メールサーバ名を指定します(最大 255 バイト)。	
POP3 サーバ名	受信メールサーバ名を指定します(最大 255 バイト)。	
接続リトライ間隔	メールサーバとの接続に失敗した場合、再接続するまでの間隔を分単位で、1 から 1440 までの値を指定します。デフォルトは 1 分です。	
接続リトライ回数	メールサーバとの接続に失敗した場合、再接続する回数を 0 から 1000 までの値で指定します。デフォルトは 60 回です。0 を指定した場合、無限にリトライします。	
不当メール格納ディレクトリ	ビジネスプロセス連携用メール以外のメールを受信した場合のメールファイル格納ディレクトリを指定します(最大 255 バイト)。	

(凡例)

: 必須の項目です。

: 任意の項目です。

表 2-4 連携情報定義ファイルの定義項目と内容

項目	内容	パラメタ指定
窓口名	連携先を示す窓口名を指定します。ビジネスプロセス定義時にこの窓口を指定します(最大 63 バイト)。	
E-Mail アドレス	窓口名に対応する E-Mail アドレスを指定します( 案件の宛先アドレス)(最大 63 バイト)。	
契約 ID	ドメイン間連携をするワークフローエンジン間で取り決めた契約 ID を指定します(最大 31 バイト)。	
ワークフローエンジン種別	ワークフローエンジンの種別を指定します。 Groupmax Workflow : Groupmax Groupmax Workflow 以外 : OTHER	
ワークフローユーザ ID	連携先ビジネスプロセスに案件を投入するためのユーザ ID を指定します(最大 8 バイト)。	
ロール名	連携先ビジネスプロセスに案件を投入するときのロール名を指定します。連携先が Groupmax の場合、この指定は無効になります(最大 63 バイト)。	
MIME エンコード種別	IF4 メッセージのエンコード種別を指定します。省略した場合は、BASE64 が指定されます。このバージョンでは、BASE64 だけ指定できます。	
キャラクタコードセット	案件の転送先のシステムに合わせてキャラクタコードセットを指定します。省略した場合は、SJIS が指定されます。このバージョンでは SJIS だけ指定できます。	
送信メール制限サイズ	1 メール分の送信するメールサイズを制限します。送信できるメールの最大サイズをキロバイト単位で 0 ~ 2,000,000 の間で指定します。指定されたサイズを超過するメールは送信しません。 0 を指定した場合、送信するメールサイズを制限しません。 省略した場合は、wfmerc ファイルの mail_send_limit_size パラメタの値が指定されます。	

(凡例)

: 必須の項目です。

: 任意の項目です。

## 2.4.5 ユーザの設定

Groupmax Workflow のユーザ情報は、Groupmax Address で管理します。ここでは、Groupmax Address - Assist の Groupmax 連携機能を使用しない場合のユーザの設定の流れ、及び設定時の注意事項について説明します。Groupmax Address - Assist の Groupmax 連携機能を使用する場合は、「3.8 Groupmax Address - Assist の Groupmax

## 2. Groupmax Workflow の環境設定

連携機能を使用した運用」を参照してください。

### (1) ユーザの登録

Groupmax Workflow のユーザを、Groupmax Address に登録します。同時に、マルチサーバ機能で使用するメールユーザも登録します。

#### (a) Groupmax Workflow のユーザの登録

Groupmax Workflow のユーザを、Workflow サーバのホスト名を指定して Groupmax Address に登録します。Workflow サーバのホスト名を指定することで、既に Groupmax Address に登録されているユーザを Groupmax Workflow のユーザとして設定することもできます。

なお、ユーザを登録するときは、最初に、ユーザ ID が「system」のユーザを登録してください。また、このとき Workflow 管理サーバのホスト名を指定してください。ユーザ ID が「system」のユーザは、その他のユーザ ID のユーザとは扱いが異なるため、一般ユーザとしては使用できません。詳細については、「2.4.5(3)(a) ユーザ ID が「system」のユーザの扱い」を参照してください。

#### (b) マルチサーバ機能で使用するメールユーザの登録

Groupmax Workflow のマルチサーバ機能では、サーバ間のデータの転送手段として Groupmax Mail を使用しています。このため、Workflow サーバごとに、Groupmax Address にメールユーザを登録する必要があります。

マルチサーバ機能で使用するメールユーザの登録方法を、次に示します。

1. 最上位組織 Groupmax\_system 下に、組織 ID 「workflow」の組織を登録する  
最上位組織 Groupmax\_system は、Groupmax Address で登録される組織です。この組織下に、Groupmax Mail クライアントを使用するメールユーザの組織とは別に、マルチサーバ機能で使用するメールユーザの組織を登録します。組織 ID は、デフォルトで「workflow」が仮定されています。「workflow」以外の組織 ID を登録する場合は、環境設定ファイルの system\_organization\_id オペランドで、登録する組織 ID を設定してください。
2. Workflow サーバごとに、一人のメールユーザを登録する  
登録した組織に、Workflow サーバごとに一人のメールユーザを登録します。登録時には、メールサーバ名に Workflow サーバの TCP/IP のホスト名、組織 ID に 1. で登録した組織 ID を設定してください。その他の項目についての設定は任意です。  
メールユーザ登録時の注意事項を次に示します。
  - マルチサーバ機能で使用するメールユーザ以外のユーザは登録しないでください。
  - 一つの Workflow サーバで、複数のメールユーザを登録しないでください。
  - 一度登録したメールユーザは削除しないでください。
  - メールユーザには、兼任ユーザを登録しないでください。
  - メールユーザのユーザ情報を変更した場合は、Groupmax Workflow のすべての

- サーバプログラムを再起動してください。
- メールユーザを追加した場合、ワークフローディレクトリサービス起動コマンド (WFstartad) は `-r` オプションを指定して起動してください。
- Groupmax Mail Server に登録した、Groupmax Workflow Multi - Server が使用する Workflow システム組織下のメールユーザのユーザ ID は、クライアント側からのメール操作に使用しないでください。
- Groupmax Workflow Multi-Server が使用するメールユーザを Groupmax Mail - SMTP の宛先ユーザとして定義しないでください。

## (2) ワークフローデータベースの更新

Groupmax Address に登録したユーザ情報を、Groupmax Workflow のユーザ定義コマンドでワークフローデータベースに反映します。これによって、ワークフローデータベースにユーザトレイが作成されます。その後、Groupmax Workflow Definer を使用して、ユーザの権限や属性を設定します。

ワークフローデータベースの更新方法を次に示します。

### (a) ユーザトレイの作成

Groupmax Address に登録したユーザ情報は、Groupmax Address によって、各 Workflow サーバのワークフローデータベースにレプリケーション（複製）されます。レプリケーションされた Workflow サーバ上でユーザ定義コマンド (WFregusr) を実行することで、ワークフローデータベースにその情報が反映され、ユーザトレイが作成されます。

ユーザ定義コマンドは、データのレプリケーションのタイミングを考慮した上で、定期的に行わせることをお勧めします。毎日、業務開始前又は業務終了後にユーザ定義コマンドを実行するなどの運用が考えられます。

ユーザ定義コマンドについては、「4.3 運用コマンドの文法」の「WFregusr (ユーザ定義コマンド)」の項を参照してください。

なお、ユーザ定義コマンドを実行する前に、ユーザヒストリ取得最大数を決定する必要があります。ユーザヒストリ取得最大数の詳細については、「2.4.3 Groupmax Workflow の環境設定」を参照してください。

### (b) ユーザの権限及び属性の変更

ユーザ定義コマンドで設定できるのは、ユーザ名及びユーザ ID だけです。また、ユーザ定義コマンドでユーザトレイを作成した直後は、ユーザ ID が「system」以外のすべてのユーザが一般ユーザとして登録されています。ユーザの権限及び属性は、クライアントから、Groupmax Workflow Definer で変更します。

ユーザの権限及び属性の変更方法を次に示します。なお、このとき、Workflow 管理サーバ及びログインユーザのホームサーバで、ワークフローディレクトリサービス、及びサーバ機能が起動されている必要があります。

## 2. Groupmax Workflow の環境設定

### 1. ドメイン管理者を設定する

ユーザ ID 「system」でログインして、ドメイン管理者を設定します。ドメイン管理者を複数設定する場合、2 人目以降のドメイン管理者は、先に設定されたドメイン管理者の権限で設定できます。

### 2. ワークフロー運用管理者及びビジネスプロセス管理者を設定する

ワークフロー運用管理者及びビジネスプロセス管理者は、ドメイン管理者が設定します。

ワークフロー運用管理者及びビジネスプロセス管理者には、組織ごとに、ユーザ情報の更新権限を与えることができます。ユーザ情報の更新権限をワークフロー運用管理者やビジネスプロセス管理者に与えることで、ドメイン管理者の負担を軽減できます。逆に、ワークフロー運用管理者やビジネスプロセス管理者にユーザ情報の更新権限を与えないことで、すべてのユーザ情報をドメイン管理者が集中的に管理することもできます。

### 3. ユーザの属性を設定する

2. でユーザ情報の更新権限を与えられたユーザは、その他のユーザの属性を設定・変更できます。

なお、1. ~ 3. の操作をサーバで一括して実行できます。サーバで一括して実行するには、Groupmax Workflow Definer の代わりに、各 Workflow サーバ上でユーザ定義更新コマンド (WFdefusr) を実行してください。ユーザ定義更新コマンド (WFdefusr) については、「4.3 運用コマンドの文法」の「WFdefusr (ユーザ定義更新コマンド)」を参照してください。

## (3) ユーザ情報設定時の注意事項

ユーザ情報設定時の注意事項を次に示します。

### (a) ユーザ ID が「system」のユーザの扱い

ユーザ ID が「system」のユーザは、Groupmax Workflow の最初のドメイン管理者を定義するためのユーザです。Groupmax Workflow を初めて使用するときは、まず Groupmax Workflow Definer からユーザ ID 「system」でログインして、ドメイン管理者を定義します。このとき、Groupmax Workflow は、ユーザ ID 「system」のパスワードを強制的に変更させるので、ユーザ ID が「system」のユーザを Groupmax のほかのプログラムのユーザとして使用している場合は注意が必要です。

また、ユーザ ID が「system」のユーザを登録するときは、最上位組織 Groupmax\_system 直下、又は最上位組織 Groupmax\_system 下の組織に登録してください。ただし Groupmax\_system 下の組織の中の Groupmax システム固有の組織下 (Workflow システム組織、Groupmax Document Manager サーバ管理用組織) には登録しないでください。

ユーザ ID が「system」のユーザの、そのほかの特徴について、次に示します。

- ワークフローデータベースを初期化したときに、ユーザトレイが無条件で作成されま

す。

- ユーザトレイが「エラートレー」として使用されます。
- Groupmax Address からユーザ情報が削除されても、ユーザトレイが削除されません。

#### (b) Workflow サーバの変更

Groupmax Address でユーザの Workflow サーバを変更すると、ユーザトレイ上の案件、ユーザ履歴、及びユーザ情報は、マルチサーバ機能によって、変更先の Workflow サーバに転送されます。このとき、変更先の Workflow サーバにビジネスプロセス定義が登録されている場合は、マルチサーバ機能によって、案件ごとに転送されます。ビジネスプロセス定義が登録されていない場合は、案件の配布規則に従って再配布されます。案件の配布規則については、「3.9.3 案件の配布規則」を参照してください。

#### (c) Groupmax Address Server からのユーザの削除

ユーザの属性を変更する目的で、Groupmax Address の運転席からユーザを削除し、再度追加することは避けてください。この操作をすると、ユーザがワークフローデータベースから一度削除されるため、次の作業が必要になります。

- 業務ロールにユーザを再度追加する
- ユーザに管理者権限を再設定する
- ユーザに代行者を再度設定する

Groupmax Address の運転席で変更できない属性は、Groupmax Address 一括登録ユーティリティで変更してください。Groupmax Address 一括登録ユーティリティを使用すると、ユーザ ID 以外のすべての属性を、ユーザを削除しないで変更できます。

#### 注

Groupmax Address Server, 又は Groupmax Workflow Server のバージョンが 02-20 より前の場合は、「更新」が、「削除」と「追加」の二段階になることがあります。

#### (d) 「兼任ユーザ」の扱い

Groupmax Address Server で指定した兼任ユーザは、ワークフローのユーザとして登録できません。

### (4) アドレス情報のキャッシュの設定

Groupmax Address に登録された Groupmax Workflow のユーザ情報は、ワークフローディレクトリサービスによってキャッシュに読み込まれます。Groupmax Workflow の各プログラムは、ワークフローディレクトリサービスを經由して、必要なユーザ情報を取得します。

#### (a) キャッシュパラメタファイルの作成

キャッシュパラメタファイルは、アドレス情報のキャッシュを定義するファイルです。Groupmax Workflow のインストール先ディレクトリ下に、サンプルファイル (/

## 2. Groupmax Workflow の環境設定

Flowmate/sample/wfrsinfo) が提供されています。/Flowmate/etc ディレクトリにコピーし、必要に応じて修正して使用してください。

キャッシュパラメタファイルの記述形式を次に示します。なお、行の先頭、末尾、区切り文字の「=」及び「/」の前後に、空白、タブ等は使用できません。また、空行やコメント行は指定できません。

### 形式

[LOAD\_COMP=最上位組織ID[/最上位組織ID]...]

[CACHE\_COMP=キャッシュメモリサイズ]

### 項目

LOAD\_COMP = 最上位組織 ID [/ 最上位組織 ID]...((1 ~ 8 バイト))

キャッシュメモリにどの最上位組織のユーザ情報を読み込むかを指定します。複数の最上位組織 ID を指定するときは、「/」で区切ってください。省略すると、すべての最上位組織のユーザ情報を読み込みます。

CACHE\_COMP = キャッシュメモリサイズ ((1 ~ 32 メガバイト)) 《5》

ユーザ情報を読み込むためのキャッシュのメモリサイズを指定します。キャッシュメモリサイズの算出式を次に示します。

$$\text{CACHE\_COMP} = \frac{446464 + \frac{400 \times (\text{組織数} + 1) + 4095}{4096} \times 4096 + \frac{560 \times (\text{ユーザ数} + 1) + 4095}{4096} \times 4096}{1048576}$$

ユーザ数 = キャッシュに読み込む最上位組織下のワークフローユーザ総数 + Groupmax\_system組織下のユーザ総数 + Workflow組織ID下のユーザ総数

ユーザ数には、ワークフローディレクトリサービスを起動してから停止するまでの間に追加されるユーザ数を含めてください。

### (b) 注意事項

- キャッシュの不足によって、LOAD\_COMP で指定された最上位組織のユーザ情報の一部が読み込めないときは、メッセージが出力されます。その場合は、LOAD\_COMP の最上位組織 ID の指定を減らすか、CACHE\_COMP のキャッシュメモリサイズを大きくしてください。
- CACHE\_COMP のキャッシュメモリサイズを変更すると、ワークフローディレクトリサービス起動時に、新しくアドレス情報をキャッシュに読み込みます。

## 2.5 旧バージョンとの互換のための環境設定

Groupmax Workflow Server 及び Groupmax Workflow Multi-Server では、02-10 より前のバージョンの Groupmax Workflow Definer から登録したビジネスプロセス定義を扱うことができます。

ここでは、02-10 より前のバージョンを旧バージョンと呼びます。

### 2.5.1 バージョンによるビジネスプロセス定義の機能差

ここでは、02-10 より前のバージョンの Groupmax Workflow Definer から登録したビジネスプロセス定義を扱う上での制限事項について説明します。

Groupmax Workflow で旧バージョンのビジネスプロセス定義を使用した場合、次のような機能の差異又は制限があります。

サーバの違いを意識する必要があります

複数のサーバにわたって案件を処理するビジネスプロセス定義を扱うときに、サーバの違いを意識しなければなりません。このため、異なるサーバ間で案件をやり取りするための定義ファイル（窓口名定義ファイル及び部署名定義ファイル）が必要となります。

窓口名定義ファイル及び部署名定義ファイルの作成方法については、「2.5.2 窓口名と部署名の設定」を参照してください。

ユーザの変更に対するメンテナンスが必要です

ノードの作業者（ユーザ）がビジネスプロセスを定義した時点で決定してしまうため、ワーク実行時にその作業者を変更できません。また、組織ロールをサポートしていないため、ユーザの組織や役職の変更によるロール定義のメンテナンスが必要となります。

ユーザジャーナルを使用して稼働状況を取得します

稼働状況の解析に使用するワークフローログを、Groupmax Object Server のユーザジャーナルに取得します。このため、Groupmax Object Server の環境設定時にユーザジャーナル関連の定義が必要となります。また、ここで取得したワークフローログは表計算ソフト等では直接扱えないため、ユーザジャーナルのアンロード及びビジネスプロセス定義情報の抽出といった作業が必要となります。

このような機能上の制限があるほか、システムの運用面でも、クライアントのバージョンを混在させることで負荷が大きくなるため、できるだけ最新のバージョンのビジネスプロセス定義に移行させて使用することをお勧めします。ビジネスプロセス定義の移行は、Groupmax Workflow Definer 及び Groupmax Workflow Monitor から行います。このとき、ロール定義も同時に移行させる必要があります。なお、移行がすべて完了したら、Groupmax Object Server でのユーザジャーナル関連の定義は削除してください。

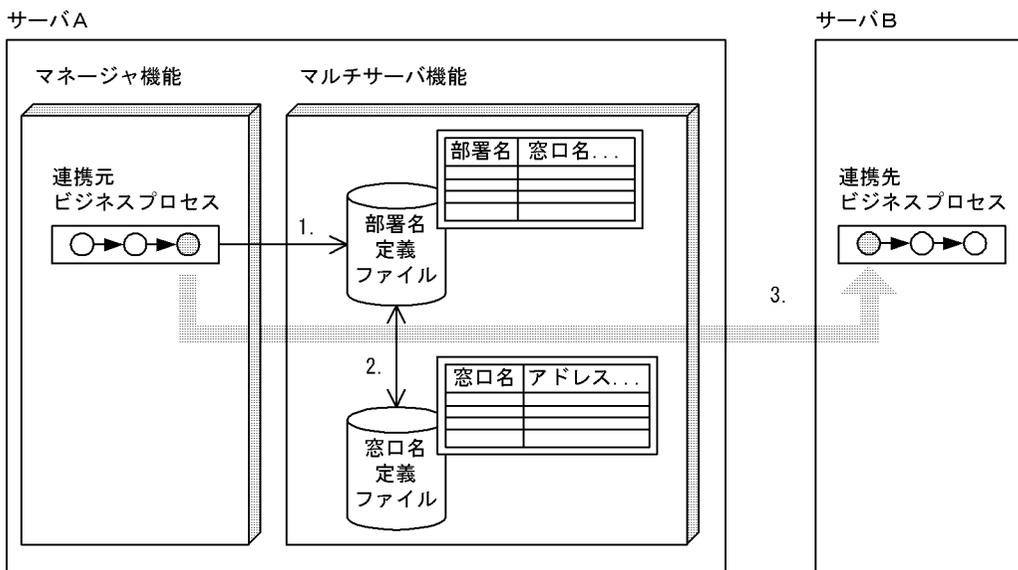
## 2.5.2 窓口名と部署名の設定

旧バージョンのビジネスプロセス定義でビジネスプロセス間連携機能を使用する場合、連携先のビジネスプロセスを管理しているサーバを特定する必要があります。連携先のサーバを特定するための情報には、窓口名及び部署名の2種類があります。

連携先のサーバは、それぞれ固有の窓口名で識別されます。各窓口に対応するユーザ名、通信手段、アドレスなどは、窓口名定義ファイルで設定します。また、連携元のビジネスプロセス定義では、連携先のサーバを直接窓口名で指定しないで、部署名で指定します。部署名定義ファイルには、部署名と窓口名の対応を記述します。このような運用によって、サーバを増設しても、窓口名定義ファイル及び部署名定義ファイルを変更するだけで済みます（ビジネスプロセス定義を変更する必要はありません）。

ビジネスプロセス間で案件を送付する場合の部署及び窓口の関係を、図 2-3 に示します。

図 2-3 ビジネスプロセス間連携での部署名と窓口名の関係



1. 連携先ビジネスプロセスの部署名を指定
2. 窓口名定義ファイルを参照して送付先を指定
3. 案件を送付

窓口名定義ファイル及び部署名定義ファイルの作成方法を説明します。窓口名定義ファイル及び部署名定義ファイルは、環境設定ファイルの multi\_server\_config\_path オペランドで指定したディレクトリに格納してください。また、これらのファイルは、すべてのサーバで同じ内容に設定してください。

作成した窓口名定義ファイル及び部署名定義ファイルの内容は、Groupmax Workflow Multi-Server 起動時に有効となります。

## (1) 窓口名定義ファイルの作成

ファイル名「exentran」で窓口名定義ファイルを作成してください。サンプルファイル (/Flowmate/sample/exentran.ms) が提供されていますので、コピーして使用すると便利です。

窓口名定義ファイルの記述形式を次に示します。 はタブ 1 個を表します。

### 形式

窓口名 IP アドレス 通信手段 パラメタ [ コメント ]

### 内容

#### 窓口名 (1 ~ 31 バイト)

窓口名を記述します。窓口名を重複して記述することはできません。

#### IP アドレス

窓口名に対応するサーバの、TCP/IP の IP アドレスを記述します。

#### 通信手段

「GROUPMAIL」と記述します (通信手段として Groupmax Mail を使用することを表します)。

#### パラメタ

次の形式で指定します。

宛先ユーザ名 [ OR 名 ] バージョン

#### 宛先ユーザ名

案件の送付先ユーザを指定するもので、Groupmax Mail に登録しているユーザ ID を記述します。

#### OR 名

案件の送付先ユーザが Groupmax Mail に登録している OR 名を指定します。

Groupmax Mail の管理サーバが同じであれば、省略できます。

#### バージョン

「0120」と記述します。

#### コメント

窓口名定義に関するコメントを、1 行を超えない範囲 (行末まで) で記述できます。特に必要がない場合は、省略してください。

#### 記述例

```
osaka 181.40.123.1 GROUPMAIL user0 0120
tokyo 181.40.12.2 GROUPMAIL user1 0120  経理課
横浜 180.40.22.3 GROUPMAIL user3 0120
```

#### 注意事項

- 1 行につき一つの窓口を記述してください。
- パラメタで指定する宛先ユーザ名 (ユーザ ID) 及び OR 名は、Groupmax Mail の規定に従って記述してください。
- パラメタ中の OR 名を省略する場合は、宛先ユーザ名とバージョンの間に、2 個の

## 2. Groupmax Workflow の環境設定

タブを記述してください。

- 記述できる窓口名数は 1 ~ 1,024 個です。1,025 個目以降は無効となります。
- 部署名定義ファイルで指定する窓口名をすべて記述してください。また、自サーバの IP アドレスを設定した窓口を必ず一つ登録してください。

### (2) 部署名定義ファイルの作成

ファイル名「section」で部署名定義ファイルを作成してください。サンプルファイル (/Flowmate/sample/section.ms) が提供されていますので、コピーして使用すると便利です。

部署名定義ファイルの記述形式を次に示します。項目と項目の間は 1 個以上の半角空白又はタブで区切ってください。

形式

部署名 窓口名 [コメント]

内容

部署名 (1 ~ 127 バイト)

部署名を記述します。部署名を重複して指定することはできません。

窓口名 (1 ~ 31 バイト)

窓口名を記述します。複数の部署名に対して同じ窓口名を記述できます。

コメント

窓口名定義に関するコメントを、1 行を超えない範囲 (行末まで) で記述できます。特に必要がない場合は、省略してください。

記述例

```
設計部 横浜 横浜工場内  
関西営業部 osaka 大阪支社  
総務部経理課 tokyo 本社
```

注意事項

- 1 行につき一つの部署を記述してください。
- 記述できる部署名数は 1 ~ 1,024 個です。1,025 個目以降は無効となります。
- 部署名と窓口名の対応が実際と違っていてもエラーにならないので、記述内容の対応付けに注意してください。

### (3) 窓口名及び部署名の変更・削除

窓口名定義ファイル及び部署名定義ファイルの内容の変更は、Groupmax Workflow Multi-Server を再度起動したときに有効になります。なお、窓口名又は部署名を削除する場合は、転送データ一覧取得コマンド (WFshowcq) で、削除対象の窓口名又は部署名が送付先となっていないことを確認してください。送付先として使用されていると、転送途中の案件を連携先サーバに送れなくなります。

## 2.6 ワークフローデータベースの移行

---

この節では、Groupmax Workflow のバージョンアップをする場合に必要で、ワークフローデータベースの移行について説明します。ワークフローデータベースの移行とは、06-00 より前のバージョンのワークフローデータベースを、バージョン 06-00 の Groupmax Workflow で使用できるようにすることです。

### 2.6.1 ワークフローデータベースの移行手順

ワークフローデータベースの移行手順を次に示します。なお、ワークフローデータベースを移行する前に、データのバックアップを取得しておいてください。

ワークフローデータベースの移行手順は、どのバージョンから移行するかによって次に示すように異なります。

#### (1) 02-00 から移行する場合

1. Groupmax Object Server をユティリティ実行モードで起動する (xodstart -u)  
システム共通定義ファイルでデータベースの常駐化を指定していると、起動時にメッセージが出力されますが、無視してください。
2. 構成変更パラメタファイルを作成する  
構成変更パラメタファイルに、データベースの構成変更情報を記述します。構成変更パラメタファイルの記述内容については、「2.6.2 構成変更パラメタファイルの作成」を参照してください。
3. Groupmax Object Server のエリア追加コマンドで、データベースにエリアを追加する (xodaradd)  
xodaradd コマンドのオプションに、2. で作成した構成変更パラメタファイルを指定して実行します。
4. Groupmax Object Server をユティリティ実行モードからアプリケーションプログラム実行モードに変更する (xodprmod -a)
5. Groupmax Workflow のデータベース移行コマンドを実行する (WFconvertdb)  
データベース移行コマンドの使用方法については、「4.3 運用コマンドの文法」の「WFconvertdb (データベース移行コマンド)」の項を参照してください。

#### (2) 02-10 以降のバージョンから移行する場合

1. Groupmax Object Server を起動する (xodstart)
2. Groupmax Workflow のデータベース移行コマンドを実行する (WFconvertdb)  
データベース移行コマンドの使用方法については、「4.3 運用コマンドの文法」の「WFconvertdb (データベース移行コマンド)」の項を参照してください。

## 2.6.2 構成変更パラメタファイルの作成

構成変更パラメタファイルは、Groupmax Object Server のエリア追加コマンドを実行するときに必要なファイルであり、02-00 から移行する場合に使用します。エリア追加コマンドを実行すると、構成変更パラメタファイルに定義したエリアが、Groupmax Object Server のデータベースに追加されます。

構成変更パラメタファイルは、サンプルファイルが提供されています。構成変更パラメタファイルを作成するときは、このサンプルファイルを必要に応じてコピーし内容を編集してください。サンプルファイルのファイル名は次のとおりです。

/Flowmate/sample/omadd2

なお、エリア名は、サンプルファイルの記述どおりとし、変更はしないでください。定義内容の詳細については、マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。

## 2.7 AIX 版 Groupmax Workflow のポート番号に関する注意事項

---

AIX では、一時ポートに割り当てる番号として 32768 から 65535 がデフォルトで使用されます。Groupmax Workflow Server のデフォルトポート番号 (40076) を使用した場合、ほかのアプリケーションの動作に影響したり、Groupmax Workflow Server が起動できなくなったりする場合がありますので、次のどちらかの設定をしてください。

- AIX の一時ポートに割り当てるデフォルト値を `no` コマンドなどで変更してください。詳細については、AIX のマニュアルを参照してください。
- Groupmax Workflow Server のサービス名の登録に、一時ポートに割り当てる番号以外を指定してください。同様にクライアント側のポート番号もサーバ側に登録した番号を指定してください。



# 3

## Groupmax Workflow の運用

この章では、Groupmax Workflow のサーバでの運用について説明します。

---

3.1 Groupmax Workflow の運用の流れ

---

3.2 システムの起動

---

3.3 システムの終了

---

3.4 ワークフローログの出力

---

3.5 終了ワークに関する注意事項

---

3.6 ファイルのバックアップとリストア

---

3.7 システム統合運用管理機能を使用した運用

---

3.8 Groupmax Address - Assist の Groupmax 連携機能を使用した運用

---

3.9 その他の運用と運用時の注意事項

---

## 3.1 Groupmax Workflow の運用の流れ

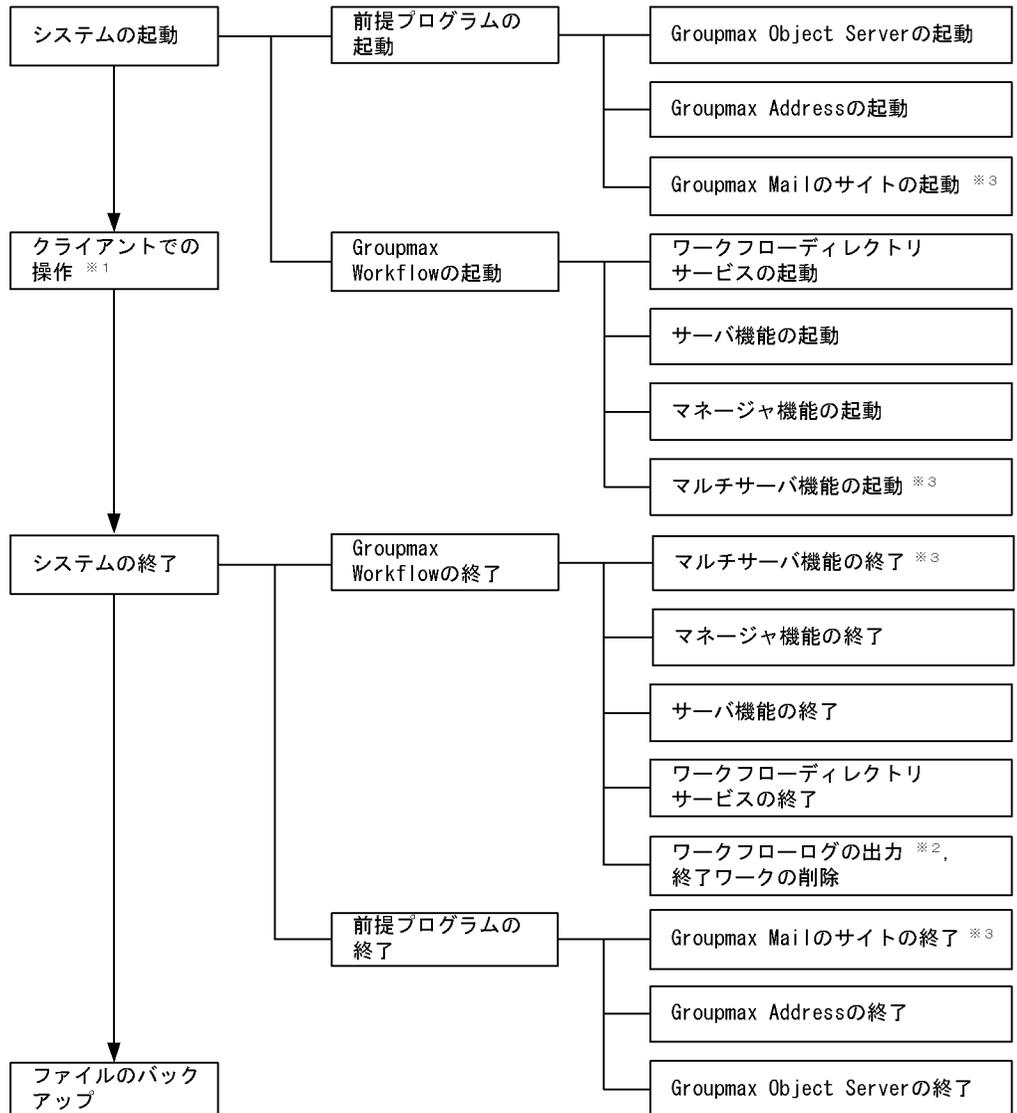
---

ここでは、Groupmax Workflow の運用の流れについて説明します。

システム統合運用管理機能を使用する場合は、運用の流れが異なります。システム統合運用管理機能の運用方法については、「3.7 システム統合運用管理機能を使用した運用」を参照してください。

Groupmax Workflow の運用の流れを図 3-1 に示します。

図 3-1 Groupmax Workflow の運用の流れ



注※1 Groupmax Workflow Definer, Groupmax Workflow Monitor, Groupmax Integrated Desktopなどを使用してクライアントを操作します。  
 なお、ユーザの登録内容は、各Workflowサーバ上でユーザ定義更新コマンドを実行しても変更できません。また、ロールの登録内容は、Workflow管理サーバ上でロール定義更新コマンドを実行しても変更できません。サーバでの操作については、「3.9.2(1) サーバでユーザ・ロールの登録内容を変更する運用」を参照してください。

注※2 02-10より前のバージョンのGroupmax Workflow Definerで登録したビジネスプロセス定義のワークフローログの出力については、「付録A 旧バージョンのワークフローログの出力」を参照してください。

注※3 HI-UX/WE2版又はHP-UX版で、これらの機能を使用する場合に起動・終了します。

## 3.2 システムの起動

---

ここでは、Groupmax Workflow の各プログラムの起動手順について説明します。

### 3.2.1 前提プログラムの起動

Groupmax Workflow を起動する前に、Groupmax Workflow の前提プログラムを起動する必要があります。前提プログラムは、Groupmax Object Server、Groupmax Address Server、Groupmax Mail Server の順に起動します。起動方法については、それぞれのプログラムのマニュアルを参照してください。

### 3.2.2 Groupmax Workflow の起動

Groupmax Workflow の各プログラムを、ワークフローディレクトリサービス、サーバ機能、マネージャ機能、マルチサーバ機能 (Groupmax Workflow Multi-Server)、ドメイン間連携機能 (Groupmax Workflow Server - Connection) の順に起動します。

プログラムを起動するには、Groupmax Workflow の運用コマンド (WFstartad、WFstartsv、WFstartmgr、WFstartms、及び WFstartif) を使用します。運用コマンドの入力手順を次に示します。

1. root 権限でログインする

2. 運用コマンドを、次の形式で入力する

```
# /Flowmate/bin/WFstartad (ワークフローディレクトリサービスの起動)
# /Flowmate/bin/WFstartsv (サーバ機能の起動)
# /Flowmate/bin/WFstartmgr (マネージャ機能の起動)
# /Flowmate/bin/WFstartms (マルチサーバ機能の起動)
# /Flowmate/WFmc/bin/WFstartif (ドメイン間連携機能の起動)
```

3. 各プログラムの起動を知らせるメッセージがコンソールに出力される

各コマンドの使用方法については、「4.3 運用コマンドの文法」を参照してください。

運用コマンドは、メッセージを /dev/console にリダイレクトしています。メッセージを /dev/console に出力させたくない場合は、「3.9.12 /dev/console へのメッセージ出力を抑制する機能」を参照してください。

## 3.3 システムの終了

---

ここでは、Groupmax Workflow の各プログラムの終了手順について説明します。

### 3.3.1 Groupmax Workflow の終了

Groupmax Workflow の各プログラムの終了操作は、起動時とは逆に、ドメイン間連携機能、マルチサーバ機能、マネージャ機能、サーバ機能、ワークフローディレクトリサービスの順に行います。

プログラムを終了させるには、Groupmax Workflow の運用コマンド（WFstopif、WFstopms、WFstopmgr、WFstopsv、及びWFstopad）を使用します。運用コマンドの入力手順を次に示します。

1. root 権限でログインする
2. 運用コマンドを、次の形式で入力する
 

```
# /Flowmate/WFmc/bin/WFstopif (ドメイン間連携機能の終了)
# /Flowmate/bin/WFstopms (マルチサーバ機能の終了)
# /Flowmate/bin/WFstopmgr (マネージャ機能の終了)
# /Flowmate/bin/WFstopsv (サーバ機能の終了)
# /Flowmate/bin/WFstopad (ワークフローディレクトリサービスの終了)
```
3. 各プログラムの終了を知らせるメッセージがコンソールに出力される

なお、サーバ機能の終了後、必要に応じてワークフローログを出力し、ワーク削除コマンド（WFdelwork）で終了した（又はキャンセルされた）ワークを削除してください。ワークフローログの出力方法については、「3.4 ワークフローログの出力」を参照してください。また、各コマンドの使用方法については、「4.3 運用コマンドの文法」を参照してください。

### 3.3.2 前提プログラムの終了

Groupmax Workflow の前提プログラムを終了させる場合も、起動時とは逆に、Groupmax Mail Server、Groupmax Address Server、Groupmax Object Server の順で実行します。終了方法については、それぞれのプログラムのマニュアルを参照してください。

## 3.4 ワークフローログの出力

Groupmax Workflow は、ユーザの作業及びシステムの稼働についての履歴情報（ワークフローログ）を取得しています。ワークフローログには、業務結果の分析に有効な情報が含まれているため、ワークを削除する前に、ワークフローログレコードファイルとして出力する必要があります。

ワークフローログの出力には、ワークフローログ出力コマンド（WFdestlg）を使用します。コマンドの使用方法については、「4.3 運用コマンドの文法」の「WFdestlg（ワークフローログ出力コマンド）」の項を参照してください。

ここでは、出力されるワークフローログの種類、及び出力したワークフローログの表計算ソフトウェアでの利用方法について説明します。

### 3.4.1 ワークフローログの種類

ワークフローログは、ケースの遷移、ユーザの処理、ワークのキャンセルなど、ビジネスプロセス上の様々な処理について取得されています。出力されるワークフローログの種類を、表 3-1 に示します。

表 3-1 ワークフローログの種類

ワークフローログの種類	内容
begin_work	ワークの生成に関する情報
move_root_case	ノード間の案件の遷移に関する情報
send_consult_case	相談に関する情報
go_root_case	案件の遷移要求に関する情報
suspend_root_case	案件の一時停止に関する情報
suspend_work	ワーク単位での案件の一時停止に関する情報
ready_root_case	案件の再開始に関する情報
ready_work	ワーク単位での案件の再開始に関する情報
put_root_case	案件の投入に関する情報
cancel_work	ワークのキャンセルに関する情報
role_to_user	ロールトレーからユーザトレーへの案件の移動に関する情報
send_answer_case	相談の回答に関する情報
api_msg	ユーザが出力したログデータに関する情報
send_back_root_case	案件の差し戻し要求に関する情報
take_back_root_case	案件の引き戻し要求に関する情報
end_of_root_case	案件の遷移終了に関する情報
end_of_work	ワークの終了に関する情報
retry_move_root_case	ノード間の案件の再遷移に関する情報

### (1) ワークフローログファイルのディスク容量見積もり

ワークフローログレコードファイルのディスク容量は、出力対象のワーク数に比例して大きくなります。このため、大量のワークフローログを出力する場合、ディスク容量が不足しないように注意する必要があります。ワークフローログレコードファイルのディスク容量は、次の概算式を参考に見積もってください。

$$\text{ディスク容量 (キロバイト)} = W \times (n+m) \times 0.5$$

W : 出力対象のワーク数

n : 1 ワーク当たりのユーザが処理したノード数

m : 1 ワーク当たりのケース数

## 3.4.2 ワークフローログの利用方法

ワークフローログレコードは、Excel の CSV (Comma Separated Value) ファイル形式に準拠しているため、表計算やグラフ表示などの Excel の機能を利用して、より詳細な分析ができます。ここでは、Excel を利用したワークフローログレコードの分析方法について説明します。

### (1) Excel でのファイルの読み込み

ワークフローログレコードファイルを Excel で読み込む場合の操作を次に示します。

1. 稼働状況解析結果のファイルを、HI-UX/WE2、HP-UX 又は AIX のテキストファイルから PC のテキストファイルに変換する
2. ファイル拡張子を CSV (\*.csv) にする
3. Excel を起動し、メニューバーから [ファイル] - [開く] を選択する
4. [ファイルを開く] ダイアログボックスの [ファイルの種類] で、「テキストファイル (\*.prn, \*.txt, \*.csv)」を選択して、稼働状況解析結果のファイルを読み込む

### (2) ワークフローログレコードファイルの使用例

ここでは、表計算ソフトウェアを使用して、ワークフローログレコードファイルから、案件の滞留時間、特定時間におけるノードごとの案件数などの統計を取る例を紹介します。式の中で太字表示してあるものは、ワークフローログレコード中の項目名を示します。

ワークフローログレコードファイルのフォーマットの詳細については、「付録 B ワークフローログのデータ形式」を参照してください。

#### (a) ノードに関する情報

案件のノード滞留時間 (案件がノードに送付されてから次のノードに送付されるまでの時間)

### 3. Groupmax Workflow の運用

案件のノード n のノード滞留時間

= ノード名 2 がノード n である move\_root\_case の取得時刻 - 時刻

ノード滞留案件数 (ある特定時刻にノードに滞留していた案件数)

時刻 t2 におけるノード n のノード滞留案件数

= 時刻 t1 以前のノード滞留案件数

+ ノード名 1 がノード n である move\_root\_case の総数 (期間 t1 ~ t2)

- ノード名 2 がノード n である move\_root\_case の総数 (期間 t1 ~ t2)

案件がエラートレーへ配布された場合、及びキャンセルされた場合は、ノード滞留案件数として加算されない場合があります。

ノード内処理ユーザ数 (ある期間にあるノードで案件を処理したユーザの数)

期間 t1 ~ t2 でのノード n のノード内処理ユーザ数

= ノード名 1 がノード n である go\_root\_case のユーザ名 1 の総人数

期間 t1 ~ t2 が平均的な案件の処理時間より短い場合、ノード内処理ユーザ数として加算されません。

#### (b) ユーザに関する情報

案件のユーザ滞留時間 (案件がユーザに配布されてから処理が完了するまでに掛かった時間)

案件のユーザ u のユーザ滞留時間

= ユーザ名 1 がユーザ u である go\_root\_case の取得時刻 - 時刻

ロールトレーからの案件の取り出し、ユーザトレーからユーザトレーへの振り替え、ユーザトレーからロールトレーへの案件の移動及び案件の相談をした場合、相談先ユーザの滞留時間も加算されます。

ユーザ滞留案件数 (ある特定時刻にユーザに滞留していた案件数)

時刻 t2 におけるユーザ u のユーザ滞留案件数

= 時刻 t1 以前のユーザ滞留案件数

+ ユーザ名 1 がユーザ u である move\_root\_case の総数 (期間 t1 ~ t2)

- ユーザ名 1 がユーザ u である go\_root\_case の総数 (期間 t1 ~ t2)

ロールトレーからの案件の取り出し、ユーザトレーからユーザトレーへの振り替え、ユーザトレーからロールトレーへの案件の移動及びキャンセルによる案件の送付の中止の場合、ユーザ滞留案件数として加算されない場合があります。

#### (c) ワークに関する情報

ワーク処理時間 (ワークの生成から終了までに必要な時間)

ワーク処理時間

= end\_of\_work の取得時刻 - 時刻

## 3.5 終了ワークに関する注意事項

---

終了ワークは保存期間が過ぎても自動的に削除されません。したがって、削除しないで放置するとディスク資源を圧迫するため、定期的に削除してください。

ワーク削除の手順は、「4.3 運用コマンドの文法」の「WFdelwork (ワーク削除コマンド)」の説明を参照してください。

また、SYSLOG に下記のメッセージが出力されている場合、終了ワークの削除だけでなく、データベースの再編成が必要です。

```
「KFXO41056-I ファイルの増分を行いました。エリア名 = wf_xxxx ファイルサイズ =  
xxxxKB」
```

データベース再編成の手順は、「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」の xodbreog コマンドの説明を参照してください。

## 3.6 ファイルのバックアップとリストア

---

ファイルに障害が起きたときのために、各種ファイルのバックアップを定期的を取得することをお勧めします。ここでは、バックアップの対象となるファイル、バックアップの取得方法、及びバックアップからのリストアについて説明します。

なお、バックアップ取得の作業は、Groupmax Object Server を停止させた状態で実行してください。また、実行後は、バックアップの取得に成功しているかどうかを必ず確認してください。

### 3.6.1 バックアップの対象となるファイル

ここでは、バックアップの対象となるファイルについて説明します。これらのファイルは、同時にバックアップを取得するなど、情報間の同期がずれないように注意してください。また、これらのファイルのうち Groupmax の他のプログラムでも使用するファイルについては、それらのプログラムの情報との間でも同期を取ってください。さらに、マルチサーバ構成の場合は、すべてのサーバの間で同期を取ってください。

#### (1) Groupmax Workflow Server のファイル

- 文書実体ファイル  
/Flowmate/doc 中のファイルです。案件の添付文書ファイル、案件の添付メモファイル及びビジネスプロセス定義の情報が格納されています。
- サーバ機能環境ファイル  
/Flowmate/etc 及び /Flowmate/adm 中のファイルです。
- ワークエリア  
/Flowmate/export 中のファイルです。
- ユーザデータ格納ディレクトリのファイル  
環境設定ファイルの user\_data\_dir で設定されたディレクトリ中のファイルです。省略されている場合は、/Flowmate/userdata 中のファイルです。登録したアプリケーションが格納されています。

#### (2) Groupmax Workflow Multi-Server のファイル

旧バージョンのビジネスプロセス定義でビジネスプロセス間連携機能を使用している場合、次のファイルのバックアップを取得してください。

- 部署名定義ファイル
- 窓口名定義ファイル  
環境設定ファイルの multi\_server\_config\_path で設定されたパス名中のファイルです。省略されている場合は、/Flowmate/etc 中のファイルです。

#### (3) Groupmax Workflow Server - Connection のファイル

ドメイン間連携機能を使用している場合、次のファイルのバックアップを取得してくだ

さい。

- ドメイン間連携機能サーバ環境定義ファイル  
ドメイン間連携機能サーバ環境定義ファイル格納ディレクトリ (/Flowmate/WFmc/conf) 下のすべてのファイルです。
- メールデータファイル  
環境設定のドメイン間連携メール格納ディレクトリで指定したディレクトリ下のすべてのファイルです。デフォルトは, /Flowmate/WFmc/mail です。
- 送受信ログファイル  
環境設定のドメイン間連携送受信ログ出力ディレクトリで指定したディレクトリ下のすべてのファイルです。デフォルトは, /Flowmate/WFmc/SRlog です。

#### (4) Groupmax Object Server のファイル

- オブジェクト管理ファイル  
Groupmax の他のプログラムが使用するオブジェクト管理ファイルについても, 同期を取ってバックアップを取得してください。

#### (5) Groupmax Address のファイル

Groupmax Address の定義情報 (システム情報やユーザ情報) を格納したファイルについて, バックアップを取得してください。

### 3.6.2 バックアップの取得方法

Groupmax Workflow Server, Groupmax Workflow Multi-Server 及び Groupmax Workflow Server - Connection のファイルのバックアップは, tar コマンドなどのオペレーティングシステムのコマンドを使って取得します。文書実体ファイル, サーバ機能環境ファイル, 及びワークエリアのバックアップを取得する場合の, tar コマンドの指定例を次に示します。

(例)

```
tar cvf バックアップ先デバイス名 ¥
        /Flowmate/doc ¥
        /Flowmate/etc ¥
        /Flowmate/adm ¥
        /Flowmate/export
```

Groupmax Object Server が管理しているオブジェクト管理ファイルのバックアップの取得方法については, マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。

### 3.6.3 バックアップからのリストア

バックアップからのリストアについて説明します。Groupmax の他のプログラムとデータベースを共有している場合, 各プログラムのファイル及びデータベースも同時に, バックアップしたデータからリストアしてください。

### 3. Groupmax Workflow の運用

Groupmax Object Server が管理しているオブジェクト管理ファイルのリストア方法については、マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。

Groupmax Address Server の定義情報のリストア方法については、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド 基本操作編」を参照してください。

Groupmax Workflow のマルチサーバ機能を使用している場合マルチサーバを構成する一つのサーバだけをバックアップ時点に戻すと、サーバ間の整合性が取れなくなることがあります。すべてのサーバを同期を取ってバックアップし、リストアする場合はすべて同時点のバックアップからリストアしてください。

Groupmax Workflow のドメイン間連携機能を使用している場合、連携する一つのビジネスプロセス定義がバックアップ時点に戻ります。連携している相手のドメインの管理者に連絡し、整合性の確保を依頼する必要があります。詳細については、「5.4.6 ドメイン間連携中の障害回復方法」を参照してください。

#### 3.6.4 ジャーナル回復に関する注意事項

Groupmax High-end Object Server を使用している場合、データベースをジャーナルから最新状態に回復できます。ジャーナル回復を前提にシステムを構築する場合は、次のことに注意してください。

##### (1) 文書実体ファイルに関する注意

「3.6.1(1) Groupmax Workflow Server のファイル」で挙げたファイルはジャーナル回復の対象ではありませんので、これらのファイルが破壊した場合、ジャーナル回復はできません。したがって、データベースとジャーナル回復対象外のファイルを格納するボリュームを分けることをお勧めします。この場合、データベース障害のときはジャーナル回復し、ファイル障害のときはデータベース及びファイルをバックアップから回復してください。また、信頼性を高めるためにミラーディスクの使用をお勧めします。

##### (2) マルチサーバ環境での注意事項

Groupmax Workflow Multi-Server では、Groupmax Mail Server の機能によって案件を他のサーバに送付しています。このため、マルチサーバ機能の使用時にメール実体ファイルがディスク障害などで破壊された場合、ジャーナル回復をするとメールのデータベース情報と実体ファイルとが不整合になり、案件を送付できなくなることがあります。この場合、次の運用が必要です。

- マルチサーバ機能で使用するメールユーザに対して、X400\_MAIL\_SYNC コマンドで不整合なメールを削除する
- Groupmax Workflow Multi-Server を再起動する

- 転送データ一覧取得コマンド (WFshowcq) で削除したメールに該当する案件を確認し、連携データ再送コマンド (WFretrans) で案件を再送する

X400\_MAIL\_SYNC コマンドについては、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド 基本操作編」を参照してください。

### (3) ドメイン間連携機能使用時の注意事項

Groupmax Workflow Server - Connection では、インターネットメールサーバの機能により案件を他サーバに送付しています。データベースが最新状態に回復できていてもメールが紛失している可能性がありますので、次の手順で確認、及び再送してください。

1. メッセージの送受信ログ、及び運用コマンドの状態表示を基に、対話中の案件を特定する
2. 対話中の案件で連携相手に届いてない要求がある場合、該当案件を運用コマンドを使用して再送する
3. ドメイン間連携機能を再起動する

## 3.7 システム統合運用管理機能を使用した運用

ここでは、システム統合運用管理機能を使用した、Groupmax Workflow の起動と終了の方法を示します。システム統合運用管理機能は、HI-UX/WE2 版及び HP-UX 版で使用できます。

システム統合運用管理機能の詳細については、マニュアル「Groupmax System Agent - TCP/IP Version 5 システム管理者ガイド」を参照してください。

### 3.7.1 システム統合運用管理機能を使用した起動

システム統合運用管理機能を使用して Groupmax Workflow を起動する方法について説明します。

#### (1) Groupmax サーバの起動

##### (a) Groupmax Workflow Server の起動

##### 1. Groupmax System Manager を起動する

[ Groupmax System Manager - TCP/IP ] ダイアログボックスが表示されます。

##### 2. Agent のノードを選択する

[ Agent ノード一覧 ] リストボックスから操作対象のノードを選択します。

##### 3. [ Agent ノード操作 ] グループの [ 状態表示 ] ボタンをクリックする

[ サーバ状態表示 / リモート操作 ] ダイアログボックスが表示されます。

##### 4. Groupmax Workflow Server をクリックする

##### 5. [ 1 サーバ操作 ] グループの [ パラメタ指定 ] ボタンをクリックする

[ サーバ起動 / 停止パラメタ指定 ] ダイアログボックスが表示されます。

##### 6. 起動パラメタを指定する

前回使用したキャッシュのユーザ情報を利用する場合は、起動パラメタに何も指定しないでください。

Groupmax Address Server から最新のユーザ情報をキャッシュに読み込む場合は、「r」を指定してください。

なお、次に示す変更をした場合は、新しくアドレス情報をキャッシュに読み込んでください。

- キャッシュパラメタファイルでキャッシュメモリサイズを変更した場合
- 環境設定ファイルで Workflow システム組織 ID を変更した場合

##### 7. [ 設定 ] ボタンをクリックする

[ サーバ起動 / 停止パラメタ指定 ] ダイアログボックスを閉じて、[ サーバ状態表示 / リモート操作 ] ダイアログボックスに戻ります。

##### 8. [ 1 サーバ操作 ] グループの [ 起動 ] ボタンをクリックする

Groupmax Workflow Server の状態表示が「起動処理中」になります。

#### (b) Groupmax Workflow Multi-Server の起動

1. Groupmax System Manager を起動する  
[ Groupmax System Manager - TCP/IP ] ダイアログボックスが表示されます。
2. Agent のノードを選択する  
[ Agent ノード一覧 ] リストボックスから操作対象のノードを選択します。
3. [ Agent ノード操作 ] グループの [ 状態表示 ] ボタンをクリックする  
[ サーバ状態表示 / リモート操作 ] ダイアログボックスが表示されます。
4. Groupmax Workflow Multi-Server をクリックする
5. [ 1 サーバ操作 ] グループの [ 起動 ] ボタンをクリックする  
Groupmax Workflow Multi-Server の状態表示が「起動処理中」になります。

#### (2) Groupmax サーバの機能ごとの起動

##### (a) ワークフローディレクトリサービスの起動

1. Groupmax System Manager を起動する  
[ Groupmax System Manager - TCP/IP ] ダイアログボックスが表示されます。
2. Agent のノードを選択する  
[ Agent ノード一覧 ] リストボックスから操作対象のノードを選択します。
3. [ Agent ノード操作 ] グループの [ 状態表示 ] ボタンをクリックする  
[ サーバ状態表示 / リモート操作 ] ダイアログボックスが表示されます。
4. Groupmax Workflow Server をクリックする
5. [ 1 サーバ操作 ] グループの [ 機能操作 ] ボタンをクリックする  
[ 機能毎状態表示 / リモート操作 ] ダイアログボックスが表示されます。
6. ワークフローディレクトリサービスをクリックする
7. [ 1 機能操作 ] グループの [ パラメタ指定 ] ボタンをクリックする  
[ 機能毎起動 / 停止パラメタ指定 ] ダイアログボックスが表示されます。
8. 起動パラメタを指定する  
前回使用したキャッシュのユーザ情報を利用する場合は、起動パラメタに何も指定しないでください。  
Groupmax Address Server から最新のユーザ情報をキャッシュに読み込む場合は、「-r」を指定してください。  
なお、次に示す変更をした場合は、新しくアドレス情報をキャッシュに読み込んでください。
  - キャッシュパラメタファイルでキャッシュメモリサイズを変更した場合
  - 環境設定ファイルで Workflow システム組織 ID を変更した場合

### 3. Groupmax Workflow の運用

9. [ 設定 ] ボタンをクリックする  
[ 機能毎起動 / 停止パラメタ指定 ] ダイアログボックスを閉じて , [ 機能毎状態表示 / リモート操作 ] ダイアログボックスに戻ります。

10. [ 1 機能操作 ] グループの [ 起動 ] ボタンをクリックする  
ワークフローディレクトリサービスの状態表示が「起動処理中」になります。

#### (b) サーバ機能の起動

1. Groupmax System Manager を起動する  
[ Groupmax System Manager - TCP/IP ] ダイアログボックスが表示されます。

2. Agent のノードを選択する  
[ Agent ノード一覧 ] リストボックスから操作対象のノードを選択します。

3. [ Agent ノード操作 ] グループの [ 状態表示 ] ボタンをクリックする  
[ サーバ状態表示 / リモート操作 ] ダイアログボックスが表示されます。

4. Groupmax Workflow Server をクリックする

5. [ 1 サーバ操作 ] グループの [ 機能操作 ] ボタンをクリックする  
[ 機能毎状態表示 / リモート操作 ] ダイアログボックスが表示されます。

6. サーバ機能を選択する

7. [ 1 機能操作 ] グループの [ 起動 ] ボタンをクリックする  
サーバ機能の状態表示が「起動処理中」になります。

#### (c) マネージャ機能の起動

1. Groupmax System Manager を起動する  
[ Groupmax System Manager - TCP/IP ] ダイアログボックスが表示されます。

2. Agent のノードを選択する  
[ Agent ノード一覧 ] リストボックスから操作対象のノードを選択します。

3. [ Agent ノード操作 ] グループの [ 状態表示 ] ボタンをクリックする  
[ サーバ状態表示 / リモート操作 ] ダイアログボックスが表示されます。

4. Groupmax Workflow Server をクリックする

5. [ 1 サーバ操作 ] グループの [ 機能操作 ] ボタンをクリックする  
[ 機能毎状態表示 / リモート操作 ] ダイアログボックスが表示されます。

6. マネージャ機能を選択する

7. [ 1 機能操作 ] グループの [ 起動 ] ボタンをクリックする  
マネージャ機能の状態表示が「起動処理中」になります。

#### (d) メッセージ送信機能の起動

1. Groupmax System Manager を起動する  
[ Groupmax System Manager - TCP/IP ] ダイアログボックスが表示されます。

2. Agent のノードを選択する  
[ Agent ノード一覧 ] リストボックスから操作対象のノードを選択します。
3. [ Agent ノード操作 ] グループの [ 状態表示 ] ボタンをクリックする  
[ サーバ状態表示 / リモート操作 ] ダイアログボックスが表示されます。
4. Groupmax Workflow Multi-Server をクリックする
5. [ 1 サーバ操作 ] グループの [ 機能操作 ] ボタンをクリックする  
[ 機能毎状態表示 / リモート操作 ] ダイアログボックスが表示されます。
6. メッセージ送信機能を選択する
7. [ 1 機能操作 ] グループの [ 起動 ] ボタンをクリックする  
メッセージ送信機能の状態表示が「起動処理中」になります。

(e) メッセージ受信機能の起動

1. Groupmax System Manager を起動する  
[ Groupmax System Manager - TCP/IP ] ダイアログボックスが表示されます。
2. Agent のノードを選択する  
[ Agent ノード一覧 ] リストボックスから操作対象のノードを選択します。
3. [ Agent ノード操作 ] グループの [ 状態表示 ] ボタンをクリックする  
[ サーバ状態表示 / リモート操作 ] ダイアログボックスが表示されます。
4. Groupmax Workflow Multi-Server をクリックする
5. [ 1 サーバ操作 ] グループの [ 機能操作 ] ボタンをクリックする  
[ 機能毎状態表示 / リモート操作 ] ダイアログボックスが表示されます。
6. メッセージ受信機能を選択する
7. [ 1 機能操作 ] グループの [ 起動 ] ボタンをクリックする  
メッセージ受信機能の状態表示が「起動処理中」になります。

### 3.7.2 システム統合運用管理機能を使用した停止

システム統合運用管理機能を使用して Groupmax Workflow を停止する方法について説明します。

#### (1) Groupmax サーバの停止

##### (a) Groupmax Workflow Multi-Server の停止

1. Groupmax System Manager を起動する  
[ Groupmax System Manager - TCP/IP ] ダイアログボックスが表示されます。
2. Agent のノードを選択する  
[ Agent ノード一覧 ] リストボックスから操作対象のノードを選択します。

### 3. Groupmax Workflow の運用

3. [ Agent ノード操作 ] グループの [ 状態表示 ] ボタンをクリックする  
[ サーバ状態表示 / リモート操作 ] ダイアログボックスが表示されます。
4. Groupmax Workflow Multi-Server をクリックする
5. [ 1 サーバ操作 ] グループの [ パラメタ指定 ] ボタンをクリックする  
[ サーバのパラメタ指定 ] ダイアログボックスが表示されます。
6. 停止パラメタを指定する  
停止パラメタを次に示します。 は、1 文字以上の半角空白を示します。  
Groupmax Workflow Multi-Server を強制停止させない場合は、停止パラメタに何も指定しないでください。停止パラメタの詳細については、「4.3 運用コマンドの文法」の「WFstopms ( マルチサーバ機能終了コマンド )」を参照してください。  
-f ; -f  
Groupmax Workflow Multi-Server を強制停止させる場合に指定します。  
-f  
メッセージ送信機能だけを強制停止させる場合に指定します。  
; -f  
メッセージ受信機能だけを強制停止させる場合に指定します。

7. [ 設定 ] ボタンをクリックする  
[ サーバのパラメタ指定 ] ダイアログボックスを閉じて、[ Groupmax System Manager - TCP/IP ] ダイアログボックスに戻ります。
8. [ 1 サーバ操作 ] グループの [ 停止 ] ボタンをクリックする  
Groupmax Workflow Multi-Server の状態表示が「停止処理中」になります。

#### (b) Groupmax Workflow Server の停止

1. Groupmax System Manager を起動する  
[ Groupmax System Manager - TCP/IP ] ダイアログボックスが表示されます。
2. Agent のノードを選択する  
[ Agent ノード一覧 ] リストボックスから操作対象のノードを選択します。
3. [ Agent ノード操作 ] グループの [ 状態表示 ] ボタンをクリックする  
[ サーバ状態表示 / リモート操作 ] ダイアログボックスが表示されます。
4. Groupmax Workflow Server をクリックする
5. [ 1 サーバ操作 ] グループの [ パラメタ指定 ] ボタンをクリックする  
[ サーバのパラメタ指定 ] ダイアログボックスが表示されます。
6. 停止パラメタを指定する  
停止パラメタを次に示します。 は、1 文字以上の半角空白を示します。  
Groupmax Workflow Server を強制停止させない場合は、停止パラメタに何も指定しないでください。停止パラメタの詳細については、「4.3 運用コマンドの文法」の「WFstopsv ( サーバ機能終了コマンド )」を参照してください。

-f ; -f ; -f

ワークフローディレクトリサービス, サーバ機能及びマネージャ機能を強制停止させる場合に指定します。

-f

ワークフローディレクトリサービスだけを強制停止させる場合に指定します。

; -f

サーバ機能だけを強制停止させる場合に指定します。

; ; -f

マネージャ機能だけを強制停止させる場合に指定します。

7. [ 設定 ] ボタンをクリックする  
[ サーバのパラメタ指定 ] ダイアログボックスを閉じて, [ Groupmax System Manager - TCP/IP ] ダイアログボックスに戻ります。
8. [ 1 サーバ操作 ] グループの [ 停止 ] ボタンをクリックする  
Groupmax Workflow Server の状態表示が「停止処理中」になります。

## (2) Groupmax サーバの機能ごとの停止

### (a) メッセージ受信機能の停止

1. Groupmax System Manager を起動する  
[ Groupmax System Manager - TCP/IP ] ダイアログボックスが表示されます。
2. Agent のノードを選択する  
[ Agent ノード一覧 ] リストボックスから操作対象のノードを選択します。
3. [ Agent ノード操作 ] グループの [ 状態表示 ] ボタンをクリックする  
[ サーバ状態表示 / リモート操作 ] ダイアログボックスが表示されます。
4. Groupmax Workflow Multi-Server をクリックする
5. [ 1 サーバ操作 ] グループの [ 機能操作 ] ボタンをクリックする  
[ 機能毎状態表示 / リモート操作 ] ダイアログボックスが表示されます。
6. メッセージ受信機能を選択する
7. [ 1 機能操作 ] グループの [ パラメタ指定 ] ボタンをクリックする  
[ 機能のパラメタ指定 ] ダイアログボックスが表示されます。
8. 停止パラメタを指定する  
停止パラメタを次に示します。メッセージ受信機能を強制停止させない場合は, 停止パラメタに何も指定しないでください。停止パラメタの詳細については, 「4.3 運用コマンドの文法」の「WFstopms ( マルチサーバ機能終了コマンド )」を参照してください。  
-f  
メッセージ受信機能を強制停止させる場合に指定します。
9. [ 設定 ] ボタンをクリックする

### 3. Groupmax Workflow の運用

[ 機能のパラメタ指定 ] ダイアログボックスを閉じて , [ 機能毎状態表示 / リモート操作 ] ダイアログボックスに戻ります。

10. [ 1 機能操作 ] グループの [ 停止 ] ボタンをクリックする  
メッセージ受信機能の状態表示が「停止処理中」になります。

#### (b) メッセージ送信機能の停止

1. Groupmax System Manager を起動する  
[ Groupmax System Manager · TCP/IP ] ダイアログボックスが表示されます。
2. Agent のノードを選択する  
[ Agent ノード一覧 ] リストボックスから操作対象のノードを選択します。
3. [ Agent ノード操作 ] グループの [ 状態表示 ] ボタンをクリックする  
[ サーバ状態表示 / リモート操作 ] ダイアログボックスが表示されます。
4. Groupmax Workflow Multi-Server をクリックする
5. [ 1 サーバ操作 ] グループの [ 機能操作 ] ボタンをクリックする  
[ 機能毎状態表示 / リモート操作 ] ダイアログボックスが表示されます。
6. メッセージ送信機能を選択する
7. [ 1 機能操作 ] グループの [ パラメタ指定 ] ボタンをクリックする  
[ 機能のパラメタ指定 ] ダイアログボックスが表示されます。
8. 停止パラメタを指定する  
停止パラメタを次に示します。メッセージ送信機能を強制停止させない場合は、停止パラメタに何も指定しないでください。停止パラメタの詳細については、「4.3 運用コマンドの文法」の「WFstopms ( マルチサーバ機能終了コマンド )」を参照してください。  
-f  
メッセージ送信機能を強制停止させる場合に指定します。
9. [ 設定 ] ボタンをクリックする  
[ 機能のパラメタ指定 ] ダイアログボックスを閉じて , [ 機能毎状態表示 / リモート操作 ] ダイアログボックスに戻ります。
10. [ 1 機能操作 ] グループの [ 停止 ] ボタンをクリックする  
メッセージ送信機能の状態表示が「停止処理中」になります。

#### (c) マネージャ機能の停止

1. Groupmax System Manager を起動する  
[ Groupmax System Manager · TCP/IP ] ダイアログボックスが表示されます。
2. Agent のノードを選択する  
[ Agent ノード一覧 ] リストボックスから操作対象のノードを選択します。
3. [ Agent ノード操作 ] グループの [ 状態表示 ] ボタンをクリックする

- [サーバ状態表示/リモート操作] ダイアログボックスが表示されます。
4. Groupmax Workflow Server をクリックする
  5. [1サーバ操作] グループの [機能操作] ボタンをクリックする  
[機能毎状態表示/リモート操作] ダイアログボックスが表示されます。
  6. マネージャ機能を選択する
  7. [1機能操作] グループの [パラメタ指定] ボタンをクリックする  
[機能のパラメタ指定] ダイアログボックスが表示されます。
  8. 停止パラメタを指定する  
マネージャ機能を強制停止させない場合は、停止パラメタに何も指定しないでください。停止パラメタの詳細については、「4.3 運用コマンドの文法」の「WFstopmgr (マネージャ機能終了コマンド)」を参照してください。  
-f  
マネージャ機能を強制停止させる場合に指定します。
  9. [設定] ボタンをクリックする  
[機能のパラメタ指定] ダイアログボックスを閉じて、[機能毎状態表示/リモート操作] ダイアログボックスに戻ります。
  - 10.[1機能操作] グループの [停止] ボタンをクリックする  
マネージャ機能の状態表示が「停止処理中」になります。
- (d) サーバ機能の停止
1. Groupmax System Manager を起動する  
[Groupmax System Manager - TCP/IP] ダイアログボックスが表示されます。
  2. Agent のノードを選択する  
[Agent ノード一覧] リストボックスから操作対象のノードを選択します。
  3. [Agent ノード操作] グループの [状態表示] ボタンをクリックする  
[サーバ状態表示/リモート操作] ダイアログボックスが表示されます。
  4. Groupmax Workflow Server をクリックする
  5. [1サーバ操作] グループの [機能操作] ボタンをクリックする  
[機能毎状態表示/リモート操作] ダイアログボックスが表示されます。
  6. サーバ機能を選択する
  7. [1機能操作] グループの [パラメタ指定] ボタンをクリックする  
[機能のパラメタ指定] ダイアログボックスが表示されます。
  8. 停止パラメタを指定する  
停止パラメタを次に示します。サーバ機能を強制停止させない場合は、停止パラメタに何も指定しないでください。停止パラメタの詳細については、「4.3 運用コマンドの文法」の「WFstopsv(サーバ機能終了コマンド)」を参照してください。

### 3. Groupmax Workflow の運用

-f

サーバ機能を強制停止させる場合に指定します。

9. [ 設定 ] ボタンをクリックする  
[ 機能のパラメタ指定 ] ダイアログボックスを閉じて , [ 機能毎状態表示 / リモート操作 ] ダイアログボックスに戻ります。
10. [ 1 機能操作 ] グループの [ 停止 ] ボタンをクリックする  
サーバ機能の状態表示が「停止処理中」になります。

#### (e) ワークフローディレクトリサービスの停止

1. Groupmax System Manager を起動する  
[ Groupmax System Manager - TCP/IP ] ダイアログボックスが表示されます。
2. Agent のノードを選択する  
[ Agent ノード一覧 ] リストボックスから操作対象のノードを選択します。
3. [ Agent ノード操作 ] グループの [ 状態表示 ] ボタンをクリックする  
[ サーバ状態表示 / リモート操作 ] ダイアログボックスが表示されます。
4. Groupmax Workflow Server をクリックする
5. [ 1 サーバ操作 ] グループの [ 機能操作 ] ボタンをクリックする  
[ 機能毎状態表示 / リモート操作 ] ダイアログボックスが表示されます。
6. ワークフローディレクトリサービスを選択する
7. [ 1 機能操作 ] グループの [ パラメタ指定 ] ボタンをクリックする  
[ 機能のパラメタ指定 ] ダイアログボックスが表示されます。
8. 停止パラメタを指定する  
停止パラメタを次に示します。ワークフローディレクトリサービスを強制停止させない場合は、停止パラメタに何も指定しないでください。停止パラメタの詳細については、「4.3 運用コマンドの文法」の「WFstopad (ワークフローディレクトリサービス終了コマンド)」を参照してください。

-f

ワークフローディレクトリサービスを強制停止させる場合に指定します。

9. [ 設定 ] ボタンをクリックする  
[ 機能のパラメタ指定 ] ダイアログボックスを閉じて , [ 機能毎状態表示 / リモート操作 ] ダイアログボックスに戻ります。
10. [ 1 機能操作 ] グループの [ 停止 ] ボタンをクリックする  
ワークフローディレクトリサービスの状態表示が「停止処理中」になります。

## 3.8 Groupmax Address - Assist の Groupmax 連携機能を使用した運用

---

ここでは、Groupmax Address - Assist の Groupmax 連携機能を使用した運用方法の概略について説明します。Groupmax Address - Assist の詳細は、マニュアル「Groupmax Address - Assist Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。

Groupmax Address - Assist の Groupmax 連携機能とは、Groupmax Address Server 上でのユーザ情報の更新と連動して Groupmax Workflow のユーザ定義コマンドを起動し、更新情報をワークフローデータベースに自動的に反映する機能です。

この機能を使用する場合に必要な製品を次に示します。

- Groupmax Address Server
- Groupmax Address - Assist Viewer
- Groupmax Address - Assist Service

### (1) 前提条件

Groupmax Address - Assist の Groupmax 連携機能を使用するための前提条件を、次に示します。

Groupmax Workflow Server がインストールされているすべてのサーバで、Groupmax Address Server が起動していること

Groupmax Address Server で、連携設定が完了していること

Groupmax Address Server での連携設定の詳細は、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド 基本操作編」を参照してください。

Groupmax Address - Assist で、連携設定が完了していること

Groupmax Address - Assist Viewer からユーザ情報の更新を行う場合、Groupmax Address - Assist でも連携設定が必要です。

Groupmax Address - Assist での連携設定の詳細は、マニュアル「Groupmax Address - Assist Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。

### (2) Groupmax Workflow での設定

環境設定ファイルの `addr_update_auto_reflect` で、Groupmax Address ユーザ情報の Groupmax Workflow への自動反映を設定します。また、`error_skip_in_auto_reflect` で、ユーザ情報自動反映時のエラーをスキップするかどうかを設定します。詳細については、「2.4.3 Groupmax Workflow での環境設定」を参照してください。

## 3.9 その他の運用と運用時の注意事項

---

ここでは、Workflow のその他の運用方法と、運用時の注意事項について説明します。

### 3.9.1 ビジネスプロセス定義の定義時の注意事項

ここでは、ビジネスプロセス定義の定義時の注意事項について説明します。

#### (1) ワーク ID の形式指定時の注意事項

ワーク ID の形式は、ビジネスプロセスごとに指定します。

ビジネスプロセス定義でワーク ID の形式を指定するときの注意事項について次に示します。

##### (a) ワーク ID の形式

ビジネスプロセス定義で指定できるワーク ID の形式には、次の 3 通りがあります。

- ユーザ指定の形式でシステムが通し番号を自動的に与える（ここでは、「自動採番形式」と略します）。
- ワークフローシステムで与える（ここでは、「自動付与形式」と略します）。
- 案件投入時にユーザが任意の文字列を指定する（ここでは、「任意指定形式」と略します）。

次に、それぞれの形式について説明します。

##### 自動採番形式

ユーザがビジネスプロセス定義で指定したプレフィックス（任意の文字列）に、システムが通し番号を与えてワーク ID が生成されます。プレフィックスの指定は省略できます。

通し番号は、案件投入時にワークが生成されるごとに 1 から昇順で与えられ、ビジネスプロセス定義のバージョンアップによって引き継がれます。

システムが与える通し番号の規則として、次の 3 通りを指定できます。

- 通し番号が指定されたけた数を越えた場合、通し番号のけた数を拡張する。
- 通し番号が指定されたけた数を越えた場合、通し番号を 1 に戻す。
- 通し番号が指定された最大値を越えた場合、通し番号を 1 に戻す。

##### 自動付与形式

案件投入時に、ビジネスプロセス定義内でユニークなワーク ID がワークフローシステムによって生成されます。

なお、この形式を使用する場合、Groupmax Workflow Server・Library でアプリケーションを作成する場合を除いて、ワーク ID をクライアントで扱うことはできません。

##### 任意指定形式

案件投入時に、ユーザが任意の文字列を指定します。ビジネスプロセス定義内でユニークなワーク ID を指定する必要があります。

#### (b) ビジネスプロセス定義登録時の注意事項

ビジネスプロセス定義登録時の注意事項を次に示します。

通し番号の規則として、「通し番号が指定されたけた数を超えた場合、通し番号を 1 に戻す」又は「通し番号が指定された最大値を超えた場合、通し番号を 1 に戻す」を指定した自動採番形式を指定するときは、次に示すことに注意してください。

- 通し番号が指定されたけた数又は指定された最大値を超えて 1 に戻され、ワーク ID が生成されたとき、以前に投入した案件が削除されずに残っていると、ワーク ID が重複します。その場合、案件投入でエラーとなります。このため、ワークが削除されるまでの期間を十分に考慮して、ワーク ID の重複が起きないように、以下の見積もりを参考にして余裕を持って最大値を設定してください。

1 日当たりの投入案件数 × (投入してから終了 (シンク) するまでの最大日数 + 終了してからワークを削除するまでの日数 + 1)

- 案件投入でワーク ID 重複のエラーが発生した場合、バージョンが 03-00 以前のクライアントでは、「エラー種別 (10630) のメッセージが取得できませんでした。」というメッセージが表示されます。上記の指定をする場合、バージョンが 05-00 以降のクライアントを使用することをお勧めします。

ビジネスプロセス定義をバージョンアップするときは、次に示すことに注意してください。

- 通し番号の規則として「通し番号が指定されたけた数を超えた場合、通し番号を 1 に戻す」又は「通し番号が指定された最大値を超えた場合、通し番号を 1 に戻す」を指定した自動採番形式のビジネスプロセス定義を、自動付与形式又は任意指定形式に変更できません。
- 自動付与形式又は任意指定形式を指定したビジネスプロセス定義を、通し番号の規則として「通し番号が指定されたけた数を超えた場合、通し番号を 1 に戻す」又は「通し番号が指定された最大値を超えた場合、通し番号を 1 に戻す」を指定した自動採番形式に変更できません。

上記の変更処理を実行したい場合は、変更前のビジネスプロセス定義を削除した後、変更後のビジネスプロセス定義を登録してください。

自動採番形式で指定した最大値は、案件を投入できるビジネスプロセス定義のバージョンの中の、最新バージョンでの指定が有効となります。

#### (2) フローモデル使用時の注意事項

ビジネスプロセス定義で、各フローモデルを使用する場合の注意事項を説明します。

##### (a) ソースノード

複数ケースを定義したソースノードへの差し戻し、引き戻しはできません。詳細については、「3.9.5(1) 差し戻し」又は「3.9.5(2) 引き戻し」を参照してください。

### 3. Groupmax Workflow の運用

「ワーク ID を新規に設定しない」を指定したソースノードから案件投入するには、「ワーク ID を新規に設定する」を指定したソースノードから案件を投入している必要があります。また、「ワーク ID を新規に設定する」を指定したソースノードから案件を投入した後、「ワーク ID を新規に設定しない」を指定したソースノードから案件投入するまでにビジネスプロセス定義をバージョンアップすると、「ワーク ID を新規に設定しない」を指定したソースノードからの案件投入が失敗する場合があります。このため、ビジネスプロセス定義をバージョンアップする際は、Groupmax Workflow Monitor で「ワーク ID を新規に設定しない」を指定したソースノードから案件投入されていることを確認してください。

#### (b) 複写ノード

複写後から複写前への差し戻し、引き戻しはできません。詳細については、「3.9.5(1) 差し戻し」又は「3.9.5(2) 引き戻し」を参照してください。

#### (c) 待ち合わせノード

待ち合わせ後から待ち合わせ前への差し戻し、引き戻しはできません。詳細については、「3.9.5(1) 差し戻し」又は「3.9.5(2) 引き戻し」を参照してください。

#### (d) 同報・回収ノード

Groupmax Form を使用する場合、同報・回収は使用できません。詳細については、「3.9.6(1) ビジネスプロセス定義作成時の注意事項」を参照してください。

同報中に追加された文書やメモは、そのケースを操作するユーザだけがアクセスできます。その他の同報されているケースを操作するユーザは、アクセスできません。

同報ノード又は回収ノードをまたがった差し戻し、引き戻しはできません。詳細については、「3.9.5(1) 差し戻し」又は「3.9.5(2) 引き戻し」を参照してください。

同報中の案件の文書やメモは、その案件が流れているビジネスプロセス定義の登録サーバに置いて共用され、案件を開いたときや、保留したとき、遷移させたときに、登録サーバからダウンロード又はアップロードされます。このため、案件を操作するユーザのホームサーバが登録サーバと異なる場合は、案件操作時に時間がかかる場合があります。

#### (e) 統合ノード

統合後から統合前への差し戻し、引き戻しはできません。詳細については、「3.9.5(1) 差し戻し」又は「3.9.5(2) 引き戻し」を参照してください。

Groupmax Form を使用する場合、統合ノードの定義で「メモと文書の統合」の「統合先ケースに添付されているメモと文書だけを残す」を指定して、統合後に残るケースの添付情報を参照するようにしてください。詳細については、「3.9.6(1) ビジネスプロセス定義作成時の注意事項」を参照してください。

ドメイン間連携機能の連携先のビジネスプロセス定義に使用した場合、ソースノード定義したケースを統合元ケースに指定すると、ドメイン間連携機能により投入された

案件が遷移エラーになります。ドメイン間連携機能を使用する場合は、統合先ケースに指定してください。

本文メモが添付されていないケースを含む場合、統合後の作業機で終端の本文メモを参照できるようにするために、内部的に空の本文メモを補完した上で統合処理をすることがあります。

統合前の各ケースの添付情報（文書やメモ情報）は、削除されないで統合後に残るケースに移されます。このため、統合を繰り返すようなフローを使用すると添付情報が増え続けることとなりますので、注意してください。このような場合、統合ノードの定義で「メモと文書の統合」に「統合先ケースに添付されているメモと文書だけを残す」を指定して使用するか、又は分割ノード及びシンクノードを使用して、不要になったケースを削除することをお勧めします。

#### (f) 分割ノード

分割後から分割前への差し戻し、引き戻しはできません。詳細は、「3.9.5(1) 差し戻し」「3.9.5(2) 引き戻し」を参照してください。

#### (g) 処理ノードで処理できる案件の大きさ

ソースノードでケースを複数個定義したり、複写した案件を待ち合わせノードで待ち合わせたりすると、1 案件中に複数のケースが存在することになります。このケース数が多くなると、ワークフローで処理できる通信データ長を超え、正常に処理できなくなる場合があります。案件に添付されたデータ量にもよりますが、1 案件中のケース数の上限は 50 個程度を目安にしてください。50 個以上になる場合は、処理ノードに到着する前に分割ノードで不要なケースを分割して終了させてください。

### (3) ロール使用時の注意事項

処理ノードにロールを割り当てる場合の注意事項を説明します。

ロールトレー配布の場合、マルチサーバ構成では振り替えに制限があります。詳細については、「3.9.5(5) 振り替え」を参照してください。

組織ロールを使用すると、組織変更に影響があります。詳細については、「3.9.2 ユーザ、ロールの登録内容の変更」を参照してください。

### (4) ユーザ処理リストの定義内容と処理方法

ユーザ処理リストでは、案件作業用の各種の情報を定義します。定義する情報は、どのように処理されるかによって、次のように分類できます。

- Groupmax Workflow Server が自動的に処理するもの
- Groupmax Integrated Desktop をクライアントで使用する場合に、Groupmax Integrated Desktop が自動的に処理するもの
- Groupmax Workflow Library で作成したアプリケーションプログラムをクライアントで使用する場合に、アプリケーションが処理するようにコーディングする必要があるもの

### 3. Groupmax Workflow の運用

- Groupmax Form をクライアントで使用する場合に、Groupmax Form が自動的に処理するもの、及びスクリプトで処理を定義する必要があるもの

Groupmax Workflow Definer でのユーザ処理リストの定義内容と対応する処理方法を、表 3-2 に示します。

表 3-2 ユーザ処理リストの定義内容と対応する処理方法

ユーザ処理リストの定義内容	対応する処理方法
属性値の直接入力 属性値の選択更新 属性値の参照	Groupmax Integrated Desktop の場合、案件エディタでユーザ属性を参照・設定します。 アプリケーションや Groupmax Form の場合、ユーザ属性を操作するときに、これらのユーザ処理リストが必要です。
予約値の自動設定	Groupmax Workflow Server が処理します。
文書の登録	アプリケーション用の補助情報です。 Groupmax Integrated Desktop 及び Groupmax Form の場合は、使用しません。
複写先選択	Groupmax Integrated Desktop の場合、案件エディタで複写先選択ができるようになります。 アプリケーションの場合、複写先情報を作成し、指定された属性に設定する必要があります。 Groupmax Form の場合、投入・遷移時にこのユーザ処理リストがあれば、自動的に画面を表示させることができます。
作業者の指定	Groupmax Integrated Desktop の場合、案件エディタで作業者指定ができるようになります。 アプリケーションの場合、作業者を選択し、指定された属性に設定する必要があります。 Groupmax Form の場合、投入・遷移時にこのユーザ処理リストがあれば、自動的に作業者指定画面を表示させることができます。
作業者の自動指定	Groupmax Workflow Server が処理します。
配布先ロールの指定	Groupmax Integrated Desktop の場合、案件エディタで配布キー指定ができるようになります。 アプリケーション及び Groupmax Form の場合、配布キーを取得し、該当する属性に設定する必要があります。
任意データの参照	アプリケーション用の補助情報です。 Groupmax Integrated Desktop 及び Groupmax Form の場合は、使用しません。
AP 起動 Groupmax フォーム表示	Groupmax Integrated Desktop の INBOX や帳票棚を使用する場合、Groupmax Integrated Desktop が登録ファイルをダウンロードして起動します。 アプリケーションで INBOX や帳票棚を作成する場合、登録ファイルを取得し、起動処理・終了確認処理などを作成する必要があります。アプリケーションやフォームをサーバに登録しないときは、これらのユーザ処理リストは使用しません。 Groupmax Form の場合、これらのユーザ処理リストに基づいて帳票が起動されます。

ユーザ処理リストの定義内容	対応する処理方法
案件の文書 DB 格納	Groupmax Integrated Desktop の場合、案件エディタで自動的に処理され ます。 アプリケーションの場合、Groupmax Document Manager - Development Kit を使用して作成する必要があります。 Groupmax Form の場合、文書操作コマンドで処理する必要があります。
作業状態の選択更新	Groupmax Integrated Desktop の案件エディタ用の情報です。 アプリケーション及び Groupmax Form の場合は、使用しません。

### (5) マルチサーバ構成時の注意事項

マルチサーバ構成では、ビジネスプロセス定義を登録するサーバを指定する必要があります。ビジネスプロセス登録サーバを決めるときは、次の点を考慮してください。

ビジネスプロセスを登録するサーバと処理ユーザが所属するサーバの関係を考慮する  
ビジネスプロセス登録サーバは、登録されたビジネスプロセスのワーク及び案件を管理し、案件のノード間の遷移を制御します。案件は、ビジネスプロセス登録サーバを中心に制御され、他のサーバへは、マルチサーバ機能によって案件の実体が転送されます。例えば、次のノードの処理ユーザが同じサーバのユーザであっても、ビジネスプロセス登録サーバ以外のサーバであれば、案件は一度ビジネスプロセス登録サーバに転送され、次のノードに遷移し、再び元のサーバに転送されます。

このため、ビジネスプロセス登録サーバ以外のサーバで案件を処理するユーザが多いと、案件の転送が多くなり、遷移に時間がかかる場合があります。また、ビジネスプロセス登録サーバでは、すべてのワークや案件を管理するため、必要なデータベースの容量が大きくなります。

将来のサーバ構成の変更を考慮する

ビジネスプロセス定義をサーバに登録した後、ビジネスプロセスに案件を一つでも投入すると、登録サーバを別のサーバに変更できなくなります。新しいバージョンのビジネスプロセス定義として登録しても、登録サーバは変更できません。

ビジネスプロセス定義の登録サーバを変更したい場合は、登録済みのサーバから削除して、別のサーバに登録し直す必要があります。このとき、ビジネスプロセスに案件があると、ビジネスプロセス定義を削除できません。したがって、案件がある間は登録サーバを変更できません。

ビジネスプロセス定義が登録されているサーバを削除する場合、ビジネスプロセス定義の登録サーバを変更する必要があります。しかし、ビジネスプロセスに案件がある間は、登録サーバを変更できないので、サーバを削除できません。

このように、サーバに一度ビジネスプロセスを登録すると、サーバ構成の変更が困難になる場合があります。したがって、Workflow 管理サーバ以外のサーバをビジネスプロセス登録サーバにする場合は、将来のサーバ構成の変更を考慮して、登録サーバを決めてください。

ビジネスプロセス登録サーバの変更については、「3.9.7(6) 各種登録サーバの変更」を参照してください。

## (6) Workflow バージョン 1 で作成したビジネスプロセス定義に関する注意事項

バージョン 1 で作成したビジネスプロセス定義の名称が、バージョン 2 以降で作成した拡張ビジネスプロセス定義の名称と同じ名称になっている場合、Groupmax Integrated Desktop の案件エディタ、Groupmax Form からバージョン 1 で作成したビジネスプロセス定義に案件を投入できなくなります。

バージョン 1、バージョン 2 で作成したビジネスプロセス定義の名称は、重複しないようにしてください。

### 3.9.2 ユーザ，ロールの登録内容の変更

ここでは、ユーザ及びロールの登録内容を変更する方法を説明します。

#### (1) サーバでユーザ・ロールの登録内容を変更する運用

サーバでユーザ及びロールの登録内容を変更する方法を次に示します。

##### 1. Workflow 管理サーバでロールを作成又は変更する

ロール定義更新コマンドを使用します。

ロール定義更新コマンドでロールを作成又は変更した場合、配布指示コマンドで各 Workflow サーバに配布する必要があります。この後の操作 3. を必ず実行してください。

ロール定義更新コマンドの詳細については、「4.3 運用コマンドの文法」の「WFdefrl (ロール定義更新コマンド)」を参照してください。

##### 2. 各 Workflow サーバでユーザの登録内容を変更する

ユーザ定義更新コマンドを使用します。ユーザ定義更新コマンドの詳細については、「4.3 運用コマンドの文法」の「WFdefusr (ユーザ定義更新コマンド)」を参照してください。

##### 3. Workflow 管理サーバで、作成又は変更したロールを各 Workflow サーバに配布する 配布指示コマンドを使用します。

なお、ロールのほかに、ビジネスプロセス定義とアプリケーションプログラムを配布できます。

配布指示コマンドの詳細については、「4.3 運用コマンドの文法」の「WFinsdst (配布指示コマンド)」を参照してください。

#### (2) 組織ロールの変更手順

ロール定義更新コマンド (WFdefrl) の機能を使用して、運用中の組織ロールの対象組織を変更できます。具体的には、組織ロールは対象組織を組織 ID<sup>1</sup> 又は最上位組織 ID<sup>2</sup> で保持しているのをこれを変更します。

注 1

組織 ID とは、Groupmax Address Server 上で組織を追加する際に指定する項目のことです。

注 2

最上位組織 ID とは、Groupmax Address Server 上で最上位組織を追加する際に指定する項目のことです。

次に変更手順を示します。

手順 1.

Groupmax Address Server 上の組織及び最上位組織、担当業務の移動などの変更計画を明確にしておきます。

変更前の組織 ID と変更後の組織 ID の対応を記録しておきます。

手順 2.

ロール定義情報出力コマンド (WFexprl) を以下のコマンドオペレーションで実行します。詳細については、「4.3 運用コマンドの文法」の「WFexprl (ロール定義情報出力コマンド)」の項を参照してください。

WFexprl -f ロール定義情報出力ファイル名 -t ORG

ロール定義情報出力ファイルを出力するのは、手順 4. を実行する上で参考にする現在の組織ロールに関する情報を取得するためです。

手順 3.

ロール定義情報出力ファイルを編集します。

ロール定義情報出力ファイルの例を図 3-2 に示します。

図 3-2 ロール定義情報出力ファイルの例

出力情報種別コード	出力値1
#,"ロール名","CMPROLE","最上位組織ID"	-----α
#,"ロール名","DEFUSR","ロール定義者"	
#,"ロール名","DISTUSR","ロール配布管理者"	
#,"ロール名","DISTSVR","ロール配布先サーバID"	
#,"ロール名","SETSVR","ロール登録サーバ名"	
#,"ロール名","ORGRLE","組織ID"	-----β
#,"ロール名","DEFUSR","ロール定義者"	
#,"ロール名","DISTUSR","ロール配布管理者"	
#,"ロール名","DISTSVR","ロール配布先サーバID"	
#,"ロール名","SETSVR","ロール登録サーバ名"	
	⋮

### 3. Groupmax Workflow の運用

対象レコードは出力情報種別コード（CMPROLE，ORGRULE）と出力値 1 に留意して決定します。組織 ID と最上位組織 ID は同一のものが存在するので出力情報種別コードで識別します。また，業務内容を考慮し，対象ロールを決定してください。組織ロールの種別による変更パターン別の編集内容を表 3-3 に示します。

表 3-3 組織ロールの種別による編集内容

変更前の種別	変更後の種別	図 3-3 の対象レコード	編集内容の項番
なし（追加の場合）	最上位組織を指定した組織ロール	なし	編集内容 (i)
なし（追加の場合）	組織を指定した組織ロール	なし	編集内容 (ii)
最上位組織を指定した組織ロール	最上位組織を指定した組織ロール		編集内容 (iii)
	組織を指定した組織ロール		編集内容 (iv)
組織を指定した組織ロール	最上位組織を指定した組織ロール		編集内容 (v)
	組織を指定した組織ロール		編集内容 (vi)
最上位組織を指定した組織ロール	なし（削除の場合）		編集内容 (vii)
組織を指定した組織ロール	なし（削除の場合）		編集内容 (viii)

編集内容を次に示します。アンダーラインは変更箇所を示します。

## 編集内容(i)

新規レコード

N, "ロール名", "CMPROLE"

## 編集内容(ii)

新規レコード

N, "ロール名", "ORGRROLE"

## 編集内容(iii)

変更前

#, "ロール名", "CMPROLE", "最上位組織ID" -----  $\alpha$ 

変更後

C, "ロール名", "CMPTOCMP", "変更後最上位組織ID" -----  $\alpha'$ 

## 編集内容(iv)

変更前

#, "ロール名", "CMPROLE", "最上位組織ID" -----  $\alpha$ 

変更後

C, "ロール名", "CMPTOORG", "変更後組織ID" -----  $\alpha'$ 

## 編集内容(v)

変更前

#, "ロール名", "ORGRROLE", "組織ID" -----  $\beta$ 

変更後

C, "ロール名", "ORGTOCMP", "変更後最上位組織ID" -----  $\beta'$ 

## 編集内容(vi)

変更前

#, "ロール名", "ORGRROLE", "組織ID" -----  $\beta$ 

変更後

C, "ロール名", "ORGTORG", "変更後組織ID" -----  $\beta'$ 

## 編集内容(vii)

変更前

#, "ロール名", "CMPROLE", "最上位組織ID" -----  $\alpha$ 

変更後

R, "ロール名", "CMPROLE", "最上位組織ID" -----  $\alpha'$ 

## 編集内容(viii)

変更前

#, "ロール名", "ORGRROLE", "組織ID" -----  $\beta$ 

変更後

R, "ロール名", "ORGRROLE", "組織ID" -----  $\beta'$

### 3. Groupmax Workflow の運用

#### 手順 4.

ロール定義更新コマンド (WFdefrl) の -f オプションに、手順 3. で編集したロール定義情報出力ファイル名を指定して実行します。コマンドオペレーションを次に示します。詳細については、「4.3 運用コマンドの文法」の「WFdefrl (ロール定義更新コマンド)」を参照してください。

WFdefrl -f ロール定義情報出力ファイル名

[-v]

[-l ロール定義更新ログ出力ファイル名]

[-e エラーメッセージ出力ファイル名]

実行結果をロール定義更新ログ出力ファイルで確認します。

#### (3) マルチサーバ構成時の注意事項

マルチサーバ構成では、ロールの登録サーバを指定する必要があります。ロール登録サーバは、業務ロール及び組織ロールで使用するロールトレーの実体があるサーバです。ロールトレー配布の場合、案件はロール登録サーバのロールトレーに配布されます。ロールトレーから案件を取り出せるのは、ロール登録サーバ上のユーザだけです。そのため、ロールトレーから案件を取り出すユーザのホームサーバを、ロール登録サーバにする必要があります。

ロール登録サーバは、変更できません。詳細については、「3.9.7(6) 各種登録サーバの変更」を参照してください。

### 3.9.3 案件の配布規則

ノードに送付された案件をトレーに入れることを配布といいます。ここでは、Groupmax Workflow の案件の配布規則について説明します。

#### (1) ノードの属性

案件の配布先は、ビジネスプロセス定義上でノードの属性として指定します。案件の配布に関するノードの属性を表 3-4 に示します。

表 3-4 ノードの属性

ウィンドウのタブ 名称	属性	指定値
基本属性	作業者	「ロール」又は「ワークフローユーザを対象」
	ロールの種類 <sup>1 5</sup>	「業務」、「組織」、「階層化」のどれか、及びそのロール名
	作業権限の設定 <sup>2 5</sup>	「する」又は「しない」 (「する」の場合は、さらに、「作業権限の選択」を選択する)

ウインドウのタブ 名称	属性	指定値
配布方法	自動配布の設定 <sup>3</sup> 4	「する(ユーザトレイに配布)」又は 「しない(ロールトレイに配布)」 (「する」の場合は、ユーザへの配布方法として「ロール 内ユーザにランダム配布」又は「条件に従ってユーザに 配布」を設定する。「条件に従ってユーザに配布」では 配布条件を指定できる。また、どちらの配布方法でも 「ユーザに配布できなかった場合のリカバリ設定」が指 定できる。)
	作業員指定時のノ ードスキップ指定の許 可 <sup>6</sup> <sup>7</sup>	「作業員指定時、ノードスキップ指定を許す」 (選択すると、案件を処理する場合の作業員指定時に、 このノードをスキップする指定を許可する。)
再配布	対象ノード一覧 <sup>1</sup> 4	再配布の対象とするノードを選択
詳細属性	代行の許可 <sup>5</sup>	「する」又は「しない」

## 注 1

作業員がロールの場合だけ指定できます。

## 注 2

作業員がロールで、ロールの種類が業務ロールの場合は指定できません。

## 注 3

作業員がロールで、ロールの種類が業務ロールの場合だけ指定できます。

## 注 4

自動配布に「する」を指定し、再配布対象ノードになっている場合は、再配布オプ  
ションの指定が優先されます。

## 注 5

02-10 より前のバージョンの Groupmax Workflow Definer から登録したビジネスプ  
ロセス定義の場合は、この属性は該当しません。

## 注 6

作業員が「ロール」でロールの種類が業務ロールの場合、又は作業員が「ワークフ  
ローユーザを対象」の場合に指定できます。

## 注 7

このノードに対して、別の作業員ノード上のユーザ処理リストで「作業員の指定」  
が定義されている必要があります。

## (a) 作業員の指定

ビジネスプロセス定義では、ノードにそのノードで処理する作業員を指定します。作業  
員には、ロール又はユーザを指定できます。作業員としてユーザを指定した場合、どの  
ユーザに案件を配布するかは、ワーク実行時に作業員決定ノードで指定します。

### 3. Groupmax Workflow の運用

ただし、バージョン 02-10 より前の Groupmax Workflow Definer から登録したビジネスプロセス定義では、ビジネスプロセス定義上で配布先となるユーザを指定するため、ユーザの削除や変更があったときに、ビジネスプロセス定義の変更が必要となります。

作業員としてロールを指定した場合、ロール内のユーザを変更するだけでビジネスプロセス定義の変更は必要ありません。旧バージョンのビジネスプロセス定義では、作業員にロールを指定することをお勧めします。

#### (b) 代行者と代行配布ユーザ

ビジネスプロセス定義では、作業員のほかに、代行者及び代行配布ユーザを設定することができます。

代行者とは、正規の作業員が不在のときに、不在者のトレーから他の作業員（代わりに処理ができる権限を持つ人）のトレーに案件を振り替えることができるユーザです。代行者は、作業員の案件を振り替えることはできますが、作業員に代わって案件を処理することはできません。

代行配布ユーザとは、正規の作業員が不在のときに、案件が自動的に送付されるユーザです。作業員に代わって案件を処理できます。代行配布ユーザは、ビジネスプロセスごとに設定できます。

代行者に設定したユーザが、作業員に代わって案件を処理できるようにするには、あらかじめそのビジネスプロセスの代行配布ユーザとしても設定しておく必要があります。

#### (c) 自動配布の指定

作業員にロールを指定した場合、そのノードに案件が送付されたときに、ロールトレーに配布するか、ロール内のユーザに自動的に配布するかを選択できます。ロール内のユーザに自動的に配布することを自動配布といいます。

次に、自動配布の指定方法と注意事項について説明します。

##### 自動配布の指定方法

自動配布は、作業員のロールが業務ロールの場合だけ指定できます。

自動配布では、ランダム配布か、条件に従って配布かを選択します。条件配布の場合は、ロール内のユーザを絞り込むための配布条件を指定できます。Groupmax Workflow は、配布条件に合ったユーザを選択して案件を配布します。

##### 自動配布の注意事項

案件をロールトレーに配布したい場合は、条件設定をしないで、「自動配布の設定」で「しない（ロールトレーに配布）」を選択してください。

#### (d) ユーザに配布できなかった場合のリカバリ設定

自動配布の配布条件を指定しても、その条件に一致するユーザがない場合があります。このような場合の案件の配布先を、「ユーザに配布できなかった場合のリカバリ設定」として、次の三つから選択して指定できます。

- ロール内ユーザにランダム配布

配布条件の指定がなかったものとみなしてランダムに配布します。詳細については、表 3-6 を参照してください。

- ロールトレーに配布  
ロールトレーに配布します。
- ノードスキップ  
該当するノードをスキップして次のノードに送付します。

#### (e) 作業指指定時のノードスキップ指定

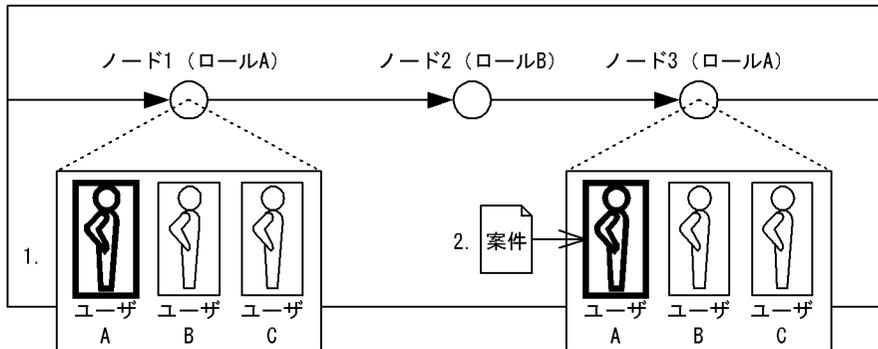
作業指指定時にノードスキップを指示すると、該当するノードをスキップできます。この機能は「ユーザに配布できなかった場合のリカバリ設定」でのノードスキップ機能と異なり、意図的にノードをスキップさせる場合に使用します。

#### (f) 案件の再配布

同じワークで、同一のロールに案件が 2 回以上配布されるビジネスプロセス定義では、そのロールで以前に処理したユーザに自動的に案件を配布できます。これを再配布といい、再配布されるユーザ（その案件を以前に処理したユーザ）を再配布ユーザといいます。ただし、以前に処理したユーザがそのロールに含まれない場合（代行配布ユーザが処理した場合など）は、そのユーザは再配布ユーザにはなりません。階層化ロールでは、配布先に指定されたロールと同じロールを対象に、再配布されます。

案件の再配布の概要を図 3-3 に示します。

図 3-3 案件の再配布の概要



1. ノード1で、ロールAに属するユーザAが案件を処理する
2. ノード2で、ロールBに属するユーザが案件を処理した後、ノード3に案件が送付されると、ノード1で処理したユーザAに自動的に再配布される

## (2) 配布規則

案件の配布先は、ノードの属性とユーザの案件受付状態によって決まります。

### 3. Groupmax Workflow の運用

#### (a) 作業者にユーザを指定したときの配布規則

作業者にユーザを指定したときの配布規則を表 3-5 に示します。

表 3-5 作業者にユーザを指定したときの配布規則

作業者に指定したユーザのトレーの状態	「代行の許可」の指定	配布先
受付許可	-	作業者に指定したユーザ
代行者配布	「しない」	作業者に指定したユーザ
	「する」	1. 作業者に指定したユーザの代行配布ユーザ 2. 1. の代行配布ユーザの指定がない場合、又は代行配布ユーザのトレーの状態が「受付許可」でない場合は、作業者に指定したユーザ
受付禁止	-	作業者に指定したユーザ

(凡例) - は指定できないことを示します。

#### (b) 作業者にロールを指定したときの配布規則

作業者にロールを指定したときの配布規則を示します。

ランダム配布を指定した場合

作業者にロールを指定し、ランダム配布を指定した場合の配布規則を表 3-6 に示します。

表 3-6 作業者にロールを指定したときの配布規則 (ランダム配布)

ノードでの自動配布の指定	ロール内のユーザのユーザトレーの状態	「代行の許可」の指定	配布先
する (ランダム配布)	受付許可のユーザあり	-	受付許可のユーザにランダムに配布
する (ランダム配布)	受付許可のユーザなしかつ代行者配布のユーザあり	「しない」	「ユーザに配布できなかった場合のリカバリ設定」に従って、ロールトレー又は次のノードに配布
する (ランダム配布)	受付許可のユーザなしかつ代行者配布のユーザあり	「する」	1. 「代行者配布」のユーザの中でランダムに選択したユーザの代行配布ユーザ 2. 1. の代行配布ユーザの指定がない場合、又は代行配布ユーザのトレーの状態が「受付許可」でない場合は、「ユーザに配布できなかった場合のリカバリ設定」に従って、ロールトレー又は次のノードに配布
する (ランダム配布)	受付禁止ユーザだけ	-	「ユーザに配布できなかった場合のリカバリ設定」に従って、ロールトレー又は次のノードに配布

ノードでの自動配布の指定	ロール内のユーザのユーザトレーの状態	「代行の許可」の指定	配布先
する (ランダム配布)	ロールに属するユーザなし	-	「ユーザに配布できなかった場合のリカバリ設定」に従って、ロールトレー又は次のノードに配布
しない	-	-	ロールトレー

(凡例) - は指定できないことを示します。

条件配布を指定した場合

作業者にロールを指定し、条件配布を指定した場合の配布規則を表 3-7 に示します。

表 3-7 作業者にロールを指定したときの配布規則 (条件配布)

ノードでの自動配布の指定	配布条件を満たすユーザのユーザトレーの状態	「代行の許可」の指定	配布先
する (条件配布)	受付許可のユーザあり	-	配布条件を満たすユーザに配布 (該当するユーザが複数の場合は、その中からランダムに配布)
する (条件配布)	受付許可のユーザなしかつ代行者配布のユーザあり	「しない」	「ユーザに配布できなかった場合のリカバリ設定」に従って、ロールトレー又は次のノードに配布
する (条件配布)	受付許可のユーザなしかつ代行者配布のユーザあり	「する」	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 配布条件を満たすユーザの代行配布ユーザに配布 (該当する「代行配布ユーザ」が複数の場合は、その中からランダムに選択したユーザの代行配布ユーザに配布)</li> <li>2. 1. の代行配布ユーザの指定がない場合、又は代行配布ユーザのトレーの状態が「受付許可」でない場合は、「ユーザに配布できなかった場合のリカバリ設定」に従って、ロールトレー又は次のノードに配布</li> </ol>
する (条件配布)	受付禁止ユーザだけ	-	「ユーザに配布できなかった場合のリカバリ設定」に従って、ロール内ユーザにランダム配布、又はロールトレー若しくは次のノードに配布
する (条件配布)	ロールに属するユーザなし	-	「ユーザに配布できなかった場合のリカバリ設定」に従って、ロール内ユーザにランダム配布、又はロールトレー若しくは次のノードに配布

(凡例) - は指定できないことを示します。

再配布対象ノードを指定した場合

作業者にロールを指定し、再配布対象ノードを指定した場合の配布規則を表 3-8 に示します。

### 3. Groupmax Workflow の運用

表 3-8 作業者にロールを指定したときの配布規則（再配布対象ノード指定時）

再配布ユーザの有無	再配布ユーザのユーザトレーの状態	「代行の許可」の指定	配布先
あり	受付許可	-	再配布ユーザ
あり	代行者配布	「しない」	再配布ユーザ
あり	代行者配布	「する」	1. 再配布ユーザの代行配布ユーザ 2. 1.の代行配布ユーザの指定がない場合、又は代行配布ユーザのトレーの状態が「受付許可」でない場合は、再配布ユーザ
あり	受付禁止	-	表 3-7 及び表 3-8 の規則に従う
なし	-	-	表 3-7 及び表 3-8 の規則に従う

（凡例） - は該当しないか、又は指定できないことを示します。

#### （3）上長への自動配布

Groupmax Workflow では、案件のケース属性の自動設定で上長 ID を設定しておくこと、上長に自動的に案件を配布できます。

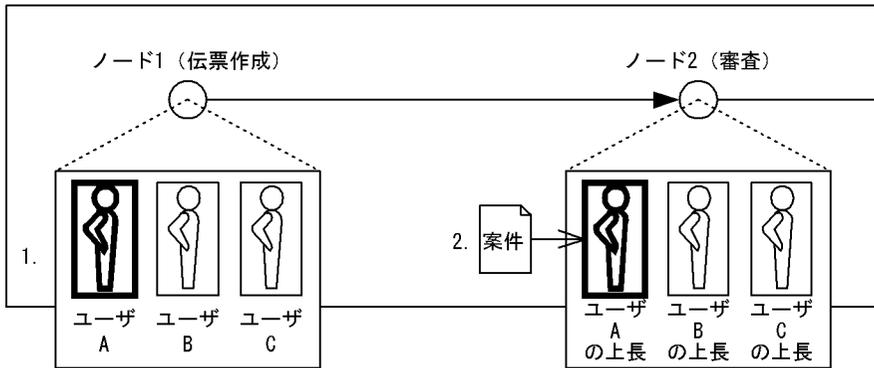
上長 ID とは、Groupmax Address での上長定義からユニークに決定されるユーザのユーザ ID です。上長 ID を指定したとき、Groupmax Address のユーザ情報に従って、次の値がケース属性に自動設定されます。

- Groupmax Address で上長ユーザ ID を定義しているとき、上長ユーザ ID がそのまま設定されます。
- GroupAddress で上長役職名を定義しているとき、ユーザの所属組織内で上長役職名が一致するユーザのユーザ ID が設定されます。

上長に案件を自動的に配布するには、作業機ノードの配布条件式に、そのケース属性、及びユーザ ID が一致するユーザを選択する配布条件を設定します。

案件の上長への自動配布の概要を図 3-4 に示します。

図 3-4 案件の上長への自動配布の概要



1. ノード1で、ユーザAが案件を投入する
2. Groupmax Workflowは、ノード1のユーザ処理リストで上長IDの自動設定が指定されている場合、ユーザAの上長のユーザIDをGroupmax Addressから取得して、ケース属性に設定する
3. 審査ノードに案件が送付されると、ケース属性に設定されたユーザAの上長のユーザIDを基に、ユーザAの上長に自動的に案件を送付する

Groupmax Address での上長定義については、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド 基本操作編」を参照してください。

#### (4) エラートレーへの配布

Groupmax Workflow では、何かの原因でユーザトレイ又はロールトレイに案件を配布できないとき、あらかじめ指定されたエラートレーに案件を配布します。エラートレーの所有者は、Groupmax Workflow Monitor を使用してエラーとなった原因を調査し、復帰させることができる案件はビジネスプロセスに復帰させます。なお、エラートレーに配布された案件は、Groupmax Integrated Desktop の INBOX や Groupmax Form の案件一覧で表示し、案件を開いて内容を確認することはできますが、案件を復帰させたり遷移させたりすることはできません。エラートレーの所有者は、ビジネスプロセス定義をワークフローデータベースへ登録するときに指定します。

#### (5) 差し戻し・引き戻し時の配布規則

案件の配布先は、ノードの属性及び、ユーザの案件受付状態によって決まります。

##### (a) 差し戻し時の配布規則

差し戻し時の配布規則を表 3-9 に示します。

### 3. Groupmax Workflow の運用

表 3-9 差し戻し時の配布規則

差し戻し先ユーザの トレーの状態	「代行の許可」 の指定	配布先
受付許可	-	差し戻し先のユーザ
代行者配布	「しない」	差し戻し先のユーザ
代行者配布	「する」	1. 差し戻し先のユーザの代行配布ユーザ 2. 1.の代行配布ユーザの指定がない場合、又は代行配布ユーザのトレーの状態が「受付許可」でない場合は、差し戻し先のユーザ
受付禁止	-	差し戻し先のユーザ

(凡例) - は指定できないことを示します。

#### 注

02-10 より前のバージョンの Groupmax Workflow Definer から登録したビジネスプロセス定義を使用している場合は、差し戻し先ユーザが、作業者に指定したロールに含まれている必要があります。作業者に指定したロールに含まれていない場合は、そのロールに配布されます。

#### (b) 引き戻し時の配布規則

引き戻したユーザのトレーの状態にかかわらず、そのユーザに配布されます。

バージョン 02-10 より前の Groupmax Workflow Definer から登録したビジネスプロセス定義を使用している場合は、引き戻したユーザが、作業者に指定したロールに含まれている必要があります。作業者に指定したロールに含まれていない場合は、そのロールに配布されます。

## 3.9.4 Groupmax Address Server 上での組織変更時の Workflow の運用

次に示すような目的で Groupmax Address Server 上の組織を変更した場合、Workflow の運用に影響を与えることがあります。

- 組織の削除
- 組織の変更（新組織の追加後、旧組織下のユーザを新組織下に移動し、旧組織を削除）
- 組織の変更はないが、ある組織の担当業務変更

影響を受ける Workflow の運用を次に示します。

- 組織ロールを利用したビジネスプロセス定義上を流れている案件
- ユーザの組織参照権限
- 組織権限を利用した案件配布を定義したビジネスプロセス定義上を流れている案件

ここでは、組織の変更による影響と、その対処方法について説明します。

## (1) Groupmax Address Server 上で組織を変更する場合の操作の流れ

Groupmax Address Server 上で組織を変更する場合の操作の流れを図 3-5 に示します。

図 3-5 Groupmax Address Server 上で組織を変更する場合の操作の流れ

## [変更計画の明確化]

Groupmax Address Server 上の組織の変更計画を明確にする。

## [Workflowでの事前処理]

次に示すビジネスプロセス定義を投入不可状態にした後、該当するビジネスプロセス定義で運用中の案件をすべて終了させる。

- ・ Groupmax Address Server 上で変更する組織に対応する組織ロールを使用しているビジネスプロセス定義
- ・ 案件の作業指指定で、Groupmax Address Server 上で変更する組織の権限を使用しているビジネスプロセス定義

## [Groupmax Address Server 上での組織変更]

Groupmax Address Server 上で組織を変更する

## [Workflowでの事後処理]

- ・ 組織ロールに関連する対処  
対処方法については「(b) Groupmax Address Server 上の組織変更後の組織ロールへの影響とその対処方法」を参照のこと。
- ・ ユーザ権限に関連する対処  
対処方法については「(c) Groupmax Address Server 上の組織変更後のユーザ権限への影響とその対処方法」を参照のこと。

## (2) Groupmax Address Server 上の組織変更後の組織ロールへの影響とその対処方法

Groupmax Address Server 上の組織変更後の組織ロールへの影響とその対処方法を表 3-10 に示します。

### 3. Groupmax Workflow の運用

表 3-10 Groupmax Address Server 上の組織変更後の組織ロールへの影響とその対処方法

Groupmax Address Server 上での操作	Workflow への影響	対処方法	長所及び短所
組織削除及び組織変更	削除した組織に対応する組織ロールが無効となる。したがって、該当組織ロールがビジネスプロセス定義に使用されていて、運用中の案件が存在する場合、該当組織ロールトレーに配布された案件はだれも参照できなくなる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 対処 1 無効となった組織ロールを有効な組織ロールに変更後、ビジネスプロセス定義をバージョンアップする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 長所 組織ロールと組織 ID の対応がとれる。</li> <li>• 短所 ビジネスプロセス定義をバージョンアップする必要がある。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 対処 2 ロール定義更新コマンド (WFdefrl) を使用して、無効となった組織ロールの組織 ID を有効な組織 ID に変更後、ビジネスプロセス定義を投入可能状態にする。詳細については、「3.9.2(2) 組織ロールの変更手順」を参照のこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 長所 ビジネスプロセス定義をバージョンアップする必要がない。</li> <li>• 短所 組織ロール名は変更できないため、組織 ID との対応がとれない場合がある。</li> </ul>
組織の担当業務の変更	組織の担当業務が変更されているため、組織の意味が変わってしまう。そのため、本来参照してはいけない人が案件を参照できてしまう。また、逆に参照してもよい人が案件を参照できなくなる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 対処 1 変更前の担当業務を表す組織ロールを、変更後の担当業務を表す組織ロールに変更後、ビジネスプロセス定義をバージョンアップする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 長所 組織ロール名と組織 ID の対応がとれる。</li> <li>• 短所 ビジネスプロセス定義をバージョンアップする必要がある。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 対処 2 ロール定義更新コマンド (WFdefrl) を使用して、意味がなくなった組織ロールの組織 ID を意味のある組織 ID に変更後、ビジネスプロセス定義を投入可能状態にする。詳細については、「3.9.2(2) 組織ロールの変更手順」を参照のこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 長所 ビジネスプロセス定義をバージョンアップする必要がない。</li> <li>• 短所 組織ロール名は変更できないため、組織 ID との対応がとれない場合がある。</li> </ul>

## 注

Groupmax Address Server 上の組織変更前に Groupmax Workflow 上で「3.9.4(1) Groupmax Address Server 上で組織を変更する場合の操作の流れ」に示した事前処理を実行しなかった場合は、既にビジネスプロセス定義上を流れている案件があるときに該当案件をキャンセルしなければならないことがあります。

### (3) Groupmax Address Server 上の組織変更後のユーザ権限への影響とその対処方法

Groupmax Address Server 上の組織変更後のユーザ権限への影響とその対処方法を表 3-11 に示します。

表 3-11 Groupmax Address Server 上の組織変更後のユーザ権限への影響とその対処方法

Groupmax Address Server 上での操作	Workflow への影響	対処方法
組織削除及び組織変更	削除した組織に対応するユーザの組織参照権限が無効となる。	既存の権限を考慮し直し、必要に応じて Groupmax Workflow Definer のワークフローユーザ定義、又はユーザ定義更新コマンド (WFdefusr) を使用して権限の削除、再設定を行う。Groupmax Workflow Definer については、マニュアル「Groupmax Workflow Version 6 ビジュアル定義・シミュレータ・運用モニタ ユーザーズガイド」を参照のこと。
組織の担当業務の変更	組織の担当業務が変更されているため、組織の意味が変わってしまう。そのため、本来参照してはいけない組織の参照権限を持つことになる。	

### (4) 組織権限を利用した案件配布を定義したビジネスプロセス定義上を流れている案件への影響

組織権限を利用した案件配布を定義したビジネスプロセス定義上を流れている案件への影響は、Groupmax Address Server 上の組織変更を実行する前に「3.9.4(1) Groupmax Address Server 上で組織を変更する場合の操作の流れ」に示した Workflow 上での事前処理を実行していれば問題ありません。

事前処理を実行していない場合は、案件の遷移先が不定となり、指定された作業者に案件が配布される場合もあれば、エラートレイに配布される場合もあります。したがって、必要に応じて案件をキャンセルし、再投入する必要があります。

### 3.9.5 案件操作の注意事項

ここでは、案件の操作に関する注意事項を説明します。

#### (1) 差し戻し

次の場合、差し戻しはできません。

差し戻す案件のビジネスプロセス定義で「差し戻しを禁止する」を設定している場合、差し戻しはできません。

差し戻しをさせたくない業務の場合、ビジネスプロセス定義で「差し戻しを禁止する」を設定することで、差し戻しを禁止できます。

ケース構造が変わる分割、待ち合わせ、同報、回収、複写、及び統合の各ノードをまたがったノード間では、差し戻しはできません。

複数のケースを定義しているソースノードへの差し戻しはできません。差し戻しできるようにするには、環境設定ファイルの `source_node_send_back` で「yes」を設定する必要があります。

回収後は、同報前への差し戻しはできません。差し戻しできるようにするには、環境設定ファイルの `broadcast_send_back` で「yes」を設定する必要があります。

差し戻し先になるのは、遷移してきたノード及びユーザです。アローの流れは考慮されません。

ドメイン間連携機能により投入された案件をソースノードに差し戻すことはできません。

#### (2) 引き戻し

次の場合、引き戻しはできません。

引き戻す案件のビジネスプロセス定義で「引き戻しを禁止する」を設定している場合、引き戻しはできません。

引き戻しをさせたくない業務の場合、ビジネスプロセス定義で「引き戻しを禁止する」を設定することで、引き戻しを禁止できます。

ケース構造が変わる分割、待ち合わせ、同報、回収、複写、及び統合の各ノードをまたがったノード間では、引き戻しはできません。

複数のケースを定義しているソースノードへの引き戻しはできません。

回収後は、同報前への引き戻しはできません。

相談、回答、及び差し戻しを取り消すための引き戻しはできません。

次の処理ノードより先へ遷移している案件は、引き戻しできません。

引き戻す案件が、次の処理ノードに遷移中、ユーザトレイに転送中、又は相談中の場合は、引き戻しできません。

引き戻す案件を処理中又は保留中の場合は、引き戻しできません。

ドメイン間連携中の案件は引き戻しできません。

### (3) 相談

相談先のユーザの案件受付状態が「案件受付許可」でない場合、相談はできません。

### (4) 回答

相談元ユーザに回答する場合、そのユーザが削除されていて存在しないときは、次のようになります。

相談の相談のように、複数またがって相談されていた場合は、次の相談元ユーザに回答されます。

回答先ユーザがだれも存在しない場合、その案件のカレントノードの作業者として「ロール」が割り当ててあるときは、ロールトレーに配布されます。「ワークフローユーザを対象」が割り当ててあるときは、エラートレーに配布されます。

回答先ユーザの案件受付状態が「案件受付許可」でない場合でも、そのユーザに回答されます。

「代行者配布」になっていても代行者には配布されません。

### (5) 振り替え

次の場合、振り替えはできません。

マルチサーバ構成でロールトレー配布の場合、ロールトレーから案件を自ユーザトレーに振り替えできるのは、そのロール登録サーバをホームサーバとするユーザだけです。ロールに属していても、そのユーザのホームサーバがロールのホームサーバと異なると、案件を振り替えることはできません。詳細については、「3.9.2(3) マルチサーバ構成時の注意事項」を参照してください。

なお、Groupmax Workflow Monitor では、ロール登録サーバと異なるサーバをホームサーバとするロール内のユーザ、又はビジネスプロセス管理者に、案件を振り替えることができます。

振り替え先ユーザの案件受付状態が「案件受付許可」でない場合、振り替えはできません。

### (6) ワークの送付履歴の上限

Groupmax Workflow では、ワークの送付履歴は 10,000 件が上限であり、10,000 件を超える場合にはエラー案件とします。案件の操作は、送付履歴が 10,000 件を超えない範囲で操作してください。

## 3.9.6 Groupmax Form で案件を処理する場合の注意事項

Groupmax Form を使って案件を処理する場合の注意事項を説明します。

## (1) ビジネスプロセス定義作成時の注意事項

ビジネスプロセス定義を作成するときの注意事項を説明します。

### (a) 同報・回収ノードの使用

Groupmax Form で案件を処理する場合、一般には同報・回収ノードは使用できません。複写ノードを使用する方法を推奨します。

複写したノードから送付されるそれぞれの案件を一つの案件にまとめる場合、待ち合わせノードを使用してください。この場合、複写されたケースごとに @ 案件データ入力や @ 添付ファイル操作などのコマンドを実行することで、各処理ノードの変更情報を取得し、一つの帳票に表示できます。その後、必要な情報を @ 案件データ出力コマンドなどで一つのケースに出力します。残りのケースは、分割ノードとシンクノードを使用すると削除できます。

なお、必要な情報を各ケースから取得したり、一つのケースにまとめたりする処理は、待ち合わせ後の処理ノードの前処理や後処理などで行うと便利です。

### 注

同報・回収ノードを使用する場合は、次の制限の範囲内で使用してください。

- 同報中は帳票のデータを更新しない

同報中に帳票のデータを更新して Groupmax Workflow Server に格納しないでください。同報中に更新処理をしなければ、同報・回収ノードを使用しても問題ありません。

@ 案件データ出力や @ 添付ファイル操作などのコマンドを実行すると、更新したデータが Groupmax Workflow Server に格納されます。こうした更新処理ができないように、同報中に使用する帳票を作成してください。

なお、Groupmax Workflow Server にデータを格納しない方式であれば、データを更新しても構いません。例えば、SQL 操作コマンドでデータをユーザデータベースに格納する方式の場合は、更新は可能です。この場合は、データベース側の排他処理に注意してください。

### (b) 統合ノードの使用

Groupmax Form で案件を処理する場合、複数のケースをまとめるために統合ノードを使用するには、統合ノードの定義で「メモと文書の統合」に「統合先ケースに添付されているメモと文書だけを残す」を指定してください。統合ノードの定義で「メモと文書の統合」に「すべてのケースに添付されているメモと文書を残す」を使用した場合、統合前のそれぞれのケースに添付されている情報は、統合後に取得できなくなります。

この場合は、複写した案件など複数のケースを待ち合わせ、必要な情報を取得した後で、不要になったケースを分割ノード及びシンクノードを使用して削除するようにしてください。

## (2) 一括処理に関する注意事項

Groupmax Form で @ 案件一括入力や @ 案件一括遷移などの一括処理コマンドを使用する場合、数件から 30 件程度の単位で一括処理してください。案件に添付されたデータ量にもよりますが、一括処理の上限は 50 件程度が目安になります。

1 画面に表示できない件数の案件を一括処理することは、操作を誤る可能性があるため、お勧めしません。また、一括処理の件数が多過ぎると、Groupmax Workflow で処理できる通信データ長を超え、正常に処理できなくなる可能性があります。

## (3) 投入ノードに関する注意事項

@ 案件投入コマンドを使用する場合、ログインユーザが投入可能なビジネスプロセス定義の数が増えると、転送データ長の上限を超えてエラーになることがあります（該当ソースノード数が 268 を超えるとエラーとなります）。

この場合、不要なビジネスプロセス定義を削除したり、ビジネスプロセス定義の運用状態を禁止状態にしたりするなどして対処してください。

## (4) ロール数に関する注意事項

@ 案件トレー操作コマンドを使用する場合、ログインユーザが登録されているロールの数が増えると、転送データ長の上限を超えてエラーになることがあります（該当ロール数が 284 を超えるとエラーとなります）。

この場合、不要なロールから該当ユーザを削除するなどして対処してください。

## 3.9.7 システム構成変更に関する注意事項

ここでは、システム構成の変更に関する注意事項を説明します。「(2) シングルサーバ構成からマルチサーバ構成への変更」から「(7) 各種配布サーバの追加・削除」は、マルチサーバ機能を使用する場合に参照してください。「(8) ドメイン間連携機能の連携先サーバの追加・削除」は、ドメイン間連携機能を使用する場合に注意してください。

Groupmax Object Server の構成変更については、マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。Groupmax Address Server の構成変更については、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド 基本操作編」を参照してください。

### (1) インストールマシンのオペレーティングシステムの変更

別オペレーティングシステムへの入れ替え（HI-UX/WE2，HP-UX 又は AIX から Windows NT など）はできません。システム初期構築時には注意してください。

### (2) シングルサーバ構成からマルチサーバ構成への変更

シングルサーバ構成からマルチサーバ構成に変更する場合、既存のサーバが Workflow

### 3. Groupmax Workflow の運用

管理サーバになります。新規サーバを Workflow 管理サーバにすることはできません。

なお、Groupmax Address Server 及び Groupmax Mail Server がマルチサーバ構成になっている必要があります。シングルサーバ構成の場合、サイトにサーバを追加してください。

Workflow サーバをマルチサーバ構成に変更するときの作業を、次に示します。

- Groupmax Workflow Server 及び Groupmax Workflow Multi-Server をインストールし、各サーバの環境設定をします。マルチサーバ機能で使用するメールアドレスなどを登録する必要があります。
- 既存のビジネスプロセス定義は、改めて新規バージョンのビジネスプロセス定義として登録し、ビジネスプロセス登録サーバを決めて配布します。シングルサーバ構成環境で登録されたビジネスプロセス定義は配布できません。詳細については、「3.9.1(5) マルチサーバ構成時の注意事項」を参照してください。
- ロールは、ロール登録サーバを決めて配布します。詳細については、「3.9.2(3) マルチサーバ構成時の注意事項」を参照してください。
- 新規サーバをホームサーバに変更するユーザを選択します。

#### (3) マルチサーバ構成からシングルサーバ構成への変更

Workflow 管理サーバに集約することはできますが、それ以外のサーバに集約することはできません。ビジネスプロセス定義の登録サーバ、ロールの登録サーバは削除できません。

登録サーバの変更については、「(6) 各種登録サーバの変更」を参照してください。各サーバを登録サーバとするビジネスプロセス定義の全案件が終了した後、それぞれのサーバを切り離してください。

#### (4) マルチサーバ構成へのサーバ追加・削除

##### (a) サーバの追加

マルチサーバ構成に新しくサーバを追加する場合、「(2) シングルサーバ構成からマルチサーバ構成への変更」と同様に作業します。この場合、ビジネスプロセス定義やロールは追加サーバに配布できます。詳細は、「(7) 各種配布サーバの追加・削除」を参照してください。

また、サーバを追加した場合は、Groupmax の全サーバのすべてのプログラムを停止してください。その後、Groupmax Address のマスタ管理サーバから順に Groupmax のすべてのプログラムを起動してください。

##### (b) サーバの削除

マルチサーバ構成で運用していたサーバを削除する場合、次の手順で作業してください。

- サーバに配布していたビジネスプロセス定義、ロール、及びアプリケーションに対して、配布先サーバからの削除及び配布指示をする

- サーバに配布していたビジネスプロセス定義、ルール、及びアプリケーションを、サーバから削除する
- サーバをサイトから削除する

詳細については、「(7) 各種配布サーバの追加・削除」を参照してください。

ビジネスプロセス定義やルールの登録サーバになっているサーバは、削除できません。そのサーバを登録サーバとするビジネスプロセス定義の全案件が終了した後で、サーバを切り離してください。登録サーバの変更については、「(6) 各種登録サーバの変更」を参照してください。

なお、運用中にサーバの追加や削除をした場合、各サーバの各機能を再起動する必要があります。

### (5) Workflow 管理サーバの変更

Workflow 管理サーバは変更できません。システム初期構築時には注意してください。

### (6) 各種登録サーバの変更

ビジネスプロセス定義及びルールには、それぞれ登録サーバが決められていて、登録サーバは、ビジネスプロセス定義やルールの管理情報を保持しています。また、ユーザにはホームサーバが決められていて、ホームサーバは、トレーに配布される案件を保持しています。

各種登録サーバを変更する場合の注意事項を次に示します。

登録済みのビジネスプロセス定義の登録サーバは変更できません。別の名前で新しいビジネスプロセス定義として登録してください。既にそのビジネスプロセス定義で流れている案件は、終了するまでそのまま運用してください。

ルール登録サーバは変更できません。別の名前で新しいルールを作成し、そのルールを使用するビジネスプロセス定義を、新規ルールに変更して登録してください。旧ビジネスプロセス定義の全案件が終了すると、ビジネスプロセス定義及びルールを削除できるようになります。

ユーザのホームサーバの変更は、Groupmax Address 運転席で行い、ユーザ定義コマンド (WFregusr) で Groupmax Workflow Server に反映させます。詳細については、「2.4.5(3)(b) Workflow サーバの変更」を参照してください。

### (7) 各種配布サーバの追加・削除

ビジネスプロセス定義及びルールは、Workflow 管理サーバから各サーバに配布することで、マルチサーバ構成全体で情報を共有します。またビジネスプロセス定義にはノードごとに処理アプリケーションを定義し、それを各サーバに配布します。

各種配布サーバを変更する場合の注意事項を次に示します。

ビジネスプロセス定義を配布する場合、Groupmax Workflow Definer の配布管理で配

### 3. Groupmax Workflow の運用

布先サーバを追加・削除し、配布指示を行います。追加の場合は、そのビジネスプロセス定義で使用しているロールが、追加サーバに先に配布されている必要があります。

アプリケーションを配布する場合、Groupmax Workflow Definer の配布管理で配布先サーバを追加・削除し、配布指示を行います。追加の場合は、ビジネスプロセス定義が、追加サーバに先に配布されている必要があります。

ロールを配布する場合、Groupmax Workflow Definer の配布管理、又はロール定義更新コマンド (WFdefrl) で配布先サーバを追加・削除し、配布指示を行います。詳細については、「3.9.2(1) サーバでユーザ・ロールの登録内容を変更する運用」を参照してください。

#### (8) ドメイン間連携機能の連携先サーバの追加・削除

ドメイン間連携機能では、サーバ環境定義とビジネスプロセス定義中の連携ノードの定義で連携先のサーバが決まります。連携先サーバを連携情報定義ファイルに追加した場合は、Groupmax Workflow Server - Connection を再起動してください。また、連携情報定義ファイルから削除する場合は、該当する連携先サーバへ連携する案件が無くなったことを確認した後、削除してください。

## 3.9.8 ドメイン間連携機能の運用上の注意事項

ここでは、ドメイン間連携機能を運用する場合の注意事項とその対処について説明します。また、対処する場合に必要な、各ユーザ環境に合わせたシステム定義の設定とユーザ運用について説明します。

#### (1) 運用上の注意事項

ドメイン間連携機能 (Groupmax Workflow Server - Connection) では E-Mail を使用して連携情報データを転送します。そのため、次の点に注意する必要があります。

##### メールの順序性

送信したメールの順番が受信するメールの順番と一致しない場合があります (メールの追い越しが発生)。

##### メールの紛失

メールを配信する経路の途中でメールが紛失する場合があります。

##### データの切り捨て・改変

中継メールサーバでデータが切り捨てられたり、通信中、ビット欠けなどによるデータの改変が発生する場合があります。

##### メールの重複

同じメールを複数回送信された場合に発生します。

次に、これらの注意点の対処について説明します。

## (a) メールの順序性に対する対処

送信時の順番を確認する情報を管理し、受信したメールの順序が不正な（メール追いつきが発生した）場合、そのメールは再スケジュールされ、他のメールの受信処理後に再度処理します。

この再処理を一定回数（環境定義のドメイン間連携メール送受信リトライ回数）繰り返してもメール追いつき状態が改善されない場合、エラーメッセージをイベントログに出力し、その受信メールを保留状態にします。

保留状態になった場合、送受信エラー要求再処理コマンド（WFiftry）で再処理要求すると、再度そのメールを処理できます。

## (b) メールの紛失に対する対処

メールの紛失に対する対処として、メール再送機能を提供します。メール再送には次の二つの方法があります。

## コマンドでのメールの再送

Groupmax Workflow Server - Connection では、応答メールが受信できない場合にそれに対応する要求メールを再送するための、要求再送コマンド（WFifrsnd）を提供しています。

要求再送コマンドの実行によるメールの再送信は、一定回数（環境定義のドメイン間連携再送回数）繰り返されます。それでも応答メールが受信されない場合は、エラーメッセージをイベントログに出力し、再送を中止します。この場合は障害が発生したか、又は応答メールが紛失した可能性があるのでイベントログを参照して障害を取り除いてください。その後、要求再送コマンドで再度送信してください。

要求再送コマンドの使用方法については、「4.3 運用コマンドの文法」の WFifrsnd（要求再送コマンド）の項を参照してください。

## ドメイン間連携サーバ環境定義ファイルの設定によるメールの自動再送

Groupmax Workflow Server - Connection では、応答メールを受信していない場合に、それに対応する要求メールを自動的に再送する機能を提供しています。この機能は、ドメイン間連携サーバ環境定義ファイルでの設定に従って動作します。ドメイン間連携サーバ環境定義ファイルの設定については、「2.4.4 ドメイン間連携機能の定義ファイルの作成」を参照してください。

## (c) データの切り捨て・改変に対する対処

メール中にデータの内容をチェックするデータを入れて送信し、受信時にそのチェックデータを基にデータの切り捨て・改変をチェックします。このチェックで不正を検知した場合、エラーメッセージをイベントログに出力し、送信元にエラーが発生したことを通知するメールが送信されます。

この場合、「(b) メールの紛失に対する対処」と同様に、メール再送機能を使用して対処してください。

### 3. Groupmax Workflow の運用

#### (d) メールの重複に対する対処

連携間でメールの送受信状態をシステムで保持し、メールが重複して送付されたかを判断し、処理済みのメールを受信した場合、無効なメールとして破棄します。

また、メールの処理期限を設定して、送信してから処理可能な時間以内に受信していない場合、エラーメッセージをイベントログに出力し、送信元にエラーが発生したことを通知するメールが送信されます。

この場合、「(b) メール紛失に対する対処」と同様に、メール再送機能を使用して対処してください。

#### (e) その他

ドメイン間連携機能では、送信したデータと受信したデータをそれぞれ送信ログ・受信ログとして保持します。これらのログにより、連携間での整合性をチェックできるようにします。

## (2) システム定義とユーザ運用

「(1) 運用上の注意事項」に示した対処をするために、御使用の環境に合わせたシステム定義とユーザ運用を行う必要があります。この場合のシステム定義は、ドメイン間連携サーバ環境定義ファイルに定義します。ドメイン間連携サーバ環境定義ファイルに指定できる値については、「2.4.4 ドメイン間連携機能の定義ファイルの作成」を参照してください。

#### (a) システム定義の設定

ドメイン間連携サーバ環境定義ファイルを次に示すように設定します。

##### ドメイン間連携再送インターバル時間

ドメイン間連携再送インターバル時間は、要求メール送信後応答メールが返却されない場合に自動的に要求メールを再送する間隔です。

ここで指定した値は、メールの自動再送時、及び要求再送コマンド (WFifrsnd -s の形式) によるメール再送時に再送対象とするメールを決定するための値となります。自動再送の機能及び WFifrsnd -s は、要求メール送信後、ドメイン間連携再送インターバル時間を経過しても応答メールが届かないメールを再送の対象とするためです。

したがって、ドメイン間連携再送インターバル時間には、御使用の通信環境から判断して、ドメイン間をメールが往復するのに必要な時間よりも大きい値を設定してください。

##### ドメイン間連携再送回数

ドメイン間連携再送回数は、要求メール送信後応答メールが返却されない場合に自動的に要求メールを再送する回数です。

この値は、連携先ドメインでサーバが停止している場合や、通信環境の不正によって応答メールが届かない場合に、不要なメールの再送を防止するための値となります。再送回数がドメイン間連携再送回数を超えたメールは、メールの自動再送、及

び要求再送コマンド (WFifrsnd) の再送対象から除外されるためです。

したがって、ドメイン間連携再送回数には、御使用の通信環境から判断して、通信環境の不正などの場合にそれ以上再送しても応答メールが届かないと考えられる回数を設定してください。

#### ドメイン間連携再送メール監視間隔

ドメイン間連携再送メール監視間隔は、メールを自動再送する場合の、再送する必要がある要求メールの有無を監視する間隔です。ドメイン間連携機能起動後、指定された時間ごとに、再送する必要がある要求メールの有無をチェックし、該当要求メールがあった場合自動的に再送します。

#### ドメイン間連携メール処理期限

ドメイン間連携メール処理期限は、要求メールの送信から一定時間経過したメールを無効とする期限です。

この値は、要求メールの受信が使用の通信環境から判断して不当に長く時間がかかっている場合に、そのメールを不要メールとして削除する時期の基準となる値です。メール到着までの時間が不当に長い場合、連携元のドメインで要求メールを再送している可能性があり、この場合、Groupmax Workflow Server - Connection は、要求メールの重複を防ぐために、ドメイン間連携メール処理期限を超えて届いた要求メールを削除します。したがって、ドメイン間連携メール処理期限には、連携先のドメインから連携先のドメインにメールが届くのに必要な時間より大きな値を設定する必要があります。

ドメイン間連携メール処理期限を変更する場合、連携する全サーバに対して連携中の案件がないことを未応答要求表示コマンドを「WFifrscon -a」の形式で実行して確認してください。確認したら、Groupmax Workflow Server - Connection を停止してから変更してください。WFifrscon -a を実行して要求が何も表示されていなければ、連携中案件はありません。

#### ドメイン間連携管理情報最大保存期間

ドメイン間連携では、既に送信した要求メールを、自動再送や要求再送コマンド (WFifrsnd) によって再送することで、要求メールが重複する場合があります。

Groupmax Workflow Server - Connection は、要求メールの重複をチェックし、不要な要求メールを削除するための管理情報を持っています。この管理情報をドメイン間連携管理情報といい、ドメイン間連携管理情報最大保存期間はこの管理情報を保存する期間です。

ドメイン間連携管理情報最大保存期間は次の計算式によって求めることができます。

$$\begin{aligned} & \text{ドメイン間連携管理情報最大保存期間 (単位: 分)} \\ & = \text{Max}(R \times (\text{連携相手のドメイン間連携再送回数} + 1)) + \\ & \text{自サーバのドメイン間連携再送メール処理期限} \end{aligned}$$

注

R は、連携先でのドメイン間連携再送インターバル時間とドメイン間連携再送

メール監視間隔とを比べて大きい方の値を表します。

ドメイン間連携管理情報最大保存期間の指定値は、ワークフローデータベースのディスク占有量 (WF\_send\_area) 及びグローバルキャッシュパラメタに影響するため、必ず指定値を見積もってください。見積もるための計算式については、「付録 E ディスク占有量の計算式」を参照してください。

また、連携相手のドメイン間連携再送インターバル時間やドメイン間連携再送回数に変更された場合、及び自サーバのドメイン間連携再送メール処理期限を変更した場合は、必ずドメイン間連携管理情報最大保存期間を再設定してください。

#### ドメイン間連携送受信ログ保存形式

ドメイン間連携送受信ログ保存形式は、ドメイン間連携機能で取得する送受信ログの保存形式です。保存形式には循環上書き保存によって、3メガバイトまで保存する形式と、全データを保存する形式があります。ユーザの運用形態に応じて設定してください。デフォルトは循環上書き保存です。

#### システム定義で共通の注意事項

ドメイン間連携機能では、連携相手サーバの時刻と自サーバの時刻を用いて処理されます。したがって、連携する全サーバの時刻（標準時刻）を合わせる必要があります。

#### (b) ユーザ運用

システム管理者は、定期的にイベントログを参照し、再送回数を越えたメールがないかを確認してください。再送回数を越えた場合、障害が発生している場合があるので、その他（メールシステムを含む）のイベントログなどを参照し障害を取り除いてください。その後、要求再送コマンド (WFifrsnd) を使用して該当メールを再送してください。

また、システムに異常が見当たらない場合、応答メールが紛失している場合があります。この場合は、連携先と連携元で未応答要求表示コマンド (WFifscn) を実行し、双方の連携状態の情報を出力して突き合わせてください。その後、要求再送コマンド (WFifrsnd) を使用して該当応答メールを再送してください。

### (3) 連携管理 ID と要求番号指定によるメール再送時の注意

メール再送コマンド (WFifrsnd) を連携管理 ID と要求番号を指定して実行する場合 (WFifrsnd -c XXX -m XXX の形式)、必ず次の (a) ~ (e) の手順で、案件の遷移状態を確認して実行してください。確認しないで実行した場合、連携先での案件の重複や連携管理情報の残留が発生する場合があります。

#### (a) 遷移しない案件の特定

Groupmax Workflow Monitor で、直列連携ノード又は階層連携ノードに不当に長時間滞留している案件を特定してください。また、その案件でエラーが発生していないかイベントログで確認してください。イベントログでエラーが表示されている場合、その対処方法に従って対処してください。この時点で連携管理 ID と要求番号指定によるメール再

送コマンド (WFifrsnd) を実行する場合は、ここで対処が終わった案件に対してだけ実行してください。

(b) 案件の連携状態の確認

「(a) 遷移しない案件の特定」で確認した結果、イベントログにエラーが表示されていない案件について、次の手順で連携状態を確認してください。

1. 未応答要求表示コマンド (WFifrscon) を「WFifrscon -a」の形式で実行して、その結果リストを出力する
2. 1. のリストから、「(a) 遷移しない案件の特定」で特定した、遷移しない案件のワーク ID と同じ連携元ワーク ID の案件を抽出する
3. 2. で抽出した案件を、表 3-12 を基に、連携状態ごとに分類する

表 3-12 連携元の連携状態

連携種別	要求種別	状態コード	連携状態
直列連携	go	0	直列 - 投入要求未送信
		1	直列 - 投入要求応答待ち
		4	stpc の状態コードに依存
	stpc	0	直列 - 終了要求未送信
		1	直列 - 終了要求応答待ち
階層連携	call	0	階層 - 投入要求未送信
		1	階層 - 投入要求応答待ち
		4	階層 - 戻り要求待ち
	retn	2	階層 - 戻り要求応答未送信
		3	stpc の状態コードに依存
	stpc	0	階層 - 終了要求未送信
		1	階層 - 終了要求応答待ち

(c) 連携元での対処

(b) で分類した状態を基に、表 3-13 に従って対処してください。

連携先での確認の結果によっては、連携元でさらに対処が必要になる場合があります。この場合、表 3-14 に従って対処してください。

### 3. Groupmax Workflow の運用

表 3-13 連携元での対処（その 1）

連携元状態	対処
直列 - 投入要求未送信 直列 - 終了要求未送信 階層 - 投入要求未送信 階層 - 戻り要求応答未送信 階層 - 終了要求未送信	メール送信が終了していません。送受信要求表示コマンド (WFifsreq) で該当要求がエラーになっていないか確認し、エラーになっている場合、エラー要因を取り除いた後、送受信エラー要求再処理コマンド (WFifstry) で再処理してください。
直列 - 投入要求応答待ち 直列 - 終了要求応答待ち 階層 - 投入要求応答待ち 階層 - 戻り要求待ち 階層 - 終了要求応答待ち	要求を送信していますが応答を受信していません。連携管理 ID・要求番号・相手連携管理 ID (「****」の場合があります) を連携相手に連絡し、「(d) 連携先での案件の連携状態の確認」の説明に従って、連携相手に連携状態の確認を依頼し、必要な場合は対処を依頼してください。 連携先の連携状態の確認の結果、連携元状態と連携先状態の関係が表 3-14 に示す対応になった場合、連携元で対処が必要です。

表 3-14 連携元での対処（その 2）

連携元状態	連携先状態	連携元での対処
直列 - 投入要求応答待ち	連携要求未受信	要求再送コマンド (WFifrsnd) で go の要求を再送する。
直列 - 終了要求応答待ち	直列 - 投入要求応答送信済み	要求再送コマンド (WFifrsnd) で stpc の要求を再送する。
階層 - 投入要求応答待ち	連携要求未受信	要求再送コマンド (WFifrsnd) で call の要求を再送する。
階層 - 終了要求応答待ち	階層 - 戻り要求応答待ち	要求再送コマンド (WFifrsnd) で retn の要求を再送する。
	階層 - 終了要求待ち	要求再送コマンド (WFifrsnd) で stpc の要求を再送する。

#### (d) 連携先での案件の連携状態の確認

「(c) 連携元での対処」の結果、連携先での確認が必要な案件について、連携管理 ID・要求番号・相手連携管理 ID を基に、次の手順で連携状態を確認してください。

1. 連携先での確認が必要な案件について、連携管理 ID が分かっている場合は、未応答要求表示コマンドを「WFifscon -c」の形式で実行する  
連携管理 ID が「\*\*\*\*」の場合は、「WFifscon -a」の形式で実行して、連携元から指定された連携管理 ID と、相手連携管理 ID (WFifscon -a の実行により出力されます) が一致する案件を抽出する
2. 1 で抽出した案件を、表 3-15 を基に、連携状態ごとに分類する

表 3-15 連携先の連携状態

連携種別	要求種別	状態コード	連携状態
直列連携	go	0	直列 - 投入要求未処理
		2	直列 - 投入要求応答未送信
		3	直列 - 投入要求応答送信済み
	stpc	0	直列 - 終了要求未処理
		2	直列 - 終了要求応答未送信
		3	直列 - 終了要求応答送信済み
階層連携	call	0	階層 - 投入要求未処理
		2	階層 - 投入要求応答未送信
		3	階層 - 投入要求応答送信済み
	retn	1	階層 - 戻り要求応答待ち
		4	階層 - 終了要求待ち
	stpc	0	階層 - 終了要求未処理
		2	階層 - 終了要求応答未送信
該当連携管理情報なし			連携要求未受信

(e) 連携先での対処

(d) で分類した状態を基に、表 3-16 に従って対処してください。

表 3-16 連携先での対処

連携元状態	連携先状態	連携先での対処
-	直列 - 投入要求未処理 直列 - 投入要求応答未送信 直列 - 終了要求未処理 直列 - 終了要求応答未送信 階層 - 投入要求未処理 階層 - 投入要求応答未送信 階層 - 終了要求応答未送信 階層 - 終了要求未処理	メールは受信していますが、受信処理に失敗している状態です。送受信要求表示コマンド (WFifsreq) で該当要求がエラーになっていないか確認し、エラーになっている場合、エラー要因を取り除いた後、送受信エラー要求再処理コマンド (WFifstry) で再処理してください。
直列 - 投入要求応答待ち	直列 - 投入要求応答送信済み	要求再送コマンド (WFifrsnd) で go の要求を再送する。
直列 - 終了要求応答待ち	直列 - 終了要求応答送信済み	要求再送コマンド (WFifrsnd) で stpc の要求を再送する。
階層 - 投入要求応答待ち	階層 - 戻り要求応答待ち	要求再送コマンド (WFifrsnd) で call の要求を再送する。
階層 - 戻り要求待ち	階層 - 投入要求応答送信済み	要求再送コマンド (WFifrsnd) で retn の要求を再送する。

#### (4) Flowmate/Development Kit を使用して作成したアプリケーションプログラムについて

Flowmate/Development Kit を使用して作成したアプリケーションプログラムで、案件を操作（投入・遷移）した場合、案件がドメイン間で連携しないでエラー案件となる場合がありますので、注意してください。

### 3.9.9 マルチサーバ構成時のサーバ間接続形態に関する注意事項

マルチサーバ構成の場合、各サーバ間の接続時に IP アドレスが決定される形態では実行できません。

### 3.9.10 累積リソースに関する運用上の注意事項

累積するリソースの種類とその対策方法について説明します。

#### (1) 累積するリソースの種類

(a) サーバにログインするユーザ ID が異なるたびに、ユーザ ID のディレクトリを累積ディレクトリが累積される場所を次に示します。

ユーザワークエリアディレクトリの直下

HI-UX/WE2 版 : /Flowmate/export/users

HP-UX 版及び AIX 版 : /opt/Flowmate/export/users

累積するディレクトリ数がオペレーティングシステムの制限である 32,765 個に達すると、以後新規ユーザのサーバへのログインがエラーになります。

Groupmax Workflow テンポラリファイルディレクトリ以下の `_ftp_` ディレクトリの直下

HI-UX/WE2 版 : /Flowmate/tmp/\_ftp\_

HP-UX 版及び AIX 版 : /opt/Flowmate/tmp/\_ftp\_

この場所にディレクトリが累積されるのは、マルチサーバ環境のサーバにログインした後、次のどれかの操作を実行した場合です。

- 送信ログからの案件操作
- Groupmax Workflow Monitor と Groupmax Workflow Definer で、Workflow 管理サーバ以外のサーバを登録サーバとするビジネスプロセスやロールの参照と運用の操作
- Groupmax Workflow Monitor と Groupmax Workflow Definer で、Workflow 管理サーバ以外のサーバをホームサーバとするユーザの参照と運用の操作

累積するディレクトリ数がオペレーティングシステムの制限である 32,765 個に達すると、以後新規ユーザでログイン後、上記の操作を実行するとエラーになります。

(b) サーバにログイン中に何らかのエラーが発生したとき、ユーザ ID のファイルを累積

このファイルの累積は、Groupmax Workflow Server のバージョン 02-31 以降を使用している場合だけに発生します。累積される場所は、トレース情報格納ディレクトリ以下の API ディレクトリの直下です。

HI-UX/WE2 版 : /Flowmate/log/API

HP-UX 版及び AIX 版 : /opt/Flowmate/log/API

累積するファイル数が多くなると、ディスクの容量不足やディスクの i-node 不足が発生する可能性があります。

(c) ワークフローログ出力コマンドを、実行した場合、又はキャンセルしてワーク情報を出力した場合、ビジネスプロセス名のファイルを累積

ワークフローログ出力コマンドを実行した場合、又はワークフローログ出力コマンドを途中でキャンセルしたときのワーク情報の出力を指示した場合、ビジネスプロセス名のファイルを、ワークフローログの出力先ディレクトリに作成して出力します。再度ワークフローログ出力コマンドが実行されると、初回時に作成したファイルに追加していきます。

このファイルの累積は、Groupmax Workflow Server のバージョン 02-10 以降を使用している場合だけに発生します。このファイルは 2 ギガバイトまで追加され、その後はエラーとなってワーク情報を出力できなくなります。

(d) サーバにログインし、案件一覧表示中に何らかのエラーが発生した場合、「WF\_shared\_memory\_XX」という名称のファイルが累積

このファイルの累積は、Groupmax Workflow Server のバージョン 02-10 以降を使用している場合だけに発生します。累積される場所は、/tmp ディレクトリの直下です。

累積するファイル数が多くなるとディスクの容量不足やディスクの i-node 不足が発生する可能性があります。

## (2) 累積リソースの対策方法

(a) 「サーバにログインするユーザ ID が異なるたびに、ユーザ ID のディレクトリを累積」の場合

「ls -l | wc -l」を実行して、ディレクトリ累積数が 32,765 個に達していないかを確認してください。確認した結果、問題がある場合は、累積リソース削除コマンド (WFdelrsx) を実行してください。ただし、累積リソース削除コマンド (WFdelrsx) を実行して累積リソースを削除した後も、運用を続けると再度リソースが累積していきます。

リソースが累積していないかを定期的に確認し、必要に応じて、累積リソース削除コマンド (WFdelrsx) を実行してください。

### 3. Groupmax Workflow の運用

累積リソース削除コマンドは、次のディレクトリに格納されています。

HI-UX/WE2 版           : /Flowmate/tools

HP-UX 版及び AIX 版 : /opt/Flowmate/tools

累積リソース削除コマンドの実行方法を次に示します。

1. Workflow デーモンがすべて停止されていることを確認する  
起動している場合は停止してください。
2. 次のディレクトリの直下にユーザ資源のファイルが存在する場合は、必ず別のディレクトリ下に退避する
  - /opt/Flowmate/export/users
  - /opt/Flowmate/tmp/\_ftp\_( )内は、オペレーティングシステムが HP-UX 及び AIX の場合のディレクトリです。

3. 累積リソース削除コマンド (WFdelrsx) をスーパーユーザで実行する  
引数は必要ありません。  
AIX 版の場合は、必ず環境変数 LANG に Ja\_JP を設定してから実行してください。  
WFdelrsx を起動すると、「累積リソース削除ツールを開始します。」と表示されます。  
不要なリソースの削除が終了すると、「累積リソース削除ツールを終了します。」と表示されます。  
起動と終了メッセージ以外のメッセージが出力された場合は、システム管理者に連絡してください。

- (b) 「サーバにログイン中に何らかのエラーが発生したとき、ユーザ ID のファイルを累積」の場合

エラー時の詳細情報を出力したファイルの累積のため、削除するとエラー原因の調査に支障がある場合があります。このため、ファイルの累積によってディスクの容量不足や i-node 不足が発生した場合は、次の対処をしてください。

1. tar コマンドなどで累積ファイルのバックアップを取得する
2. rm コマンドなどで累積ファイルを削除する

- (c) 「ワークフローログ出力コマンドを、実行した場合、又はキャンセルしてワーク情報を出力した場合、ビジネスプロセス名のファイルを累積」の場合

ファイルサイズが 2 ギガバイトを超えると情報が出力されなくなります。また、ディスク容量不足にもなります。ファイルサイズを確認し、残りのディスク容量を考慮して、ファイル名をリネームするなどの操作でファイルのバックアップ及びファイルの削除を行ってください。

(d) 「サーバにログインし、案件一覧表示中に何らかのエラーが発生した場合、  
「WF\_shared\_memory\_XX」という名称のファイルが累積」の場合

df コマンドなどでディスク容量及び i-node 容量が問題ないかを確認してください。確認した結果、問題がある場合は、累積リソース削除コマンド (WFdelrsx) を実行してください。ただし、累積リソース削除コマンド (WFdelrsx) を実行して累積リソースを削除した後も、運用を続けると再度リソースが累積していきます。

リソースが累積していないかを定期的を確認し、必要に応じて、累積リソース削除コマンド (WFdelrsx) を実行してください。

累積リソース削除コマンドは、次のディレクトリに格納されています。

HI-UX/WE2 版           : /Flowmate/tools

HP-UX 版及び AIX 版 : /opt/Flowmate/tools

累積リソース削除コマンドの実行方法を次に示します。

1. Workflow デーモンがすべて停止されていることを確認する  
起動している場合は停止してください。
2. 累積リソース削除コマンド (WFdelrsx) をスーパーユーザで実行する  
引数は必要ありません。  
WFdelrsx を起動すると、「累積リソース削除ツールを開始します。」と表示されます。  
不要なリソースの削除が終了すると、「累積リソース削除ツールを終了します。」と表示されます。  
起動と終了メッセージ以外のメッセージが出力された場合は、システム管理者に連絡してください。

### 3.9.11 システム・ログに関する注意事項

Groupmax Workflow では、システム・ログが必要となります。AIX 版の場合、システム・ログはデフォルトでは出力されないため、必ず出力されるように設定してください。

システム・ログの設定については、「2.4.1(3) システム・ログに関する設定 (AIX の場合だけ)」を参照してください。

### 3.9.12 /dev/console へのメッセージ出力を抑制する機能

Groupmax Workflow の運用コマンド (WFstartad, WFstartsv, WFstartmgr, WFstartms, 及び WFstartif) は、メッセージを /dev/console にリダイレクトしています。メッセージを /dev/console に出力させたくない場合は、環境変数 (WF\_CONSOLE\_OUTPUT) を OFF に設定します。

### 3. Groupmax Workflow の運用

ON : /dev/console に出力する

OFF : 標準出力又は標準エラー出力に出力する

なお、環境変数が未定義、不正値、又は NULL 値の場合は、/dev/console へ出力します。

B シェル及び C シェルでの記述例を次に示します。

< B シェルの場合 >

```
WF_CONSOLE_OUTPUT=OFF
export WF_CONSOLE_OUTPUT
```

< C シェルの場合 >

```
setenv WF_CONSOLE_OUTPUT OFF
```

### 3.9.13 再ログイン時の設定値に対するクライアントのログイン結果一覧

環境設定ファイルの再ログイン (re\_login オペランド) で yes を設定していても、クライアントの種類、クライアントのバージョン又は Groupmax Address Server のログイン制御の設定によっては、クライアントから再ログインできない場合があります。

ここでは、環境設定ユティリティの [再ログイン] オプションでの設定値に対して、クライアントの種類、クライアントのバージョン又は Groupmax Address Server のログイン制御の設定によってクライアントが再ログインできるかどうかについて説明します。

#### (1) ログインユーザの Workflow ホームサーバが Workflow 管理サーバの場合

ログインユーザの Workflow ホームサーバが Workflow 管理サーバの場合のログイン実行結果について、表 3-17 に示します。

表 3-17 ホームサーバが Workflow 管理サーバの場合のログイン結果

クライアントの種類	再ログインの設定	クライアントのバージョン	ログイン済みのクライアントとログイン結果	
			Desktop <sup>1</sup>	Definer/Monitor <sup>2</sup>
Desktop <sup>1</sup>	no	すべて	再ログインできません	再ログインできません。
	yes	02-31-/A 以前	<ul style="list-style-type: none"><li>Address 先着優先 <sup>3</sup> 指定 再ログインできます。<sup>4</sup></li><li>Address 後着優先 <sup>5</sup> 指定 再ログインできます。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>Address 先着優先 <sup>3</sup> 指定 再ログインできます。<sup>6</sup></li><li>Address 後着優先 <sup>5</sup> 指定 再ログインできます。</li></ul>
		02-31-/B 以降	再ログインできます。	再ログインできます。

クライアントの種類	再ログインの設定	クライアントのバージョン	ログイン済みのクライアントとログイン結果	
			Desktop <sup>1</sup>	Definer/Monitor <sup>2</sup>
Definer/Monitor <sup>2</sup>	no	すべて	再ログインできません。	再ログインできません。
	yes	03-00 より前	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Address 先着優先 <sup>3</sup> 指定 再ログインできます。<sup>7</sup></li> <li>• Address 後着優先 <sup>5</sup> 指定 再ログインできます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ddress 先着優先 <sup>3</sup> 指定 再ログインできます。<sup>6</sup></li> <li>• Address 後着優先 <sup>5</sup> 指定 再ログインできます。</li> </ul>
		03-00 以降	再ログインできます。	再ログインできます。

## 注 1

Groupmax Integrated Desktop です。

## 注 2

Groupmax Workflow Definer 及び Groupmax Workflow Monitor です。

## 注 3

Groupmax Address Server のログイン制御での通常のログイン方式をここでは「先着優先」と呼びます。

## 注 4

ログイン済みのクライアント (Groupmax Integrated Desktop) のバージョンが 02-31-/A 以前か、又は Workflow システム以外のシステムを接続している場合、再ログインに失敗することがあります。

## 注 5

Groupmax Address Server のログイン制御での後着優先です。

## 注 6

ログイン済みのクライアント (Groupmax Workflow Definer 及び Groupmax Workflow Monitor) のバージョンが、03-00 より前で、かつ統合セットアップ後 1 回目のログインの場合、再ログインに失敗することがあります。

## 注 7

再ログインするクライアント (Groupmax Workflow Definer 及び Groupmax Workflow Monitor) が、統合セットアップ後 1 度もログインに成功していない場合、再ログインに失敗することがあります。

### 3. Groupmax Workflow の運用

#### (2) ログインユーザの Workflow ホームサーバが Workflow 管理サーバ以外の場合

ログインユーザの Workflow ホームサーバが Workflow 管理サーバ以外のサーバの場合のログイン実行結果について、表 3-18 に示します。

表 3-18 ホームサーバが Workflow 管理サーバ以外の場合のログイン結果

クライアントの種類	再ログインの設定	クライアントのバージョン	ログイン済みのクライアントとログイン結果	
			Desktop <sup>1</sup>	Definer/Monitor <sup>2</sup>
Desktop <sup>1</sup>	no	すべて	再ログインできません。	再ログインできます。 <sub>3 4</sub>
	yes	02-31-/A 以前	<ul style="list-style-type: none"> <li>Address 先着優先 <sup>5</sup> 指定 再ログインできます。 <sub>6</sub></li> <li>Address 後着優先 <sup>7</sup> 指定 再ログインできます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Address 先着優先 <sup>5</sup> 指定 再ログインできます。 <sub>3 4</sub></li> <li>Address 後着優先 <sup>7</sup> 指定 再ログインできます。 <sub>3</sub></li> </ul>
		02-31-/B 以降	再ログインできます。	再ログインできます。 <sub>3</sub>
Definer/Monitor <sup>2</sup>	no	すべて	再ログインできます。 <sub>8 9</sub>	再ログインできません。
	yes	03-00 より前	<ul style="list-style-type: none"> <li>Address 先着優先 <sup>5</sup> 指定 再ログインできます。 <sub>8 9</sub></li> <li>Address 後着優先 <sup>7</sup> 指定 再ログインできます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Address 先着優先 <sup>5</sup> 指定 再ログインできます。 <sub>4</sub></li> <li>Address 後着優先 <sup>7</sup> 指定 再ログインできます。</li> </ul>
		03-00 以降	再ログインできます。 <sub>8</sub>	再ログインできます。

注 1  
Groupmax Integrated Desktop です。

注 2  
Groupmax Workflow Definer 及び Groupmax Workflow Monitor です。

注 3  
ログイン済みのクライアント (Groupmax Workflow Definer 及び Groupmax Workflow Monitor) は強制的にログアウトされません。

注 4  
ログイン済みのクライアント (Groupmax Workflow Definer 及び Groupmax

Workflow Monitor) のバージョンが、03-00 より前で、かつ統合セットアップ後 1 回目のログインの場合、再ログインに失敗することがあります。

注 5

Groupmax Address Server のログイン制御での通常のログイン方式をここでは「先着優先」と呼びます。

注 6

ログイン済みのクライアント (Groupmax Integrated Desktop) のバージョンが 02-31-/A 以前か、又は Workflow システム以外のシステムを接続している場合、再ログインに失敗することがあります。

注 7

Groupmax Address Server のログイン制御での後着優先です。

注 8

ログイン済みのクライアント (Groupmax Integrated Desktop) は強制的にログアウトされません。

注 9

再ログインするクライアント (Groupmax Workflow Definer 及び Groupmax Workflow Monitor) が、統合セットアップ後 1 度もログインに成功していない場合、再ログインに失敗することがあります。



# 4

## Groupmax Workflow の運用 コマンド

この章では、Groupmax Workflow の運用コマンドの文法について説明します。

- 
- 4.1 運用コマンド一覧

---

  - 4.2 運用コマンドの指定方法

---

  - 4.3 運用コマンドの文法

---

  - 4.4 運用コマンド実行時の注意事項
-

## 4.1 運用コマンド一覧

Groupmax Workflow の運用コマンドの一覧を、表 4-1 に示します。

表 4-1 Groupmax Workflow の運用コマンド一覧

コマンド名称	機能	HI-UX/WE2 版及び HP-UX 版	AIX 版	
Groupmax Workflow Server の運用 コマンド	WFajssadc	ワークフローディレクトリサービスの状態取得 (JP1/AJS 対応)		
	WFajssade	ワークフローディレクトリサービスの終了 (JP1/AJS 対応)		
	WFajssads	ワークフローディレクトリサービスの起動 (JP1/AJS 対応)		
	WFajssmgc	マネージャ機能の状態取得 (JP1/AJS 対応)		
	WFajssmge	マネージャ機能の終了 (JP1/AJS 対応)		
	WFajssmgs	マネージャ機能の起動 (JP1/AJS 対応)		
	WFajsssvc	サーバ機能の状態取得 (JP1/AJS 対応)		
	WFajssve	サーバ機能の終了 (JP1/AJS 対応)		
	WFajssvs	サーバ機能の起動 (JP1/AJS 対応)		
	WFanalyst_bp	ビジネスプロセス定義情報の抽出		×
	WFanalyst_log	ワークフローログの編集		×
	WFanalyst_result	稼働実績の集計		×
	WFcache	ユーザ情報のキャッシュへの読み込み		
	WFconvertdb	ワークフローデータベースの移行		
	WFdefrl	ロール定義情報の更新の一括処理		
	WFdefusr	ユーザ定義情報の更新の一括処理		
	WFdeldb	Groupmax Workflow の環境の削除		
	WFdelwork	終了ワークの削除		
	WFdestlg	ワークフローログの出力		
	WFexprl	ロール定義情報の出力		
WFexpusr	ユーザ定義情報の出力			
WFfsck	ファイル整合性のチェック			

コマンド名称	機能	HI-UX/WE2 版及び HP-UX 版	AIX 版
	WFgetlog	障害情報の収集	
	WFinitmgr	マネージャ機能の環境の初期化	
	WFinitsv	サーバ機能の環境（ワークフローデータベース）の初期化	
	WFinsdst	ロール情報、ビジネスプロセス情報及びアプリケーション情報の配布の指示	×
	WFPackage	クラスタサーバでのサービスの操作	×
	WFregusr	ユーザの登録	
	WFstartad	ワークフローディレクトリサービスの起動	
	WFstartmgr	マネージャ機能の起動	
	WFstartsv	サーバ機能の起動	
	WFstopad	ワークフローディレクトリサービスの終了	
	WFstopmgr	マネージャ機能の終了	
	WFstopsv	サーバ機能の終了	
	WFuserls	ログインユーザの表示	
Groupmax Workflow	WFajsmc	マルチサーバ機能の状態取得（JP1/AJS 対応）	×
Multi-Server の 運用コマンド	WFajsmse	マルチサーバ機能の終了（JP1/AJS 対応）	×
	WFajsmss	マルチサーバ機能の起動（JP1/AJS 対応）	×
	WFretrans	転送要求の再送	×
	WFshowcq	受信結果待ちの転送要求の表示	×
	WFstartms	マルチサーバ機能の起動	×
	WFstopms	マルチサーバ機能の終了	×
Groupmax Workflow	WFajsscc	ドメイン間連携機能の状態取得（JP1/AJS 対応）	×
Server - Connection の運用コマンド	WFajssce	ドメイン間連携機能の終了（JP1/AJS 対応）	×
	WFajsscs	ドメイン間連携機能の起動（JP1/AJS 対応）	×
	WFifrsnd	要求メールの再送	×
	WFifrtry	送受信エラーになった連携要求の再処理要求	×

#### 4. Groupmax Workflow の運用コマンド

コマンド名称	機能	HI-UX/WE2 版及び HP-UX 版	AIX 版
WFifscon	応答メールを受け取っていない連携 要求の表示		×
WFifsreq	送受信に失敗した連携要求の表示		×
WFstartif	ドメイン間連携機能の起動		×
WFstopif	ドメイン間連携機能の終了		×

(凡例)

- : サポート
- × : 未サポート

注

クラスタ・システムを構築する場合に使用します。JP1/AJS 対応は未サポートです。

なお、Groupmax Workflow の運用コマンドを実行するには環境変数の設定が必要です。  
環境変数の設定については、「2.4.3 Groupmax Workflow での環境設定」を参照してくだ  
さい。

## 4.2 運用コマンドの指定方法

---

Groupmax Workflow の運用コマンドは、シェルに入力して実行します。コマンドの記述形式を次に示します。

コマンド オプション オプション ...

コマンド及びオプションは、オペレーティングシステムの標準形式に合わせて、すべて半角の英数字で記述します。英字の場合、大文字と小文字は区別されます。

コマンドの形式を説明するための記号の意味を次に示します。

[ ]

この記号で囲ったオプションを省略できることを示します。

{ | }

この記号で囲ったオプションのうち、必ず一つを選択して指定することを示します。

...

同じオプションを複数回指定できることを示します。

## 4.3 運用コマンドの文法

---

Groupmax Workflow Server , Groupmax Workflow Multi-Server 及び Groupmax Workflow Server - Connection のコマンドの文法を , アルファベット順に説明します。

### WFajsadc ( ワークフローディレクトリサービス状態取得コマンド : JP1/AJS 対応 )

---

#### 形 式

WFajsadc

#### 機 能

ワークフローディレクトリサービスの起動状態を取得します。

JP1/Automatic Job Scheduler から WFajsads コマンドを実行してワークフローディレクトリサービスを起動した場合 , このコマンドで起動状態を取得できます。

#### オプション

なし。

#### 実行結果

0 : 起動状態

10 : 停止状態

255 : 状態取得エラー

#### 注意事項

- このコマンドを実行できるのは , スーパユーザだけです。
- メッセージは , システムコンソールではなく , 標準出力に出力されます。
- ワークフローディレクトリサービスの停止処理中にこのコマンドを実行した場合 , 実行結果は 0 ( 起動状態 ) になります。

### WFajsade ( ワークフローディレクトリサービス終了コマンド : JP1/AJS 対応 )

---

#### 形 式

WFajsade [-f]

## 機能

ワークフローディレクトリサービスを終了します。

JP1/Automatic Job Scheduler からワークフローディレクトリサービスを終了する場合、WFstopad コマンドではなく、このコマンドを使います。

このコマンドでは、ワークフローディレクトリサービスが終了するまで制御を戻しません。ただし、環境設定ファイルの dictsv\_stop\_time\_out オペランドで指定した監視時間に従って、プロセスの終了を監視します。このオペランドの指定がない場合、監視時間は 7,200 秒間となります。

## オプション

-f

ワークフローディレクトリサービスを強制終了させる場合に指定します。

ワークフローディレクトリサービスを強制終了させた場合、キャッシュ制御情報ファイルを出力します。詳細については、「5.3.2 障害情報の採取」を参照してください。

強制終了後にワークフローディレクトリサービスを再度起動する場合は、ワークフローのすべてのプロセスが終了していることを確認して、`r` オプションを指定して Wfajsads コマンドを実行してください。

## 実行結果

0 : 正常終了

20 : 未起動

100 : タイムアウト

200 : オプション不正

255 : 終了エラー

## 注意事項

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。
- メッセージは、システムコンソールではなく、標準出力に出力されます。
- ワークフローディレクトリサービスが管理するキャッシュ情報にアタッチしているプロセスがある場合、そのプロセスが終了するまでワークフローディレクトリサービスは終了しません。  
その場合、終了監視時間を超えるとタイムアウト（実行結果が 100）になりますが、終了コマンドは受け付けられているので、このコマンドを再度実行する必要はありません。
- ワークフローディレクトリサービスの終了時に、共有メモリの情報がファイルに出力されます。そのため、ファイルの出力時間を考慮して終了監視時間を設定してください。

#### 4. Groupmax Workflow の運用コマンド

- このコマンドとワークフローディレクトリサービス起動コマンドを同時に実行しないでください。同時に実行した場合、ワークフローディレクトリサービスの終了監視が行われるため、制御が戻らないことがあります。

## WFajsads (ワークフローディレクトリサービス起動コマンド : JP1/AJS 対応)

---

### 形 式

WFajsads [-r]

### 機 能

ワークフローディレクトリサービスを起動します。

JP1/Automatic Job Scheduler からワークフローディレクトリサービスを起動する場合、WFstartad コマンドではなく、このコマンドを使います。

このコマンドでは、ワークフローディレクトリサービスの起動が完了するまで制御を戻しません。ただし、キャッシュ情報をリフレッシュした場合 (WFcache コマンドを内部的に起動した場合) は、WFcache コマンドの実行完了を待たないで制御を戻します。キャッシュ情報をリフレッシュする契機は、次に示す操作及び状態です。

- -r オプションを指定して WFajsads を実行する
- Workflow システム組織 ID を変更する
- キャッシュ情報格納ファイルがないか、又は壊れている
- キャッシュパラメタファイルの CACHE\_COMP オペランドのサイズを変更する
- Workflow システム組織下のメールユーザを追加又は削除する
- メールユーザのユーザ情報を変更する (IP アドレスの変更を含む)

### オプション

-r

ワークフローディレクトリサービスを起動するときに、Groupmax Address Server から最新のユーザ情報をキャッシュに読み込む場合に指定します。省略すると、前回使用したキャッシュのユーザ情報が利用されます。

### 実行結果

0 : 正常起動

20 : 起動済み

200 : オプション不正

255 : 起動エラー

**注意事項**

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。
- メッセージは、システムコンソールではなく、標準出力に出力されます。

## WFajsmgc ( マネージャ機能状態取得コマンド : JP1/AJS 対応 )

---

**形 式**

WFajsmgc

**機 能**

マネージャ機能の起動状態を取得します。

JP1/Automatic Job Scheduler から WFajsmgs コマンドを実行してマネージャ機能を起動した場合、このコマンドで起動状態を取得できます。

**オプション**

なし。

**実行結果**

0 : 起動状態

10 : 停止状態

255 : 状態取得エラー

**注意事項**

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。
- メッセージは、システムコンソールではなく、標準出力に出力されます。
- マネージャ機能の停止処理中にこのコマンドを実行した場合、実行結果は 0 ( 起動状態 ) になります。

## WFajsmge ( マネージャ機能終了コマンド : JP1/AJS 対応 )

---

**形 式**

WFajsmge [-f]

**機 能**

実行中の処理の終了を待って、マネージャ機能を終了します。

JP1/Automatic Job Scheduler からマネージャ機能を終了する場合、WFstopmgr コマン

#### 4. Groupmax Workflow の運用コマンド

ドではなく、このコマンドを使います。

このコマンドでは、マネージャ機能が終了するまで制御を戻しません。ただし、環境設定ファイルの `manager_stop_time_out` オペランドで指定した監視時間に従って、プロセスの終了を監視します。このオペランドの指定がない場合、監視時間は 7,200 秒間となります。

### オプション

-f

マネージャ機能を強制終了させる場合に指定します。

ワークフローデータベースの更新中に強制終了させると、データベース破壊を回避するために Groupmax Object Server が異常終了します。マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」に従って、データベースを回復してください。

### 実行結果

0 : 停止完了

20 : 未起動

100 : タイムアウト

200 : オプション不正

255 : 終了エラー

### 注意事項

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。
- メッセージは、システムコンソールではなく、標準出力に出力されます。
- タイムアウト（実行結果が 100）になった場合でも、終了コマンドは受け付けられているので、このコマンドを再度実行する必要はありません。
- このコマンドとマネージャ機能起動コマンドを同時に実行しないでください。同時に実行した場合、マネージャ機能の終了監視が行われるため、制御が戻らないことがあります。

## WFajsmgs ( マネージャ機能起動コマンド : JP1/AJS 対応 )

---

### 形 式

WFajsmgs

### 機 能

マネージャ機能を起動します。

JP1/Automatic Job Scheduler からマネージャ機能を起動する場合、WFstartmgr コマンドではなく、このコマンドを使います。

このコマンドでは、マネージャ機能の起動が完了するまで制御を戻しません。

マネージャ機能は、起動時に案件の送付要求があれば送付し、送付要求がなければ、スリープします。マネージャ機能のスリープ時間は、Groupmax Workflow の環境設定ファイルで指定できます。詳細については、「2.4.3 Groupmax Workflow での環境設定」を参照してください。

## オプション

なし。

## 実行結果

0：正常起動

20：起動済み

255：起動エラー

## 注意事項

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。
- このコマンドは、Groupmax Object Server、ワークフローディレクトリサービス、及びサーバ機能を起動し、マネージャ機能の環境を初期化した後に実行してください。
- メッセージは、システムコンソールではなく、標準出力に出力されます。

## WFajsmc ( マルチサーバ機能状態取得コマンド : JP1/AJS 対応 )

---

### 形 式

WFajsmc

### 機 能

Groupmax Workflow Multi-Server ( メッセージ送信機能及びメッセージ受信機能 ) の起動状態を取得します。

JP1/Automatic Job Scheduler から WFajsmc コマンドを実行して Groupmax Workflow Multi-Server を起動した場合、このコマンドで起動状態を取得できます。

### オプション

なし。

## 実行結果

0：起動状態（メッセージ送信機能及びメッセージ受信機能が起動状態）

1：起動状態（メッセージ送信機能だけが起動状態）

2：起動状態（メッセージ受信機能だけが起動状態）

10：停止状態

255：状態取得エラー

## 注意事項

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。
- メッセージは、システムコンソールではなく、標準出力に出力されます。
- メッセージ送信機能又はメッセージ受信機能の停止処理中にこのコマンドを実行した場合、実行結果は 0 ~ 2（起動状態）になります。

## WFajsmse（マルチサーバ機能終了コマンド: JP1/AJS 対応）

---

### 形式

WFajsmse [-f]

### 機能

実行中の処理の終了を待って、Groupmax Workflow Multi-Server（メッセージ送信機能及びメッセージ受信機能）を終了します。

JP1/Automatic Job Scheduler から Groupmax Workflow Multi-Server を終了する場合、WFstopms コマンドではなく、このコマンドを使います。

このコマンドでは、メッセージ送信機能及びメッセージ受信機能が終了するまで制御を戻しません。ただし、環境設定ファイルの multi\_server\_stop\_time\_out オペランドで指定した監視時間に従って、プロセスの終了を監視します。このオペランドの指定がない場合、監視時間は 7,200 秒間となります。なお、終了監視時間は、機能単位の時間です。

### オプション

-f

Groupmax Workflow Multi-Server を強制終了させます。

ワークフローデータベースの更新中に強制終了させると、データベース破壊を回避するために Groupmax Object Server が異常終了します。マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」に従って、データベースを回復してください。

## 実行結果

0：停止完了

20：未起動（メッセージ送信機能及びメッセージ受信機能）

100：タイムアウト（メッセージ送信機能又はメッセージ受信機能）

200：オプション不正

255：終了エラー（メッセージ送信機能又はメッセージ受信機能）

## 注意事項

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。
- メッセージは、システムコンソールではなく、標準出力に出力されます。
- タイムアウト（実行結果が 100）になった場合でも、終了コマンドは受け付けられているので、このコマンドを再度実行する必要はありません。
- メッセージ送信機能又はメッセージ受信機能のどちらかが起動している状態でこのコマンドを実行し、起動していたデーモンが停止すれば、正常終了（実行結果が 0）として扱われます。
- メッセージ送信機能の終了処理で終了エラー（実行結果が 255）が発生した場合、メッセージ受信機能の終了処理は実行されません。終了エラーの要因を取り除いて、このコマンドを再度実行してください。
- このコマンドとマルチサーバ機能起動コマンドを同時に実行しないでください。同時に実行した場合、マルチサーバ機能の終了監視が行われるため、制御が戻らないことがあります。

## WFajsmss（マルチサーバ機能起動コマンド：JP1/AJS 対応）

---

### 形 式

WFajsmss

### 機 能

Groupmax Workflow Multi-Server を起動します。

JP1/Automatic Job Scheduler から Groupmax Workflow Multi-Server を起動する場合、WFstartms コマンドではなく、このコマンドを使います。

このコマンドでは、Groupmax Workflow Multi-Server の起動が完了するまで制御を戻しません。

このコマンドを実行すると、メッセージ送信機能（WFsend\_dm）及びメッセージ受信機能（WFreceive\_dm）が起動されます。詳細については、「4.3 運用コマンドの文法」の「WFstartms（マルチサーバ機能起動コマンド）」を参照してください。

## オプション

なし。

## 実行結果

0 : 正常起動

20 : 起動済み (メッセージ送信機能及びメッセージ受信機能が起動済み)

210 : 実行環境不正

255 : 起動エラー

## 注意事項

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。
- メッセージは、システムコンソールではなく、標準出力に出力されます。
- メッセージ送信機能又はメッセージ受信機能のどちらかが起動している状態でこのコマンドを実行し、停止していたデーモンが起動すれば、正常起動 (実行結果が 0) として扱われます。
- メッセージ受信機能の起動で起動エラーが発生した場合、メッセージ送信機能の停止処理が行われます。その場合、マルチサーバ機能終了監視時間の設定値に従って監視されます。
- このコマンドとマルチサーバ機能起動コマンドを同時に実行しないでください。同時に実行した場合、マルチサーバ機能の終了監視が行われるため、制御が戻らないことがあります。
- その他の注意事項については、「4.3 運用コマンドの文法」の「WFstartms (マルチサーバ機能起動コマンド)」を参照してください。

## WFajsscc (ドメイン間連携機能状態取得コマンド : JP1/AJS 対応)

---

### 形式

WFajsscc

### 機能

ドメイン間連携機能の起動状態を取得します。

JP1/Automatic Job Scheduler から WFajsscs コマンドを実行してドメイン間連携機能を起動した場合、このコマンドで起動状態を取得できます。

### オプション

なし。

## 実行結果

0：起動状態

10：停止状態

255：状態取得エラー

## 注意事項

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。
- メッセージは、システムコンソールではなく、標準出力に出力されます。

## WFajssce (ドメイン間連携機能終了コマンド：JP1/AJS 対応)

---

### 形式

```
WFajssce [-f] [-t 終了待ち時間]
```

### 機能

実行中の処理の終了を待って、ドメイン間連携機能を終了します。

JP1/Automatic Job Scheduler からドメイン間連携機能を終了する場合、WFstopif コマンドではなく、このコマンドを使います。

### オプション

-f

ドメイン間連携機能を強制終了させ、保守情報を取得する場合に指定します。

ワークフローデータベースの更新中に強制終了させると、データベース破壊を回避するために Groupmax Object Server が異常終了します。異常終了した場合は、データベースを回復してください。データベースの回復については、マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。

保守情報は、/Flowmate/WFmc/log に出力されます。コアファイル (core) も出力されます。

-t 終了待ち時間 (0 ~ 7200)

終了完了の待ち時間を指定します (単位：秒)。省略時は 60 が設定されます。

### 実行結果

0：停止完了

20：未起動

#### 4. Groupmax Workflow の運用コマンド

100 : タイムアウト

200 : オプション不正

255 : 終了エラー

##### 注意事項

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。
- メッセージは、システムコンソールではなく、標準出力に出力されます。
- タイムアウト（実行結果が 100）になった場合でも、終了コマンドは受け付けられているので、このコマンドを再度実行する必要はありません。
- このコマンドとドメイン間連携機能起動コマンドを同時に実行しないでください。同時に実行した場合、ドメイン間連携機能の終了監視が行われるため、制御が戻らないことがあります。

## WFajsscs（ドメイン間連携機能起動コマンド：JP1/AJS 対応）

---

### 形 式

WFajsscs

### 機 能

ドメイン間連携機能を起動します。

JP1/Automatic Job Scheduler からサーバ機能を起動する場合、WFstartif コマンドではなく、このコマンドを使います。

このコマンドでは、ドメイン間連携機能の起動が完了するまで制御を戻しません。

### オプション

なし。

### 実行結果

0 : 正常起動

20 : 起動済み

200 : オプション不正

210 : 環境不正

255 : 起動エラー

**注意事項**

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。
- メッセージは、システムコンソールではなく、標準出力に出力されます。

**WFajssvc (サーバ機能状態取得コマンド : JP1/AJS 対応)**

---

**形 式**

WFajssvc

**機 能**

サーバ機能の起動状態を取得します。

JP1/Automatic Job Scheduler から WFajssvc コマンドを実行してサーバ機能を起動した場合、このコマンドで起動状態を取得できます。

**オプション**

なし。

**実行結果**

0 : 起動状態

10 : 停止状態

255 : 状態取得エラー

**注意事項**

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。
- メッセージは、システムコンソールではなく、標準出力に出力されます。
- サーバ機能の停止処理中にこのコマンドを実行した場合、実行結果は 0 (起動状態) になります。

**WFajssve (サーバ機能終了コマンド : JP1/AJS 対応)**

---

**形 式**

WFajssve [-f]

**機 能**

実行中の処理の終了を待って、サーバ機能を終了します。

JP1/Automatic Job Scheduler からサーバ機能を終了する場合、WFstopsv コマンドではなく、このコマンドを使います。

#### 4. Groupmax Workflow の運用コマンド

このコマンドでは、サーバ機能が終了するまで制御を戻しません。ただし、環境設定ファイルの `server_stop_time_out` オペランドで指定した監視時間に従って、プロセスの終了を監視します。このオペランドの指定がない場合、監視時間は 7,200 秒間となります。

### オプション

-f

サーバ機能を強制終了させる場合に指定します。

ワークフローデータベースの更新中に強制終了させると、データベース破壊を回避するために Groupmax Object Server が異常終了します。マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」に従って、データベースを回復してください。

### 実行結果

0 : 停止完了

20 : 未起動

100 : タイムアウト

200 : オプション不正

255 : 終了エラー

### 注意事項

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。
- このコマンドは、マネージャ機能を終了した後に実行してください。
- サーバ機能の停止中は、新たなログインの要求は受け付けません。
- メッセージは、システムコンソールではなく、標準出力に出力されます。
- タイムアウト（実行結果が 100）になった場合でも、終了コマンドは受け付けられているので、このコマンドを再度実行する必要はありません。
- このコマンドとサーバ機能起動コマンドを同時に実行しないでください。同時に実行した場合、サーバ機能の終了監視が行われるため、制御が戻らないことがあります。

## WFajssvs (サーバ機能起動コマンド : JP1/AJS 対応)

---

### 形 式

WFajssvs

### 機 能

サーバ機能を起動します。

JP1/Automatic Job Scheduler からサーバ機能を起動する場合、WFstartsv コマンドで

はなく、このコマンドを使います。

このコマンドでは、サーバ機能の起動が完了するまで制御を戻しません。

### オプション

なし。

### 実行結果

0：正常起動

20：起動済み

255：起動エラー

### 注意事項

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。
- このコマンドは、Groupmax Object Server の起動後に実行してください。
- メッセージは、システムコンソールではなく、標準出力に出力されます。

## WfAnalyst\_bp ( ビジネスプロセス定義情報抽出コマンド )

### 形 式

WfAnalyst\_bp -b ビジネスプロセス定義情報ファイル名称

### 機 能

ビジネスプロセス定義オブジェクトから定義情報を抽出し、ビジネスプロセス定義情報ファイルを作成します。このコマンドは、02-10 より前のバージョンの Groupmax Workflow Definer で登録したビジネスプロセス定義の稼働状況を解析する場合に使用します。

### オプション

-b ビジネスプロセス定義情報ファイル名称 ( 1 ~ 250 バイト )

ビジネスプロセス定義情報を出力するファイルの名称を、フルパス名 (/ で始まるパス名) 又はカレントディレクトリからの相対パス名で指定してください。相対パス名を指定する場合は、相対パス名をフルパス名に変換したファイル名称の長さが 250 バイトを超えないようにしてください。

### 実行結果

0：正常終了

-1：異常終了

### 注意事項

- このコマンドは、Groupmax Object Server の起動後に実行してください。
- コマンド実行中にビジネスプロセス定義を追加又は削除しないでください。抽出したビジネスプロセス定義情報ファイルの内容が不正となるおそれがあります。
- 指定した名称のビジネスプロセス定義情報ファイルが既にある場合でも上書きしますので、注意してください。
- システム組み込み時の設定では、スーパーユーザだけが実行できます。ただし、スーパーユーザが chmod コマンドで所有者又は権限を変更することで、他のユーザでも実行できます。

## WFanalyst\_log (ワークフローログ編集コマンド)

---

### 形 式

WFanalyst\_log

[-p パラメタファイル名称]

-b ビジネスプロセス定義情報ファイル名称

-n 編集対象ビジネスプロセス定義名称

-v 編集対象ビジネスプロセス定義バージョン番号

-j アンロードジャーナルファイル名称

[-j アンロードジャーナルファイル名称 ...]

### 機 能

ビジネスプロセス定義情報ファイルと、Groupmax Object Server のユーザジャーナルのアンロードジャーナルファイルから、ワークフローログレコードファイルを作成します。

なお、アンロードジャーナルファイルは、Groupmax Object Server のコマンドでアンロードしたユーザジャーナルファイルです。Groupmax Object Server のコマンドについては、マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。

ワークフローログレコードファイルのファイル名及び出力先ディレクトリは次のとおりです。

ファイル名：WF\_runtime\_log

出力先ディレクトリ：/Flowmate/analyst

ワークフローログレコードファイルのデータ形式については、「付録 C.3 ワークフローログレコードファイルのデータ形式」を参照してください。

このファイルが既にある場合、上書きによるファイル紛失を防ぐため、ファイルは出力されません。既存のファイルを別ファイルとして保存した後、実行してください。また、ディレクトリが見付からない場合、及びディレクトリに書き込み権限がない場合は、ファイルは出力されません。

このコマンドは、02-10 より前のバージョンの Groupmax Workflow Definer で登録したビジネスプロセス定義の稼働状況を解析する場合に使用します。

## オプション

-p パラメタファイル名称 (1 ~ 250 バイト)

このコマンドのパラメタファイルの名称を、フルパス名 (/ で始まるパス名) 又はカレントディレクトリからの相対パス名で指定してください。

パラメタファイルでは、編集するワークフローログの種類を指定できます。指定したファイルが見付からない場合、及びファイルに対する参照権限がない場合は、コマンドは実行されません。また、このオプションを省略した場合は、省略値で動作します。

パラメタファイルの形式及び省略値については、「付録 A.6(2) WFanalyst\_log コマンドのパラメタファイル」を参照してください。

-b ビジネスプロセス定義情報ファイル名称 (1 ~ 250 バイト)

ビジネスプロセス定義情報抽出コマンド (WFanalyst\_bp) で出力したビジネスプロセス定義情報ファイルの名称を、フルパス名 (/ で始まるパス名) 又はカレントディレクトリからの相対パス名で指定してください。ここで指定したファイルに含まれるビジネスプロセス定義のワークフローログだけが編集対象となります。指定したファイルが見付からない場合、及びファイルに対する参照権限がない場合は、コマンドは実行されません。

-n 編集対象ビジネスプロセス定義名称 (1 ~ 63 バイト)

編集対象とするワークフローログのビジネスプロセス定義名称を指定してください。

-v 編集対象ビジネスプロセス定義バージョン番号 (1 ~ 4294967295)

編集対象とするワークフローログの、ビジネスプロセス定義のバージョン番号を指定してください。1 バイトから 10 バイトまでの文字列で指定してください。

-j アンロードジャーナルファイル名称 (1 ~ 250 バイト)

Groupmax Object Server のユーザジャーナルのアンロードジャーナルファイルの名称を、フルパス名 (/ で始まるパス名)、又はカレントディレクトリからの相対パス名で指定してください。

指定したファイルが見付からない場合、及びファイルに対する参照権限がない場合は、コマンドは実行されません。

複数のファイルを指定する場合の指定方法を、次に示します。一度に指定できるファイル数の上限は 10 個です。ファイル名が重複した場合、コマンドは実行されません。

#### 4. Groupmax Workflow の運用コマンド

-j ファイル名1 [-j ファイル名2] ... [-j ファイル名n]

アンロードジャーナルファイルは、Groupmax Object Server のコマンドでアンロードしたユーザジャーナルファイルです。Groupmax Object Server のコマンドについては、マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。

#### 実行結果

0 : 正常終了

-1 : 異常終了

#### 注意事項

- ファイル名称に相対パス名を指定する場合は、相対パス名をフルパス名に変換したファイル名称の長さが 250 バイトを超えないようにしてください。
- オプションで指定したビジネスプロセス定義に関する情報が、ビジネスプロセス定義情報ファイルに含まれていない場合、コマンドは実行されません。
- ビジネスプロセス定義情報の抽出後、ビジネスプロセス定義を削除又は再登録した場合、同一ビジネスプロセス定義名で同一バージョン番号でも、異なるビジネスプロセス定義に関するワークフローログが取得されるおそれがあります。
- ワークフローログ出力ファイルの容量はユーザジャーナルの量に比例しますが、上限が設定されていないため、多大な量になるおそれがあります。ファイルシステムの容量不足に伴う障害の発生を避けるため、出力先ディレクトリ (/Flowmate/analyst) は、ルート以外のファイルシステムにマウントすることをお勧めします。
- システム組み込み時の設定では、スーパーユーザだけが実行できます。ただし、スーパーユーザが chmod コマンドで所有者又は権限を変更することで、他のユーザでも実行できます。その場合は、ファイルの出力先ディレクトリ (/Flowmate/analyst) の所有者又は権限も、コマンドの所有者又は権限と同様に変更してください。

## WFanalyst\_result (稼働実績集計コマンド)

---

### 形式

WFanalyst\_result

[-p パラメタファイル名称]

[-b ビジネスプロセス定義情報ファイル名称]

-j アンロードジャーナルファイル名称

[-j アンロードジャーナルファイル名称 ...]

## 機 能

ビジネスプロセス定義情報ファイル，及び Groupmax Object Server のユーザジャーナルのアンロードジャーナルファイルから稼働実績を集計し，./Flowmate/analyst ディレクトリに，次に示す 2 種類の実績ファイルを作成します。

なお，アンロードジャーナルファイルは，Groupmax Object Server のコマンドでアンロードしたユーザジャーナルファイルです。Groupmax Object Server のコマンドについては，マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。

ユーザ実績ファイル（ファイル名：WF\_result\_user）

ビジネスプロセス実績ファイル（ファイル名：WF\_result\_bp）

ファイルが既にある場合，上書きによるファイル紛失を防ぐため，ファイルは出力されません。既存のファイルを別ファイルとして保存し，再度実行してください。また，ディレクトリが見付からない場合，及びディレクトリに書き込み権限がない場合も，ファイルは出力されません。

実績ファイルの形式については，「付録 C 旧バージョンのワークフローログのデータ形式」を参照してください。

このコマンドは，02-10 より前のバージョンの Groupmax Workflow Definer で登録したビジネスプロセス定義の稼働状況を解析する場合に使用します。

## オプション

-p パラメタファイル名称（1 ~ 250 バイト）

このコマンドのパラメタファイルの名称を，フルパス名（/で始まるパス名）又はカレントディレクトリからの相対パス名で指定してください。

パラメタファイルでは，作成する実績ファイルの種類や，集計期間を指定できます。指定したファイルが見付からない場合，及びファイルに対する参照権限がない場合は，コマンドは実行されません。また，このオプションを省略した場合は，省略値で動作します。

パラメタファイルの形式及び省略値については，「付録 A.6(3) WFanalyst\_result コマンドのパラメタファイル」を参照してください。

-b ビジネスプロセス定義情報ファイル名称（1 ~ 250 バイト）

ビジネスプロセス定義情報抽出コマンド（WFanalyst\_bp）で出力したビジネスプロセス定義情報ファイルの名称を，フルパス名（/で始まるパス名）又はカレントディレクトリからの相対パス名で指定してください。指定したファイルが見付からない場合，及び参照権限がない場合は，コマンドは実行されません。

また，このオプションを省略した場合は，稼働実績集計結果で出力されるビジネスプロ

#### 4. Groupmax Workflow の運用コマンド

セス定義名及びノード名に、システム内で管理する識別子を出力し、ビジネスプロセス定義のバージョン番号は出力されません（" " で出力します）。

-j アンロードジャーナルファイル名称（1 ~ 250 バイト）

Groupmax Object Server のユーザジャーナルのアンロードジャーナルファイルの名称を、フルパス名（/ で始まるパス名）又はカレントディレクトリからの相対パス名で指定してください。指定したファイルが見付からない場合、及びファイルに対する参照権限がない場合は、コマンドは実行されません。

複数のファイルを指定する場合の指定方法を、次に示します。一度に指定できるファイル数の上限は 10 個です。ファイル名が重複した場合、コマンドは実行されません。

-j ファイル名1 [-j ファイル名2] ... [-j ファイル名n]

アンロードジャーナルファイルは、Groupmax Object Server のコマンドでアンロードしたユーザジャーナルファイルです。Groupmax Object Server のコマンドについては、マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。

#### 実行結果

0 : 正常終了

-1 : 異常終了

#### 注意事項

- ファイル名称に相対パス名を指定する場合は、相対パス名をフルパス名に変換したファイル名称の長さが 250 バイトを超えないようにしてください。
- 集計対象のビジネスプロセス定義の情報が、ビジネスプロセス定義情報ファイルにならない場合、ビジネスプロセス定義名称及びノード名には、システム内で管理する識別子を出力し、ビジネスプロセス定義のバージョン番号は出力されません（空文字列に置き換えられます）。
- システム組み込み時の設定では、スーパーユーザだけが実行できます。ただし、スーパーユーザが chmod コマンドで所有者又は権限を変更することで、ほかのユーザでも実行できます。その場合は、ファイルの出力先ディレクトリ（/Flowmate/analyst）の所有者又は権限も、コマンドの所有者又は権限と同様に変更してください。

## WFcache（キャッシュローディングコマンド）

---

### 形 式

WFcache

## 機 能

Groupmax Address Server から、最新のユーザ情報をキャッシュに読み込みます。

## オプション

なし。

## 実行結果

0：正常終了

1：異常終了

## 注意事項

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。
- このコマンドは、Groupmax Object Server、Groupmax Address Server、及びワークフローディレクトリサービスが起動している状態で実行してください。
- このコマンドは、キャッシュパラメタファイルの指定を基に動作します。あらかじめキャッシュパラメタファイルを作成しておいてください。

## WFconvertdb ( データベース移行コマンド )

---

## 形 式

```
WFconvertdb
```

## 機 能

現在のバージョンより前のバージョンのワークフローデータベースを、現在のバージョン用のワークフローデータベースに移行します。

このコマンドの使用方法については、「2.6 ワークフローデータベースの移行」を参照してください。

## オプション

なし。

## 実行結果

0：正常終了

-1：異常終了

## 注意事項

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。
- このコマンドは、Groupmax Object Server だけを起動した状態で実行してください。

#### 4. Groupmax Workflow の運用コマンド

Groupmax Workflow Server , 及び Groupmax Workflow Multi-Server とは , 同時に実行できません。

### WFdefrl ( ロール定義更新コマンド )

---

#### 形 式

WFdefrl

-f ロール定義更新情報入力ファイル名

[-v]

[-l ロール定義更新ログ出力ファイル名]

[-e エラーメッセージ出力ファイル名]

#### 機 能

ロール定義更新コマンドは , サーバ上で , ロールについての情報をファイルから一括して更新します。

このコマンドで更新できるロール情報を次に示します。

- 業務ロール , 組織ロール , 最上位組織ロール , 及び階層化ロールの作成及び削除
- ロールに対するロール定義者の追加及び削除
- ロールに対するロール配布管理者の追加及び削除
- ロールに対するロール配布先サーバの追加及び削除
- 業務ロールに対するユーザの追加及び削除
- 階層化ロールに対するロールの追加及び削除
- ロールに対する自動配布キーの追加及び削除
- 業務ロールのユーザに対する自動配布キーの追加及び削除
- 階層化ロールのロールに対する自動配布キーの追加及び削除
- ロールに対するロール登録サーバの設定
- 組織ロールの組織 ID の変更

WFdefrl コマンドにあらかじめ更新情報を設定したファイルを指定して実行すると , ファイルに設定した情報のとおりによりロール情報が更新されます。

更新情報のファイルは , ロール定義情報出力コマンドで出力されたロール定義情報出力ファイルを利用して作成することもできます。ロール定義情報出力コマンドの詳細については , 「4.3 運用コマンドの文法」の「WFexprl ( ロール定義情報出力コマンド)」を参照してください。

## オプション

-f ロール定義更新情報入力ファイル名 (2 ~ 250 バイト)

更新するロール定義情報を設定・入力するファイルです。このオプションは省略できません。

ファイル名はフルパス名で 2 ~ 250 バイトの文字列で設定します。

ロール定義更新情報入力ファイルは、更新する情報が 1 レコードごとに次に示す形式で指定されている必要があります。

処理コード, 更新対象ロール名, 更新対象コード [, 更新値 1][, 更新値 2][, 更新値 3]

レコード指定時の注意事項を次に示します。

- 一つのレコードは、改行を含めて 1,024 バイト以下で設定します。
- 項目と項目は「, (半角コンマ)」で区切ります。ただし、項目の値中に「,」又は「 (半角空白文字)」が入っている場合は項目を「" (ダブルクォーテーション)」で囲んでください。
- 「"」で囲まれていない項目の、値の前後の空白文字は無視されます。
- 値を設定しなければならない項目に値が設定してあれば、それ以外の項目に値を設定しても無視されて、該当するレコードの更新処理は正常に実行されます。
- 値を設定しなければならない項目に値を設定しないと、エラーメッセージが出力され、該当するレコードの更新処理は実行されません。
- レコードの先頭に「# (半角)」を指定すると、該当するレコードはコメントとして扱われ、更新処理は実行されません。

次に、レコードの各項目について説明します。

- 処理コード  
更新する情報の処理コードを、半角の英大文字で設定します。処理コードには次の四つが設定できます。また、そのレコードがコメントである場合は、ここに「# (半角)」を設定します。

N

新規ロールを作成します。

R

ロールを削除します。

A

ロール情報を追加更新します。

D

ロール情報を削除更新します。

C

組織ロールの組織 ID を追加、削除、更新します。

処理コードに対応する更新対象ロール名, 更新対象コード及び該当する処理コードの

#### 4. Groupmax Workflow の運用コマンド

機能については、この後の「ロール定義更新情報入力ファイルの項目の詳細」を参照してください。

- 更新対象ロール名  
情報を更新するロールの名称を設定します。  
更新対象ロール名に対応する処理コード、更新対象コード及び該当する処理コードの機能については、この後の「ロール定義更新情報入力ファイルの項目の詳細」を参照してください。
- 更新対象コード  
更新対象とする情報のコードを半角の英字で設定します。設定できる更新対象コードと、それに対応する値（更新値 1 ~ 3 に設定する）については、この後の「ロール定義更新情報入力ファイルの項目の詳細」を参照してください。
- 更新値 1 ~ 更新値 3  
更新する値を設定します。値を更新値 1 ~ 3 のどこへ設定するかは更新対象コードによって異なります。どの更新値にどのような値を設定するかは、この後の「ロール定義更新情報入力ファイルの項目の詳細」を参照してください。

-v

WFdefrl コマンドの実行の経過をメッセージとして、標準出力に出力します。

-l ロール定義更新ログ出力ファイル名（2 ~ 250 バイト）

WFdefrl コマンドの実行による更新の履歴を、指定したファイルに出力します。ファイル名はフルパス名で 2 ~ 250 バイトの文字列で設定します。

もし、WFdefrl コマンドの実行中にエラーが発生した場合は、このロール定義更新ログ出力ファイルの内容を参照すればエラーの内容が分かります。エラーが発生したレコードには「x」が付いているため、エラーとなった列を修正した後、ロール定義更新情報入力ファイルとして使うことができます。

更新ログの出力例を図 4-1 に示します。

図 4-1 ロール定義更新ログ出力ファイルの出力例

```
1[ # Workflow Server Role Definition Update Log V03-10 at ikna112
2[ # Exec Date & Time 19XX-03-26 21:38:47
3[ # /Flowmate/tmp/UPDFILE
4[ # -----
   [ #O      1  ,"N", "旅費精算業務", "BPROLE"
   [ #O      2  ,"R", "棚卸業務"
5. [ x      3- 1,"X", "人事部 1 課", "ORGRROLE"
   [ x      4- 2,"A", "経理部 一 2 課", "UMEMBER", "user01"
   [           :
   [           :
```

出力例について、図中の番号ごとに説明します。

1. ヘッダレコード第 1 行  
実行バージョン及び実行ホスト名が表示されます。
2. ヘッダレコード第 2 行  
実行日付及び実行時間が表示されます。
3. ヘッダレコード第 3 行  
ロール定義更新情報入力ファイル名が表示されます。
4. 区切り記号
5. ロール情報更新履歴レコード  
ロール定義情報の更新が成功したかどうか、及び更新内容が表示されます。  
更新結果  
ロール定義情報の更新が成功したかどうかが表示されます。  
：このレコードが正常に更新された場合に表示されます。  
×：このレコードの更新が失敗した場合に表示されます。  
行番号  
レコード先頭の数字は、ロール定義更新情報入力ファイルの何行目のレコードであるかを表します。更新に失敗した場合、エラーを検知した列番号が続けて表示されます。  
更新情報レコード  
ロール定義更新情報入力ファイルに指定されたレコードの内容が表示されます。

-e エラーメッセージ出力ファイル名 (2 ~ 250 バイト)

レコードフォーマットエラーなどの、継続できるエラーに対するメッセージを、指定したファイルに出力します。ファイル名はフルパス名で 2 ~ 250 バイトの文字列で設定します。

このオプションを省略した場合、Groupmax Workflow テンポラリファイルディレクトリ (/Flowmate/tmp) 下に、ファイル名「\_WFDEFRL.NG」で出力します。

ここで設定したエラーメッセージ出力ファイルと同一名のファイルが既にある場合は、上書きして出力されます。前回実行時のエラーメッセージファイルを残したい場合は、次に示すような方法から適切な方法を選択してください。

- WFdefrl コマンドを実行するごとにエラーメッセージファイル名を変更する。
- 前回実行時のエラーメッセージファイルを他のディレクトリに移動する。
- 前回実行時のエラーメッセージファイルの名称を変更する。

## 実行結果

0：正常終了

4：異常終了 (継続できるエラー) <sup>1</sup>

255：異常終了 <sup>2</sup>

#### 4. Groupmax Workflow の運用コマンド

##### 注 1

現在実行中のユーザの処理を中止し、次ユーザ以降の処理を継続できるレベルのエラーが 1 回以上発生したことを示します。エラーの詳細は、WFdefrl コマンドの -e オプションで指定するエラーメッセージ出力ファイルを参照してください。

##### 注 2

コマンドの処理を継続できないエラーの発生によって、コマンドの実行が中断されたことを示します。エラーの詳細は、コンソールウィンドウ又は syslog ファイルに出力されたメッセージを参照してください。

#### ルール定義更新情報入力ファイルの項目の詳細

ルール定義更新情報入力ファイルの処理コード、更新対象ルール名、更新対象コード及び機能の一覧を表 4-2 に示します。

ルール定義更新情報入力ファイルの更新対象コードと更新値の一覧を表 4-3 に示します。

表 4-2 処理コード、更新対象ルール名、更新対象コード及び機能の一覧

処理コード	更新対象ルール名	更新対象コード	処理コードの機能
N	業務ルール名 <sup>1</sup>	BPROLE	業務ルールを作成します。ルール作成時、Workflow システム組織 ID の直下に登録されているすべてのユーザ ID を、該当するルールのルール配布先サーバとして設定します。
N	組織ルール名	ORGROLE	組織ルールを作成します。ルール作成時、Workflow システム組織 ID の直下に登録されているすべてのユーザ ID を、該当するルールのルール配布先サーバとして設定します。
N	最上位組織ルール名	CMPROLE	最上位組織ルールを作成します。ルール作成時、Workflow システム組織 ID の直下に登録されているすべてのユーザ ID を、該当するルールのルール配布先サーバとして設定します。
N	階層化ルール名	LAYROLE	階層化ルールを作成します。ルール作成時、Workflow システム組織 ID の直下に登録されているすべてのユーザ ID を、該当するルールのルール配布先サーバとして設定します。
R	ルール名 <sup>1</sup>	-	ルールを削除します。ルール削除時、該当するルールに設定されていた自動配布キーをすべて削除します。
A	ルール名 <sup>1</sup>	DEFUSR	ルールにルール定義者を追加します。 <sup>2</sup>
D	ルール名 <sup>1</sup>	DEFUSR	ルールからルール定義者を削除します。
A	ルール名 <sup>1</sup>	DISTUSR	ルールにルール配布管理者を追加します。 <sup>2</sup>

処理 コード	更新対象ロール名	更新対象 コード	処理コードの機能
D	ロール名 <sup>1</sup>	DISTUSR	ロールからロール配布管理者を削除します。
A	ロール名 <sup>1</sup>	DISTSVR	ロールにロール配布先サーバを追加します。
D	ロール名 <sup>1</sup>	DISTSVR	ロールからロール配布先サーバを削除します。
A	業務ロール名 <sup>1</sup>	UMEMBER	業務ロールにユーザを追加します。
D	業務ロール名 <sup>1</sup>	UMEMBER	業務ロールからユーザを削除します。 業務ロールの自動配布キーに、削除したユーザの自動配布キー値があった場合、該当する自動配布キー値から削除したユーザの割り当てを削除します。
A	階層化ロール名	RMEMBER	階層化ロールにロールを追加します。
D	階層化ロール名	RMEMBER	階層化ロールからロールを削除します。階層化ロールの自動配布キーに、削除したロールの自動配布キー値があった場合、該当する自動配布キー値から削除したロールの割り当てを削除します。
A	業務ロール名 <sup>1</sup> 階層化ロール名	AUTOKEY	ロールに自動配布キーを追加します。
D	業務ロール名 <sup>1</sup> 階層化ロール名	AUTOKEY	ロールから自動配布キーを削除します。
A	業務ロール名 <sup>1</sup>	UKEYVAL	業務ロールのユーザに対応する自動配布キー値を追加します。
D	業務ロール名 <sup>1</sup>	UKEYVAL	業務ロールのユーザに対応する自動配布キー値を削除します。
A	階層化ロール名	RKEYVAL	階層化ロールのロールに対応する自動配布キー値を追加します。
D	階層化ロール名	RKEYVAL	階層化ロールのロールに対応する自動配布キー値を削除します。
A	ロール名 <sup>1</sup>	SETSVR	ロールにロール登録サーバを設定します。
C	組織を指定した組織 ロール名	ORGTOORG	組織 ID を変更します。 (組織 ID から組織 ID への変更)
C	組織を指定した組織 ロール名	ORGTOCMP	組織 ID を変更します。 (組織 ID から最上位組織 ID への変更)
C	最上位組織を指定し た組織ロール名	CMPTOORG	最上位組織 ID を変更します。 (最上位組織 ID から組織 ID への変更)
C	最上位組織を指定し た組織ロール名	CMPTOCMP	最上位組織 ID を変更します。 (最上位組織 ID から最上位組織 ID への変更)

(凡例)

- : 指定しません。

#### 4. Groupmax Workflow の運用コマンド

注 1

02-10 以降のバージョンの Groupmax Workflow Definer 又は WFdefrl コマンドで作成したロールだけが更新対象となります。

注 2

設定できるのは 200 人までです。

表 4-3 更新対象コードと更新値

更新対象コード	更新値 1	更新値 2	更新値 3
BPROLE	-	-	-
ORGRROLE	組織 ID	-	-
CMPROLE	最上位組織 ID	-	-
LAYROLE	-	-	-
DEFUSR	ロール定義者ユーザ ID	-	-
DISTUSR	ロール配布管理者ユーザ ID	-	-
DISTSVR	ロール配布先サーバ名	-	-
UMEMBER	ユーザ ID	-	-
RMEMBER	業務ロール名 組織ロール名	-	-
AUTOKEY	自動配布キー名	-	-
UKEYVAL	自動配布キー名	自動配布キー値	ユーザ ID
RKEYVAL	自動配布キー名	自動配布キー値	業務ロール名 組織ロール名
SETSVR	ロール登録サーバ名	-	-
ORGTOORG	変更後組織 ID	-	-
ORGTOCMP	変更後最上位組織 ID	-	-
CMPTOORG	変更後組織 ID	-	-
CMPTOCMP	変更後最上位組織 ID	-	-

(凡例)

- : 指定しません。

注

02-10 以降のバージョンの Groupmax Workflow Definer 又は WFdefrl コマンドで作成したロールだけが更新対象となります。

更新対象ロール名を指定するときの注意事項

更新対象ロール名を指定するときは、次の点に注意してください。

- ロール名は 1 ~ 63 バイトで指定してください。
- ロール名は次に示す文字で指定してください。

#### 1 バイトコード

1 バイトコード (半角) では次に示す文字を使用できます。なお, ここでは, 仮名文字は全角で表記しています。

英文字 (A ~ Z, a ~ z)

仮名文字 (ア ~ ン, ア ~ オ, ヤ, ユ, ヨ, ツ, ー, ` , ° )

アンダーバー ( \_ )

数字 (0 ~ 9)

#### 2 バイトコード

2 バイトコード (全角) では次の文字を除く文字を使用できます。

「"」, 「^」及び空白

- 処理コード R, A 又は D に対応するロールを指定するときは, 実際にあるロールを指定してください。次に示す場合は, ロールはないものとみなされます。
  - 指定したロールはあるが, 02-10 以降のバージョンの Groupmax Workflow Definer 又は WFdefrl コマンドで作成したロールでない。
  - 指定したロールは 02-10 以降のバージョンの Groupmax Workflow Definer で作成したロールであるか, 又は WFdefrl コマンドで作成したロールであるが, 配布予約状態が「削除予約」である。
- 処理コード R, A 又は D に対応するロールを指定するときは, 現在他サーバへ配布中でないロールを指定してください。
- 処理コード R に対応するロールを指定するときは, ビジネスプロセス定義で使用されていないロールを指定してください。
- 処理コード R に対応するロールを指定するときは, ビジネスプロセス定義で使用されている階層化ロールに登録しているロールは指定できません。
- 処理コード N に対応するロールを指定するときは, 実際にある 02-10 以降のバージョンの Groupmax Workflow Definer 又は WFdefrl コマンドで作成したロールと同じ名称のロール名は指定できません。

#### 更新値を指定するときの注意事項

更新値 1 ~ 3 に値を指定するときの注意事項を次に示します。

##### 組織 ID

- Groupmax Address Server に登録済みの組織 ID を指定してください。
- 最上位組織 ID 「GMAXSYS」の下位組織は指定できません。

##### 最上位組織 ID

- Groupmax Address Server に登録済みの最上位組織 ID を指定してください。
- 最上位組織 ID 「GMAXSYS」は指定できません。

##### ロール定義者ユーザ ID

#### 4. Groupmax Workflow の運用コマンド

- Groupmax Address Server に登録済みで、かつ Workflow サーバが設定されているユーザ ID を指定してください。
- ドメイン管理者，ワークフロー運用管理者，又はビジネスプロセス管理者のどれかの権限を持つユーザ ID を指定してください。
- ロール定義者は，ロールごとに 200 人まで設定できます。

##### ロール配布管理者ユーザ ID

- Groupmax Address Server に登録済みで、かつ Workflow サーバが設定されているユーザ ID を指定してください。
- ドメイン管理者，又はワークフロー運用管理者のどちらかの権限を持つユーザ ID を指定してください。
- ロール配布管理者は，ロールごとに 200 人まで設定できます。

##### ロール配布先サーバ名

- Workflow システム組織 ID の直下に登録されているユーザ ID を指定してください。

##### 注

ロール配布先サーバを削除するときに，指定したロール配布先サーバがロール登録サーバの場合，削除できません。

##### ユーザ ID

- Groupmax Address Server に登録済みで、かつ Workflow サーバが設定されているユーザ ID を指定してください。
- 更新対象コードが UKEYVAL の場合，業務ロールに登録済みのユーザ ID を指定してください。

##### 業務ロール名又は組織ロール名

- 実際にあるロールを指定してください。  
次に示す場合は，ロールはないものとみなされます。
  - 指定したロールはあるが，02-10 以降のバージョンの Groupmax Workflow Definer 又は WFdefrl コマンドで作成したロールでない。
  - 指定したロールは 02-10 以降のバージョンの Groupmax Workflow Definer 又は WFdefrl コマンドで作成したロールであるが，配布予約状態が「削除予約」である。
- 処理コードが A の更新対象コード RMEMBER の場合，現在他サーバへ配布中でないロールを指定してください。
- 更新対象コードが RKEYVAL の場合，階層化ロールに登録済みのロールを指定してください。
- 処理コードが D の更新対象コード RMEMBER の場合，ビジネスプロセス定義で使用されている階層化ロールに登録されているロールは指定できません。

##### 自動配布キー名

- 自動配布キー名は，1 ～ 63 バイトで指定してください。
- 自動配布キー名は，次に示す文字で指定してください。

### 1 バイトコード

1 バイトコード（半角）では次に示す文字を使用できます。なお、ここでは、仮名文字は全角で表記しています。

英文字（A ~ Z, a ~ z）

仮名文字（ア～ン, ア～オ, ヤ, ユ, ヨ, ツ, ー, ˆ, ˚）

アンダーバー（\_）

数字（0 ~ 9）

### 2 バイトコード

2 バイトコード（全角）では次の文字を除く文字を使用できます。

「"」,「^」及び空白

- 処理コードが D の更新対象コード AUTOKEY, 更新対象コード UKEYVAL, 及び更新対象コード RKEYVAL の場合, 更新対象ロールに設定済みの自動配布キー名を指定してください。
- 処理コードが D の更新対象コード AUTOKEY の場合, ビジネスプロセス定義で使用されていない自動配布キー名を指定してください。
- 処理コードが A の更新対象コード AUTOKEY の場合, 更新対象ロールに設定済みの自動配布キー名は設定できません。

#### 注

階層化ロールに自動配布キーを追加するときに、既に別の自動配布キーが設定されていた場合、追加できません。

#### 自動配布キー値

- 自動配布キー値は、1 ~ 31 バイトで指定してください。
- 自動配布キー値は、次に示す文字で指定してください。

### 1 バイトコード

1 バイトコード（全角）では次の文字を除く文字を使用できます。

「"」,「^」及び空白

### 2 バイトコード

2 バイトコード（全角）では次の文字を除く文字を使用できます。

「"」,「^」及び空白

- 処理コードが D の更新対象コード UKEYVAL 及び処理コードが D の更新対象コード RKEYVAL の場合, 自動配布キーに設定済みの自動配布キー値を指定してください。

#### ロール登録サーバ名

- Workflow システム組織 ID の直下に登録されているユーザ ID を指定してください。

#### 注

ロール登録サーバを設定するときに、既に更新対象ロールにロール登録サーバが設定されていて、該当するロールが他サーバに配布済みの場合、設定できません。

## 注意事項

コマンド実行時の注意事項を次に示します。

- このコマンドは、Workflow 管理サーバでだけ実行できます。
- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザ権限を持つユーザだけです。
- このコマンドは、Groupmax Object Server 及び Groupmax Address Server を起動している状態で実行してください。
- このコマンドは、次のコマンドと同時に実行できません。
  - WFexprl コマンド
  - WFdefusr コマンド
  - WFexpusr コマンド
  - WRegusr コマンド
- -f オプションで指定したファイルがない場合、又はファイルにアクセス権がない場合、コマンドの実行を中止します。
- -l オプションで指定したファイルが既にある場合、コマンドの実行を中止します。
- -l 及び -e オプションで指定したディレクトリがない場合、又はディレクトリにアクセス権がない場合、コマンドの実行を中止します。

## WFdefusr ( ユーザ定義更新コマンド )

---

### 形 式

WFdefusr

-f ユーザ定義更新情報入力ファイル名

[-v]

[-l ユーザ定義更新ログ取得ファイル名]

[-e エラーメッセージ出力ファイル名]

### 機 能

ユーザに関する情報をファイルから一括で更新します。

更新できるユーザ情報は大きく分けて次の六つです。

- 案件受付状態
- ユーザヒストリの取得最大値
- ユーザに関するコメント
- ユーザ属性 1
- ユーザ属性 2
- 他の定義 ( 権限管理, 組織, 業務ルール, ビジネスプロセス管理者, ロール定義管理者, 代行配布ユーザ及び代行者 ) への関連

更新情報のファイルは、WFexpusr コマンドで出力されたユーザ定義情報ファイルを利用して作成することもできます。

## オプション

-f ユーザ定義更新情報入力ファイル名 (2 ~ 250 バイト)

更新するユーザ定義情報を設定・入力するファイルです。このオプションを省略することはできません。

ファイル名はフルパス名で 2 ~ 250 バイトの文字列で設定します。

ユーザ定義更新情報入力ファイルは、更新する情報が 1 レコードごとに次に示す形式で設定されている必要があります。

処理コード, ユーザ ID, 更新対象コード, 更新値 1[, 更新値 2][, 更新値 3][, 更新値 4]  
[, 更新値 5]

レコード指定時の注意事項を次に示します。

- 一つのレコードは、改行を含めて 1,024 バイト以下で設定します。
- 項目と項目は「,」（半角コンマ）で区切ります。ただし、項目の値中に「,」が入っている場合は項目を「"」（ダブルクォーテーション）で囲んでください。
- 「"」で囲まれていない項目の、値の前後の空白文字は無視されます。

次に、レコードの各項目について説明します。

### • 処理コード

更新する情報の処理コードを半角の英大文字で設定します。処理コードには次の三つが設定できます。また、そのレコードがコメントである場合は、ここに「#（半角）」を設定します。

#### C

属性情報を変更します。C を設定すると、この後の「更新対象コード」に、STAT, HMAX, CMNT, ATR1, ATR2 及び ALLA が設定できます。

#### A

他の定義との関連を設定します。A を設定すると、後に設定する「更新対象コード」として、AUTH, ORG, CMP, ROLE, KEYV, BPAG, AGNT, BADM, BDST, RDEF 及び RDST が設定できます。

#### D

他の定義との関連を削除します。D を設定すると、後に設定する「更新対象コード」として、AUTH, ORG, CMP, ROLE, KEYV, BPAG, AGNT, BADM, BDST, RDEF 及び RDST が設定できます。

### • ユーザ ID

情報を更新するユーザのユーザ ID を設定します。

#### 4. Groupmax Workflow の運用コマンド

- 更新対象コード  
更新対象とする情報のコードを半角の英数字で設定します。設定できる更新対象コードと、それに対応する値（更新値 1 ~ 5 に設定する）については、表 4-4 を参照してください。
- 更新値 1 ~ 更新値 5  
更新する値を設定します。値を更新値 1 ~ 5 のどこへ設定するかは更新対象コードによって異なります。どの更新値にどのような値を設定するかは、表 4-4 を参照してください。

表 4-4 更新対象コードと更新値

更新対象コード	コードの意味	更新値に設定できる値
STAT <sup>4</sup>	案件受付状態の変更	act, dea, inac <sup>1</sup> の一つ（更新値 1 に設定） 注 それぞれ act(受付可能), dea(代行者配布), inac(受付禁止)を表す。
HMAX <sup>4</sup>	ユーザ履歴最大数の変更	範囲 0 ~ 1023 の値（更新値 1 に設定）
CMNT <sup>4</sup>	コメントの変更	コメント情報 <sup>2</sup> （更新値 1 に設定）
ATR1 <sup>4</sup>	ユーザ属性 1 の変更	ユーザ属性 1 <sup>2</sup> （更新値 1 に設定）
ATR2 <sup>4</sup>	ユーザ属性 2 の変更	ユーザ属性 2 <sup>2</sup> （更新値 1 に設定）
ALLA <sup>4</sup>	全属性の一括変更	案件受付状態（更新値 1 に設定） ユーザ履歴最大数（更新値 2 に指定） コメント（更新値 3 に指定） <sup>2</sup> ユーザ属性 1（更新値 4 に指定） <sup>2</sup> ユーザ属性 2（更新値 5 に指定） <sup>2</sup>
AUTH <sup>5</sup>	ユーザ権限の変更 / 削除	domi, admi, wfm <sup>1</sup> の一つ（更新値 1 に設定） 注 処理コードに D を設定した場合は更新値には何も設定しない。 それぞれ domi(ドメイン管理者), admi(ワークフロー運用管理者), wfm(ビジネスプロセス管理者)を表す。
ORG <sup>5</sup>	組織へのアクセス権の追加 / 削除	組織 ID（更新値 1 に設定）
CMP <sup>5</sup>	最上位組織へのアクセス権の追加 / 削除	最上位組織 ID（更新値 1 に設定）
ROLE <sup>5</sup>	業務ロールへのユーザの追加 / 削除	ロール名（更新値 1 に設定） <sup>3</sup>
KEYV	自動配布キーへの自動配布キー値の追加 / 削除	ロール名（更新値 1 に設定） <sup>3</sup> 自動配布キー名（更新値 2 に設定） 自動配布キー値（更新値 3 に設定） <sup>6</sup>

更新対象コード	コードの意味	更新値に設定できる値
BPAG <sup>4</sup>	代行配布ユーザの変更 / 削除	ビジネスプロセス定義名 (更新値 1 に設定) <sup>3</sup> 代行配布ユーザ ID(更新値 2 に設定)
AGNT <sup>4</sup>	代行者の追加 / 削除	代行者ユーザ ID(更新値 1 に設定)
BADM <sup>5 7</sup>	ビジネスプロセス管理者の追加 <sup>10</sup> / 削除	ビジネスプロセス定義名(更新値 1 に設定) <sup>3</sup> ビジネスプロセス定義バージョン又は ALL(更新値 2 に設定) <sup>9</sup> 注 ビジネスプロセス定義バージョンに ALL を設定した場合は、更新値 1 に指定したビジネスプロセス定義のすべてのバージョンを表す。
BDST <sup>5 8</sup>	ビジネスプロセス配布管理者の追加 <sup>10</sup> / 削除	ビジネスプロセス定義名(更新値 1 に設定) <sup>3</sup> ビジネスプロセス定義バージョン又は ALL(更新値 2 に設定) <sup>9</sup> 注 ビジネスプロセス定義バージョンに ALL を設定した場合は、更新値 1 に指定したビジネスプロセス定義のすべてのバージョンを表す。
RDEF <sup>5 7</sup>	ロール定義者の追加 <sup>10</sup> / 削除	ロール名(更新値 1 に設定) <sup>3</sup>
RDST <sup>5 8</sup>	ロール配布管理者の追加 <sup>10</sup> / 削除	ロール名(更新値 1 に設定) <sup>3</sup>

注 1  
半角英小文字で設定します。

注 2  
更新値を省略できます。省略した場合、その定義情報はクリアされます。また、設定する値に、タブ、「"」及び「^」は半角文字も全角文字も使用できません。

注 3  
02-10 以降のバージョンの Groupmax Workflow Definer から登録したビジネスプロセス、ロール、又はロール定義更新コマンドから登録したロールだけが更新対象となります。

注 4  
この更新対象コードは、更新対象ユーザのユーザトレイがあるサーバ (Workflow ホームサーバ) で有効となります。

注 5  
この更新対象コードは、Workflow 管理サーバで有効となります。

#### 4. Groupmax Workflow の運用コマンド

注 6

設定する値に、タブ、「"」及び「^」は半角文字も全角文字も使用できません。

注 7

指定するユーザ ID はビジネスプロセス管理者 (wfm) 以上の権限が必要です。

注 8

指定するユーザ ID はワークフロー運用管理者 (admi) 以上の権限が必要です。

注 9

指定するビジネスプロセス定義バージョンの前に 0 を指定した場合、その 0 は無視されます。

注 10

設定できるのは 200 人までです。

-v

WFdefusr コマンドの実行の経過をメッセージとして、標準出力に出力します。

-l ユーザ定義更新ログ取得ファイル名 (2 ~ 250 バイト)

WFdefusr コマンドの実行による更新の履歴を、指定したファイルに出力します。ファイル名はフルパス名で 2 ~ 250 バイトの文字列で設定します。

もし、WFdefusr コマンドの実行中にエラーが発生した場合は、このユーザ定義更新ログ取得ファイルの内容を参照すればエラーの内容が分かります。また、このファイルは内容を加工することによって、ユーザ定義更新情報入力ファイルとして使うことができるので便利です。

更新ログの出力例を図 4-2 に示します。

図 4-2 ユーザ定義更新ログ取得ファイルの出力例

```
1[ # Workflow Server User Definition Update Log V03-10 at server01
2[ # Exec Date & Time 19xx-08-28 21:03:39
3[ # /Flowmate/tmp/UPDFILE
4[ #-----
5[ #O      1      . A, k971111, BPAG, 旅費申請付近地BP, k882021
   #x      2-4    . C, k871824, STAT, ddd
                                     :
                                     :
```

出力例について図中の番号ごとに説明します。

1. ヘッダレコード第 1 行

実行バージョン及び実行ホスト名が表示されます。

2. ヘッダレコード第 2 行  
実行日付及び実行時間が表示されます。
3. ヘッダレコード第 3 行  
ユーザ定義更新情報入力ファイル名が表示されます。
4. 区切りレコード
5. ユーザ情報更新履歴レコード  
ユーザ定義情報の更新が成功したかどうか、及び更新内容が表示されます。  
印は「更新成功」、×印は「更新失敗」、無印は「更新処理スキップ」を示します。  
レコード先頭の数字は、ユーザ定義更新情報入力ファイルの何番目のレコードかを示します。また、「更新失敗」の場合、エラーを検知した列番号が続けて表示されます。

-e エラーメッセージ出力ファイル名 (2 ~ 250 バイト)

レコードフォーマットエラーなど、コマンドの実行を継続できるエラーに対するメッセージを、指定したファイルに出力します。ファイル名はフルパス名で 2 ~ 250 バイトの文字列で設定します。

このオプションを省略した場合は、Groupmax Workflow テンポラリファイルディレクトリ (/Flowmate/tmp) 下に、ファイル名「\_WFDEFU.NG」で出力します。

ここで設定したエラーメッセージ出力ファイルと同一名のファイルが既にある場合は、上書きして出力されます。前回実行時のエラーメッセージファイルを残したい場合は、次に示すような方法から適切な方法を選択してください。

- WFdefusr コマンドを実行するごとにエラーメッセージファイル名を変更する。
- 前回実行時のエラーメッセージファイルを他のディレクトリに移動する。
- 前回実行時のエラーメッセージファイルの名称を変更する。

## 実行結果

0 : 正常終了

4 : 異常終了 (継続できるエラー) <sup>1</sup>

255 : 異常終了 <sup>2</sup>

注 1

現在実行中のユーザの処理を中止し、次ユーザ以降の処理を継続できるレベルのエラーが 1 回以上発生したことを示します。エラーの詳細は、WFdefusr コマンドの -e オプションで指定するエラーメッセージ出力ファイルを参照してください。

注 2

コマンドの処理を継続できないエラーの発生によって、コマンドの実行が中断されたことを示します。エラーの詳細は、WFdefusr コマンド実行中の Workflow サーバの syslog ファイルを参照してください。

## 補足説明

コマンドを実行した結果、ユーザ情報更新履歴レコードで「更新失敗」及び「更新処理スキップ」と表示された場合の要因を次に示します。これに従ってユーザ定義更新情報入力ファイルを修正し、再度実行してください。

### 更新失敗（×印）の要因

更新失敗の要因として考えられるエラーの内容を、レコードの列ごとに示します。ここでの「列」とは、ユーザ定義更新ログ取得ファイルの、レコード番号（図 4-2 での「1」及び「2-4」）の右の列を「1列目」として数えます。

#### 1 列目（処理コード指定欄）のエラー

- 処理コードが「C」、「A」及び「D」以外である。

#### 2 列目（ユーザ ID 指定欄）のエラー

- 指定したユーザが Groupmax Address Server に登録されていない。
- 指定したユーザは Groupmax Address Server に登録されているが、Groupmax Workflow サーバに設定されていない。
- 指定したユーザのユーザ ID が「system」である。

#### 3 列目（更新対象コード指定欄）のエラー

- 処理コードが「C」であるときに、更新対象コードが「STAT」、「HMAX」、「CMNT」、「ATR1」、「ATR2」及び「ALLA」以外である。
- 処理コードが「A」又は「D」であるときに、更新対象コードが「AUTH」、「ORG」、「CMP」、「ROLE」、「KEYV」、「BPAG」、「AGNT」、「BADM」、「BDST」、「RDEF」及び「RDST」以外である。
- 更新対象コードが「BDST」又は「RDST」であるときに、指定されたユーザにはワークフロー運用管理者以上の権限がない。
- 更新対象コードが「BADM」又は「RDEF」であるときに、指定されたユーザにはビジネスプロセス管理者以上の権限がない。

#### 4 列目以降（更新値指定欄）のエラー

- 更新対象コードが「STAT」であるときに、更新値が「act」、「dea」及び「inac」以外である。
- 更新対象コードが「HMAX」であるときに、更新値が次のどちらかである。  
0 ~ 1023 の半角数字でない。  
指定文字数が 10 文字以内でない。
- 更新対象コードが「CMNT」であるときに、更新値が次のどれかである。  
文字列の長さが 127 バイト以内でない。  
文字列中に 1 バイトコード（半角）のタブ、「"」又は「^」が指定されている。  
文字列中に 2 バイトコード（全角）の「"」又は「^」が指定されている。
- 更新対象コードが「ATR1」又は「ATR2」であるときに、更新値が次のどれかである。  
文字列の長さが 31 バイト以内でない。

文字列中に 1 バイトコード (半角) のタブ, 「"」又は「^」が指定されている。

文字列中に 2 バイトコード (全角) の「"」又は「^」が指定されている。

- 更新対象コードが「AUTH」であるときに、更新値が次のどれかである。  
 処理コードが「A」の場合  
 「domi」、「admi」及び「wfm」以外である。  
 「domi」又は「admi」から「wfm」への変更要求であるが、指定したユーザがビジネスプロセス配布管理者又はロール定義配布管理者である。  
 処理コードが「D」の場合  
 指定したユーザがビジネスプロセス管理者、ビジネスプロセス配布管理者、ロール定義者、又はロール定義配布管理者である。
- 更新対象コードが「ORG」であるときに、更新値が次のどちらかである。  
 指定した組織 ID が Groupmax Address Server に登録されていない。  
 指定した組織 ID の最上位組織 ID が「GMAXSYS」である。
- 更新対象コードが「CMP」であるときに、更新値が次のどちらかである。  
 指定した最上位組織 ID が Groupmax Address Server に登録されていない。  
 指定した最上位組織 ID が「GMAXSYS」である。
- 更新対象コードが「ROLE」であるときに、更新値が次のどちらかである。  
 指定した業務ロールが Groupmax Workflow データベースにない。  
 指定した業務ロールは、02-10 以降のバージョンの Groupmax Workflow Definer 又はロール定義更新コマンドから登録した業務ロールでない。
- 更新対象コードが「ROLE」であるときに、更新値で指定したロールの配布状態が「実行中」である。
- 更新対象コードが「KEYV」であるときに、更新値が次のどれかである。  
 指定した業務ロールが Workflow データベースにない。  
 指定した業務ロールは、02-10 以降のバージョンの Groupmax Workflow Definer 又はロール定義更新コマンドから登録した業務ロールでない。  
 指定した自動配布キー名が指定した業務ロールにない。  
 指定した自動配布キー値の文字列の長さが 31 バイト以内でない。  
 指定した自動配布キー値の文字列の中に、1 バイトコード (半角) のタブ, 「"」又は「^」が指定されている。  
 指定した自動配布キー値の文字列の中に、2 バイトコード (全角) の「"」又は「^」が指定されている。
- 更新対象コードが「KEYV」であるときに、更新値で指定したロールの配布状態が「実行中」である。
- 更新対象コードが「BPAG」であるときに、更新値が次のどれかである。  
 指定したビジネスプロセス定義が Groupmax Workflow データベースにない。  
 指定したビジネスプロセス定義は、02-10 以降のバージョンの Groupmax Workflow Definer から登録したビジネスプロセス定義でない。  
 指定した代行配布ユーザが Groupmax Address Server に登録されていない。  
 指定した代行配布ユーザは Groupmax Address Server に登録されているが、Groupmax Workflow サーバが設定されていない。

#### 4. Groupmax Workflow の運用コマンド

指定した代行配布ユーザのユーザ ID が「system」である。

- 更新対象コードが「AGNT」であるときに、更新値が次のどれかである。  
指定した代行者が Groupmax Address Server に登録されていない。  
指定した代行者は Groupmax Address Server に登録されているが、Groupmax Workflow サーバに設定されていない。  
指定した代行者のユーザ ID が「system」である。
- 更新対象コードが「BADM」又は「BDST」であるときに、更新値が次のどれかである。  
指定したビジネスプロセス定義が Workflow データベースにない。  
指定したビジネスプロセス定義は、02-10 以降のバージョンの Groupmax Workflow Definer から登録したビジネスプロセス定義でない。  
指定したビジネスプロセス定義バージョンのビジネスプロセス定義が Workflow データベースにない。  
指定したビジネスプロセス定義バージョンが、1 以上の半角数字又は半角英文字の「ALL」以外である。  
指定したビジネスプロセス定義バージョンが 10 文字以内でない。  
設定するユーザが 200 人を超えている。
- 更新対象コードが「BADM」であるときに、更新値で指定したビジネスプロセス定義の配布状態が「実行中」である。
- 更新対象コードが「RDEF」又は「RDST」であるときに、更新値が次のどれかである。  
指定したロールが Workflow データベースにない。  
指定したロールは、02-10 以降のバージョンの Groupmax Workflow Definer 又はロール定義更新コマンドで登録したロールでない。  
設定するユーザが 200 人を超えている。

エラーが発生した列が特定できないエラー

- 処理コード、ユーザ ID、更新対象コード、又は更新値が設定されていない。
- 指定文字列の定義フォーマットエラーである。
- レコードの長さが 1,024 バイトを超えている。
- 更新処理中に資源の競合が発生した。

#### 更新処理スキップ（無印）の要因

更新処理スキップの要因として考えられるエラーの内容を、次に示します。

更新対象コードが「STAT」、「HMAX」、「CMNT」、「ATR1」、「ATR2」、「ALLA」、「BPAG」又は「AGNT」であるときに、指定したユーザのユーザトレイが WFdefusr コマンドを実行したサーバにない

この場合、原因として次の理由が考えられます。

- 指定したユーザのユーザトレイが WFdefusr コマンドを実行したサーバ以外のサーバにある。
- 指定したユーザを、WFdefusr コマンドを実行したサーバに登録及び移動したが、

WFregusr コマンドをまだ実行していない。

更新対象コードが「AUTH」、「ORG」、「CMP」、「ROLE」、「KEYV」、「BADM」、「BDST」、「RDEF」又は「RDST」であるときに、WFdefusr コマンドを実行したサーバが Workflow 管理サーバでない

## 注意事項

コマンド実行時の注意事項を次に示します。

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザ権限を持つユーザだけです。
- このコマンドは、Groupmax Object Server、及び Groupmax Address Server を起動している状態で実行してください。
- このコマンドは、WFregusr コマンド、WFexpusr コマンド、WFdefrl コマンド、及び WFexprl コマンドと同時に実行できません。
- `-f` オプションで指定したファイルがない場合、又はファイルにアクセス権がない場合、コマンドの実行を中止します。
- `-l` オプションで指定したファイルが既にある場合、コマンドの実行を中止します。
- `-l`、及び `-e` オプションで指定したディレクトリがない場合、又はディレクトリにアクセス権がない場合、コマンドの実行を中止します。
- このコマンドを、Groupmax Address Server のユーザ登録情報と Groupmax Workflow のユーザ登録情報 (Workflow データベース) とに差異がある状態で実行すると、期待した更新結果が得られない場合があります。Groupmax Address Server のユーザ登録情報を更新した場合は、必ず Groupmax Workflow の WFregusr コマンドを各サーバで実行してから、このコマンドを実行してください。
- ビジネスプロセス管理者又はビジネスプロセス配布管理者の追加 / 削除処理で、ビジネスプロセス定義バージョンに「ALL」を指定した場合、どれか一つのバージョンの更新処理に失敗すると、全バージョンの更新処理が無効となります。その場合、エラー情報が出力され、当該レコードの処理はスキップされます。

## WFdeldb (環境削除コマンド)

---

### 形式

```
WFdeldb [-f] [-t] [-m {utl|app}] ]
```

### 機能

Groupmax Workflow の環境を削除します。削除する内容は次のとおりです。

Groupmax Workflow が作成したすべてのインスタンス

Groupmax Workflow が作成したすべてのタイプ、CS タイプ、データタイプ、リレーション、及びインデクス

#### 4. Groupmax Workflow の運用コマンド

##### 文書実体ディレクトリ及びワークエリアディレクトリ下のファイル

このコマンドを使用すると、共存している他のプログラムを再度初期化することなく、Groupmax Workflow の環境だけを再構築できます。このコマンドを使用して Groupmax Workflow の環境を再構築する場合の手順については、「2.4.3 Groupmax Workflow での環境設定」を参照してください。

## オプション

-f

Groupmax Workflow Server 以外のプログラムで作成したオブジェクト (Groupmax Workflow Definer から登録したビジネスプロセス定義やロールなど) があっても、削除処理を実行します。このオプションは、運用中の Groupmax Workflow の環境を削除する場合に指定します。

-t

1 トランザクション中の処理を最小単位にします。このオプションは、排他資源の不足によってこのコマンドがエラーとなる場合だけ指定します。通常はトランザクションのオーバーヘッドが増加するので設定しないでください。

-m {utl | app}

排他資源の確保及びシステムジャーナルの取得を抑止します。デフォルトは app です。

WFdelldb コマンドを実行すると、データベースの規模に比例して排他資源が確保されません。このため、大規模なデータベースの場合は排他資源が不足することがあります。また、Groupmax High-end Object Server の場合はシステムジャーナルが一杯となり、ジャーナルファイルのアンロード又は新規追加が必要になることがあります。

Groupmax Object Server をユティリティ実行モードで起動し、このオプションを設定することで、排他資源の確保やシステムジャーナルの取得に関連して発生する異常終了を抑止できます。

- utl

排他資源の確保及びシステムジャーナルの取得を抑止します。このオプションを設定するときは、Groupmax Object Server の実行モードとしてユティリティ実行モードを設定します。

このオプションを設定する場合の手順を次に示します。

1. バックアップを取得する

コマンド実行時に異常終了が発生した場合は、バックアップからの復旧以外に環境を回復する方法がありません。このため、確実にバックアップを取得してください。バックアップの取得方法については、「3.6 ファイルのバックアップとリストア」を参照してください。

2. 常駐化の指定を無効にする

常駐化の指定を無効にしてください。Groupmax Object Server のシステム共通定

義ファイルでデータベースの常駐化 (resipool, resiobj) を指定している Workflow オブジェクトは削除できません。

3. Groupmax Object Server をユティリティ実行モードで起動する  
Groupmax Object Server の起動時に `-u` オプションを指定すると、Groupmax Object Server がユティリティ実行モードで起動されます。Groupmax Object Server が既にアプリケーションプログラム実行モードで起動されている場合は、いったん停止させて、`-u` オプションを指定して Groupmax Object Server を再起動してください。
  4. `WFdeldb` コマンドを `-m utl` オプションで実行する
  5. Groupmax Object Server のデータベースを再編成する  
Groupmax Object Server の管理情報を整理するため、できればデータベースの再編成を実行してください。データベースの再編成については、マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。
  6. Groupmax Object Server をアプリケーションプログラム実行モードで起動する  
Groupmax Object Server をいったん正常終了させてから再度正常開始することで、アプリケーションプログラム実行モードで起動できます。
- `app`  
排他資源の確保及びシステムジャーナルの取得を抑止しません。Groupmax Object Server の実行モードとして、アプリケーションプログラム実行モードを設定します。

## 実行結果

0 : 正常終了

-1 : 異常終了

## 注意事項

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。
- このコマンドは、Groupmax Object Server だけを起動した状態で実行してください。Groupmax Workflow Server, ユティリティ, 及び Groupmax Workflow Multi-Server とは、同時に実行できません。
- `-m utl` オプション設定時は、バックアップを必ず取得してください。
- Groupmax Object Server で常駐を指定している Groupmax Workflow Server オブジェクトは削除できません。常駐指定を解除してから、このコマンドを実行してください。
- ビジネスプロセス定義, ユーザ, 及びロールが登録されている場合、`-f` オプションを指定しないとエラーとなります。
- コマンド実行時には、コンソールウィンドウ又は `syslog` ファイルでエラーが発生していないことを必ず確認してください。エラーが発生したまま初期化作業を実行すると、既に初期化されていることを示すメッセージが表示され、Workflow サーバが起動しないなどの問題が発生します。メッセージの例を次に示します。  
(例)

#### 4. Groupmax Workflow の運用コマンド

KDWM9284-E Wfdelddb :

文書実体ディレクトリの削除に失敗しました。

KDWM9285-E Wfdelddb :

ワークエリアディレクトリの削除に失敗しました。

KDWM5246-E Wfdelddb :

ログ情報エリアディレクトリの削除に失敗しました。

- ジャーナルのスワップエラー発生時に出力されるメッセージと、その要因・対処方法を表 4-5 に示します。

表 4-5 ジャーナルのスワップエラー発生時の要因と対処方法

項目	内容
メッセージ	KFX001220-E sys ジャーナルのスワップ要因が発生しましたが、交代するジャーナルファイルグループがないため、スワップできません。 ( Groupmax High-end Object Server の場合 )
	KFX001223-E ジャーナルのスワップ処理中に障害が発生しました。 理由コード =xx ( Groupmax High-end Object Server の場合 )
要因	スワップ可能なジャーナルファイルがありません。
対処	対処の手順を次に示します。 1. ジャーナルファイルをアンロードするか、又は新規にジャーナルファイルを追加する 2. データベースを回復するために、Groupmax Object Server を通常モードで起動する 3. Groupmax Object Server を停止する 4. Groupmax Object Server をユティリティ実行モードで起動する 詳細については、マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。 5. -m utl オプションで Wfdelddb コマンドを実行する ジャーナルを取得しません。

## Wfdelwork ( ワーク削除コマンド )

### 形 式

Wfdelwork

[-y]

[-d 保存日数]

[-b 削除対象ビジネスプロセス定義名]

[-v 削除対象ビジネスプロセス定義バージョン番号 ]]

[-j {put|noput [-c {yes|no}]]]

## 機 能

シンクノードに到達して終了したワークと、キャンセルされたワークのうち、保存期限を経過したワークをワークフローデータベースから削除します。

このコマンドを実行すると、削除するワークの案件（ケース、文書及びメモ）とワーク履歴を同時に削除します。

ワークの保存期限は、ワークが終了又はキャンセルした日時にワークの保存日数を加えた値です。保存日数は、-d オプション、ビジネスプロセス定義、又は環境設定ファイルの `work_effective_period` オペランドで指定します。

また、-b、-v オプションで、削除の対象とするビジネスプロセス定義の名称及びバージョン番号を指定すると、ビジネスプロセス定義ごとにワークを削除できます。

## オプション

-y

終了コードを JP1/Automatic Job Scheduler の異常終了しきい値に対応できる値に変換します。これによって、JP1/Automatic Job Scheduler は、ワーク削除コマンドが正常終了したか又は異常終了したかを判定できるようになります。JP1/Automatic Job Scheduler からワーク削除コマンドを実行するときは、このオプションを指定してください。

このオプションと他のオプションを同時に指定する場合は、このオプションを最初に指定してください。最初に指定しない場合、オプションエラーなどの解析エラー時には、JP1/Automatic Job Scheduler に対応できる終了コードに変換されません。

このオプションを正しく指定しないと、不正な値が返される場合があるので注意してください。

このオプションを指定した場合と指定しない場合の、変換後の終了コードについては、この後の「実行結果」を参照してください。

-d 保存日数（0 ~ 1000）

終了又はキャンセルしたワークのうち、このオプションで指定した保存日数を過ぎたワークを削除します（単位：日）。0 を指定すると、その時点で終了しているワーク及びキャンセルされているワークをすべて削除します。

省略した場合は、ビジネスプロセス定義で指定した値、又は環境設定ファイルの `work_effective_period` で指定した値が有効になります（ビジネスプロセス定義で指定した値が優先されます）。

-b 削除対象ビジネスプロセス定義名（1 ~ 63 バイト）

削除の対象とするワークの、生成元のビジネスプロセス定義名を指定します。

#### 4. Groupmax Workflow の運用コマンド

-v 削除対象ビジネスプロセス定義バージョン番号 (1 ~ 4294967295)

-b オプションで指定したビジネスプロセス定義名のバージョンを指定します。

1 バイトから 10 バイトまでの文字列で指定します。

省略すると、-b オプションで指定したビジネスプロセス定義のすべてのバージョンから生成されたワークが削除されます。

-j {put | noput}

ワークを削除したときにシステムジャーナルを取得するかどうかを指定します。省略すると「put」が仮定されます。

このオプションは、データベースに Groupmax High-end Object Server を使用しているときだけ有効です。

システムジャーナルとは、処理が異常終了したときのために Groupmax High-end Object Server が取得する、元の状態に戻すための情報です。システムジャーナルを取得しないと情報を保存するためのディスク容量が節約できるので、Groupmax Workflow の性能が良くなります。

ただし、システムジャーナルを取得しないと、異常終了時にはデータベースのバックアップだけを使用して元の状態に戻さなければなりません。システムジャーナルを取得しない場合は、あらかじめデータベースのバックアップを取得してから、ワークを削除してください。

また、データベースに Groupmax Object Server を使用している場合、このオプションを指定しても無効になりますので、指定しないでください。

- put  
システムジャーナルを取得します。
- noput  
システムジャーナルを取得しません。

このオプションを指定してワークを削除する場合は、Groupmax High-end Object Server をユティリティ実行モードで起動した後、ワークの削除を実行してください。既に他のプログラムが Groupmax High-end Object Server に接続していると、ワーク削除処理は異常終了となります。

-c {yes | no}

-j noput オプションを指定してこのコマンドを実行するときに、ワーク削除処理の実行を確認するメッセージを表示するかどうかを指定します。省略すると「yes」が仮定されません。

このオプションは、-j noput オプションを設定しているときに有効となります。

- yes

メッセージを表示します。

- no

メッセージを表示しません。

## 実行結果

-y オプション指定なしの場合

0 : 正常終了

0 以外 : 異常終了

-y オプション指定ありの場合

0 : 正常終了

255 : 異常終了

## 注意事項

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。
- このコマンドは、Groupmax Object Server、ワークフローディレクトリサービス、及びサーバ機能の起動後に実行してください。資源の競合によるプログラムの中断を避けるため、マネージャ機能とは同時に実行しないでください。また、このコマンドの実行中にシステムにログインしたり、ログイン中のユーザがあるときにこのコマンドを実行したりしないでください。
- ワークヒストリは、システム構築時など、システムの動作が安定していないときのトラブル解析の重要な情報となります。システム構築時は、できるだけワークを削除しないでください。
- ワークを削除すると、削除したワークについての履歴情報も削除されます。ワークを削除する前に、必ず、ワークフローログ出力コマンド (WFdestlg) で、終了したワークのワークフローログを出力するようにしてください。

## WFdestlg (ワークフローログ出力コマンド)

---

### 形 式

WFdestlg

[-y]

[-d 出力先ディレクトリ]

[-b 出力対象ビジネスプロセス定義名]

[-v 出力対象ビジネスプロセス定義バージョン]

[-w 出力対象ワーク ID]

[-s {sink|active}]

#### 4. Groupmax Workflow の運用コマンド

[ -x ]

### 機 能

コマンドを実行するサーバを登録サーバとするビジネスプロセス定義のワークから、ユーザの作業及びシステムの稼働についての履歴情報（ワークフローログ）を取得し、出力します。出力した情報は、直接パーソナルコンピュータの表計算ソフトウェアなどで利用することができます。

出力ファイル名は、対象ワークのビジネスプロセス定義名です。ただし、-s オプションに「active」を指定した場合は「ビジネスプロセス定義名-yyyyymm<sub>1</sub>m<sub>1</sub>ddhhmm<sub>2</sub>m<sub>2</sub>ss」となります。yyyyymm<sub>1</sub>m<sub>1</sub>ddhhmm<sub>2</sub>m<sub>2</sub>ss はコマンド実行日時を示します（yyyy：年、m<sub>1</sub>m<sub>1</sub>：月、dd：日、hh：時、m<sub>2</sub>m<sub>2</sub>：分、ss：秒）。

### オプション

-y

終了コードを JP1/Automatic Job Scheduler の異常終了しきい値に対応できる値に変換します。これによって、JP1/Automatic Job Scheduler は、ワークフローログ出力コマンドが正常終了したか又は異常終了したかを判定できるようになります。JP1/Automatic Job Scheduler からワークフローログ出力コマンドを実行するときは、このオプションを指定してください。

このオプションと他のオプションを同時に指定する場合は、このオプションを最初に指定してください。最初に指定しない場合、オプションエラーなどの解析エラー時には、JP1/Automatic Job Scheduler に対応できる終了コードに変換されません。

このオプションを正しく指定しないと、不正な値が返される場合があるので注意してください。

このオプションを指定した場合と指定しない場合の、変換後の終了コードについては、この後の「実行結果」を参照してください。

-d 出力先ディレクトリ（2 ~ 250 バイト）

ワークフローログの出力先ディレクトリを指定します。ディレクトリのパス名と出力ファイル名の長さの合計が、250 バイトを超えないように指定してください。省略すると、環境設定ファイルの wf\_log\_dir で設定したディレクトリに出力されます。

ワークフローログファイルのディスク容量については、「3.4.1(1) ワークフローログファイルのディスク容量見積もり」を参照してください。

-b 出力対象ビジネスプロセス定義名（1 ~ 63 バイト）

ワークフローログの出力対象とするワークの、生成元のビジネスプロセス定義名称を指定します。省略すると、コマンドを実行するサーバを登録サーバとするすべてのビジネスプロセス定義が対象となります。

-v 出力対象ビジネスプロセス定義バージョン (1 ~ 4294967295)

-b オプションで指定したビジネスプロセス定義のバージョンを指定します。

1 バイトから 10 バイトまでの文字列で指定します。

省略すると、すべてのバージョンが対象となります。このオプションは、-b オプションを指定した場合だけ有効です。

-w 出力対象ワーク ID (1 ~ 63 バイト)

ワークフローログの出力対象とするワークの、ワーク ID を指定します。省略すると、-b、-v オプションに該当するビジネスプロセス定義から生成されたすべてのワークが対象となります。このオプションは、-b オプションを指定した場合だけ有効です。

-s {sink | active}

ワークフローログの出力対象とするワークの状態を指定します。省略すると「sink」が仮定されます。

- sink  
終了した、又はキャンセルされた (ステータスが sink 又は cancel) ワークのワークフローログを出力します。
- active  
稼働中 (ステータスが act 又は suspend) のワークのワークフローログを出力します。

-r

既にワークフローログを出力したワークから、再度ワークフローログを取得したい場合に指定します。省略すると、ワークの終了後にワークフローログを一度以上出力したワークのワークフローログは出力されません。

## 実行結果

-y オプション指定なしの場合

- 0 : 正常終了
- 1 : 異常終了

-y オプション指定ありの場合

- 0 : 正常終了
- 255 : 異常終了

## 注意事項

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。
- このコマンドは、Groupmax Object Server 及び Groupmax Address Server の起動後に実行してください。
- このコマンドでは、バージョンが 02-10 より前の Groupmax Workflow Definer から登録されたビジネスプロセス定義のワークフローログは出力されません。旧バージョン

#### 4. Groupmax Workflow の運用コマンド

ンのビジネスプロセスについての稼働履歴を取得する方法については、「付録 A 旧バージョンのワークフローログの出力」を参照してください。

- -d オプションで指定されたディレクトリがない場合、コマンドは実行されません。
- -d オプションで指定されたディレクトリに、既に出力ファイルと同名のファイルがある場合、ファイルの最後に追加されます。出力したワークフローログは、必要に応じて、別名で保存してください。
- -d オプションで指定されたディレクトリには、大量のデータが出力されます。ドライブの空き容量やファイルサイズに常に注意してください。
- -b, -w オプションに該当するビジネスプロセス定義又はワークがない場合、コマンドは実行されません。また、-w オプションのワークが、-b オプションのビジネスプロセス定義から生成されたものでない場合も、コマンドは実行されません。
- ワーク削除コマンド (WFdelwork) でワークを削除すると、そのワークの履歴情報は失われます。ワークを削除する前に、必ず、終了したワークのワークフローログを出力するようにしてください。

### WFexprl ( ロール定義情報出力コマンド )

---

#### 形 式

WFexprl

-f ロール定義情報出力ファイル名

[ -t 出力対象ロール種別コード ]

#### 機 能

WFexprl コマンドは、Groupmax Workflow のロール定義情報を、WFdefrl コマンドで使用するロール定義更新情報入力ファイルの形式で出力します。ロール定義情報を更新する場合、あらかじめこのコマンドを実行してファイルを出力しておけば、そのファイルの内容を更新する情報に変更するだけでロール定義更新情報入力ファイルとして使用できます。

また、WFexpusr コマンドのユーザ定義情報出力ファイル及び Groupmax Address Export ユティリティ (gmaxexp コマンド) の出力ファイルとともに、WFexprl コマンドのロール定義情報出力ファイルを保管して、ユーザ定義及びロール定義のバックアップファイルとして利用することもできます。

#### オプション

-f ロール定義情報出力ファイル名 ( 2 ~ 250 バイト )

ここで指定したファイルにロール定義情報を出力します。このオプションを省略することはできません。ファイル名はフルパス名で 2 ~ 250 バイトの文字列で設定します。

## -t 出力対象ロール種別コード

出力対象のロールについて、ここで指定する出力対象ロール種別コードの情報を出力します。このオプションを省略した場合、02-10以降のバージョンの Groupmax Workflow Definer で作成したすべてのロール又は WFdefrl コマンドで作成したすべてのロールの情報を出力します。

出力対象ロール種別コード、対応するロール種別名、及び出力情報種別コードを表 4-6 に示します。出力情報種別コードと出力値については、この後の「出力形式」を参照してください。

表 4-6 出力対象ロール種別コード

出力対象ロール種別コード	出力対象ロール種別名	出力情報種別コード（出力される情報）
BP	業務ロール	BPROLE（業務ロール） DEFUSR（ロール定義者） DISTUSR（ロール配布管理者） DISTSVR（ロール配布先サーバ名） UMEMBER（業務ロール参加ユーザ） AUTOKEY（自動配布キー） UKEYVAL（ユーザ自動配布キー値） SETSVR（ロール登録サーバ名）
ORG	組織ロール又は最上位組織ロール	ORGROLE（組織ロール） CMPROLE（最上位組織ロール） DEFUSR（ロール定義者） DISTUSR（ロール配布管理者） DISTSVR（ロール配布先サーバ名） SETSVR（ロール登録サーバ名）
LAY	階層化ロール	LAYROLE（階層化ロール） DEFUSR（ロール定義者） DISTUSR（ロール配布管理者） DISTSVR（ロール配布先サーバ名） RMEMBER（階層化ロール参加ロール） AUTOKEY（自動配布キー） RKEYVAL（ロール自動配布キー値） SETSVR（ロール登録サーバ名）

## 実行結果

0：正常終了

255：異常終了

## 出力形式

ロール定義情報の出力形式を、表 4-7 に示します。実際のファイルは WFdefrl コマンドの更新情報入力ファイルの形式で出力され、項目と項目は「,（半角コンマ）」で区切られています。

#### 4. Groupmax Workflow の運用コマンド

処理コードの「# (半角シャープ)」を、必要に応じて「N」、「R」、「A」又は「D」に変更することで、WFdefrl コマンドの入力ファイルとなります。

表 4-7 ロール定義情報の出力形式

処理コード	ロール名	出力情報種別コード	出力値 1	出力値 2	出力値 3
#	ロール名	BPROLE	-	-	-
		ORGROLE	組織 ID	-	-
		CMPROLE	最上位組織 ID	-	-
		LAYROLE	-	-	-
		DEFUSR	ロール定義者ユーザ ID	-	-
		DISTUSR	配布管理者ユーザ ID	-	-
		DISTSVR	ロール配布先サーバ名	-	-
		UMEMBER	ユーザ ID	-	-
		RMEMBER	業務ロール名 組織ロール名	-	-
		AUTOKEY	自動配布キー名	-	-
		UKEYVAL	自動配布キー名	自動配布キー値	ユーザ ID
		RKEYVAL	自動配布キー名	自動配布キー値	業務ロール名 組織ロール名
		SETSVR	ロール登録サーバ名	-	-

(凡例)

- : 値は設定されません。

注

02-10 以降のバージョンの Groupmax Workflow Definer 又は WFdefrl コマンドで登録したロールが出力対象となります。

#### 注意事項

コマンド実行時の注意事項を次に示します。

- このコマンドは、Workflow 管理サーバでだけ実行できます。
- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザの権限を持つユーザだけです。
- このコマンドは、Groupmax Object Server 及び Groupmax Address Server を起動している状態で実行してください。
- このコマンドは、次のコマンドと同時に実行できません。
  - WFdefrl コマンド

- WFdefusr コマンド
  - WFexpusr コマンド
  - WFregusr コマンド
- `-f` オプションで指定したファイルが既にある場合、指定したディレクトリがない場合、又は指定したディレクトリにアクセス権がない場合、コマンドの実行を中止します。

## WFexpusr (ユーザ定義情報出力コマンド)

---

### 形 式

WFexpusr

`-f` ユーザ定義情報出力ファイル名

[`-c` 最上位組織 ID | `-o` 組織 ID]

[ [`-a` 出力情報種別コード ] ... ]

### 機 能

Groupmax Workflow のユーザ定義情報を WFdefusr コマンドで使用するユーザ定義更新情報入力ファイルの形式で出力します。ユーザ定義情報を更新する場合、あらかじめこのコマンドを実行してファイルを出力しておけば、そのファイルの内容を更新する情報に変更するだけでユーザ定義更新情報入力ファイルとして使用できるので便利です。

### オプション

`-f` ユーザ定義情報出力ファイル名 (2 ~ 250 バイト)

ここで指定したファイルにユーザ定義情報を出力します。このオプションを省略することはできません。ファイル名はフルパス名で 2 ~ 250 バイトの文字列で設定します。

`-c` 最上位組織 ID (1 ~ 8 バイト)

ここで指定した組織 ID を最上位として、その組織及び下位組織に所属するすべてのユーザの情報を出力します。最上位組織 ID 「GMAXSYS」は指定できません。また、このオプションは `-o` オプションと一緒に指定できません。

`-o` 組織 ID (1 ~ 8 バイト)

ここで指定した組織 ID に所属するユーザと、その下位組織に所属するすべてのユーザの情報を出力します。最上位組織 ID 「GMAXSYS」の下位組織は指定できません。また、このオプションは `-c` オプションと一緒に指定できません。

`-a` 出力情報種別コード

出力対象のユーザに関して、ここで指定した種別コードの情報を出力します。また、こ

#### 4. Groupmax Workflow の運用コマンド

のオプションは複数回指定できます。ただし、同じ出力情報種別コードを重複して指定することはできません。このオプションを省略すると、すべての種別の情報を出力します。このとき、STAT、HMAX、CMNT、ATR1、及び ATR2 の各出力情報種別コードの情報は、出力情報種別コード ALLA で 1 レコードにまとめて出力します。

ここで、出力情報種別コード STAT から AGNT までの出力種別コードの対象となるユーザは、このコマンドを実行したサーバにユーザトレイを持つユーザです。また、ORG から RDST までの対象となるユーザは、このコマンドを実行したサーバが Workflow 管理サーバである場合に、指定したコードの権限を持っているユーザです。

指定できる出力情報種別コードを次に示します。

- STAT  
案件受付状態を出力します。
- HMAX  
ユーザヒストリ最大数を出力します。
- CMNT  
コメントを出力します。
- ATR1  
ユーザ属性 1 を出力します。
- ATR2  
ユーザ属性 2 を出力します。
- ALLA  
案件受付状態、ユーザヒストリ最大数、コメント、ユーザ属性 1、及びユーザ属性 2 を出力します。
- AUTH  
ユーザ権限を出力します。
- ORG  
組織へのアクセス権を出力します。
- CMP  
最上位組織へのアクセス権を出力します。
- ROLE  
業務ロールへの参加に関する情報を出力します。
- KEYV  
業務ロールの自動配布キーに関する情報を出力します。
- BPAG  
代行配布ユーザに関する情報を出力します。
- AGNT  
代行者に関する情報を出力します。
- BADM  
ビジネスプロセス管理者に関する情報を出力します。
- BDST  
ビジネスプロセス配布管理者に関する情報を出力します。

- RDEF  
ルール更新者に関する情報を出力します。
- RDST  
ルール配布管理者に関する情報を出力します。

## 実行結果

0 : 正常終了

255 : 異常終了

## 出力形式

ユーザ定義情報の出力形式を、表 4-8 に示します。実際の出力ファイルでは、項目と項目は「, (半角コンマ)」で区切られています。

処理コードの「# (半角シャープ)」を、必要に応じて「C」、「A」、又は「D」に変更することで、WFdefusr コマンドの入力ファイルとなります。

表 4-8 ユーザ定義情報の出力形式

処理コード	ユーザ ID	出力情報種別コード	出力値 1	出力値 2	出力値 3	出力値 4	出力値 5
#	対象ユーザ ID	STAT	act dea inac	-	-	-	-
		HMAX	0 ~ 1023	-	-	-	-
		CMNT	コメント情報	-	-	-	-
		ATR1	ユーザ属性 1	-	-	-	-
		ATR2	ユーザ属性 2	-	-	-	-
		ALLA (全属性)	案件受付状態	ユーザ履歴最大数	コメント	ユーザ属性 1	ユーザ属性 2
		AUTH	domi admi wfm	-	-	-	-
		ORG	組織 ID	-	-	-	-
		CMP	最上位組織 ID	-	-	-	-
		ROLE	業務ロール名 <sup>2</sup>	-	-	-	-

#### 4. Groupmax Workflow の運用コマンド

処理コード	ユーザ ID	出力情報種別コード	出力値 1	出力値 2	出力値 3	出力値 4	出力値 5
		KEYV	業務ロール名 <sup>2</sup>	自動配布キー名	自動配布キー値	-	-
		BPAG	ビジネスプロセス定義名 <sup>1</sup>	代行配布ユーザ ID	-	-	-
		AGNT	代行者ユーザ ID	-	-	-	-
		BADM	ビジネスプロセス定義名 <sup>1</sup>	ビジネスプロセス定義バージョン	-	-	-
		BDST	ビジネスプロセス定義名 <sup>1</sup>	ビジネスプロセス定義バージョン	-	-	-
		RDEF	ロール名 <sup>2</sup>	-	-	-	-
		RDST	ロール名 <sup>2</sup>	-	-	-	-

(凡例)

- : 値は設定されません。

注 1

02-10 以降のバージョンの Groupmax Workflow Definer から登録したものが出力対象となります。

注 2

02-10 以降のバージョンの Groupmax Workflow Definer 又はロール定義更新コマンドで登録したものが出力対象となります。

#### 注意事項

コマンド実行時の注意事項を次に示します。

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザの権限を持つユーザだけです。
- このコマンドは、Groupmax Object Server、及び Groupmax Address Server を起動している状態で実行してください。
- このコマンドは、WFregusr コマンド、WFdefusr コマンド、WFdefrl コマンド及び

WFexplr コマンドと同時に実行できません。

- -f オプションで指定したファイルが既にある場合、指定したディレクトリがない場合、又は指定したディレクトリにアクセス権がない場合、コマンドの実行を中止します。

## WFfsck (ファイル整合性チェックコマンド)

---

### 形 式

WFfsck [-y]

### 機 能

文書実体ファイルとオブジェクト管理ファイルの整合性をチェックし、不整合となった文書実体ファイル中の文書実体を削除します。

新規文書又はメモの作成中に、Groupmax Workflow 又は Groupmax Object Server が異常終了すると、上記ファイル間の整合性がなくなるおそれがありますので、できるだけこのコマンドを実行してください。

### オプション

-y

終了コードを JP1/Automatic Job Scheduler に対応できる値に変換します。このオプションを指定すると、JP1/Automatic Job Scheduler からファイル整合性チェックコマンドを実行できます。

このオプションと他のオプションを同時に指定する場合は、このオプションを最初に指定してください。最初に指定しない場合、オプションエラーなどの解析エラー時には、JP1/Automatic Job Scheduler に対応できる終了コードに変換されません。

このオプションを正しく指定しないと、不正な値が返される場合があるので注意してください。

このオプションを指定した場合と指定しない場合の、変換後の終了コードについては、この後の「実行結果」を参照してください。

### 実行結果

-y オプション指定なしの場合

0: 正常終了, 異常終了ともに 0 を返却します。

-y オプション指定ありの場合

0: 正常終了

255: 異常終了

### 注意事項

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。
- このコマンドは、Groupmax Object Server、ワークフローディレクトリサービス、及びサーバ機能の起動後に実行してください。マネージャ機能が起動中のときは実行できません。また、このコマンドの実行中にシステムにログインしたり、ログイン中のユーザがあるときにこのコマンドを実行したりしないでください。

## WFgetlog ( 障害情報収集コマンド )

---

### 形 式

WFgetlog -t デバイススペシャルファイル

### 機 能

障害発生時の障害資料を取得します。

### オプション

-t デバイススペシャルファイル ( 1 ~ 255 バイト )

取得した資料を格納するデバイススペシャルファイル名称又はファイル名称を指定してください。

デバイススペシャルファイルの代わりにディスクファイルを指定することもできますが、資料の中には大量の情報を格納した大きなファイル ( 数十メガバイト程度 ) もありますので、ディスクファイルを指定する場合にはディスク空き容量には十分注意してください。なお、このオプションには、tar コマンドの -f オペランドで取り扱える媒体を指定できます。

取得するファイルは新規に作成されます。このため、デバイススペシャルファイル内に既に格納されているファイルは上書きされます。

### 実行結果

0 : 正常終了

255 : 異常終了

### 注意事項

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。
- 取得されるファイルは、アーカイブ (tar) 形式のバイナリファイルです。ディスクファイルなどへの取得後、ftp などの転送時には注意してください。
- メディアフルのメッセージが出力されましたら、tar コマンドのときと同じように、媒体交換の上、応答してください。

- オプション指定が誤っている場合、又は、処理の途中で何らかのエラーが発生した場合、エラーメッセージを出力して処理を中断します。
- AIX 版の場合は、このコマンドを実行する前に必ず環境変数 LANG に Ja\_JP を設定してください。

## WFifrsnd ( 要求再送コマンド )

---

### 形 式

WFifrsnd

```
{-c 再送要求の連携管理 ID -m 再送要求の要求番号 | -s [ 再送間隔 ]}
```

### 機 能

一度送信した要求メールを再度送信します。

このコマンドは、メール送信後、そのメールが紛失した（相手に届かない）場合に使用します。

### オプション

-c 再送要求の連携管理 ID -m 再送要求の要求番号

WFifscn コマンドで表示された連携管理 ID と要求番号を指定します。

このオプションは、-s オプションと一緒に指定できません。

-s [ 再送間隔 ]( 30 ~ 10080 )

送信済みのメールで指定した再送間隔の時間応答がない要求をすべて再送します（単位：分）。

再送間隔を省略した場合は、ドメイン間連携サーバ環境定義ファイルで指定した再送間隔になります。

このオプションを指定した場合は、ドメイン間連携サーバ環境定義ファイルで指定した再送回数が有効になり、再送回数を超えるものは再送しません。

このオプションを指定しない場合（-c, -m オプション指定の場合）、ドメイン間連携サーバ環境定義ファイルで指定した再送回数が無効になり、再送回数を超えても再送します。

### 実行結果

0 : 正常終了

255 : 異常終了

### 注意事項

- このコマンドを実行する前に、必ず案件の遷移状態を確認する必要があります。確認方法及び内容については、「3.9.8 ドメイン間連携機能の運用上の注意事項」を参照してください。
- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。
- ほかの Groupmax Workflow Server - Connection の運用コマンド実行中は、このコマンドを使用できません。

## WFiftrtry (送受信エラー要求再処理コマンド)

---

### 形式

WFiftrsnd -n 再処理要求番号

### 機能

WFiftrreq コマンドで表示した結果、送受信エラーになっている連携要求に対して再処理を実行します。

### オプション

-n 再処理要求番号

WFiftrreq コマンドで表示された要求番号 (s x x x , r x x x ) を指定します。

### 実行結果

0 : 正常終了

255 : 異常終了

### 注意事項

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。
- ほかの Groupmax Workflow Server - Connection の運用コマンド実行中は、このコマンドを使用できません。

## WFifscn (未応答要求表示コマンド)

---

### 形式

WFifscn [-o 出力ファイル名] [-a | -c 連携管理 ID]

### 機能

ドメイン間連携機能で連携要求メール送信後、連携要求に対する応答メールを受信していない連携要求の情報を表示します。

## オプション

-o 出力ファイル名

情報を出力するファイル名を指定します。省略した場合、標準出力に情報を表示します。

-a

ドメイン間連携のすべての要求の情報を表示します。省略した場合、未応答の要求の情報だけを表示します。

-c 連携管理 ID

指定した連携管理 ID の要求の情報を表示します。

## 出力内容

タイトル行

```
##### Inter Connection Status Information List ##### Date(MM/DD/
YYYY) Time(hh:mm:ss)
```

データ行

表 4-9 に送信メッセージ情報の各データの内容を示します。各データはタブコードで区切られます。

表 4-9 送信要求情報の出力内容 (WFifscon コマンド)

データ	意味	内容
連携管理 ID	各連携ごとに設定されるユニークなコード	連携管理の識別子
要求番号	1 連携管理中でユニークになる要求の通番	0 から始まる通番
要求種別	要求の種別を示すコード	"go" : 直列連携投入要求 "call" : 階層連携投入要求 "retn" : 階層連携戻り要求 "stpc" : 連携終了要求
状態コード	要求の処理状態を示すコード	1 : 応答待ち 2 : 要求受信済み 3 : 応答送信済み 4 : 応答受信済み
送信日時	メッセージを送信した日時	"MM/DD/YYYY hh:mm:ss" 形式で表示。
再送回数	メッセージを再送した回数	再送コマンドで再送した回数。
サブコード	要求に対するサブコード	要求種別が "retn" の場合だけ有効。 ほかの場合は 0 になる。
連携区分	連携先の情報か連携元の情報を示すコード	"src" : 連携元情報 "trgt" : 連携先情報

#### 4. Groupmax Workflow の運用コマンド

データ	意味	内容
連携種別	直列連携か階層連携かを示すコード	"chn": 直列連携 "nest": 階層連携
相手連携管理 ID	連携相手の連携管理 ID	63 バイトまでの文字列。 データがない場合, "*****" と表示。
連携元メールアドレス	連携元のメールアドレス	63 バイトまでの文字列。
連携元 BP 名	連携元のビジネスプロセス名	63 バイトまでの文字列。
連携元ワーク ID	連携元のワーク ID	63 バイトまでの文字列。
連携先メールアドレス	連携先のメールアドレス	63 バイトまでの文字列。 データがない場合, "*****" と表示。
連携先 BP 名	連携先のビジネスプロセス名	
連携先ワーク ID	連携先のワーク ID	

#### 出力例

タイトル行と 1 案件分の出力例を次に示します。

```
##### Inter Connection Status Information List ##### Date(06/02/1999) Time(23:13:45)
000001c074ed0100 0 call 1 06/02/1999 22:30:15 0 0 src nest
*** src@aaa.bbb.net IF4_Nested 01010 trgt@xxx.yyy.net Char4 ***
```

#### 実行結果

0 : 正常終了

255 : 異常終了

#### 注意事項

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。
- このコマンドの出力で、未応答要求がある場合、その要求の送信時刻から判断して不当と思われる場合、次の手順で対処してください。
  - 未応答になっている要求の連携管理 ID と要求番号を連絡先に知らせ、相手側でその要求の状態を確認します。
  - 相手側の要求の状態に応じて対処します。  
相手側に要求が届いている場合は、相手側から応答メールを再送してもらいます。  
相手側に要求が届いていない場合は、その要求を再送します。

- ほかの Groupmax Workflow Server - Connection の運用コマンド実行中は、このコマンドを使用できません。

## WFifsreq ( 送受信要求表示コマンド )

### 形 式

WFifsreq [-o 出力ファイル名 ] [-a]

### 機 能

ドメイン間連携機能で送受信に失敗した連携要求の情報を表示します。

### オプション

-o 出力ファイル名

情報を出力するファイル名を指定します。省略した場合、標準出力に情報を表示します。

-a

ドメイン間連携のすべての要求の情報を表示します。省略した場合、未応答の要求の情報だけを表示します。

### 出力形式

#### タイトル行

```
##### Request List ##### Date(MM/DD/YYYY) Time(hh:mm:ss)
```

#### データ行

- 送信要求ヘッダ  
##Sending Requests Information( 表示情報数 )##
- 送信要求情報  
表 4-10 に送信要求情報の各データの内容を示します。各データはタブコードで区切られます。

表 4-10 送信要求情報の出力内容 ( WFifsreq コマンド )

データ	意味	内容
要求番号	要求に対するシリアル番号	s × 形式で表示 ( × が数値 )
要求種別	要求の種別を示すコード	"go" : 直列連携投入要求 "call" : 階層連携投入要求 "retn" : 階層連携戻り要求 "stpc" : 連携終了要求 "repo" : 各種要求の応答 "erep" : 受信エラー通知
要求日時	要求を登録した日時	"MM/DD/YYYY hh:mm:ss" 形式で表示。

#### 4. Groupmax Workflow の運用コマンド

データ	意味	内容
状態コード	要求の状態処理を示すコード	"wait": 処理待ち (正常) "tran": 処理中 (正常) "rtry": 再処理待ち (正常) "err": 送信失敗 (異常)
連携先窓口名	連携先の窓口名	要求種別が "go", "call" の場合に表示。 その他の場合 "*****" と表示。
連携先 BP 名	連携先のビジネスプロセス名	要求種別が "go", "call" の場合に表示。 その他の場合 "*****" と表示。
連携管理 ID	連携状態の管理 ID	要求種別が "retn", "stpc", "repo" の場合に表示。 その他の場合 "*****" と表示。

- 受信要求ヘッダ

```
##Received Requests Information( 表示情報数 )##
```

- 受信要求情報

表 4-11 に受信要求情報の各データの内容を示します。各データはタブコードで区切られます。

表 4-11 受信要求情報の出力内容

データ	意味	内容
要求番号	要求に対するシリアル番号	r x 形式で表示 ( x が数値 )。
要求種別	メッセージの種別を示すコード	"rqst": 要求メッセージ "resp": 応答メッセージ "err": エラーメッセージ
要求日時	要求を登録した日時	"MM/DD/YYYY hh:mm:ss" 形式で表示。
状態コード	要求の処理状態を示すコード	"wait": 処理待ち (正常) "tran": 処理中 (正常) "rtry": 再処理待ち (正常) "err": 送信失敗 (異常)
連携管理 ID	連携状態の管理 ID	連携管理の識別子を表示。

#### 出力例

タイトル行と 1 案件分の出力例を次に示します。

```
##### Request List ##### Date(06/02/1999) Time(23:31:07)
##Sending Requests Information(1)##
s6305 stpc 06/02/1999 22:35:50 err ***** 000001c0cdf30100
##Received Requests Information(1)##
r9420 000001c063fa0100 06/02/1999 23:28:18 rtry 092833369700070
```

## 実行結果

0 : 正常終了

255 : 異常終了

## 注意事項

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。
- このコマンドを実行して出力がエラーになっている要求がある場合、そのエラー要因を排除してください。その後、WFiftry コマンドで再処理してください。
- ほかの Groupmax Workflow Server - Connection の運用コマンド実行中は、このコマンドを使用できません。

## WFinitmgr ( マネージャ機能環境初期化コマンド )

---

### 形 式

WFinitmgr

### 機 能

マネージャ機能及びマルチサーバ機能の実行環境を初期化します。

### オプション

なし。

### 実行結果

0 : 正常終了

-1 : 異常終了

### 注意事項

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。
- このコマンドは、Groupmax Object Server、ワークフローディレクトリサービス、及びサーバ機能の起動後、マネージャ機能を起動する前に実行してください。

## WFinitsv ( サーバ機能環境初期化コマンド )

---

### 形 式

WFinitsv -o ワークフローデータベース名称

### 機 能

ワークフローデータベースを初期化します。

## オプション

-o ワークフローデータベース名称 (1 ~ 63 バイト)

サーバに作成するワークフローデータベースの名称を指定します。

ワークフローデータベース名称は、Groupmax Object Server でのスキーマ名に対応します。既に Groupmax Object Server を前提とする他のプログラムによってデータベースが作成されている場合は、そのデータベースの名称を指定してください。

ワークフローデータベース名称を指定するときの名称規則を次に示します。

1. 1 バイトコードの英大文字、英小文字、数字、「\_」(アンダースコア)、及び 2 バイトコード (空白以外) が使用できます。
2. 「WF\_」、「IS\_」、「\_」(アンダースコア) で始まる名称及び「MASTER」は使用できません。

## 注意事項

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。
- このコマンドは、Groupmax Object Server の起動後に実行してください。

## WFinsdst ( 配布指示コマンド )

---

### 形 式

WFinsdst

[ {bp | role | ap} ]

### 機 能

WFinsdst コマンドは、Workflow 管理サーバ上で、配布予約状態又は配布失敗状態の次に示す三つの情報を他のサーバに配布する指示をします。

- ロール定義情報
- ビジネスプロセス定義情報
- ビジネスプロセス定義で使用するアプリケーション情報

WFinsdst コマンドを WFdefrl コマンド及び WFdefusr コマンドと組み合わせて、サーバ上でバッチ処理をすることで、ロール定義情報及びユーザ定義情報を自動的に更新し配布できます。サーバ上での作業の詳細については、「3.9.2(1) サーバでユーザ・ロールの登録内容を変更する運用」を参照してください。

## オプション

{bp | role | ap}

配布を指示する対象の種別を指定します。オプションを省略した場合は、すべての種別

を配布の指示の対象とします。このときの処理順序は、role、bp、apの順となります。

- bp  
ビジネスプロセス定義を配布の対象とします。
- role  
ロール定義を配布の対象とします。ロール種別ごとの処理順序は、組織ロール、業務ロール、階層化ロールの順となります。
- ap  
ビジネスプロセス定義で使用するアプリケーションを配布の対象とします。

### WFinsdst コマンドで配布が実行中のままとなった場合の対処方法

WFinsdst コマンドで配布指示をした後、配布指示状態が実行中のままで終了しない場合は、Workflow 管理サーバ上で何かの障害が発生して、配布指示状態が変更されないで終了していることが考えられます。

この場合は、次の手順で対処してください。

1. Workflow 管理サーバにメッセージが出力されているか確認する  
出力されている場合、そのメッセージに対する対処に従ってください。  
出力されていない場合、2. の対処方法に従ってください。
2. Groupmax Workflow Definer 配布管理で、該当するビジネスプロセス、ロール、又はアプリケーションについて、Workflow 管理サーバのサーバ情報を選択して配布先配布情報をリセットする  
なお、サーバ情報に Workflow 管理サーバがない場合には、該当するビジネスプロセス、ロール、又はアプリケーションの登録サーバに対してリセットを行ってください。  
ただし、ビジネスプロセス、ロール、又はアプリケーションのどれかの配布処理が行われている間は、配布情報をリセットできません。この場合、しばらく時間を置いてからリセットを行ってください。
3. 1. 又は 2. の対処を実行した後、再度配布を指示する

### 実行結果

0：正常終了

4 又は 8：異常終了（継続できるエラー）<sup>1</sup>

255：異常終了（継続できないエラー）<sup>2</sup>

注 1

現在実行中の配布指示処理を中止し、次以降の配布指示処理を継続できるレベルのエラーが 1 回以上発生したことを示します。エラーの詳細は、コンソールウィンドウ又は syslog ファイルに出力されたメッセージを参照してください。

#### 4. Groupmax Workflow の運用コマンド

##### 注 2

コマンドの処理を継続できないエラーの発生によって、コマンドの実行が中断されたことを示します。

##### 注意事項

コマンド実行時の注意事項を次に示します。

- このコマンドは Workflow 管理サーバでだけ実行できます。
- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザの権限を持つユーザだけです。
- このコマンドは、Groupmax Object Server 及び Groupmax Address Server が起動している状態で実行してください。
- 配布指示の対象に指定した定義が次の状態のとき、その定義に対する配布指示は実行されません。
  - 配布状態が処理中の場合
  - 配布先サーバが定義されていない場合
  - 登録サーバが設定されていない場合
  - 配布失敗又は配布予約状態のサーバがない場合
  - 対象を定義している登録サーバが起動されていない場合
  - ビジネスプロセス定義の削除の場合に、そのビジネスプロセスのワークが残っている場合
- 配布を指示するビジネスプロセス定義、ロール定義又はアプリケーションの配布権限の保護機能は無効です。したがって、このコマンドはすべての対象について配布の指示をします。つまり、ドメイン管理者が実行した場合と同じ扱いで配布の指示をします。
- このコマンドは配布の指示を非同期で実行しません。つまり、指示があるたびに配布を実行し、配布処理の完了を待ちます。
- このコマンドを同時に複数起動することはできません。

## WFpackage ( サービス操作コマンド : クラスタ対応 )

---

### 形 式

WFpackage

{-s|-r|-e}

{directory|server|manager|multi|connection}

[-t 監視時間間隔]

### 機 能

クラスタサーバ ( MC/Service Guard ) で Groupmax Workflow を使用する場合に、Groupmax Workflow の各サービスを起動、監視、又は終了します。

## オプション

{-s|-r|-e}

サービスに対する操作を指定します。

- -s  
サービスを起動します。
- -r  
サービスを監視します。
- -e  
サービスを終了します。

{directory | server | manager | multi | connection}

操作の対象にするサービスを指定します。

- directory  
ディレクトリサービスを対象にします。
- server  
サーバサービスを対象にします。
- manager  
マネージャサービスを対象にします。
- multi  
マルチサーバサービスを対象にします。
- connection  
ドメイン間連携サービスを対象にします。

-t 監視時間間隔 ( 1 ~ 7200 )

-r オプションを指定した場合に、監視スクリプトが各サービスの起動状態を監視するための時間間隔を指定します ( 単位 : 秒 )。

このオプションを省略した場合は、60 秒間隔で監視されます。

## WFregusr ( ユーザ定義コマンド )

---

### 形 式

WFregusr

[-y]

[-v]

[-k|-s[-k]]|-c|-f ユーザ ID 一覧ファイル名 ]

#### 4. Groupmax Workflow の運用コマンド

### 機 能

Groupmax Address Server と連携して、ワークフローデータベースのユーザ情報を更新します。

このコマンドは、Groupmax Workflow のユーザ情報を常に最新の状態に保てるよう、定期的に実行する必要があります。WFregusr コマンドを使用したユーザ定義の手順については、「2.4.5 ユーザの設定」を参照してください。

### オプション

-y

終了コードを JP1/Automatic Job Scheduler の異常終了しきい値に対応できる値に変換します。これによって、JP1/Automatic Job Scheduler は、ユーザ定義コマンドが正常終了したか又は異常終了したかを判定できるようになります。JP1/Automatic Job Scheduler からユーザ定義コマンドを実行するときは、このオプションを指定してください。

このオプションと他のオプションを同時に指定する場合は、このオプションを最初に指定してください。最初に指定しない場合、オプションエラーなどの解析エラー時には、JP1/Automatic Job Scheduler に対応できる終了コードに変換されません。

このオプションを正しく指定しないと、不正な値が返される場合があるので注意してください。

このオプションを指定した場合と指定しない場合の、変換後の終了コードについては、この後の「実行結果」を参照してください。

-v

ユーザ定義コマンド (WFregusr) の実行経過をコンソールウィンドウに表示します。

-k

ユーザ定義コマンドの実行時のエラーをスキップします。実行時にエラーが発生すると、通常は無条件に実行が中止されます。

このオプションを指定すると、特定のエラーについて、エラーをスキップして実行が継続されます。スキップの対象となるエラーを次に示します。

ユーザ定義処理の対象となるユーザがログインしている場合

マルチサーバ機能で使用するメールユーザが Groupmax Address Server に未登録である場合

ユーザ定義処理対象のユーザが、作業机に作業者として直接割り当てられている場合  
エラーをすぐに取り除くことができない場合で、他のユーザの定義処理を完了させる必要があるときなどに、このオプションを使用します。

-s

Groupmax Address との間でユーザ情報の同期処理をする場合に指定します。また、-k オプションを同時に使用することで、実行時に発生するエラーをスキップできます。

環境削除コマンドでワークフローデータベースを削除してしまった場合など、何かの理由で Groupmax Address のユーザ情報と Groupmax Workflow のユーザ情報との間に不整合が生じた場合、このオプションを指定することで、Groupmax Workflow のユーザ情報を Groupmax Address のユーザ情報に強制的に同期させることができます。通常の運用では指定する必要はありません。

-c

ユーザ定義コマンド (WFregusr) の実行によって、ワークフローデータベースにどのような影響があるかをシミュレーションします。このオプションを設定した場合は、ワークフローデータベースは更新されません。シミュレーション結果は、レポートとして表示されます。

レポートは、/Flowmate/tmp ディレクトリに、次の形式で出力されます。

```
regusr_report-yyyym1ddhhm2ss
```

yyyy

西暦で年を示します。

<sub>m<sub>1</sub></sub><sub>m<sub>1</sub></sub>

月を示します。

dd

日を示します。

hh

時を示します。

<sub>m<sub>2</sub></sub><sub>m<sub>2</sub></sub>

分を示します。

ss

秒を示します。

レポートの例を次に示します。[Tab] はタブ文字を示します。

図 4-3 ユーザ定義コマンド (WFregusr) のレポート形式例

```

1[ # Workflow Server User Definition Check Report V03-10 at server01
2[ # Check Date & Time 19xx-08-28 19:54:12
3[ #-----
4[ # ユーザ情報変更通知による更新予告
5[ #-----
6[ # USER
7[ # k875021[tab]Move To server02
8[ # LinkedBpNode BPName:年休申請 BP Ver:1 NodeName:承認
9[ # CASE          BPName:旅費清算 BP Ver:1 WorkID:RYOH100012 Reason:V1BP
10[ #
11[ #
12[ #-----
13[ # Address登録情報との相違による更新予告
14[ #-----
15[ # USER
16[ # k875021[tab]Move To server02
17[ # LinkedBpNode BPName:年休申請 BP Ver:1 NodeName:承認
18[ # CASE          BPName:旅費清算 BP Ver:1 WorkID:RYOH100012 Reason:V1BP
19[ #
20[ #

```

レポート形式例について、図中の番号ごとに説明します。

1. ヘッダレコード第 1 行  
実行バージョン、実行ホスト名が表示されます。
2. ヘッダレコード第 2 行  
実行日付、実行時間が表示されます。
3. 区切りレコード
4. 更新予告レコード  
Groupmax Address から Groupmax Workflow に通知された変更情報に基づいて、これ以降の行に更新予告が出力されます。  
同一ユーザ ID に対する複数の変更情報がある場合、変更の効果は累積されなくて、それぞれ独立した更新情報として扱われます。
5. USER 句  
USER 句の次に、更新するユーザ情報が表示されます。

## 6. ユーザ更新情報レコード

レコードフォーマットを次に示します。

ユーザ ID[Tab] 更新内容

更新内容

ユーザ情報の更新内容が表示されます。

Add

ユーザが自ホストに追加されることを示します。

Move To ホスト名

表示されたホストに、ユーザが移動することを示します。

Change To ユーザ名

表示された名称に、ユーザ名が変更されることを示します。

Update

ユーザ名以外の情報が変更されることを示します。

Delete

ユーザが削除されることを示します。

Delete(Only Relation Maintenance)

他ホストのユーザの削除に伴って、リレーションがメンテナンスされることを示します。

## 7. LinkedBpNode 句

削除又は移動対象のユーザが直接リンクされている、旧バージョンの作業機の情報を出力します。この情報が出力されているときは、該当するユーザを削除又は移動できません。レコードフォーマットを次に示します。

LinkedBpNode BPName: ビジネスプロセス定義名 [Tab]Ver: ビジネスプロセス定義バージョン [Tab]NodeName: 作業機名

## 8. CASE 句

削除又は移動対象のユーザのユーザトレイにある案件の情報を出力します。レコードフォーマットを次に示します。

CASE BPName: ビジネスプロセス定義名 [Tab]Ver: ビジネスプロセス定義バージョン [Tab]WorkID: ワーク ID [Tab]Reason: 移動不可要因

移動不可要因

空白の場合は、移動先のユーザトレイに自動的に転送されることを示します。

Deleted

ユーザが削除されたことを示します。

V1BP

旧バージョンのビジネスプロセス定義の案件であることを示します。

NotDistributed

ユーザの移動先となるサーバに、ビジネスプロセス定義が配布されていないことを示します。

## 9. 更新予告レコード

Groupmax Address 登録情報と Groupmax Workflow データベースとの相違に基づい

#### 4. Groupmax Workflow の運用コマンド

て、これ以降の行に更新予告が出力されます。

-f ユーザ ID 一覧ファイル名 (1 ~ 250 バイト)

Groupmax Address との間で、特定のユーザ情報について同期処理をします。-s オプションがすべてのユーザ情報を更新するのに対して、-f オプションは、設定されたファイル内に記述された、ユーザ ID に対応するユーザ情報だけを対象に更新します。-f オプションは、ユーザ数が多いときなどに効果的です。特定のユーザ情報について同期処理をすることで、最小限の時間で同期処理を実行できます。

ユーザ ID 一覧ファイルの記述規則を次に示します。記述規則の詳細については、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド 基本操作編」を参照してください。

- 頭文字が「# (半角)」の行はコメントとして認識されます。
- 空白でもタブでもない最初の文字から、次の空白、タブ、改行又は EOF (End Of File) までがユーザ ID として認識されます。
- ユーザ ID として認識された文字列がユーザ ID の記述規則に反している場合、記述規則に反しているユーザ ID のある行は無視されます。
- 同一のユーザ ID がファイル内で複数回設定された場合、2 回目以降のユーザ ID は無視されます。

ユーザ ID 一覧ファイルの記述例を次に示します。

# ユーザ ID 一覧開始

user01

user02

user03

# ユーザ ID 一覧終了

#### 実行結果

-y オプション指定なしの場合

0 : 正常終了

-1 : 異常終了 <sup>1</sup>

-2 : 異常終了 (継続できるエラー) <sup>2</sup>

-y オプション指定ありの場合

0 : 正常終了

255 : 異常終了 <sup>1</sup>

8 : 異常終了 (継続できるエラー) <sup>2</sup>

注 1

コマンドの処理を継続できないエラーの発生によって、コマンドの実行が中断されたことを示します。エラーの詳細は、WFregusr コマンド実行中の Workflow サーバの syslog ファイルを参照してください。

#### 注 2

現在実行中のユーザの処理を中止し、次ユーザ以降の処理を継続できるレベルのエラーが 1 回以上発生したことを示します。エラーの詳細は、WFregusr コマンド実行中の Workflow サーバの syslog ファイルを参照してください。

### 注意事項

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。
- このコマンドは、Groupmax Object Server, Groupmax Address Server, 及びワークフローディレクトリサービスの起動後に実行してください。
- このコマンドは、WFdefusr コマンド, WFexpusr コマンド, WFdefrl コマンド及び WFexprl コマンドと同時に実行できません。
- このコマンドは、Groupmax Workflow Definer, Groupmax Workflow - Specialist Tools for WWW, Groupmax Workflow Server - Library Extension などで、ビジネスプロセス管理者の更新・業務ロールのユーザ更新などと同時に実行できません。
- このコマンドでは、ユーザ名及びユーザ ID 以外の属性は設定できません。そのほかの属性をデフォルト値以外の値に変更する場合は、Groupmax Workflow Definer, Groupmax Workflow Monitor, 又は WFdefusr コマンドを使用してください。
- 次のような場合に、このコマンドを実行するとエラーとなります。Groupmax Address で再度ユーザを登録し、エラーの要因を取り除いてから再度実行してください。
  - 削除対象のユーザがログイン中の場合
  - 削除対象のユーザをノードの作業者として指定した、旧バージョンのビジネスプロセス定義がある場合
- このコマンドでユーザを他サーバに移動する場合、移動先のサーバにビジネスプロセス定義が配布されていない案件は転送できないので、移動元サーバ内でビジネスプロセス定義に従って配布するトレーを再度決定し直します。この場合、ビジネスプロセスの定義内容によってはエラートレーに移動することもあります。サーバ移動後に対象ユーザが引き続き処理を行う必要がある案件が存在する場合は、該当するビジネスプロセス定義及びロールを移動先サーバに配布していることをユーザ移動実施前に確認してください。また、案件がエラートレーに移動したり、不特定のトレーに移動することを避ける必要がある場合には、案件を特定のユーザ又はロールのトレーに振り替えてからユーザ移動を実施してください。
- ユーザ定義コマンド (WFregusr) のオプションの指定によって、ユーザ情報の処理方法や、ワークフローデータベース及びユーザ情報のキャッシュへの反映方法に、表 4-12 に示す違いがあります。なお、オプション -y, -v, -k は該当しません。

表 4-12 オプションの指定による処理の違い

オプション	ユーザ情報変更通知	Groupmax Address との同期処理	ワークフローデータベースの更新	ユーザ情報のキャッシュの更新
なし	1	-		
-s	1			
-c	2		-	-
-f	- 3			

(凡例) : 処理されます。

- : 処理されません。

注 1 正常に処理し終わったユーザ情報変更通知は消去します。

注 2 ユーザ情報変更通知を参照するだけで、ユーザ情報変更通知は消去しません。

注 3 -f オプションだけで実行していると、ユーザ情報変更通知が累積します。定期的にほかのオプションも実行してください。

- ユーザ定義コマンド (WRegusr) を長期間実行しないでユーザ情報変更通知が大量に累積している場合や、誤ってユーザ情報の追加、削除又は更新を何度も行った場合は、一度 -c オプションでシミュレーションして、ワークフローデータベースへの影響を確認することをお勧めします。
- ユーザ定義コマンド (WRegusr) で案件を保持するユーザを削除した場合、その案件は、滞留していたノードの作業者の定義によって、次のように配布し直されます。
  - ノードでの作業者の定義が「ワークフローユーザを対象」の場合  
エラートレイに配布します。
  - ノードでの作業者の定義が「ロール」の場合  
削除したユーザを除き、「3.9.3 案件の配布規則」の規則に従って、配布し直します。ただし、「3.9.3 案件の配布規則」の規則を適用した結果、「ノードスキップ」に該当する場合は、ロールトレイに配布します (ユーザを削除した場合の案件の配布し直しでは、ノードスキップすることはありません)。  
組織ロール及び階層化ロールでは、ロールトレイに案件を配布し直します。  
また、ノードに再配布の定義がある場合、再配布を適用します。再配布によってユーザ配布された案件を他のユーザに振り替えた後、振替え先のユーザが削除された場合は、再配布の適用によって、最初に再配布したユーザに配布し直します。

## WFretrans ( 連携データ再送コマンド )

### 形式

```
WFretrans { -n 転送 ID | -i ファイル名 } [ -o ファイル名 ]
```

### 機能

メッセージ送信機能に対し、受信結果が確認されていない転送要求の再送を指示します。

## オプション

**-n** 転送 ID

転送要求の転送 ID を指定します。転送 ID は、転送データ一覧取得コマンド (WFshowcq) で表示される形式で指定してください。

**-i** ファイル名 (2 ~ 250 バイト)

転送要求を指定したファイルの名称を、フルパス名で 2 ~ 250 バイトの文字列で設定します。ファイルの形式は、先頭の 1 文字を除き、転送データ一覧取得コマンド (WFshowcq) で出力されるデータ行の形式と同じです。このため、転送データ一覧取得コマンドでの出力結果を編集して使用することができます。

先頭の 1 文字に「R」を指定した行の転送要求が、再送の対象となります。先頭が「R」以外の行はコメントとみなされます。

ファイルの指定例を次に示します。「`\`」はタブを表します。

(例)

```
R  転送ID  要求種別  転送先サーバID  ビジネスプロセス定義名 ...
   転送ID  要求種別  転送先サーバID  ビジネスプロセス定義名 ...
```

**-o** ファイル名 (2 ~ 250 バイト)

このコマンドの実行結果を出力するファイルの名称を、フルパス名で 2 ~ 250 バイトの文字列で設定します。省略すると、標準出力に出力されます。

## 実行結果

```
**** ReTransmit List **** Date(mm/dd/yyyy) Time(hh:mm:ss)
```

(処理結果を表すメッセージが出力されます。)

## 注意事項

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。
- 受信結果が長期間確認されていない転送要求に対してだけ使用してください。

## WFshowcq (転送データ一覧取得コマンド)

---

### 形式

```
WFshowcq [-w ワーク ID] [-o ファイル名] [-d {a|c|e}]
```

### 機能

既にほかのサーバに転送し、受信結果が確認されていない転送要求の情報を表示します。

#### 4. Groupmax Workflow の運用コマンド

### オプション

-w ワーク ID (1 ~ 63 バイト)

指定されたワーク ID を持つ転送要求の情報を表示します。

省略すると、受信結果が確認されていないすべての転送要求の情報が表示されます。

-o ファイル名 (2 ~ 250 バイト)

このコマンドによって取得した情報の出力先ファイル名を、フルパス名で 2 ~ 250 バイトの文字列で設定します。省略すると、標準出力に出力されます。

-d {a|c|e}

表示したいデータの種別を指定します。省略すると、「a」が仮定されます。

- a  
転送要求待ちデータと転送エラーデータを表示します。
- c  
転送要求待ちデータを表示します。
- e  
転送エラーデータを表示します。

### 出力内容

#### タイトル行

```
**** Transmit List **** Date(mm/dd/yyyy) Time(hh:mm:ss)
```

#### サブタイトル行

```
*** データ種別 ***
```

#### データ行

受信結果が確認されていない転送要求の詳細な情報が表示されます。表示される項目を表 4-13 に示します。なお、先頭には半角空白、項目の間にはタブが設定されます。また、要求種別によっては表示されない項目があります（表示されない項目の部分には「\*」が表示されます）。

表 4-13 WFshowcq コマンドの出力内容

項目	ヘッダ	内容
転送 ID	transmit_ID	転送したデータの識別子
要求種別	function	送信要求の種別 <ul style="list-style-type: none"> <li>• go (直列連携の連携先ビジネスプロセスへの案件投入)</li> <li>• call (階層連携の連携先ビジネスプロセスへの案件投入)</li> <li>• retn (階層連携の連携元ビジネスプロセスへ案件を戻す)</li> <li>• back (階層連携の連携元ビジネスプロセスへの案件差し戻し)</li> <li>• repo (転送元 Workflow サーバへの処理結果の返却)</li> <li>• wcan (ワークのキャンセル)</li> <li>• wsus (ワークの一時停止)</li> <li>• wres (ワークの再開)</li> <li>• wter (ワークの処理期限の変更)</li> <li>• wpri (ワークの優先度の変更)</li> <li>• put (Workflow サーバへの案件投入)</li> <li>• gocs (ノード遷移要求)</li> <li>• cons (相談)</li> <li>• answ (回答)</li> <li>• tran (振り替え)</li> <li>• gbbk (差し戻し)</li> <li>• gbtck (引き戻し)</li> <li>• rebk (差し戻し先ユーザが受け付け不可の場合の再配布)</li> <li>• retk (引き戻し先ユーザが受付不可の場合の再配布)</li> <li>• err (エラートレーへの送付)</li> <li>• redv (ノード遷移時の案件再配布)</li> <li>• ertr (エラー案件の復帰)</li> <li>• ustr (ホームサーバ変更時のユーザトレイ情報の転送)</li> <li>• uscs (ホームサーバ変更時のユーザトレイ内の案件の転送)</li> </ul>
転送先サーバ ID	server_ID	転送先 Workflow サーバのサーバ ID
ビジネスプロセス名	BP_name	転送先ビジネスプロセスの名称
ビジネスプロセスバージョン	BP_version	転送先ビジネスプロセスのバージョン (最新バージョンの場合は「LATEST」と表示される)
ワーク ID	work_ID	転送する案件のワーク ID
転送先ユーザ ID	to_user_ID	転送先のユーザ ID
エラー PP コード	error_prog	転送元に返却するエラー発生プログラムコード
エラーコード	error_code	転送元に返却するエラーコード
転送元転送 ID	origin_transmit_ID	転送元から転送されたデータの識別子
転送予約日時	transmit_date	転送要求を登録した日時

### 注意事項

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。

## WFstartad (ワークフローディレクトリサービス起動コマンド)

---

### 形 式

WFstartad [-r]

### 機 能

ワークフローディレクトリサービスを起動します。

### オプション

-r

ワークフローディレクトリサービスを起動するときに、Groupmax Address Server から最新のユーザ情報をキャッシュに読み込む場合に指定します。省略すると、前回使用したキャッシュのユーザ情報が利用されます。

### 注意事項

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。

## WFstartif (ドメイン間連携機能起動コマンド)

---

### 形 式

WFstartif

### 機 能

ドメイン間連携機能を起動します。

### オプション

なし。

### 注意事項

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。

## WFstartmgr (マネージャ機能起動コマンド)

---

### 形 式

WFstartmgr

## 機 能

マネージャ機能を起動します。

マネージャ機能は、起動時に案件の送付要求があれば送付し、送付要求がなければ、スリープします。マネージャ機能のスリープ時間は、Groupmax Workflow の環境設定ファイルで指定できます。詳細については、「2.4.3 Groupmax Workflow での環境設定」を参照してください。

## オプション

なし。

## 注意事項

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。
- このコマンドは、Groupmax Object Server、ワークフローディレクトリサービス、及びサーバ機能を起動し、マネージャ機能の環境を初期化した後に実行してください。

# WFstartms ( マルチサーバ機能起動コマンド )

---

## 形 式

WFstartms

## 機 能

Groupmax Workflow Multi-Server を起動します。

このコマンドを実行すると、最初に、送信メールボックスから不要になった送信済みメールが削除されます。その後、メッセージ送信機能 (WFsend\_dm) 及びメッセージ受信機能 (WFreceive\_dm) が起動されます。

メッセージ送信機能は、未送信のデータがあれば Groupmax Mail Server を使用して案件を転送します。未送信のデータがない場合はスリープします。

メッセージ受信機能は、メールボックスからメールを取り出して案件を作成した後、投入ノード遷移などの処理をして、処理結果を返します。メールが届いていない場合はスリープします。

メッセージ送信機能及び受信機能のスリープ時間については、「2.4.3 Groupmax Workflow での環境設定」を参照してください。

## オプション

なし。

## 注意事項

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。

#### 4. Groupmax Workflow の運用コマンド

- このコマンドは、Groupmax Mail Server の起動後に実行してください。
- メッセージ送信機能又はメッセージ受信機能が何かの原因で停止した場合は、ps コマンドで稼働しているプロセスを探し、kill コマンド (kill -15 プロセス識別子) で一度停止してから、再度このコマンドを実行してください。
- メールボックス中のメールは、定期的に削除する必要があります。一定の期間を決めて Groupmax Workflow Multi-Server を起動及び停止してください。  
メールボックスの容量及びメールの通数は、Groupmax Mail Server のメールボックス容量設定ダイアログボックスで設定します。Groupmax Workflow Multi-Server の起動から終了までの間隔を決め、その間に蓄積される分以上の値を設定してください。容量は、送信する文書・メモの容量、及び最大メッセージサイズの計算を基に決定してください。

### WFstartsv (サーバ機能起動コマンド)

---

#### 形 式

WFstartsv

#### 機 能

サーバ機能を起動します。

#### オプション

なし。

#### 注意事項

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。
- このコマンドは、Groupmax Object Server の起動後に実行してください。

### WFstopad (ワークフローディレクトリサービス終了コマンド)

---

#### 形 式

WFstopad [-f]

#### 機 能

ワークフローディレクトリサービスを終了します。

## オプション

-f

ワークフローディレクトリサービスを強制終了させる場合に指定します。

ワークフローディレクトリサービスを強制終了させた場合、キャッシュ制御情報ファイルを出力します。詳細については、「5.3.2 障害情報の採取」を参照してください。

強制終了後にワークフローディレクトリサービスを再度起動する場合は、ワークフローのすべてのプロセスが終了していることを確認して、`-r` オプションを指定して `WFstartad` コマンドを実行してください。

## 注意事項

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。

## WFstopif (ドメイン間連携機能終了コマンド)

---

### 形式

`WFstopif [-f] [-t 終了待ち時間]`

### 機能

実行中の処理の終了を待って、ドメイン間連携機能を終了します。

### オプション

-f

ドメイン間連携機能を強制終了させ、保守情報を取得する場合に指定します。

ワークフローデータベースの更新中に強制終了させると、データベース破壊を回避するために Groupmax Object Server が異常終了します。この場合は、Groupmax Object Server を、`xodstart` (オブジェクトサーバの起動) コマンドのオプションを指定しないで起動してください。Groupmax Object Server の起動については、マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。

保守情報は、`/Flowmate/WFmc/log` に出力されます。コアファイル (core) も出力されます。

-t 終了待ち時間 (0 ~ 7200)

終了完了の待ち時間を指定します (単位: 秒)。省略時は 60 が設定されます。

### 注意事項

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。

## WFstopmgr ( マネージャ機能終了コマンド )

---

### 形 式

WFstopmgr [-f]

### 機 能

実行中の処理の終了を待って、マネージャ機能を終了します。

### オプション

-f

マネージャ機能を強制終了させる場合に指定します。

ワークフローデータベースの更新中に強制終了させると、データベース破壊を回避するために Groupmax Object Server が異常終了します。この場合は、Groupmax Object Server を、xodstart ( オブジェクトサーバの起動 ) コマンドのオプションを指定しないで起動してください。Groupmax Object Server の起動については、マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。

### 注意事項

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。

## WFstopms ( マルチサーバ機能終了コマンド )

---

### 形 式

WFstopms [-f]

### 機 能

実行中の処理の終了を待って、Groupmax Workflow Multi-Server ( メッセージ送信機能及びメッセージ受信機能 ) を終了します。

### オプション

-f

Groupmax Workflow Multi-Server を強制終了させます。

ワークフローデータベースの更新中に強制終了させると、データベース破壊を回避するために Groupmax Object Server が異常終了します。この場合は、Groupmax Object Server を、xodstart ( オブジェクトサーバの起動 ) コマンドのオプションを指定しないで起動してください。Groupmax Object Server の起動については、マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。

### 注意事項

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。

## WFstopsv (サーバ機能終了コマンド)

---

### 形 式

```
WFstopsv [-f]
```

### 機 能

実行中の処理の終了を待って、サーバ機能を終了します。

### オプション

-f

サーバ機能を強制終了させる場合に指定します。

ワークフローデータベースの更新中に強制終了させると、Groupmax Object Server が異常終了する場合があります。この場合は、Groupmax Object Server を、xodstart (オブジェクトサーバの起動) コマンドのオプションを指定しないで起動してください。詳細については、マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。

### 注意事項

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。
- このコマンドは、マネージャ機能を終了した後に実行してください。
- サーバ機能の停止中は、新たなログインの要求は受け付けません。

## WFuserls (ログインユーザ表示コマンド)

---

### 形 式

```
WFuserls [-s]
```

### 機 能

Groupmax Workflow にログインしているユーザの情報を表示します。ユーザの情報として、ユーザ名や IP アドレスなどが表示されます。

### オプション

-s

ログインしているユーザの情報の要約を表示します。

#### 4. Groupmax Workflow の運用コマンド

要約（ログインユーザの総数など）だけが表示され、ユーザ単位の情報は表示されません。

### 実行結果

#### V1

Groupmax Workflow Definer 及び Groupmax Workflow Monitor のログイン（管理者用ログイン）ユーザが表示されます。

管理者用ログインとは、次のプログラムからのログインのことです。

- Groupmax Workflow Definer（ワークフロー定義、ワークフローロール定義、ワークフローユーザ定義、配布管理）
- Groupmax Workflow Monitor
- Groupmax Workflow Client - Library Extension 及び Groupmax Workflow Server - Library Extension で作成したアプリケーション
- Groupmax Workflow - Specialist Tools for WWW 及び Groupmax Workflow - End-user Tool for WWW
- バージョン 02-10 より前の C/S クライアント (Flowmate/Definer, Monitor, Groupshop, Flowmate/Client-Library, Flowmate/Server-Library, Flowmate/Development Kit で作成したアプリケーションなど)
- バージョン 02-20 より前の Groupmax World Wide Web Version2.0/ ワークフロー

#### V2

Groupmax Integrated Desktop のログイン（一般用ログイン）ユーザが表示されません。

一般用ログインとは、次のプログラムからのログインのことです。

- Groupmax Integrated Desktop
- Groupmax Form Client
- Groupmax Workflow for Active Server Pages で作成したアプリケーション
- バージョン 02-20 以降の Groupmax World Wide Web Desktop/ ワークフロー
- Groupmax Workflow Client - Library 又は Groupmax Workflow Server - Library で作成したアプリケーション

#### user\_name

Groupmax Workflow Server にログインしているユーザのユーザ ID が表示されます。-s オプションを指定した場合は表示されません。

#### ip\_addr

Groupmax Workflow Server にログインしているユーザの、クライアントの IP アドレスが表示されます。-s オプションを指定した場合は表示されません。

#### pid

ログインユーザのセッションのプロセス ID が表示されます。-s オプションを指定した場合は表示されません。

`session_count`

Groupmax Workflow Server にログインしているユーザのクライアントからのセッション数が表示されます。-s オプションを指定した場合は表示されません。

`max_login_number`

環境設定ファイルで指定した最大ログインユーザ数が表示されます。

`server_session_count`

現在 Groupmax Workflow Server に接続しているセッション数が表示されます。

`system_login_count`

現在 Groupmax Workflow Server に接続しているシステムログイン総数が表示されます。システムログインとは、他のサーバで動作している Groupmax Workflow Server との間で通信するためにシステム内部で行うログインのことです。

**注意事項**

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。
- このコマンドは、Groupmax Workflow Server が起動している状態で実行してください。

## 4.4 運用コマンド実行時の注意事項

---

Groupmax Workflow が提供する運用コマンドを処理するときの注意事項を次に示します。

Groupmax Workflow の運用コマンドの処理中に kill コマンドを実行してプロセスを強制終了しないでください。

kill コマンドでプロセスを強制終了させた場合、Groupmax Object Server が停止していないことを確認してください。Groupmax Object Server が停止している場合には、Groupmax Object Server 及び Groupmax のサーバシステムで稼働するすべてのプログラムを再起動してください。

サーバ機能、マネージャ機能、マルチサーバ機能が稼働している状態で運用コマンドを実行した場合、タイミングによって資源の競合が発生して運用コマンドが中断することがあります。資源の競合を避けるため、負荷が集中するときはできるだけサーバ機能、マネージャ機能、マルチサーバ機能と運用コマンドを同時に実行しないでください。

# 5

## 障害対策

この章では、Groupmax Workflow に障害が起きたときの対処方法について説明します。

---

5.1 システムに障害が発生して正常に戻るまで

---

5.2 障害の切り分け

---

5.3 障害への対処

---

5.4 障害の回復

---

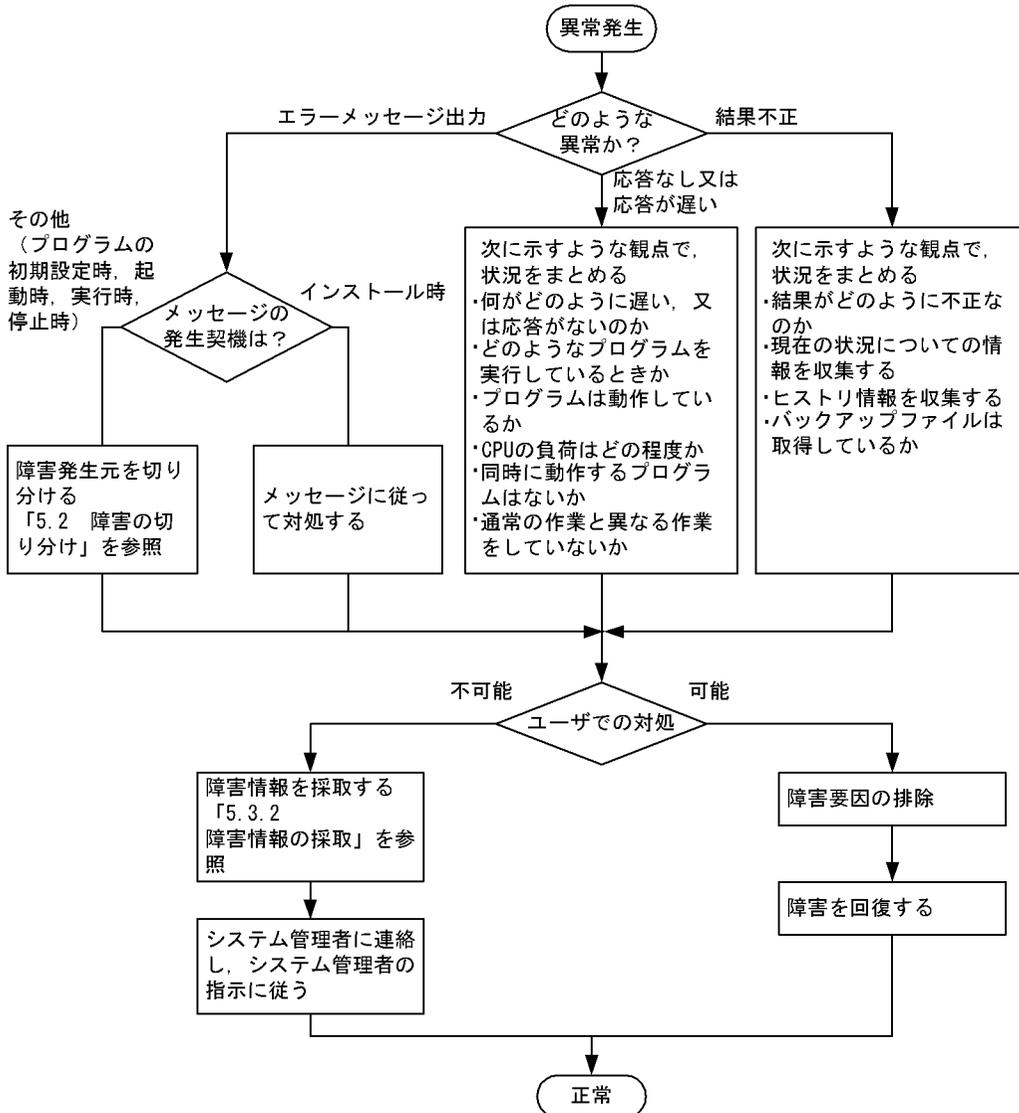
5.5 環境設定時の障害対策

---

## 5.1 システムに障害が発生して正常に戻るまで

システムで障害が発生してから正常に戻るまでの作業の流れを、図 5-1 に示します。

図 5-1 システムで障害が発生してから正常に戻るまでの作業の流れ



## 5.2 障害の切り分け

障害に対処する場合、その障害がどのような状況で発生したか、また、障害を検出したプログラムが何であるかを把握する必要があります。障害が発生したら、まず障害発生時のメッセージを確認し、障害発生状況と出力されているメッセージを基に、障害検出元プログラムを切り分けてください。障害の切り分け方法を、表 5-1 に示します。

表 5-1 障害検出元プログラムの切り分け

障害の発生状況	メッセージ ID	検出元プログラム
Groupmax Workflow 組み込み時	-	オペレーティングシステムの標準組み込み機能
Groupmax Workflow の環境設定時、起動時、又は動作中	KFXOxxxxx	Groupmax Object Server
	KDWMxxxxx , KDWSxxxxx , KDWDxxxxx	Groupmax Workflow Server
Groupmax Workflow Multi-Server の起動時又は動作中	KDWTxxxxx	Groupmax Workflow Multi-Server
Groupmax Workflow Server - Connection の起動時又は動作中	KDWIxxxxx	Groupmax Workflow Server - Connection

障害の検出元がオペレーティングシステムの標準組み込み機能の場合は、メッセージとして障害要因と対処が出力されますので、メッセージに従って対処してください。その他の障害への対処方法については、「5.3 障害への対処」を参照してください。

なお、メッセージが出力されないでオペレーティングシステムが動作しなくなった場合は、オペレーティングシステムの障害であると考えられます。それぞれのオペレーティングシステムのマニュアルを参照して対処してください。

## 5.3 障害への対処

---

ここでは、Groupmax Workflow 又は Groupmax Object Server で障害が発生した場合の対処方法について説明します。

### 5.3.1 障害要因の排除

Groupmax Workflow で障害が発生した場合は「付録 D メッセージとコード」、Groupmax Object Server で障害が発生した場合はマニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照して、メッセージの意味及び要因・対処を確認してください。

メッセージが示す障害の要因は、次の二つに分けられます。

ユーザが対処できる障害要因

環境設定や運用の誤りによる場合、環境や運用状況を見直し、障害要因を取り除いて、プログラムを再起動してください。

ユーザが対処できない障害要因

障害情報を採取して、システム管理者に連絡してください。

### 5.3.2 障害情報の採取

障害発生時にシステム管理者に連絡する場合、障害情報を採取してください。

障害情報は、障害情報収集コマンドで採取できます。

障害情報収集コマンドについては、「4.3 運用コマンドの文法」の「WFgetlog (障害情報収集コマンド)」を参照してください。

注

Groupmax Workflow を組み込むと、Groupmax Workflow インストール先ディレクトリ下にトレース情報格納ディレクトリ (/Flowmate/log) が作成されます。

Groupmax Workflow Server は、このディレクトリに機能ごとのトレース情報をファイルとして出力します。これらのファイルは、登録されているユーザの数などによっては容量が大きくなることがあります。

トレース情報のファイルを格納できるように、あらかじめ十分なディスク容量を確保してください。

#### (1) 障害情報の種類

採取する情報は、障害の現象によって異なります。採取する障害情報を、表 5-2 に示します。

表 5-2 採取する障害情報

項番	採取する障害情報	障 害 の 現 象				
		AP 異常終了	Groupmax Workflow の異常終了	Groupmax Workflow のエラー検出	性能が悪い	結果不正
1	操作手順					
2	メッセージ					
3	メッセージロギング (SYSLOG)					
4	ログファイル					
5	ソフトウェアエラーログ (SYSRAS)					
6	アプリケーションダンプ (AP ダンプ)					
7	ビジネスプロセス定義情報					
8	ワークフローログ					
9	ワーク, 案件の各属性				×	
10	マネージャ機能トレースファイル				×	
11	マネージャ機能遷移ログファイル					
12	サーバ機能トレースファイル					
13	ユーザ定義ユティリティ機能トレースファイル					
14	ユーザ定義ユティリティ機能登録ログファイル					
15	ユーザ定義更新ユティリティ機能トレースファイル					
16	ユーザ定義更新ユティリティ機能ログファイル					
17	ルール定義更新ユティリティ機能トレースファイル					
18	ルール定義更新ユティリティ機能ログファイル					
19	ルール定義情報出力ユティリティ機能トレースファイル					

5. 障害対策

項番	採取する障害情報	障 害 の 現 象				
		AP 異常終了	Groupmax Workflow の異常終了	Groupmax Workflow のエラー検出	性能が悪い	結果不正
20	配布管理機能トレースファイル					
21	ワーク削除ユティリティ機能トレースファイル		○	○		
22	ワーク削除ユティリティワーク削除ログファイル					○
23	配布指示ユティリティ機能トレースファイル					
24	マルチサーバ機能トレースファイル					
25	マルチサーバ機能送受信ログファイル					
26	コアファイル ( core )					
27	アドレスキャッシュ情報ファイル					
28	キャッシュ制御情報ファイル					
29	Groupmax Object Server 関連ファイル					
30	Groupmax Address 関連ファイル				×	×
31	ドメイン間連携機能トレースファイル					
32	ドメイン間連携機能送受信ログファイル		×	×	×	×
33	ドメイン間連携機能 SNAP ダンプファイル	×			×	×
34	Workflow 通信データダンプファイル	×				×
35	Workflow 通信バッファダンプファイル	×			×	×
36	サーバ機能停止情報ファイル	×	×		×	×

( 凡例 )

- : 必要
- : 障害や解析の状況によって必要 ( メッセージなどで指示 )
- × : 不要

## 注

オペレーティングシステムが HI-UX/WE2 の場合だけ採取できます。

## (2) 障害情報の詳細

表 5-2 の項番に沿って、採取する障害情報の内容及び採取方法について説明します。なお、文中の「\*」はワイルドカードを示します。

## 操作手順

障害発生に至るまでの詳細な操作手順（画面のハードコピー、操作内容のメモなど）を採取してください。

## メッセージ

標準出力、標準エラー出力及びコンソールに表示されるメッセージを、画面のハードコピーで採取してください。また、直前のメッセージも採取してください。

## メッセージロギング (SYSLOG)

障害発生時に Groupmax Workflow 及び Groupmax Object Server が出力するメッセージロギングを、syslog ファイルから採取してください。AIX の場合、「2.4.1(3) システム・ログに関する設定 (AIX の場合だけ)」で設定しているログファイルパスのログを採取してください。

syslog ファイルについては、それぞれのオペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

## ログファイル

Groupmax Object Server の xodlogcat コマンドを実行して、出力結果を採取してください。xodlogcat コマンドについては、マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。

## ソフトウェアエラーログ (SYSRAS)

障害発生時に Groupmax Workflow 及び Groupmax Object Server が出力するソフトウェアログを採取してください。ソフトウェアログの採取方法については、マニュアル「HI-UX/WE2 システム管理 導入・保守編」を参照してください。

## アプリケーションダンプ (AP ダンプ)

RAS (障害保守支援) 機能によって出力された、障害発生時の AP ダンプを採取してください。AP ダンプの採取方法については、マニュアル「HI-UX/WE2 システム管理 導入・保守編」を参照してください。

## ビジネスプロセス定義情報

エラーの発生したビジネスプロセス定義の、次の情報を採取してください。

- ビジネスプロセス定義名称、バージョン番号
- ビジネスプロセス定義ファイル (ファイル名: xxxxxxxx.BPD)
- ビジネスプロセス定義実行形式ファイル (ファイル名: xxxxxxxx.BPX)

## ワークフローログ

障害発生時及びそれ以前のワークフローログを、ワークフローログ出力コマンド

## 5. 障害対策

(WFdestlg) で出力してください。旧バージョンのビジネスプロセスでの障害の場合は、障害発生時及びそれ以前のワークフローログが取得されているユーザジャーナルをアンロードしてください。

ワーク，案件の各属性

案件がエラートレーにある場合，その案件と該当するワークの各属性の内容を採取してください。

マネージャ機能トレースファイル

トレース情報格納ディレクトリ (/Flowmate/log) 下の次に示すファイルを採取してください。

- MGRTRC.\*

マネージャ機能遷移ログファイル

トレース情報格納ディレクトリ (/Flowmate/log) 下の次に示すファイルを採取してください。

- MGRLOG.\*

サーバ機能トレースファイル

API ディレクトリ (/Flowmate/log/API) 下の次に示すファイルを採取してください。

- ユーザ ID.\*

ユーザ定義ユティリティ機能トレースファイル

トレース情報格納ディレクトリ (/Flowmate/log) 下の次に示すファイルを採取してください。

- U\_Regutr.\*

ユーザ定義ユティリティ機能登録ログファイル

トレース情報格納ディレクトリ (/Flowmate/log) 下の次に示すファイルを採取してください。

- U\_Regulg.\*

ユーザ定義更新ユティリティ機能トレースファイル

トレース情報格納ディレクトリ (/Flowmate/log) 下の次に示すファイルを採取してください。

- U\_Defutr.\*

ユーザ定義更新ユティリティ機能ログファイル

トレース情報格納ディレクトリ (/Flowmate/log) 下の次に示すファイルを採取してください。

- U\_Defulg.\*

ロール定義更新ユティリティ機能トレースファイル

トレース情報格納ディレクトリ (/Flowmate/log) 下の次に示すファイルを採取してください。

- U\_Defrtr.\*

ロール定義更新ユティリティ機能ログファイル

トレース情報格納ディレクトリ (/Flowmate/log) 下の次に示すファイルを採取してください。

- U\_Defrlg.\*

ロール定義情報出力ユティリティ機能トレースファイル

トレース情報格納ディレクトリ (/Flowmate/log) 下の次に示すファイルを採取してください。

- U\_Exprtr.\*

配布管理機能トレースファイル

トレース情報格納ディレクトリ (/Flowmate/log) 下の次に示すファイルを採取してください。

- U\_UTGCTL.\*

ワーク削除ユティリティ機能トレースファイル

トレース情報格納ディレクトリ (/Flowmate/log) 下の次に示すファイルを採取してください。

- U\_Delwtr.\*

ワーク削除ユティリティワーク削除ログファイル

トレース情報格納ディレクトリ (/Flowmate/log) 下の次に示すファイルを採取してください。

- U\_Delwlg.\*

配布指示ユティリティ機能トレースファイル

トレース情報格納ディレクトリ (/Flowmate/log) 下の次に示すファイルを採取してください。

- U\_Insdst.\*

マルチサーバ機能トレースファイル

トレース情報格納ディレクトリ (/Flowmate/log) 下の次に示すファイルを採取してください。

- TMSMDL.\*
- TMRMDL.\*

マルチサーバ機能送受信ログファイル

トレース情報格納ディレクトリ (/Flowmate/log) 下の次に示すファイルを採取してください。

- TSEND.\*
- TSNREPO.\*
- TRCV.\*
- TMSREPO.\*
- TGMNTFY.\*
- TGMREPO.\*

コアファイル ( core )

## 5. 障害対策

サーバ機能で障害が発生した場合は、kill コマンドでプロセスを終了させ、/Flowmate ディレクトリ下に出力されたコアファイルを収集してください。その他の機能が異常終了した場合は、コアファイルがカレントディレクトリに出力されますので、これを採取してください（通常は、/Flowmate/bin ディレクトリ下に出力されます）。

Groupmax Object Server が異常終了した場合のコアファイルについては、マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。

### アドレスキャッシュ情報ファイル

サーバ機能管理ディレクトリ（/Flowmate/adm）下の次に示すファイルを採取してください。

- wfaddrsv.dat

### キャッシュ制御情報ファイル

アカウントログ機能制御ディレクトリ（/Flowmate/spool）下の次に示すファイルを採取してください。このファイルは、-f オプションを指定してワークフローディレクトリサービスを強制終了させた場合に出力されます。

- WFdictlg

### Groupmax Object Server 関連ファイル

Groupmax Object Server が異常終了した場合は、次のファイルを採取してください。

- \$XODDIR/spool ディレクトリ下のすべてのファイル
- \$XODDIR/tmp ディレクトリ下のすべてのファイル
- システム共通定義ファイル（\$XODDIR/conf/xodrc）
- ログファイル（xodlogcat コマンドの実行結果リスト）
- ジャーナルファイル

詳細については、マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。

### Groupmax Address 関連ファイル

Groupmax Address のユーザ認証でエラーが発生した場合は、/tmp ディレクトリ下にある次のファイルを採取してください。

- gaddr.\*

### ドメイン間連携機能トレースファイル

トレース情報格納ディレクトリ（/Flowmate/WFmc/log）下の次に示すファイルを採取してください。

- ISMDL.\*
- IRMDL.\*

### ドメイン間連携機能送受信ログファイル

ドメイン間連携送受信ログ出力ディレクトリ（/Flowmate/WFmc/SRlog）下の次に示すファイルを採取してください。

- SENDLOG\*

- RECVLOG\*

#### ドメイン間連携機能 SNAP ダンプ

RAS 情報格納ディレクトリ (/Flowmate/WFmc/log) 下の次に示すファイルを採取してください。

- ISDMP.\*
- IRDMP.\*

#### Workflow 通信データダンプファイル

サーバエラー情報格納ディレクトリ (/Flowmate/ras) 下に次に示すファイルが出力されている場合、採取してください。

- SESPROTDMP\_XXXX
- SESTIMEOUT\_XXXX
- SESSIGRCV\_XXXX

(「XXXX」はプロセス ID を示します。)

同時に、サーバエラー情報格納ディレクトリ (/Flowmate/ras) 下のファイルのリスト (ls -l コマンドの結果) を採取してください。

ファイルの採取後は、これらのファイルを削除してもかまいません。

#### Workflow 通信バッファダンプファイル

サーバエラー情報ディレクトリ (/Flowmate/ras) 下に次に示すファイルが出力されている場合、採取してください。

- SVSSBUF\_\*.\*
- SVBSBUF\_\*.\*

ファイルの採取後は、これらのファイルを削除してもかまいません。

#### サーバ機能停止情報ファイル

サーバエラー情報ディレクトリ (/Flowmate/ras) 下に次に示すファイルが出力されている場合、採取してください。

- SVSTPFRAS

ファイルの採取後は、このファイルを削除してもかまいません。

## 5.4 障害の回復

---

ここでは、Groupmax Workflow で発生した障害の回復方法について説明します。

### 5.4.1 Groupmax Workflow Server 障害時の回復方法

マネージャ機能、サーバ機能又はディレクトリサービス機能が異常終了した場合は、メッセージで示す要因を取り除いてから再起動してください。ディレクトリサービス機能を再起動するときは、`-r` オプションを指定してください。

### 5.4.2 Groupmax Workflow Multi-Server 障害時の回復方法

マルチサーバ機能が異常終了した場合は、メッセージで示す要因を取り除いてから再起動してください。

### 5.4.3 Groupmax Object Server 障害時の回復方法

Groupmax Object Server が異常終了した場合の回復方法については、マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。

### 5.4.4 セッション異常終了時の回復方法

クライアントのセッションが異常終了した場合は、メッセージが示す要因を取り除いた後、再度ログインしてください。また、クライアントから再度ログインできない場合は、サーバ側にサーバ機能の子プロセスがあることが考えられます。この場合は、次に示すどちらかの操作を実行してください。

- クライアントのシステムを終了させ、再起動させる
- サーバ機能を終了させ、再起動させる

なお、編集中の文書については、ワークエリアの状態を確認しながら処理を再開してください。ワークエリアの文書が破壊されている場合は、ワークフローデータベースから文書を取り出す必要があります。

### 5.4.5 案件の遷移エラー時の回復方法

マネージャ機能によって、送付できない案件はエラートレーに配布されます。エラートレーに配布された案件は、Groupmax Workflow Monitor を使用して復帰できます。ただし、エラー要因によっては復帰できない場合があります。

この場合は、エラーとなった案件に表示されるエラーメッセージを参照して要因を調査してください。

なお、エラートレーに配布された案件は、Groupmax Integrated Desktop の INBOX や

Groupmax Form の案件一覧で表示し、案件を開いて内容を確認することはできますが、案件を復帰させたり遷移させたりすることはできません。

## 5.4.6 ドメイン間連携中の障害回復方法

ドメイン間連携中に障害が発生し、情報をバックアップ時点まで戻す場合、連携していた他ドメインのサーバが保持する連携情報と同期を取る必要があります。

現在のドメイン間での連携状態を調べるために、次に示す情報を連携元と連携先のサーバで取得してください。

障害が発生した時点のドメイン間連携機能の送受信ログ（障害発生時点の案件の連携状態確認用）

送受信ログの見方については、「付録 H ドメイン間連携機能の送受信ログ」を参照してください。

回復後の WFifscn 実行結果（回復時点の案件の連携状態確認用）

整合性確保の対象になるワークの案件送付履歴（案件の状態確認用）

連携元で障害が発生した場合は表 5-3 を、連携先で障害が発生した場合は表 5-4 を参照して回復してください。

表 5-3 連携元で障害が発生した場合の対処

連携種別	障害発生時点	回復時点	連携元の対処	連携先の対処
直列連携	連携前	投入前	該当する案件を再度投入する。	-
		連携前	-	-
	連携先送付中	投入前	該当する案件を再度投入する。	連携元からの指示によって、対話中の案件をキャンセル（削除）する。
		連携前	-	
		連携先送付中	未応答要求表示コマンド（WFifscn）で該当する案件の要求を特定し、要求再送コマンド（WFifrsnd）で再送する。	
	連携後	投入前	遷移が終了していないなど該当する案件のデータが必要な場合、再度投入する。連携先に同一案件が投入されることを連絡する。	連携元から連絡があった場合だけ対処（該当案件のキャンセル）する。
		連携前	連携先に同一案件が投入されることを連絡する。	
		連携先送付中	未応答要求表示コマンド（WFifscn）で該当する案件の要求を特定し、要求再送コマンド（WFifrsnd）で再送する。	-
		連携後	-	-

5. 障害対策

連携種別	障害発生時点	回復時点	連携元の対処	連携先の対処	
階層連携	連携前	投入前	該当する案件を再度投入する。	-	
		連携前	-	-	
	連携先送付中	投入前	該当する案件を再度投入する。	未応答要求表示コマンド (WFifrsnd) で再送する。	連携元からの指示によって、対話中の案件をキャンセル (削除) する。
		連携前	-		
		連携先送付中	未応答要求表示コマンド (WFifrscon) で該当する案件の要求を特定し、要求再送コマンド (WFifrsnd) で再送する。		
	連携先で遷移中	投入前	該当する案件を再度投入する。連携先に同一案件が投入されることを連絡する。	未応答要求表示コマンド (WFifrscon) で該当する案件の要求を特定し、要求再送コマンド (WFifrsnd) で再送する。	連携元からの指示によって、遷移中の案件をキャンセルする。
		連携前	連携先に同一案件が投入されることを連絡する。		
		連携先送付中	未応答要求表示コマンド (WFifrscon) で該当する案件の要求を特定し、要求再送コマンド (WFifrsnd) で再送する。		
		連携先投入後	-		
	連携元へ送付中	投入前	該当する案件を再度投入する。連携先に同一案件が投入されることを連絡する。	未応答要求表示コマンド (WFifrscon) で該当する案件の要求を特定し、要求再送コマンド (WFifrsnd) で再送する。	連携元からの指示によって、遷移中の案件をキャンセルする。
		連携前	連携先に同一案件が投入されることを連絡する。		
		連携先送付中	未応答要求表示コマンド (WFifrscon) で該当する案件の要求を特定し、要求再送コマンド (WFifrsnd) で再送する。		
		連携先投入後	連携先に連絡して、該当する案件を再送してもらう。		
	連携後	投入前	遷移が終了していないなど該当する案件のデータが必要な場合、再度投入する。連携先に同一案件が投入されることを連絡する。	未応答要求表示コマンド (WFifrscon) で該当する案件の要求を特定し、要求再送コマンド (WFifrsnd) で再送する。	連携元から連絡があった場合だけ対処する。
		連携前	連携先に同一案件が投入されることを連絡する。		
連携先送付中		未応答要求表示コマンド (WFifrscon) で該当する案件の要求を特定し、要求再送コマンド (WFifrsnd) で再送する。			

連携種別	障害発生時点	回復時点	連携元の対処	連携先の対処
		連携先投入後	-	
		連携元へ送付中	未応答要求表示コマンド (WFifscn) で該当する案件の要求を特定し、要求再送コマンド (WFifrsnd) で再送する。	
		連携後	-	

表 5-4 連携先で障害が発生した場合の対処

連携種別	障害発生時点	回復時点	連携先の対処	連携元の対処	
直列連携	連携前	連携前	-	-	
	連携元から送付中	連携前	連携元に対して該当する案件の再送を依頼する。	連携先からの指示によって、該当する案件を要求再送コマンド (WFifrsnd) で再送する。	
		連携元から送付中	該当する案件を削除し、連携元に対して該当する案件の再送を依頼する。		
	連携後	連携前	該当する案件を削除し、連携元に対して該当する案件の再投入を依頼する。	-	連携先からの指示によって、該当する案件を無効にし、再投入する。
		連携先送付中			
		連携後			
階層連携	連携前	連携前	-	-	
	連携元から送付中	連携前	連携元に対して該当する案件の再送を依頼する。	連携先からの指示によって、該当する案件を要求再送コマンド (WFifrsnd) で再送する。	
		連携先送付中	該当する案件を削除し、連携元に対して該当する案件の再送を依頼する。		
	連携先で遷移中	連携前	連携元に対して該当する案件の再送を依頼する。	-	連携先からの指示によって、該当する案件を要求再送コマンド (WFifrsnd) で再送する。
		連携先送付中	該当する案件を削除し、連携元に対して該当する案件の再送を依頼する。		
		連携先投入後	-		

5. 障害対策

連携種別	障害発生時点	回復時点	連携先の対処	連携元の対処
連携元へ送付中	連携前		連携元に対して該当する案件の再送を依頼する。	連携先からの指示によって、該当する案件を要求再送コマンド (WFifrsnd) で再送する。
	連携先送付中		該当する案件を削除し、連携元に対して該当する案件の再送を依頼する。	
	連携先投入後		-	-
	連携元へ送付中		該当する案件を要求再送コマンド (WFifrsnd) で再送する。	-
連携後	連携前	連携先送付中	該当する案件のデータが必要な場合、連携元に案件を再投入してもらう。	連携先から再投入の依頼があった場合、該当する案件をキャンセルして投入する。
	連携先投入後			
	連携元へ送付中			
	連携後	-	-	

## 5.5 環境設定時の障害対策

この節では、障害が発生しやすい Groupmax Workflow の環境設定時の障害対策について説明します。

### 5.5.1 サーバでの環境設定時の対処

サーバで Groupmax Workflow の環境設定時に障害が発生したときの対処を表 5-5 に示します。

表 5-5 Groupmax Workflow の環境設定時に障害が発生したときの対処

項番	障害の発生状況	対 処
1	Groupmax Object Server のオペレーティングシステムへの登録	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境変数 PATH, XODDIR, XODCONFPATH を見直す。</li> <li>システム共通定義ファイル (\$XODDIR/conf/xodrc) を見直す。</li> <li>Groupmax Object Server をオペレーティングシステムから削除する (/usr/HiOODB/bin/xodsetup -d \$XODDIR)。</li> <li>マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照して各種設定を見直す。</li> </ul>
2	Groupmax Object Server のデータベース環境の初期化	<ul style="list-style-type: none"> <li>Groupmax Object Server の初期設定パラメタファイルを見直す。</li> <li>xodbinit が正常終了した後、再度 xodbinit を実行する場合は、最初の xodbinit で作成したファイルをすべて削除してから実行すること。</li> </ul>
3	Groupmax Object Server の起動時	<ul style="list-style-type: none"> <li>障害の要因を取り除く。</li> <li>データベース環境の初期化後初めて Groupmax Object Server を起動すると、データベース常駐指定の警告メッセージ (KFXO38002-W) が出力されるが、エラーではないので、無視して初期設定を続行すること。</li> </ul>
4	サーバ機能環境の初期化	障害の要因を取り除く。
5	サーバ機能の起動	障害の要因を取り除く。
6	マネージャ機能の初期化	<ul style="list-style-type: none"> <li>障害の要因を取り除く。</li> <li>Groupmax Object Server の初期設定パラメタファイルが間違っている場合は、Groupmax Object Server のデータベース環境の初期化時に作成したファイル (/Flowmate/doc/*, /Flowmate/export/*), 及びサーバ機能環境の初期化時に作成したファイル (/Flowmate/doc/*, /Flowmate/export/*) をすべて削除し、項番 2 に戻って実行し直す。</li> </ul>
7	ワークフローデータベースの常駐指定の有効化	この段階の xodstart で KFXO38001-W ~ KFXO38012-E のメッセージが出力される場合は、マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照してシステム共通定義ファイルを見直す。
8	サーバ機能及びマネージャ機能の起動	<ul style="list-style-type: none"> <li>Groupmax Workflow の環境設定ファイル (/Flowmate/etc/config) を見直す。</li> <li>メッセージに従った対処をする。</li> </ul>

## 5.5.2 サーバへログインができない場合の対処

Groupmax Workflow の環境を設定した後、クライアントからサーバへログインしたとき、ログインできない場合の対処について次に示します。

### (1) Groupmax Workflow Server 及び Groupmax Address Server の確認

Groupmax Workflow Server 及び Groupmax Address Server が起動されているか、また障害が発生していないかを確認してください。これらのプログラムが起動されていないか、または、障害が発生していたりした場合は、障害要因を取り除いて起動してください。

### (2) 通信環境の設定内容の確認

#### (a) クライアントの通信環境の設定内容の確認

次の2点について確認してください。

- Groupmax 統合セットアップのサーバの設定内容及びサーバのホスト名
- IP アドレスが HOSTS ファイルに登録されているか、又は DNS によってアドレス解決されるように設定されているか

#### (b) サーバでの通信環境の設定内容の確認

/etc/services ファイルの設定内容を確認してください。詳細については、「2.4.1 オペレーティングシステムでの環境設定」を参照してください。

### (3) ユーザ定義及びパスワードの設定内容の確認

#### (a) ユーザの設定内容の確認

Groupmax Address のユーザ情報の設定内容を確認してください。詳細については、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド 基本操作編」を参照してください。

#### (b) ワークフローデータベースへの定義内容の確認

ワークフローデータベースに該当するユーザを登録しているかどうか、Groupmax Workflow Monitor 又は Groupmax Workflow Definer で確認してください。

# 付録

---

付録 A	旧バージョンのワークフローログの出力
付録 B	ワークフローログのデータ形式
付録 C	旧バージョンのワークフローログのデータ形式
付録 D	メッセージとコード
付録 E	ディスク占有量の計算式
付録 F	システム共通定義ファイルの設定
付録 G	Groupmax Workflow Server - Connection がサポートする機能の範囲
付録 H	ドメイン間連携機能の送受信ログ
付録 I	用語解説

---

---

## 付録 A 旧バージョンのワークフローログの出力

ここでは、02-10 より前のバージョンの Groupmax Workflow Definer で登録したビジネスプロセス定義を対象として、ワークフローログから稼働状況を解析する運用について説明します。

### 付録 A.1 稼働状況解析機能の概要

Groupmax Workflow では、02-10 より前のバージョンの Groupmax Workflow Definer で登録したビジネスプロセス定義を対象とする場合、ワークフローログを Groupmax Object Server のユーザジャーナルに取得しています。稼働状況解析機能は、このワークフローログを基に、業務を分析して改善するために有効な情報を取り出すための機能です。最終的には、Excel などの表計算ソフトウェアを利用して、業務の改善に役立つ情報を生成することを目的としています。

稼働状況の解析は、次の三つの手順から成っています。

#### 1. 稼働状況を解析する前の準備

Groupmax Object Server のコマンドを使用してユーザジャーナルをアンロードし、アンロードジャーナルファイルを作成します。また、Groupmax Workflow のビジネスプロセス定義情報抽出コマンド (WFanalyst\_bp) を使用して、稼働状況の解析に必要な情報を取り出したビジネスプロセス定義情報ファイルを作成します。

#### 2. ワークフローログの編集、及び稼働実績の集計

1. で作成した 2 種類のファイルを入力として、次に示す 2 種類の CSV 形式のファイルを作成します。

##### ワークフローログレコードファイル

ワークフローログから、業務履歴に関する情報を取り出して、一定のフォーマットに編集したファイルです。ワークフローログ編集コマンド (WFanalyst\_log) を使用して作成します。

##### 稼働実績ファイル (ユーザ実績ファイル、ビジネスプロセス実績ファイル)

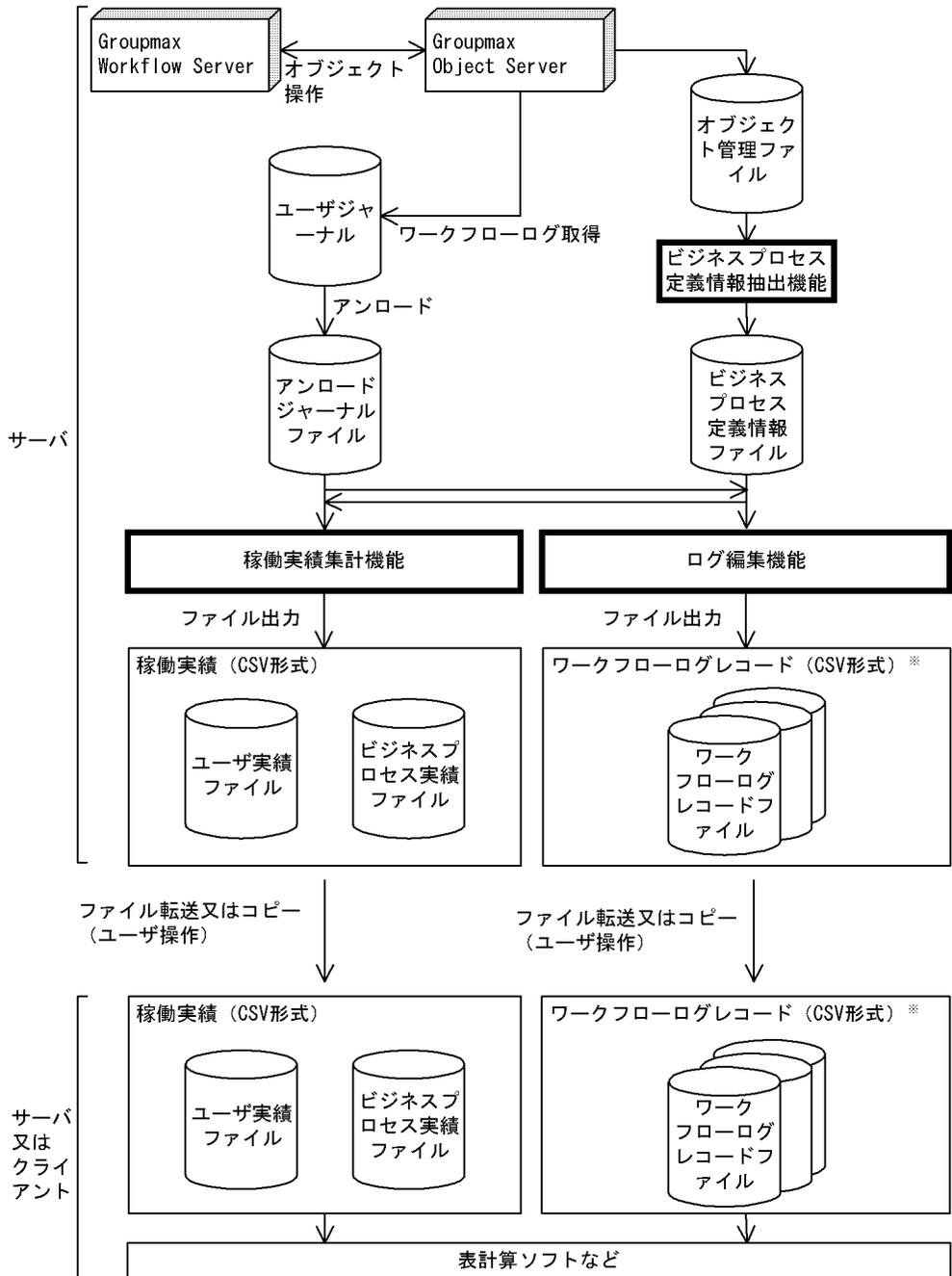
ユーザ単位又はビジネスプロセス単位に、稼働実績を集計して出力したファイルです。稼働実績集計コマンド (WFanalyst\_result) を使用して作成します。

#### 3. 表計算ソフトウェアを利用した解析結果の分析

2. で作成したファイルを、Excel などの表計算ソフトウェアで読み込んで分析します。

稼働状況解析機能の入出力の流れを、図 A-1 に示します。

図 A-1 稼働状況解析機能の入出力の概要



(凡例)  は稼働状況解析の各機能であることを示します。

注※ ワークフローログレコードファイルは、一つのビジネスプロセス定義に対して一つ作成します。

なお、稼働状況を解析するためには、Groupmax Workflow の環境設定ファイルで「ワー

クフローログレベル ( wf\_log\_level )」に 1 又は 2 を指定して、事前にワークフローログを取得しておく必要があります。ただし、1 を指定した場合、ユーザの操作に関するログが取得されないため、機能に制限があります。2 を指定して、すべての稼働状況解析機能を使用できるようにしておくことをお勧めします。環境設定ファイルの指定方法については、「2.4.3 Groupmax Workflow での環境設定」を参照してください。

## 付録 A.2 稼働状況を解析するための準備

ここでは、稼働状況を解析するために必要な、ユーザジャーナルのアンロード、及びビジネスプロセス定義情報の抽出について説明します。

これらの作業は、Groupmax Object Server を起動した状態で実行してください。このとき、Groupmax Workflow Server 及び Groupmax Workflow Multi-Server は停止させておいてください。業務上の理由などでこれらを停止させることができない場合は、ビジネスプロセス定義情報の抽出中に、クライアントからビジネスプロセス定義の追加や削除を行わないように注意してください。

### (1) ユーザジャーナルのアンロード

Groupmax Workflow では、ワークフローログを Groupmax Object Server のユーザジャーナルに取得しています。ワークフローの稼働状況を解析するには、解析したい期間をカバーする範囲のユーザジャーナルをアンロードし、アンロードジャーナルファイルを作成する必要があります。

ユーザジャーナルは、Groupmax Object Server の xodujunl コマンドでアンロードします。xodujunl コマンドについては、マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。

### (2) ビジネスプロセス定義情報の抽出

ワークフローログには、ビジネスプロセス定義情報をシステム内で管理するための各種識別子が含まれています。稼働状況を解析するには、これらの識別子を名称に変換する必要があります。この変換に必要な情報をワークフローデータベースから抽出したものが、ビジネスプロセス定義情報ファイルです。

ビジネスプロセス定義情報ファイルは、ビジネスプロセス定義情報抽出コマンド ( WFanalyst\_bp ) を使用して作成します。コマンドの使用方法については、「4.3 運用コマンドの文法」の「WFanalyst\_bp (ビジネスプロセス定義情報抽出コマンド)」の項を参照してください。

ビジネスプロセス定義情報の抽出は、稼働状況解析のたびに実行する必要はありません。ビジネスプロセス定義の新規追加又はバージョンアップがあったときだけ実行しておけば、次にビジネスプロセス定義の新規追加又はバージョンアップがあるまで、繰り返し利用できます。また、ビジネスプロセス定義を削除した場合にも、ビジネスプロセス定義情報を抽出済みであれば、改めて実行する必要はありません。ビジネスプロセス定義情報ファイルは、該当する期間のアンロードジャーナルファイルが不要になるまで保管

しておいてください。

## 付録 A.3 ワークフローログの編集

Groupmax Workflow のワークフローログ編集コマンド (WFanalyst\_log) を使用すると、ユーザジャーナルに取得されたワークフローログを CSV 形式に変換し、ワークフローログレコードファイルとして、一定のフォーマットで出力できます。

### (1) ワークフローログ編集コマンドの実行

Groupmax Workflow は、ケースの遷移、ユーザの処理、ワークのキャンセルなど、ビジネスプロセス上の様々な処理についての履歴をワークフローログとして取得しています。ワークフローログ編集コマンドでは、ワークフローログレコードファイルとして出力する処理の種類（これをメッセージ種別と呼びます）を、パラメタファイルで指定できます。業務の分析に必要な情報があらかじめ限定できる場合、メッセージ種別を選択することで、実行時間及びディスク容量が節約できます。

ワークフローログ編集コマンドの使用方法については、「4.3 運用コマンドの文法」の「WFanalyst\_log (ワークフローログ編集コマンド)」を参照してください。また、パラメタファイルの設定方法及びメッセージ種別については、「付録 A.6(2) WFanalyst\_log コマンドのパラメタファイル」を参照してください。

### (2) ワークフローログ編集コマンドの運用

#### (a) デバイスへの割り当て

ワークフローログレコードファイルのディスク容量は、アンロードジャーナルファイルのディスク容量に比例します。このため、大容量のアンロードジャーナルファイルを編集する場合、ファイルシステムの容量が不足しないよう、ワークフローログレコードファイルは、ルートファイルシステム以外の別ファイルシステムに出力することをお勧めします。

ワークフローログレコードファイルのディスク容量は、以下の概算式を参考にしてください。

$$\text{ディスク容量 (キロバイト)} = W \times n \times 0.5$$

W : アンロードジャーナルファイルに含まれるワーク数  
n : 1ワーク当たりのユーザが処理したノード数

#### (b) ワークフローログレコードファイルの管理

WFanalyst\_log コマンドでは、ワークフローログレコードファイルを固定のファイル名 (/Flowmate/analyst/WF\_runtime\_log) で出力します。既に同名のファイルがある場合は、上書きによるファイルの紛失を防ぐため、ワークフローログが出力されません。

既存のワークフローログレコードファイルを保存する必要がある場合は、別のファイル

として保存してください。また、保存する必要がない場合は、速やかに削除してください。

### (3) 別サーバマシンでの実行

ワークフローログ編集コマンドは、システムリソース（メモリ、ディスク）に負荷を掛けるため、Groupmax Workflow システムを終了してから実行させるか、Groupmax Workflow システムが稼働しているサーバマシンとは別のサーバマシンでの実行をお勧めします。なお、稼働実績集計コマンドを別サーバマシンで実行する手順もこれと同じです。

#### (a) 前提条件

ワークフローログ編集コマンドを別サーバマシンで実行するには、以下の条件を満たす必要があります。

- コマンドを実行するサーバマシンのオペレーティングシステムが Groupmax Workflow の前提バージョンである
- コマンドを実行するサーバマシンと Groupmax Workflow システムが稼働しているサーバマシンの環境変数 LANG が一致している
- コマンドを実行するサーバマシンのディレクトリ /Flowmate/analyst に、出力ファイルを格納する十分なディスク容量がある

#### (b) 別サーバマシンでのコマンドの実行

別サーバマシンでのワークフローログ編集コマンドの実行方法を次に示します。

1. Groupmax Workflow システムが稼働しているサーバマシンの次のディレクトリを、コマンドを実行するサーバマシンにリモートマウントする。
  - /Flowmate/bin
  - /Flowmate/adm
  - /usr/HiOODB
  - Groupmax Object Server のホームディレクトリ
2. コマンドを実行するサーバマシンの環境変数を設定する。
  - NLSPATH : /Flowmate/adm/wfmsg/%N.%L (メッセージファイルパス名)
  - XODDIR : /usr/HiOODB/HOME ( Groupmax Object Server のホームディレクトリ)
  - XODCONFPATH
3. コマンドを実行するサーバマシンに、処理対象のアンロードジャーナルファイル及びビジネスプロセス定義情報ファイルを転送する。
4. ワークフローログ編集コマンドを実行する。

## 付録 A.4 稼働実績の集計

Groupmax Workflow の稼働実績集計コマンド (WFanalyst\_result) を使用すると、ワークフローの稼働実績を、ユーザ単位及びビジネスプロセス単位に取得できます。集計結果は、次の 2 種類の稼働実績ファイルに格納されます。

- ユーザ実績ファイル  
ユーザが処理した案件数、及び案件の平均滞留時間を集計して格納するファイルです。
- ビジネスプロセス実績ファイル  
ビジネスプロセス定義で生成、終了したワーク数及びワークの平均処理時間を集計して格納するファイルです。

### (1) 稼働実績集計コマンドの実行

稼働実績集計コマンドでは、作成する稼働実績ファイルの種類、及び集計単位となる期間を、パラメタファイルで設定できます。集計単位となる期間については、1 日、1 週間、1 か月のうちから選べるほか、1 日を任意の時間単位に分割したり、日付を指定して集計単位となる期間を設定したりするなど、業務の形態に応じてきめ細かく設定できます。

稼働実績集計コマンドの使用方法については、「4.3 運用コマンドの文法」の「WFanalyst\_result (稼働実績集計コマンド)」を参照してください。また、パラメタファイルの設定方法については、「付録 A.6(3) WFanalyst\_result コマンドのパラメタファイル」を参照してください。

### (2) 稼働実績集計コマンドの運用

長期間にわたる稼働実績の集計では、サーバマシンのシステムリソース (メモリ、ディスク) に大きな負担が掛かります。ここでは、システムに負担を掛けないための運用について説明します。

#### (a) 集計範囲の分割

稼働実績集計コマンドは、アンロードジャーナルファイルがカバーする範囲 (期間) のすべての情報を集計対象とします。このため、アンロードジャーナルファイルを複数指定するなどして、一度に大量のデータを処理すると、メモリ不足によって実行できなくなるおそれがあります。これを防ぐため、ユーザジャーナルをアンロードする期間を短くするなど、一度に集計するアンロードジャーナルファイルの容量を少なくする工夫をしてください。

また、夏時間と冬時間のように、集計方法を期間によって変更する場合も、変更する時期の前後で Groupmax Workflow の運用を停止し、ユーザジャーナルを切り替えてください。

稼働実績ファイルのディスク容量の概算式を次に示します。ユーザジャーナルをアンロードする間隔を決めるときの目安にしてください。

$$\text{ディスク容量 (キロバイト)} = W \times (n+m) \times 0.5$$

- W : 出力対象のワーク数
- n : 1 ワーク当たりのユーザが処理したノード数
- m : 1 ワーク当たりのケース数

(b) 集計結果のマージ

アンロードの期間を短くした場合、稼働実績を集計した後で、集計結果をマージすれば、アンロードの期間を長くした場合と同じ結果が得られます。稼働実績集計結果をマージする方法について、図 A-2 に示します。この例では、t1 から t4 までの期間を対象とした稼働実績ファイル 1 と、t3 から t6 までの期間を対象とした稼働実績ファイル 2 とをマージしています。

図 A-2 稼働実績集計結果のマージ方法

稼働実績集計結果1

集計開始	集計終了	項目
t1	t2	v1
t2	t3	v2
t3	t4	v3

稼働実績集計結果2

集計開始	集計終了	項目
t3	t4	v4
t4	t5	v5
t5	t6	v6

マージした稼働実績集計結果

集計開始	集計終了	項目
t1	t2	v1
t2	t3	v2
t3	t4	v3+v4
t4	t5	v5
t5	t6	v6

同一の集計期間の項目  
データの和をとる

(c) 別サーバマシンでの実行

稼働実績集計コマンドの実行による負荷が Groupmax Workflow システムの運用上問題となる場合は、Groupmax Workflow システムが稼働しているサーバマシンとは別のサーバマシンでコマンドを実行することができます。長期間にわたる稼働実績の集計では、サーバマシンのメモリ及びディスクに大きな負担が掛かるため、本番運用中のマシンとは別のマシンで実行することをお勧めします。

別サーバマシンでの稼働実績集計コマンドの実行方法は、ワークフローログ編集コマンドの実行方法と同じです。詳細については、「付録 A.3(3) 別サーバマシンでの実行」を参照してください。

## 付録 A.5 解析結果の利用方法

ここでは、表計算ソフトウェアを利用して、稼働状況の解析結果を分析する方法について説明します。

### (1) Excel でのファイルの読み込み

稼働状況を解析して出力された CSV 形式のファイルを Excel で読み込む場合の操作を次に示します。

1. 稼働状況解析結果のファイルを、HI-UX/WE2 又は HP-UX のテキストファイルから PC のテキストファイルに変換する
2. ファイル拡張子を CSV (\*.csv) にする
3. Excel を起動し、メニューバーから [ファイル] - [開く] を選択する
4. [ファイルを開く] ダイアログボックスの [ファイルの種類] で、「テキストファイル (\*.prn, \*.txt, \*.csv)」を選択して、稼働状況解析結果のファイルを読み込む

### (2) ワークフローログレコードファイルの使用例

ここでは、表計算ソフトウェアを使用して、ワークフローログレコードファイルから、案件の滞留時間、特定時間におけるノード毎の案件数などの統計を取る例を紹介します。式の中で太字表示してあるものは、ワークフローログレコード中の項目名を示します。

ワークフローログレコードファイル、及び稼働実績ファイルのデータの形式については、「付録 C 旧バージョンのワークフローログのデータ形式」を参照してください。

#### (a) ノードに関する情報

案件のノード滞留時間 (案件がノードに送付されてから次のノードに送付されるまでの時間)

案件のノード  $n$  のノード滞留時間  
 $=$  ノード名 2 がノード  $n$  である `move_root_case` の取得時刻 - 時刻

ノード滞留案件数 (ある特定時刻にノードに滞留していた案件数)

時刻  $t_2$  におけるノード  $n$  のノード滞留案件数  
 $=$  時刻  $t_1$  以前のノード滞留案件数  
 $+$  ノード名 1 がノード  $n$  である `move_root_case` の総数 (期間  $t_1 \sim t_2$ )  
 $-$  ノード名 2 がノード  $n$  である `move_root_case` の総数 (期間  $t_1 \sim t_2$ )

案件がエラートレーへ配布された場合、及びキャンセルされた場合は、ノード滞留案件数として加算されない場合があります。

ノード内処理ユーザ数 (ある期間にあるノードで案件を処理したユーザの数)

期間  $t_1 \sim t_2$  でのノード  $n$  のノード内処理ユーザ数

= ノード名 1 がノード  $n$  である `go_root_case` のユーザ名 1 の総人数

期間  $t_1 \sim t_2$  が平均的な案件の処理時間より短い場合、ノード内処理ユーザ数として加算されません。

(b) ユーザに関する情報

案件のユーザ滞留時間 (案件がユーザに配布されてから処理が完了するまでに要した時間)

案件のユーザ  $u$  のユーザ滞留時間

= ユーザ名 1 がユーザ  $u$  である `go_root_case` の取得時刻 - 時刻

ロールトレイからの案件の取り出し、ユーザトレイからユーザトレイへの振り替え、ユーザトレイからロールトレイへの案件の移動及び案件の相談をした場合、相談先ユーザの滞留時間も加算されます。

ユーザ滞留案件数 (ある特定時刻にユーザに滞留していた案件数)

時刻  $t_2$  におけるユーザ  $u$  のユーザ滞留案件数

= 時刻  $t_1$  以前のユーザ滞留案件数

+ ユーザ名 1 がユーザ  $u$  である `move_root_case` の総数 (期間  $t_1 \sim t_2$ )

- ユーザ名 1 がユーザ  $u$  である `go_root_case` の総数 (期間  $t_1 \sim t_2$ )

ロールトレイからの案件の取り出し、ユーザトレイからユーザトレイへの振り替え、ユーザトレイからロールトレイへの案件の移動及びキャンセルによる案件の送付の中止の場合、ユーザ滞留案件数として加算されない場合があります。

(c) ワークに関する情報

ワーク処理時間 (ワークの生成から終了までに必要な時間)

ワーク処理時間

= `end_of_work` の取得時刻 - 時刻

## 付録 A.6 運用コマンドのパラメタファイル

ここでは、稼働状況の解析に使用する運用コマンドのパラメタファイルについて説明します。

### (1) パラメタファイルの記述形式

パラメタファイルは、各オペランド名と、その指定値から構成されます。パラメタの形式を次に示します。括弧内は、ユーザがオペランドを省略した場合にシステムが取る標準値です。

オペランド名 = 指定値 (省略値)

パラメタファイルを記述する場合の規則を次に示します。

- 頭文字が「# (半角)」の行は注釈行となり空行と認識されます。
- 一つのオペランドの記述が複数行にわたる場合は、継続させる行の行末に「¥ (半角)」を記述してください。
- 一つのオペランドの長さは、以下のとおりです。
  - WFanalyst\_log コマンド  
空白を含めて、17 バイトから 1,023 バイトまでです。
  - WFanalyst\_result コマンド  
空白を含めて、2 バイトから 1,023 バイトまでです。
- オペランド名が間違っている場合、指定値が記述されていない場合、及び同一オペランドを複数記述した場合は、コマンドは実行されません。

## (2) WFanalyst\_log コマンドのパラメタファイル

### (a) 形式

edit\_log\_type= メッセージ種別

### (b) オペランド

edit\_log\_type= メッセージ種別 (ALL)

ワークフローログの編集対象となる処理の種別を指定します。指定値はすべて大文字で記述してください。指定値が複数の場合、コンマ(,)で区切って記述してください。ALL を指定すると、他の指定値は無視されます。

メッセージ種別の指定値及び意味を、表 A-1 に示します。

表 A-1 メッセージ種別

メッセージ種別	意味
ALL	すべての処理
BEGIN_WORK	ワークの生成
MOVE_ROOT_CASE	案件の送付 (ノード間の遷移)
SEND_CONSULT_CASE	相談する案件の相談ユーザへの送信
GO_ROOT_CASE	案件遷移要求
SUSPEND_ROOT_CASE	案件遷移の一時停止
SUSPEND_WORK	ワーク単位での案件遷移の一時停止
READY_ROOT_CASE	案件遷移の再開
READY_WORK	ワーク単位での案件遷移の再開
PUT_ROOT_CASE	案件の投入
CANCEL_WORK	ワークのキャンセル
SEND_ANSWER_CASE	相談された案件の回答
ROLE_TO_USER	ロールトレイからユーザトレイへの案件の移動
API_MSG	ログに出力したユーザデータ

メッセージ種別	意味
SEND_BACK_ROOT_CASE	案件の差し戻し
TAKE_BACK_ROOT_CASE	案件の引き戻し
END_OF_ROOT_CASE	案件の遷移終了
END_OF_WORK	ワークの終了

(c) 記述例

```
# WFログ出力コマンド パラメタファイル
# 作成 1998年8月30日
edit_log_type = MOVE_ROOT_CASE,GO_ROOT_CASE,END_OF_ROOT_CASE,¥
                END_OF_WORK
```

(d) 注意事項

コマンド実行時に、パラメタファイルの指定 (-p オプション) が省略された場合、省略値 (ALL) を仮定し、すべてのワークフローログを編集します。

(3) WFanalyst\_result コマンドのパラメタファイル

(a) 形式

```
result_user= ユーザ稼働実績の集計要否
result_bp= ビジネスプロセス稼働実績の集計要否
analysis_type= 集計期間の設定種別
time_table= タイムテーブル
day_table= 日付テーブル
```

(b) オペランド

```
result_user= ユーザ稼働実績の集計要否 (ON)
ユーザの稼働実績を集計するかどうか指定します。
ON
    ユーザ稼働実績を集計します。
OFF
    ユーザ稼働実績を集計しません。

result_bp= ビジネスプロセス稼働実績の集計要否 (ON)
ビジネスプロセスの稼働実績を集計するかどうか指定します。
ON
    ビジネスプロセス稼働実績を集計します。
OFF
    ビジネスプロセス稼働実績を集計しません。
```

analysis\_type= 集計期間の設定種別 (EVERYDAY)

集計の対象となる期間を指定します。指定値は複数記述できません。

EVERYDAY

毎日集計します。集計の範囲は、0 時 0 分 0 秒から 23 時 59 分 59 秒までです。

EVERYWEEK

毎週集計します。集計の範囲は、毎週月曜 0 時 0 分 0 秒から日曜 23 時 59 分 59 秒までです。

EVERYMONTH

毎月集計します。集計範囲は、毎月 1 日 0 時 0 分 0 秒から 31 日 23 時 59 分 59 秒までです。

TIMETABLE

任意に時間を区切って集計します。区切り方は time\_table オペランドで指定します。

DAYTABLE

任意に日付を区切って集計します。区切り方は day\_table オペランドで指定します。

time\_table=HH:MM-hh:mm

集計時間の範囲を指定します。指定値は、コンマ (,) で区切って複数記述できます。

HH:MM-hh:mm

開始時刻及び終了時刻を、24 時間制で指定します。00 時 00 分から 23 時 59 分までの範囲で、「開始時間 < 終了時間」となるように指定してください。

このオペランドを指定する場合の注意事項を次に示します。

- 指定値を複数記述する場合、二つ目以降の時間の範囲が、それより前の時間の範囲と重ならないように注意してください。ただし、実際の集計に当たっては、集計終了時刻として指定された時間の 1 秒前までが、当該集計期間として処理されます。

(例) time\_table = 08:45-12:30,12:30-17:15

この場合、12 時 30 分 00 秒に発生したイベントは、2 番目の集計範囲 (12:30-17:15) に含まれます。

- time\_table での指定期間外に発生したイベントは、その他の時間としてまとめて集計されます。

(例) time\_table =08:45-12:30,13:15-17:15,17:45-21:45

この場合、1 日を 8 時 45 分 ~ 12 時 30 分、13 時 15 分 ~ 17 時 15 分、17 時 45 分 ~ 21 時 45 分、及び「その他」の四つの時間帯に分けて集計されます。

day\_table=YYYY/MM/DD/-yyyy/mm/dd

集計日時を指定します。指定値は、コンマ (,) で区切って複数記述できます。

YYYY/MM/DD/-yyyy/mm/dd

開始日時及び終了日時を、「年 (西暦) / 月 / 日」の形式で指定します。1970 年 1

月 1 日から 2038 年 1 月 18 日までの範囲で、「開始日時<終了日時」となるように指定してください。

このオペランドを指定する場合の注意事項を次に示します。

- 指定値を複数記述する場合、二つ目以降の日時の範囲が、それより前の日時の範囲と重ならないように注意してください。なお、実際の集計に当たっては、終了日時として指定した日の 23 時 59 分 59 秒までが当該集計期間として処理されます。

(例) `day_table =1998/07/21-1998/08/05,1998/08/06-1998/08/21`

1998 年 8 月 5 日 23 時 59 分 59 秒までに発生したイベントが、1 番目の集計期間 (1998/07/21-1998/08/05) に含まれます。

- `day_table` での指定期間外に発生したイベントは、その他の期間としてまとめて集計されます。

(例) `day_table =1998/07/21-1998/08/05,1998/08/06-1998/08/21`

この場合、1998 年 7 月 21 日 ~ 1998 年 8 月 5 日、1998 年 8 月 6 日 ~ 1998 年 8 月 21 日、及び「その他」の三つの期間に分けて集計されます。

#### (c) 記述例

(例 1) 1 日の業務実績を、午前、午後、定時後に分けて集計する場合

```
# 稼働実績集計コマンド パラメタファイル
analysis_type = TIMETABLE
time_table =08:45-12:30,13:15-17:15,17:45-21:45
```

(例 2) 四半期単位での業務実績を集計する場合

```
# 稼働実績集計コマンド パラメタファイル
analysis_type = DAYTABLE
day_table = 1998/03/22-1998/06/21,1998/06/22-1998/09/21,¥
           1998/09/22-1998/12/21,1998/12/22-1999/03/21
```

#### (d) 注意事項

1. オペランドの指定が次のような場合には、コマンドは実行されません。
  - `analysis_type` オペランドの指定値に `TIMETABLE` 以外が記述され、`time_table` オペランドが指定された場合
  - `analysis_type` オペランドの指定値に `TIMETABLE` が記述され、`time_table` オペランドが省略された場合
  - `analysis_type` オペランド指定値に `DAYTABLE` 以外が記述され、`day_table` オペランドが指定された場合
  - `analysis_type` オペランド指定値に `DAYTABLE` が記述され、`day_table` オペランドが省略された場合
2. コマンド実行時に、パラメタファイルの指定 (`-p` オプション) が省略された場合、各オペランドの省略値が仮定されます。
3. 稼働実績集計コマンドの処理時間の多くの部分は、アンロードジャーナルファイルの読み込みに費やされます。このため、`result_user` 又は `result_bp` に `OFF` を指定しても、処理時間を圧縮する効果は期待できません (出力ファイル量の削減にはなりません)。

4. result\_user 及び result\_bp の両方に OFF を指定した場合は、ヘッダ情報だけが出力されます。

## 付録 B ワークフローログのデータ形式

ここでは、ワークフローログ出力コマンド (WFdestlg) の実行結果として出力されるワークフローログレコードのデータ形式について説明します。

### 付録 B.1 データの形式

ワークフローログレコードのデータの形式を表 B-1 に示します。レコードは、各項目を「,」(半角コンマ)で区切った CSV 形式です。

表 B-1 ワークフローログレコードのデータ形式

項目名	タイプ	長さ (バイト)	内容
メッセージ ID	文字列	1 ~ 2	-
メッセージ種別	文字列	1 ~ 20	-
取得日付	文字列	10	"YYYY/MM/DD"
取得時刻	文字列	8	"hh:mm:ss"
ワーク ID	文字列	1 ~ 63	-
種別	文字列	0 ~ 16	-
ケース識別子	文字列	0 ~ 16	-
ケース名	文字列	0 ~ 63	-
ノード名 n (n: 1 ~ 3)	文字列	0 ~ 63	-
ロール名 n (n: 1 ~ 3)	文字列	0 ~ 63	-
ユーザ名 n (n: 1 ~ 3)	文字列	0 ~ 32	-
役職名 n (n: 1 ~ 3)	文字列	0 ~ 32	-
組織 ID n (n: 1 ~ 3)	文字列	0 ~ 8	ユーザの所属組織の組織 ID
ニックネーム n (n: 1 ~ 3)	文字列	0 ~ 128	-
日付	文字列	10	"YYYY/MM/DD"
時刻	文字列	8	"hh:mm:ss"
優先度	文字列	0 ~ 16	-
制限日時 (日付)	文字列	10	"YYYY/MM/DD"
制限日時 (時刻)	文字列	8	"hh:mm:ss"
メッセージ	文字列	0 ~ 96	-

(凡例) - は任意の文字列であることを示します。

ワークフローログレコードのデータの形式についての注意事項を次に示します。

- 文字列中の改行コード (0A)16 は、取り除かれます。

- 文字列は、「"」(ダブルクォーテーション)で囲んで出力されます。また、文字列中の「"」(ダブルクォーテーション)は、「""」(2個の連続した半角ダブルクォーテーション)に変換されます。
- ユーザが削除された場合、ユーザ名及びニックネームには「\* ユーザ ID」が表示されます。
- ユーザ名、役職、ユーザの所属組織の組織 ID、及びニックネームは、ワークフローログ出力コマンドを実行した時点の値です。ユーザが処理した時点の値は出力されません。

## 付録 B.2 メッセージ ID ごとのデータの有無

ワークフローログレコードの各項目が出力されるかどうかは、メッセージ ID ごとに異なります。メッセージ ID ごとの項目データの有無を、表 B-2 及び表 B-3 に示します。

表 B-2 ワークフローログレコードの項目データの有無 (その 1)

メッセージ ID	メッセージ種別	取得日付	取得時刻	ワーク ID	種別	ケース識別子	ケース名	ノード名 1	ロール名 1	ユーザ名 1	役職名 1	組織 ID 1	ニックネーム 1	ノード名 2	ロール名 2	ユーザ名 2	役職名 2	組織 ID 2	ニックネーム 2	
4	begin_work																			
5	move_root_case																			
12	send_consult_case																			
13	go_root_case																			
14	suspend_root_case																			
15	suspend_work																			
16	ready_root_case																			
17	ready_work																			
18	put_root_case																			
20	cancel_work																			
21	role_to_user																			
24	send_answer_case																			
25	api_msg																			
32	send_back_root_case																			
33	take_back_root_case																			
34	end_of_root_case																			

メッセージ ID	メッセージ種別	取得日付	取得時刻	ワークID	種別	ケース識別子	ケース名	ノード名1	ロール名1	ユーザ名1	役職名1	組織ID1	ニックネーム1	ロール名2	ユーザ名2	役職名2	組織ID2	ニックネーム2	
35	end_of_work																		
48	retry_move_root_case																		

(凡例) は項目データあり, 空白は項目データなしを示します。

表 B-3 ワークフローログレコードの項目データの有無 (その2)

メッセージ ID	メッセージ種別	ノード名3	ロール名3	ユーザ名3	役職名3	組織ID3	ニックネーム3	日付	時刻	優先度	処理期限日付	処理期限時刻	メッセージ
4	begin_work												
5	move_root_case												
12	send_consult_case												
13	go_root_case												
14	suspend_root_case												
15	suspend_work												
16	ready_root_case												
17	ready_work												
18	put_root_case												
20	cancel_work												
21	role_to_user												
24	send_answer_case												
25	api_msg												
32	send_back_root_case												
33	take_back_root_case												
34	end_of_root_case												
35	end_of_work												
48	retry_move_root_case												

(凡例) は項目データあり, 空白は項目データなしを示します。

## 付録 B.3 ワークフローログレコードのメッセージ内容

ワークフローログレコードの各項目は、メッセージ ID ごとに出力内容が異なります。  
メッセージ ID ごとの出力内容を次に示します。

### BEGIN\_WORK (ワークの生成)

項目	内容
メッセージ ID	4 (0X04)
取得日付	ワークフローログ取得日付
取得時刻	ワークフローログ取得時刻
ワーク ID	カレントワークのワーク ID
優先度	ワークの処理優先度 1: 普通, 2: 至急
処理期限	ワークの処理期限 (日付, 時刻)

### MOVE\_ROOT\_CASE (案件のノード遷移)

項目	内容
メッセージ ID	5 (0X05)
取得日付	ワークフローログ取得日付
取得時刻	ワークフローログ取得時刻
ワーク ID	カレントワークのワーク ID
種別	ケース遷移種別 1: 通常遷移, 3: 差し戻し遷移, 4: 引き戻し遷移
ケース識別子	遷移ケース識別子
ノード名 1	遷移後ノード名
ロール名 1	遷移後ロール名
ユーザ名 1	遷移後ユーザ名
役職名 1	遷移後ユーザの役職名
組織 ID1	遷移後ユーザの組織 ID
ニックネーム 1	遷移後ユーザのニックネーム
ノード名 2	遷移前ノード名
日付	遷移前ノード到着日付
時刻	遷移前ノード到着時刻

### SEND\_CONSULT\_CASE

(相談する案件の, 相談ユーザ (同一サーバ内) への送付)

項目	内容
メッセージID	12 (0X0C)
取得日付	ワークフローログ取得日付
取得時刻	ワークフローログ取得時刻
ワークID	カレントワークのワークID
ケース識別子	相談ケース識別子
ユーザ名1	相談先ユーザのユーザ名
役職名1	相談先ユーザの役職名
組織ID1	相談先ユーザの組織ID
ニックネーム1	相談先ユーザのニックネーム
ユーザ名2	相談元ユーザのユーザ名
役職名2	相談元ユーザの役職名
組織ID2	相談元ユーザの組織ID
ニックネーム2	相談元ユーザのニックネーム
ノード名3	相談開始ノード名

GO\_ROOT\_CASE ( 案件の遷移の要求 )

項目	内容
メッセージID	13 (0X0D)
取得日付	ワークフローログ取得日付
取得時刻	ワークフローログ取得時刻
ワークID	カレントワークのワークID
ケース識別子	遷移要求ケース識別子
ノード名1	遷移要求元ノード名
ロール名1	遷移要求元ユーザのロール名
ユーザ名1	遷移要求元ユーザのユーザ名
役職名1	遷移要求元ユーザの役職名
組織ID1	遷移要求元ユーザの組織ID
ニックネーム1	遷移要求元ユーザのニックネーム
日付	遷移要求ノード到着日付
時刻	遷移要求ノード到着時刻

SUSPEND\_ROOT\_CASE ( 案件の遷移の一時停止 )

項目	内容
メッセージ ID	14 ( 0X0E )
取得日付	ワークフローログ取得日付
取得時刻	ワークフローログ取得時刻
ワーク ID	カレントワークのワーク ID
ケース識別子	遷移中断ケース識別子
ノード名 1	遷移中断ノード名
ロール名 1	遷移中断ケース所持ユーザのロール名
ユーザ名 1	遷移中断ケース所持ユーザのユーザ名
役職名 1	遷移中断ケース所持ユーザの役職名
組織 ID1	遷移中断ケース所持ユーザの組織 ID
ニックネーム 1	遷移中断ケース所持ユーザのニックネーム
ユーザ名 3	ルートケース遷移中断処理実行ユーザのユーザ名
役職名 3	ルートケース遷移中断処理実行ユーザの役職名
組織 ID3	ルートケース遷移中断処理実行ユーザの組織 ID
ニックネーム 3	ルートケース遷移中断処理実行ユーザのニックネーム

## SUSPEND\_WORK (ワーク単位での案件の遷移の一時停止)

項目	内容
メッセージ ID	15 ( 0X0F )
取得日付	ワークフローログ取得日付
取得時刻	ワークフローログ取得時刻
ワーク ID	カレントワークのワーク ID
ユーザ名 3	ワーク遷移中断処理実行ユーザのユーザ名
役職名 3	ワーク遷移中断処理実行ユーザの役職名
組織 ID3	ワーク遷移中断処理実行ユーザの組織 ID
ニックネーム 3	ワーク遷移中断処理実行ユーザのニックネーム

## READY\_ROOT\_CASE (案件の遷移の再開)

項目	内容
メッセージ ID	16 ( 0X10 )
取得日付	ワークフローログ取得日付
取得時刻	ワークフローログ取得時刻
ワーク ID	カレントワークのワーク ID

項目	内容
ケース識別子	遷移再開ケース識別子
ノード名 1	遷移再開ノード名
ロール名 1	遷移再開ケース所持ユーザのロール名
ユーザ名 1	遷移再開ケース所持ユーザのユーザ名
役職名 1	遷移再開ケース所持ユーザの役職名
組織 ID1	遷移再開ケース所持ユーザの組織 ID
ニックネーム 1	遷移再開ケース所持ユーザのニックネーム
ユーザ名 3	ルートケース遷移再開処理実行ユーザのユーザ名
役職名 3	ルートケース遷移再開処理実行ユーザの役職名
組織 ID3	ルートケース遷移再開処理実行ユーザの組織 ID
ニックネーム 3	ルートケース遷移再開処理実行ユーザのニックネーム

READY\_WORK (ワーク単位での案件の遷移の再開)

項目	内容
メッセージ ID	17 (0X11)
取得日付	ワークフローログ取得日付
取得時刻	ワークフローログ取得時刻
ワーク ID	カレントワークのワーク ID
ユーザ名 3	ワーク遷移再開処理実行ユーザのユーザ名
役職名 3	ワーク遷移再開処理実行ユーザの役職名
組織 ID3	ワーク遷移再開処理実行ユーザの組織 ID
ニックネーム 3	ワーク遷移再開処理実行ユーザのニックネーム

PUT\_ROOT\_CASE (案件の投入)

項目	内容
メッセージ ID	18 (0X12)
取得日付	ワークフローログ取得日付
取得時刻	ワークフローログ取得時刻
ワーク ID	カレントワークのワーク ID
種別	ケース投入者種別 1: ユーザ
ケース識別子	投入ケース識別子
ケース名	投入ケース名
ノード名 1	投入ソースノード名

項目	内容
ロール名 1	ケース投入ユーザのロール名
ユーザ名 1	ケース投入ユーザのユーザ名
役職名 1	ケース投入ユーザの役職名
組織 ID1	ケース投入ユーザの組織 ID
ニックネーム 1	ケース投入ユーザのニックネーム
優先度	投入ケースの処理優先度 1: 普通, 2: 至急
処理期限	投入ケースの処理期限 (日付, 時刻)

## CANCEL\_WORK (ワークのキャンセル)

項目	内容
メッセージ ID	20 (0X14)
取得日付	ワークフローログ取得日付
取得時刻	ワークフローログ取得時刻
ワーク ID	カレントワークのワーク ID
ユーザ名 3	ワーク遷移中止処理実行ユーザのユーザ名
役職名 3	ワーク遷移中止処理実行ユーザの役職名
組織 ID3	ワーク遷移中止処理実行ユーザの組織 ID
ニックネーム 3	ワーク遷移中止処理実行ユーザのニックネーム

## ROLE\_TO\_USER (ロールトレーからユーザトレーへの案件の移動)

項目	内容
メッセージ ID	21 (0X15)
取得日付	ワークフローログ取得日付
取得時刻	ワークフローログ取得時刻
ワーク ID	カレントワークのワーク ID
ケース識別子	配布ケース識別子
ノード名 1	配布ノード名
ロール名 1	配布元ロール名
ユーザ名 1	配布先ユーザのユーザ名
役職名 1	配布先ユーザの役職名
組織 ID1	配布先ユーザの組織 ID
ニックネーム 1	配布先ユーザのニックネーム
ユーザ名 3	配布ユーザのユーザ名

項目	内容
役職名 3	配布ユーザの役職名
組織 ID3	配布ユーザの組織 ID
ニックネーム 3	配布ユーザのニックネーム

SEND\_ANSWER\_CASE (相談された案件の回答)

項目	内容
メッセージ ID	24 (0X18)
取得日付	ワークフローログ取得日付
取得時刻	ワークフローログ取得時刻
ワーク ID	カレントワークのワーク ID
ケース識別子	回答ケース識別子
ユーザ名 1	回答先ユーザのユーザ名
役職名 1	回答先ユーザの役職名
組織 ID1	回答先ユーザの組織 ID
ニックネーム 1	回答先ユーザのニックネーム
ユーザ名 2	回答元ユーザのユーザ名
役職名 2	回答元ユーザの役職名
組織 ID2	回答元ユーザの組織 ID
ニックネーム 2	回答元ユーザのニックネーム
ノード名 3	相談開始ノード名

API\_MSG (ワークフローログへのユーザデータの出力)

項目	内容
メッセージ ID	25 (0X19)
取得日付	ワークフローログ取得日付
取得時刻	ワークフローログ取得時刻
ワーク ID	カレントワークのワーク ID
ケース識別子	メッセージ出力対象のケース識別子
メッセージ	サーバ機能のメッセージ

SEND\_BACK\_ROOT\_CASE (案件の差し戻し)

項目	内容
メッセージ ID	32 ( 0X20 )
取得日付	ワークフローログ取得日付
取得時刻	ワークフローログ取得時刻
ワーク ID	カレントワークのワーク ID
ケース識別子	差し戻しケース識別子
ノード名 1	差し戻し先ノード名
ロール名 1	差し戻し先ユーザのロール名
ユーザ名 1	差し戻し先ユーザのユーザ名
役職名 1	差し戻し先ユーザの役職名
組織 ID1	差し戻し先ユーザの組織 ID
ニックネーム 1	差し戻し先ユーザのニックネーム
ノード名 2	差し戻し元ノード名
ロール名 2	差し戻し元ユーザのロール名
ユーザ名 2	差し戻し元ユーザのユーザ名
役職名 2	差し戻し元ユーザの役職名
組織 ID2	差し戻し元ユーザの組織 ID
ニックネーム 2	差し戻し元ユーザのニックネーム

## TAKE\_BACK\_ROOT\_CASE ( 案件の引き戻し )

項目	内容
メッセージ ID	33 ( 0X21 )
取得日付	ワークフローログ取得日付
取得時刻	ワークフローログ取得時刻
ワーク ID	カレントワークのワーク ID
ケース識別子	引き戻しケース識別子
ノード名 1	引き戻し先ノード名
ロール名 1	引き戻し先ユーザのロール名
ユーザ名 1	引き戻し先ユーザのユーザ名
役職名 1	引き戻し先ユーザの役職名
組織 ID1	引き戻し先ユーザの組織 ID
ニックネーム 1	引き戻し先ユーザのニックネーム
ノード名 2	引き戻し元ノード名
ロール名 2	引き戻し元ユーザのロール名

項目	内容
ユーザ名 2	引き戻し元ユーザのユーザ名
役職名 2	引き戻し元ユーザの役職名
組織 ID2	引き戻し元ユーザの組織 ID
ニックネーム 2	引き戻し元ユーザのニックネーム

## END\_OF\_ROOT\_CASE ( 案件の遷移の終了 ( シンク ) )

項目	内容
メッセージ ID	34 ( 0X22 )
取得日付	ワークフローログ取得日付
取得時刻	ワークフローログ取得時刻
ワーク ID	カレントワークのワーク ID
種別	ケース終了遷移種別 1: シンク
ケース識別子	遷移終了ケース識別子
ノード名 1	ケース遷移終了ノード名
日付	保守情報
時刻	保守情報
優先度	ケースの処理優先度 1: 普通, 2: 至急
処理期限	ケースの処理期限 ( 日付, 時刻 )

## END\_OF\_WORK ( ワークの終了 )

項目	内容
メッセージ ID	35 ( 0X23 )
取得日付	ワークフローログ取得日付
取得時刻	ワークフローログ取得時刻
ワーク ID	カレントワークのワーク ID
種別	ワーク遷移終了種別 1: シンク
日付	ワーク作成日付
時刻	ワーク作成時刻
優先度	ワークの処理優先度 1: 普通, 2: 至急
処理期限	ワークの処理期限 ( 日付, 時刻 )

## RETRY\_MOVE\_ROOT\_CASE ( 案件のノード遷移失敗による再遷移 )

項目	内容
メッセージ ID	48 (0X30)
取得日付	ワークフローログ取得日付
取得時刻	ワークフローログ取得時刻
ワーク ID	カレントワークのワーク ID
種別	ケース遷移種別 1: 通常遷移, 3: 差し戻し遷移, 4: 引き戻し遷移
ケース識別子	遷移ケース識別子
ノード名 1 <sup>1</sup>	遷移後ノード名
ロール名 1	遷移後ロール名
ユーザ名 1	遷移後ユーザ名
役職名 1	遷移後ユーザの役職名
組織 ID1	遷移後ユーザの組織 ID
ニックネーム 1	遷移後ユーザのニックネーム
ノード名 2 <sup>1</sup>	遷移前ノード名
日付 <sup>2</sup>	遷移前ノード到着日付
時刻 <sup>2</sup>	遷移前ノード到着時刻

## 注 1

ノード名 2 (遷移前ノード名) には, ノード名 1 (遷移後ノード名) と同じ内容が出力されます。

## 注 2

そのノードに到着した日時を出力します。

## 付録C 旧バージョンのワークフローログのデータ形式

ここでは、稼働状況解析結果として出力されるファイルのデータ形式について説明します。出力されるファイルを次に示します。

- ユーザ実績ファイル
- ビジネスプロセス実績ファイル
- ワークフローログレコードファイル

### 付録C.1 ユーザ実績ファイルのデータ形式

ユーザ実績ファイルのレコード構成を、次に示します。

開始ヘッダレコード
管理情報レコード
処理情報レコード
UI情報レコード
集計情報レコード
ユーザ実績レコード×Mur (ユーザ実績レコードのレコード数)
終了ヘッダレコード

#### 注意事項

- 各レコードの区切り文字は、(0A)16 です。
- 文字列中の改行コード (0A)16 は、取り除かれます。
- 文字列は、「"」(ダブルクォーテーション)で囲んで出力されます。また、文字列中の「"」(ダブルクォーテーション)は、「""」(2個の連続する半角ダブルクォーテーション)に変換されます。
- レコードは、各項目を「,」(半角コンマ)で区切った CSV 形式です。

#### (1) 開始ヘッダレコード

項目名	タイプ	長さ(バイト)	内容
HEAD	文字列	4	"HEAD"
ファイルフォーマットバージョン	文字列	8	"01-01-00"
プログラム名称	文字列	15	"Workflow Server"
コマンド名称	文字列	16	"WFanalyst_result"
ファイル種別	文字列	11	"user_result"
ENDHEAD	文字列	7	"ENDHEAD"

## (2) 管理情報レコード

項目名	タイプ	長さ(バイト)	内容
MNHD	文字列	4	"MNHD"
作成日時	文字列	10	"YYYY/MM/DD"
作成時刻	文字列	8	"hh:mm:ss"
コード種別	文字列	0 ~ 32	LANG 環境変数の値
ENDMNHD	文字列	7	"ENDMNHD"

## (3) 処理情報レコード

項目名	タイプ	長さ(バイト)	内容
PRHD	文字列	4	"PRHD"
パラメタファイル名称	文字列	0 ~ 255	-
ビジネスプロセス定義情報ファイル名称	文字列	0 ~ 255	-
アンロードジャーナルファイル名称 1	文字列	1 ~ 255	-
アンロードジャーナルファイル名称 2	文字列	0 ~ 255	-
アンロードジャーナルファイル名称 3	文字列	0 ~ 255	-
アンロードジャーナルファイル名称 4	文字列	0 ~ 255	-
アンロードジャーナルファイル名称 5	文字列	0 ~ 255	-
アンロードジャーナルファイル名称 6	文字列	0 ~ 255	-
アンロードジャーナルファイル名称 7	文字列	0 ~ 255	-
アンロードジャーナルファイル名称 8	文字列	0 ~ 255	-
アンロードジャーナルファイル名称 9	文字列	0 ~ 255	-
アンロードジャーナルファイル名称 10	文字列	0 ~ 255	-
ENDPRHD	文字列	7	"ENDPRHD"

(凡例)

- : 任意の文字列

## (4) UJ 情報レコード

項目名	タイプ	長さ(バイト)	内容	備考
UJHD	文字列	4	"UJHD"	-
ジャーナル開始日付	文字列	10	"YYYY/MM/DD"	最も早いワークフローログ取得日付
ジャーナル開始時刻	文字列	8	"hh:mm:ss"	最も早いワークフローログ取得時刻

項目名	タイプ	長さ(バイト)	内容	備考
ジャーナル終了日付	文字列	10	"YYYY/MM/DD"	最も遅いワークフローログ取得日付
ジャーナル終了時刻	文字列	8	"hh:mm:ss"	最も遅いワークフローログ取得時刻
ENDUJHD	文字列	7	"ENDUJHD"	-

(凡例)

- : 該当しません。

## (5) 集計情報レコード

項目名	タイプ	長さ(バイト)	内容	備考
RTHD	文字列	4	"RTHD"	-
無効ワークフローログレコード数	整数列	10	-	解析不可能ワークフローログレコード数
総ワークフローログレコード数	整数列	10	-	読み込みワークフローログレコード数
ユーザ実績レコード数	整数列	10	-	-
処理ステータス	文字列	4	"SUCC" "FAIL"	SUCC : 正常 FAIL : 異常
ENDRTHD	文字列	7	"ENDRTHD"	-

(凡例)

- : 該当しない, 又は任意

## (6) ユーザ実績レコード

項目名	タイプ	長さ(バイト)	内容	備考
集計開始日付	文字列	10	"YYYY/MM/DD" "OTHER"	OTHER : day_table 指定範囲外
集計開始時刻	文字列	8	"hh:mm:ss" "OTHER"	OTHER:day_table , time_table 指定範囲外
集計終了日付	文字列	10	"YYYY/MM/DD" "OTHER"	OTHER : day_table 指定範囲外
集計終了時刻	文字列	8	"hh:mm:ss" "OTHER"	OTHER:day_table , time_table 指定範囲外
ユーザID	文字列	1 ~ 8	-	-
ノード名	文字列	1 ~ 64	-	-

項目名	タイプ	長さ (バイト)	内容	備考
ビジネスプロセス定義名	文字列	1 ~ 64	-	-
ビジネスプロセス定義バージョン番号	整数列	1 ~ 10	-	-
処理案件数	整数列	1 ~ 10	-	-
相談案件数	整数列	1 ~ 10	-	-
回答案件数	整数列	1 ~ 10	-	-
平均案件滞留時間 (日数)	整数列	1 ~ 10	-	-
平均案件滞留時間 (時間)	文字列	8	"hh:mm:ss"	-

(凡例)

- :任意

注 1

平均案件滞留時間は、集計開始から集計終了までの間に、そのユーザが遷移させた案件の平均滞留時間です。案件滞留時間 = (案件の遷移要求時刻) - (案件のノード到着時刻)として計算されます。したがって、案件を手動配布した場合、ロールトレーでの滞留時間が含まれます。

注 2

複数のユーザ実績ファイルをマージする場合に発生する、同一集計開始日時、時刻、集計終了日時時刻の複数レコードのマージ処理で、処理案件数、相談案件数、及び回答案件数の合計値は保証されます。平均案件滞留時間の合計値は保証されません。

### (7) 終了ヘッダレコード

項目名	タイプ	長さ(バイト)	内容
TRAR	文字列	4	"TRAR"
ファイルフォーマットバージョン	文字列	8	"01-01-00"
プログラム名称	文字列	15	"Workflow Server"
コマンド名称	文字列	16	"WFanalyst_result"
ファイル種別	文字列	11	"user_result"
ENDTRAR	文字列	7	"ENDTRAR"

## 付録 C.2 ビジネスプロセス実績ファイルのデータ形式

ビジネスプロセス実績ファイルのレコード構成を次に示します。

開始ヘッダレコード
管理情報レコード
処理情報レコード
UJ情報レコード
集計情報レコード
ビジネスプロセス実績レコード×Mbp (ビジネスプロセス実績レコードのレコード数)
終了ヘッダレコード

注意事項

- 各レコードの区切り文字は、(0A)16 です。
- 文字列中の改行コード (0A)16 は、取り除かれます。
- 文字列は、「"」(ダブルクォーテーション)で囲んで出力されます。また、文字列中の「"」(ダブルクォーテーション)は、「""」(2個の連続する半角ダブルクォーテーション)に変換されます。
- レコードは、各項目を「,」(半角コンマ)で区切った CSV 形式です。

(1) 開始ヘッダレコード

項目名	タイプ	長さ(バイト)	内容
HEAD	文字列	4	"HEAD"
ファイルフォーマットバージョン	文字列	8	"01-01-00"
プログラム名称	文字列	15	"Workflow Server"
コマンド名称	文字列	16	"WFanalyst_result"
ファイル種別	文字列	12	"BPdef_result"
ENDHEAD	文字列	7	"ENDHEAD"

(2) 管理情報レコード

項目名	タイプ	長さ(バイト)	内容
MNHD	文字列	4	"MNHD"
作成日時	文字列	10	"YYYY/MM/DD"
作成時刻	文字列	8	"hh:mm:ss"
コード種別	文字列	0 ~ 32	LANG 環境変数の値
ENDMNHD	文字列	7	"ENDMNHD"

## (3) 処理情報レコード

項目名	タイプ	長さ(バイト)	内容
PRHD	文字列	4	"PRHD"
パラメタファイル名称	文字列	0 ~ 255	-
ビジネスプロセス定義情報抽出ファイル名称	文字列	0 ~ 255	-
アンロードジャーナルファイル名称 1	文字列	1 ~ 255	-
アンロードジャーナルファイル名称 2	文字列	0 ~ 255	-
アンロードジャーナルファイル名称 3	文字列	0 ~ 255	-
アンロードジャーナルファイル名称 4	文字列	0 ~ 255	-
アンロードジャーナルファイル名称 5	文字列	0 ~ 255	-
アンロードジャーナルファイル名称 6	文字列	0 ~ 255	-
アンロードジャーナルファイル名称 7	文字列	0 ~ 255	-
アンロードジャーナルファイル名称 8	文字列	0 ~ 255	-
アンロードジャーナルファイル名称 9	文字列	0 ~ 255	-
アンロードジャーナルファイル名称 10	文字列	0 ~ 255	-
ENDPRHD	文字列	7	"ENDPRHD"

(凡例)

- : 任意の文字列

## (4) UJ 情報レコード

項目名	タイプ	長さ(バイト)	内容	備考
UJHD	文字列	4	"UJHD"	-
ジャーナル開始日付	文字列	10	"YYYY/MM/DD"	最も早いワークフローログ取得日付
ジャーナル開始時刻	文字列	8	"hh:mm:ss"	最も早いワークフローログ取得時刻
ジャーナル終了日付	文字列	10	"YYYY/MM/DD"	最も遅いワークフローログ取得日付
ジャーナル終了時刻	文字列	8	"hh:mm:ss"	最も遅いワークフローログ取得時刻
ENDUJHD	文字列	7	"ENDUJHD"	-

(凡例)

- : 該当しません。

## (5) 集計情報レコード

項目名	タイプ	長さ (バイト)	内容	備考
RTHD	文字列	4	"RTHD"	-
無効ワークフローログ レコード数	整数列	10	-	解析不可能ワークフローログレ コード数
総ワークフローログレ コード数	整数列	10	-	読み込みワークフローログレコー ド数
ビジネスプロセス実績 レコード数	整数列	10	-	-
処理ステータス	文字列	4	"SUCC" "FAIL"	SUCC: 正常 FAIL: 異常
ENDRTHD	文字列	7	"ENDRTHD"	-

(凡例)

- : 該当しない, 又は任意

## (6) ビジネスプロセス実績レコード

項目名	タイプ	長さ (バイト)	内容	備考
運用開始日付	文字列	10	"YYYY/MM/DD" "OTHER"	OTHER:day_table 指定範囲外
運用開始時刻	文字列	8	"hh:mm:ss" "OTHER"	OTHER:day_table, time_table 指定範囲外
運用終了日付	文字列	10	"YYYY/MM/DD" "OTHER"	OTHER:day_table 指定範囲外
運用終了時刻	文字列	8	"hh:mm:ss" "OTHER"	OTHER:day_table, time_table 指定範囲外
ビジネスプロセス定義 名	文字列	1 ~ 64	-	-
ビジネスプロセス定義 バージョン番号	整数列	1 ~ 10	-	-
開始ワーク数	整数列	1 ~ 10	-	-
終了ワーク数	整数列	1 ~ 10	-	-
平均ワーク処理時間 (日数)	整数列	1 ~ 10	-	-
平均ワーク処理時間 (時間)	文字列	8	"hh:mm:ss"	-

(凡例)

- : 任意

注 1

平均ワーク処理時間は、集計開始から集計終了までの間に終了したワークの平均処理時間です。ワーク処理時間 = (ワーク終了時刻) - (ワーク開始時刻) として計算されます。

## 注 2

複数のビジネスプロセス実績ファイルをマージする場合に発生する、同一集計開始日時時刻、集計終了日時時刻の複数レコードのマージ処理で、開始ワーク数及び終了ワーク数の合計値は保証されます。平均ワーク処理時間の合計値は保証されません。

## (7) 終了ヘッダレコード

項目名	タイプ	長さ(バイト)	内容
TRAR	文字列	4	"TRAR"
ファイルフォーマットバージョン	文字列	8	"01-01-00"
プログラム名称	文字列	15	"Workflow Server"
コマンド名称	文字列	16	"WFanalyst_result"
ファイル種別	文字列	12	"BPdef_result"
ENDTRAR	文字列	7	"ENDTRAR"

## 付録 C.3 ワークフローログレコードファイルのデータ形式

ワークフローログレコードファイルのレコード構成を次に示します。

開始ヘッダレコード
管理情報レコード
処理情報レコード
UJ情報レコード
編集情報レコード
ワークフローログレコード×Mwflg (ワークフローログレコードの レコード数)
終了ヘッダレコード

### 注意事項

- 各レコードの区切り文字は、(0A)16 です。
- 文字列中の改行コード (0A)16 は、取り除かれます。
- 文字列は、「"」(ダブルクォーテーション) で囲んで出力されます。また、文字列中の「"」(ダブルクォーテーション) は、「""」(2個の連続する半角ダブルクォーテーション) に変換されます。
- レコードは、各項目を「,」(半角コンマ) で区切った CSV 形式です。

## (1) 開始ヘッダレコード

項目名	タイプ	長さ(バイト)	内容
HEAD	文字列	4	"HEAD"
ファイルフォーマットバージョン	文字列	8	"01-01-00"
プログラム名称	文字列	15	"Workflow Server"
コマンド名称	文字列	13	"WFanalyst_log"
ファイル種別	文字列	12	"WFlog_record"
ENDHEAD	文字列	7	"ENDHEAD"

## (2) 管理情報レコード

項目名	タイプ	長さ(バイト)	内容
MNHD	文字列	4	"MNHD"
作成日時	文字列	10	"YYYY/MM/DD"
作成時刻	文字列	8	"hh:mm:ss"
コード種別	文字列	0 ~ 32	LANG 環境変数の値
ENDMNHD	文字列	7	"ENDMNHD"

## (3) 処理情報レコード

項目名	タイプ	長さ(バイト)	内容
PRHD	文字列	4	"PRHD"
パラメタファイル名称	文字列	0 ~ 255	-
ビジネスプロセス定義情報ファイル名称	文字列	1 ~ 255	-
編集対象ビジネスプロセス定義名称	文字列	1 ~ 63	-
編集対象ビジネスプロセス定義バージョン番号	整数列	1 ~ 10	-
アンロードジャーナルファイル名称 1	文字列	1 ~ 255	-
アンロードジャーナルファイル名称 2	文字列	0 ~ 255	-
アンロードジャーナルファイル名称 3	文字列	0 ~ 255	-
アンロードジャーナルファイル名称 4	文字列	0 ~ 255	-
アンロードジャーナルファイル名称 5	文字列	0 ~ 255	-
アンロードジャーナルファイル名称 6	文字列	0 ~ 255	-
アンロードジャーナルファイル名称 7	文字列	0 ~ 255	-
アンロードジャーナルファイル名称 8	文字列	0 ~ 255	-
アンロードジャーナルファイル名称 9	文字列	0 ~ 255	-

項目名	タイプ	長さ(バイト)	内容
アンロードジャーナルファイル名称 10	文字列	0 ~ 255	-
ENDPRHD	文字列	7	"ENDPRHD"

(凡例)

- :任意

#### (4) UJ 情報レコード

項目名	タイプ	長さ(バイト)	内容	備考
UJHD	文字列	4	"UJHD"	-
ジャーナル開始日付	文字列	10	"YYYY/MM/DD"	最も早いワークフローログ取得日付
ジャーナル開始時刻	文字列	8	"hh:mm:ss"	最も早いワークフローログ取得時刻
ジャーナル終了日付	文字列	10	"YYYY/MM/DD"	最も遅いワークフローログ取得日付
ジャーナル終了時刻	文字列	8	"hh:mm:ss"	最も遅いワークフローログ取得時刻
ENDUJHD	文字列	7	"ENDUJHD"	-

(凡例)

- :該当しません。

#### (5) 編集情報レコード

項目名	タイプ	長さ(バイト)	内容	備考
RTHD	文字列	4	"RTHD"	-
無効ワークフローログレコード数	整数列	1 ~ 10	-	解析不可能ワークフローログレコード数
ワークフローログレコード数	整数列	1 ~ 10	-	-
出力ワークフローログレコード数	整数列	1 ~ 10	-	-
処理ステータス	文字列	4	"SUCC" "FAIL"	SUCC : 正常 FAIL : 異常
ENDRTHD	文字列	7	"ENDRTHD"	-

(凡例)

- :該当しない,又は任意

## (6) ワークフローログレコード

## (a) データの形式

項目名	タイプ	長さ (バイト)	内容
取得元種別	文字列	1 ~ 20	"Workflow Server" "Workflow MultiServer"
取得日付	文字列	10	"YYYY/MM/DD"
取得時刻	文字列	8	"hh:mm:ss"
メッセージ ID	文字列	1 ~ 20	-
ワーク ID	文字列	1 ~ 63	-
種別	文字列	0 ~ 16	-
ケース識別子	文字列	0 ~ 16	-
ケース名	文字列	0 ~ 63	-
ノード名 n (n: 1 ~ 3)	文字列	0 ~ 63	-
ロール名 n (n: 1 ~ 2)	文字列	0 ~ 63	-
ユーザ IDn (n: 1 ~ 3)	文字列	0 ~ 8	-
日付	文字列	10	"YYYY/MM/DD"
時刻	文字列	8	"hh:mm:ss"
優先度	文字列	0 ~ 16	-
制限日時 (日付)	文字列	10	"YYYY/MM/DD"
制限日時 (時刻)	文字列	8	"hh:mm:ss"
メッセージ	文字列	0 ~ 96	-
コマンドライン	文字列	0 ~ 63	-

## (凡例)

- : 任意の文字列

## (b) メッセージ ID ごとのデータの有無

ワークフローログレコードの各項目が出力されるかどうかは、メッセージ ID (メッセージ種別) ごとに異なります。メッセージ ID ごとの項目データの有無を、表 C-1 に示します。

表 C-1 ワークフローログレコードの項目データの有無

メッセージ ID	メッセージ種別	取得元種別	取得日付	取得時刻	ワークID	種別	ケース識別子	ケース名	ノード名1	ロール名1	ユーザID1	ノード名2	ロール名2	ユーザID2	ノード名3	ユーザID3	日付	時刻	優先度	処理期限日付	処理期限時刻	メッセージ	コマンドライン
0x04	begin_work																						
0x05	move_root_case																						
0x0c	send_consult_case																						
0x0d	go_root_case																						
0x0e	suspend_root_case																						
0x0f	suspend_work																						
0x10	ready_root_case																						
0x11	ready_work																						
0x12	put_root_case																						
0x14	cancel_work																						
0x15	role_to_user																						
0x18	send_answer_case																						
0x19	api_msg																						
0x20	send_back_root_case																						
0x21	take_back_root_case																						
0x22	end_of_root_case																						
0x23	end_of_work																						
0x2e	put_case_from_BP																						
0x2f	send_back_to_BP																						

(凡例) は項目データあり，空白は項目データなしを示します。

(c) ワークフローログレコードのメッセージ内容

ワークフローログレコードの各項目は，メッセージ ID ごとに出力内容が異なります。

メッセージ ID ごとの出力内容を次に示します。

BEGIN\_WORK (ワークの生成)

項目	内容
メッセージ ID	4 (0X04)
取得元種別	"Workflow Server"
取得日付	ワークフローログ取得日付
取得時刻	ワークフローログ取得時刻
ワーク ID	カレントワークのワーク ID

MOVE\_ROOT\_CASE (案件のノード遷移)

項目	内容
メッセージ ID	5 (0X05)
取得元種別	"Workflow Server"
取得日付	ワークフローログ取得日付
取得時刻	ワークフローログ取得時刻
ワーク ID	カレントワークのワーク ID
種別 (normal)	ケース遷移種別 (通常遷移)
種別 (send_back)	ケース遷移種別 (差し戻し)
種別 (take_back)	ケース遷移種別 (引き戻し)
ケース識別子	遷移ケース識別子
ノード名 1	遷移後ノード名
ロール名 1	遷移後ロール名
ユーザ ID1	遷移後ユーザ ID
ノード名 2	遷移前ノード名
日付	遷移前ノード到着日付
時刻	遷移前ノード到着時刻

SEND\_CONSULT\_CASE

(相談する案件の、相談ユーザ (同一サーバ内) への送付)

項目	内容
メッセージ ID	12 (0X0C)
取得元種別	"Workflow Server"
取得日付	ワークフローログ取得日付
取得時刻	ワークフローログ取得時刻

項 目	内 容
ワーク ID	カレントワークのワーク ID
ケース識別子	相談ケース識別子
ユーザ ID1	相談先ユーザ ID
ユーザ ID2	相談元ユーザ ID
ノード名 3	相談開始ノード名

## GO\_ROOT\_CASE ( 案件の遷移の要求 )

項 目	内 容
メッセージ ID	13 ( 0X0D )
取得元種別	"Workflow Server"
取得日付	ワークフローログ取得日付
取得時刻	ワークフローログ取得時刻
ワーク ID	カレントワークのワーク ID
ケース識別子	遷移要求ケース識別子
ノード名 1	遷移要求元ノード名
ロール名 1	遷移要求元ユーザのロール名
ユーザ ID1	遷移要求元ユーザ ID
日付	遷移要求ノード到着日付
時刻	遷移要求ノード到着時刻

## SUSPEND\_ROOT\_CASE ( 案件の遷移の一時停止 )

項 目	内 容
メッセージ ID	14 ( 0X0E )
取得元種別	"Workflow Server"
取得日付	ワークフローログ取得日付
取得時刻	ワークフローログ取得時刻
ワーク ID	カレントワークのワーク ID
ケース識別子	遷移中断ケース識別子
ノード名 1	遷移中断ノード名
ロール名 1	遷移中断ケース所持ユーザのロール名
ユーザ ID1	遷移中断ケース所持ユーザ ID
ユーザ ID3	ルートケース遷移中断処理実行ユーザ ID

## SUSPEND\_WORK ( ワーク単位での案件の遷移の一時停止 )

項目	内容
メッセージ ID	15 ( 0X0F )
取得元種別	"Workflow Server"
取得日付	ワークフローログ取得日付
取得時刻	ワークフローログ取得時刻
ワーク ID	カレントワークのワーク ID
ユーザ ID3	ワーク遷移中断処理実行ユーザ ID

## READY\_ROOT\_CASE ( 案件の遷移の再開 )

項目	内容
メッセージ ID	16 ( 0X10 )
取得元種別	"Workflow Server"
取得日付	ワークフローログ取得日付
取得時刻	ワークフローログ取得時刻
ワーク ID	カレントワークのワーク ID
ケース識別子	遷移再開ケース識別子
ノード名 1	遷移再開ノード名
ロール名 1	遷移再開ケース所持ユーザのロール名
ユーザ ID1	遷移再開ケース所持ユーザ ID
ユーザ ID3	ルートケース遷移再開処理実行ユーザ ID

## READY\_WORK ( ワーク単位での案件の遷移の再開 )

項目	内容
メッセージ ID	17 ( 0X11 )
取得元種別	"Workflow Server"
取得日付	ワークフローログ取得日付
取得時刻	ワークフローログ取得時刻
ワーク ID	カレントワークのワーク ID
ユーザ ID3	ワーク遷移再開処理実行ユーザ ID

## PUT\_ROOT\_CASE ( 案件の投入 )

項目	内容
メッセージ ID	18 ( 0X12 )
取得元種別	"Workflow Server"

項目	内容
取得日付	ワークフローログ取得日付
取得時刻	ワークフローログ取得時刻
ワーク ID	カレントワークのワーク ID
ケース識別子	投入ケース識別子
ケース名	投入ケース名
ノード名 1	投入ソースノード名
ロール名 1	ケース投入ユーザのロール名
ユーザ ID1	ケース投入ユーザ ID
優先度 ( com )	投入ケースの処理優先度 ( 普通 )
優先度 ( urg )	投入ケースの処理優先度 ( 至急 )
処理期限	投入ケースの処理期限 ( 日付 , 時刻 )

## CANCEL\_WORK (ワークのキャンセル)

項目	内容
メッセージ ID	20 ( 0X14 )
取得元種別	"Workflow Server"
取得日付	ワークフローログ取得日付
取得時刻	ワークフローログ取得時刻
ワーク ID	カレントワークのワーク ID
種別 ( leave )	キャンセル種別 ( ワークが残留 )
種別 ( delete )	キャンセル種別 ( ワークを削除 )
ユーザ ID3	ワーク遷移中止処理実行ユーザ ID

## ROLE\_TO\_USER (ロールトレーからユーザトレーへの案件の移動)

項目	内容
メッセージ ID	21 ( 0X15 )
取得元種別	"Workflow Server"
取得日付	ワークフローログ取得日付
取得時刻	ワークフローログ取得時刻
ワーク ID	カレントワークのワーク ID
ケース識別子	配布ケース識別子
ノード名 1	配布ノード名
ロール名 1	配布元ロール名

項目	内容
ユーザ ID1	配布先ユーザ ID
ユーザ ID3	配布ユーザ ID

## SEND\_ANSWER\_CASE (相談された案件の回答)

項目	内容
メッセージ ID	24 (0X18)
取得元種別	"Workflow Server"
取得日付	ワークフローログ取得日付
取得時刻	ワークフローログ取得時刻
ワーク ID	カレントワークのワーク ID
ケース識別子	回答ケース識別子
ユーザ ID1	回答先ユーザ ID
ユーザ ID2	回答元ユーザ ID
ノード名 3	相談開始ノード名

## API\_MSG (ワークフローログへのユーザデータの出力)

項目	内容
メッセージ ID	25 (0X19)
取得元種別	"Workflow Server"
取得日付	ワークフローログ取得日付
取得時刻	ワークフローログ取得時刻
ワーク ID	カレントワークのワーク ID
ケース識別子	メッセージ出力対象のケース識別子
メッセージ	ワークフローサーバのメッセージ

## SEND\_BACK\_ROOT\_CASE (案件の差し戻し)

項目	内容
メッセージ ID	32 (0X20)
取得元種別	"Workflow Server"
取得日付	ワークフローログ取得日付
取得時刻	ワークフローログ取得時刻
ワーク ID	カレントワークのワーク ID
ケース識別子	差し戻しケース識別子

項目	内容
ノード名 1	差し戻し先ノード名
ロール名 1	差し戻し先ユーザのロール名
ユーザ ID1	差し戻し先ユーザ ID
ノード名 2	差し戻し元ノード名
ロール名 2	差し戻し元ユーザのロール名
ユーザ ID2	差し戻し元ユーザ ID

## TAKE\_BACK\_ROOT\_CASE ( 案件の引き戻し )

項目	内容
メッセージ ID	33 ( 0X21 )
取得元種別	"Workflow Server"
取得日付	ワークフローログ取得日付
取得時刻	ワークフローログ取得時刻
ワーク ID	カレントワークのワーク ID
ケース識別子	引き戻しケース識別子
ノード名 1	引き戻し先ノード名
ロール名 1	引き戻し先ユーザのロール名
ユーザ ID1	引き戻し先ユーザ ID
ノード名 2	引き戻し元ノード名
ロール名 2	引き戻し元ユーザのロール名
ユーザ ID2	引き戻し元ユーザ ID

## END\_OF\_ROOT\_CASE ( 案件の遷移の終了 ( シンク ) )

項目	内容
メッセージ ID	34 ( 0X22 )
取得元種別	"Workflow Server" 又は "Workflow Multi Server"
取得日付	ワークフローログ取得日付
取得時刻	ワークフローログ取得時刻
ワーク ID	カレントワークのワーク ID
ケース識別子	遷移終了ケース識別子
ノード名 1	ケース遷移終了ノード名
優先度 ( com )	ケースの処理優先度 ( 普通 )

項目	内容
優先度 (urg)	ケースの処理優先度 (至急)
処理期限	ケースの処理期限 (日付, 時刻)

## END\_OF\_WORK (ワークの終了)

項目	内容
メッセージ ID	35 (0X23)
取得元種別	"Workflow Server" 又は "Workflow MultiServer"
取得日付	ワークフローログ取得日付
取得時刻	ワークフローログ取得時刻
ワーク ID	カレントワークのワーク ID
日付	ワーク作成日付
時刻	ワーク作成時刻
優先度 (com)	ワークの処理優先度 (普通)
優先度 (urg)	ワークの処理優先度 (至急)
処理期限	ワークの処理期限 (日付, 時刻)

## PUT\_CASE\_FROM\_BP

(他のビジネスプロセスからの案件の投入)

項目	内容
メッセージ ID	46 (0X2E)
取得元種別	"Workflow Server"
取得日付	ワークフローログ取得日付
取得時刻	ワークフローログ取得時刻
ワーク ID	カレントワークのワーク ID
ケース識別子	投入ケース識別子
ケース名	投入ケース名
ノード名 1	投入ソースノード名
ロール名 1	ケース投入ユーザのロール名
ユーザ ID1	ケース投入ユーザ ID
優先度 (com)	投入ケースの処理優先度 (普通)
優先度 (urg)	投入ケースの処理優先度 (至急)
処理制限	投入ケースの処理期限 (日付, 時刻)

## SEND\_BACK\_TO\_BP

## (他のビジネスプロセスへの案件の差し戻し)

項目	内容
メッセージ ID	47 (0X2F)
取得元種別	"Workflow Server"
取得日付	ワークフローログ取得日付
取得時刻	ワークフローログ取得時刻
ワーク ID	カレントワークのワーク ID
ケース識別子	差し戻しケース識別子
ノード名 1	差し戻し元ノード名
ロール名 1	差し戻し元ユーザのロール名
ユーザ ID1	差し戻し元ユーザ ID

## (7) 終了ヘッダレコード

項目名	タイプ	長さ (バイト)	内容
TRAR	文字列	4	"TRAR"
ファイルフォーマットバージョン	文字列	8	"01-01-00"
プログラム名称	文字列	15	"Workflow Server"
コマンド名称	文字列	13	"WFanalyst_log"
ファイル種別	文字列	12	"WFlog_record"
ENDTRAR	文字列	7	"ENDTRAR"

---

## 付録D メッセージとコード

ここでは、Groupmax Workflow で表示されるメッセージ及びコードについて説明します。

---

### メッセージの形式

メッセージの形式を次に示します。

日時 サーバ名 XXXX[ プロセス ID] : YYYYnnnn-Z メッセージテキスト

日時

メッセージを出力した日時を表します（オペレーティングシステムが表示します）。

サーバ名

ホスト名を表します（オペレーティングシステムが表示します）。

XXXX

Groupmax Workflow Server のサービス名を表します。

プロセス ID

メッセージを出力したプロセスのプロセス ID を表します（オペレーティングシステムが表示します）。

YYYY

メッセージを出力したプログラムを表します。

KDWM：マネージャ機能

KDWS：サーバ機能

KDWT：マルチサーバ機能

KDWD：ワークフローディレクトリサービス

KDWI：ドメイン間連携機能

nnnn

メッセージの番号を表します。サーバ機能以外のメッセージでは 4 けた、サーバ機能のメッセージでは 3 けたの、固有の番号が表示されます。

Z

メッセージの種類を表します。

I：システムの動作を通知するメッセージです。

W：警告メッセージです。異常が起りましたが、処理は続行します。

E：エラーメッセージです。障害が発生したので、処理を中断します。

Q：応答を要求するメッセージです。メッセージに応答してください。

#### 注意事項

メッセージ中に Groupmax Workflow Server のサービス名（XXXX の部分）を表示

しない形式で出力したい場合は、次のファイルを作成した後、再起動してください。  
/Flowmate/adm/.wf\_syslog\_old\_format

## マネージャ機能のメッセージ

---

マネージャ機能のメッセージを以降に示します。

### KDWM0001-I

---

WFmanager : マネージャ機能を開始しました。

### KDWM0002-I

---

WFmanager : マネージャ機能を終了しました。

### KDWM0003-I

---

WFmanager : マネージャ機能を強制終了しました。

### KDWM0100-W

---

WFmanager : マネージャ機能は既に起動されています。

要因

マネージャ機能は既に起動されています。

対処

既に起動しているマネージャ機能を終了させて、再度、実行してください。

### KDWM0150-W

---

WFmanager : AP ダンプの初期設定に失敗しました。

要因

AP ダンプの初期設定に失敗したため、AP ダンプを取得できません。

対処

AP ダンプデーモンが起動しているか確認してください。

## KDWM0200-E

---

WFmanager : オプションの指定値に誤りがあります。オプション名 :  
XXX

要因

環境設定ファイルで指定したオペランドの指定値に誤りがあります。

オプション名

誤りのあるオペランド名が表示されます。

対処

オペランドの指定値を見直して、再度実行してください。

## KDWM0201-E

---

WFmanager : 他のプログラムと同時に実行できません。

要因

プログラムの競合が発生しました。

対処

ほかのプログラムの終了を待って、再度実行してください。

## KDWM0202-E

---

WFmanager : デフォルト環境設定ファイルのオープンに失敗しました。  
理由コード : xxx

要因

デフォルトの環境設定ファイルのオープンに失敗したため、処理を中止します。

理由コード

保守情報が表示されます。

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM0203-E

---

WFmanager : デフォルト環境設定ファイルの入力に失敗しました。理由コード : xxx

要因

デフォルトの環境設定ファイルの入力に失敗したため、処理を中止します。

理由コード

保守情報が表示されます。

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM0204-E

---

WFmanager : オブジェクトサーバとの接続に失敗しました。関数名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

要因

Groupmax Object Server との接続に失敗しました。

関数名

保守情報が表示されます。

理由コード

障害の発生元が表示されます。

30000 ~ 39999 : Groupmax Object Server

詳細コード

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

サブコード

詳細コードのサブコードが表示されます。

対処

障害の発生要因を取り除いて、再度実行してください。

## KDWM0205-E

---

WFmanager : オブジェクトサーバからの切り離しに失敗しました。関数名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

要因

Groupmax Object Server からの切り離しに失敗しました。

関数名

保守情報が表示されます。

理由コード

障害の発生元が表示されます。

30000 ~ 39999 : Groupmax Object Server

詳細コード

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

サブコード

詳細コードのサブコードが表示されます。

対処

障害の発生要因を取り除いて、再度実行してください。

## KDWM0206-E

---

WFmanager : 開始処理でエラーが発生しました。関数名 : xxx 理由コード : xxx

要因

開始処理でエラーが発生しました。

関数名

保守情報が表示されます。

理由コード

保守情報が表示されます。

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM0207-E

---

WFmanager : デフォルト環境設定ファイルのクローズに失敗しました。

理由コード : xxx

要因

デフォルトの環境設定ファイルのクローズに失敗したため、処理を中止します。

理由コード

保守情報が表示されます。

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM0208-E

---

WFmanager : オプションの指定値が長すぎます。

要因

環境設定ファイルで指定したオプションの指定値に誤りがあります。

対処

オプションの指定値を見直して、再度実行してください。

## KDWM0209-E

---

WFmanager : マネージャ機能の環境が不正です。

要因

次のどちらかの要因によって、マネージャ機能を開始できませんでした。

- サーバ構成環境変更コマンドが正常終了していない。
- マネージャ機能環境初期化コマンドが正常終了していない。

対処

要因を特定し、次のどちらかの対処を行ってください。要因を特定できない場合は、システム管理者に連絡してください。

- サーバ構成環境変更コマンドを実行した後、再度実行してください。
- マネージャ機能環境初期化コマンドを実行した後、再度実行してください。

## KDWM0210-E

---

WFmanager : 実行したユーザには実行権限がありません。

要因

マネージャ機能を起動したユーザには、実行権限がありません。

対処

マネージャ機能の実行権限のあるユーザで、再度実行してください。

## KDWM0211-E

---

WFmanager : メモリ又はディスクの容量不足が発生しました。

要因

作業領域が確保できませんでした。

対処

不要なプロセスを終了させるか又はスワップ領域を増分してから、再度実行してく

ださい。

## KDWM0212-E

---

WFmanager : ビジネスプロセス定義で矛盾が生じたため、案件をエラートレーに移動します。ビジネスプロセス定義名 : xxx ケース名 : xxx

### 要因

ビジネスプロセス定義でエラーが発生したため、案件の処理ができません。

ビジネスプロセス定義名

ビジネスプロセス定義名が表示されます。

ケース名

案件のケース名が表示されます。

### 対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM0213-E

---

WFmanager : オブジェクトサーバでエラーが発生しました。関数名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

### 要因

Groupmax Object Server でエラーが発生しました。

関数名

保守情報が表示されます。

理由コード

障害の発生元が表示されます。

20000 ~ 29999 : Groupmax Workflow Server

30000 ~ 39999 : Groupmax Object Server

40000 ~ 49999 : Groupmax Address Server

詳細コード

各プログラムの詳細コード又は WFSV\_errno が表示されます。

サブコード

詳細コードのサブコードが表示されます。

### 対処

障害の発生要因を取り除いて、再度実行してください。

## KDWM0215-E

---

WFmanager : 案件 (xxx) に対応するビジネスプロセス定義が存在しないため、案件をエラートレイに移動します。

**要因**

送付しようとした案件にビジネスプロセス定義のオブジェクト ID が入っていないか、又はビジネスプロセス定義オブジェクトがありません。

**対処**

システム管理者に連絡してください。

## KDWM0216-E

---

WFmanager : プログラムエラーが発生しました。理由コード : xxx

**要因**

プログラムエラーが発生しました。

**理由コード**

保守情報が表示されます。

**対処**

システム管理者に連絡してください。

## KDWM0217-E

---

WFmanager : オブジェクトサーバのトランザクション開始時にエラーが発生しました。関数名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

**要因**

Groupmax Object Server のトランザクション開始に失敗しました。

**関数名**

保守情報が表示されます。

**理由コード**

障害の発生元が表示されます。

20000 ~ 29999 : Groupmax Workflow Server

30000 ~ 39999 : Groupmax Object Server

40000 ~ 49999 : Groupmax Address Server

**詳細コード**

各プログラムの詳細コード又は WFSV\_errno が表示されます。

サブコード

詳細コードのサブコードが表示されます。

対処

障害の発生要因を取り除いて、再度実行してください。

## KDWM0218-E

---

WFmanager : トランザクションの終了時にエラーが発生しました。関  
数名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

要因

Groupmax Object Server のトランザクション終了に失敗しました。

関数名

保守情報が表示されます。

理由コード

障害の発生元が表示されます。

20000 ~ 29999 : Groupmax Workflow Server

30000 ~ 39999 : Groupmax Object Server

40000 ~ 49999 : Groupmax Address Server

詳細コード

各プログラムの詳細コード又は WFSV\_errno が表示されます。

サブコード

詳細コードのサブコードが表示されます。

対処

障害の発生要因を取り除いて、再度実行してください。

## KDWM0219-E

---

WFmanager : サーバ機能でエラーが発生しました。関数名 : xxx 理由  
コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

要因

サーバ機能でエラーが発生しました。

関数名

保守情報が表示されます。

理由コード

障害の発生元が表示されます。

20000 ~ 29999 : Groupmax Workflow Server

## 詳細コード

WFSV\_errno が表示されます。

## サブコード

保守情報が表示されます。

## 対処

障害の発生要因を取り除いて、再度実行してください。

## KDWM0220-E

---

WFmanager : 案件 (xxx) に対応するワークが存在しないため、案件をエラートレーに移動します。

## 要因

送付しようとした案件にワークのオブジェクト ID が入っていないか、又はワークオブジェクトがありません。

## 対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM0222-E

---

WFmanager : 案件送付リトライ回数が制限値を超えたため、案件をエラートレーに移動します。理由コード : xxx

## 要因

案件送付リトライ回数が制限値を超えたため、案件をエラートレーに移動します。

## 理由コード

保守情報が表示されます。

## 対処

エラー種別 (KDWM0222) が設定されている案件を見付け、該当するビジネスプロセス定義を特定してください。理由コードに示す要因を取り除き、再度、案件を投入してください。

理由コードの内容と対処について次に示します。

理由コード	内容	対処
1	ロックエラー	オブジェクトが長時間ロックされているおそれがあります。時間を置いて、エラーとなった案件を Groupmax Workflow Monitor で復帰してください。それでも再発する場合は、案件送付リトライ回数を見直してください。
上記以外	-	システム管理者に連絡してください。

## KDWM0223-E

---

WFmanager : エラートレーでエラーが発生したため、案件が移動できません。

要因

エラートレーへのアクセスでエラーが発生したため、案件が移動できません。

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM0224-E

---

WFmanager : サーバ機能との接続に失敗しました。関数名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

要因

サーバ機能との接続に失敗しました。

関数名

保守情報が表示されます。

理由コード

障害の発生元が表示されます。

20000 ~ 29999 : Groupmax Workflow Server

詳細コード

WFSV\_errno が表示されます。

サブコード

保守情報が表示されます。

対処

障害の発生要因を取り除いて、再度実行してください。

## KDWM0225-E

---

WFmanager : サーバ機能が起動されていません。

要因

サーバ機能が起動されていません。

対処

サーバ機能を起動した後、再度実行してください。

## KDWM0226-E

---

WFmanager : 案件送付リトライ回数が制限値を超えました。理由コード : xxx

### 要因

資源の競合などのため、案件送付処理をリトライしましたが、リトライ回数が Groupmax Workflow Server の制限値を超えました。

### 理由コード

保守情報が表示されます。

### 対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM0229-E

---

WFmanager : マルチサーバ機能で使用するメールユーザのサーバ情報を取得できませんでした。関数名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx

### 要因

Groupmax Address Server でエラーが発生しました。

### 関数名

保守情報が表示されます。

### 理由コード

保守情報が表示されます。

### 詳細コード

保守情報が表示されます。

### 対処

1. 環境設定ファイルの「Workflow システム組織 ID」の設定内容を見直してください。
2. 1. で確認した組織 ID が Groupmax Address Server に登録されているか、また登録内容が正しいかどうか確認してください。
3. Groupmax Address Server の稼働状況を確認し、障害の発生要因を取り除いてください。
4. マネージャ機能を起動してください。

## KDWM0230-E

---

WFmanager : 指定された対象最上位組織 ID の中でアドレスサーバに未登録の最上位組織 ID があります。最上位組織 ID : xxx

### 要因

環境設定ファイルに指定した対象最上位組織 ID ( company\_id ) がアドレスサーバに登録されていません。

### 最上位組織 ID

登録されていない最上位組織 ID が表示されます。二つ以上ある場合は、最初の一つが表示されます。

### 対処

環境設定ファイルに指定した対象最上位組織 ID ( company\_id ) を見直してください。

障害の発生要因を取り除いて、マネージャ機能を再起動してください。

このメッセージより前に KDWD0260-E メッセージが出力されている場合は、KDWD0260-E メッセージの対処も行ってください。

## KDWM0231-E

---

ログ取得レベルの指定が不正です。

### 要因

環境設定ファイルの「ワークフローログレベル」に不正な値が指定されたため、ワークフローログを取得できません。

### 対処

環境設定ファイルの「ワークフローログレベル」の値を修正して、再度実行してください。

## KDWM0232-E

---

ワークフローログの出力でエラーが発生しました。理由コード : xxx

### 要因

ワークフローログ情報を出力できません。

### 理由コード

保守情報が表示されます。

### 対処

Groupmax Object Server のシステム共通定義ファイルの ujfile パラメタが正しく設

定されているか、確認してください。設定に誤りがない場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWM0233-E

---

ワークヒストリの出力でエラーが発生しました。理由コード：xxx

### 要因

ワークヒストリを出力できません。

### 理由コード

保守情報が表示されます。

### 対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM0234-E

---

メモリ不足が発生しました。

### 要因

履歴情報の取得に必要なメモリが確保できませんでした。

### 対処

不要なプロセスを終了させるか又はスワップ領域を増分してから、再度実行してください。

## KDWM0235-E

---

プログラムエラーが発生しました。理由コード：xxx 詳細コード：xxx

### 要因

開始処理でエラーが発生しました。要因は、次の形式で表示されます。

### 理由コード

保守情報が表示されます。

### 詳細コード

保守情報が表示されます。

### 対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM0236-E

---

ワークフローログの出力先ファイルが定義されていません。

### 要因

ワークフローログを取得する設定がされていますが、ワークフローログ出力先として使用する Groupmax Object Server の UJ 出力ファイルが定義されていないため、ワークフローログを出力できません。

### 対処

Groupmax Object Server のシステム共通定義ファイルに ujfile パラメタを正しく設定してください。ワークフローログを取得する必要がない場合は、環境設定時、「ワークフローログレベル」に 0 を指定してください。

## KDWM0250-E

---

メモリ不足が発生しました。

### 要因

メモリが確保できませんでした。

### 対処

不要なプロセスを終了させるか、又はスワップ領域を増分してから、再度実行してください。

## KDWM0251-E

---

トレースファイルのオープンに失敗しました。ファイル名：xxx 理由  
コード：xxx

### 要因

トレースファイルのオープンに失敗しました。トレース情報を出力しないで、マネージャ機能の処理を続行します。

### ファイル名

エラーが発生したトレースファイル名が表示されます。

### 理由コード

open 処理のエラー値が表示されます。

### 対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM0252-E

---

トレースファイルの出力に失敗しました。ファイル名 : xxx 理由コード :  
xxx

### 要因

トレースファイルにトレース情報を出力中に、エラーが発生しました。トレース情報を出力しないで、マネージャ機能の処理を続行します。

### ファイル名

エラーが発生したトレースファイル名が表示されます。

### 理由コード

write 処理のエラー値が表示されます。

### 対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM0270-E

---

WFstopmgr : マネージャ機能に対する停止権限がありません。

### 要因

WFstopmgr コマンドを入力したユーザには、このコマンドの実行権限がありません。

### 対処

マネージャ機能を起動したユーザと同じ権限を持つユーザが、再度実行してください。

## KDWM0271-E

---

WFstopmgr : マネージャ機能が起動されていません。

### 要因

マネージャ機能が起動されていないため、処理を中止します。

### 対処

マネージャ機能を起動後、再度実行してください。

## KDWM0272-E

---

WFstopmgr : オペレーティングシステムとのインタフェースでエラーが発生しました。理由コード : xxx

要因

オペレーティングシステムとのインタフェース(システムコール)でエラーが発生しました。

理由コード

保守情報が表示されます。

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM0273-E

---

WFstopmgr : オプションの指定に誤りがあります。オプション名 : xxx

要因

オプションの指定に誤りがあります。

オプション名

誤りのあるオプション名が表示されます。

対処

オプションの指定を見直して、再度実行してください。

## KDWM0274-E

---

WFstopmgr : オプションが重複しています。オプション名 : xxx

要因

オプションの指定が重複しています。

オプション名

重複したオプション名が表示されます。

対処

オプションの指定を見直して、再度実行してください。

## KDWM0275-E

---

WFstopmgr : -f オプションが指定されていません。

要因

-d オプションが指定されているのに、-f オプションが指定されていません。

対処

-f オプションを指定して、再度実行してください。

## KDWM0276-E

---

WFstopmgr : オプションの指定が多すぎます。

要因

指定したオプションの数が多過ぎます。

対処

オプションの指定を見直して、再度実行してください。

## KDWM0301-E

---

WFmanager : 案件処理中に致命的なエラーが発生したため、案件を再投入しました。

要因

このエラーメッセージの直前に出力されたエラーメッセージに示された要因の障害が発生したため、再処理できるようにスケジューリングし直しました。

対処

障害を取り除いてください。一定時間後に再処理されます。また、即時に再処理したい場合は、マネージャ機能を再起動してください。

## KDWM0302-E

---

WFmanager : 案件の再投入回数がシステムの制限値を超えたため、案件をエラートレイに移動します。

要因

致命的なエラーが発生した場合の再投入回数がシステムの制限値を超えたため、案件をエラートレイに移動します。

対処

障害を取り除いた後、Groupmax Workflow Monitor でエラートレーの案件をビジネスプロセスに復帰してください。

## KDWM0303-E

---

WFmanager : 案件をエラートレーに移動しました。ビジネスプロセス  
定義名 : xxx ビジネスプロセス定義バージョン : xxx ワーク ID : xxx ユー  
ザ ID : xxx サーバ名 : xxx

### 要因

直前のエラーメッセージに示される要因で、案件をエラートレーに移動しました。

ビジネスプロセス定義名

エラーが発生したビジネスプロセス定義名が表示されます。

ビジネスプロセス定義バージョン

エラーが発生したビジネスプロセス定義のバージョンが表示されます。

ワーク ID

エラーが発生したワーク ID が表示されます。

ユーザ ID

エラートレーのユーザ ID が表示されます。

サーバ名

保守情報が表示されます。

### 対処

このメッセージに含まれている情報からエラー案件を特定し、直前に表示されているメッセージに従ってください。

## KDWM2201-E

---

WFmanager : メモリ不足が発生しました。ビジネスプロセス定義名 :  
xxx

### 要因

メモリが確保できませんでした。

ビジネスプロセス定義名

ビジネスプロセス定義名が表示されます。

### 対処

不要なプロセスを終了させるか、又はスワップ領域を増分してから、再度、実行してください。

## KDWM2202-E

---

WFmanager : ビジネスプロセス定義に誤りがあります。関数名 : xxx ビジネスプロセス定義名 : xxx 理由コード : xxx

### 要因

ビジネスプロセス定義に誤りがあります。

### 関数名

保守情報が表示されます。

### ビジネスプロセス定義名

ビジネスプロセス定義名が表示されます。

### 理由コード

保守情報が表示されます。

### 対処

ビジネスプロセス定義を保存し、システム管理者に連絡してください。

## KDWM2203-E

---

WFmanager : ビジネスプロセス定義処理中にプログラムエラーが発生しました。ビジネスプロセス定義名 : xxx

### 要因

ビジネスプロセス定義処理中にプログラムエラーが発生しました。

### ビジネスプロセス定義名

ビジネスプロセス定義名が表示されます。

### 対処

ビジネスプロセス定義を保存し、システム管理者に連絡してください。

## KDWM2204-E

---

WFmanager : 案件をエラートレイへ移動できません。ビジネスプロセス定義名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx

### 要因

案件をエラートレイへ移動できません。

### ビジネスプロセス定義名

ビジネスプロセス定義名が表示されます。

### 理由コード

保守情報が表示されます。

詳細コード

保守情報が表示されます。

対処

ビジネスプロセス定義を保存し、システム管理者に連絡してください。

## KDWM3200-E

---

WFmanager：代入文の左辺がケース属性ではありません。ビジネスプロセス定義名：xxx ノード名：xxx

要因

ビジネスプロセス定義の代入文の左辺にケース属性以外が指定されています。案件をエラートレイに移動します。

ビジネスプロセス定義名

エラーが発生したビジネスプロセス定義名が表示されます。

ノード名

エラーが発生したノード名が表示されます。

対処

ビジネスプロセス定義を保存し、システム管理者に連絡してください。

## KDWM3201-E

---

WFmanager：比較文、又は代入文の左辺と右辺のデータタイプが一致していません。ビジネスプロセス定義名：xxx ノード名：xxx

要因

ビジネスプロセス定義の比較文又は代入文の左辺と右辺のデータタイプが一致していません。案件をエラートレイに移動します。

ビジネスプロセス定義名

エラーが発生したビジネスプロセス定義名が表示されます。

ノード名

エラーが発生したノード名が表示されます。

対処

ビジネスプロセス定義を保存し、システム管理者に連絡してください。

## KDWM3203-E

---

WFmanager : カレントノードにケースが存在しません。ビジネスプロセス定義名 : xxx ノード名 : xxx

### 要因

ビジネスプロセス定義中のノード名で示すノードにケースがないため、案件を送付できません。

### ビジネスプロセス定義名

エラーが発生したビジネスプロセス定義名が表示されます。

### ノード名

エラーが発生したノード名が表示されます。

### 対処

ノード名で示されたノード内で参照・更新しているケースが、ノードに到着する案件の中に必ずあるようにビジネスプロセス定義を修正し、再度、案件を投入してください。

## KDWM3204-E

---

WFmanager : 算術演算式が不正です。ビジネスプロセス定義名 : xxx  
ノード名 : xxx

### 要因

0 での割り算などの解析できない算術式があるため、案件をエラートレイに移動しました。

### ビジネスプロセス定義名

エラーが発生したビジネスプロセス定義名が表示されます。

### ノード名

エラーが発生したノード名が表示されます。

### 対処

アプリケーションプログラムでケース属性に値を設定している場合、処理を見直してください。それ以外の場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWM3206-E

---

WFmanager : #out セクション内に GoOut 関数が定義されています。ビジネスプロセス定義名 : xxx ノード名 : xxx

### 要因

ビジネスプロセス定義のノード名で示すノードに、#out キーワードで許されていない GoOut 関数が定義されています。案件をエラートレーに移動します。

ビジネスプロセス定義名

エラーが発生したビジネスプロセス定義名が表示されます。

ノード名

エラーが発生したノード名が表示されます。

対処

ビジネスプロセス定義を保存し、システム管理者に連絡してください。

## KDWM3208-E

---

WFmanager : FromObject 関数で定義されたノードが存在しません。ビジネスプロセス定義名 : xxx ノード名 : xxx

要因

FromObject 関数に定義されているノードがないため、案件をエラートレーに移動します。

ビジネスプロセス定義名

エラーが発生したビジネスプロセス定義名が表示されます。

ノード名

エラーが発生したノード名が表示されます。

対処

ビジネスプロセス定義を保存し、システム管理者に連絡してください。

## KDWM3209-E

---

WFmanager : ToObject 関数で定義されたノードが存在しません。ビジネスプロセス定義名 : xxx ノード名 : xxx

要因

ToObject 関数に定義されているノードがないため、案件をエラートレーに移動します。

ビジネスプロセス定義名

エラーが発生したビジネスプロセス定義名が表示されます。

ノード名

エラーが発生したノード名が表示されます。

対処

ビジネスプロセス定義を保存し、システム管理者に連絡してください。

## KDWM3210-E

---

WFmanager : ToObject 関数で定義されたケースが存在しません。ビジネスプロセス定義名 : xxx ノード名 : xxx

### 要因

ToObject 関数に定義されているケースがありません。

### ビジネスプロセス定義名

エラーが発生したビジネスプロセス定義名が表示されます。

### ノード名

エラーが発生したノード名が表示されます。

### 対処

ビジネスプロセス定義を保存し、システム管理者に連絡してください。

## KDWM3211-E

---

WFmanager : ユーザ名がユーザ定義に登録されていません。ビジネスプロセス定義名 : xxx ノード名 : xxx

### 要因

ノードで指定されたユーザがユーザ定義に登録されていません。案件をエラートレーに移動します。

### ビジネスプロセス定義名

エラーが発生したビジネスプロセス定義名が表示されます。

### ノード名

エラーが発生したノード名が表示されます。

### 対処

ビジネスプロセス定義を保存し、システム管理者に連絡してください。

## KDWM3213-E

---

WFmanager : ビジネスプロセス定義が解析不能です。ビジネスプロセス定義名 : xxx ノード名 : xxx 理由コード : xxx 関数名 : xxx

### 要因

ビジネスプロセス定義に解析できない誤りがあるため、案件をエラートレーに移動します。

### ビジネスプロセス定義名

エラーが発生したビジネスプロセス定義名が表示されます。

ノード名

エラーが発生したノード名が表示されます。

理由コード

保守情報が表示されます。

関数名

保守情報が表示されます。

対処

ビジネスプロセス定義を保存し、システム管理者に連絡してください。

## KDWM3214-E

---

WFmanager : ビジネスプロセス定義にケース属性が定義されていません。ビジネスプロセス定義名 : xxx ノード名 : xxx

要因

ビジネスプロセス定義にケース又はケース属性が定義されていないため、案件をエラートレーに移動します。

ビジネスプロセス定義名

エラーが発生したビジネスプロセス定義名が表示されます。

ノード名

エラーが発生したノード名が表示されます。

対処

ビジネスプロセス定義を保存し、システム管理者に連絡してください。

## KDWM3215-E

---

WFmanager : ビジネスプロセス定義の入力に失敗しました。ビジネスプロセス定義名 : xxx ノード名 : xxx 理由コード : xxx

要因

ビジネスプロセス定義の読み込みができないため、異常終了します。

ビジネスプロセス定義名

ビジネスプロセス定義名が表示されます。

ノード名

エラーが発生したノード名が表示されます。

理由コード

保守情報が表示されます。

対処

ビジネスプロセス定義を保存し、システム管理者に連絡してください。

## KDWM3216-E

---

WFmanager : ノードに不当に滞留している案件をエラートレーに移動しました。ビジネスプロセス定義名 : xxx ノード名 : xxx

### 要因

次の理由で、案件をエラートレーへ移動しました。

- 分岐ノードの場合...分岐条件で指定した値がケース属性に設定されていない
- 分岐ノード以外の場合...送付先ノードがない

### ビジネスプロセス定義名

ビジネスプロセス定義名が表示されます。

### ノード名

エラーが発生したノード名が表示されます。

### 対処

エラーの発生したノードが分岐ノードの場合、ケース属性の値を見直してください。  
分岐ノード以外の場合、システム管理者に連絡してください。

## KDWM3217-E

---

WFmanager : ケース属性に設定する値が大きいか、又は長過ぎます。ビジネスプロセス定義名 : xxx ノード名 : xxx

### 要因

ケース属性に設定する値が大きいか、又は長過ぎて値が設定できないため、案件をエラートレーに移動します。

### ビジネスプロセス定義名

ビジネスプロセス定義名が表示されます。

### ノード名

エラーが発生したノード名が表示されます。

### 対処

ビジネスプロセス定義を保存し、システム管理者に連絡してください。

## KDWM3218-E

---

WFmanager : 無限ループ制限回数の指定値を超えたため、エラートレイに移動しました。

要因

無限ループ制限回数の指定値を超えました。

対処

条件指定の誤りなどによる無限ループでなければ、環境設定時の「無限ループ制限回数」の指定値を見直してください。

## KDWM3222-E

---

WFmanager : サーバ間連携機能は使用できません。

要因

ビジネスプロセス定義のシンクノード又は階層連携ノードでサーバ間連携を定義していますが、環境設定が未設定のため、サーバ間連携機能は使用できませんでした。

対処

環境設定で、「サーバ間連携機能指定」に「use」を設定した後、サーバ機能、マネージャ機能、及びマルチサーバ機能を、再度起動してください。

## KDWM3223-E

---

WFmanager : 戻し先が制御ノードであるため、差し戻し、引き戻しはできません。

要因

戻し先が制御ノードであるため、差し戻し、引き戻しができませんでした。案件をエラートレイに移動します。

対処

システム管理者に連絡してしてください。

## KDWM3224-E

---

WFmanager : サーバ間連携機能の動作環境が整っていません。ビジネスプロセス定義名 : xxx ノード名 : xxx

要因

サーバ間連携機能の動作環境が整っていないため、マネージャ機能を異常終了しま

す。

ビジネスプロセス定義名

エラーが発生したビジネスプロセス定義名が表示されます。

ノード名

エラーが発生したノード名が表示されます。

対処

マネージャ機能の環境を初期化し、サーバ間連携機能の動作環境を整えた後、再度実行してください。

## KDWM3225-E

---

WFmanager：送付元ユーザが存在しないため、予約語の設定に失敗しました。ビジネスプロセス定義名：xxx ノード名：xxx

要因

案件送付後に送付元ユーザが削除されたため、予約語の設定ができませんでした。

ビジネスプロセス定義名

エラーが発生したビジネスプロセス定義名が表示されます。

ノード名

エラーが発生したノード名が表示されます。

対処

再度案件を投入してください。

## KDWM3226-E

---

WFmanager：連携先で案件内のケースの構成が変化するため、上位ビジネスプロセスに戻せません。ビジネスプロセス定義名：xxx ノード名：xxx

要因

ビジネスプロセスの階層連携中に、連携先で案件内のケース構成が変化するため、上位のビジネスプロセスに案件を戻すことができませんでした。案件をエラートレイに移動します。

ビジネスプロセス定義名

エラーが発生したビジネスプロセス定義名が表示されます。

ノード名

エラーが発生したノード名が表示されます。

対処

連携先ビジネスプロセス定義を見直してください。

## KDWM3227-E

---

WFmanager : 階層連携中の案件は直列連携できません。ビジネスプロセス定義名 : xxx ノード名 : xxx

### 要因

ビジネスプロセスの階層連携で、連携先のビジネスプロセスの中で直列連携が定義されているノードに案件が送付されました。案件をエラートレーに移動します。

ビジネスプロセス定義名

エラーが発生したビジネスプロセス定義名が表示されます。

ノード名

エラーが発生したノード名が表示されます。

### 対処

連携先ビジネスプロセス定義を見直してください。

## KDWM3228-E

---

WFmanager : 階層連携の最大連携数を超えたため、連携できません。ビジネスプロセス定義名 : xxx ノード名 : xxx

### 要因

ビジネスプロセスの階層連携で、最大連携数を超えて連携をしようとした。案件をエラートレーに移動します。

ビジネスプロセス定義名

エラーが発生したビジネスプロセス定義名が表示されます。

ノード名

エラーが発生したノード名が表示されます。

### 対処

連携先ビジネスプロセス定義を見直してください。

## KDWM3229-E

---

WFmanager : 絞り込み種別と比較条件の型の組み合わせが正しくありません。ビジネスプロセス定義名 : xxx ノード名 : xxx

### 要因

自動配布指定で、絞り込み種別と比較条件の型の組み合わせが正しくありません。

案件をエラートレーに移動します。

ビジネスプロセス定義名

エラーが発生したビジネスプロセス定義名が表示されます。

ノード名

エラーが発生したノード名が表示されます。

対処

連携先ビジネスプロセス定義を見直してください。

## KDWM3230-E

---

WFmanager : 絞り込み種別と絞り込みデータの型の組み合わせが正しくありません。ビジネスプロセス定義名 : xxx ノード名 : xxx

要因

自動配布指定で、絞り込み種別と絞り込みデータの型の組み合わせが正しくありません。案件をエラートレーに移動します。

ビジネスプロセス定義名

エラーが発生したビジネスプロセス定義名が表示されます。

ノード名

エラーが発生したノード名が表示されます。

対処

連携先ビジネスプロセス定義を見直してください。

## KDWM3231-E

---

WFmanager : アドレスサーバでエラーが発生しました。関数名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx

要因

ユーザ情報取得時、Groupmax Address Server でエラーが発生しました。

関数名

保守情報が表示されます。

理由コード

理由コードが表示されます。

詳細コード

保守情報が表示されます。

対処

次の表の理由コードを参照してエラーの要因を取り除き、対処方法に従って対処し

てください。マネージャ機能が異常終了している場合は、障害を取り除いた後、再度起動してください。

理由コード	意味	対処方法
40001	ソケットエラー	Groupmax Address の通信部分の設定を見直して、障害を取り除いてください（詳細コードにソケットの errno が設定されます）。
40002	Groupmax Address で障害発生	Groupmax Address の稼働状況を調べ、障害を取り除いてください。
40005	ユーザ ID 未登録	ユーザが Groupmax Address に登録されているか調べてください。障害を取り除いた後、Groupmax Workflow Monitor でエラートレーの案件をビジネスプロセスに復帰してください。
40007	不当パケット受付 (Groupmax Address のバージョンが古い)	Groupmax Address のバージョンを、Groupmax Workflow が前提とするバージョン以降にバージョンアップしてください。
40012	ホスト情報取得失敗	サーバマシンのホスト名及び IP アドレスの定義を見直してください。又は、Groupmax Address の稼働状況を調べて、障害の要因を取り除いてください。
40013	サービス名取得失敗	サーバマシンの SERVICES ファイルの内容を見直してください。又は、Groupmax Address の稼働状況を調べて、障害の要因を取り除いてください。
40025	ホームサーバ未登録	ユーザのホームサーバが Groupmax Address に登録されているか調べてください。障害を取り除いた後、Groupmax Workflow Monitor でエラートレーの案件をビジネスプロセスに復帰してください。
その他	-	システム管理者に連絡してください。

(凡例)

- : 該当しません。

## KDWM3232-E

WFmanager : MergeObject 関数で定義されたマージ先の案件が存在しません。ビジネスプロセス定義名 : xxx ノード名 : xxx

### 要因

MergeObject 関数に定義されているマージ先の案件がありません。

### ビジネスプロセス定義名

エラーが発生したビジネスプロセス定義名が表示されます。

### ノード名

エラーが発生したノード名が表示されます。

### 対処

ビジネスプロセス定義を見直してください。

## KDWM3233-E

---

WFmanager : ビジネスプロセス定義で指定された自動配布キーが存在しません。ビジネスプロセス定義名 : xxx ノード名 : xxx 自動配布キー名 : xxx

### 要因

ビジネスプロセス定義で指定された自動配布キーがありません。  
エラートレーに案件を送付します。

#### ビジネスプロセス定義名

エラーが発生したビジネスプロセス定義名が表示されます。

#### ノード名

エラーが発生したノード名が表示されます。

#### 自動配布キー名

エラーとなった自動配布キー名が表示されます。

### 対処

自動配布キーを登録するか、又はビジネスプロセス定義を修正した後、再度、案件を投入してください。

## KDWM3234-E

---

WFmanager : Groupmax Workflow Multi-Server のバージョンが合っていないため、連携機能は使用できません。ビジネスプロセス定義名 : xxx  
ノード名 : xxx

### 要因

Groupmax Workflow Multi-Server のバージョンが古いため、ビジネスプロセスを連携できません。案件をエラートレーに送付します。

#### ビジネスプロセス定義名

エラーが発生したビジネスプロセス定義名が表示されます。

#### ノード名

エラーが発生したノード名が表示されます。

### 対処

Groupmax Workflow Multi-Server のバージョンを 01-20 以降にバージョンアップして、再度案件を投入してください。

## KDWM3235-E

---

WFmanager : 回収ノードに同報元の案件が到着していません。ビジネスプロセス定義名 : xxx ノード名 : xxx

### 要因

回収ノードに同報元の案件が到着していません。

ビジネスプロセス定義名

エラーが発生したビジネスプロセス定義名が表示されます。

ノード名

エラーが発生したノード名が表示されます。

### 対処

ビジネスプロセス定義を保存し、システム管理者に連絡してください。

## KDWM3236-E

---

WFmanager : ワークヒストリの取得数がシステムの制限値を超えました。

### 要因

ワークヒストリの取得数がシステムの制限値を超えたため、案件をエラートレーに移動しました。

### 対処

無限ループしていないかどうか、ビジネスプロセス定義を見直してください。

## KDWM3237-E

---

WFmanager : 案件の送付先の指定に誤りがあります。ビジネスプロセス定義名 : xxx ノード名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx

### 要因

案件の送付先を決定するときにエラーが発生しました。

ビジネスプロセス定義名

エラーが発生したビジネスプロセス定義名が表示されます。

ノード名

エラーが発生したノード名が表示されます。

理由コード

理由コードが表示されます。

詳細コード

保守情報が表示されます。

#### 対処

次に示す表の理由コードを参照してエラーの要因を取り除き、対処方法に従って対処してください。

理由コード	意味	対処
****0002 ****0003 ****0004	ユーザ状態不正	Groupmax Address のデータベースとワークフローデータベースの間でユーザ情報の不整合が発生しているおそれがあります。この状態は、ユーザ情報の変更後、WFregusr コマンドを実行していないか、ユーザ情報の変更が完了していない場合に起こります。WFregusr コマンドを実行した後か、しばらく後に、Groupmax Workflow Monitor でエラートレーの案件をビジネスプロセスに復帰してください。
****0005	ユーザ不在	送付先ノードがワークフローユーザノードの場合、送付先ユーザの指定をしていないか、指定した後そのユーザが削除された可能性があります。また、作業者の自動指定を使用して上長ユーザに配布する場合は、送付元ユーザの上長の定義に誤りがあるか、又は上長が定義されていないことも考えられます。送付先ユーザの指定が確実に行われるようにビジネスプロセスの定義、又は送付元ユーザの上長の定義を見直した後、案件を再投入してください。エラーとなった案件を引き続き遷移させるためには、Groupmax Workflow Monitor でエラートレーの案件の送付先属性の値を訂正した後、ビジネスプロセスに復帰してください。ただし、ノード名に示されるノードの種別がソースノードの場合、投入者に戻され保持していた案件を、投入者の削除によって配布し直すときに、配布先ユーザを特定できなかったことが考えられます。この場合、その案件を復帰して遷移させることはできませんので、案件を再投入してください。
****0007	ロール不在	送付先が階層化ロールノードの場合、送付先ロールを指定した後に、そのロールが該当する階層化ロールから削除されたおそれがあります。配布したい送付先のロールを階層化ロールに追加した後、案件を再投入してください。
****0008	環境不正	送付先が業務ロール又は組織ロールの場合、ビジネスプロセスの配布先サーバにロールの登録サーバが含まれていないおそれがあります。ロールの登録サーバがビジネスプロセスの配布先サーバに含まれるように変更した後、案件を再投入してください。
上記以外	保守情報	システム管理者に連絡してください。

(凡例)

「\*\*\*\*」: 任意の文字列

## KDWM3238-W

WFmanager : 階層化ロール指定の処理ノードでは、ユーザトレイへの再配布ができないため、ロールトレイへ配布しました。ロール名: xxx

#### 要因

階層化ロール指定の処理ノードに再配布が指定されていますが、案件をロールト

レーへ配布しました。

ロール名

配布したロール名が表示されます。

対処

ロールトレーに配布された案件をユーザトレーに取り出して処理してください。

## KDWM3239-E

---

WFmanager : 階層化ロールの配布先ロールを決定できません。ビジネスプロセス定義名 : xxx ノード名 : xxx ロール名 : xxx

要因

階層化ロール指定の処理ノードで配布先ロール決定時、次のどれかの理由で案件をエラートレーに送付します。

- ケース属性に設定されている自動配布キー値が、自動配布キーに定義されていません。
- 一つの自動配布キー値に対して、複数のロールが定義されています。
- 階層化ロール内に配布先ロールが定義されていません。
- ケース属性に自動配布キー値が設定されていません。分岐条件によって、ケース属性を設定する作業機ノードを通過していない、条件配布失敗時、作業機ノードをスキップする指定になっているなどの原因が考えられます。
- ケース属性に設定されていた自動配布キー値が、別の作業機ノードで変更されています。一つのケース属性を複数の階層化ロールに対して使用している場合に、ケース属性の設定と階層化ロール指定の処理ノードへの送付の定義順序が誤っている、ケース属性を変更した後に案件を差し戻したなどの原因が考えられます。
- ノード名に示されるノードの種別がソースノードの場合、投入者に戻され保持していた案件を、投入者の削除によって配布し直すときに、配布先ロールを特定できなかったことが考えられます（この場合、エラー案件を復帰して遷移させることはできません）。

ビジネスプロセス定義名

エラーが発生したビジネスプロセス定義名が表示されます。

ノード名

エラーが発生したノード名が表示されます。

ロール名

エラーとなった階層化ロール名が表示されます。

対処

1. ビジネスプロセス定義を修正するか、ロール名に表示された階層化ロールの自動配布キー定義又は配布先ロール定義を修正して、エラーの要因を取り除いてください。定義に問題がなく、ケース属性の設定値に誤りがある場合は、Groupmax Workflow Monitor を使用して、配布可能な階層化ロール下のロールに該当する

- 配布キー値をケース属性に設定してください。
2. ビジネスプロセス定義を修正した場合は、エラーとなったワークをキャンセル又は削除し、案件を再度投入してください。ビジネスプロセス定義を修正しないでほかの定義又はケース属性値を修正した場合は、Groupmax Workflow Monitor で、エラートレーの案件をビジネスプロセスに復帰してください。
  3. エラーが発生したノードの種別がソースノードの場合、エラーとなったワークをキャンセル又は削除し、案件を再度投入してください。

## KDWM3240-E

---

WFmanager : 指定された配布先ユーザに作業権限がないため配布できません。ビジネスプロセス定義名 : xxx ノード名 : xxx ワーク ID : xxx ユーザ ID : xxx 付加情報 : xxx

### 要因

作業者指定ノードの配布先として指定されたユーザには、そのノードで作業する権限がない（役職不一致又は組織関連無し）ため、その案件をエラートレーに移動しました。

#### ビジネスプロセス定義名

解析中のビジネスプロセス定義名が表示されます。

#### ノード名

エラーが発生したノード名が表示されます。

#### ワーク ID

エラーが発生したワークの識別子が表示されます。

#### ユーザ ID

作業権限の無かったユーザの識別子が表示されます。

#### 付加情報

保守情報が表示されます。

### 対処

Groupmax Workflow Monitor 若しくは Groupmax Workflow - Library Extension を使用したユーザプログラムで配布先ユーザを変更するか、又は指定されている配布先ユーザに対して作業権限を与えた後、エラートレーの案件をビジネスプロセスに復帰させてください。

## KDWM3241-E

---

WFmanager : ドメイン間連携機能は使用できません。

### 要因

ビジネスプロセス定義の直列連携ノード又は階層連携ノードでドメイン間連携を定

義していますが、環境設定が未設定のため、ドメイン間連携機能は使用できませんでした。

対処

環境設定で、「ドメイン間連携機能指定」に「use」を設定した後、サーバ機能及びマネージャ機能を再度起動してください。その後、Groupmax Workflow Monitor でエラートレーの案件をビジネスプロセスに復帰してください。

## KDWM3242-E

---

WFmanager：統合元ケースにオリジナルケースが指定されているため、案件をエラートレーに移動します。ビジネスプロセス定義名：xxx ノード名：xxx ワーク ID：xxx

要因

階層連携先のビジネスプロセス中の統合ノードで、連携元から投入されたオリジナルケースが削除されるように定義されています。

ビジネスプロセス定義名

エラーが発生したビジネスプロセス定義名が表示されます。

ノード名

エラーが発生したノード名が表示されます。

ワーク ID

エラーが発生したワークの識別子が表示されます。

対処

オリジナルケースがシンクするように、統合ノードのケース統合の定義を見直してください。

## KDWM3350-E

---

WFmanager：プログラムエラーが発生しました。ビジネスプロセス定義名：xxx ノード名：xxx 理由コード：xxx 関数名：xxx

要因

ビジネスプロセス定義解析中にプログラムエラーが発生したため、マネージャ機能を異常終了します。

ビジネスプロセス定義名

解析中のビジネスプロセス定義名が表示されます。

ノード名

エラーが発生したノード名が表示されます。

理由コード

保守情報が表示されます。

関数名

保守情報が表示されます。

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM3351-E

---

WFmanager : メモリ不足が発生しました。

要因

メモリが確保できませんでした。

対処

不要なプロセスを終了させるか、又はスワップ領域を増分してから、再度実行してください。

## KDWM4000-I

---

WFdelwork : 一時ワーク削除処理を開始します。

## KDWM4001-I

---

WFdelwork : 一時ワーク削除処理を終了します。削除成功ワーク数 :

xxx 削除失敗ワーク数 : xxx

## KDWM4010-I

---

WFutgctl : ビジネスプロセス情報の配布処理を開始します。処理種別 :

xxx ビジネスプロセス定義名 : xxx バージョン : xxx マスタ更新日時 :

xxx

処理種別

"dist" : 新規配布

"del" : 削除

"repl" : 更新

"dire": 新規配布, 及び更新

## KDWM4011-I

---

WFutgctl : ビジネスプロセス情報の配布処理を終了します。ビジネスプロセス定義名: xxx バージョン: xxx 配布成功サーバ数: xxx 配布失敗サーバ数: xxx

## KDWM4012-I

---

WFutgctl : ロール情報の配布処理を開始します。処理種別: xxx ロール名: xxx マスタ更新日時: xxx

処理種別

"dist": 新規配布

"del": 削除

"repl": 更新

"dire": 新規配布, 及び更新

## KDWM4013-I

---

WFutgctl : ロール情報の配布処理を終了します。ロール名: xxx 配布成功サーバ数: xxx 配布失敗サーバ数: xxx

## KDWM4014-I

---

WFutgctl : アプリケーションの配布処理を開始します。処理種別: xxx ビジネスプロセス定義名: xxx マスタ更新日時: xxx

処理種別

"dist": 新規配布

"del": 削除

"repl": 更新

"dire": 新規配布及び更新

## KDWM4015-I

---

WFutgctl : アプリケーションの配布処理を終了します。ビジネスプロセス定義名 : xxx 配布成功サーバ数 : xxx 配布失敗サーバ数 : xxx

## KDWM4021-I

---

WFdefrl : ロール定義更新ユーティリティを開始します。

## KDWM4022-I

---

WFdefrl : ロール定義更新ユーティリティを終了しました。更新成功レコード数 : xxx 更新失敗レコード数 : xxx

## KDWM4023-I

---

WFdefrl : 使用法 : WFdefrl -f ロール定義情報入力ファイル名 [-v] [-l ロール定義更新ログ取得ファイル名] [-e エラーメッセージ出力ファイル名]

## KDWM4024-I

---

WFexprl : ロール定義情報出力ユーティリティを開始します。

## KDWM4025-I

---

WFexprl : ロール定義情報出力ユーティリティを終了しました。

## KDWM4026-I

---

WFexprl : 使用法 : WFexprl -f ロール定義情報出力ファイル名 [-t 出力対象ロール種別コード]

## KDWM4027-I

---

WFdefrl : xxx , "xxx" を作成します。

## KDWM4028-I

---

WFdefrl : xxx , "xxx" を削除します。

## KDWM4029-I

---

WFdefrl : xxx , "xxx" のロール定義者に "xxx" を追加します。

## KDWM4030-I

---

WFdefrl : xxx , "xxx" のロール定義者から "xxx" を削除します。

## KDWM4031-I

---

WFdefrl : xxx , "xxx" のロール配布管理者に "xxx" を追加します。

## KDWM4032-I

---

WFdefrl : xxx , "xxx" のロール配布管理者から "xxx" を削除します。

## KDWM4033-I

---

WFdefrl : xxx , "xxx" のロール配布先サーバに "xxx" を追加します。

## KDWM4034-I

---

WFdefrl : xxx , "xxx" のロール配布先サーバから "xxx" を削除します。

## KDWM4035-I

---

WFdefrl : xxx , "xxx" にユーザ "xxx" を追加します。

## KDWM4036-I

---

WFdefrl : xxx , "xxx" からユーザ "xxx" を削除します。

## KDWM4037-I

---

WFdefrl : xxx , "xxx" にロール "xxx" を追加します。

## KDWM4038-I

---

WFdefrl : xxx , "xxx" からロール "xxx" を削除します。

## KDWM4039-I

---

WFdefrl : xxx , "xxx" に自動配布キー "xxx" を追加します。

## KDWM4040-I

---

WFdefrl : xxx , "xxx" から自動配布キー "xxx" を削除します。

## KDWM4041-I

---

WFdefrl : xxx , "xxx" の自動配布キー "xxx" に , ユーザ "xxx" の自動配布キー値 "xxx" を追加します。

## KDWM4042-I

---

WFdefrl : xxx , "xxx" の自動配布キー "xxx" から , ユーザ "xxx" の自動配布キー値 "xxx" を削除します。

## KDWM4043-I

---

WFdefrl : xxx , "xxx" の自動配布キー "xxx" に , ロール "xxx" の自動配布キー値 "xxx" を追加します。

## KDWM4044-I

---

WFdefrl : xxx , "xxx" の自動配布キー "xxx" から , ロール "xxx" の自動配布キー値 "xxx" を削除します。

## KDWM4045-I

---

WFdefrl : xxx , "xxx" のロール登録サーバに "xxx" を設定します。

## KDWM4046-I

---

WFdefrl : xxx , "xxx" の組織 ID を "xxx" に変更します。

## KDWM4051-I

---

WFinsdst : 配布指示ユティリティを開始します。

## KDWM4052-I

---

WFinsdst : 配布指示ユティリティを終了します。

## KDWM4061-I

---

WFstrBK : バックアップ開始処理を開始しました。

要因

バックアップ開始コマンドを開始しました。

対処

必要ありません。

## KDWM4062-I

---

WFstrBK : バックアップ開始処理が正常に終了しました。

要因

バックアップ開始コマンドが正常に終了しました。

対処

必要ありません。

## KDWM4063-I

---

WFstpBK : バックアップ終了処理を開始しました。

要因

バックアップ終了コマンドを開始しました。

対処

必要ありません。

## KDWM4064-I

---

WFstpBK : バックアップ終了処理が正常に終了しました。

要因

バックアップ終了コマンドが正常に終了しました。

対処

必要ありません。

## KDWM4065-I

---

WFmodBK : バックアップ状態取得処理を開始しました。

要因

バックアップ状態取得コマンドを開始しました。

対処

必要ありません。

## KDWM4066-I

---

WFmodBK : バックアップ状態取得処理が正常に終了しました。

要因

バックアップ状態取得コマンドが正常に終了しました。

対処

必要ありません。

## KDWM4067-I

---

WFmodBK : 通常モードです。

要因

現在, 通常モードです。稼働中バックアップ取得状態ではありません。

対処

必要ありません。

## KDWM4068-I

---

WFmodBK : 稼働中バックアップ取得モードです。

要因

現在, 稼働中バックアップ取得モードです。

対処

必要ありません。

## KDWM4105-W

---

WFutgctl : ビジネスプロセス情報の配布処理に失敗しました。ビジネスプロセス定義名 : xxx バージョン : xxx 配布先サーバ : xxx 関数名 : xxx  
理由コード : xxx

要因

ビジネスプロセス情報の配布処理でエラーが発生しました。

ビジネスプロセス定義名

配布しようとしたビジネスプロセス情報の名称が表示されます。

バージョン

配布しようとしたビジネスプロセス情報のバージョンが表示されます。

配布先サーバ

配布先のサーバ名称が表示されます。

関数名

エラーが発生した関数名が表示されます。

理由コード

保守情報が表示されます。

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM4106-W

---

WFutgctl : ロール情報の配布処理に失敗しました。ロール名 : xxx 配布先サーバ : xxx 関数名 : xxx 理由コード : xxx

### 要因

ロール情報の配布処理でエラーが発生しました。

#### ロール名

配布しようとしたロールの名称が表示されます。

#### 配布先サーバ

配布先のサーバ名称が表示されます。

#### 関数名

エラーが発生した関数名が表示されます。

#### 理由コード

保守情報が表示されます。

### 対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM4107-W

---

WFutgctl : アプリケーションの配布処理に失敗しました。ビジネスプロセス定義名 : xxx 配布先サーバ : xxx 関数名 : xxx 理由コード : xxx

### 要因

アプリケーションの配布処理でエラーが発生しました。

#### ビジネスプロセス定義名

配布しようとしたアプリケーションが属するビジネスプロセス情報の名称が表示されます。

#### 配布先サーバ

配布先のサーバ名称が表示されます。

#### 関数名

エラーが発生した関数名が表示されます。

#### 理由コード

保守情報が表示されます。

### 対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM4200-E

---

Can not open message catalog.

要因

メッセージカタログのオープンに失敗しました。

対処

環境変数 NLSPATH の指定が正しいか確認してください。又は、Groupmax Workflow Server を再度組み込んでください。

## KDWM4201-E

---

Can't get message text.

要因

メッセージテキストの取得に失敗しました。

対処

環境変数 NLSPATH の指定が正しいか確認してください。又は、Groupmax Workflow Server を再度組み込んでください。

## KDWM4207-E

---

Cannot get service name. reason code=xxxx

要因

システムログメッセージに表示するためのサービス名の取得に失敗しました。

reason code

保守情報が表示されます。

対処

次の要因が考えられます。要因を取り除いて再実行してください。

- "WF\_PATH" 環境変数の指定が誤っている。
- WFsetup コマンドが未実行状態又は実行失敗状態である。
- /etc/services のサービス名が WFsetup コマンドの実行後、変更されている。

## KDWM4210-E

---

WFdelwork : 終了ワーク情報ファイルの入出力エラーが発生しました。  
ファイル名 : xxx 関数名 : xxx 理由コード : xxx

### 要因

終了ワーク情報ファイルの入出力処理でエラーが発生しました。処理を終了します。

#### ファイル名

エラーが発生したファイル名が表示されます。

#### 関数名

エラーが発生した処理名が表示されます。

#### 理由コード

要求した処理の errno の値が表示されます。

### 対処

関数名及び理由コードを参照して障害の要因を取り除いてください。必要に応じてシステム管理者に連絡してください。

## KDWM4211-E

---

WFdelwork : 終了ワーク情報ファイルのレコードフォーマットが不正です。  
ファイル名 : xxx レコード番号 : xxx

### 要因

終了ワーク情報ファイルのレコードフォーマットが不正です。処理を終了します。

#### ファイル名

エラーが発生したファイル名が表示されます。

#### レコード番号

エラーが発生したレコード番号が表示されます。

### 対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM4212-E

---

WFdelwork : 終了ワーク情報ファイル格納ディレクトリのオープンに失敗しました。

### 要因

環境設定ファイルに設定されたワーク削除ファイルディレクトリ、又はそのディレクトリ下の終了ワーク情報ファイル格納ディレクトリが存在しません。

## 対処

環境設定ファイル(ワーク削除ファイルディレクトリ)を見直してください。

## KDWM4221-E

---

aaaa : ワークフローデータベースのバージョンが不正です。

## 要因

サーバ機能のバージョンアップ後、データベース移行コマンドが実行されていません。コマンドの実行を中止します。

## 対処

データベース移行コマンドを実行した後、再度実行してください。

## KDWM4222-E

---

aaaa : 指定可能文字列以外の文字列が指定されました。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

## 要因

指定できる文字列以外の文字列が指定されたため、処理できません。当該レコードの処理をスキップします。

## 入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

## 発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

## 発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

## 対処

下記に従って修正後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

- 処理コード指定値  
処理コードには N, R, A, D, # のどれかを指定してください。
- 処理コードに「N」を指定した場合の更新対象コード指定値  
BPROLE, ORGROLE, CMPROLE, LAYROLE のどれかを指定してください。
- 処理コードに「A」「D」を指定した場合の更新対象コード指定値  
DEFUSR, DISTUSR, DISTSVR, UMEMBER, RMEMBER, AUTOKEY, UKEYVAL, RKEYVAL, SETSVR のどれかを指定してください。
- 新規に作成するロール名又は自動配布キー名  
1 バイトコード文字の場合  
英文字 (A ~ Z, a ~ z), 仮名文字 (ア ~ ン, ア ~ オ, ヤ, ユ, ヨ, ツ, ー, ン, )

° ) , アンダーバー ( \_ ) , 数字 ( 0 ~ 9 ) のどれかを指定してください。

注 ここでは、仮名文字は全角で表記しています。

2 バイトコード文字の場合

" , ^ 及び空白以外の表示できる文字を指定してください。

- 新規に設定する自動配布キー値

1 バイトコード文字の場合

" , ^ , タブコード及び改行コード以外の表示できる文字を指定してください。

2 バイトコード文字の場合

" 及び ^ 以外の表示できる文字を指定してください。

## KDWM4223-E

---

aaaa : 指定する情報数が不足しています。入力ファイル名 : xxx 発生  
行 : xxx 発生列 : xxx

### 要因

指定する情報数が不足しているため、処理できません。  
当該レコードの処理をスキップします。

入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

### 対処

下記に従って修正後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

新規ロールの作成

N, 業務ロール名 ,BPROLE

N, 組織ロール名 ,ORGRLE, 組織 ID

N, 最上位組織ロール名 ,CMPROLE, 最上位組織 ID

N, 階層化ロール名 ,LAYROLE

ロールの削除

R, ロール名

ロール情報の追加

A, ロール名 ,DEFUSR, 更新値 1

A, ロール名 ,DISTUSR, 更新値 1

A, ロール名 ,DISTSVR, 更新値 1

A, ロール名 ,UMEMBER, 更新値 1

A, ロール名 ,RMEMBER, 更新値 1

A, ロール名 ,AUTOKEY, 更新値 1  
 A, ロール名 ,UKEYVAL, 更新値 1, 更新値 2, 更新値 3  
 A, ロール名 ,RKEYVAL, 更新値 1, 更新値 2, 更新値 3  
 A, ロール名 ,SETSVR, 更新値 1

#### ロール情報の削除

D, ロール名 ,DEFUSR, 更新値 1  
 D, ロール名 ,DISTUSR, 更新値 1  
 D, ロール名 ,DISTSVR, 更新値 1  
 D, ロール名 ,UMEMBER, 更新値 1  
 D, ロール名 ,RMEMBER, 更新値 1  
 D, ロール名 ,AUTOKEY, 更新値 1  
 D, ロール名 ,UKEYVAL, 更新値 1, 更新値 2, 更新値 3  
 D, ロール名 ,RKEYVAL, 更新値 1, 更新値 2, 更新値 3

## KDWM4224-E

---

aaaa : 指定された文字列長が長すぎます。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

#### 要因

指定された文字列長が長過ぎるため、処理できません。当該レコードの処理をスキップします。

#### 入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

#### 発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

#### 発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

#### 対処

下記に従って修正後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

- 新規に作成するロール名  
1 バイトから 63 バイトまでの文字列で指定してください。
- 新規に作成する自動配布キー名  
1 バイトから 63 バイトまでの文字列で指定してください。
- 新規に設定する自動配布キー値  
1 バイトから 31 バイトまでの文字列で指定してください。

## KDWM4225-E

---

aaaa : 指定されたロールが存在しません。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

### 要因

以下に示す要因のため、処理できません。当該レコードの処理をスキップします。

- 指定したロールがない。
- 指定したロールはあるが、02-10以降のバージョンの Groupmax Workflow Definer 又はロール定義更新コマンドで登録したロールでない。
- 指定したロールは 02-10以降のバージョンの Groupmax Workflow Definer 又はロール定義更新コマンドで登録したロールであるが、当該ロールの配布予約状態が「削除予約」である。

### 入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

### 発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

### 発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

### 対処

下記に従って修正後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

- 指定したロール名を正しい名称に変更する。
- 指定したロールをワークフローデータベースに登録する。
- 02-10以降のバージョンの Groupmax Workflow Definer 又はロール定義更新コマンドで登録したロールを指定する。
- 配布予約状態が「削除予約」でないロールを指定する。

## KDWM4226-E

---

aaaa : 指定されたロールのロール種別と更新対象コードの組み合わせが不正です。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx

### 要因

指定されたロールの種別と更新対象コードの組み合わせが不正なため、処理できません。当該レコードの処理をスキップします。

### 入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

### 発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

## 対処

下記に従って修正後，エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

- 更新対象コードに「UMEMBER」を指定した場合  
更新対象ロールには業務ロールを指定してください。
- 更新対象コードに「RMEMBER」を指定した場合  
更新対象ロールには階層化ロールを指定してください。
- 更新対象コードに「AUTOKEY」を指定した場合  
更新対象ロールには業務ロール又は階層化ロールを指定してください。
- 更新対象コードに「UKEYVAL」を指定した場合  
更新対象ロールには業務ロールを指定してください。
- 更新対象コードに「RKEYVAL」を指定した場合  
更新対象ロールには階層化ロールを指定してください。

## KDWM4227-E

---

aaaa : 階層化ロールに対してロールの追加 / 削除操作を行う場合，当該ロールに階層化ロールは指定できません。入力ファイル名：xxx 発生行：xxx 発生列：xxx

## 要因

階層化ロールに対して自動配布キーを追加又は削除する場合，当該ロールに階層化ロールは指定できないため，処理できません。当該レコードの処理をスキップします。

## 入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

## 発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

## 発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

## 対処

階層化ロールに対してロールを追加又は削除する場合，当該ロールには業務ロール又は組織ロールを指定してください。

修正後，エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM4228-E

---

aaaa : 階層化ロールに登録されているロールに対して自動配布キー値の追加 / 削除操作を行う場合、当該ロールに階層化ロールは指定できません。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

### 要因

階層化ロールに登録されているロールに対して自動配布キー値を追加又は削除する場合、当該ロールに階層化ロールは指定できないため、処理できません。当該レコードの処理をスキップします。

### 入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

### 発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

### 発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

### 対処

階層化ロールに登録されているロールに対して自動配布キー値を追加又は削除する場合、当該ロールには業務ロール又は組織ロールを指定してください。修正後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM4230-E

---

aaaa : 指定されたユーザはワークフロー運用管理者以上の権限を持っていないため、ロール配布管理者に設定できません。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

### 要因

指定されたユーザはワークフロー運用管理者以上のユーザ権限を持っていないため、処理できません。当該レコードの処理をスキップします。

### 入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

### 発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

### 発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

### 対処

指定したユーザにドメイン管理者又はワークフロー運用管理者の権限を設定してください。

修正後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM4231-E

---

aaaa : 指定されたユーザはビジネスプロセス管理者以上の権限を持っていないため、ロール定義者に設定できません。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

### 要因

指定されたユーザはビジネスプロセス管理者以上のユーザ権限を持っていないため、処理できません。当該レコードの処理をスキップします。

### 入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

### 発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

### 発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

### 対処

指定したユーザにドメイン管理者、ワークフロー運用管理者又はビジネスプロセス管理者の権限を設定してください。

修正後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM4232-E

---

aaaa : 最上位組織 ID 「GMAXSYS」及び最上位組織 ID 「GMAXSYS」の下位組織は指定できません。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

### 要因

最上位組織 ID 「GMAXSYS」及び最上位組織 ID 「GMAXSYS」の下位組織を組織ロールとして定義できないため、処理できません。当該レコードの処理をスキップします。

### 入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

### 発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

### 発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

### 対処

最上位組織 ID「GMAXSYS」及び最上位組織 ID「GMAXSYS」の下位組織以外の組織を指定してください。

修正後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM4233-E

---

aaaa : ロール配布先サーバ名及びロール登録サーバ名には、Workflow システム組織直下に登録されているユーザ ID を指定してください。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

### 要因

ロール配布先サーバ名及びロール登録サーバ名に Workflow システム組織直下に登録されていないユーザ ID が指定されたため、処理できません。当該レコードの処理をスキップします。

入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

### 対処

ロール配布先サーバ名及びロール登録サーバ名には、Workflow システム組織直下に登録されているユーザ ID を指定してください。

修正後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM4234-E

---

aaaa : 指定された自動配布キーがロールに設定されていません。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

### 要因

指定された自動配布キーがロールに設定されていないため、処理できません。当該レコードの処理をスキップします。

入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

## 対処

設定済みの自動配布キー名を指定してください。

修正後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM4235-E

---

aaaa : 指定されたユーザが業務ロールに登録されていないため、自動配布キー値の追加 / 削除処理が実行できません。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

## 要因

指定されたユーザが業務ロールに登録されていないため、自動配布キー値を追加又は削除できません。当該レコードの処理をスキップします。

入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

## 対処

登録済みのユーザを指定してください。

修正後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM4236-E

---

aaaa : 指定されたロールが階層化ロールに登録されていないため、自動配布キー値の追加 / 削除処理が実行できません。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

## 要因

指定されたロールが階層化ロールに登録されていないため、自動配布キー値を追加又は削除できません。当該レコードの処理をスキップします。

入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

## 対処

登録済みの業務ロール又は組織ロールを指定してください。  
修正後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM4237-E

---

aaaa : 指定されたロールがビジネスプロセス定義で使用されている。または、指定されたロールが階層化ロールに登録されており、当該階層化ロールがビジネスプロセス定義で使用されているため、削除できません。  
入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

### 要因

指定されたロールがビジネスプロセス定義で使用されているか、又は指定されたロールが階層化ロールに登録されており、当該階層化ロールがビジネスプロセス定義で使用されているため、削除できません。当該レコードの処理をスキップします。

入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

### 対処

指定したロールを使用しているビジネスプロセス定義を削除してください。または、指定したロールに登録されている階層化ロールを使用しているビジネスプロセス定義を削除してください。

対象となるビジネスプロセス定義は、Groupmax Workflow Monitor を使用して特定してください。

その後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM4238-E

---

aaaa : 指定されたロール配布先サーバはロール登録サーバのため削除できません。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

### 要因

指定されたロール配布先サーバはロール登録サーバのため削除できません。当該レコードの処理をスキップします。

入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

**発生列**

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

**対処**

ありません。指定されたロール配布先サーバは削除できません。

## KDWM4239-E

---

aaaa : 階層化ロールに自動配布キーは1つしか定義できません。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

**要因**

階層化ロールに自動配布キーは一つしか定義できないため、処理できません。当該レコードの処理をスキップします。

**入力ファイル名**

指定された入力ファイル名が表示されます。

**発生行**

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

**発生列**

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

**対処**

ありません。階層化ロールに自動配布キーは一つしか定義できません。

## KDWM4240-E

---

aaaa : 指定された自動配布キーはビジネスプロセス定義で使用されているため削除できません。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

**要因**

指定された自動配布キーはビジネスプロセス定義で使用されているため、処理できません。当該レコードの処理をスキップします。

**入力ファイル名**

指定された入力ファイル名が表示されます。

**発生行**

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

**発生列**

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

**対処**

指定した自動配布キーを使用しているビジネスプロセス定義を削除してください。

対象となるビジネスプロセス定義は、Groupmax Workflow Monitor を使用して特定してください。

その後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM4241-E

---

aaaa : 指定されたロールは既に配布済みであるため、ロール登録サーバは変更できません。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

### 要因

指定されたロールは配布済みであるため、ロール登録サーバは変更できません。当該レコードの処理をスキップします。

### 入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

### 発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

### 発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

### 対処

ありません。指定されたロールは配布済みであるため、ロール登録サーバは変更できません。

## KDWM4242-E

---

aaaa : 指定された出力対象ロール種別コードが不正です。出力対象ロール種別コード : xxx

### 要因

指定された出力対象ロール種別コードが不正なため、処理できません。コマンドの実行を中止します。

### 出力対象ロール種別コード

指定された出力対象ロール種別コードが表示されます。

### 対処

指定できる出力対象ロール種別コードは、BP、ORG、LAY のどれかです。

出力対象ロール種別コードを見直して、再度実行してください。

## KDWM4243-E

---

aaaa : 指定されたユーザはワークフロー運用管理者以上の権限を持っていないため、ビジネスプロセス配布管理者に設定できません。入力ファイル名: xxx 発生行: xxx 発生列: xxx

### 要因

指定されたユーザはワークフロー運用管理者以上のユーザ権限を持っていないため、処理できません。当該レコードの処理をスキップします。

#### 入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

#### 発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

#### 発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

### 対処

指定したユーザにドメイン管理者又はワークフロー運用管理者の権限を設定してください。

修正後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM4244-E

---

aaaa : 指定されたユーザはビジネスプロセス管理者以上の権限を持っていないため、ビジネスプロセス管理者に設定できません。入力ファイル名: xxx 発生行: xxx 発生列: xxx

### 要因

指定されたユーザはビジネスプロセス管理者以上のユーザ権限を持っていないため、処理できません。当該レコードの処理をスキップします。

#### 入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

#### 発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

#### 発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

### 対処

指定したユーザにドメイン管理者、ワークフロー運用管理者又はビジネスプロセス管理者の権限を設定してください。

修正後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM4245-E

---

aaaa : 文字列が指定されていません。入力ファイル名 : xxx 発生行 :  
xxx 発生列 : xxx

### 要因

文字列が指定されていないため、処理できません。当該レコードの処理をスキップします。

### 入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

### 発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

### 発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

### 対処

文字列を指定してください。修正後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM4246-E

---

aaaa : 指定された自動配布キーに、指定されたユーザと自動配布キー値の組み合わせが存在しません。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

### 要因

指定された自動配布キーに、指定されたユーザと自動配布キー値の組み合わせがないため、処理できません。当該レコードの処理をスキップします。

### 入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

### 発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

### 発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

### 対処

自動配布キーに既にあるユーザと自動配布キー値の組み合わせを指定してください。修正後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM4247-E

---

aaaa : 指定された自動配布キーに、指定されたロールと自動配布キー値の組み合わせが存在しません。入力ファイル名: xxx 発生行: xxx 発生列: xxx

### 要因

指定された自動配布キーに、指定されたロールと自動配布キー値の組み合わせがないため、処理できません。当該レコードの処理をスキップします。

入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

### 対処

自動配布キーに既にあるロールと自動配布キー値の組み合わせを指定してください。修正後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM4248-E

---

aaaa : 階層化ロールがビジネスプロセス定義で使用されているため、指定されたロールを階層化ロールから削除できません。入力ファイル名: xxx 発生行: xxx 発生列: xxx

### 要因

階層化ロールがビジネスプロセス定義で使用されているため、指定されたロールを階層化ロールから削除できません。当該レコードの処理をスキップします。

入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

### 対処

指定した階層化ロールを使用しているビジネスプロセス定義を削除してください。対象となるビジネスプロセス定義は、Groupmax Workflow Monitor を使用して特定してください。その後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM4249-E

---

aaaa : 指定されたロール名称と同じ名称のロールが既に存在するため、作成できません。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

### 要因

指定されたロール名称と同じ名称のロールが既にあるため、作成できません。  
当該レコードの処理をスキップします。

### 入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

### 発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

### 発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

### 対処

ロール名称を変更後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM4250-E

---

aaaa : 指定された自動配布キーは既に設定されています。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

### 要因

指定された自動配布キーは既に設定されているため、処理できません。  
当該レコードの処理をスキップします。

### 入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

### 発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

### 発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

### 対処

自動配布キーの名称を変更後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM4251-E

---

aaaa : 指定されたロールはシングルサーバ環境で運用していたため、Workflow 管理サーバ名以外をロール登録サーバ名に設定することはできません。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

### 要因

指定されたロールはシングルサーバ環境で運用していたため、Workflow 管理サーバ名以外をロール登録サーバ名に設定することはできません。当該レコードの処理をスキップします。

### 入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

### 発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

### 発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

### 対処

ロール登録サーバ名には、Workflow 管理サーバ名を指定してください。修正後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM4252-E

---

aaaa : ビジネスプロセス管理者は 200 人までしか設定できません。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

### 要因

ビジネスプロセス管理者は 200 人までしか設定できないため、処理できません。当該レコードの処理をスキップします。

### 入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

### 発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

### 発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

### 対処

ありません。ビジネスプロセス管理者は 200 人までしか設定できません。

## KDWM4253-E

---

aaaa : ビジネスプロセス配布管理者は 200 人までしか設定できません。  
入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

### 要因

ビジネスプロセス配布管理者は 200 人までしか設定できないため、処理できません。  
当該レコードの処理をスキップします。

### 入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

### 発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

### 発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

### 対処

ありません。ビジネスプロセス配布管理者は 200 人までしか設定できません。

## KDWM4254-E

---

aaaa : ロール定義者は 200 人までしか設定できません。入力ファイル  
名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

### 要因

ロール定義者は 200 人までしか設定できないため、処理できません。当該レコード  
の処理をスキップします。

### 入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

### 発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

### 発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

### 対処

ありません。ロール定義者は 200 人までしか設定できません。

## KDWM4255-E

---

aaaa : ロール配布管理者は 200 人までしか設定できません。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

### 要因

ロール配布管理者は 200 人までしか設定できないため、処理できません。当該レコードの処理をスキップします。

### 入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

### 発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

### 発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

### 対処

ありません。ロール配布管理者は 200 人までしか設定できません。

## KDWM4256-E

---

aaaa : ワークフローデータベースの変更が完了していません。

### 要因

サーバ構成環境変更コマンドによるワークフローデータベースの変更が完了していません。コマンドの実行を中止します。

### 対処

サーバ構成環境変更コマンドを実行した後、再度実行してください。

## KDWM4257-E

---

aaaa : ワークフローデータベースが初期化されていません。保守情報 : xxx

### 要因

ワークフローデータベースが初期化されていません。

### 保守情報

保守情報が表示されます。

### 対処

ワークフローデータベースの環境を見直してください。

## KDWM4261-E

---

WFstrBK : バックアップ開始処理が異常終了しました。

### 要因

バックアップ開始コマンドが異常終了したため、稼働中バックアップ取得モードに変更できませんでした。

### 対処

1. -m オプションを指定している場合は、-m オプションで指定したファイルを参照して対処してください。-m オプションを指定していない場合は、直前に出力されているターミナルのメッセージを参照して対処してください。
2. 対処した後、コマンドを再度実行してください。

## KDWM4262-E

---

WFstpBK : バックアップ終了処理が異常終了しました。

### 要因

バックアップ終了コマンドが異常終了したため、通常モードに変更できませんでした。

### 対処

1. -m オプションを指定している場合は、-m オプションで指定したファイルを参照して対処してください。-m オプションを指定していない場合は、直前に出力されているターミナルのメッセージを参照して対処してください。
2. 対処した後、コマンドを再度実行してください。

## KDWM4263-E

---

WFmodBK : バックアップ状態取得処理が異常終了しました。

### 要因

バックアップ状態取得コマンドが異常終了したため、モードを取得できませんでした。

### 対処

1. -m オプションを指定している場合は、-m オプションで指定したファイルを参照して対処してください。-m オプションを指定していない場合は、直前に出力されているターミナルのメッセージを参照して対処してください。
2. 対処した後、コマンドを再度実行してください。

## KDWM4264-E

---

WFstrBK : 既に稼働中バックアップ取得モードです。

### 要因

既に稼働中バックアップ取得モードであるのに、稼働中バックアップ開始コマンドが実行されました。

### 対処

稼働中バックアップ取得モードの場合は、稼働中バックアップ開始コマンドを実行しないでください。

## KDWM4265-E

---

aaaa : ワークフローサーバ機能が起動していません。

### 要因

ワークフローサーバ機能が起動していない状態で、次のコマンドのどちらかが実行されました。

- 稼働中バックアップ開始コマンド
- 稼働中バックアップ状態取得コマンド

### 対処

ワークフローサーバ機能を起動した後、コマンドを実行してください。

## KDWM4266-E

---

aaaa : 指定されたファイルのパス長が有効範囲外のため、処理できません。コマンドの実行を中止します。ファイル名 : xxx

### 要因

オプションに指定されたファイルのパス長が 255 バイトを超えているため、処理できません。

### ファイル名

指定されたファイル名が表示されます。

### 対処

オプションに指定するファイルのパス長は 255 バイト以内にしてください。

## KDWM4301-E

---

WFindsst : ロール情報の配布指示に失敗しました。ロール名 : xxx 要因 : xxx

### 要因

ロールの配布指示中にエラーが発生しました。

### ロール名

配布指示に失敗したロールの名称が表示されます。

### 要因

要因を表わす文字列が表示されます。

### 対処

要因の内容と対処について次の表に示します。

要因	説明	対処
already accepted	既に配布指示要求を受け付けています。	しばらく待ってから配布されたことを確認してください。
no dist info	配布情報がありません。	Groupmax Workflow Definer 配布管理を使って、配布指示対象の配布サーバを設定してください。
no register server	登録サーバが指定されていません。	Groupmax Workflow Definer 配布管理を使って、配布指示対象の登録サーバを設定してください。
register server (xxx) is stopped	登録サーバ (xxx) が起動していません。	登録サーバ (xxx) の Workflow Server サーバ機能を起動してから再実行してください。
no register server (xxx) info	登録サーバ (xxx) が配布先サーバとして設定されていません。	Groupmax Workflow Definer 配布管理を使って、配布指示対象の配布サーバに登録サーバ (xxx) を含めてください。
その他	保守情報	システム管理者に連絡してください。

## KDWM4302-E

---

WFindsst : ビジネスプロセス情報の配布指示に失敗しました。ビジネスプロセス定義名 : xxx バージョン : xxx 要因 : xxx

### 要因

ビジネスプロセス定義の配布指示中にエラーが発生しました。

### ビジネスプロセス定義名

配布指示に失敗したビジネスプロセス定義の名称が表示されます。

### バージョン

配布指示に失敗したビジネスプロセス定義のバージョン番号が表示されます。

### 要因

要因を表わす文字列が表示されます。

## 対処

要因の内容と対処について次の表に示します。

要因	説明	対処
already accepted	既に配布指示要求を受け付けています。	しばらく待ってから配布されたことを確認してください。
no dist info	配布情報がありません。	Groupmax Workflow Definer 配布管理を使って、配布指示対象の配布サーバを設定してください。
no register server	登録サーバが指定されていません。	Groupmax Workflow Definer 配布管理を使って、配布指示対象の登録サーバを設定してください。
work exist	削除要求されたビジネスプロセスにワークがあります。	ワークを削除してから再実行してください。
register server (xxx) is stopped	登録サーバ (xxx) が起動していません。	登録サーバ (xxx) の Workflow Server サーバ機能を起動してから再実行してください。
no register server (xxx) info	登録サーバ (xxx) が配布サーバとして設定されていません。	Groupmax Workflow Definer 配布管理を使って、配布指示対象の配布サーバに登録サーバ (xxx) を含めてください。
その他	保守情報	システム管理者に連絡してください。

## KDWM4303-E

WFinsdst : アプリケーション情報の配布指示に失敗しました。ビジネスプロセス定義名 : xxx 要因 : xxx

## 要因

ビジネスプロセスに設定されたアプリケーションの配布指示中にエラーが発生しました。

## ビジネスプロセス定義名

配布指示に失敗したアプリケーションが設定されているビジネスプロセス定義の名称が表示されます。

## 要因

要因を表わす文字列が表示されます。

## 対処

要因の内容と対処について次の表に示します。

要因	説明	対処
already accepted	既に配布指示要求を受け付けています。	しばらく待ってから配布されたことを確認してください。
no dist info	配布情報がありません。	Groupmax Workflow Definer 配布管理を使って、配布指示対象の配布サーバを設定してください。

要因	説明	対処
no register server	登録サーバが指定されていません。	Groupmax Workflow Definer 配布管理を使って、配布指示対象の登録サーバを設定してください。
register server (xxx) is stopped	登録サーバ (xxx) が起動していません。	登録サーバ (xxx) の Workflow Server サーバ機能を起動してから再実行してください。
no register server (xxx) info	登録サーバ (xxx) が配布サーバとして設定されていません。	Groupmax Workflow Definer 配布管理を使って、配布指示対象の配布サーバに登録サーバ (xxx) を含めてください。
その他	保守情報	システム管理者に連絡してください。

## KDWM4304-E

aaaa : Workflow 管理サーバで実行してください。

### 要因

Workflow 管理サーバ以外で実行されました。

### 対処

Workflow 管理サーバで実行してください。

## KDWM4305-E

WFindsdt : シングルサーバ構成のため配布指示できません。

### 要因

シングルサーバ構成の環境で実行されました。

### 対処

ありません。シングルサーバ構成の環境では配布指示を実行する必要はありません。

## KDWM4306-E

WFindsdt : 配布管理機能でエラーが発生しました。

### 要因

配布管理機能の配布処理でエラーが発生しました。

### 対処

配布管理機能が出力したメッセージの対処に従ってください。

## KDWM4307-E

---

aaaa : ユーザ操作により処理が中断されました。保守情報 : xxx

### 要因

ユーザ操作によって処理が中断されました。コマンドの実行を中止します。

### 保守情報

保守情報が表示されます。

### 対処

マネージャ機能環境初期化コマンドを使用中にこのエラーが発生した場合は、環境削除コマンドを実行してください。マネージャ機能環境の初期化が必要であれば、再度実行してください。

それ以外の操作中にこのエラーが発生した場合は、必要であれば、再度実行してください。

## KDWM6001-I

---

WFregusr : ユーザ定義ユティリティを開始します。

## KDWM6002-I

---

WFregusr : ユーザ定義ユティリティを終了します。

## KDWM6003-I

---

WFregusr : 案件がユーザトレに存在したため、配布条件に従って案件を同一ロール内のユーザに再配布しました。削除ユーザ ID : xxx 自動配布した案件数 : xxx

## KDWM6004-I

---

WFregusr : ビジネスプロセス管理者に配布されたエラー案件を , 別のビジネスプロセス管理者 , 又はユーザ ID が「system」のユーザに配布しました。削除ユーザ ID : xxx 配布したエラー案件数 : xxx

## KDWM6005-I

---

WFregusr : 相談された案件がユーザトレイに存在したため , 相談したユーザに自動的に回答しました。削除ユーザ ID : xxx 回答した案件数 : xxx

## KDWM6006-I

---

WFregusr : ビジネスプロセスのビジネスプロセス管理者をユーザ ID 「system」に変更しました。削除ユーザ ID : xxx ビジネスプロセス名 : xxx ビジネスプロセス定義バージョン : xxx

## KDWM6007-I

---

WFdestlg : ワークフローログ出力ユーティリティを開始します。

## KDWM6008-I

---

WFdestlg : ワークフローログ出力ユーティリティを終了します。

## KDWM6009-I

---

WFdestlg : 使用法 : WFdestlg [-y] [-d directory\_name] [-b bp\_name [-v version]][-w work\_id]] [-s {sink | active}] [-r]

## KDWM6010-I

---

WFdestlg : ワークフローログを出力しました。ファイル名 : xxx

## KDWM6011-I

---

WFregusr : アドレスサーバとのユーザの整合性チェックを終了します。  
追加ユーザ数 : xxx 更新ユーザ数 : xxx 削除ユーザ数 : xxx 移動ユーザ  
数 : xxx

## KDWM6012-I

---

WFregusr : 自動的に回答しようとした案件の相談元ユーザが自サーバに  
存在しないため、案件を他サーバに転送しました。転送した案件数 : xxx

## KDWM6013-I

---

WFregusr : ユーザ指定の処理ノードに配布されていた案件をエラー  
レーに移動しました。削除ユーザ ID : xxx 移動した案件数 : xxx

## KDWM6014-I

---

WFregusr : 使用法 : WFregusr [-v] [ { -k | -s [-k] | -c | -f user\_info\_file } ]  
[-y]

## KDWM6015-I

---

WFregusr : 最上位組織 ID(xxx) 下の Address 登録情報との整合性チェックを開始します。

## KDWM6016-I

---

WFregusr : 組織 ID(xxx) 下の Address 登録情報との整合性チェックを開始します。

## KDWM6017-I

---

WFregusr : ユーザ (xxx) の Address 登録情報との整合性チェックを開始します。

## KDWM6018-I

---

WFregusr : ユーザ (xxx) のホームサーバが一致していません。

## KDWM6019-I

---

WFregusr : ユーザ (xxx) の日本語名が一致していません。

## KDWM6020-I

---

WFregusr : ユーザ (xxx) のユーザトレをこのサーバに作成します。

## KDWM6021-I

---

WFregusr : ユーザ (xxx) のユーザトレをサーバ (xxx) に移動します。

## KDWM6022-I

---

WFregusr : ユーザ (xxx) の日本語名を "xxx" に変更します。

## KDWM6023-I

---

WFregusr : ユーザ (xxx) のユーザトレを削除します。

## KDWM6031-I

---

WFcsinfo : 案件情報出力ユティリティを開始します。

## KDWM6032-I

---

WFcsinfo : 案件情報出力ユティリティを終了します。

## KDWM6033-I

---

WFcsinfo : 使用法 : WFcsinfo [[ -o { USER | ROLE | OTHER } ]...][ -p { NORMAL | EXTENSION | BOTH } ][ -r { CASE | TRAY } ][ -v ][ -s { CHECK | NOCHECK } ]

## KDWM6041-I

---

WFregusr : アドレスサーバからの更新反映要求を受け付けました。

### 要因

Groupmax Address-Assist がインストールされていて、ユーザ登録の連携設定が Address と Workflow の両方で行われている場合に Address で登録情報の更新を行うと、自動的に Workflow ユーザ登録コマンドを起動して、更新情報を Workflow データベースに反映します。

### 対処

更新情報の自動反映を行いたくない場合は、Workflow 環境設定ファイルの「addr\_update\_auto\_reflect」の値を "no" に設定してください。

## KDWM6051-I

---

WFdefusr : ユーザ定義更新ユティリティを開始します。

## KDWM6052-I

---

WFdefusr : ユーザ定義更新ユティリティを終了しました。更新成功レコード数 : xxx 更新失敗レコード数 : xxx スキップレコード数 : xxx

## KDWM6053-I

---

WFdefusr : 使用法 : WFdefusr -f ユーザ定義情報入力ファイル名 [-v] [-l ユーザ定義更新ログ取得ファイル名] [-e エラーメッセージ出力ファイル名]

## KDWM6054-I

---

WFdefusr : xxx , ユーザ "xxx" の案件受付状態を "xxx" に変更します。

## KDWM6055-I

---

WFdefusr : xxx , ユーザ "xxx" のユーザヒストリ最大数を "xxx" に変更します。

## KDWM6056-I

---

WFdefusr : xxx , ユーザ "xxx" のコメントを "xxx" に変更します。

## KDWM6057-I

---

WFdefusr : xxx , ユーザ "xxx" のユーザ属性 1 を "xxx" に変更します。

## KDWM6058-I

---

WFdefusr : xxx , ユーザ "xxx" のユーザ属性 2 を "xxx" に変更します。

## KDWM6059-I

---

WFdefusr : xxx , ユーザ "xxx" のユーザ権限を "xxx" に変更します。

## KDWM6060-I

---

WFdefusr : xxx , ユーザ "xxx" の組織 "xxx" へのアクセス権を追加します。

## KDWM6061-I

---

WFdefusr : xxx , ユーザ "xxx" の最上位組織 "xxx" へのアクセス権を追加します。

## KDWM6062-I

---

WFdefusr : xxx , ユーザ "xxx" のユーザ権限を削除します。

## KDWM6063-I

---

WFdefusr : xxx , ユーザ "xxx" の組織 "xxx" へのアクセス権を削除します。

## KDWM6064-I

---

WFdefusr : xxx , ユーザ "xxx" の最上位組織 "xxx" へのアクセス権を削除します。

## KDWM6065-I

---

WFdefusr : xxx , ユーザ "xxx" を業務ルール "xxx" に登録します。

## KDWM6066-I

---

WFdefusr : xxx , ユーザ "xxx" を業務ルール "xxx" から削除します。

## KDWM6067-I

---

WFdefusr : xxx , ユーザ "xxx" の代行者に "xxx" を登録します。

## KDWM6068-I

---

WFdefusr : xxx , ユーザ "xxx" の代行者から "xxx" を削除します。

## KDWM6069-I

---

WFdefusr : xxx , ユーザ "xxx" の代行配布者に "xxx" ( 対象ビジネスプロセス定義 : xxx ) を登録します。

## KDWM6070-I

---

WFdefusr : xxx , ユーザ "xxx" の代行配布者から "xxx" ( 対象ビジネスプロセス定義 : xxx ) を削除します。

## KDWM6071-I

---

WFexpusr : ユーザ定義情報出力ユーティリティを開始します。

## KDWM6072-I

---

WFexpusr : ユーザ定義情報出力ユーティリティを終了しました。

## KDWM6073-I

---

WFexpusr : 使用法 : WFexpusr -f ユーザ定義情報出力ファイル名 [-c 最上位組織 ID | -o 組織 ID] [[-a 出力情報種別コード]...]

## KDWM6074-I

---

WFdefusr : xxx , ユーザ "xxx" の自動配布キー値 "xxx" を業務ロール "xxx" の自動配布キー "xxx" に追加します。

## KDWM6075-I

---

WFdefusr : xxx , ユーザ "xxx" をビジネスプロセス定義 "xxx" バージョン : "xxx" のビジネスプロセス管理者に追加します。

## KDWM6076-I

---

WFdefusr : xxx , ユーザ "xxx" をロール "xxx" のロール定義者に追加します。

## KDWM6077-I

---

WFdefusr : xxx , ユーザ "xxx" をビジネスプロセス定義 "xxx" バージョン : "xxx" のビジネスプロセス配布管理者に追加します。

## KDWM6078-I

---

WFdefusr : xxx , ユーザ "xxx" をロール "xxx" のロール配布管理者に追加します。

## KDWM6079-I

---

WFdefusr : xxx , ユーザ "xxx" の自動配布キー値 "xxx" を業務ロール "xxx" の自動配布キー "xxx" から削除します。

## KDWM6080-I

---

WFdefusr : xxx , ユーザ "xxx" をビジネスプロセス定義 "xxx" バージョン : "xxx" のビジネスプロセス管理者から削除します。

## KDWM6081-I

---

WFdefusr : xxx , ユーザ "xxx" をロール "xxx" のロール定義者から削除します。

## KDWM6082-I

---

WFdefusr : xxx , ユーザ "xxx" をビジネスプロセス定義 "xxx" バージョン : "xxx" のビジネスプロセス配布管理者から削除します。

## KDWM6083-I

---

WFdefusr : xxx , ユーザ "xxx" をロール "xxx" のロール配布管理者から削除します。

## KDWM6084-I

---

aaaa : 案件をエラートレイに移動します。要因 : xxx ビジネスプロセス定義名 : xxx ビジネスプロセス定義バージョン : xxx ワーク ID : xxx ユーザ ID : xxx サーバ名 : xxx

### 要因

案件を他のユーザトレイに振り替えることができなかったため、その案件をエラートレイへ移動します。

### 要因

エラートレイへの移動の要因を示すメッセージ ID が表示されます。

### ビジネスプロセス定義名

エラートレイに送付する案件のビジネスプロセス定義名が表示されます。

### ビジネスプロセス定義バージョン

エラートレイに送付する案件のビジネスプロセス定義のバージョンが表示されます。

### ワーク ID

エラートレイに送付する案件のワーク ID が表示されます。

### ユーザ ID

エラートレイのユーザ ID が表示されます。

### サーバ名

保守情報が表示されます。

### 対処

このメッセージの後に出力される要因で示されたメッセージに従ってください。

## KDWM6088-I

---

WFchgsst : サーバ構成環境変更ユーティリティを開始します。

## KDWM6089-I

---

WFchgsst : サーバ構成環境変更ユーティリティを終了します。

## KDWM6090-I

---

WFchgsst : 使用法 : WFchgsst -c { single | multi }

## KDWM6091-I

---

WFchgrsv : ロール登録サーバ変更ユーティリティを開始します。

## KDWM6092-I

---

WFchgrsv : ロール登録サーバ変更ユーティリティを終了します。

## KDWM6093-I

---

WFchgrsv : 使用法 : WFchgrsv -b before\_server\_id -s after\_server\_id [ -r role\_name ]

## KDWM6094-I

---

WFchgsst : シングルサーバ構成環境に変更します。

## KDWM6095-I

---

WFchgsst : マルチサーバ構成環境に変更します。

## KDWM6096-I

---

WFchgsst : サーバ構成環境変更ユーティリティを中止します。

### 要因

サーバ構成環境変更中にエラーが発生したため、処理を中止します。

### 対処

前に出力されているエラーメッセージから要因を取り除き、再度実行してください。サーバ構成環境変更が正常に終了していないと、サーバ機能や他のコマンドを実行することができません。サーバ構成環境変更が正常に終了していない状態で、Groupmax Workflow Server のバージョンアップは行わないでください。

## KDWM6097-I

---

WFchgrsv : ロールの登録サーバを "xxx" から "xxx" に変更します。対象  
ロール数 : xxx

## KDWM6100-W

---

WFregusr : ユーザ xxx は存在しています。

### 要因

追加を要求されたユーザ xxx は既にワークフローデータベースに定義されています。  
この要求を無視します。

### 対処

指定したユーザ ID が誤っている場合は、修正して再度登録してください。

## KDWM6101-W

---

WFregusr : ユーザ削除によりユーザ未登録のロールが発生しました。削除ユーザ ID : aaa ロール名 : bbb

### 要因

削除を指定されたユーザ aaa をワークフローデータベースから削除した結果、ロール bbb にユーザが一人も所属していない状態になりました。

### 対処

必要であれば、Groupmax Workflow Definer を使用してロールにユーザを追加してください。ロール bbb が不要であればロール定義を削除してください。

## KDWM6102-W

---

WFregusr : ユーザ ID が「system」のユーザはシステム管理ユーザのため操作できません。

### 要因

ユーザ ID が「system」のユーザは、一般ユーザ又はビジネスプロセス管理者として登録できません。また、そのユーザ情報を変更・削除できません。この要求を無視します。

### 対処

必要ありません。

## KDWM6103-W

---

WFdestlg : 指定されたビジネスプロセス定義にワークが存在しません。

### 要因

指定されたビジネスプロセス定義にワークがありません。

### 対処

指定したビジネスプロセス定義名及びバージョンを確認し、必要であれば修正して再度実行してください。

## KDWM6104-W

---

WFdestlg : 指定されたビジネスプロセス定義は存在しません。

### 要因

指定されたビジネスプロセス定義がサーバ内にありません。

対処

ビジネスプロセス定義名、バージョン、及びビジネスプロセス登録サーバを確認し、指定を修正するか、又は正しいビジネスプロセス登録サーバで再度実行してください。

## KDWM6105-W

---

WFdestlg : 指定された条件のワークは存在しません。

要因

指定された条件を満たすワークがサーバ内にありません。コマンドの実行を打ち切ります。

対処

ワーク ID、ビジネスプロセス定義の指定内容及びビジネスプロセス登録サーバを確認し、指定を修正するか、又は正しいビジネスプロセス登録サーバで再度実行してください。

## KDWM6106-W

---

WFdestlg : xxx 件のレコードでユーザ情報の取得に失敗しました。

要因

出力したワークフローログレコードの中に、ユーザ情報の取得に失敗したレコードがあります。

対処

ユーザが Groupmax Address Server から削除されているおそれがあります。ユーザを削除していない場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWM6107-W

---

WFdestlg : xxx 件のレコードでノード情報の取得に失敗しました。

要因

出力したワークフローログレコードの中に、ノード情報の取得に失敗したレコードがあります。

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM6108-W

---

WFdestlg : xxx 件のレコードで履歴情報の取得に失敗しました。

**要因**

出力したワークフローログレコードの中に、履歴情報の取得に失敗したレコードがあります。

**対処**

システム管理者に連絡してください。

## KDWM6109-W

---

WFregusr : 自動的に回答しようとした案件の相談元ユーザが存在しないため、案件をエラートレイに移動しました。移動した案件数 : xxx

**要因**

相談された案件がユーザトレイにあったため、相談したユーザに自動的に回答しようとしたのですが、相談元ユーザが居ません。案件をエラートレイに移動します。

**移動した案件数**

エラートレイに移動した案件数が表示されます。

**対処**

Groupmax Workflow Monitor で、エラー種別「KDWM6109」が設定されている案件を見付け、案件をビジネスプロセスに復帰してください。

## KDWM6110-W

---

WFregusr : ビジネスプロセス管理者がいなくなりました。ビジネスプロセス定義名 : xxx ビジネスプロセス定義バージョン : xxx

**要因**

ユーザをワークフローデータベースから削除した結果、ビジネスプロセス定義に一人もビジネスプロセス管理者がいない状態になりました。

**ビジネスプロセス定義名**

ビジネスプロセス定義名が表示されます。

**ビジネスプロセス定義バージョン**

ビジネスプロセス定義のバージョンが表示されます。

**対処**

ビジネスプロセス定義にビジネスプロセス管理者を追加してください。

## KDWM6200-E

---

WFregusr : オブジェクトサーバとの接続に失敗しました。関数名 : xxx  
理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

### 要因

Groupmax Object Server との接続に失敗しました。コマンドの実行を打ち切ります。

### 関数名

保守情報が表示されます。

### 理由コード

障害の発生元が表示されます。

30000 ~ 39999 : Groupmax Object Server

### 詳細コード

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

### サブコード

詳細コードのサブコードが表示されます。

### 対処

障害の発生要因を取り除いて、再度実行してください。

## KDWM6201-E

---

WFregusr : オブジェクトサーバからの切り離しに失敗しました。関数名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

### 要因

Groupmax Object Server との切り離しに失敗しました。コマンドの実行を打ち切ります。

### 関数名

保守情報が表示されます。

### 理由コード

障害の発生元が表示されます。

30000 ~ 39999 : Groupmax Object Server

### 詳細コード

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

### サブコード

詳細コードのサブコードが表示されます。

### 対処

障害の発生要因を取り除いて、再度実行してください。

## KDWM6202-E

---

WFregusr : オブジェクトサーバでエラーが発生しました。関数名 : xxx  
理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

### 要因

Groupmax Object Server でエラーが発生しました。コマンドの実行を打ち切ります。

### 関数名

保守情報が表示されます。

### 理由コード

障害の発生元が表示されます。

30000 ~ 39999 : Groupmax Object Server

### 詳細コード

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

### サブコード

詳細コードのサブコードが表示されます。

### 対処

障害の発生要因を取り除いて、再度実行してください。

## KDWM6203-E

---

WFregusr : オブジェクトサーバのトランザクション開始時にエラーが発生しました。関数名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

### 要因

Groupmax Object Server のトランザクションの開始に失敗しました。コマンドの実行を打ち切ります。

### 関数名

保守情報が表示されます。

### 理由コード

障害の発生元が表示されます。

30000 ~ 39999 : Groupmax Object Server

### 詳細コード

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

サブコード

詳細コードのサブコードが表示されます。

対処

障害の発生要因を取り除いて、再度実行してください。

## KDWM6204-E

---

WFregusr : オブジェクトサーバのトランザクション終了時にエラーが発生しました。関数名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

要因

Groupmax Object Server のトランザクションの終了に失敗しました。コマンドの実行を打ち切ります。

関数名

保守情報が表示されます。

理由コード

障害の発生元が表示されます。

30000 ~ 39999 : Groupmax Object Server

詳細コード

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

サブコード

詳細コードのサブコードが表示されます。

対処

障害の発生要因を取り除いて、再度実行してください。

## KDWM6205-E

---

WFregusr : ユーザ xxx は存在しません。

要因

指定されたユーザ xxx がワークフローデータベースに定義されていないため、ユーザ情報の変更ができません。ユーザ ID を間違えているか、又はこのユーザ ID の追加要求が以前にエラーになっているおそれがあります。この要求を無視します。

対処

要因を取り除いて再度登録してください。

## KDWM6206-E

---

WFregusr : メモリ不足が発生しました。

### 要因

ユーザ登録処理に必要なメモリが確保できませんでした。コマンドの実行を打ち切ります。

### 対処

不要なプロセスを終了させるかスワップ領域を増分させた後、再度コマンドを実行してください。

## KDWM6207-E

---

WFregusr : ユーザ aaa は削除できません。理由コード : bbb

### 要因

削除を指定されたユーザ aaa は理由コード bbb に示す理由により削除できません。この要求を無視します。

理由コード	意味	対処
1	ユーザ aaa がログイン中。	ログアウト後、再度実行してください。
2	ユーザ aaa が作業机に直接作業員として割り当てられている。	該当するビジネスプロセス定義を削除した後、再度実行してください。
その他	-	システム管理者に連絡してください。

### (凡例)

- : 該当しません。

### 対処

要因を取り除いた後、再度実行してください。

## KDWM6208-E

---

WFregusr : オペレーティングシステムとのインタフェースでエラーが発生しました。関数名 : xxx 理由コード : xxx

### 要因

オペレーティングシステムとのインタフェースでエラーが発生しました。コマンドの実行を打ち切ります。

### 関数名

保守情報が表示されます。

理由コード

保守情報が表示されます。

対処

関数名が「gethostbyname」で、理由コードが「1」の場合は、次のどれかの要因であるため、エラー要因を取り除き、再度実行してください。

- hosts ファイルに Workflow 管理サーバのホスト名が定義されていない。
- hosts ファイルにユーザ移動先サーバのホスト名が定義されていない。
- hosts ファイルに自ホストのホスト名が定義されていない。

それ以外の場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWM6209-E

---

WFregusr : 入力ファイルのレコードフォーマットが不正です。ファイル名 : xxx レコード番号 : xxx 項目番号 : xxx

要因

上位プログラムから受け取るレコードにフォーマットエラーが発生しました。コマンドの実行を打ち切ります

ファイル名

保守情報が表示されます。

レコード番号

保守情報が表示されます。

項目番号

保守情報が表示されます。

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM6210-E

---

WFregusr : ユーザ定義の変更に失敗しました。ユーザ ID : aaa 理由コード : bbb

要因

ユーザ aaa のユーザ情報変更処理が理由コード bbb に示す理由によって失敗しました。この要求を無視します。

理由コード	意味	対処
1	ユーザ aaa がログイン中。	ログアウト後、再度実行してください。
その他	-	システム管理者に連絡してください。

(凡例)

- : 該当しません。

対処

要因を取り除いた後、再度登録してください。

## KDWM6211-E

---

WFregusr : system ユーザが存在しません。

要因

ユーザ ID が「system」のユーザが削除されています。コマンドの実行を打ち切ります。

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM6212-E

---

WFregusr : ワークフローデータベースのバージョンが不正です。

要因

サーバ機能のバージョンアップ後、データベース移行コマンドが実行されていません。コマンドの実行を打ち切ります。

対処

データベース移行コマンドを実行した後、再度実行してください。

## KDWM6213-E

---

WFregusr : ワークフローデータベースが初期化されていません。

要因

ワークフローデータベースが初期化されていません。コマンドの実行を打ち切ります。

対処

ワークフローデータベースを初期化した後、再度実行してください。

## KDWM6214-E

WFregusr : ユーザ定義ユティリティの開始に失敗しました。要因 : xxx  
理由コード : xxx 関数名 : xxx

### 要因

ユーザ定義コマンドの開始に失敗しました。

### 要因

要因が表示されます。

### 理由コード

保守情報が表示されます。

### 関数名

保守情報が表示されます。

### 対処

次の表に要因に対応する対処を示します。

要因	意味	対処
"No directory"	Groupmax Workflow Server 又は Groupmax Address Server のインストール環境が不正です。	Groupmax Workflow Server 及び Groupmax Address Server の再インストール後、再度実行してください。
"Cannot get Address Server install path"		
"No memory"	コマンドの起動に必要なメモリを確保できませんでした。	不要なプロセスを終了させるか、スワップ領域を増分した後、再度実行してください。
"Initialize error"	-	システム管理者に連絡してください。

### (凡例)

- : 該当しません。

## KDWM6215-E

WFdestlg : 指定されたビジネスプロセス定義又はワークのワークフローログは、このユティリティでは出力できません。

### 要因

以下のどちらかの要因のため、ワークフローログは出力できません。

1. 指定されたビジネスプロセス定義は、02-10 より前のバージョンの Groupmax Workflow Definer で定義されている。
2. 指定された出力対象ワークは、マルチサーバ案件遷移高速オプションを指定したビジネスプロセス定義の未終了ワークである。

## 対処

1. ありません。該当するビジネスプロセス定義の履歴情報を、ワークフローログ出力コマンドで出力する必要がある場合は、Groupmax Workflow Definer でビジネスプロセス定義のバージョンアップをしてください。
2. 該当するワークが終了してから、ワークフローログを出力してください。

## KDWM6216-E

---

WFdestlg : ワークフローログ出力先ディレクトリが指定されていません。

## 要因

デフォルトのワークフローログ出力ディレクトリが設定されていないのに、ワークフローログ出力ディレクトリが省略されています。コマンドの実行を打ち切ります。

## 対処

環境設定時にデフォルトのワークフローログ出力ディレクトリを指定するか、ワークフローログ出力コマンドで、ワークフローログ出力先ディレクトリを指定して、再度実行してください。

## KDWM6217-E

---

WFdestlg : ワークフローログ出力先ディレクトリが存在しません。

## 要因

ワークフローログの出力先として指定されたディレクトリがありません。コマンドの実行を打ち切ります。

## 対処

ディレクトリを作成するか、ワークフローログ出力ディレクトリの指定を変更した後、再度実行してください。

## KDWM6218-E

---

WFdestlg : ワークフローログ出力先ディレクトリに書き込み権限がありません。

## 要因

ワークフローログ出力ディレクトリに対する書き込み権限がありません。コマンドの実行を打ち切ります。

## 対処

ディレクトリに書き込み権限を設定し、再度実行してください。

## KDWM6219-E

---

WFdestlg : ワークフローログ出力ファイルに書き込み権限がありません。

**要因**

既にあるワークフローログ出力ファイルに書き込み権限がありません。

**対処**

ワークフローログ出力ファイルに書き込み権限を設定し、再度実行してください。

## KDWM6220-E

---

WFdestlg : 出力ファイルパス長が上限を超えています。

**要因**

ワークフローログファイル出力パス長が上限を超えています。コマンドの実行を打ち切ります。

**対処**

ワークフローログファイル出力先ディレクトリのパス名と出力ファイル名の長さの合計が、1,023 バイトを超えないように指定して、再度実行してください。

## KDWM6221-E

---

aaaa : オブジェクトサーバとの接続に失敗しました。関数名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

**要因**

Groupmax Object Server との接続に失敗しました。コマンドの実行を打ち切ります。

**関数名**

保守情報が表示されます。

**理由コード**

保守情報が表示されます。

**詳細コード**

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

**サブコード**

保守情報が表示されます。

**対処**

マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照し

て詳細コードで示す発生要因を取り除き、再度実行してください。

## KDWM6222-E

---

aaaa : オブジェクトサーバからの切り離しに失敗しました。関数名 :  
xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

### 要因

Groupmax Object Server との切り離しに失敗しました。コマンドの実行を打ち切ります。

#### 関数名

保守情報が表示されます。

#### 理由コード

保守情報が表示されます。

#### 詳細コード

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

#### サブコード

保守情報が表示されます。

### 対処

マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照して詳細コードで示す発生要因を取り除き、再度実行してください。

## KDWM6223-E

---

aaaa : オブジェクトサーバでエラーが発生しました。関数名 : xxx 理由  
コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

### 要因

Groupmax Object Server でエラーが発生しました。コマンドの実行を打ち切ります。

#### 関数名

保守情報が表示されます。

#### 理由コード

保守情報が表示されます。

#### 詳細コード

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

#### サブコード

保守情報が表示されます。

対処

マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照して詳細コードで示す発生要因を取り除き，再度実行してください。

## KDWM6224-E

---

aaaa : オブジェクトサーバのトランザクション開始時にエラーが発生しました。関数名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

要因

Groupmax Object Server のトランザクション開始に失敗しました。コマンドの実行を打ち切ります。

関数名

保守情報が表示されます。

理由コード

保守情報が表示されます。

詳細コード

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

サブコード

保守情報が表示されます。

対処

マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照して詳細コードで示す発生要因を取り除き，再度実行してください。

## KDWM6225-E

---

aaaa : オブジェクトサーバのトランザクション終了時にエラーが発生しました。関数名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

要因

Groupmax Object Server のトランザクション終了に失敗しました。コマンドの実行を打ち切ります。

関数名

保守情報が表示されます。

理由コード

保守情報が表示されます。

詳細コード

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

サブコード

保守情報が表示されます。

対処

マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照して詳細コードで示す発生要因を取り除き、再度実行してください。

## KDWM6226-E

---

WFregusr : アドレスサーバへのアクセスでエラーが発生しました。関数名 : xxx 理由コード : xxx

要因

Groupmax Address Server へのアクセスでエラーが発生しました。

関数名

保守情報が表示されます。

理由コード

保守情報が表示されます。

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM6227-E

---

WFdestlg : ワークフローログの出力に失敗しました。理由コード : xxx  
詳細コード : xxx

要因

ワークフローログの出力に失敗しました。コマンドの実行を打ち切ります。

理由コード

理由コードが表示されます。

詳細コード

errno 値が表示されます。

対処

理由コードが 8 の場合は、入出力エラーです。障害の原因を取り除いて、再度実行してください。その他の理由コードの場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWM6228-E

---

aaaa : ワークフローログ出力状態コードの書き込みに失敗しました。関数名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

### 要因

ワークフローログ出力済み状態コードの書き込みに失敗しました。コマンドの実行を打ち切ります。

### 関数名

保守情報が表示されます。

### 理由コード

障害の発生元が表示されます。

30000 ~ 39999 : Groupmax Object Server

### 詳細コード

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

### サブコード

詳細コードのサブコードが表示されます。

### 対処

マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照して詳細コードで示す原因を取り除き、再度コマンドを実行してください。

## KDWM6229-E

---

WFregusr : プログラムエラーが発生しました。関数名 : xxx 理由コード : xxx

### 要因

プログラムエラーが発生しました。

### 関数名

保守情報が表示されます。

### 理由コード

保守情報が表示されます。

### 対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM6230-E

---

WFregusr : マルチサーバ機能で使用するメールユーザが登録されていません。Workflow ホスト名 : xxx ユーザ ID : xxx

### 要因

変更先の Workflow サーバを登録ホストとするメールユーザが登録されていないため、ユーザトレイ情報及びユーザトレイ上の案件を、マルチサーバ機能で転送できません。

Workflow ホスト名

ユーザの変更先 Workflow サーバ名が表示されます。

ユーザ ID

処理対象のユーザ ID が表示されます。

### 対処

環境設定時に設定した「Workflow システム組織 ID」を見直してください。

「Workflow システム組織 ID」の指定が正しい場合、変更先サーバを登録ホストとするメールユーザを登録してください。

## KDWM6231-E

---

aaaa : アドレスサーバへのアクセスでエラーが発生しました。関数名 : xxx 理由コード : xxx

### 要因

Groupmax Address Server でエラーが発生しました。

関数名

保守情報が表示されます。

理由コード

保守情報が表示されます。

### 対処

Groupmax Address Server の稼働状況を確認し、障害の発生要因を取り除いて、再度実行してください。

## KDWM6232-E

---

WFregusr : マルチサーバ機能で使用するメールユーザが登録されていません。Workflow ホスト名 : xxx ユーザ ID : xxx

### 要因

自サーバを登録ホストとするメールユーザが登録されていないため、ユーザトレイ情報及びユーザトレイ上の案件を、マルチサーバ機能で転送できません。

Workflow ホスト名

自サーバ名が表示されます。

ユーザ ID

処理対象のユーザ ID が表示されます。

### 対処

環境設定時に設定した「Workflow システム組織 ID」を見直してください。

「Workflow システム組織 ID」の指定が正しい場合は、自サーバを登録ホストとするメールユーザを登録してください。

## KDWM6233-E

---

aaaa : 環境設定ファイルのオープンに失敗しました。理由コード : xxx

### 要因

環境設定ファイルのオープンに失敗しました。

理由コード

保守情報が表示されます。

### 対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM6234-E

---

aaaa : 環境設定ファイルの読み込みに失敗しました。理由コード : xxx

### 要因

環境設定ファイルの読み込みに失敗しました。

理由コード

保守情報が表示されます。

### 対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM6235-E

---

aaaa : オプションの指定値に誤りがあります。オプション名 : xxx

### 要因

環境設定ファイルで指定したオプションの指定値に誤りがあります。

### オプション名

誤りのあるオプション名が表示されます。

### 対処

オプションの指定値を見直して、再度コマンドを実行してください。

## KDWM6236-E

---

aaaa : オプションの指定値が長すぎます。

### 要因

環境設定ファイルで指定したオプションの指定値が長過ぎます。

### 対処

オプションの指定値を見直して、再度コマンドを実行してください。

## KDWM6237-E

---

WFregusr : ユーザ ID 一覧ファイルが存在しません。

### 要因

ユーザ ID 一覧ファイルとして指定されたファイルがありません。

### 対処

ユーザ ID 一覧ファイル名を見直して、再度コマンドを実行してください。

## KDWM6238-E

---

WFregusr : ロックエラーが発生しました。ユーザ ID : xxx ファイル名 :  
xxx 場所 : xxx

### 要因

オブジェクトのロックでエラーが発生したため、このユーザの処理を中断します。  
変更情報処理中の場合は、ユーザ定義コマンドを終了します。Groupmax Address  
Server との同期処理中 (-s、又は -f オプション使用時) は、処理を続行します。

ユーザ ID

ロックエラーとなったユーザ ID が表示されます。

ファイル名

保守情報が表示されます。

場所

保守情報が表示されます。

対処

再度、ユーザ定義コマンドを実行してください。繰り返しエラーが発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWM6241-E

---

WFchgrsv : 指定されたロール "xxx" が存在しません。

要因

指定されたロール "xxx" がワークフローデータベースに登録されていないか、02-10以降のバージョンの Groupmax Workflow Definer、又はロール定義更新コマンドで登録したロールでないため、処理できません。

対処

正しいロール名を指定して、再度実行してください。

## KDWM6301-E

---

aaaa : 同時実行できないユティリティが既に起動されています。

要因

同時実行できないコマンドが既に起動されているため、コマンドが実行できません。

対処

ユーザ定義コマンド (WFregusr)、ユーザ定義情報出力コマンド (WFexpusr)、ユーザ定義更新コマンド (WFdefusr)、ロール定義情報出力コマンド (WFexprl)、ロール定義更新コマンド (WFdefrl) のどれかが現在実行中です。実行中のコマンドが終了後、再度実行してください。

## KDWM6302-E

---

aaaa : 指定されたファイルは存在しません。ファイル名 : xxx

要因

指定されたファイルがないため、処理できません。コマンドの実行を中止します。

ファイル名

指定されたファイル名が表示されます。

対処

既にあるファイルを指定し、再度実行してください。

## KDWM6303-E

---

aaaa : 指定されたファイルは既に存在します。ファイル名 : xxx

要因

指定されたファイルが既にあるため、処理できません。コマンドの実行を中止します。

ファイル名

指定されたファイル名が表示されます。

対処

ないファイルを指定し、再度実行してください。

## KDWM6304-E

---

aaaa : 指定されたディレクトリは存在しません。ディレクトリ名 : xxx

要因

指定されたディレクトリがないため、処理できません。コマンドの実行を中止します。

ディレクトリ名

指定されたディレクトリ名が表示されます。

対処

既にあるディレクトリを指定し、再度実行してください。

## KDWM6305-E

---

aaaa : 指定されたディレクトリはファイルです。ディレクトリ名 : xxx

要因

指定されたディレクトリはファイルであるため、処理できません。コマンドの実行を中止します。

ディレクトリ名

指定されたディレクトリ名が表示されます。

対処

ディレクトリを指定し、再度実行してください。

## KDWM6306-E

---

aaaa : ファイルのパス長が制限値を超えました。ファイル名 : xxx

### 要因

指定されたファイルのパス長が制限値を超えているため、処理できません。コマンドの実行を中止します。

### ファイル名

指定されたファイル名が表示されます。

### 対処

指定するファイルのパス長は 250 バイト以内で指定し、再度実行してください。

## KDWM6307-E

---

aaaa : ディレクトリのパス長が制限値を超えました。ディレクトリ名 :  
xxx

### 要因

指定されたディレクトリのパス長が制限値を超えているため、処理できません。コマンドの実行を中止します。

### ディレクトリ名

指定されたディレクトリ名が表示されます。

### 対処

指定するディレクトリのパス長は 238 バイト以内で指定し、再度実行してください。

## KDWM6308-E

---

aaaa : ユーザ ID が「system」のユーザは代行者または代行配布者に指定できません。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

### 要因

ユーザ ID が「system」のユーザは代行者、又は代行配布ユーザに指定できません。当該レコードの処理をスキップします。

### 入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

### 発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

### 発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

**対処**

代行者、又は代行配布ユーザには、ユーザ ID が「system」以外のユーザを指定してください。

修正後、修正したレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM6309-E

---

aaaa : 指定されたユーザ "xxx" はアドレスサーバに登録されていません。または、アドレスサーバに登録されていますが、Workflow サーバが設定されていません。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

**要因**

指定されたユーザ "xxx" はアドレスサーバに登録されていません。

又は、アドレスサーバに登録されていますが、Workflow サーバが設定されていません。当該レコードの処理をスキップします。

**入力ファイル名**

指定された入力ファイル名が表示されます。

**発生行**

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

**発生列**

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

**対処**

エラーとなった原因によって、以下の三つの対処方法があります。

1. 指定した不正なユーザ ID を正しいユーザ ID に修正する。
2. 指定したユーザをアドレスサーバに登録し、Workflow サーバを設定する。
3. 指定したユーザの Workflow サーバを設定する。

上記に示した対処のどれかを実行した後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM6310-E

---

aaaa : 指定可能文字列以外の文字列が指定されました。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

**要因**

指定できる文字列以外の文字列が指定されたため、処理できません。当該レコードの処理をスキップします。

**入力ファイル名**

指定された入力ファイル名が表示されます。

発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

対処

- 処理コード指定値  
C, A, D, # のどれかを指定してください。
- 処理コードに「C」を指定した場合の更新対象コード指定値  
STAT, HMAX, CMNT, ATR1, ATR2, ALLA のどれかを指定してください。
- 処理コードに「A」「D」を指定した場合の更新対象コード指定値  
AUTH, ORG, CMP, ROLE, BPAG, AGNT, KEYV, BADM, BDST, RDEF, RDST のどれかを指定してください。
- 更新対象コードに「STAT」を指定した場合の更新値  
act, dea, inac のどれかを指定してください。
- 更新対象コードに「AUTH」を指定した場合の更新値  
domi, admi, wfm のどれかを指定してください。
- 更新対象コードに「CMNT」「ATR1」「ATR2」を指定した場合の更新値  
1 バイトコード文字の場合, ", ^, タブコード, 改行コード以外の表示できる文字を指定してください。  
2 バイトコード文字の場合, ", ^以外の表示できる文字を指定してください。
- 更新対象コードに「KEYV」を指定した場合の自動配布キー値の指定値  
1 バイトコード文字の場合, ", ^, タブコード, 改行コード以外の表示できる文字を指定してください。  
2 バイトコード文字の場合, ", ^以外の表示できる文字を指定してください。

## KDWM6311-E

---

aaaa : 指定可能範囲外の数値が指定されました。入力ファイル名 : xxx

発生行 : xxx 発生列 : xxx

要因

指定できる範囲外の数値が指定されたため、処理できません。当該レコードの処理をスキップします。

入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

## 対処

更新対象コードが「HMAX」の場合、すべて半角数字で0から1023までの数値を指定してください。

修正後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM6312-E

---

aaaa : 指定する情報数が不足しています。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx

## 要因

指定する情報数が不足しているため、処理できません。当該レコードの処理をスキップします。

入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

## 対処

下記に従って修正後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## 属性情報の変更

C, ユーザ ID, STAT, 更新値 1

C, ユーザ ID, HMAX, 更新値 1

C, ユーザ ID, CMNT, 更新値 1

C, ユーザ ID, ATR1, 更新値 1

C, ユーザ ID, ATR2, 更新値 1

C, ユーザ ID, ALLA, 更新値 1, 更新値 2, 更新値 3, 更新値 4, 更新値 5

## 関連情報の設定

A, ユーザ ID, AUTH, 更新値 1

A, ユーザ ID, ORG, 更新値 1

A, ユーザ ID, CMP, 更新値 1

A, ユーザ ID, ROLE, 更新値 1

A, ユーザ ID, BPAG, 更新値 1, 更新値 2

A, ユーザ ID, AGNT, 更新値 1

A, ユーザ ID, KEYV, 更新値 1, 更新値 2, 更新値 3

A, ユーザ ID, BADM, 更新値 1, 更新値 2

A, ユーザ ID, BDST, 更新値 1, 更新値 2

A, ユーザ ID, RDEF, 更新値 1

A, ユーザ ID, RDST, 更新値 1

## 関連情報の削除

D, ユーザ ID,AUTH  
D, ユーザ ID,ORG, 更新値 1  
D, ユーザ ID,CMP, 更新値 1  
D, ユーザ ID,ROLE, 更新値 1  
D, ユーザ ID,BPAG, 更新値 1, 更新値 2  
D, ユーザ ID,AGNT, 更新値 1  
D, ユーザ ID,KEYV, 更新値 1, 更新値 2, 更新値 3  
D, ユーザ ID,BADM, 更新値 1, 更新値 2  
D, ユーザ ID,BDST, 更新値 1, 更新値 2  
D, ユーザ ID,RDEF, 更新値 1  
D, ユーザ ID,RDST, 更新値 1

## KDWM6313-E

---

aaaa : 指定された組織はアドレスサーバに登録されていません。入力  
ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

### 要因

指定された組織がアドレスサーバに登録されていないため、処理できません。当該レコードの処理をスキップします。

### 入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

### 発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

### 発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

### 対処

指定した組織名を正しい名称に変更するか、指定した組織をアドレスサーバに登録してください。

修正後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM6314-E

---

aaaa : 指定された最上位組織はアドレスサーバに登録されていません。  
入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

### 要因

指定された最上位組織がアドレスサーバに登録されていないため、処理できません。当該レコードの処理をスキップします。

## 入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

## 発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

## 発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

## 対処

指定した最上位組織名を正しい名称に変更するか、指定した最上位組織をアドレスサーバに登録してください。

修正後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM6315-E

---

aaaa : 指定されたユーザはビジネスプロセス管理者として設定されているため、管理者権限を変更できません。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

## 要因

指定されたユーザはビジネスプロセス管理者として設定されているため、管理者権限を変更できません。

当該レコードの処理をスキップします。

## 入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

## 発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

## 発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

## 対処

管理者権限を変更したい場合は、指定したユーザをビジネスプロセス管理者から削除してください。

対象となるビジネスプロセス定義を特定するには、Groupmax Workflow Monitor を使用するか、又は「WFexpusr (ユーザ定義情報出力コマンド)」の出力結果を参照してください。

その後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM6316-E

---

aaaa : 指定されたユーザはビジネスプロセス管理者として設定されているため、管理者権限を削除できません。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

### 要因

指定されたユーザはビジネスプロセス管理者として設定されているため、管理者権限を削除できません。

当該レコードの処理をスキップします。

### 入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

### 発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

### 発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

### 対処

管理者権限を削除したい場合は、指定したユーザをビジネスプロセス管理者から削除してください。

対象となるビジネスプロセス定義を特定するには、Groupmax Workflow Monitor を使用するか、又は「WFexpusr (ユーザ定義情報出力コマンド)」の出力結果を参照してください。

その後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM6317-E

---

aaaa : 指定されたユーザはビジネスプロセス配布管理者として設定されているため、管理者権限を変更できません。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

### 要因

指定されたユーザはビジネスプロセス配布管理者として設定されているため、管理者権限を変更できません。

当該レコードの処理をスキップします。

### 入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

### 発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

### 発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

#### 対処

管理者権限を変更したい場合は、指定したユーザをビジネスプロセス配布管理者から削除してください。

対象となるビジネスプロセス定義を特定するには、Groupmax Workflow Monitor を使用するか、又は「WFexpusr (ユーザ定義情報出力コマンド)」の出力結果を参照してください。

その後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM6318-E

---

aaaa : 指定されたユーザはビジネスプロセス配布管理者として設定されているため、管理者権限を削除できません。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

#### 要因

指定されたユーザはビジネスプロセス配布管理者として設定されているため、管理者権限を削除できません。

当該レコードの処理をスキップします。

#### 入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

#### 発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

#### 発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

#### 対処

管理者権限を削除したい場合は、指定したユーザをビジネスプロセス配布管理者から削除してください。

対象となるビジネスプロセス定義を特定するには、Groupmax Workflow Monitor を使用するか、又は「WFexpusr (ユーザ定義情報出力コマンド)」の出力結果を参照してください。

その後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM6319-E

---

aaaa : 指定されたユーザはロール定義者として設定されているため、管理者権限を変更できません。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

### 要因

指定されたユーザはロール定義者として設定されているため、管理者権限を変更できません。

当該レコードの処理をスキップします。

入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

### 対処

管理者権限を変更したい場合は、指定したユーザをロール定義者から削除してください。

対象となるロール定義を特定するには、Groupmax Workflow Monitor を使用するか、又は「WFexpusr (ユーザ定義情報出力コマンド)」の出力結果を参照してください。

その後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM6320-E

---

aaaa : 指定されたユーザはロール定義者として設定されているため、管理者権限を削除できません。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

### 要因

指定されたユーザはロール定義者として設定されているため、管理者権限を削除できません。

当該レコードの処理をスキップします。

入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

#### 対処

管理者権限を削除したい場合は、指定したユーザをロール定義者から削除してください。

対象となるロール定義を特定するには、Groupmax Workflow Monitor を使用する  
か、又は「WFexpusr (ユーザ定義情報出力コマンド)」の出力結果を参照してください。

その後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM6321-E

---

aaaa : 指定されたユーザはロール配布管理者として設定されているため、管理者権限を変更できません。入力ファイル名: xxx 発生行: xxx 発生列: xxx

#### 要因

指定されたユーザはロール配布管理者として設定されているため、ワークフロー運用管理者よりも下位の管理者権限へ変更できません。

当該レコードの処理をスキップします。

#### 入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

#### 発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

#### 発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

#### 対処

管理者権限を変更したい場合は、指定したユーザをロール配布管理者から削除してください。

対象となるロール定義を特定するには、Groupmax Workflow Monitor を使用する  
か、又は「WFexpusr (ユーザ定義情報出力コマンド)」の出力結果を参照してください。

その後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM6322-E

---

aaaa : 指定されたユーザはロール配布管理者として設定されているため、管理者権限を削除できません。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

### 要因

指定されたユーザはロール配布管理者として設定されているため、管理者権限を削除できません。

当該レコードの処理をスキップします。

### 入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

### 発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

### 発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

### 対処

管理者権限を削除したい場合は、指定したユーザをロール配布管理者から削除してください。

対象となるロール定義を特定するには、Groupmax Workflow Monitor を使用するか、又は「WFexpusr (ユーザ定義情報出力コマンド)」の出力結果を参照してください。

その後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM6323-E

---

aaaa : 指定された業務ロールが存在しません。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

### 要因

指定された業務ロールがワークフローデータベースに登録されていないか、又は02-10以降のバージョンのGroupmax Workflow Definer 若しくはロール定義更新コマンドで登録した業務ロールでないため、処理できません。

当該レコードの処理をスキップします。

### 入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

### 発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

### 発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

#### 対処

指定した業務ロール名を正しい名称に変更するか、若しくは指定した業務ロールをワークフローデータベースに登録してください。又は、02-10以降のバージョンの Groupmax Workflow Definer 若しくはロール定義更新コマンドで登録した業務ロールを指定してください。

修正後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM6324-E

---

aaaa : 指定されたビジネスプロセス定義が存在しません。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

#### 要因

指定されたビジネスプロセス定義がワークフローデータベースに登録されていないか、02-10以降のバージョンの Groupmax Workflow Definer から登録したビジネスプロセス定義でないため、処理できません。

当該レコードの処理をスキップします。

#### 入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

#### 発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

#### 発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

#### 対処

指定したビジネスプロセス定義名を正しい名称に変更するか、指定したビジネスプロセス定義をワークフローデータベースに登録してください。又は、02-10以降のバージョンの Groupmax Workflow Definer から登録したビジネスプロセス定義を指定してください。

また、更新対象コードに「BADM」、「BDST」を指定した場合は、既にあるビジネスプロセス定義名とビジネスプロセス定義バージョンの組み合わせを指定してください。

ビジネスプロセス定義バージョンの指定規則は、1文字以上10文字以下の半角数字か、又は「ALL」です。

修正後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM6325-E

---

aaaa : ファイルはフルパス名で指定してください。ファイル名 : xxx

### 要因

ファイルがフルパス名で指定されていないため、処理できません。コマンドの実行を中止します。

### ファイル名

指定されたファイル名が表示されます。

### 対処

ファイルをフルパス名で指定し、再度実行してください。

## KDWM6326-E

---

aaaa : 指定された組織はアドレスサーバに登録されていません。組織 ID : xxx

### 要因

指定された組織がアドレスサーバに登録されていないため、処理できません。コマンドの実行を中止します。

### 組織 ID

指定された組織が表示されます。

### 対処

指定した組織を正しい名称に変更するか、指定した組織をアドレスサーバに登録してください。

修正後、再度実行してください。

## KDWM6327-E

---

aaaa : 指定された最上位組織はアドレスサーバに登録されていません。最上位組織 ID : xxx

### 要因

指定された最上位組織がアドレスサーバに登録されていないため、処理できません。コマンドの実行を中止します。

### 最上位組織 ID

指定された最上位組織 ID が表示されます。

### 対処

指定した最上位組織を正しい名称に変更するか、指定した最上位組織をアドレス

サーバに登録してください。  
修正後、再度実行してください。

## KDWM6328-E

---

aaaa : 指定された出力情報種別コードが不正です。出力情報種別コード : xxx

### 要因

指定された出力情報種別コードが不正なため、処理できません。コマンドの実行を中止します。

出力情報種別コード

指定された出力情報種別コードが表示されます。

### 対処

指定できる出力情報種別コードは、STAT, HMAX, CMNT, ATR1, ATR2, ALLA, AUTH, ORG, CMP, ROLE, BPAG, AGNT, KEYV, BADM, BDST, RDEF, RDST のどれかです。

修正後、再度実行してください。

## KDWM6330-E

---

aaaa : 指定されたファイル名に誤りがあります。ファイル名 : xxx

### 要因

指定されたファイル名に誤りがあるため、処理できません。コマンドの実行を中止します。

ファイル名

指定されたファイル名が表示されます。

### 対処

ファイル名に「¥/ ; ; \* ? " < > |」は使用できません。

修正後、再度実行してください。

## KDWM6331-E

---

aaaa : オブジェクトサーバとの接続に失敗しました。関数名 : xxx 行番号 : xxx API 名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

### 要因

Groupmax Object Server との接続に失敗しました。コマンドの実行を中止します。

関数名

保守情報が表示されます。

行番号

保守情報が表示されます。

API 名

保守情報が表示されます。

理由コード

保守情報が表示されます。

詳細コード

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

サブコード

詳細コードのサブコードが表示されます。

対処

障害の発生要因を取り除いて、再度実行してください。

## KDWM6332-E

---

aaaa : オブジェクトサーバからの切り離しに失敗しました。関数名 :  
xxx 行番号 : xxx API 名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコー  
ド : xxx

要因

Groupmax Object Server との切り離しに失敗しました。コマンドの実行を中止しま  
す。

関数名

保守情報が表示されます。

行番号

保守情報が表示されます。

API 名

保守情報が表示されます。

理由コード

保守情報が表示されます。

詳細コード

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

サブコード

詳細コードのサブコードが表示されます。

対処

障害の発生要因を取り除いて、再度実行してください。

## KDWM6333-E

---

aaaa : オブジェクトサーバでエラーが発生しました。関数名 : xxx 行番号 : xxx API 名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

### 要因

Groupmax Object Server でエラーが発生しました。コマンドの実行を中止します。

#### 関数名

保守情報が表示されます。

#### 行番号

保守情報が表示されます。

#### API 名

保守情報が表示されます。

#### 理由コード

保守情報が表示されます。

#### 詳細コード

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

#### サブコード

詳細コードのサブコードが表示されます。

### 対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM6334-E

---

aaaa : オブジェクトサーバのトランザクション開始時にエラーが発生しました。関数名 : xxx 行番号 : xxx API 名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

### 要因

Groupmax Object Server のトランザクション開始でエラーが発生しました。コマンドの実行を中止します。

#### 関数名

保守情報が表示されます。

#### 行番号

保守情報が表示されます。

#### API 名

保守情報が表示されます。

#### 理由コード

保守情報が表示されます。

詳細コード

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

サブコード

詳細コードのサブコードが表示されます。

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM6335-E

---

aaaa : オブジェクトサーバのトランザクション終了時にエラーが発生しました。関数名 : xxx 行番号 : xxx API 名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

要因

Groupmax Object Server のトランザクション終了でエラーが発生しました。コマンドの実行を中止します。

関数名

保守情報が表示されます。

行番号

保守情報が表示されます。

API 名

保守情報が表示されます。

理由コード

保守情報が表示されます。

詳細コード

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

サブコード

詳細コードのサブコードが表示されます。

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM6336-E

---

aaaa : オペレーティングシステムとのインタフェースでエラーが発生しました。関数名 : xxx 行番号 : xxx API 名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx

### 要因

オペレーティングシステムに対する処理要求でエラーが発生しました。コマンドの実行を中止します。

#### 関数名

保守情報が表示されます。

#### 行番号

保守情報が表示されます。

#### API 名

エラーが発生した処理名が表示されます。

#### 理由コード

要求した処理のリターン値が表示されます。

#### 詳細コード

要求した処理の errno の値が表示されます。

### 対処

関数名及び詳細コードを参照して障害の要因を取り除いてください。  
必要に応じてシステム管理者に連絡してください。

## KDWM6337-E

---

aaaa : アドレスサーバへのアクセスでエラーが発生しました。関数名 : xxx 行番号 : xxx API 名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx

### 要因

Groupmax Address Server が起動されていません。又は、Groupmax Address Server へのアクセスでエラーが発生しました。コマンドの実行を中止します。

#### 関数名

保守情報が表示されます。

#### 行番号

保守情報が表示されます。

#### API 名

保守情報が表示されます。

#### 理由コード

保守情報が表示されます。

詳細コード

保守情報が表示されます。

対処

Groupmax Address Server が起動されていない場合は、起動後コマンドを再実行してください。また、Groupmax Address Server が起動されている場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWM6338-E

---

aaaa : メモリ不足が発生しました。関数名 : xxx 行番号 : xxx

要因

メモリが確保できませんでした。

関数名

保守情報が表示されます。

行番号

保守情報が表示されます。

対処

不要なプロセスを終了させるか、又はスワップ領域を増分してから、再度実行してください。

## KDWM6339-E

---

aaaa : プログラムエラーが発生しました。関数名 : xxx 行番号 : xxx

要因

コマンド実行中にプログラムエラーが発生しました。コマンドの実行を中止します。

関数名

保守情報が表示されます。

行番号

保守情報が表示されます。

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM6340-E

---

aaaa : 指定されたファイルはディレクトリです。ファイル名 : xxx

### 要因

オプションに指定されたファイル名がディレクトリであるため、処理できません。コマンドの実行を中止します。

### ファイル名

指定されたファイル名が表示されます。

### 対処

正しいファイル名を指定し、再度実行してください。

## KDWM6341-E

---

aaaa : 実行したユーザには実行権がありません。

### 要因

ユーザに実行する権限がありません。コマンドの実行を中止します。

### 対処

スーパーユーザ権限があるユーザでログイン後、再度実行してください。

## KDWM6342-E

---

aaaa : ユーザ ID が「system」のユーザ情報は更新できません。入力  
ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

### 要因

ユーザ ID が「system」のユーザ情報は更新できません。

### 入力ファイル名

指定されたファイル名が表示されます。

### 発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

### 発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

### 対処

必要ありません。「system」ユーザ情報変更要求はスキップします。

## KDWM6343-E

---

aaaa : 指定された文字列の定義フォーマットが不正です。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

### 要因

指定された更新値の定義フォーマットが不正なため、処理できません。当該レコードの処理をスキップします。

#### 入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

#### 発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

#### 発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

### 対処

エラーとなった箇所を、正しいフォーマットに修正してください。  
修正後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM6344-E

---

aaaa : 指定された文字列長が長すぎます。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

### 要因

指定された文字列長が長過ぎるため、処理できません。当該レコードの処理をスキップします。

#### 入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

#### 発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

#### 発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

### 対処

#### 更新対象コード (HMAX)

半角数字 10 文字以内で指定してください。

#### 更新対象コード (CMNT)

127 バイト以内の文字列で指定してください。

#### 更新対象コード (ATR1)

31 バイト以内の文字列で指定してください。

更新対象コード (ATR2)

31 バイト以内の文字列で指定してください。

更新対象コード (KEYV)

自動配布キー値は、1 バイトから 31 バイトまでの文字列で指定してください。

更新対象コード (BADM)

ビジネスプロセス定義バージョンは、半角数字 10 文字以内で指定してください。または、ALL を指定してください。

更新対象コード (BDST)

ビジネスプロセス定義バージョンは、半角数字 10 文字以内で指定してください。または、ALL を指定してください。

上記に従って修正後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM6345-E

---

aaaa : 指定された入力ファイルのレコード長が長すぎます。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx

要因

レコード長が長過ぎるため、処理できません。当該レコードの処理をスキップします。

入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

対処

レコード長は 1,024 バイト以内で作成してください。

修正後、エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM6346-E

---

aaaa : 指定されたファイル又はディレクトリにアクセスする権限がありません。ファイル名またはディレクトリ名 : xxx

要因

指定されたファイル、又はディレクトリにアクセスする権限がないため、処理できません。コマンドの実行を中止します。

ファイル名またはディレクトリ名

指定されたファイル名またはディレクトリ名が表示されます。

対処

アクセス権限がないファイル，又はディレクトリに権限を付与した後，再実行してください。

## KDWM6347-E

---

aaaa : 資源の競合が発生しました。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx  
関数名 : xxx 行番号 : xxx

要因

ワークフローデータベース資源の競合が発生したため，処理できません。当該レコードの処理をスキップします。

入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

関数名

保守情報が表示されます。

行番号

保守情報が表示されます。

対処

しばらくしてから，エラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM6348-E

---

aaaa : 資源の競合が発生しました。関数名 : xxx 行番号 : xxx

要因

ワークフローデータベース資源の競合が発生したため，処理できません。コマンドの実行を中止します。

関数名

保守情報が表示されます。

行番号

保守情報が表示されます。

対処

しばらくしてから，再度実行してください。

## KDWM6349-E

---

aaaa : 最上位組織 ID 「GMAXSYS」及び最上位組織 ID 「GMAXSYS」の下位組織は指定できません。

### 要因

最上位組織 ID 「GMAXSYS」、及び最上位組織 ID 「GMAXSYS」の下位組織に対する操作は実行できないため、処理できません。コマンドの実行を中止します。

### 対処

必要ありません。最上位組織 ID 「GMAXSYS」、及び最上位組織 ID 「GMAXSYS」の下位組織に対する操作は処理できません。

## KDWM6350-E

---

aaaa : 最上位組織 ID 「GMAXSYS」及び最上位組織 ID 「GMAXSYS」の下位組織は指定できません。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

### 要因

最上位組織 ID 「GMAXSYS」、及び最上位組織 ID 「GMAXSYS」の下位組織に対する操作は実行できないため、処理できません。当該レコードの処理をスキップします。

### 入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

### 発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

### 発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

### 対処

必要ありません。最上位組織 ID 「GMAXSYS」、及び最上位組織 ID 「GMAXSYS」の下位組織に対する操作は処理できません。

## KDWM6351-E

---

aaaa : 指定されたロールは配布実行中のため、更新できません。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

### 要因

指定されたロールは他サーバへの配布実行中のため、処理できません。該当するレ

コードの処理をスキップします。

入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

対処

他サーバへの配布が完了するのを待ってエラーとなったレコードだけ更新処理を再実行してください。

## KDWM6352-E

---

aaaa : xxx オプションの引数が重複しています。引数 : xxx

要因

同一のオプション引数が複数回指定されています。

引数

重複している引数が表示されます。

対処

コマンドラインを修正して再度実行してください。

## KDWM6353-E

---

aaaa : 指定されたビジネスプロセス定義は配布実行中のため、更新できません。入力ファイル名 : xxx 発生行 : xxx 発生列 : xxx

要因

指定されたビジネスプロセス定義は他サーバへの配布実行中のため、処理できません。該当するレコードの処理をスキップします。

入力ファイル名

指定された入力ファイル名が表示されます。

発生行

エラーが発生した行の行番号が表示されます。

発生列

エラーが発生した行のエラーがある列番号が表示されます。

対処

他サーバへの配布が完了するのを待ってエラーとなったレコードだけ更新処理を再

実行してください。

## KDWM6354-E

---

aaaa : オブジェクトの不整合を検知したため、修復して処理を続行しました。オブジェクト ID : xxx オブジェクト種別 : xxx オブジェクト名 : xxx 付加情報 : xxx

### 要因

コマンド実行中にオブジェクト情報の矛盾を検知したため、続行できるように修復しました。

### オブジェクト ID

保守情報が表示されます。

### オブジェクト種別

保守情報が表示されます。

### オブジェクト名

保守情報が表示されます。

### 付加情報

保守情報が表示されます。

### 対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM6355-E

---

WFregusr : 同時実行できない処理がクライアントから既に実行中のため、コマンドの起動を中止します。

### 要因

コマンドと同時に実行できない Workflow API が既に実行されているため、コマンドの起動を中止します。

### 対処

時間をあけて再度実行してください。

## KDWM6356-E

---

aaaa : 同時実行できない処理が既に実行中のため、ユーティリティの起動を中止します。

### 要因

ユティリティと同時に実行できない処理が既に実行されています。

対処

ワークフローの他の機能，又はコマンドを終了させるか，排他チェックを抑止するオプションを付けて再度実行してください。

## KDWM6357-E

---

aaaa : 環境情報「サーバ間連携機能指定」の値が「bbbb」であるため，実行できません。

要因

環境情報「サーバ間連携機能指定」の値に誤りがあるため，処理できません。コマンドの起動を中止します。

対処

環境情報「サーバ間連携機能指定」に正しい値を設定して，再度実行してください。

## KDWM7001-I

---

WfAnalyst\_bp 使用法 : WfAnalyst\_bp -b bp\_info\_file

## KDWM7002-I

---

WfAnalyst\_bp : ビジネスプロセス定義情報が存在しません。

## KDWM7004-I

---

WfAnalyst\_log : ワークフローログ編集機能を開始します。ビジネスプロセス定義情報ファイル名 : xxx 編集対象ビジネスプロセス定義名 : xxx 編集対象ビジネスプロセス定義バージョン : xxx アンロードジャーナルファイル名 : xxx パラメタファイル名 : xxx

## KDWM7005-I

---

WfAnalyst\_log : ワークフローログ編集機能を終了します。ビジネスプロセス定義情報ファイル名 : xxx 編集対象ビジネスプロセス定義名 : xxx 編集対象ビジネスプロセス定義バージョン : xxx アンロードジャーナルファイル名 : xxx パラメタファイル名 : xxx

## KDWM7006-I

---

WfAnalyst\_log 使用法 : WfAnalyst\_log -b name -n name -v version -j name [-j name...] [-p name]

## KDWM7007-I

---

WfAnalyst\_result : 稼働実績集計機能を開始します。ビジネスプロセス定義情報ファイル名 : xxx アンロードジャーナルファイル名 : xxx パラメタファイル名 : xxx

## KDWM7008-I

---

WfAnalyst\_result : 稼働実績集計機能を終了します。ビジネスプロセス定義情報ファイル名 : xxx アンロードジャーナルファイル名 : xxx パラメタファイル名 : xxx

## KDWM7009-I

---

WfAnalyst\_bp : ビジネスプロセス定義情報抽出機能を開始します。ビジネスプロセス定義情報ファイル名 : xxx

## KDWM7010-I

---

WFanalyst\_bp : ビジネスプロセス定義情報抽出機能を終了します。ビジネスプロセス定義情報ファイル名 : xxx

## KDWM7011-I

---

WFanalyst\_result 使用法:WFanalyst\_result [-b name] -j name [-j name...]  
[-p name]

## KDWM7050-I

---

aaaa : xxx は稼働中です。

## KDWM7051-I

---

aaaa : xxx の一部機能が稼働中です。

## KDWM7052-I

---

aaaa : xxx は停止中です。

## KDWM7053-I

---

aaaa : ワークフローデータベースが初期化されていません。

## KDWM7054-I

---

aaaa : ワークフローデータベースのバージョンが不正です。

## KDWM7055-I

---

aaaa : ワークフローデータベースが初期化されていないか、又はバージョンが不正です。

## KDWM7210-E

---

WfAnalyst\_bp : ユーザ環境内のカテゴリに関連する環境変数に、不当な言語名又はシステム上で使用できない言語が設定されています。

### 要因

ユーザ環境内のカテゴリに関連する環境変数の言語の指定に誤りがあるため、処理を中止します。

### 対処

ユーザ環境内のカテゴリに関連する環境変数を確認してから、再度コマンドを実行してください。

## KDWM7211-W

---

WfAnalyst\_bp : ホスト名の取得に失敗しました。理由コード : xxx

### 要因

ビジネスプロセス定義情報抽出機能が動作しているサーバのホスト名を取得しようとしたが、取得できなかったため、異常終了します。

### 理由コード

gethostname 処理の errno の値が表示されます。

### 対処

HOSTS ファイルに、自ホストを設定してください。

## KDWM7212-E

---

WfAnalyst\_bp : ユーザ名の取得に失敗しました。理由コード : xxx

### 要因

ビジネスプロセス定義情報抽出機能が動作しているユーザ名を取得しようとしたが、取得できなかったため、異常終了します。

### 理由コード

getlogin() 関数の errno の値が表示されます。

### 対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM7213-E

---

WfAnalyst\_bp : オペレーティングシステムとのインタフェースでエラーが発生しました。関数名 : xxx 理由コード : xxx

### 要因

ビジネスプロセス定義情報抽出機能実行中にオペレーティングシステムに対する処理要求でエラーが発生したため、異常終了します。

### 関数名

エラーが発生した処理名が表示されます。

### 理由コード

要求した処理の errno の値が表示されます。

### 対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM7214-W

---

WfAnalyst\_bp : ビジネスプロセス定義情報ファイルの容量不足が発生しました。

### 要因

ビジネスプロセス定義情報ファイルの容量が不足したため、処理を中止します。

### 対処

不要なファイルを削除してから、再度コマンドを実行してください。

## KDWM7215-E

---

WfAnalyst\_bp : メモリ不足が発生しました。

**要因**

メモリが確保できませんでした。

**対処**

不要なプロセスを終了させるか、又はスワップ領域を増分してから、再度、ビジネスプロセス定義情報抽出機能を実行してください。

## KDWM7216-W

---

WfAnalyst\_bp : 他のプログラムが実行中のため、処理を終了します。

**要因**

ビジネスプロセス定義情報抽出機能の実行前にコマンドが実行中のため、処理を中止します。

**対処**

コマンドが終了してから、再度、ビジネスプロセス定義情報抽出機能を実行してください。

## KDWM7218-W

---

WfAnalyst\_bp : 排他制御ファイルのオープンに失敗しました。

**要因**

排他制御用ファイルのオープンでエラーが発生したため、異常終了します。

**対処**

システム管理者に連絡してください。

## KDWM7219-W

---

WfAnalyst\_bp : ファイルのロックに失敗しました。

**要因**

排他制御用ファイルのロックでエラーが発生したため、異常終了します。

**対処**

システム管理者に連絡してください。

## KDWM7220-W

---

WfAnalyst\_bp : 他のプログラムで、ビジネスプロセス定義情報ファイルが使用されています。

**要因**

他のプログラムでビジネスプロセス定義情報ファイルが使用されているため、処理を中止します。

**対処**

参照しているプロセスを終了させるか、又はビジネスプロセス定義情報ファイルを変更してから、再度実行してください。

## KDWM7221-W

---

WfAnalyst\_bp : 不当な文字が存在します。

**要因**

ワークフローデータベース中に不当な複数バイト文字があるため、処理を中止します。

**対処**

システム管理者に連絡してください。

## KDWM7222-E

---

WfAnalyst\_bp : オープンするファイル数が制限値を超えています。

**要因**

オープンするファイル数が制限値を超えているため、処理を中止します。

**対処**

不要なプロセスを終了させるか、又はオープンしているファイルをクローズしてから、再度実行してください。

## KDWM7223-W

---

WfAnalyst\_bp : ビジネスプロセス定義情報ファイルのオープンでエラーが発生しました。

**要因**

ビジネスプロセス定義情報ファイルのオープンでエラーが発生したため、処理を中止します。

## 対処

作成するファイルの親ディレクトリに書き込み許可を与えて、再度実行してください。又は、書き込み許可があるユーザで、再度実行してください。

## KDWM7224-E

---

WfAnalyst\_bp : システムファイルテーブルが一杯のため、ビジネスプロセス定義情報ファイルのオープンに失敗しました。

## 要因

システムファイルテーブルが一杯のため、エラーが発生しました。

## 対処

不要なプロセスを終了させるか、又はオープンしているファイルをクローズしてから、再度実行してください。

## KDWM7225-W

---

WfAnalyst\_bp : ビジネスプロセス定義情報ファイルのオープンに失敗しました。理由コード : xxx

## 要因

ビジネスプロセス定義情報ファイルのオープンでエラーが発生したため、異常終了します。

## 理由コード

open 処理の errno 値が表示されます。

## 対処

エラー原因を取り除き、再度実行してください。又は、システム管理者に連絡してください。

## KDWM7226-W

---

WfAnalyst\_bp : ビジネスプロセス定義情報ファイルのクローズに失敗しました。理由コード : xxx

## 要因

ビジネスプロセス定義情報ファイルのクローズでエラーが発生したため、異常終了します。

## 理由コード

close 処理の errno 値が表示されます。

対処

このメッセージ出力以前に他のエラーメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに対処してください。他のメッセージが出力されていない場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWM7227-W

---

WfAnalyst\_bp : ビジネスプロセス定義情報ファイルの出力に失敗しました。理由コード : xxx

要因

ビジネスプロセス定義情報ファイルへの書き込み処理でエラーが発生したため、異常終了します。

理由コード

write 処理の errno 値が表示されます。

対処

エラー原因を取り除き、再度実行してください。又は、システム管理者に連絡してください。

## KDWM7228-W

---

WfAnalyst\_bp : ビジネスプロセス定義情報ファイルの作成に失敗しました。

要因

ビジネスプロセス定義情報ファイルの作成でエラーが発生したため、処理を中止します。

対処

ファイルシステムを拡張してから、再度、ビジネスプロセス定義情報抽出機能を実行してください。

## KDWM7229-E

---

WfAnalyst\_result : ホスト名の取得に失敗しました。理由コード : xxx

要因

稼働実績集計機能が動作しているサーバのホスト名を取得しようとしたますが、取得できなかったため、異常終了します。

理由コード

gethostname 処理の errno の値が表示されます。

## 対処

HOSTS ファイルに、自ホストの設定をしてください。

## KDWM7240-W

---

WfAnalyst\_bp : オブジェクトサーバとの接続に失敗しました。関数名 :  
xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

## 要因

次の要因で Groupmax Object Server との接続にエラーが発生したため、異常終了します。

- Groupmax Object Server が起動されていない。
- Groupmax Object Server でエラーが発生した。

## 関数名

保守情報が表示されます。

## 理由コード

障害の発生元が表示されます。

30000 ~ 39999 : Groupmax Object Server

## 詳細コード

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

## サブコード

詳細コードのサブコードが表示されます。

## 対処

Groupmax Object Server の環境を見直してから、再度実行してください。又は、システム管理者に連絡してください。

## KDWM7241-W

---

WfAnalyst\_bp : オブジェクトサーバからの切り離しに失敗しました。関  
数名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

## 要因

Groupmax Object Server でエラーが発生し、Groupmax Object Server からの切り離しに失敗したため、異常終了します。

## 関数名

保守情報が表示されます。

## 理由コード

障害の発生元が表示されます。

30000 ~ 39999 : Groupmax Object Server

詳細コード

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

サブコード

詳細コードのサブコードが表示されます。

対処

Groupmax Object Server の環境を見直してから、再度実行してください。又は、システム管理者に連絡してください。

## KDWM7242-W

---

WfAnalyst\_bp : オブジェクトサーバのトランザクション開始時にエラーが発生しました。関数名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

要因

Groupmax Object Server のトランザクション開始でエラーが発生したため、異常終了します。

関数名

保守情報が表示されます。

理由コード

障害の発生元が表示されます。

30000 ~ 39999 : Groupmax Object Server

詳細コード

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

サブコード

詳細コードのサブコードが表示されます。

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM7243-W

---

WfAnalyst\_bp : トランザクションの終了時にエラーが発生しました。関数名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

要因

Groupmax Object Server のトランザクション終了でエラーが発生したため、異常終了します。

関数名

保守情報が表示されます。

理由コード

障害の発生元が表示されます。

30000 ~ 39999 : Groupmax Object Server

詳細コード

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

サブコード

詳細コードのサブコードが表示されます。

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM7244-W

---

WFanalyst\_bp : オブジェクトサーバでエラーが発生しました。関数名 :  
xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

要因

Groupmax Object Server でエラーが発生したため、異常終了します。

関数名

保守情報が表示されます。

理由コード

障害の発生元が表示されます。

30000 ~ 39999 : Groupmax Object Server

詳細コード

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

サブコード

詳細コードのサブコードが表示されます。

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM7245-W

---

WFanalyst\_bp : オブジェクトサーバとの接続でエラーが発生しました。  
関数名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

要因

Groupmax Object Server との接続でシステムエラーが発生したため、異常終了します。

関数名

保守情報が表示されます。

理由コード

障害の発生元が表示されます。

20000 ~ 29999 : Groupmax Workflow Server

30000 ~ 39999 : Groupmax Object Server

40000 ~ 49999 : Groupmax Address Server

詳細コード

各プログラムの詳細コード又は WFSV\_errno が表示されます。

サブコード

詳細コードのサブコードが表示されます。

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM7246-W

---

WFanalyst\_bp : オブジェクトサーバでエラーが発生しました。関数名 :  
xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

要因

Groupmax Object Server でシステムエラーが発生したため、異常終了します。

関数名

保守情報が表示されます。

理由コード

障害の発生元が表示されます。

30000 ~ 39999 : Groupmax Object Server

詳細コード

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

サブコード

詳細コードのサブコードが表示されます。

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM7249-E

---

Wfanalyst\_bp : プログラムエラーが発生しました。理由コード : xxx 詳細コード : xxx

### 要因

ビジネスプロセス定義情報抽出機能でプログラムエラーが発生したため、異常終了します。

### 理由コード

障害の発生元が表示されます。

20000 ~ 29999 : Groupmax Workflow Server

30000 ~ 39999 : Groupmax Object Server

40000 ~ 49999 : Groupmax Address Server

### 詳細コード

各プログラムの詳細コード又は WFSV\_errno が表示されます。

### 対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM7250-E

---

aaaa : 指定したパラメタファイルは存在しません。パラメタファイル名 : xxx

### 要因

指定したパラメタファイルがないため、コマンドの実行を中止します。

パラメタファイル名

パラメタファイル名が表示されます。

### 対処

パラメタファイル名を確認してから、再度コマンドを実行してください。

## KDWM7251-W

---

aaaa : 指定されたビジネスプロセス定義情報ファイルは存在しません。ビジネスプロセス定義情報ファイル名 : xxx

### 要因

指定したビジネスプロセス定義情報ファイルがないため、コマンドの実行を中止します。

ビジネスプロセス定義情報ファイル名

ビジネスプロセス定義情報ファイル名が表示されます。

対処

ビジネスプロセス定義情報ファイル名を確認してから、再度実行してください。

## KDWM7252-W

---

aaaa : 指定された編集対象ビジネスプロセス定義は存在しません。編集対象ビジネスプロセス定義名 : xxx 編集対象ビジネスプロセス定義バージョン : xxx

要因

指定した編集対象のビジネスプロセス定義がないため、コマンドの実行を中止します。

編集対象ビジネスプロセス定義名

編集対象のビジネスプロセス定義名が表示されます。

編集対象ビジネスプロセス定義バージョン

編集対象のビジネスプロセス定義バージョン番号が表示されます。

対処

編集対象のビジネスプロセス定義名とビジネスプロセス定義バージョンを確認してから、再度実行してください。

## KDWM7253-W

---

aaaa : 指定されたアンロードジャーナルファイルは存在しません。アンロードジャーナルファイル名 : xxx

要因

指定したジャーナルファイルがないため、コマンドの実行を中止します。

アンロードジャーナルファイル名

アンロードジャーナルファイル名が表示されます。

対処

アンロードジャーナルファイル名を確認してから、再度実行してください。

## KDWM7254-E

---

aaaa : パラメタファイルのオープンに失敗しました。パラメタファイル名 : xxx エラーコード : xxx

要因

パラメタファイルのオープンに失敗したため、コマンドの実行を中止します。

パラメタファイル名

パラメタファイル名が表示されます。

エラーコード

fopen() 関数の errno 値が表示されます。

対処

エラー原因を取り除いてから、再度コマンドを実行してください。

## KDWM7255-W

---

aaaa : ビジネスプロセス定義情報ファイルのオープンに失敗しました。

ビジネスプロセス定義情報ファイル名 : xxx エラーコード : xxx

要因

ビジネスプロセス定義情報ファイルのオープンに失敗したため、コマンドの実行を中止します。

ビジネスプロセス定義情報ファイル名

ビジネスプロセス定義情報ファイル名が表示されます。

エラーコード

fopen 処理の errno 値が表示されます。

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM7256-W

---

Wfanalyst\_log : ワークフローログレコードファイルのクローズに失敗しました。エラーコード : xxx

要因

ワークフローログレコードファイルのクローズに失敗したため、コマンドの実行を中止します。

エラーコード

fclose 処理の errno 値が表示されます。

対処

エラー原因を取り除いてから、再度コマンドを実行してください。このメッセージの出力以前に他のエラーメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、対処してください。

## KDWM7257-W

---

Wfanalyst\_log : ワークフローログレコードファイルの出力に失敗しました。エラーコード : xxx

### 要因

ワークフローログレコードファイルの書き込みに失敗したため、コマンドの実行を中止します。

### エラーコード

fputs 処理の errno 値が表示されます。

### 対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM7258-E

---

aaaa : オペランド長が上限を超えています。パラメタファイル名 : xxx

### 要因

指定したオペランド長が上限を超えているため、コマンドの実行を中止します。

### パラメタファイル名

パラメタファイル名が表示されます。

### 対処

パラメタファイルを修正してから、再度コマンドを実行してください。

## KDWM7259-E

---

aaaa : 不正なオペランドが指定されています。パラメタファイル名 : xxx

### 要因

不正なオペランドが指定されているため、コマンドの実行を中止します。

### パラメタファイル名

パラメタファイル名が表示されます。

### 対処

パラメタファイルを修正してから、再度コマンドを実行してください。

## KDWM7260-E

---

aaaa : オペランドが重複しています。パラメタファイル名 : xxx

### 要因

オペランドが重複しているため、コマンドの実行を中止します。

パラメタファイル名

パラメタファイル名が表示されます。

### 対処

パラメタファイルを修正してから、再度コマンドを実行してください。

## KDWM7261-W

---

aaaa : アンロードジャーナルファイルで入出力エラーが発生しました。

### 要因

アンロードジャーナルファイルでアクセスエラーが発生したため、コマンドの実行を中止します。

### 対処

直前に出力された Groupmax Object Server のメッセージに基づいてエラー原因を取り除いてから、再度、コマンドを実行してください。

## KDWM7262-W

---

Wfanalyst\_log : ワークフローログレコードファイルのオープンに失敗しました。エラーコード : xxx

### 要因

ワークフローログレコードファイルのオープンに失敗したため、コマンドの実行を中止します。

エラーコード

fopen 処理の errno 値が表示されます。

### 対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM7263-E

---

aaaa : LANG 環境変数文字列が最大長を超えました。

### 要因

LANG 環境変数文字列が最大長を超えているため、コマンドの実行を中止します。

### 対処

LANG 環境変数を 32 文字以下に設定し直してから、再度コマンドを実行してください。

## KDWM7264-E

---

WfAnalyst\_log : プログラムエラーが発生しました。ビジネスプロセス定義情報ファイル名 : xxx 編集対象ビジネスプロセス定義名 : xxx 編集対象ビジネスプロセス定義バージョン : xxx アンロードジャーナルファイル名 : xxx パラメタファイル名 : xxx ファイル名 : xxx 場所 : xxx

### 要因

ワークフローログ編集機能実行中に、プログラムの内部矛盾を検知したため、処理を中止します。

ビジネスプロセス定義情報ファイル名

ビジネスプロセス定義情報ファイル名が表示されます。

編集対象ビジネスプロセス定義名

編集対象のビジネスプロセス定義名が表示されます。

編集対象ビジネスプロセス定義バージョン

編集対象のビジネスプロセス定義バージョンが表示されます。

アンロードジャーナルファイル名

アンロードジャーナルファイル名（先頭だけ）が表示されます。

パラメタファイル名

パラメタファイル名が表示されます。

ファイル名

エラーが発生したファイル名が表示されます。

場所

エラーが発生した行が表示されます。

### 対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM7265-W

---

aaaa : ワークフローログの入力に失敗しました。XO\_errcode : xxx  
XO\_errno : xxx

### 要因

ログの読み込みに失敗したため、コマンドの実行を中止します。

XO\_errcode

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

XO\_errno

保守情報が表示されます。

### 対処

障害の原因を取り除いて、再度実行してください。

## KDWM7266-W

---

Wfanalyst\_log : ワークフローログレコードファイルは既に存在します。

### 要因

ワークフローログレコードファイルは既にあるため、コマンドの実行を中止します。

### 対処

既存のワークフローログレコードファイルを別のファイルとして保存した後、再度実行してください。

## KDWM7268-E

---

Wfanalyst\_result : プログラムエラーが発生しました。ファイル名 : xxx  
場所 : xxx

### 要因

コマンド実行中にプログラムエラーが発生したため、コマンドの実行を中止します。

ファイル名

エラーが発生したファイル名が表示されます。

場所

エラーが発生した行が表示されます。

### 対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM7269-E

---

WFanalyst\_result : オペランドの組み合わせが不正です。パラメタファイル名 : xxx

### 要因

パラメタファイル中のオペランドの組み合わせが不正のため、コマンドの実行を中止します。

パラメタファイル名

パラメタファイル名が表示されます。

### 対処

パラメタファイルを修正してから、再度コマンドを実行してください。

## KDWM7271-W

---

WFanalyst\_result : 稼働実績ファイルは既に存在します。ファイル名 : xxx

### 要因

稼働実績ファイルが既にあるため、コマンドの実行を中止します。

ファイル名

稼働実績ファイル名が表示されます。

### 対処

既存の稼働実績ファイルを別のファイルとして保存した後、再度実行してください。

## KDWM7272-W

---

aaaa : ファイル又はディレクトリに対する権限がありません。ファイル名 : xxx

### 要因

ファイルに対する権限がないため、コマンドの実行を中止します。

ファイル名

ファイル名が表示されます。

### 対処

ファイル又はディレクトリの権限を変更してから、再度実行してください。

## KDWM7300-E

---

WFanalyst\_record : プログラムエラーが発生しました。理由コード :  
xxx 詳細コード : xxx

### 要因

稼働状況解析コマンドでプログラムエラーが発生したため、異常終了します。

### 理由コード

障害の発生元が表示されます。

20000 ~ 29999 : Groupmax Workflow Server

30000 ~ 39999 : Groupmax Object Server

40000 ~ 49999 : Groupmax Address Server

### 詳細コード

各プログラムの詳細コード又は WFSV\_errno が表示されます。

### 対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM7301-E

---

aaaa : オプションが重複しています。オプション名 : xxx

### 要因

コマンドのオプションが重複して指定されているため、処理を中止し、使用方法を表示します。

### オプション名

重複しているオプション名が表示されます。

### 対処

メッセージに示すオプションの指定を確認してから、再度コマンドを実行してください。

## KDWM7302-E

---

aaaa : オプションの指定が不正です。

### 要因

オプションの指定が不正なため、処理を中止し、使用方法を表示します。

### 対処

不正なオプションが指定されていないか確認してから、再度コマンドを実行してください。

## KDWM7303-E

---

aaaa : 必須オプションが指定されていません。

要因

省略できないオプションが指定されていないため、コマンドの処理を中止し、使用方法を表示します。

対処

必要なオプションを指定してから、再度コマンドを実行してください。

## KDWM7304-E

---

aaaa : オプションのパラメタに不正な値が指定されています。オプション名 : xxx

要因

コマンドのオプションのパラメタが不正に指定されているため、処理を中止します。

オプション名

不正なパラメタ値のオプション名が表示されます。

対処

パラメタの指定値を確認してから、再度コマンドを実行してください。

## KDWM7305-E

---

aaaa : オプションの指定数が制限値を超えました。オプション名 : xxx

要因

コマンドのオプションの指定数が制限値を超えて指定されているため、処理を中止します。

オプション名

不正なパラメタ値のオプション名が表示されます。

対処

パラメタの指定数を減らして、再度コマンドを実行してください。

## KDWM7306-E

---

aaaa : 日付の範囲指定が不正です。パラメタファイル名 : xxx

要因

開始日付より終了日付の方が日付が古い場合、処理を中止します。

パラメタファイル名

パラメタファイル名が表示されます。

対処

日付の指定値を確認してから、再度コマンドを実行してください。

## KDWM7307-E

---

aaaa : 同一のファイルが指定されています。オプション名 : xxx

要因

同一のファイルが複数指定されているため、コマンドの実行を中止します。

オプション名

不正なパラメタ値のオプション名が表示されます。

対処

同一のファイルが指定されていないか確認してから、再度コマンドを実行してください。

## KDWM7311-W

---

WfAnalyst\_result : 稼働実績ファイルの出力に失敗しました。エラーコード : xxx

要因

稼働実績ファイルの書き込みに失敗したため、コマンドの実行を中止します。

エラーコード

fputs 処理の errno 値が表示されます。

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM7312-E

---

WfAnalyst\_result : time\_table オペランドに指定した集計範囲の数が上限を超えています。パラメタファイル名 : xxx

要因

time\_table オペランドに指定した集計範囲の数が上限を超えたため、コマンドの実行を中止します。

パラメタファイル名

パラメタファイル名が表示されます。

対処

time\_table オペランドに指定する集計範囲の数を 24 個以下にしてください。

## KDWM7313-E

---

WFanalyst\_result : day\_table オペランドに指定した集計範囲の数が上限を超えています。パラメタファイル名 : xxx

要因

day\_table オペランドに指定した集計範囲の数が上限を超えたため、コマンドの実行を中止します。

パラメタファイル名

パラメタファイル名が表示されます。

対処

day\_table オペランドに指定する集計範囲の数を 24 個以下にしてください。

## KDWM7314-W

---

WFanalyst\_result : 稼働実績ファイルのオープンに失敗しました。エラーコード : xxx

要因

稼働実績ファイルのオープンに失敗したため、コマンドの実行を中止します。

エラーコード

fopen 処理の errno 値が表示されます。

対処

エラー原因を取り除いてから、再度コマンドを実行してください。

## KDWM7315-W

---

WFanalyst\_result : 稼働実績ファイルのクローズに失敗しました。エラーコード : xxx

要因

稼働実績ファイルのクローズに失敗しました。

エラーコード

fclose 処理の errno 値が表示されます。

## 対処

エラー原因を取り除き、再度実行してください。このメッセージの出力以前に、他のエラーメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、対処してください。

## KDWM7316-W

---

aaaa : 指定されたファイルはディレクトリです。ファイル名 : xxx

## 要因

オプションに指定されたファイル名がディレクトリです。

ファイル名

指定されたファイル名が表示されます。

## 対処

正しいファイル名を指定し、再度実行してください。

## KDWM7317-W

---

aaaa : 指定されたファイル名が不正です。ファイル名 : xxx エラーコード : xxx

## 要因

指定されたファイル名が不正です。

ファイル名

指定されたファイル名が表示されます。

エラーコード

stat 処理の errno 値が表示されます。

## 対処

障害の発生要因を取り除いて、再度実行してください。

## KDWM7350-E

---

aaaa : 終了監視時間内に終了しませんでした。プログラム名 : xxx

## 要因

終了監視時間内にプログラムが終了しないため、異常終了します。

プログラム名

監視中のプログラム名が表示されます。

## 対処

障害の発生要因を取り除いて、再度実行してください。終了しなかったプログラムでエラーメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って、対処してください。

## KDWM7351-E

---

aaaa : プログラムエラーが発生しました。関数名 : xxx 理由コード :  
xxx ファイル名 : xxx 場所 : xxx

### 要因

プログラムエラーが発生しました。

### 関数名

保守情報が表示されます。

### 理由コード

保守情報が表示されます。

### ファイル名

保守情報が表示されます。

### 場所

保守情報が表示されます。

### 対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM9020-I

---

WFinitmgr : マネージャ機能初期設定ユティリティを開始します。

## KDWM9021-I

---

WFinitmgr : マネージャ機能初期設定ユティリティを終了します。

## KDWM9022-I

---

WFinitmgr : タイプ定義処理を開始します。

## KDWM9023-I

---

WFinitmgr : タイプ定義処理が終了しました。

## KDWM9024-I

---

WFinitmgr : ワークフロー管理者登録処理, マネージャオブジェクト及び転送キューオブジェクト生成処理を開始します。

## KDWM9025-I

---

WFinitmgr : ワークフロー管理者登録処理, マネージャオブジェクト及び転送キューオブジェクト生成処理が終了しました。

## KDWM9026-I

---

WFinitmgr : 文書クラスを生成します。

## KDWM9027-I

---

WFinitmgr : 文書クラスの生成を終了します。

## KDWM9060-I

---

WFdelwork : ワーク削除ユティリティを開始します。

## KDWM9061-I

---

WFdelwork : ワーク削除ユーティリティを終了します。削除成功ワーク数 : xxx 削除失敗ワーク数 : xxx

## KDWM9062-I

---

WFdelwork : ワーク削除ユーティリティを中止します。

## KDWM9063-I

---

WFdelwork 使用法: WFdelwork [-y] [-d 保存日数] [-b 削除対象ビジネスプロセス定義名 [-v 削除対象ビジネスプロセス定義バージョン]] [-j {put | noput} [-c {yes | no}]]

### 要因

WFdelwork コマンドのフォーマットが不正です。

### 対処

メッセージに出力された形式で再度実行してください。

## KDWM9070-I

---

WFconvdb : データベース移行ユーティリティを開始します。

## KDWM9071-I

---

WFconvdb : データベース移行ユーティリティを終了します。

## KDWM9072-I

---

aaaa : スキーマ更新処理を開始します。

## KDWM9073-I

---

aaaa : スキーマ更新処理を終了します。

## KDWM9074-I

---

aaaa : ジャーナルを取得しないため、障害が発生するとバックアップから回復する必要があります。実行する前に必ずバックアップを取得してください。

### 要因

ジャーナル未取得のモードで実行されたため、障害対策としてバックアップを取得する必要があります。

### 対処

バックアップを取得します。又は、バックアップを取得していることを確認します。

## KDWM9080-I

---

WFdeldb : 環境削除ユティリティを開始します。

## KDWM9081-I

---

WFdeldb : 環境削除ユティリティを終了します。

## KDWM9082-I

---

WFdeldb : xxxx タイプにはオブジェクトがありません。xxxx : タイプ名

## KDWM9083-I

---

WFdeldb : xxxx のタイプ定義を削除します。xxxx : タイプ名

## KDWM9084-I

---

WFdeldb : xxxx のタイプ定義は存在しません。xxxx : タイプ名

## KDWM9085-I

---

WFdeldb : タイプ定義は存在しません。

## KDWM9086-I

---

WFdeldb : xxxx のクラスタードストリングタイプ定義を削除します。  
xxxx : クラスタードストリングタイプ名

## KDWM9087-I

---

WFdeldb : xxxx のクラスタードストリングタイプ定義は存在しません。  
xxxx : クラスタードストリングタイプ名

## KDWM9088-I

---

WFdeldb : クラスタードストリングタイプ定義は存在しません。

## KDWM9089-I

---

WFdeldb : xxxx のリレーション定義を削除します。xxxx : リレーション名

## KDWM9090-I

---

WFdelldb : xxxx のリレーション定義は存在しません。xxxx : リレーション名

## KDWM9091-I

---

WFdelldb : リレーション定義は存在しません。

## KDWM9092-I

---

WFdelldb : xxxx のデータタイプ定義を削除します。xxxx : データタイプ名

## KDWM9093-I

---

WFdelldb : xxxx データタイプ定義は存在しません。xxxx : データタイプ名

## KDWM9094-I

---

WFdelldb : データタイプ定義は存在しません。

## KDWM9095-I

---

WFdelldb : 文書実体ディレクトリを削除します。

## KDWM9096-I

---

WFdeldb : ワークエリアディレクトリを削除します。

## KDWM9098-I

---

WFdeldb : 使用法 : WFdeldb [-f] [-t] [-m { utl | app }]

## KDWM9099-I

---

WFdeldb : 終了ワーク情報ディレクトリを削除します。

## KDWM9120-W

---

WFinitmgr : タイプは既に定義されています。

要因

Groupmax Object Server へのワークフロータイプ定義は、既に完了しています。処理をスキップして続行します。

対処

必要ありません。

## KDWM9121-W

---

WFinitmgr : ユーザ ID が「system」のユーザは既に登録されています。

要因

ユーザ ID が「system」のユーザは既に登録されています。処理をスキップして続行します。

対処

必要ありません。

## KDWM9122-W

---

WFinitmgr : 文書クラスは既に生成されています。

**要因**

文書クラスは既に生成されています。処理をスキップして続行します。

**対処**

必要ありません。

## KDWM9123-W

---

WFinitmgr : オブジェクトサーバからの切り離しでエラーが発生しました。関数名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

**要因**

Groupmax Object Server からの切り離しでエラーが発生しました。

**関数名**

保守情報が表示されます。

**理由コード**

障害の発生元が表示されます。

3, 30000 ~ 39999 : Groupmax Object Server

**詳細コード**

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

**サブコード**

詳細コードのサブコードが表示されます。

**対処**

障害の発生要因を取り除いてください。

## KDWM9124-W

---

WFinitmgr : サーバ機能との切り離しでエラーが発生しました。関数名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

**要因**

サーバ機能との接続の切り離しでエラーが発生しました。ワークフローデータベースの更新は完了しています。

**関数名**

保守情報が表示されます。

**理由コード**

障害の発生元が表示されます。  
20000 ~ 29999 : Groupmax Workflow Server

詳細コード  
WFSV\_errno が表示されます。

サブコード  
保守情報が表示されます。

対処  
障害の発生要因を取り除いて、再度実行してください。

## KDWM9125-W

---

WFinitmgr : マネージャオブジェクトは既に生成されています。

要因  
以前、マネージャ機能環境初期化コマンドを実行した時にマネージャオブジェクト生成は終了しています。処理をスキップして続行します。

対処  
必要ありません。

## KDWM9126-W

---

WFinitmgr : 転送キューオブジェクトは既に生成されています。

要因  
転送キューオブジェクトは、既に生成されています。処理を続行します。

対処  
必要ありません。

## KDWM9160-W

---

WFdelwork : オブジェクトサーバ、又はサーバ機能からの切り離しでエラーが発生しました。関数名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

要因  
Groupmax Object Server 又はサーバ機能からの切り離し時にエラーが発生しました。ワークフローデータベースの更新は完了しています。処理を続行します。

関数名  
保守情報が表示されます。

**理由コード**

障害の発生元が表示されます。

20000 ~ 29999 : Groupmax Workflow Server

30000 ~ 39999 : Groupmax Object Server

40000 ~ 49999 : Groupmax Address Server

**詳細コード**

各プログラムの詳細コード又は WFSV\_errmo が表示されます。

**サブコード**

保守情報が表示されます。

**対処**

障害の発生要因を取り除いて、再度実行してください。

**KDWM9163-W**

---

WFdelwork : データベースが不完全な状態になっています。バックアップからファイルを回復してください。

**要因**

ジャーナルを取得していないため、データベースが不完全な状態になっています。

**対処**

障害の発生要因を取り除いてバックアップファイルからファイルを回復し、再度実行してください。

**KDWM9170-W**

---

aaaa : スキーマは既に更新されています。

**要因**

スキーマは既に更新されています。処理をスキップして続行します。

**対処**

必要ありません。

**KDWM9180-W**

---

WFdeldb : aaaa タイプのオブジェクトを bbbb 件削除します。aaaa :  
タイプ名 bbbb : オブジェクト数

**要因**

aaaa タイプのオブジェクトがありますが、-f オプションが指定されたので削除しま

す。

対処

必要ありません。

## KDWM9181-W

---

WFdeldb : aaaa タイプにはオブジェクトが bbbb 件存在します。aaaa :  
タイプ名 bbbb : オブジェクト数

要因

aaaa クラスのオブジェクトが bbbb 件あります。

対処

オブジェクトを削除する場合は、-f オプションを指定して、再度実行してください。

## KDWM9183-W

---

aaaa : データベースが不完全な状態になっています。バックアップから  
ファイルを回復してください。

要因

ジャーナルを取得していないため、データベースが不完全な状態になっています。

対処

障害の発生要因を取り除き、バックアップファイルからファイルを回復し、再度実行してください。

## KDWM9200-E

---

aaaa : オペレーティングシステムとのインタフェースでエラーが発生し  
ました。関数名 : xxx 理由コード : xxx

要因

オペレーティングシステムに対する処理要求でエラーが発生しました。

関数名

エラーが発生した処理名が表示されます。

理由コード

要求した処理の errno の値が表示されます。

対処

関数名に getpwnam が表示された場合は、ユーザ「system」を登録してください。

その他の場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWM9201-W

---

aaaa : 実行したユーザには実行権限がありません。

### 要因

ユーザに、実行する権限がありません。

### 対処

権限のあるユーザで、再度、ログインしてください。その後、再度実行してください。

## KDWM9202-E

---

aaaa : マネージャ機能の環境が不正です。

### 要因

マネージャ機能の初期設定が正常に終了していません。

### 対処

マネージャ機能環境初期化コマンドを実行してください。

## KDWM9203-W

---

aaaa : 他のプログラムと同時に実行できません。

### 要因

プログラムの競合が発生しました。

### 対処

他のプログラムの終了を待って、再度実行してください。

稼働中バックアップ終了コマンド (WFstpBK) は、次のプログラムが動作している状態では実行できません。

- 稼働中バックアップ開始コマンド (WFstrBK)
- 稼働中バックアップ終了コマンド (WFstpBK)

また、稼働中バックアップ開始コマンド (WFstrBK) は、マルチサーバ機能、ドメイン間連携機能のサーバや次のプログラムが動作している状態では実行できません。

- サーバ機能環境初期化コマンド (WFinitsv)
- マネージャ機能環境初期化コマンド (WFinitmgr)
- ロール定義更新コマンド (WFdefrl)
- ユーザ定義更新コマンド (WFdefusr)

- 環境削除コマンド (WFdeldb)
- データベース移行コマンド (WFconvertdb)
- ワーク削除コマンド (WFdelwork)
- ワークフローログ出力コマンド (WFdestlg)
- ファイル整合性チェックコマンド (WFfsck)
- ユーザ定義コマンド (WFregusr)
- 稼働中バックアップ開始コマンド (WFstrBK)
- 稼働中バックアップ終了コマンド (WFstpBK)

上記プログラムが実行されている場合は、プログラムが終了してから、稼働中バックアップ開始コマンドを再度実行してください。

なお、マルチサーバ機能又はドメイン間連携機能のサーバが起動されている場合、サーバを停止すると稼働中バックアップ開始コマンドは実行できますが、取得した稼働中バックアップデータは無効です。

マルチサーバ機能又はドメイン間連携機能のサーバが起動されている場合、ワークフローのすべてのサーバを停止して、バックアップを取得してください。

## KDWM9204-E

---

aaaa : プログラムエラーが発生しました。関数名 : xxx 理由コード :  
xxx ファイル名 : xxx 場所 : xxx

### 要因

プログラムエラーが発生しました。

#### 関数名

保守情報が表示されます。

#### 理由コード

保守情報が表示されます。

#### ファイル名

保守情報が表示されます。

#### 場所

保守情報が表示されます。

### 対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM9205-E

---

aaaa : オプションにパラメタが指定されていません。オプション名 :  
xxx

### 要因

コマンドのオプションにパラメタが指定されていません。

### オプション名

パラメタが指定されていないオプション名が表示されます。

### 対処

コマンドのオプションを見直して、再度実行してください。

## KDWM9206-E

---

aaaa : オプションのパラメタが指定範囲を超えています。オプション  
名 : xxx

### 要因

コマンドのオプションに指定したパラメタが指定範囲を超えています。

### オプション名

指定範囲を超えて指定されたオプション名が表示されます。

### 対処

パラメタを見直して、再度実行してください。

## KDWM9207-E

---

aaaa : オプションのパラメタが不正です。オプション名 : xxx

### 要因

コマンドのオプションに不正なパラメタが指定されています。

### オプション名

不正なパラメタが指定されたオプション名が表示されます。

### 対処

パラメタを見直して、再度実行してください。

## KDWM9208-E

---

aaaa : 不正なオプションが指定されています。

要因

コマンドに不正なオプションが指定されています。

対処

オプションを見直して、再度実行してください。

## KDWM9209-E

---

aaaa : オプションが重複しています。オプション名 : xxx

要因

コマンドのオプションが重複して指定されています。

オプション名

重複して指定されたオプション名が表示されます。

対処

オプションを見直して、再度実行してください。

## KDWM9210-E

---

aaaa : オプションの組み合わせが不正です。

要因

コマンドのオプションの組み合わせが不正です。

対処

オプションの組み合わせを見直して、再度実行してください。

## KDWM9211-E

---

aaaa : メモリ不足が発生しました。

要因

メモリが確保できませんでした。

対処

不要なプロセスを終了させるか又はスワップ領域を増分してから、再度実行してください。

## KDWM9212-W

---

aaaa : ログインユーザは、ワークフローユーザクラスに登録されていません。

要因

ログインユーザが、ワークフローデータベースに登録されていません。

対処

ログインユーザをワークフローデータベースに登録後、再度実行してください。

## KDWM9213-W

---

aaaa : ログインユーザは、ワークフローユーザクラスに複数登録されています。

要因

ログインユーザが、ワークフローデータベースに複数登録されています。

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM9214-E

---

aaaa : オブジェクトサーバのキャッシュメモリが一杯です。

要因

Groupmax Object Server のキャッシュメモリが一杯です。

対処

不要なプロセスを終了させるか又はスワップ領域を増分してから、再度実行してください。

## KDWM9215-E

---

aaaa : 通信環境不正のため、サーバ機能と接続できません。

要因

サーバ機能と接続しようとしたが、通信環境不正のため失敗しました。

対処

通信設定ファイル (HOSTS ファイル) 中に正しくホスト名が設定されているか確認してください。又は、再度実行してください。何度実行しても再発する場合は、通

信環境（ソケットの上限）を見直すか、システム管理者に連絡してください。

## KDWM9216-W

---

aaaa : サーバ機能が起動されていないため、サーバ機能と接続できません。

### 要因

サーバ機能が起動されていないため、サーバ機能と接続できませんでした。

### 対処

サーバ機能を起動してから、再度実行してください。

## KDWM9217-W

---

aaaa : ユーザ名不正、又はパスワード不正のため、サーバ機能と接続できません。

### 要因

サーバ機能と接続しようとしたますが、次の要因で接続できませんでした。

- ユーザ ID が不正
- パスワードが不正
- 自サーバのホスト名が不正

### 対処

ユーザ ID、パスワード又はホスト名を見直して、再度実行してください。

## KDWM9218-W

---

aaaa : サーバ機能でエラーが発生しました。関数名 : xxx 詳細コード : xxx  
ファイル名 : xxx 場所 : xxx

### 要因

サーバ機能でエラーが発生しました。

#### 関数名

保守情報が表示されます。

#### 詳細コード

WFSV\_errno が表示されます。

#### ファイル名

保守情報が表示されます。

#### 場所

保守情報が表示されます。

#### 対処

障害の発生要因を取り除いて、再度実行してください。

## KDWM9219-W

---

aaaa : オブジェクトサーバでエラーが発生しました。関数名 : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx ファイル名 : xxx 場所 : xxx

#### 要因

Groupmax Object Server でエラーが発生しました。

##### 関数名

保守情報が表示されます。

##### 詳細コード

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

##### サブコード

詳細コードのサブコードが表示されます。

##### ファイル名

保守情報が表示されます。

##### 場所

保守情報が表示されます。

#### 対処

障害の発生要因を取り除いてください。

## KDWM9220-E

---

WFinitmgr : 実行したユーザには実行権がありません。

#### 要因

ユーザに、実行する権限がありません。

#### 対処

権限のあるユーザで、再度ログインしてください。その後、再度実行してください。

## KDWM9221-W

---

WFinitmgr : オブジェクトサーバとの接続に失敗しました。関数名 : xxx  
理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

### 要因

Groupmax Object Server との接続に失敗しました。

### 関数名

保守情報が表示されます。

### 理由コード

障害の発生元が表示されます。

3 , 30000 ~ 39999 : Groupmax Object Server

### 詳細コード

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

### サブコード

詳細コードのサブコードが表示されます。

### 対処

障害の発生要因を取り除いて、再度実行してください。

## KDWM9222-W

---

WFinitmgr : オブジェクトサーバのトランザクション開始時にエラーが発生しました。関数名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

### 要因

Groupmax Object Server のトランザクションを開始できませんでした。

### 関数名

保守情報が表示されます。

### 理由コード

障害の発生元が表示されます。

200 , 20000 ~ 29999 : Groupmax Workflow Server

3 , 30000 ~ 39999 : Groupmax Object Server

40000 ~ 49999 : Groupmax Address Server

### 詳細コード

各プログラムの詳細コード又は WFSV\_errno が表示されます。

### サブコード

詳細コードのサブコードが表示されます。

## 対処

障害の発生要因を取り除いて、再度実行してください。

## KDWM9223-W

---

WFinitmgr : トランザクションの終了時にエラーが発生しました。関数名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

## 要因

Groupmax Object Server のトランザクションを終了できませんでした。

## 関数名

保守情報が表示されます。

## 理由コード

障害の発生元が表示されます。

200 , 20000 ~ 29999 : Groupmax Workflow Server

3 , 30000 ~ 39999 : Groupmax Object Server

40000 ~ 49999 : Groupmax Address Server

## 詳細コード

各プログラムの詳細コード又は WFSV\_errno が表示されます。

## サブコード

詳細コードのサブコードが表示されます。

## 対処

障害の発生要因を取り除いて、再度、実行してください。

## KDWM9224-W

---

WFinitmgr : オブジェクトサーバでエラーが発生しました。関数名 : xxx  
理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

## 要因

Groupmax Object Server でエラーが発生しました。

## 関数名

保守情報が表示されます。

## 理由コード

障害の発生元が表示されます。

20000 ~ 29999 : Groupmax Workflow Server

3 , 30000 ~ 39999 : Groupmax Object Server

40000 ~ 49999 : Groupmax Address Server

## 詳細コード

各プログラムの詳細コード又は WFSV\_errno が表示されます。

サブコード

詳細コードのサブコードが表示されます。

対処

障害の発生要因を取り除いて、再度実行してください。

## KDWM9225-E

---

WFinitmgr : サーバ機能でエラーが発生しました。関数名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

要因

Groupmax Workflow でエラーが発生しました。

関数名

保守情報が表示されます。

理由コード

障害の発生元が表示されます。

20000 ~ 29999 : Groupmax Workflow Server

詳細コード

WFSV\_errno が表示されます。

サブコード

保守情報が表示されます。

対処

障害の発生要因を取り除いて、再度実行してください。

## KDWM9226-W

---

WFinitmgr : タイプ定義処理に失敗しました。

要因

ワークフローの各オブジェクトのタイプ定義処理に失敗しました。

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM9227-W

---

WFinitmgr : ワークフロー管理者登録処理及びマネージャオブジェクト生成処理に失敗しました。

**要因**

ワークフロー管理者のワークフローユーザオブジェクトの生成に失敗しました。

**対処**

直前に出力したメッセージの要因を取り除き、再度実行してください。

## KDWM9228-E

---

WFinitmgr : 文書クラスの生成に失敗しました。

**要因**

文書クラスの作成に失敗しました。

**対処**

直前に出力したメッセージの要因を取り除き、再度実行してください。

## KDWM9229-E

---

WFinitmgr : サーバ機能との接続に失敗しました。関数名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

**要因**

サーバ機能との接続に失敗しました。

**関数名**

保守情報が表示されます。

**理由コード**

障害の発生元が表示されます。

20000 ~ 29999 : Groupmax Workflow Server

**詳細コード**

WFSV\_errno が表示されます。

**サブコード**

保守情報が表示されます。

**対処**

障害の発生要因を取り除いて、再度実行してください。

## KDWM9230-W

---

WFinitmgr : マネージャ機能初期設定ユティリティは既に起動されています。

要因

マネージャ機能環境初期化コマンドは、既に実行中です。

対処

必要であれば、マネージャ機能環境初期化コマンドが終了した後、再度実行してください。

## KDWM9231-E

---

WFinitmgr : メモリ不足が発生しました。

要因

作業領域が確保できませんでした。

対処

不要なプロセスを終了させるか又はスワップ領域を増分してから、再度実行してください。

## KDWM9232-E

---

WFinitmgr : 旧バージョンのワークフローデータベースが存在します。

要因

動作環境を初期化しようとしたが、既に旧バージョンで作成したワークフローデータベースがあるため処理を中止しました。

対処

旧バージョンのワークフローデータベースを現バージョン用に移行する場合は、データベース移行コマンドを実行してください。旧バージョンのワークフローデータベースを初期化し、現バージョンのワークフローデータベースを作成する場合は、Groupmax Object Server の環境を初期化した後に、サーバ機能の環境を再度初期化してください。

## KDWM9260-E

---

WFdelwork : プログラムエラーが発生しました。理由コード : xxx

要因

プログラムエラーが発生しました。

理由コード

障害の発生元が表示されます。

20000 ~ 29999 : Groupmax Workflow Server

30000 ~ 39999 : Groupmax Object Server

40000 ~ 49999 : Groupmax Address Server

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWM9261-W

---

WFdelwork : ワーク削除ユティリティは既に起動されています。

要因

ワーク削除コマンドは、既に実行中です。

対処

ワーク削除コマンドが終了した後、再度実行してください。

## KDWM9262-E

---

WFdelwork : メモリ不足が発生しました。詳細コード : xxx

要因

メモリが確保できませんでした。

詳細コード

保守情報が表示されます。

対処

不要なプロセスを終了させるか又はスワップ領域を増分してから、再度実行してください。

## KDWM9270-E

---

aaaa : 移行対象のワークフローデータベースが見付かりません。

要因

移行対象のワークフローデータベースが見付かりません。

対処

環境変数 (XODDIR) の内容を見直してください。又は、Groupmax Object Server の環境を見直してください。

## KDWM9271-E

---

aaaa : ユティリティは既に起動されています。

要因

コマンドを起動しようとしたが、既に起動しているため起動できません。

対処

必要であれば、起動中のコマンドが終了した後、再度実行してください。

## KDWM9272-E

---

aaaa : ワークフローデータベースに格納先エリアが作成されていません。

要因

コマンドの実行に必要なエリアが作成されていません。

対処

コマンドの実行に必要なエリアを追加した後、再度実行してください。

- ワークフローデータベースの移行時に、このメッセージが出力された場合、「2.6 ワークフローデータベースの移行」を参照して、必要なエリアを作成してください。
- 動作環境の初期化時に、このメッセージが出力された場合、「2.4.2 Groupmax Object Server での環境設定」を参照して、必要なエリアを作成してください。

## KDWM9273-E

---

aaaa : オブジェクトサーバでエラーが発生しました。関数名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

要因

Groupmax Object Server でエラーが発生しました。

関数名

保守情報が表示されます。

理由コード

障害の発生元が表示されます。

3, 30000 ~ 39999 : Groupmax Object Server

詳細コード

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

サブコード

詳細コードのサブコードが表示されます。

例

(例 1)

KDWM9273-E オブジェクトサーバでエラーが発生しました。関数名：  
XO\_get\_next\_definition\_in\_schema 理由コード：0 詳細コード：14 サブコー  
ド：0  
要因及び対処方法を次の表に示します。

要 因	説 明	対 処
失敗している 場合	WFdeldb コマンド、又は手動での Workflow 環境の 削除が失敗しました。KDWSxxx(KDWS802-W 以 外のエラー)のメッセージが出力されていることを 確認してください。	再度、WFdeldb コマンドを実行 して Workflow 環境を削除しま す。WFdeldb コマンドが正常終 了したことを確認後、再度初期 化してください。
スキップして いる場合	KDWS802-W (WFinitstv : サーバ機能は既に初期化 されています。)のメッセージを確認してください。 この場合、旧ワークフローデータベースの次に示す ディレクトリのうち、どれかが残っています。 /Flowmate/doc : 文書実体ディレクトリ /Flowmate/ export : ワークエリアディレクトリ	再度、WFdeldb コマンドを実行 して Workflow 環境を削除しま す。WFdeldb コマンドが正常終 了したことを確認後、再度初期 化してください。

(例 2)

KDWM9273-E オブジェクトサーバでエラーが発生しました。関数名：xxx 理  
由コード：3000 詳細コード：17 サブコード：-739 又は -1814  
要因：Groupmax Object Server が起動されていません。

対処

障害の発生要因を取り除いて、再度実行してください。

なお、サブコードが -454 の場合、ロック資源が不足しています。この場合、次に示  
す 1. 又は 2. の対処を実行してください。1. を推奨しますが、運用上不可能な場合  
は、2. を実行してください。

1. -m utl オプションを指定して環境削除コマンド (WFdeldb) を実行します。  
詳細は「4.3 運用コマンドの文法」の「WFdeldb (環境削除コマンド)」を参照し  
てください。
2. Groupmax Object Server の再編成コマンドを実行後、環境削除コマンド  
(WFdeldb) を再実行します。  
詳細はマニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」  
を参照してください。

## KDWM9282-E

---

Wfdeldb : 引数指定に誤りがあります。

要因

引数指定に誤りがあります。

対処

正しい引数を指定して、再度実行してください。

## KDWM9283-E

---

Wfdeldb : 環境削除ユティリティを中止します。

要因

環境削除コマンドを中止します。

対処

このメッセージの前に出力されたメッセージに従って対処してください。

## KDWM9284-E

---

Wfdeldb : 文書実体ディレクトリの削除に失敗しました。

要因

文書実体ディレクトリの削除に失敗しました。

対処

直前に出力されたシステムメッセージに基づいて、障害の発生原因を取り除き、再度実行してください。

## KDWM9285-E

---

Wfdeldb : ワークエリアディレクトリの削除に失敗しました。

要因

ワークエリアディレクトリの削除に失敗しました。

対処

直前に出力されたシステムメッセージに基づいて、障害の発生原因を取り除き、再度実行してください。

## KDWM9286-E

---

WFdeldb : xxxx のタイプ定義は常駐化されているため削除できません。

xxxx : タイプ名

要因

xxxx のタイプ定義は常駐化されているため削除できません。

対処

xxxx のタイプ定義の常駐化の指定を解除して Groupmax Object Server を再起動し、再度実行してください。

## KDWM9287-E

---

WFdeldb : 終了ワーク情報ディレクトリの削除に失敗しました。

要因

ワーク削除ファイルディレクトリの削除に失敗しました。

対処

ワーク削除ファイルディレクトリを手動で削除してください。  
格納パスを環境設定ファイルで確認し、delwk ディレクトリ下をすべて削除します。

## KDWM9288-E

---

aaaa : ディスクの容量不足が発生しました。

要因

ディスクの容量不足が発生しました。

対処

ディスク容量を見直してください。

## KDWM9289-E

---

aaaa : オブジェクトサーバの実行モードが違います。

要因

aaaa ユティリティの Groupmax Object Server の実行モードが違うため、実行できません。

対処

コマンドのオプション指定と Groupmax Object Server の実行モードが正しいかを

見直して、再度実行してください。詳細は各コマンドの指定方法を参照してください。

## KDWM9290-E

---

aaaa : 環境設定ファイルに指定した対象最上位組織 ID がアドレスサーバに登録されていません。最上位組織 ID : xxx

### 要因

環境設定ファイルに指定した対象最上位組織 ID ( company\_id ) がアドレスサーバに登録されていません。

### 最上位組織 ID

登録されていない最上位組織 ID が表示されます。二つ以上ある場合は、最初の一つが表示されます。

### 対処

環境設定ファイルに指定した対象最上位組織 ID ( company\_id ) を見直して再実行してください。

## KDWM9300-W

---

aaaa : 排他処理でエラーが発生しました。関数名 : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx ファイル名 : xxx 場所 : xxx

### 要因

ロックエラーが発生しました。

### 関数名

保守情報が表示されます。

### 詳細コード

保守情報が表示されます。

### サブコード

保守情報が表示されます。

### ファイル名

保守情報が表示されます。

### 場所

保守情報が表示されます。

### 対処

再度実行してください。繰り返し発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWM9320-E

---

WFinitmgr : オペレーティングシステムとのインタフェースでエラーが発生しました。関数名 : xxx 理由コード : xxx

### 要因

オペレーティングシステムとのインタフェースでエラーが発生しました。

### 関数名

エラーの発生した処理名が表示されます。

### 理由コード

要求した処理の errno 値が表示されます。

### 対処

関数名, 及び理由コードを参照して障害の要因を取り除いてください。必要に応じてシステム管理者に連絡してください。

## KDWM9322-E

---

aaaa : サーバ機能管理ファイルの作成に失敗しました。理由コード : xxx 付加情報 : xxx

### 要因

サーバ機能管理ファイルの作成中に障害が発生しました。

### 理由コード

保守情報が表示されます。

### 付加情報

保守情報が表示されます。

### 対処

再度, aaaa コマンドを実行してください。繰り返し発生する場合は, システム管理者に連絡してください。

## KDWM9980-Q

---

WFdeldb : ワークフローデータベースを削除します。実行しますか？  
(y / n)

## KDWM9981-Q

---

WFdelwork : ジャーナルを取得しないため、障害が発生するとバックアップから回復する必要があります。実行する前に必ずバックアップを取得してください。対象となるワークを削除しますか？ (y / n)

## サーバ機能のメッセージ

---

サーバ機能のメッセージを以降に示します。

## KDWS000-I

---

WFserver : サーバ機能が開始中です。

## KDWS001-I

---

WFserver : サーバ機能を開始しました。ジャーナルモード : xxx

### 要因

サーバ機能が正常に開始されました。

### ジャーナルモード

High-end : ジャーナル取得高速オプションを指定して実行

Normal : ジャーナル取得高速オプションなしで実行

### 対処

必要ありません。

## KDWS002-I

---

WFserver : サーバ機能が終了中です。

## KDWS003-I

---

WFserver : サーバ機能を終了しました。

## KDWS004-I

---

WFserver : 通信ポートの割り当てに失敗しました。サーバ機能を再起動します。

### 要因

通信ポートが使用できないため、通信ポートの割り当てに失敗しました。サーバ機能を再起動します。

### 対処

必要ありません。

## KDWS005-I

---

WFserver : ベースサービスプロセスが終了しました。サービス名 : xxx  
プロセス ID : xxx 終了コード : xxx

### 要因

終了コードに示す要因でベースサービスが終了しました。

### サービス名

ベースサービスのサービスの種類が表示されます。

DBservice : 更新系, 検索系, 又はコネクションサービス

ConnectService : コネクションサービス

ReferenceService : 検索サービス

### プロセス ID

終了したベースサービスプロセスのプロセス ID が表示されます。

### 終了コード

終了コードが表示されます。

### 対処

終了コードとその対処について次の表に示します。

終了コード	対処
0x00000000	正常終了のため、対処は不要です。
0x00000001	このメッセージの前に KDWS010-I メッセージが出力されている場合は、正常終了のため、対処は不要です。KDWS010-I メッセージが出力されていない場合は、システム管理者に連絡してください。
上記以外	システム管理者に連絡してください。

## KDWS007-I

WFserver : ベースサービスプロセスを回復しました。サービス名 : xxx  
プロセス ID : xxx

### 要因

ベースサービスプロセスを回復しました。

### サービス名

ベースサービスのサービスの種類が表示されます。

DBservice : 更新系, 検索系又はコネクションサービス

ConnectService : コネクションサービス

ReferenceService : 検索サービス

### プロセス ID

回復したベースサービスプロセスのプロセス ID が表示されます。

### 対処

必要ありません。

## KDWS010-I

WFserver : 処理したサービスが最大サービス数を超えたため、ベースサービスプロセスを終了します。サービス名 : xxx プロセス ID : xxx  
ランザクション数 : xxx

### 要因

処理したサービスが最大サービス数を超えたため、ベースサービスプロセスを終了します。

### サービス名

終了したベースサービスのサービスの種類が表示されます。

DBservice : 更新系, 検索系又はコネクションサービス

ConnectService : コネクションサービス

ReferenceService : 検索サービス

**プロセス ID**

終了したベースサービスプロセスのプロセス ID が表示されます。

**トランザクション数**

終了したベースサービスが処理したトランザクション数 (API サービス数) が表示されます。

**対処**

ベースサービスプロセスは、処理したサービスが最大サービス数を超えると、いったん終了した後、自動的に再起動します。このため、対処は不要です。

## KDWS011-I

---

WFserver : 再ログインを受け付けたため、強制ログアウトしました。  
 ユーザ ID : xxx 接続 IP アドレス : xxx 切断 IP アドレス : xxx 保守  
 情報 : xxx

**要因**

次のどちらかの条件で、同一ユーザ ID で既に別 IP アドレスのクライアントからログインされているため、そのセッションを強制的にログアウトしました。

- サーバの環境設定で再ログインに `yes` が指定されている。
- サーバの環境設定で再ログインに `client` が指定されていて、ログインしようとしているクライアントで後着優先ログインが設定されている。

**ユーザ ID**

強制ログアウトしたユーザ ID が表示されます。

**接続 IP アドレス**

再接続する IP アドレスが表示されます。

**切断 IP アドレス**

切断された IP アドレスが表示されます。

**保守情報**

保守情報が表示されます。

**対処**

強制ログアウト後に再ログインした場合、Groupmax Integrated Desktop 又は Groupshop で案件を処理しようとする時、この案件はほかのプログラムで使用中的可能性があります、というメッセージが表示されることがあります。この場合は「処理を続行しますか？」で「はい」を選択して処理を続行してください。

## KDWS100-E

WFserver : サーバ機能の開始に失敗しました。要因 : xxx 理由コード :  
xxx

## 要因

サーバ機能の開始に失敗したため、処理を中止しました。

## 要因

要因が表示されます。

## 理由コード

保守情報が表示されます。

## 対処

要因の内容と対処について次に示します。

要因	内容	対処
Already bind	既にサーバ機能が起動されています。	必要に応じて、起動済みのサーバ機能を終了させてから再起動してください。
Initialize error	初期設定処理中にエラーが発生しました。	このメッセージの前にメッセージが表示されている場合は、表示されているメッセージの障害の要因を取り除いてください。表示されていない場合は、システム管理者に連絡してください。
No memory	メモリ不足が発生しました。	メモリ所要量を見直してください。
No service	<ul style="list-style-type: none"> <li>サービス名 ( workflow ) が SERVICES ファイルに登録されていません。</li> <li>環境変数「WF_PATH」で指定された環境に対応するサービス名 ( workflow ) が SERVICES ファイルに登録されていません。</li> </ul>	次の要因が考えられます。要因を取り除いてからサーバ機能を再起動してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>サービス名 ( workflow ) が SERVICES ファイルに正しく登録されていない。</li> <li>"WF_PATH" 環境変数の指定が誤っている。</li> <li>WFsetup コマンドが未実行状態又は実行失敗状態である。</li> <li>/ets/services のサービス名が WFsetup コマンド実行後、変更されている。</li> </ul>
config error	ファイルアクセス中にエラーが発生しました。または、環境設定ファイルの記述内容に誤りがあります。	/Flowmate/etc/config があるか、また記述内容が正しいかどうか確認してください。
CompanyId not found	環境設定ファイルで指定された最上位組織 ID がアドレスサーバに登録されていません。	環境設定ファイルに指定された最上位組織 ID がアドレスサーバに登録されているかどうかを確認して、サーバ機能を再起動してください。このメッセージより前に KDWD0260-E メッセージが出力されている場合は、KDWD0260-E メッセージの対処も行ってください。
上記以外	-	システム管理者に連絡してください。

## ( 凡例 )

- : 該当しません。

## KDWS101-E

---

WFserver : サーバ機能の終了中に障害が発生しました。要因 : xxx 理由コード : xxx

### 要因

サーバ機能の終了中に障害が発生したため、処理を中止しました。

### 要因

要因が表示されます。

### 理由コード

保守情報が表示されます。

### 対処

要因の内容と対処について次に示します。

要 因	内 容	対 処
Permission denied	実行権限がありません。	スーパーユーザで実行してください。
Invalid option	オプションが不正です。	正しいオプションを指定して実行してください。
WFserver don't exist	サーバ機能が起動されていません。	必要ありません。

## KDWS102-E

---

WFserver : オペレーティングシステムとのインタフェースでエラーが発生しました。セッション名 : xxx 関数名 : xxx 理由コード : xxx 付加情報 : xxx

### 要因

オペレーティングシステムに対する処理要求でエラーが発生しました。

### セッション名

セッションを利用しているユーザのユーザ ID が表示されます。ただし、デーモンプロセスでは、「\*\*\*\*\*」が表示されます。

### 関数名

エラーの発生した処理名が表示されます。

### 理由コード

要求した処理の errno 値が表示されます。

### 付加情報

必要に応じて保守情報が表示されます。

### 対処

errno 値を参照し、障害の要因を取り除いてください。

## KDWS103-E

---

WFserver : 通信エラーが発生しました。セッション名 : xxx 関数名 : xxx  
理由コード : xxx 付加情報 : xxx

### 要因

サーバ間若しくはサーバとクライアント間の LAN で障害が発生したか、又はサーバ若しくはクライアントの異常終了によって、通信障害が発生しました。

### セッション名

セッションを利用しているユーザのユーザ ID が表示されます。ただし、デーモンプロセスでは、「\*\*\*\*\*」が表示されます。

### 関数名

エラーの発生した処理名が表示されます。

### 理由コード

要求した処理の errno 値が表示されます。

### 付加情報

保守情報が表示されます。

### 対処

クライアントから再度ログインしてください。ログインできない場合は、LAN 環境の障害と考えられます。コネクタなどが正しく接続されているか確認してください。付加情報が「WFsesserv receive timeout」又は「WFbaseSV receive timeout」となっているこのメッセージが頻繁に出力される場合、ワークフローサーバの環境設定ファイルで「サーバ間通信監視時間」の値を大きくして、ワークフローサーバを再起動してください。

## KDWS104-E

---

WFserver : メモリ不足が発生しました。セッション名 : xxx 領域種別 :  
xxx 領域名 : xxx 領域サイズ : xxx

### 要因

メモリ不足が発生しました。

### セッション名

セッションを利用しているユーザのユーザ ID が表示されます。ただし、デーモンプロセスでは、「\*\*\*\*\*」が表示されます。

### 領域種別

プロセスローカルメモリの不足の場合は、「LOCAL」が表示されます。また、共有メモリの不足の場合は、「SHARED」と表示されます。

### 領域名

保守情報が表示されます。

#### 領域サイズ

取得に失敗した領域サイズが表示されます。

#### 対処

スワップエリアサイズを含めたメモリ容量を見直してください。

## KDWS105-E

---

WFserver : ファイルシステムの容量が一杯です。セッション名 : xxx パス名称 : xxx 関数名 : xxx 理由コード : xxx 付加情報 : xxx

#### 要因

ファイルシステムの容量が一杯です。

#### セッション名

セッションを利用しているユーザのユーザ ID が表示されます。ただし、デーモンプロセスでは、「\*\*\*\*\*」が表示されます。

#### パス名称

操作対象のパス名が表示されます。

#### 関数名

エラーの発生した処理名が表示されます。

#### 理由コード

要求した処理の errno 値が表示されます。

#### 付加情報

必要に応じて保守情報が表示されます。

#### 対処

表示されたパスのファイルシステムの容量を見直してください。

不要な文書実体ファイルが残る場合がありますので、WFfsck コマンドを実行してください。

このメッセージの出力時に、不要な文書実体ファイルが残る場合として、次のものがあります。

- ビジネスプロセス定義で複写ノードを使用し、多数の複写を行っている場合。

## KDWS106-E

---

WFserver : ファイルシステムに入出力エラーが発生しました。セッション名 : xxx パス名称 : xxx 関数名 : xxx 理由コード : xxx 付加情報 : xxx

#### 要因

ファイルの入出力時にエラーが発生しました。案件にファイルを添付しようとした

ときにこのエラーが発生した場合は、添付しようとしたファイルのファイル名にサーバの OS 上ではファイル名として扱えない文字コードが含まれている可能性があります。

セッション名

セッションを利用しているユーザのユーザ ID が表示されます。ただし、デーモンプロセスでは、「\*\*\*\*\*」が表示されます。

パス名称

操作対象のパス名が表示されます。

関数名

エラーの発生した処理名が表示されます。

理由コード

要求した処理の errno 値が表示されます。

付加情報

必要に応じて保守情報が表示されます。

対処

表示された関数名と理由コードを参照して、障害要因を取り除いてください。案件にファイルを添付しようとしたときにこのエラーが発生した場合は、「2.4.3(1)(a) 環境設定ファイルの記述形式」の「document\_name\_check(添付文書ファイル名称チェック)」を参照して、添付しようとしたファイル名に誤りがないか確認してください。ファイル名に誤りがあった場合は、ほかのファイル名に変更して、再度実行してください。

## KDWS107-E

---

WFserver : ファイルシステムにエラーが発生しました。セッション名 : xxx  
パス名称 : xxx 関数名 : xxx 理由コード : xxx 付加情報 : xxx

要因

ファイルシステムにエラーが発生しました。

セッション名

セッションを利用しているユーザのユーザ ID が表示されます。ただし、デーモンプロセスでは、「\*\*\*\*\*」が表示されます。

パス名称

操作対象のパス名が表示されます。

関数名

エラーの発生した処理名が表示されます。

理由コード

要求した処理の errno 値が表示されます。

## 付加情報

必要に応じて保守情報が表示されます。

## 対処

表示された関数名と理由コードを参照して、障害要因を取り除いてください。必要に応じてシステム管理者に連絡してください。

## KDWS108-E

---

WFserver : オブジェクト管理ファイルが満杯です。セッション名 : xxx  
オブジェクト ID : xxx 関数名 : xxx 理由コード : xxx 付加情報 : xxx

## 要因

オブジェクト管理ファイルの容量が一杯です。

## セッション名

セッションを利用しているユーザのユーザ ID が表示されます。ただし、デーモンプロセスでは、「\*\*\*\*\*」が表示されます。

## オブジェクト ID

操作対象の Groupmax Object Server のオブジェクト ID が表示されます。

## 関数名

エラーの発生したオペレーティングシステムの関数 (システムコール) 名が表示されます。

## 理由コード

理由コードが表示されます。

## 付加情報

付加情報が表示されます。

## 対処

ファイル容量を見直してください。

## KDWS109-E

---

WFserver : サーバ機能管理ファイルに入出力エラーが発生しました。セッション名 : xxx 関数名 : xxx 理由コード : xxx 付加情報 : xxx

## 要因

初期設定を実行していないか又は正常終了していないことが考えられます。

## セッション名

セッションを利用しているユーザのユーザ ID が表示されます。ただし、デーモンプロセスでは、「\*\*\*\*\*」が表示されます。

関数名

保守情報が表示されます。

理由コード

保守情報が表示されます。

付加情報

保守情報が表示されます。

対処

「2.4.3 Groupmax Workflow での環境設定」を参照して、サーバ機能の環境を正しく初期化した後、再度実行してください。

## KDWS110-E

---

WFserver : オブジェクト操作時に予期しないエラーが発生しました。セッション名 : xxx オブジェクト ID : xxx 関数名 : xxx 位置コード : xxx 理由コード : xxx 付加情報 : xxx

要因

オブジェクト操作時に予期しないエラーが発生しました。

セッション名

セッションを利用しているユーザのユーザ ID が表示されます。ただし、デーモンプロセスでは、「\*\*\*\*\*」が表示されます。

オブジェクト ID

操作対象のオブジェクト ID が表示されます。

関数名

保守情報が表示されます。

位置コード

保守情報が表示されます。

理由コード

保守情報が表示されます。

付加情報

保守情報が表示されます。

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWS111-E

---

WFserver : ワークエリアが一杯です。セッション名 : xxx パス名称 : xxx  
関数名 : xxx 理由コード : xxx 付加情報 : xxx

### 要因

ワークエリアの容量が一杯です。

### セッション名

セッションを利用しているユーザのユーザ ID が表示されます。ただし、デーモンプロセスでは、「\*\*\*\*\*」が表示されます。

### パス名称

操作対象のパス名が表示されます。

### 関数名

エラーの発生した処理名が表示されます。

### 理由コード

要求した処理の errno 値が表示されます。

### 付加情報

必要に応じて保守情報が表示されます。

### 対処

ファイル容量を見直してください。

## KDWS112-E

---

WFserver : ワークエリアに入出力エラーが発生しました。セッション名 :  
xxx パス名称 : xxx 関数名 : xxx 理由コード : xxx 付加情報 : xxx

### 要因

ワークエリアにアクセス中、エラーが発生しました。

### セッション名

セッションを利用しているユーザのユーザ ID が表示されます。ただし、デーモンプロセスでは、「\*\*\*\*\*」が表示されます。

### パス名称

操作対象のパス名が表示されます。

### 関数名

エラーの発生した処理名が表示されます。

### 理由コード

要求した処理の errno 値が表示されます。

### 付加情報

必要に応じて保守情報が表示されます。

対処

表示された関数名と理由コードを参照して、障害要因を取り除いてください。

## KDWS113-E

---

WFserver : ワークエリアにエラーが発生しました。セッション名 : xxx パス名称 : xxx 関数名 : xxx 理由コード : xxx 付加情報 : xxx

要因

ワークエリアにエラーが発生しました。

セッション名

セッションを利用しているユーザのユーザ ID が表示されます。ただし、デーモンプロセスでは、「\*\*\*\*\*」が表示されます。

パス名称

操作対象のパス名が表示されます。

関数名

エラーの発生した関数名が表示されます。

理由コード

保守情報が表示されます。

付加情報

必要に応じて保守情報が表示されます。

対処

表示された関数名と理由コードを参照して、障害要因を取り除いてください。

## KDWS114-E

---

WFserver : オブジェクトサーバとの接続に失敗しました。セッション名 : xxx 理由コード : xxx 付加情報 : xxx

要因

Groupmax Object Server との接続に失敗しました。

セッション名

セッションを利用しているユーザのユーザ ID が表示されます。ただし、デーモンプロセスでは、「\*\*\*\*\*」が表示されます。

理由コード

WFSV\_errno が表示されます。

付加情報

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

#### 対処

障害の発生要因を取り除き，再度実行してください。

## KDWS115-E

---

WFserver : オブジェクトサーバからの切り離しに失敗しました。セッション名 : xxx 理由コード : xxx 付加情報 : xxx

#### 要因

Groupmax Object Server からの切り離しに失敗しました。

#### セッション名

セッションを利用しているユーザのユーザ ID が表示されます。ただし，デーモンプロセスでは，「\*\*\*\*\*」が表示されます。

#### 理由コード

WFSV\_errno が表示されます。

#### 付加情報

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

#### 対処

障害の発生要因を取り除き，再度実行してください。

## KDWS116-E

---

WFserver : オブジェクトサーバのトランザクション開始時にエラーが発生しました。セッション名 : xxx 理由コード : xxx 付加情報 : xxx

#### 要因

トランザクションの開始に失敗しました。

#### セッション名

セッションを利用しているユーザのユーザ ID が表示されます。ただし，デーモンプロセスでは，「\*\*\*\*\*」が表示されます。

#### 理由コード

WFSV\_errno が表示されます。

#### 付加情報

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

#### 対処

障害の発生要因を取り除き，再度実行してください。

## KDWS117-E

---

WFserver : トランザクションの終了時にエラーが発生しました。セッション名 : xxx 理由コード : xxx 付加情報 : xxx

### 要因

トランザクションの終了に失敗しました。

### セッション名

セッションを利用しているユーザのユーザ ID が表示されます。ただし、デーモンプロセスでは、「\*\*\*\*\*」が表示されます。

### 理由コード

WFSV\_errno が表示されます。

### 付加情報

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

### 対処

障害の発生要因を取り除き、再度実行してください。

## KDWS118-E

---

WFserver : オブジェクトサーバのタイプ定義操作時にエラーが発生しました。セッション名 : xxx 関数名 : xxx 理由コード : xxx 付加情報 : xxx

### 要因

Groupmax Object Server のタイプ定義操作時にエラーが発生しました。

### セッション名

セッションを利用しているユーザのユーザ名が表示されます。ただし、デーモンプロセスでは、「\*\*\*\*\*」が表示されます。

### 関数名

エラーの発生した関数名が表示されます。

### 理由コード

WFSV\_errno が表示されます。

### 付加情報

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

### 対処

障害の発生要因を取り除き、再度実行してください。

## KDWS119-E

---

WFserver : オブジェクトサーバのオブジェクト操作時にエラーが発生しました。セッション名 : xxx オブジェクト ID : xxx 関数名 : xxx 理由コード : xxx 付加情報 : xxx

### 要因

Groupmax Object Server のオブジェクト操作時にエラーが発生しました。

#### セッション名

セッションを利用しているユーザのユーザ ID が表示されます。ただし、デーモンプロセスでは、「\*\*\*\*\*」が表示されます。

#### オブジェクト ID

操作対象の Groupmax Object Server のオブジェクト ID が表示されます。

#### 関数名

保守情報が表示されます。

#### 理由コード

WFSV\_errno が表示されます。

#### 付加情報

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

### 対処

障害の発生要因を取り除き、再度実行してください。

## KDWS120-E

---

WFserver : オブジェクトサーバのデータベースに入出力エラーが発生しました。セッション名 : xxx オブジェクト ID : xxx 関数名 : xxx 理由コード : xxx 付加情報 : xxx

### 要因

Groupmax Object Server のデータベースにアクセス中、入出力エラーが発生しました。

#### セッション名

セッションを利用しているユーザのユーザ ID が表示されます。ただし、デーモンプロセスでは、「\*\*\*\*\*」が表示されます。

#### オブジェクト ID

操作対象の Groupmax Object Server のオブジェクト ID が表示されます。

#### 関数名

エラーの発生した関数名が表示されます。

理由コード

WFSV\_errno が表示されます。

付加情報

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

対処

障害の発生要因を取り除き、再度実行してください。

## KDWS121-E

---

WFserver : オブジェクトサーバのディクショナリに入出力エラーが発生しました。セッション名 : xxx 関数名 : xxx 理由コード : xxx 付加情報 : xxx

要因

Groupmax Object Server のディクショナリにアクセス中、入出力エラーが発生しました。

セッション名

セッションを利用しているユーザのユーザ ID が表示されます。ただし、デーモンプロセスでは、「\*\*\*\*\*」が表示されます。

関数名

エラーの発生した関数名が表示されます。

理由コード

WFSV\_errno が表示されます。

付加情報

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

対処

障害の発生要因を取り除き、再度実行してください。

## KDWS122-E

---

WFserver : オブジェクトが作成できません。セッション名 : xxx 理由コード : xxx 付加情報 : xxx

要因

オブジェクトの作成に失敗しました。

セッション名

セッションを利用しているユーザのユーザ ID が表示されます。ただし、デーモンプロセスでは、「\*\*\*\*\*」が表示されます。

## 理由コード

WFSV\_errno が表示されます。

## 付加情報

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

## 対処

障害の発生要因を取り除き、再度実行してください。

## KDWS123-E

---

WFserver : 属性検索でエラーが発生しました。セッション名 : xxx 関数名 : xxx 理由コード : xxx 付加情報 : xxx

## 要因

Groupmax Object Server の属性検索でエラーが発生しました。

## セッション名

セッションを利用しているユーザのユーザ ID が表示されます。ただし、デーモンプロセスでは、「\*\*\*\*\*」が表示されます。

## 関数名

保守情報が表示されます。

## 理由コード

WFSV\_errno が表示されます。

## 付加情報

Groupmax Object Server の詳細コードが表示されます。

## 対処

障害の発生要因を取り除いて、再度実行してください。

## KDWS124-E

---

WFserver : オブジェクトの矛盾を検知したため、修復して処理を続行しました。ユーザ ID : xxx オブジェクト種別 : xxx オブジェクト名 : xxx 要素カウンタ : xxx リスト要素数 : xxx 付加情報 : xxx

## 要因

オブジェクト情報の矛盾を検知したので、続行できるように修復しました。

## ユーザ ID

オブジェクトを操作していたユーザのユーザ ID が表示されます。

## オブジェクト種別

保守情報が表示されます。

オブジェクト名

保守情報が表示されます。

要素カウンタ

保守情報が表示されます。

リスト要素数

保守情報が表示されます。

付加情報

保守情報が表示されます。

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWS125-E

---

WFserver : サービス名の取得に失敗しました。処理コード : xxx 理由  
コード : xxx

要因

システムログメッセージに表示するためのサービス名の取得に失敗しました。

処理コード

保守情報が表示されます。

理由コード

保守情報が表示されます。

対処

次の要因が考えられます。要因を取り除いて再度実行してください。

- "WF\_PATH" 環境変数の指定が誤っている。
- WFsetup コマンドが未実行状態又は実行失敗状態である。
- /etc/services のサービス名が WFsetup コマンドの実行後、変更されている。

## KDWS132-E

---

WFserver : サーバ機能で使用するエリアが設定されていません。セッション名 : xxx 付加情報 : xxx

要因

Groupmax Object Server の初期設定時にサーバ機能で使用するユーザ用又はインデクス用のエリアが指定されていません。

セッション名

セッションを利用しているユーザのユーザ ID が表示されます。ただし、デーモンプロセスでは、「\*\*\*\*\*」が表示されます。

## 付加情報

保守情報が表示されます。

## 対処

Groupmax Object Server の初期設定パラメタを調査してください。必要に応じて、「2.4.3(2) Groupmax Workflow の環境の初期化」を参照して、Groupmax Workflow の環境を正しく初期化した後、再度実行してください。

## KDWS135-E

---

WFserver : 初期設定ユティリティで作成したデータベースとサーバ機能のバージョンが一致していません。

## 要因

ワークフローデータベースとサーバ機能とのバージョンが不一致です。

## 対処

バージョンを確認してサーバ機能を再起動してください。又は「2.4.3(2) Groupmax Workflow の環境の初期化」を参照して、サーバ機能の環境を正しく初期化した後、再度実行してください。

## KDWS137-E

---

WFserver : オプションの指定値に誤りがあります。オプション名 : xxx

## 要因

環境設定ファイルで指定したオペランドの指定値に誤りがあります。

## オプション名

誤りのあるオペランド名が表示されます。

## 対処

オペランドの指定値を見直して、再度実行してください。

## KDWS138-E

---

WFserver : 内部タイムアウトが発生しました。付加情報 : xxx

## 要因

サーバ機能で内部タイムアウトが発生しました。タイムアウトを生じた処理は中止されませんが、サーバ機能は処理を続行します。

## 付加情報

保守情報が表示されます。

#### 対処

サーバ負荷が過大となっている可能性があります。この場合、停止可能なアプリケーションを停止させるなどしてサーバ負荷を軽減させてください。  
サーバ負荷が低いにもかかわらず、このメッセージが出力される場合、一部のプロセスに障害が発生して応答できなくなっている可能性があります。この場合、障害情報を取得した後、サーバを再起動してください。  
再起動してもこのメッセージが繰り返し出力される場合は、システム管理者に連絡してください。  
サーバ機能の停止時に出力された場合は、対処の必要はありません。  
サーバエラー情報格納ディレクトリにサーバ機能停止情報ファイル(SVSTPFRAS)が出力されます。必要に応じて採取してください。

## KDWS143-E

---

WFserver : サーバ機能でエラーが発生しました。セッション名 : xxx 理由  
コード : xxx 付加情報 : xxx

#### 要因

サーバ機能で障害が発生しました。デーモンプロセス及び他のセッションは処理を続行しますが、エラーとなったセッションは異常終了します。

#### セッション名

セッションを利用しているユーザのユーザ ID が表示されます。ただし、デーモンプロセスでは、「\*\*\*\*\*」が表示されます。

#### 理由コード

保守情報が表示されます。

#### 付加情報

保守情報が表示されます。

#### 対処

一般ユーザ及びビジネスプロセス管理者は、ワークフロー運用管理者に連絡してください。

## KDWS150-E

---

WFserver : ワークフローデータベースのバージョンが不正です。

#### 要因

ワークフローデータベースのバージョンが古いため、サーバ機能を起動できません。

#### 対処

「2.6 ワークフローデータベースの移行」を参照して、ワークフローデータベースを移行してください。その後、サーバ機能を再起動してください。

## KDWS163-E

WFserver : ビジネスプロセス定義情報管理テーブルの生成に失敗しました。  
 要因 : xxx 理由コード : xxx 関数名 : xxx

## 要因

ビジネスプロセス定義情報管理テーブルの生成に失敗しました。

## 要因

要因	説明	対処
no memory.(nnn bytes)	メモリ不足が発生しました。 nnn : メモリ確保サイズ	スワップエリアサイズを含めたメモリ容量を見直してください。
database not started.	Groupmax Object Server が起動されていません。	Groupmax Object Server を起動して、再度実行してください。
database access error.(xxx)	Groupmax Object Server とのアクセスでエラーが発生しました。 xxx : 関数名	システム管理者に連絡してください。
cannot getting path.	Groupmax Workflow の環境情報格納ディレクトリ名の取得に失敗しました。	システム管理者に連絡してください。
not getting config.(xxx)	コンフィグパラメタの取得に失敗しました。 xxx : コンフィグ名	システム管理者に連絡してください。
not getting bp define count.	ビジネスプロセス定義数の取得に失敗しました。	システム管理者に連絡してください。
not create mapping.	BP 管理情報テーブル用マップファイルの生成に失敗しました。	システム管理者に連絡してください。
not backup file.	ビジネスプロセス定義情報管理テーブルのバックアップに失敗しました。	システム管理者に連絡してください。
not create mapped file.	ビジネスプロセス定義情報管理テーブルの再作成に失敗しました。	システム管理者に連絡してください。
not view mapped file.	仮想空間にマッピングできませんでした。	システム管理者に連絡してください。
not create bp informations.	BP 情報の読み込みに失敗しました。	システム管理者に連絡してください。
not started transaction.	Groupmax Object Server のトランザクションの開始に失敗しました。	システム管理者に連絡してください。

## 理由コード

errno の値 , XO\_errno の値 , 又は内部エラーコードが表示されます。

理由コード	説明
103	メモリサイズが不足しました。
107	作業用エリアサイズが不足しました。
136	共用メモリの不足又はマッピングに失敗しました。
137	パス取得に失敗しました。
138	コンフィグ値取得に失敗しました。
139	BP 定義数の取得に失敗しました。
140	マッピングに失敗しました。
144	BP 情報の読み込み中にエラーが発生しました。

関数名

エラーが発生したワークフロー関数名又はシステムコール名が表示されます。

## KDWS164-E

{ WFbaseSV | WFsesserv } : ビジネスプロセス定義情報管理テーブルのアタッチに失敗しました。 要因 : xxx 理由コード : xxx 関数名 : xxx

要因

ビジネスプロセス定義情報管理テーブル ( 共用メモリ ) のアタッチ ( マッピング処理 ) 中にエラーが発生しました。

要因

要因	説明	対処
not open mapping objects.	マッピングオブジェクトのオープンに失敗しました。	システム管理者に連絡してください。
not map view of file.	仮想空間のマッピングに失敗しました。	システム管理者に連絡してください。
invalid bp information table.	BP 情報管理テーブルのフォーマットが不正です。	システム管理者に連絡してください。
no resources.	排他用ミューテックスのオープンに失敗しました。	システム管理者に連絡してください。
no memory.(nnn bytes)	メモリ不足が発生しました。 nnn : メモリ確保サイズ	スワップエリアを含めたメモリ容量を見直してください。

理由コード

errno の値 , 又は内部エラーコードが表示されます。

理由コード	説明
107	メモリが不足しました。
108	プロセス種別が不正です。
146	ヘッダが不正です。

**関数名**

エラーが発生したワークフロー関数名又はシステムコール名が表示されます。

**KDWS165-E**

{ WFbaseSV | WFsesserv } : ビジネスプロセス定義オブジェクトの更新に失敗しました。ビジネスプロセス名称 : xxx 要因 : xxx 理由コード : xxx 関数名 : xxx

**要因**

ビジネスプロセス定義オブジェクトの更新中にエラーが発生しました。

**ビジネスプロセス名称**

更新中にエラーが発生したビジネスプロセス名称を表示します。

**要因**

要因	説明	対処
database access error.	オブジェクトサーバとのアクセスでエラーが発生しました。	システム管理者に連絡してください。

**理由コード**

XO\_errno の値が表示されます。

**関数名**

エラーが発生したワークフロー関数名又はシステムコール名が表示されます。

**対処**

システム管理者に連絡してください。

**KDWS166-E**

WFserver : ワーク削除ファイルディレクトリのオープンに失敗しました。付加情報 : xxx

**要因**

環境情報に設定されたワーク削除ファイルディレクトリがないか、又はそのディレクトリ下に終了ワーク情報ファイル格納ディレクトリを作成するのに失敗しました。

付加情報

必要に応じて保守情報が表示されます。

対処

環境情報（ワーク削除ファイルディレクトリ）を見直してください。

## KDWS167-E

---

WFserver：再ログインに失敗しました。ユーザ ID：xxx 接続 IP アドレス：xxx 切断 IP アドレス：xxx 保守情報：xxx

要因

サーバ機能で内部タイムアウトが発生しました。タイムアウトが発生した処理は中止されますが、サーバ機能は処理を続行します。

ユーザ ID

再ログインしたユーザ ID が表示されます。

接続 IP アドレス

再接続する IP アドレスが表示されます。

切断 IP アドレス

切断された IP アドレスが表示されます。

保守情報

保守情報が表示されます。

対処

サーバ負荷が過大となっている可能性があります。その場合、停止可能なアプリケーションを停止させるなどしてサーバ負荷を低減させてください。

サーバ負荷が低くてもこのメッセージが出力される場合、一部のプロセスに障害が発生して応答できなくなっている可能性があります。その場合、障害情報を取得した後、サーバを再起動してください。

再起動してもこのメッセージが繰り返し出力される場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWS168-E

---

WFserver：終了ワーク情報ファイルの入出力エラーが発生しました。ユーザ ID：xxx ファイル名：xxx 関数名：xxx 理由コード：xxx 付加情報：xxx

要因

環境情報に設定されたワーク削除ファイルディレクトリへの終了ワーク情報ファイルの入出力でエラーが発生しました。

**ユーザ ID**

セッションを利用しているユーザのユーザ ID が表示されます。

**ファイル名**

エラーが発生したファイル名が表示されます。

**関数名**

エラーが発生した関数名が表示されます。

**理由コード**

errno 値が表示されます。

**付加情報**

必要に応じて保守情報が表示されます。

**対処**

関数名及び理由コードを参照して障害要因を取り除いてください。必要に応じてシステム管理者に連絡してください。

## KDWS169-E

---

WFserver : 生成したパスが最大パス長を超えました。ユーザ ID : xxx

ファイル名 : xxx 保守情報 : xxx

**要因**

生成したパスが最大パス長を超えました。

**ユーザ ID**

セッションを利用しているユーザのユーザ ID が表示されます。

**ファイル名**

エラーが発生したファイル名が表示されます。

**保守情報**

保守情報が表示されます。

**対処**

文書の追加時に発生した場合は、ファイル名称が長過ぎる可能性があるため、ファイル名称を短くして、再度実行してください。

文書の更新時に発生した場合は、これ以上文書を更新できません。

必要であれば、該当する文書を削除した後、ファイル名称を短くして登録し直してください。

それ以外の場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWS171-E

---

WFserver : ワークフローデータベースの変更が完了していません。

要因

サーバ構成環境変更コマンドによるワークフローデータベースの変更が完了していません。サーバ機能の実行を中止します。

対処

サーバ構成環境変更コマンドを実行した後、再度実行してください。

## KDWS172-E

---

WFserver : ログイン処理を中止しました。付加情報 : xxx

要因

セッションサービスプロセスが異常終了したため、ログイン処理を中止しました。

付加情報

保守情報が出力されます。

対処

対処の必要はありません。このメッセージが頻繁に出力される場合、サーバ機能を再起動してください。再起動してもこのメッセージが出力される場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWS201-W

---

WFserver : クラスの削除後に無効なオブジェクトが残っています。セッション名 : xxx クラス ID : xxx 位置コード : xxx 理由コード : xxx

要因

Groupmax Object Server でエラーが発生したため、クラスオブジェクトの削除処理後に無効なオブジェクトが残りました。このクラスは、以後使用できません。

セッション名

セッションを利用しているユーザのユーザ ID が表示されます。デーモンプロセスでは、「\*\*\*\*\*」が表示されます。

クラス ID

削除したクラスのオブジェクト ID が表示されます。

位置コード

保守情報が表示されます。

理由コード

障害の発生元が表示されます。  
 20000 ~ 29999 : Groupmax Workflow Server  
 30000 ~ 39999 : Groupmax Object Server  
 40000 ~ 49999 : Groupmax Address Server

#### 対処

このメッセージが多発する場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWS202-W

---

WFserver : 指定されたオブジェクトは存在しません。セッション名 : xxx  
 オブジェクト ID : xxx 関数名 : xxx 理由コード : xxx 付加情報 : xxx

#### 要因

API で指定したオブジェクト ID が誤っているか、又は既にオブジェクトが削除されているおそれがあります。

#### セッション名

セッションを利用しているユーザのユーザ ID が表示されます。ただし、デーモンプロセスでは、「\*\*\*\*\*」が表示されます。

#### オブジェクト ID

操作対象のオブジェクト ID が表示されます。

#### 関数名

保守情報が表示されます。

#### 理由コード

障害の発生元が表示されます。  
 20000 ~ 29999 : Groupmax Workflow Server  
 30000 ~ 39999 : Groupmax Object Server  
 40000 ~ 49999 : Groupmax Address Server

#### 付加情報

保守情報が表示されます。

#### 対処

アプリケーションプログラムの処理を見直してください。

## KDWS203-W

---

Wfserver : サーバ機能でエラーが発生しました。セッション名 : xxxx 保守  
 コード : xxx 付加情報 : xxx

#### 要因

サーバ機能でエラーが発生しました。デーモンプロセス及びほかのセッションは処理を続行しますが、エラーとなったセッションの一部の機能は正常に実行されません。

セッション名

セッションを利用しているユーザ ID が表示されます。ただし、デーモンプロセスでは、「\*\*\*\*\*」が表示されます。

保守コード

保守情報が表示されます。

付加情報

保守情報が表示されます。

対処

要因と対処の方法を次の表に示します。どの場合でも、繰り返し出力されるときには、システム管理者に連絡してください。

保守コード	要因	対処
WFCLS01	後着優先のログイン処理で使用するパイプの作成でエラーが発生しました。管理者用ログイン及び代行者用ログインでの、後着優先ログインが実行できません。サーバ機能は起動します。	この機能を使用しない場合は、対処の必要はありません。この機能を使用する場合は、このメッセージの前に出力されるメッセージに従って要因を取り除いた後、サーバ機能を再起動してください。
WFCLS02	後着優先のログイン処理で使用するパイプの作成でエラーが発生しました。管理者用ログイン及び代行者用ログインでの、後着優先ログインが実行できません。サーバ機能は起動します。	この機能を使用しない場合は、対処の必要はありません。この機能を使用する場合は、このメッセージの前に出力されるメッセージに従って要因を取り除いた後、サーバ機能を再起動してください。
WFCLS03	後着優先のログイン処理中に通信エラーが発生しました。管理者用ログイン及び代行者用ログインでの、後着優先ログインが正しく実行できないため、処理に時間がかかる場合があります。このため、ログイン処理がエラーとなる場合があります。	ログイン処理がエラーとなった場合、再度ログイン処理を実行してください。
WFCLS04	後着優先のログイン処理中に通信エラーが発生しました。管理者用ログイン及び代行者用ログインでの、後着優先ログインが正しく実行できないため、処理に時間がかかる場合があります。このため、ログイン処理がエラーとなる場合があります。	ログイン処理がエラーとなった場合、再度ログイン処理を実行してください。

保守コード	要因	対処
WFCLS05	後着優先のログイン処理中に領域確保エラーが発生しました。後着優先ログイン処理が正しく実行できないため、ログイン処理がエラーとなる場合があります。	ログイン処理がエラーとなった場合、再度ログイン処理を実行してください。
WFXLS06	後着優先のログイン処理中に通信エラーが発生しました。管理者用ログイン及び代行者ログインでの、後着優先ログイン処理が正しく実行できないため、ログイン処理がエラーとなる場合があります。	ログイン処理がエラーとなった場合、再度ログイン処理を実行してください。
WFCLS07	後着優先のログイン処理中に通信エラーが発生しました。管理者用ログイン及び代行者ログインでの、後着優先ログイン処理が正しく実行できないため、ログイン処理がエラーとなる場合があります。	ログイン処理がエラーとなった場合、再度ログイン処理を実行してください。
WFCLS08	後着優先のログイン処理中に通信エラーが発生しました。管理者用ログイン及び代行者ログインでの、後着優先ログイン処理が正しく実行できないため、ログイン処理がエラーとなる場合があります。	ログイン処理がエラーとなった場合、再度ログイン処理を実行してください。
WFCLS09	後着優先のログイン処理中に内部タイムアウトが発生しました。管理者用ログイン及び代行者ログインでの、後着優先ログイン処理が正しく実行できないため、ログイン処理がエラーとなる場合があります。	ログイン処理がエラーとなった場合、再度ログイン処理を実行してください。
WFCLS10	後着優先のログイン処理中に領域確保エラーが発生しました。後着優先ログイン処理が正しく実行できないため、ログイン処理がエラーとなる場合があります。	ログイン処理がエラーとなった場合、再度ログイン処理を実行してください。

保守コード	要因	対処
WFCLS11	後着優先のログイン処理中に領域確保エラーが発生しました。後着優先ログイン処理が正しく実行できないため、ログイン処理がエラーとなる場合があります。	ログイン処理がエラーとなった場合、再度ログイン処理を実行してください。
WFCLS12	後着優先のログイン処理中に領域確保エラーが発生しました。後着優先ログイン処理が正しく実行できないため、ログイン処理がエラーとなる場合があります。	ログイン処理がエラーとなった場合、再度ログイン処理を実行してください。

## KDWS210-W

WFserver : ビジネスプロセス定義情報管理テーブルの待避に失敗しました。要因 : xxx 理由コード : xxx 関数名 : xxx

### 要因

サーバ停止時にビジネスプロセス定義情報管理テーブル(共用メモリ)の内容をファイルに出力中にエラーが発生しました。

### 要因

要因	説明
logical error occurred.	内部矛盾が発生しました。
not found bp information.	BP 情報管理テーブルがありません。
get mutex failed.	所有権の取得に失敗しました。
not flushing memory.	BP 情報管理テーブルのフラッシュに失敗しました。
not getting bp define.	ビジネスプロセス定義の取得に失敗しました。
invalid bp information table.	BP 情報管理テーブルのフォーマットが不正です。
database access error.	BP オブジェクトの更新でオブジェクトサーバとのアクセスエラーが発生しました。

### 理由コード

errno の値, 又は内部エラーコードが表示されます。

理由コード	説明
146	ヘッダが不正です。

### 関数名

エラーが発生したワークフロー関数名又はシステムコール名が表示されます。

**対処**

次のサーバ起動時にビジネスプロセス定義情報管理テーブルの整合性を確保するため、対処の必要はありません。ただし、このメッセージが繰り返し出力される場合には、システム管理者に連絡してください。

**KDWS211-W**

{ WFbaseSV | WFsesserv } : ビジネスプロセス定義情報の読み込みに失敗しました。ビジネスプロセス名称 : xxx 要因 : xxx 理由コード : xxx  
関数名 : xxx

**要因**

ビジネスプロセス定義情報管理テーブル（共用メモリ）の内容を更新中にビジネスプロセス定義情報を読み込むことができませんでした。ただし、処理は続行します。

**ビジネスプロセス名称**

エラーが発生したビジネスプロセス名称が表示されます。

**要因**

要因	説明
database access error.	オブジェクトサーバとのインタフェースでエラーが発生しました。
logical error occurred.	内部矛盾が発生しました。

**理由コード**

errno の値 , XO\_errno の値 , 又は内部エラーコードが表示されます。

理由コード	説明
121	BP 情報エントリがありません。
123	BP 管理テーブルがありません。

**関数名**

エラーが発生したワークフロー関数名又はシステムコール名が表示されます。

**対処**

システム管理者に連絡してください。

## KDWS212-W

---

{ WFbaseSV | WFsesserv } : ビジネスプロセス定義情報管理テーブルの検索に失敗しました。ビジネスプロセス名称 : xxx 要因 : xxx 理由コード : xxx 関数名 : xxx

### 要因

ビジネスプロセス定義情報管理テーブル（共用メモリ）の検索中にエラーが発生しました。ただし、処理は続行します。

### ビジネスプロセス名称

エラーが発生したビジネスプロセス名称を表示します。

### 要因

エラーの要因が表示されます。

要因	説明
logical error occurred.	内部矛盾が発生しました。
cannot update serial_number of db.	既存の自動採番処理でエラーが発生しました。
database access error.	オブジェクトサーバとのアクセスでエラーが発生しました。
select retry limit over.	検索リトライオーバーのため、検索を中止します。

### 理由コード

errno の値、又は内部エラーコードが表示されます。

理由コード	説明
116	BP 情報参照エラーです。
118	自動採番ロックフリーエラーです。
119	既存自動採番エラーです。

### 関数名

エラーが発生したワークフロー関数名又はシステムコール名が表示されます。

### 対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWS213-W

---

{ WFbaseSV | WFsesserv } : ビジネスプロセス定義情報管理用 RAS 情報の初期化に失敗しました。プロセス ID : xxx 要因 : xxx 理由コード : xxx 関数名 : xxx

### 要因

ビジネスプロセス定義情報管理テーブル（共用メモリ）のアクセス中のプロセスのトレース情報を取得するための準備処理に失敗しました。

#### プロセス ID

エラーが発生したプロセスのプロセス ID が表示されます。

#### 要因

エラーの要因が表示されます。

要因	説明	対処
no memory ( nnn bytes )	メモリ不足が発生しました。 nnn：メモリ確保サイズ	スワップエリアを含めたメモリ容量を見直してください。
invalid process type.	プロセス種別が不正です。	システム管理者に連絡してください。

#### 理由コード

errno の値，又は内部エラーコードが表示されます。

理由コード	説明
107	メモリ不足が発生しました。
108	プロセス種別が不正です。

#### 関数名

エラーが発生したワークフロー関数名又はシステムコール名が表示されます。

## KDWS214-W

WFserver：ビジネスプロセス定義情報管理テーブルの整合性がとれていないため，整合性を確保しました。要因：xxx 整合性確保数：xxx

#### 要因

ビジネスプロセス定義情報管理テーブル（共用メモリ）とデータベースのビジネスプロセス定義オブジェクトとの整合性が取れていないため，整合性を確保する処理を実行しました。整合性を確保したビジネスプロセス定義の整合性情報をログ情報ディレクトリの下にファイル名「.WFbpchk」で出力します。

#### 要因

エラーの要因が表示されます。

要因	説明
not equal id number.	ワーク ID の採番が不正です。
replaced checkpoint number.	チェックポイント数の倍数に合わせました。
no flushing memory.	停止時に BP 情報管理テーブルが正常に待避されていません。

整合性確保数

整合性を確保したビジネスプロセス数が表示されます。

## KDWS216-W

---

WFserver : アドレスサーバへのアクセスでエラーが発生しました。理由  
コード : xxx 詳細コード : xxx

要因

Groupmax Address Server へのアクセスでエラーが発生しました。サーバ機能は起動しますが、複数サービス機能は使用できません。

理由コード

保守情報が表示されます。

詳細コード

保守情報が表示されます。

対処

Groupmax Address Server の稼働状況を確認して、サーバ機能を再起動してください。

ワークフローデータベースを初期化したときにこのメッセージが出力された場合は、ワークフローデータベースの初期化後、環境設定ファイルの内容及び Groupmax Address Server の稼働状況を確認して、サーバ機能を再起動してください。

## KDWS217-W

---

aaaa : フリーのページング・スペース・ブロック数が不足しています。

要因

フリーのページング・スペース・ブロックの数が、ページング・スペース警告レベルと呼ばれるしきい値以下になっています。

対処

動作しているアプリケーションを終了させてから、そのシステムに適した量のページング・スペース（スワップ・スペース）を割り当ててください。

## KDWS299-W

---

WFserver : サービスプロセス (XXXXXXXX) を再生成します。

要因

終了したサービスプロセスを再生成します。

XXXXXXXXXX : 再生成するプロセス名が表示されます。

Session : セッションサービスプロセス

Base : ベースサービスプロセス

対処

必要ありません。

## KDWS600-I

---

aaaa : xxx を開始します。

## KDWS601-I

---

aaaa : xxx を終了します。

## KDWS602-I

---

WFfscck : サーバ機能が異常終了したため、ファイル整合性チェックユーティリティを終了します。

要因

サーバ機能が異常終了したため、ファイル整合性チェックコマンドを終了します。

対処

サーバ機能が異常終了した要因を取り除いて、再度実行してください。

## KDWS603-I

---

WFfscck : ファイル整合性チェックユーティリティを終了します。削除対象文書ファイル数 : xxx 削除成功文書ファイル数 : xxx 削除失敗文書ファイル数 : xxx

要因

ファイル整合性チェックコマンドを終了します。

削除対象文書ファイル数

削除対象とした文書ファイル数が表示されます。

削除成功文書ファイル数

削除に成功した文書ファイル数が表示されます。

削除失敗文書ファイル数

削除に失敗した文書ファイル数が表示されます。

対処

必要ありません。

## KDWS605-I

---

WFcancel : セッション強制ログアウトを開始します。

## KDWS606-I

---

WFcancel : セッション強制ログアウトを終了します。

## KDWS700-E

---

WFserver : 続行できないエラーが発生したため、セッションを異常終了します。セッション名 : xxx 要因 : xxx 理由コード : xxx

要因

続行できない障害が発生したためセッションを異常終了します。

セッション名

セッションを利用しているユーザのユーザ ID が表示されます。ただし、デーモンプロセスでは、「\*\*\*\*\*」が表示されます。

要因

保守情報が表示されます。

理由コード

保守情報が表示されます。

対処

このメッセージの前に表示されているメッセージの障害の要因を取り除いてください。必要に応じてシステム管理者に連絡してください。

## KDWS701-E

---

WFserver : 続行できないエラーが発生したため、サーバ機能を異常終了します。要因 : xxx 理由コード : xxx

### 要因

続行できないエラーが発生したため、サーバ機能が異常終了しました。

### 要因

保守情報が表示されます。

### 理由コード

保守情報が表示されます。

### 対処

このメッセージの前に表示されているメッセージの障害の要因を取り除いてください。必要に応じてシステム管理者に連絡してください。

## KDWS702-W

---

WFinitstv : 初期設定ユーティリティの実行中にエラーが発生したため、実行を中止します。要因 : xxx 理由コード : xxx

### 要因

サーバ機能環境初期化コマンドの実行中にエラーが発生したため、処理を中止します。

### 要因

障害が発生した場所が表示されます。

doc\_area : 文書実体ディレクトリ下のファイル

export\_area : ワークエリアディレクトリ下のファイル

initial\_data : サーバ機能管理ディレクトリ下のファイル

XO\_... : Groupmax Object Server

IS... : 保守情報

### 理由コード

原因になったエラー種別が表示されます。

### 対処

理由コードの内容と対処について次に示します。

理由コード	内 容	対 処
65	データベース名（スキーマ名）が不正です。	データベース名（スキーマ名）を見直して再度実行してください。
83	ロックの取得に失敗しました。	要因が XO_... の場合，Groupmax Object Server のシステム共通定義ファイルの lck_limit 値を見直してください。また，必要に応じてシステム管理者に連絡してください。
14003	入出力エラーが発生しました。	要因が XO_... の場合，直前に出力された Groupmax Object Server のメッセージを調査し，障害の原因を取り除いてください。環境削除コマンドで環境を削除してから，再度実行してください。環境削除コマンドで以下のディレクトリが削除できない場合は手動で削除してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 文書実体ディレクトリ</li> <li>• ワークエリアディレクトリ</li> </ul> また，必要に応じてシステム管理者に連絡してください。
20002	入出力エラーが発生しました。	環境削除コマンドで環境を削除してから，再度実行してください。環境削除コマンドで以下のディレクトリが削除できない場合は手動で削除してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 文書実体ディレクトリ</li> <li>• ワークエリアディレクトリ</li> </ul>
23001	サーバ機能でエラーが発生しました。	このメッセージの前に出力されたメッセージの障害を取り除いてください。
上記以外	-	システム管理者に連絡してください。

（凡例） - は該当しないことを示します。

## KDWS703-W

WFfsck : ファイル整合性チェックユティリティの処理に失敗しました。

### 要因

サーバ機能に障害が発生したため，ファイル整合性チェックコマンドの処理を中止しました。

### 対処

メッセージを参照して障害を取り除いた後，再度実行してください。

## KDWS710-E

WFserver : ユーザ認証処理でエラーが発生しました。セッション名 : xxxx  
理由コード : xxxx 詳細コード : xxxx

### 要因

Groupmax Address Server のユーザ認証処理でエラーが発生しました。

**セッション名**

エラーとなったセッション名称が表示されます。

**理由コード**

意味と対処を次に示します。

理由コード	意味	対 処
1	ソケットインタフェースエラーです。	Groupmax Address Server が起動されているかどうか確認してください。
12	ホスト情報の取得に失敗しました。	HOSTS ファイルにホスト名が正しく設定されているかどうか確認してください。
13	サービス名称の取得に失敗しました。	SERVICES ファイルにサービス名が正しく設定されているかどうか確認してください。
上記以外	システムエラーです。	システム管理者に連絡してください。

**詳細コード**

保守情報が表示されます。

**対処**

要因を取り除いた後、再度ログインしてください。

**KDWS711-E**

WFserver : ユーザが削除されたため、案件を回答できませんでした。ビジネスプロセス定義名 : xxx ビジネスプロセス定義バージョン : xxx ワーク ID : xxx ユーザ ID : xxx サーバ名 : xxx

**要因**

相談された案件を回答しようとしたのですが、相談したユーザが削除されているため、案件を回答できませんでした。

**ビジネスプロセス定義名**

回答しようとした案件のビジネスプロセス定義名が表示されます。

**ビジネスプロセス定義バージョン**

エラーが発生したビジネスプロセス定義のバージョンが表示されます。

**ワーク ID**

回答しようとした案件のワーク ID が表示されます。

**ユーザ ID**

エラートレイのユーザ ID が表示されます。

**サーバ名**

保守情報が表示されます。

**対処**

ワークをキャンセルして案件を再度投入してください。

## KDWS712-E

---

WFserver : ワーク ID が重複したため、案件投入できませんでした。ビジネスプロセス定義名 : xxx ワーク ID : xxx

### 要因

以前に投入したワークが削除されずに残っていたため、ワーク ID の重複が発生しました。

### ビジネスプロセス定義名

案件を投入しようとしたビジネスプロセス定義名が表示されます。

### ワーク ID

投入しようとした案件のワーク ID が表示されます。

### 対処

システム管理者に連絡してください。

システム管理者は、不要なワークを削除してください。不要なワークがない場合、ワーク ID の通し番号の最大値を大きくしてビジネスプロセス定義を再登録してください。

## KDWS715-E

---

WFcancel : サーバ機能が起動されていないため、セッション強制ログアウトは実行できません。

### 要因

サーバ機能が起動されていないため、セッション強制ログアウト処理をスキップします。

### 対処

サーバ機能を起動してください。

## KDWS716-E

---

WFcancel : 他のユーザが実行中のため処理できません。

### 要因

他のユーザがセッション強制ログアウトコマンドを実行中のため、セッション強制ログアウト処理をスキップします。

### 対処

セッション強制ログアウトコマンドは同時に複数起動できないため、時間を置いて再度実行してください。

## KDWS717-E

---

aaaa : 実行中にサーバ機能が異常終了したため処理を中止します。関数名 : xxx 理由コード : xxx

### 要因

サーバ機能が異常終了したため、処理をスキップします。

### 関数名

エラーが発生した関数名を表示します。

### 理由コード

関数のエラーコードを表示します。

### 対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWS718-E

---

WFuserlrs : サーバ機能が起動されていないため、ログインユーザ表示は実行できません。

### 要因

サーバ機能が起動されていないため、ログインユーザ表示処理をスキップします。

### 対処

サーバ機能を起動してください。

## KDWS720-E

---

aaaa : 稼働中バックアップ処理中のためプログラムを停止します。

### 要因

稼働中バックアップ処理中のためプログラムを停止します。

### 対処

バックアップが終了した後、再度起動してください。

## KDWS721-E

---

aaaa : 稼働中バックアップチェックでエラーが発生しました。関数名 :  
xxx 行番号 : xxx システムコール名 : xxx エラーコード : xxx

### 要因

稼働中バックアップのチェック処理中にエラーが発生しました。

#### 関数名

保守情報が表示されます。

#### 行番号

保守情報が表示されます。

#### システムコール名

保守情報が表示されます。

#### エラーコード

errno の値が表示されます。

### 対処

errno の値を参照し、対処してください。それでもエラーが発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWS722-E

---

aaaa : オペランドの指定値に誤りがあります。オペランド名 : xxx

### 要因

環境設定ファイルで指定したオペランドの指定値に誤りがあります。

#### オペランド名

誤りのあるオペランド名が表示されます。

### 対処

オペランドの指定値を見直して、再度実行してください。

## KDWS723-E

---

WFfscck : ファイル整合性チェックユティリティの実行中にエラーが発生したため、実行を中止します。要因 : xxx 理由コード : xxx

### 要因

ファイル整合性チェックコマンドの実行中にエラーが発生したため、処理を中止します。エラーとなったシステムコールの名称が表示されます。

#### 理由コード

errno の値が表示されます。

#### 対処

関数名及び理由コードを参照して障害の要因を取り除いてください。必要に応じてシステム管理者に連絡してください。

## KDWS800-W

---

WFfsck : サーバ機能が起動されていないため、ファイル整合性チェックユーティリティは実行できません。

#### 要因

サーバ機能が起動されていないため、ファイル整合性チェックコマンドが実行できません。

#### 対処

サーバ機能を起動してから、再度実行してください。

## KDWS801-W

---

aaaa : 入力したパラメタに誤りがあるため、xxx は開始できません。

#### 要因

コマンドの入力パラメタに誤りがあるため、コマンドが実行できません。

xxx

実行しようとしたコマンドが表示されます。

#### 対処

入力した情報に誤りがないか確認してから、再度実行してください。

## KDWS802-W

---

WFinitsv : サーバ機能は既に初期化されています。

#### 要因

サーバ機能の環境が既に初期化されているにもかかわらず、再度、サーバ機能環境初期化コマンドが実行されました。

#### 対処

サーバ機能環境を再度初期化（再構築）する方法については、「2.4.3 Groupmax Workflow での環境設定」を参照してください。

## KDWS804-W

---

WFfscck : ファイル整合性チェックユティリティとサーバ機能のバージョンが一致していません。

**要因**

ファイル整合性チェックコマンドとサーバ機能のバージョンが一致していないため、実行できません。

**対処**

サーバ機能のバージョンと一致したファイル整合性チェックコマンドで、再度実行してください。

## KDWS806-W

---

WFinitvsv : データベース名称が不正か、又は既に初期化されています。  
既存名称 : xxx 要求名称 : xxx

**要因**

Groupmax Object Server を前提とする他のプログラムで初期化したデータベース名と異なる名称を指定したか、又は既に Groupmax Workflow のサーバ機能環境初期化コマンドで初期化しています。

**既存名称**

既に定義されているデータベース名 (スキーマ名) を表示します。

**要求名称**

Groupmax Workflow サーバ機能環境初期化コマンドで指定したデータベース名 (スキーマ名) を表示します。

**対処**

サーバ機能環境初期化コマンドで表示されている、正しいデータベース名 (既存名称) を確認してください。その後、再度実行してください。

## KDWS807-W

---

aaaa : 実行したユーザには実行権限がありません。

**要因**

コマンドを起動したユーザには、権限がないため、コマンドを実行できません。

**対処**

実行権限があるユーザで再度ログインしてください。その後、再度実行してください。

## KDWS810-W

---

WFcancel : パラメタが不正のため、処理できません。使用方法：  
WFcancel -u ユーザ ID[1 ~ 8]

### 要因

WFcancel コマンドのフォーマットが不正です。

### 対処

メッセージに出力された形式で再度実行してください。

## KDWS811-W

---

WFuserls : パラメタが不正のため、処理できません。使用方法：  
WFuserls [-s]

### 要因

WFuserls コマンドのフォーマットが不正です。

### 対処

メッセージに出力された形式で再度実行してください。

## KDWS900-W

---

WFinitsv : オブジェクトサーバとの接続時にエラーが発生しました。

### 要因

Groupmax Object Server との接続に失敗したため、コマンドの実行を中止します。

### 対処

Groupmax Object Server が起動していない場合は、Groupmax Object Server を起動して、障害の原因を取り除いてください。又は、直前に出力されたメッセージを参照して障害の原因を取り除いてください。

## KDWS901-E

---

WFinitsv : オブジェクトサーバの初期設定パラメタファイルに、サーバ機能で使用するエリアが設定されていません。

### 要因

Groupmax Object Server の初期設定パラメタファイルに、サーバ機能で使用するユーザ用又はインデクス用エリアが指定されていないため、コマンドの実行を中止

しました。

対処

Groupmax Object Server の初期設定パラメタファイルを確認してください。

## KDWS902-E

---

WFinitstv : メモリ不足が発生しました。要因 : xxx

要因

メモリ不足が発生したため、サーバ機能環境初期化コマンドの処理を中止しました。

要因

メモリ不足が発生した領域が表示されます。

LOCAL : プロセスローカル

Groupbase : Groupmax Object Server

対処

スワップファイルのサイズ及びメモリ所要量を見直してください。

## KDWS903-E

---

WFinitstv : ディスクの容量不足が発生しました。要因 : xxx

要因

ディスク容量が一杯のため、サーバ機能環境初期化コマンドの処理を中止しました。

要因

ディスク容量の不足した領域が表示されます。

doc\_area : 文書実体ファイル

export\_area : ワークエリアディレクトリ下のファイル

initial\_data : サーバ機能管理ディレクトリ下のファイル

Groupbase : Groupmax Object Server のデータベース

対処

ディスク容量を見直してください。

## KDWS904-W

---

WFinitstv : オブジェクトサーバのデータベースに入出力エラーが発生しました。関数名 : xxx 理由コード : xxx

要因

Groupmax Object Server のデータベースにアクセス中、エラーが発生しました。

**関数名**

保守情報が表示されます。

**理由コード**

保守情報が表示されます。

**対処**

システム管理者に連絡してください。

## KDWS907-W

---

WFfsck : 他のユーザがログインしているため、ファイル整合性チェックユーティリティが実行できません。

**要因**

Groupmax Workflow のユーザがログイン中か、他のコマンド、メッセージ送信機能、メッセージ受信機能、又はマネージャ機能が起動しているため、ファイル整合性チェックコマンドが実行できません。

**対処**

Groupmax Workflow のユーザがすべてログアウトし、他のコマンド、メッセージ送信機能、メッセージ受信機能、及びマネージャ機能が終了していることを確認してから、再度、ファイル整合性チェックコマンドを実行してください。

## KDWS909-E

---

aaaa : ユーザ操作により処理が中断されました。保守情報 : xxx

**要因**

ユーザ操作によって処理が中断されました。コマンドの実行を中止します。

**保守情報**

保守情報が表示されます。

**対処**

環境削除コマンドを実行してください。サーバ機能環境の初期化が必要であれば、再度実行してください。

## マルチサーバ機能のメッセージ

---

マルチサーバ機能のメッセージを以降に示します。

## KDWT0001-I

---

WFsend\_dm : メッセージ送信機能を開始しました。

## KDWT0002-I

---

WFsend\_dm : メッセージ送信機能を終了中です。

## KDWT0003-I

---

WFsend\_dm : メッセージ送信機能を終了しました。

## KDWT0006-I

---

WFsend\_dm : メッセージ送信機能を強制終了しました。

## KDWT0010-I

---

WFsend\_dm : 転送要求が転送要求インターバル時間を経過したため再度転送します。転送 ID : xxx

## KDWT0101-W

---

WFsend\_dm : 指定された部署名が定義されていません。案件をエラートレイに移動しました。部署名 : xxx ケース識別子 : xxx

### 要因

ビジネスプロセス定義のシンクノード及び階層連携ノードに設定した連携先部署名が、部署名定義ファイルにありません。エラートレイに、案件を送付します。

### 部署名

シンクノード及び階層連携ノードに設定されている連携先部署名が表示されま

す。

ケース識別子

エラーとなった案件のケース識別子が表示されます。

対処

部署名定義ファイルを確認して、次のどれかの方法で対処してください。

《部署名定義ファイルに部署名を追加する場合》

1. 部署名定義ファイルに部署名を追加し、メッセージ送信機能及びメッセージ受信機能を起動し直してください。
2. Groupmax Workflow Monitor で連携元サーバにログインしてください。
3. エラー種別 (KDWT0101) が設定されている案件を見付け、案件を復帰してください。

《ビジネスプロセス定義を修正する場合》

1. ビジネスプロセス定義の連携先部署名を修正してください。
2. 修正したビジネスプロセス定義に、案件を再投入してください。エラーとなった案件の送付履歴を確認するには、Groupmax Workflow Monitor で連携元サーバにログインし、エラーコード (KDWT0101) が設定されている案件を見付けてください。

《ケース属性に設定されている部署名を変更する場合》

1. エラーとなったワークをキャンセルした後、案件を再投入して、ケース属性に設定されている連携先部署名を正しく設定してください。

## KDWT0102-W

---

WFsend\_dm : 指定された窓口名が定義されていません。案件をエラートレーに移動しました。窓口名 : xxx ケース識別子 : xxx

要因

部署名定義ファイルに記述した窓口名の定義が、窓口名定義ファイル (exentran 又は entrance) にありません。エラートレーに、案件を送付します。

窓口名

部署名定義ファイルに記述した窓口名が表示されます。

ケース識別子

エラーとなった案件のケース識別子が表示されます。

対処

1. 部署名定義ファイル及び窓口名定義ファイルを確認してください。
2. 部署名定義ファイルの窓口名を修正するか、又は窓口名定義ファイルに窓口名定義を追加してください。
3. メッセージ送信機能及びメッセージ受信機能を起動し直してください。
4. Groupmax Workflow Monitor で連携元サーバにログインしてください。エラー

コード (KDWT0102) が設定されている案件を見付け、案件を復帰してください。

## KDWT0103-W

---

WFsend\_dm : 窓口名定義ファイルで指定されたユーザ ID が、メールサーバに登録されていません。ユーザ ID : xxx

### 要因

窓口名定義ファイル (exentran 又は entrance) で指定されたユーザ ID が、Groupmax Mail Server に登録されていません。

### ユーザ ID

窓口名定義で指定したユーザ ID が表示されます。

### 対処

1. 窓口名定義ファイルを確認してください。
2. 窓口名定義ファイルを修正するか、又は窓口名定義ファイルに指定したユーザ ID を Groupmax Mail Server に登録した後、再度実行してください。

## KDWT0104-W

---

WFsend\_dm : 案件をエラートレイに移動しました。ケース識別子 : xxx

### 要因

エラーを検知したため、エラートレイに案件を送付しました。

### ケース識別子

エラーとなった案件のケース識別子が表示されます。

### 対処

このメッセージの前に出力されたメッセージに従って、障害の要因を取り除いてください。その後、案件が復帰できる状態のときは、Groupmax Workflow Monitor で復帰してください。復帰できない状態のときは、該当するワークをキャンセルしてください。

## KDWT0110-W

---

WFsend\_dm : 処理要求の転送をスキップしました。要求種別 : xxx メールユーザのユーザ ID : xxx ビジネスプロセス定義名 : xxx ワーク ID : xxx

### 要因

ワークの状態を変更する要求を受け取りましたが、転送先サーバのバージョンが

02-31 よりも前であるため、転送処理をスキップしました。

**要求種別**

ワークの状態を変更する要求種別を表示します。要求種別については、  
「WFshowcq ( 転送データ一覧取得コマンド )」の出力項目を参照してください。

**メールユーザのユーザ ID**

転送先のメールユーザのユーザ ID が表示されます。

**ビジネスプロセス定義名**

状態を変更するワークのビジネスプロセス定義名を表示します。

**ワーク ID**

状態を変更しようとしたワークのワーク ID を表示します。

**対処**

必要ありません。

## KDWT0201-E

---

WFsend\_dm : メールサーバの環境設定が不正です。

**要因**

Groupmax Mail Server の環境設定に誤りがあります。

**対処**

Groupmax Mail の環境を確認して、メッセージ送信機能を起動してください。

## KDWT0206-E

---

WFsend\_dm : 1 回に送信できる容量を超えました。ケース識別子 : xxx

**要因**

メッセージ送信機能が 1 回に送信できる容量を超えました。エラートレイに案件を送付します。

**ケース識別子**

エラーとなった案件のケース識別子が表示されます。

**対処**

1. 環境設定ファイル中の、「最大転送データサイズ」の値を大きくしてください。
2. メッセージ送信機能及びメッセージ受信機能を起動し直してください。
3. Groupmax Workflow Monitor で連携元サーバにログインし、エラーコード ( KDWT0206 ) が設定されている案件を見付けて、案件を復帰してください。

## KDWT0207-E

---

WFsend\_dm : 転送待ちリストからのケース読み出しリトライ回数が制限値を超えたため、案件をエラートレイに移動しました。ケース識別子：xxx

### 要因

連携先への転送待ちの案件を読み出せませんでした。オブジェクトが、長時間ロックされているおそれがあります。連携元ビジネスプロセス定義のエラートレイに、案件を送付します。

ケース識別子

エラーとなった案件のケース識別子が表示されます。

### 対処

Groupmax Workflow Monitor で連携元サーバにログインし、エラーコード (KDWT0207) が設定されている案件を見付けて、案件を復帰してください。

## KDWT0208-E

---

WFsend\_dm : 送信する案件が存在しません。ケース識別子：xxx

### 要因

送信する案件がありませんでした。

ケース識別子

エラーとなった案件のケース識別子が表示されます。

### 対処

必要ありません。

## KDWT0212-E

---

WFsend\_dm : 転送する案件の構造が不正です。案件をエラートレイに移動しました。ケース識別子：xxx

### 要因

転送する案件の構造が不正です。連携元のエラートレイに、案件を送付します。

ケース識別子

エラーとなった案件のケース識別子が表示されます。

### 対処

ビジネスプロセス定義に、案件を再投入してください。エラーとなった案件の送付履歴を確認するには、Groupmax Workflow Monitor で連携元サーバにログインし、

エラーコード (KDWT0212) が設定されている案件を見付けてください。

## KDWT0213-E

---

WFsend\_dm : 文書オブジェクトのアクセス権がありません。案件をエラートレーに移動しました。ケース識別子 : xxx

### 要因

文書オブジェクトに対するアクセス権がありません。エラートレーに案件を送付します。

### ケース識別子

エラーとなった案件のケース識別子が表示されます。

### 対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWT0215-E

---

WFsend\_dm : 連携先で案件をシステム用のトレーに移動できなかったため、案件をエラートレーに移動しました。ケース識別子 : xxx

### 要因

連携先のビジネスプロセス定義に案件を投入できませんでした。連携元ビジネスプロセス定義のエラートレーに、案件を送付します。

### ケース識別子

エラーとなった案件のケース識別子が表示されます。

### 対処

以前に出力されたメッセージを確認して、次のどちらかの方法で対処してください。

《以前に KDWT2005-I が表示されている場合》

1. KDWT2005-I の対処に従ってください。
2. エラーとなった案件を復帰してください。
3. 必要なら、環境設定ファイル中の「メール再送リトライ回数」の値を大きくしてください。

《以前に KDWT2005-I が表示されていない場合》

1. Groupmax Workflow Monitor で、連携元サーバにログインしてください。
2. 案件情報でエラー種別 (KDWT0215) が設定されている案件を見付けて、ワーク ID 及びビジネスプロセス名を調べてください。
3. バージョン送付履歴で、送付先ノード名、送付先サーバ名、及び送付先ビジネスプロセス名を調べてください。
4. 送付先ビジネスプロセスバージョン案件詳細情報で、ケース名を調べてくだ

- さい。
5. 連携先サーバのワークフロー運用管理者に、連携先サーバのエラーメッセージを調べるように指示してください。そのとき、このメッセージで表示されている情報と、2. ~ 4. で調べた情報を連絡してください。
  6. 連携先サーバのメッセージに従って、連携先と連携元でエラーに対処してください。
  7. エラーとなった案件を Groupmax Workflow Monitor で復帰するか、又は案件を再投入してください。エラーとなった案件の送付履歴を確認するには、Groupmax Workflow Monitor で連携元サーバにログインし、エラー種別 (KDWT0215) が設定されている案件を見つけてください。

## KDWT0216-E

---

WFsend\_dm : 内部矛盾を検知しました。ケース識別子 : xxx

### 要因

差し戻し先候補者がありません。エラートレイに、案件を送付します。

### ケース識別子

エラーとなった案件のケース識別子が表示されます。

### 対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWT0217-E

---

WFsend\_dm : ワークの状態変更要求で送信リトライ回数の制限を超えました。要求種別 : xxx 部署名 : xxx ビジネスプロセス定義名 : xxx ワーク ID : xxx

### 要因

連携先のビジネスプロセスに対してワークの状態変更を要求できませんでした。オブジェクトが、長時間ロックされているおそれがあります。ワーク状態変更の要求をスキップします。

### 要求種別

ワーク状態変更の要求種別が表示されます。要求種別は、「WFshowcq ( 転送データ一覧取得コマンド )」の出力項目の要求種別を参照してください。

### 部署名

連携先の部署名が表示されます。

### ビジネスプロセス定義名

連携先のビジネスプロセス定義名が表示されます。

## ワーク ID

状態変更するワークのワーク ID が表示されます。

## 対処

ワークの状態変更を連携先のビジネスプロセス管理者に依頼してください。必要なら、環境設定ファイル中の「メール再送リトライ回数」の値を大きくしてください。

## KDWT0218-E

---

WFsend\_dm : 窓口名定義ファイルで指定されたバージョンでは対応できない送信要求を受け付けました。要求種別 : xxx 部署名 : xxx 窓口名 : xxx 転送データのバージョン : xxx

## 要因

窓口名定義ファイルに指定したバージョンでサポートしていない送信要求が指定されたため、送信要求をスキップします。

## 要求種別

要求種別が表示されます。要求種別は、「WFshowcq (転送データ一覧取得コマンド)」の出力項目の要求種別を参照してください。

## 部署名

送信先の部署名が表示されます。

## 窓口名

送信先の窓口名が表示されます。

## 転送データのバージョン

要求を受け付けることができるバージョンが表示されます。

## 対処

1. メッセージに表示された転送データのバージョンが、対応する部署のサーバマシンに組み込まれている Groupmax Workflow Multi-Server のバージョンに対応しているかを確認してください。
2. Groupmax Workflow Multi-Server のバージョンが古い場合、必要に応じてバージョンアップしてください。
3. メッセージに表示されたバージョン以降になるよう、窓口名定義のバージョンを変更してください。
4. メッセージ送信機能及びメッセージ受信機能を停止した後、再度起動してください。

## KDWT0219-E

---

WFsend\_dm : 部署名定義ファイルに送信先の部署名が定義されていません。部署名: xxx

### 要因

部署名定義ファイルに部署名が定義されていないため、送信できませんでした。

### 部署名

部署名定義ファイルに定義されていない部署名が表示されます。

### 対処

1. 部署名定義ファイルに表示されている部署名を追加してください。
2. 必要に応じて窓口名定義ファイルに窓口を追加してください。
3. メッセージ送信機能及びメッセージ受信機能を停止した後、再度起動してください。

## KDWT0220-E

---

WFsend\_dm : 窓口名定義ファイルに送信先の窓口名が定義されていません。窓口名: xxx

### 要因

窓口名定義ファイル (exentran) に窓口名が定義されていないため、送信できませんでした。

### 窓口名

窓口名定義ファイルに定義されていない窓口名が表示されます。

### 対処

1. 窓口名定義ファイルに表示されている窓口名を追加してください。
2. メッセージ送信機能及びメッセージ受信機能を停止した後、再度起動してください。

## KDWT0221-E

---

WFsend\_dm : 自部署の部署名又は窓口名が定義されていません。

### 要因

環境設定ファイル中の「メール用ユーザ識別子」で指定したユーザ ID の窓口名が、窓口名定義ファイルに定義されていません。プログラムを終了します。

### 対処

1. 環境設定ファイル中の「メール用ユーザ識別子」を変更してください。又は、窓

- 口名定義ファイル (exentran) に「メール用ユーザ識別子」で指定したユーザ ID を追加してください。
2. 必要に応じて、部署名定義ファイルに、1. で追加した窓口名に対応する部署名を追加してください。
  3. メッセージ送信機能及びメッセージ受信機能を再度起動してください。

## KDWT0222-E

---

WFsend\_dm : メールサーバが起動されていません。

### 要因

Groupmax Mail Server が起動されていません。プログラムを終了します。

### 対処

Groupmax Mail Server を起動した後、メッセージ送信機能及びメッセージ受信機能を起動してください。

## KDWT0223-E

---

WFsend\_dm : 受信結果報告の送信でリトライ回数が制限値を超えました。送信先部署名又は送信先サーバ名 : xxx 転送 ID : xxx

### 要因

案件転送結果の報告でリトライ回数の制限値を超えました。案件を転送した部署へは、結果を報告しません。

送信先部署名又は送信先サーバ名

転送データを送信した部署又はサーバの名称が表示されます。

転送 ID

受信結果を報告しようとした転送先での転送 ID が表示されます。

### 対処

表示されている送信先部署又は送信先サーバの管理者に連絡して、表示されている転送 ID の要求を連携データ再送コマンドで再送してもらうよう依頼してください。

## KDWT0224-E

---

WFsend\_dm : 対応できない送信要求を受け付けました。要求種別 : xxx

### 要因

Groupmax Workflow Server のバージョンが新しく、Groupmax Workflow Multi-Server のバージョンが古いため、送信できません。

**要求種別**

要求種別が表示されます。要求種別は、「WFshowcq ( 転送データ一覧取得コマンド)」の出力項目の要求種別を参照してください。

**対処**

Groupmax Workflow Multi-Server をバージョンアップした後、再起動してください。

## KDWT0225-E

---

WFsend\_dm : 窓口名定義ファイルで指定されたバージョンでは対応できない要求を受け付けました。案件をエラートレーに移動しました。要求種別 : xxx 部署名 : xxx 窓口名 : xxx 転送データのバージョン : xxx  
ワーク ID : xxx

**要因**

窓口名定義ファイルに指定したバージョンでサポートしていない送信要求が指定されたため、送信要求をスキップします。

**要求種別**

要求種別が表示されます。要求種別は、「WFshowcq ( 転送データ一覧取得コマンド)」の出力項目の要求種別を参照してください。

**部署名**

送信先の部署名が表示されます。

**窓口名**

送信先の窓口名が表示されます。

**転送データのバージョン**

要求を受け付けることができるバージョンが表示されます。

**ワーク ID**

ワークのワーク ID が表示されます。

**対処**

1. メッセージに表示された転送データのバージョンが、対応する部署のサーバマシンに組み込まれている Groupmax Workflow Multi-Server のバージョンに対応しているかを確認してください。
2. Groupmax Workflow Multi-Server のバージョンが古い場合、必要なら、バージョンアップしてください。
3. メッセージに表示された転送データのバージョン以降に窓口名定義のバージョンを変更してください。
4. メッセージ送信機能及びメッセージ受信機能を停止した後、再起動してください。
5. Groupmax Workflow Monitor で、ワーク ID を基にエラーとなった案件を見付

け、案件を復帰してください。

## KDWT0301-E

---

WFsend\_dm : 送信先が決定できないため、送信できません。処理種別 : xxx ロール名 : xxx ユーザ ID : xxx ワーク ID : xxx

### 要因

案件又はユーザトレ情報を転送しようとしたますが、転送先サーバをホームサーバとするメールユーザが Workflow システム組織に登録されていないか、又はユーザ ID のユーザがいません。

### 処理種別

処理種別が表示されます。

CASE : 案件の転送

USER : ユーザトレ情報の転送

WORK : ワーク操作要求の転送

REPO : 返信メールの転送

ERR : エラー案件送付の転送

### ロール名

処理種別が CASE、又は ERR の場合に、案件を転送しようとしたユーザのロール名が表示されます。ユーザ ID が表示される場合は表示されません。

### ユーザ ID

処理種別が CASE、又は ERR の場合に、案件を転送しようとしたユーザのユーザ ID が表示されます。ロール名が表示される場合は表示されません。

### ワーク ID

処理種別が WORK の場合に、ワーク操作の対象案件のワーク ID が表示されません。

### 対処

表示されたユーザ又はロールの登録サーバをホームサーバとするメールユーザを Workflow システム組織に登録するか、又はユーザ ID のユーザを追加してください。

## KDWT0302-E

---

WFsend\_dm : 転送先のメールユーザが登録されていないため、送信できません。処理種別 : xxx メールユーザのユーザ ID : xxx

### 要因

表示したメールユーザが Workflow システム組織に登録されていません。メール

ユーザが削除されたか、又は環境設定時に設定した「Workflow システム組織 ID」が誤っているおそれがあります。

処理種別

処理種別が表示されます。

CASE：案件の転送

USER：ユーザトレー情報の転送

WORK：ワーク操作要求の転送

REPO：返信メールの転送

ERR：エラー案件送付の転送

DELWORK：一時ワーク削除情報の転送

メールユーザのユーザ ID

転送先のメールユーザのユーザ ID が表示されます。

対処

表示されたメールユーザが、環境設定時に設定した「Workflow システム組織 ID」に登録されているかどうかを確認し、必要に応じて登録してください。

## KDWT0303-E

---

WFsend\_dm：転送データが取得できませんでした。処理種別：xxx 転送データ識別子：xxx 理由コード：xxx

要因

転送データを取得しようとしたますが、取得できませんでした。

処理種別

処理種別が表示されます。

CASE：案件の転送

USER：ユーザトレー情報の転送

WORK：ワーク操作要求の転送

REPO：返信メールの転送

ERR：エラー案件の転送

転送データ識別子

処理種別が CASE、又は ERR の場合、ケース識別子が表示されます。

処理種別が USER の場合、ユーザ ID が表示されます。

処理種別が WORK の場合、ワーク ID が表示されます。

理由コード

保守情報が表示されます。

001：転送するオブジェクトがない

002：案件の構造が不正

003：文書オブジェクトのアクセス権がない

004 : ワークの状態が不正

#### 対処

理由コードが 001 又は 004 の場合、対処する必要はありません。理由コードが 002 又は 003 の場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWT0304-E

---

WFsend\_dm : 転送データサイズの限界を超えました。処理種別 : xxx ビジネスプロセス定義名 : xxx ワーク ID : xxx

#### 要因

送信データサイズの限界を超えました。

#### 処理種別

処理種別が表示されます。

CASE : 案件の転送

ERR : エラー案件の転送

DELWORK : 一時ワーク削除要求の転送

#### ビジネスプロセス定義名

転送しようとした案件のビジネスプロセス定義名が表示されます。

#### ワーク ID

転送しようとした案件のワーク ID が表示されます。

#### 対処

環境設定ファイル中の「最大転送データサイズ」の値を大きくし、メッセージ送信機能及びメッセージ受信機能を起動し直してください。

## KDWT0305-E

---

WFsend\_dm : メール再送リトライ回数を超えました。処理種別 : xxx  
転送先サーバ名 : xxx ビジネスプロセス定義名 : xxx ワーク ID : xxx

#### 要因

転送先サーバでエラーが発生したため、再送しようとしたますが、メール再送リトライ回数を超えました。転送先でオブジェクトが長時間ロックされているおそれがあります。

#### 処理種別

処理種別が表示されます。

CASE : 案件の転送

WORK : ワーク操作要求の転送

REPO : 返信メールの転送

ERR：エラー案件の転送

DELWORK：一時ワーク削除要求の転送

転送先サーバ名

転送先サーバのホスト名が表示されます。

ビジネスプロセス定義名

処理種別が CASE, ERR 又は WORK の場合に, 転送しようとした案件のビジネスプロセス定義名が表示されます。

ワーク ID

処理種別が CASE, ERR 又は WORK の場合に, 転送しようとした案件のワーク ID が表示されます。

対処

このメッセージが繰り返し出力される場合は, システム管理者に連絡してください。

## KDWT0306-E

---

WFsend\_dm : ユーザトレ情報の転送でエラーが発生しました。転送先サーバ名 : xxx ユーザ ID : xxx

要因

ユーザのホームサーバのホスト名の変更時に, ユーザトレの情報を転送先サーバに転送できませんでした。転送先でオブジェクトが長時間ロックされているおそれがあります。

転送先サーバ名

転送先サーバのホスト名が表示されます。

ユーザ ID

ユーザトレ情報を更新しようとしたユーザのユーザ ID が表示されます。

対処

このメッセージが繰り返し出力される場合は, システム管理者に連絡してください。

## KDWT0307-E

---

WFsend\_dm : 転送データが作成できないため, 案件を転送できません。  
転送 ID : xxx ビジネスプロセス定義名 : xxx ワーク ID : xxx 理由コード :  
xxx

要因

理由コードで示す要因によって転送データが作成できないため, 案件が転送できませんでした。

**転送 ID**

転送元サーバでの転送 ID が表示されます。

**ビジネスプロセス定義名**

転送しようとした案件のビジネスプロセス定義名が表示されます。

**ワーク ID**

転送しようとした案件のワーク ID が表示されます。

**理由コード**

保守情報が表示されます。

001：最大転送データサイズオーバー

002：案件の構造が不正

**対処**

理由コードが 001 の場合の対処方法を次に示します。

1. 環境設定ファイル中の「最大転送データサイズ」の値を大きくしてください。  
「最大転送データサイズ」に既に 16 が設定されている場合は、これ以上値を大きくできません。Groupmax Workflow Monitor で該当のワークを削除後に、案件を再投入してください。
2. メッセージ送信機能及びメッセージ受信機能を起動し直してください。
3. 連携データ再送コマンドで該当の案件を再送してください。

理由コードが 002 又はほかの値が表示されている場合、システム管理者に連絡してください。

## KDWT0308-E

---

**WFsend\_dm**：転送要求が転送要求インターバル時間を経過しましたが転送リトライ回数を超えたため転送を中止します。転送 ID：xxx

**要因**

転送要求が転送要求インターバル時間を経過しましたが、転送リトライ回数を超えたため転送を中止します。

**転送 ID**

転送時の転送 ID が表示されます。

**対処**

以前に出力された KDWT8118-W メッセージの直前に出力されたメッセージに従って障害の要因を取り除いた後、連携データ再送コマンドで該当の要求を再送してください。

## KDWT0309-E

---

WFsend\_dm : 終了ワーク情報ファイルが見つかりませんでした。終了ワーク情報ファイル名 : xxx

### 要因

終了ワーク情報ファイルが見つかりませんでした。再度転送します。

終了ワーク情報ファイル名

転送しようとした終了ワーク情報ファイル名が表示されます。

### 対処

ワーク削除コマンド実行時のワーク削除ファイルディレクトリ名環境変数の指定値と、Groupmax Workflow Multi-Server 起動時の環境変数の指定値を変更した場合は、ワーク削除コマンド実行時の環境変数の指定値に戻して再起動してください。表示されたファイルがある場合はシステム管理者に連絡してください。

## KDWT0310-E

---

WFsend\_dm : 送信先の Groupmax Workflow Server のバージョンが古い  
ため送信できません。要求種別 : xxx 送信先サーバホスト名 : xxx

### 要因

送信先の Groupmax Workflow Server のバージョンが古いため送信できません。

### 要求種別

要求種別が表示されます。要求種別は、「WFshowcq (転送データ一覧取得コマンド)」の出力項目の要求種別を参照してください。

転送先サーバホスト名

転送先サーバのホスト名が表示されます。

### 対処

送信先サーバの Groupmax Workflow Server , Groupmax Workflow Multi-Server のバージョンを新しくしてください。その後、ビジネスプロセス定義及びロールを配布してください。

## KDWT0311-E

---

WFsend\_dm : Workflow 管理サーバのユーザ ID 「system」のトレーに  
送付しようとしたが、環境設定で Workflow 管理サーバホスト名が指

定されていません。処理種別：xxx ビジネスプロセス定義名：xxx ワーク ID：xxx

#### 要因

Workflow 管理サーバのユーザ ID「system」のトレイに送付しようとしたが、環境設定ファイルで Workflow 管理サーバホスト名が指定されていません。

#### 処理種別

処理種別が表示されます。

ERR：エラー案件の転送

#### ビジネスプロセス定義名

転送しようとした案件のビジネスプロセス定義名が表示されます。

#### ワーク ID

転送しようとした案件のワーク ID が表示されます。

#### 対処

環境設定ファイルで Workflow 管理サーバホスト名を設定して再起動してください。

### KDWT2001-I

---

WFreceive\_dm : メッセージ受信機能を開始しました。

### KDWT2002-I

---

WFreceive\_dm : メッセージ受信機能を終了中です。

### KDWT2003-I

---

WFreceive\_dm : メッセージ受信機能を終了しました。

### KDWT2004-I

---

WFreceive\_dm : メッセージ受信機能を強制終了しました。

## KDWT2005-I

---

WFreceive\_dm : データを連携先に転送できなかったため、再送します。  
ケース識別子 : xxx 転送 ID : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

### 要因

Groupmax Mail Server の障害、通信の障害、OR 名不正などの理由で、連携データを連携先に転送できませんでした。

### ケース識別子

転送できなかった案件のケース識別子が表示されます。

### 転送 ID

転送できなかった連携データの転送 ID が表示されます。

### 詳細コード

保守情報が表示されます。

### サブコード

保守情報が表示されます。

### 対処

次の点を確認し、誤りがない場合は、システム管理者に連絡してください。

- 連携元サーバの窓口名定義ファイルの OR 名
- Groupmax Mail Server の起動順序

## KDWT2102-W

---

WFreceive\_dm : 規定された種類以外のデータを受信しました。

### 要因

マルチサーバ機能で規定していない種類のデータを受信しました。

### 対処

必要ありません。

## KDWT2103-W

---

WFreceive\_dm : システム用のトレー接続のリトライ回数が制限値を超えたため、案件を移動できません。ワーク ID : xxx ビジネスプロセス定義名 : xxx

### 要因

連携先ビジネスプロセス定義に案件を投入しようとしたのですが、システム用のトレーに接続できませんでした。オブジェクトが、長時間ロックされているおそれが

あります。

ワーク ID

エラーとなったワークのワーク ID が表示されます。

ビジネスプロセス定義名

連携先のビジネスプロセス定義名が表示されます。

対処

《連携先サーバ》

対処の必要はありません。ただし、連携元サーバのワークフロー運用管理者から問い合わせがあった場合は、このメッセージに表示されている情報を報告してください。

《連携元サーバ》

エラーとなった案件を復帰してください。案件の復帰については、KDWT0215-E の対処を参照してください。

## KDWT2104-W

---

WFreceive\_dm : 処理中にビジネスプロセス定義の削除や状態の変更が行われたため、案件をシステム用のトレーに移動できません。ビジネスプロセス定義名 : xxx バージョン : xxx

要因

処理中に連携先ビジネスプロセス定義が削除されたか、又は投入抑止の状態に変更されたため、案件が投入できませんでした。

ビジネスプロセス定義名

連携先のビジネスプロセス定義名が表示されます。

バージョン

連携先のビジネスプロセス定義のバージョン番号が表示されます。最新バージョンの場合は「LATEST」と表示されます。

対処

《連携先サーバ》

連携先ビジネスプロセス定義を投入できる状態にしてください。

《連携元サーバ》

エラーとなった案件を復帰してください。案件の復帰については、KDWT0215-E の対処を参照してください。なお、連携先サーバのワークフロー運用管理者から問い合わせがあった場合は、このメッセージに表示されている情報を報告してください。

## KDWT2105-W

---

WFreceive\_dm : メモの貼り付け先文書が存在しないため、案件をシステム用のトレーに移動できません。ビジネスプロセス定義名 : xxx バージョン : xxx ワーク ID : xxx ケース名 : xxx

### 要因

連携元サーバで、案件に添付されていたメモの貼り付け先文書がないため、連携先ビジネスプロセス定義に案件を投入できませんでした。

#### ビジネスプロセス定義名

連携先のビジネスプロセス定義名が表示されます。

#### バージョン

連携先のビジネスプロセス定義のバージョン番号が表示されます。最新バージョンの場合は「LATEST」と表示されます。

#### ワーク ID

エラーとなったワークのワーク ID が表示されます。

#### ケース名

エラーとなったメモ及び文書を添付していた案件のケース名が表示されます。

### 対処

#### 《連携先サーバ》

対処の必要はありません。ただし、連携元サーバのワークフロー運用管理者から問い合わせがあった場合は、このメッセージに表示されている情報を報告してください。

#### 《連携元サーバ》

エラーとなった案件を復帰してください。案件の復帰については、KDWT0215-E の対処を参照してください。

## KDWT2106-W

---

WFreceive\_dm : ワークが存在しないため、状態を変更できません。要求種別 : xxx ビジネスプロセス定義名 : xxx ワーク ID : xxx

### 要因

ワークの状態を変更する要求を受け付けましたが、ワークがないため、処理できません。要求は無視されます。要因として、ビジネスプロセスの階層連携で連携先のビジネスプロセスのワークを強制的に削除した場合が考えられます。

#### 要求種別

ワーク状態変更の要求種別が表示されます。要求種別は、「WFshowcq ( 転送データ一覧取得コマンド )」の出力項目の要求種別を参照してください。

**ビジネスプロセス定義名**

状態を変更しようとしたワークのビジネスプロセス定義名が表示されます。

**ワーク ID**

状態を変更しようとしたワークのワーク ID が表示されます。

**対処**

必要ありません。

## KDWT2107-W

---

WFreceive\_dm : ワークがキャンセルされているため、状態を変更できません。要求種別 : xxx ビジネスプロセス定義名 : xxx ワーク ID : xxx

**要因**

ワークの状態を変更する要求を受け付けましたが、ワークはキャンセルされているため、状態変更できません。要求は無視されます。要因として、ビジネスプロセスの階層連携で連携先のビジネスプロセスのワークを強制的にキャンセルした場合が考えられます。

**要求種別**

ワーク状態変更の要求種別が表示されます。要求種別は、「WFshowcq ( 転送データ一覧取得コマンド) 」の出力項目の要求種別を参照してください。

**ビジネスプロセス定義名**

状態を変更しようとしたワークのビジネスプロセス定義名が表示されます。

**ワーク ID**

状態を変更しようとしたワークのワーク ID が表示されます。

**対処**

必要ありません。

## KDWT2108-W

---

WFreceive\_dm : ワークの状態を変更しましたが、結果報告に失敗しました。部署名 : xxx 転送 ID : xxx 要求種別 : xxx ビジネスプロセス定義名 : xxx ワーク ID : xxx

**要因**

ワークの状態を変更しましたが、要求元への結果報告で失敗しました。要求元部署の転送確認待ちリストから削除されません。他のクライアントが操作して、処理中の受信メールが削除された場合などに発生します。

**部署名**

ワーク状態変更の要求元の部署名が表示されます。

#### 転送 ID

要求元からの転送 ID を表示します。

#### 要求種別

ワーク状態変更の要求種別が表示されます。要求種別は、「WFshowcq (転送データ一覧取得コマンド)」の出力項目の要求種別を参照してください。

#### ビジネスプロセス定義名

状態を変更しようとしたワークのビジネスプロセス定義名が表示されます。

#### ワーク ID

状態を変更しようとしたワークのワーク ID が表示されます。

#### 対処

1. 転送確認待ちリストから削除したい場合、表示されている転送 ID の要求の再送を、要求元のワークフロー運用管理者に依頼してください。
2. 要求元のワークフロー運用管理者は、連携データ再送コマンドを実行して再送してください。

## KDWT2109-W

---

WFreceive\_dm : ワークの状態変更の結果報告に失敗しました。ワークの状態は変更できませんでした。部署名 : xxx 転送 ID : xxx 要求種別 : xxx ビジネスプロセス定義名 : xxx ワーク ID : xxx

#### 要因

ワークの状態変更失敗のため、要求元に結果を送ろうとしましたが結果が送れませんでした。要求元部署の転送確認待ちリストから削除されません。他のクライアントが操作して、受信メールが処理の途中で削除された場合などに発生します。

#### 部署名

ワーク状態変更の要求元の部署名が表示されます。

#### 転送 ID

要求元からの転送 ID を表示します。

#### 要求種別

ワーク状態変更の要求種別が表示されます。要求種別は、「WFshowcq (転送データ一覧取得コマンド)」の出力項目の要求種別を参照してください。

#### ビジネスプロセス定義名

状態を変更しようとしたワークのビジネスプロセス定義名が表示されます。

#### ワーク ID

状態を変更しようとしたワークのワーク ID が表示されます。

#### 対処

1. 転送確認待ちリストから削除したい場合、表示されている転送 ID の要求の再送

- を、要求元のワークフロー運用管理者に依頼してください。
2. 要求元のワークフロー運用管理者は、連携データ再送コマンドを実行して再送してください。

## KDWT2110-W

---

WFreceive\_dm : メールを受信しましたが、処理をスキップします。要求種別 : xxx 転送元サーバ ID : xxx 転送 ID : xxx 理由コード : xxx

### 要因

メールを受信しましたが、処理が不要なためスキップします。

### 要求種別

要求種別が表示されます。要求種別は、「WFshowcq (転送データ一覧取得コマンド)」の出力項目の要求種別を参照してください。

### 転送元サーバ ID

結果報告先である転送元サーバの識別子が表示されます。

### 転送 ID

転送元サーバでの転送 ID が表示されます。

### 理由コード

理由コードが表示されます。

RETRANS : 受信済みのメールです。

### 対処

必要ありません。

## KDWT2201-E

---

WFreceive\_dm : メールサーバの環境設定が不正です。

### 要因

Groupmax Mail Server の環境設定に誤りがあります。

### 対処

Groupmax Mail の環境を確認して、メッセージ受信機能を起動してください。

## KDWT2202-E

---

WFreceive\_dm : 送信されたメッセージの取り出しに失敗しました。

ケース識別子 : xxx 転送 ID : xxx

### 要因

転送元から送信されたメッセージの取り出しに失敗しました。

ケース識別子

転送元でのケース識別子が表示されます。

転送 ID

転送元サーバでの転送 ID が表示されます。

対処

繰り返し発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWT2203-E

---

WFreceive\_dm : ケースオブジェクトが生成できません。ケース名 : xxx  
連携元ケース識別子 : xxx ワーク ID : xxx 詳細コード : xxx

要因

案件が生成できませんでした。

ケース名

エラーとなったケース名が表示されます。

連携元ケース識別子

エラーとなった案件の連携元でのケース識別子が表示されます。

ワーク ID

エラーとなったワークのワーク ID が表示されます。

詳細コード

保守情報が表示されます。

対処

直前のメッセージに従って対処してください。

## KDWT2206-E

---

WFreceive\_dm : 文書、メモ又はデータオブジェクトが作成できません。  
ビジネスプロセス定義名 : xxx ケース名 : xxx ワーク ID : xxx 詳細コード : xxx

要因

文書、メモ又はデータオブジェクトが生成できませんでした。

ビジネスプロセス定義名

連携先のビジネスプロセス定義名が表示されます。

ケース名

エラーとなった文書、メモ又はデータオブジェクトを添付していた案件のケー

ス名が表示されます。

ワーク ID

エラーとなったワークのワーク ID が表示されます。

詳細コード

保守情報が表示されます。

対処

直前のメッセージに従って対処してください。

## KDWT2209-E

---

WFreceive\_dm : 送付されたメッセージの実体が存在しません。ケース識別子 : xxx 転送 ID : xxx

要因

転送データがありませんでした。

ケース識別子

転送元でのケース識別子が表示されます。

転送 ID

転送元サーバでの転送 ID が表示されます。

対処

繰り返し発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWT2210-E

---

WFreceive\_dm : 連携元と連携先でケース属性の個数が一致しません。ビジネスプロセス定義名 : xxx バージョン : xxx ケース名 : xxx

要因

連携元ビジネスプロセス定義と連携先ビジネスプロセス定義で、ケース属性の個数が一致しません。

ビジネスプロセス定義名

連携先のビジネスプロセス定義名が表示されます。

バージョン

連携先のビジネスプロセス定義のバージョンが表示されます。最新バージョンの場合は「LATEST」と表示されます。

ケース名

エラーとなったケース名が表示されます。

対処

連携元サーバのワークフロー運用管理者から問い合わせがあった場合、このメッセージに表示されている情報を報告してください。連携元と連携先のビジネスプロセス定義で、次の情報を一致させてください。

- ケース属性名
- ケース属性数
- ケース属性の型

このとき、次のどちらかの方法で、対処してください。

《連携元のビジネスプロセス定義を修正する場合》

< 連携先サーバ >

対処する必要はありません。

< 連携元サーバ >

1. 連携元ビジネスプロセス定義のソースノードで、ケース属性を修正してください。
2. 修正したビジネスプロセス定義に、案件を再投入してください。案件の再投入については、KDWT0215-E の対処を参照してください。

《連携先のビジネスプロセス定義を修正する場合》

< 連携先サーバ >

連携先ビジネスプロセス定義のソースノードで、ケース属性を修正してください。

< 連携元サーバ >

エラーとなった案件を復帰してください。案件の復帰については、KDWT0215-E の対処を参照してください。

## KDWT2211-E

---

WFreceive\_dm : 連携元でケース属性が定義されていません。ビジネスプロセス定義名 : xxx バージョン : xxx ケース名 : xxx 属性名 : xxx

### 要因

連携元ビジネスプロセス定義でケース属性が定義されていません。

ビジネスプロセス定義名

連携先のビジネスプロセス定義名が表示されます。

バージョン

連携先のビジネスプロセス定義のバージョン番号が表示されます。最新バージョンの場合は「LATEST」と表示されます。

ケース名

エラーとなったケース名が表示されます。

属性名

連携元で定義されていないケース属性名が表示されます。

### 対処

連携元サーバのワークフロー運用管理者から問い合わせがあった場合、このメッセージに表示されている情報を報告してください。連携元と連携先のビジネスプロセス定義で、次の情報を一致させてください。

- ケース属性名
- ケース属性数
- ケース属性の型

このとき、次のどちらかの方法で、対処してください。

《連携元のビジネスプロセス定義を修正する場合》

<連携先サーバ>

対処する必要はありません。

<連携元サーバ>

1. 連携元ビジネスプロセス定義のソースノードで、ケース属性を修正してください。
2. 修正したビジネスプロセス定義に、案件を再投入してください。案件の再投入については、KDWT0215-E の対処を参照してください。

《連携先のビジネスプロセス定義を修正する場合》

<連携先サーバ>

連携先ビジネスプロセス定義のソースノードで、ケース属性を修正してください。

<連携元サーバ>

エラーとなった案件を復帰してください。案件の復帰については、KDWT0215-E の対処を参照してください。

## KDWT2212-E

---

WFreceive\_dm : 連携元と連携先で対応するケース属性のデータ型が一致しません。ビジネスプロセス定義名 : xxx バージョン : xxx ケース名 : xxx 属性名 : xxx

### 要因

連携元ビジネスプロセス定義と連携先ビジネスプロセス定義で、ケース属性の型が一致しません。

ビジネスプロセス定義名

連携先のビジネスプロセス定義名が表示されます。

バージョン

連携先のビジネスプロセス定義のバージョン番号が表示されます。最新バージョンの場合は「LATEST」と表示されます。

ケース名

エラーとなったケース名が表示されます。

属性名

エラーとなった属性名が表示されます。

#### 対処

連携元サーバのワークフロー運用管理者から問い合わせがあった場合、このメッセージに表示されている情報を報告してください。連携元と連携先のビジネスプロセス定義で、次の情報を一致させてください。

- ケース属性名
- ケース属性数
- ケース属性の型

このとき、次のどちらかの方法で、対処してください。

#### 《連携元のビジネスプロセス定義を修正する場合》

< 連携先サーバ >

対処する必要はありません。

< 連携元サーバ >

1. 連携元ビジネスプロセス定義のソースノードで、ケース属性を修正してください。
2. 修正したビジネスプロセス定義に、案件を再投入してください。案件の再投入については、KDWT0215-E の対処を参照してください。

#### 《連携先のビジネスプロセス定義を修正する場合》

< 連携先サーバ >

連携先ビジネスプロセス定義のソースノードで、ケース属性を修正してください。

< 連携元サーバ >

エラーとなった案件を復帰してください。案件の復帰については、KDWT0215-E の対処を参照してください。

## KDWT2213-E

---

WFreceive\_dm : 連携先で対応するケースが定義されていません。ビジネスプロセス定義名 : xxx バージョン : xxx ケース名 : xxx

#### 要因

連携先ビジネスプロセス定義のソースノードで、受信した案件のケースが定義されていません。

#### ビジネスプロセス定義名

連携先のビジネスプロセス定義名が表示されます。

#### バージョン

連携先のビジネスプロセス定義のバージョンが表示されます。最新バージョンの場合は「LATEST」と表示されます。

#### ケース名

連携先で定義されていないケース名が表示されます。

## 対処

連携元サーバのワークフロー運用管理者から問い合わせがあった場合、このメッセージに表示されている情報を報告してください。連携元のケース名を連携先のビジネスプロセス定義で定義してください。このとき、次のどちらかの方法で対処してください。

## 《連携元のビジネスプロセス定義だけ修正する場合》

< 連携先サーバ >

対処する必要はありません。

< 連携元サーバ >

連携元ビジネスプロセス定義を次のどれかの方法で修正し、修正したビジネスプロセス定義に、案件を再投入してください。案件の再投入については、KDWT0215-E の対処を参照してください。

- ソースノードで、エラーとなったケース名を削除する
- ソースノードで、エラーとなったケース名を連携先で定義されているケース名に変更する
- 定義されていないケースが転送されないようにフローを変更する
- シンクノード又は階層連携ノードで、ケースが定義されているソースノードへ転送するようにする

## 《連携先のビジネスプロセス定義を修正する場合》

< 連携先サーバ >

連携先ビジネスプロセス定義のソースノードで、ケース名を修正又は追加してください。

< 連携元サーバ >

- 連携先でビジネスプロセス名を変更して登録する場合
  1. 連携元のビジネスプロセス定義のシンクノード又は階層連携ノードを修正してください。
  2. 修正したビジネスプロセス定義に、案件を再投入してください。案件の再投入については、KDWT0215-E の対処を参照してください。

- 連携先でビジネスプロセス名を変更しない場合

エラーとなった案件を復帰してください。案件の復帰については、KDWT0215-E の対処を参照してください。

## ( 補足 )

ビジネスプロセス定義のケース名又はケース数を変更するには次の 2 通りの方法があります。

- ビジネスプロセス名を変更する。
- 同じビジネスプロセス名のビジネスプロセス定義をすべて削除してから、登録する。

## KDWT2215-E

---

WReceive\_dm : 不到達処理のリトライ回数が制限値を超えました。

### 要因

不到達の案件を処理できませんでした。オブジェクトが、長時間ロックされているおそれがあります。該当する要求を再度処理します。

### 対処

時間をおいて再度処理しますので、繰り返し出力されていなければ対処の必要はありません。このメッセージが繰り返し出力される場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWT2216-E

---

WReceive\_dm : 到達処理のリトライ回数が制限値を超えました。

### 要因

到達した案件を処理できませんでした。オブジェクトが、長時間ロックされているおそれがあります。該当する要求を再度処理します。

### 対処

時間をおいて再度処理しますので、繰り返し出力されていなければ対処の必要はありません。このメッセージが繰り返し出力される場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWT2217-E

---

WReceive\_dm : 文書コメント属性取得処理のリトライ回数が制限値を超えました。

### 要因

文書コメント属性を取得できませんでした。オブジェクトが、長時間ロックされているおそれがあります。該当する要求を再度処理します。

### 対処

時間をおいて再度処理しますので、繰り返し出力されていなければ対処の必要はありません。このメッセージが繰り返し出力される場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWT2218-E

---

WFreceive\_dm : フィールド情報リスト取得処理のリトライ回数が制限値を超えました。

### 要因

フィールド情報を取得できませんでした。オブジェクトが、長時間ロックされているおそれがあります。該当する要求を再度処理します。

### 対処

時間をおいて再度処理しますので、繰り返し出力されていなければ対処の必要はありません。このメッセージが繰り返し出力される場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWT2219-E

---

WFreceive\_dm : 着信通知処理でエラーが発生しました。

### 要因

着信通知処理でエラーが発生しました。該当する要求を再度処理します。

### 対処

時間をおいて再度処理しますので、繰り返し出力されていなければ対処の必要はありません。このメッセージが繰り返し出力される場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWT2220-E

---

WFreceive\_dm : ワーク状態がシンク又はキャンセル状態のため案件を移動できません。ビジネスプロセス定義名 : xxx バージョン : xxx ワーク ID : xxx

### 要因

ワークの遷移状態が終了又はキャンセルのため、案件を投入できません。

### ビジネスプロセス定義名

連携先のビジネスプロセス定義名が表示されます。

### バージョン

連携先のビジネスプロセス定義のバージョンが表示されます。最新バージョンの場合は「LATEST」と表示されます。

### ワーク ID

エラーとなったワークのワーク ID が表示されます。

#### 対処

連携元サーバのワークフロー運用管理者から問い合わせがあった場合、このメッセージに表示されている情報を報告してください。次のどちらかの方法で対処してください。

##### 《連携元でワーク ID を変更する場合》

< 連携先サーバ >

対処する必要はありません。

< 連携元サーバ >

ワーク ID を変更して、案件を再投入してください。案件の再投入については、KDWT0215-E の対処を参照してください。

##### 《連携先でワークを削除する場合》

< 連携先サーバ >

表示されているワーク ID のワークを削除してください。

< 連携元サーバ >

エラーとなった案件を復帰してください。案件の復帰については、KDWT0215-E の対処を参照してください。

## KDWT2221-E

---

WFreceive\_dm : 同一ワーク ID の案件が、既に存在するため、案件をシステム用のトレーに移動できません。ビジネスプロセス定義名 : xxx  
バージョン : xxx ワーク ID : xxx

#### 要因

同一ワーク ID の案件が、連携先のビジネスプロセス定義に既にあるため、案件を投入できません。

##### ビジネスプロセス定義名

連携先のビジネスプロセス名が表示されます。

##### バージョン

連携先のビジネスプロセス定義のバージョンが表示されます。最新バージョンの場合は「LATEST」と表示されます。

##### ワーク ID

エラーとなった案件のワーク ID が表示されます。

#### 対処

連携元サーバのワークフロー運用管理者から問い合わせがあった場合、このメッセージに表示されている情報を報告してください。次のどちらかの方法で、対処してください。

##### 《連携元でワーク ID を修正する場合》

< 連携先サーバ >

対処する必要はありません。

<連携元サーバ>

ワーク ID を変更して、案件を再投入してください。案件の再投入については、KDWT0215-E の対処を参照してください。

《連携先のビジネスプロセス定義を修正する場合》

<連携先サーバ>

表示されているビジネスプロセス名のすべてのバージョンを調べて、表示されているワーク ID のワークを削除してください。

<連携元サーバ>

エラーとなった案件を復帰してください。案件の復帰については、KDWT0215-E の対処を参照してください。

## KDWT2222-E

---

WFreceive\_dm : ビジネスプロセスに案件が存在しないため、差し戻しできませんでした。ビジネスプロセス定義名 : xxx ワーク ID : xxx ケース識別子 : xxx

### 要因

差し戻し先のビジネスプロセスでワークが削除された場合に発生するおそれがあります。

ビジネスプロセス定義名

差し戻し先のビジネスプロセス定義名が表示されます。

ワーク ID

差し戻し要求のあったワークのワーク ID が表示されます。

ケース識別子

差し戻し要求のあった案件のケース識別子が表示されます。

### 対処

対処する必要はありません。

## KDWT2223-E

---

WFreceive\_dm : ビジネスプロセスに案件が存在しないため、下位階層のビジネスプロセスから案件を戻せませんでした。ビジネスプロセス定義名 : xxx ワーク ID : xxx ケース識別子 : xxx

### 要因

ビジネスプロセスの階層連携で連携元のワークが削除された場合に発生するおそれがあります。

ビジネスプロセス定義名

連携元のビジネスプロセス定義名が表示されます。

ワーク ID

ワークのワーク ID が表示されます。

ケース識別子

ケース識別子が表示されます。

対処

対処する必要はありません。

## KDWT2224-E

---

WFreceive\_dm : 案件の転送先の部署でエラーを検知しました。部署名 : xxx ビジネスプロセス定義名 : xxx ワーク ID : xxx プログラム名 : xxx 詳細コード : xxx

要因

案件の転送先でエラーが発生しました。

部署名

エラーが発生した部署名が表示されます。

ビジネスプロセス定義名

連携先のビジネスプロセス定義名が表示されます。

ワーク ID

ワークのワーク ID が表示されます。

プログラム名

エラーを検知したプログラム名が表示されます。

詳細コード

プログラム名が Groupmax Workflow Multi-Server の場合は、KDWTxxxx の xxxx が表示されます。Groupmax Object Server 又は Groupmax Workflow の場合は、WFSV\_errno のコードが表示されます。

対処

プログラム名が Groupmax Workflow Multi-Server のときは、KDWTxxxx のメッセージの対処に従って対処してください。その他のプログラム名のときは、詳細コードで示される発生要因を連携元又は連携先で取り除いた後、再度、案件を投入するか、エラーとなった案件を Groupmax Workflow Monitor を使用して復帰してください。

## KDWT2225-E

---

WFreceive\_dm : 案件が次のノードへ遷移していたため、下位階層のビジネスプロセスからケースを戻せません。ビジネスプロセス定義名 : xxx  
ワーク ID : xxx ケース識別子 : xxx

### 要因

ビジネスプロセスの階層連携で、連携データ再送コマンドで再送したことにより、連携終了の転送データが連携元に既に送付されていたおそれがあります。

ビジネスプロセス定義名

連携元のビジネスプロセス定義名が表示されます。

ワーク ID

ワークのワーク ID が表示されます。

ケース識別子

ケース識別子が表示されます。

### 対処

対処する必要はありません。

## KDWT2226-E

---

WFreceive\_dm : 案件中のケースの構成が連携先と連携元で異なるため、下位階層のビジネスプロセスから案件を戻せません。ビジネスプロセス定義名 : xxx ワーク ID : xxx ケース識別子 : xxx

### 要因

ビジネスプロセスの階層連携で連携先に案件を転送した時のケースの構成と連携先から連携元へ戻るときのケースの構成が異なっています。連携先では、エラートレイに案件を送付します。

ビジネスプロセス定義名

連携元のビジネスプロセス定義名が表示されます。

ワーク ID

ワークのワーク ID が表示されます。

ケース識別子

ケース識別子が表示されます。

### 対処

< 連携先サーバ >

1. 連携先のソースノードと連携元の階層連携ノードでのケース数、ケース名が一致しているか確認してください。

2. 連携先のビジネスプロセス定義を変更してください。

< 連携元サーバ >

1. Groupmax Workflow Monitor でワークをキャンセルしてください。
2. 連携先のビジネスプロセス定義を変更した後、案件を再度投入してください。

## KDWT2227-E

---

WFreceive\_dm : ケース付加情報オブジェクトが生成できませんでした。  
ケース名 : xxx 連携元ケース識別子 : xxx ワーク ID : xxx 詳細コード :  
xxx

### 要因

連携先で、ケース付加情報オブジェクトが生成できませんでした。連携元では、エラートレイに案件を送付します。

#### ケース名

ケース付加情報を生成できなかった案件のケース名が表示されます。

#### 連携元ケース識別子

連携元から転送した案件のケース識別子が表示されます。

#### ワーク ID

ワークのワーク ID が表示されます。

#### 詳細コード

WFSV\_errno が表示されます。

### 対処

< 連携先サーバ >

「付録D WFSV\_errno のコード」を参照して、発生要因を取り除いてください。

< 連携元サーバ >

連携先サーバで発生要因を取り除いた後、Groupmax Workflow Monitor を使用して、表示されたワーク ID のワークの案件を見付け、案件を復帰してください。

## KDWT2300-E

---

WFreceive\_dm : 案件の転送先でエラーが発生しました。転送先サーバ名 : xxx 要求種別 : xxx プログラム名 : xxx 詳細コード : xxx ビジネスプロセス定義名 : xxx ワーク ID : xxx

### 要因

案件の転送先でエラーが発生しました。

#### 転送先サーバ名

エラーが発生した転送先サーバのホスト名が表示されます。

#### 要求種別

要求種別が表示されます。要求種別は、「WFshowcq (転送データ一覧取得コマンド)」の出力項目の要求種別を参照してください。

#### プログラム名

転送先でエラーを検知したプログラム名が表示されます。

#### 詳細コード

プログラム名が Groupmax Workflow Multi-Server の場合は、KDWTxxxx の xxxx が表示されます。

Groupmax Object Server 又は Groupmax Workflow Server の場合は、WFSV\_errno が表示されます。

#### ビジネスプロセス定義名

エラーとなった案件のビジネスプロセス定義名が表示されます。

#### ワーク ID

エラーとなった案件のワーク ID が表示されます。

### 対処

プログラム名が Groupmax Workflow Multi-Server のときは、KDWTxxxx のメッセージに従って対処してください。その他のプログラム名のときは、詳細コードで示される発生要因を転送元又は転送先で取り除いてください。

## KDWT2301-E

---

WFreceive\_dm : オブジェクトが作成できませんでした。処理種別 : xxx 要求種別 : xxx オブジェクト種別 : xxx ビジネスプロセス定義名 : xxx ワーク ID : xxx

### 要因

オブジェクトが作成できませんでした。

#### 処理種別

処理種別が表示されます。

PUTBP：ビジネスプロセスへの案件投入

CASE：案件の転送

USER：ユーザトレー情報の転送

#### 要求種別

要求種別は、「WFshowcq ( 転送データ一覧取得コマンド )」の出力項目の要求種別を参照してください。

#### オブジェクト種別

作成しようとしたオブジェクト種別が表示されます。

CASE：ケースオブジェクト

DOC：文書又はメモオブジェクト

DATA：データオブジェクト

WORK：ワークオブジェクト

USER：ユーザオブジェクト

#### ビジネスプロセス定義名

処理種別が PUTBP 又は CASE の場合に、案件のビジネスプロセス定義名が表示されます。

#### ワーク ID

処理種別が PUTBP 又は CASE の場合に、案件のワーク ID が表示されます。

#### 対処

直前のメッセージに従って対処してください。

## KDWT2302-E

---

WFreceive\_dm：ビジネスプロセス定義が登録されていません。ビジネスプロセス定義名：xxx バージョン番号：xxx

#### 要因

ビジネスプロセス定義が登録されていないため、案件を転送できません。

#### ビジネスプロセス定義名

登録されていないビジネスプロセス定義名が表示されます。

#### バージョン番号

登録されていないビジネスプロセス定義のバージョン番号が表示されます。

#### 対処

表示されたビジネスプロセス定義を Groupmax Workflow Definer で配布してください。

## KDWT2303-E

---

WFreceive\_dm : ビジネスプロセスへの案件投入が抑止されています。  
ビジネスプロセス定義名 : xxx バージョン番号 : xxx ワーク ID : xxx

### 要因

ビジネスプロセスへの案件投入が抑止されているため、案件を投入できません。

ビジネスプロセス定義名

案件を投入しようとしたビジネスプロセス定義名が表示されます。

バージョン番号

案件を投入しようとしたビジネスプロセス定義のバージョン番号が表示され  
ます。

ワーク ID

投入しようとした案件のワーク ID が表示されます。

### 対処

必要に応じて Groupmax Workflow Definer 又は Groupmax Workflow Monitor で、  
表示されたビジネスプロセスの運用状態を変更してください。

## KDWT2304-E

---

WFreceive\_dm : ワーク ID が重複しているため、案件を投入できませ  
ん。ビジネスプロセス定義名 : xxx バージョン番号 : xxx ワーク ID : xxx

### 要因

表示されたワーク ID のワークが既にあるため、ビジネスプロセスに案件を投入でき  
ませんでした。

ビジネスプロセス定義名

案件を投入しようとしたビジネスプロセス定義名が表示されます。

バージョン番号

案件を投入しようとしたビジネスプロセス定義のバージョン番号が表示されま  
す。

ワーク ID

投入しようとした案件のワーク ID が表示されます。

### 対処

ワーク ID を変更するか、ワークをキャンセル又は削除した後に、再度、案件を投入  
してください。

## KDWT2305-E

---

WFreceive\_dm : ビジネスプロセスへの案件の投入に失敗しました。ビジネスプロセス定義名 : xxx バージョン番号 : xxx ワーク ID : xxx 理由コード : xxx

### 要因

ビジネスプロセスへ案件を投入しようとしたが投入できませんでした。

ビジネスプロセス定義名

案件を投入しようとしたビジネスプロセス定義名が表示されます。

バージョン番号

案件を投入しようとしたビジネスプロセス定義のバージョン番号が表示されません。

ワーク ID

投入しようとした案件のワーク ID が表示されます。

理由コード

理由コードが表示されます。

001 : 案件投入でロックエラー発生

002 : メモの貼り付け先文書がない

003 : 指定したソースノードが不正

### 対処

理由コードが 001 の場合は、再度、案件を投入してください。その他の理由コードの場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWT2306-E

---

WFreceive\_dm : トレーがないため、案件を配布できません。トレー種別 : xxx ロール名又はユーザ ID : xxx

### 要因

案件をロールまたはユーザに配布しようとしたが、トレーがないため配布できませんでした。トレー種別が USER の場合、ユーザ定義コマンド (WFregusr) が実行されていないおそれがあります。

トレー種別

ROLE : ロールトレー

USER : ユーザトレー

ロール名又はユーザ ID

案件を配布しようとしたロールのロール名、又はユーザのユーザ ID が表示されます。

## 対処

トレー種別が USER の場合は、ユーザ定義コマンド (WFregusr) を実行してください。ROLE の場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWT2308-E

---

WFreceive\_dm : 案件の遷移に失敗しました。ビジネスプロセス定義名 : xxx ワーク ID : xxx 理由コード : xxx

## 要因

案件を次のノードに遷移しようとしたのですが遷移できませんでした。連携データ再送コマンドで同一データを複数転送したおそれがあります。要求を無視します。

## ビジネスプロセス定義名

遷移しようとした案件のビジネスプロセス定義名が表示されます。

## ワーク ID

遷移しようとした案件のワーク ID が表示されます。

## 理由コード

理由コードが表示されます。

001 : 既に案件が遷移している

002 : 案件の構造が不一致

003 : ワークがシンクしている

## 対処

必要ありません。

## KDWT2309-E

---

WFreceive\_dm : 転送元サーバへの結果報告に失敗した可能性があります。転送元サーバ名 : xxx 転送 ID : xxx 要求種別 : xxx 報告結果 : xxx

## 要因

転送元サーバに受信結果を報告しようと通知メールを発信しましたが、何かの原因で転送元サーバからの受信メールが削除されていたため、失敗したおそれがあります。

## 転送元サーバ名

結果報告先である転送元サーバのホスト名が表示されます。

## 転送 ID

転送元サーバでの転送 ID が表示されます。

## 要求種別

要求種別が表示されます。要求種別は、「WFshowcq (転送データ一覧取得コマ

ンド)」の出力項目の要求種別を参照してください。

報告結果

転送元に報告しようとした結果が表示されます。

NORMAL：正常終了

ERROR：エラー発生

対処

1. メッセージに表示された転送元サーバで転送データ一覧取得ユティリティを実行し、出力された転送データ一覧ファイルに、メッセージに表示された転送 ID があるかどうか確認してください。
2. メッセージに表示された転送 ID がなければ、結果報告は成功しています。この場合は対処の必要はありません。
3. メッセージに表示された転送 ID があれば、時間を置いて再度 1. を行ってください。
4. 再度 1. を実施しても、転送データ一覧ファイルに、メッセージに表示された転送 ID がある場合、連携データ再送コマンドで、メッセージに表示された転送 ID の転送データを再送してください。

## KDWT2310-E

---

WFreceive\_dm：転送元サーバへの結果報告に失敗しました。転送元サーバ名：xxx 転送 ID：xxx 要求種別：xxx 報告結果：xxx

要因

転送元サーバに受信結果を報告しようと通知メールを発信しましたが、失敗しました。

転送元サーバ名

結果報告先である転送元サーバのホスト名が表示されます。

転送 ID

転送元サーバでの転送 ID が表示されます。

要求種別

要求種別が表示されます。要求種別は、「WFshowcq (転送データ一覧取得コマンド)」の出力項目の要求種別を参照してください。

報告結果

転送元に報告しようとした結果が表示されます。

NORMAL：正常終了

ERROR：エラー発生

対処

1. メッセージに表示された転送元サーバで転送データ一覧取得ユティリティを実行し、出力された転送データ一覧ファイルに、メッセージに表示された転送 ID が

- あるかどうか確認してください。
2. メッセージに表示された転送 ID がなければ、結果報告は成功しています。この場合は対処の必要はありません。
  3. メッセージに表示された転送 ID があれば、時間をおいて再度 1. を行ってください。
  4. 再度 1. を実施しても、転送データ一覧ファイルに、メッセージに表示された転送 ID がある場合、連携データ再送コマンドで、メッセージに表示された転送 ID の転送データを再送してください。

## KDWT2311-E

---

WFreceive\_dm : オブジェクトが取得できませんでした。処理種別 : xxx  
 要求種別 : xxx 転送元サーバ ID : xxx 転送 ID : xxx

### 要因

ロックの取得に失敗し、オブジェクトを取得できませんでした。リトライします。

### 処理種別

処理種別が表示されます。

PUTBP : ビジネスプロセスへの案件投入

CASE : 案件転送

USER : ユーザトレイ情報の転送

### 要求種別

要求種別が表示されます。要求種別は、「WFshowcq (転送データ一覧取得コマンド)」の出力項目の要求種別を参照してください。

### 転送元サーバ ID

結果報告先である転送元サーバの識別子が表示されます。

### 転送 ID

転送元サーバでの転送 ID が表示されます。

### 対処

転送元サーバ ID と転送 ID が同じであるこのメッセージが繰り返し出力される場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWT2312-E

---

WFreceive\_dm : 指定されたユーザに案件を配布できません。ユーザ ID : xxx

### 要因

案件をユーザに配布しようとしたますが、ユーザの状態が運用できる状態でないた

め、配布できませんでした。

ユーザ ID

案件を配布しようとしたユーザのユーザ ID が表示されます。

対処

ユーザの状態を運用できる状態に変更して再度実行してください。又は、運用できるユーザを指定してください。

## KDWT2313-E

---

WFreceive\_dm : ワーク ID が重複したため、案件投入できません。ビジネスプロセス定義名 : xxx バージョン番号 : xxx ワーク ID : xxx ユーザ ID : xxx

要因

ワーク ID が重複したため、案件投入できませんでした。案件は、投入者のユーザトレイに戻ります。

ビジネスプロセス定義名

案件を投入しようとしたビジネスプロセス定義名が表示されます。

バージョン番号

案件を投入しようとしたビジネスプロセス定義のバージョン番号が表示されず。

ワーク ID

投入しようとした案件のワーク ID が表示されます。

ユーザ ID

案件を投入したユーザのユーザ ID が表示されます。

対処

再度、案件を投入してください。

## KDWT4001-I

---

WFstartms : メッセージ送信機能とメッセージ受信機能の起動処理を開始します。

## KDWT4002-I

---

WFstartms : メッセージ送信機能とメッセージ受信機能を起動しました。

## KDWT4011-I

---

WFstopms : メッセージ送信機能とメッセージ受信機能を停止します。

## KDWT4021-I

---

WFretrans : 連携データの再送を受け付けました。ケース識別子 : xxx 転送 ID : xxx

## KDWT4022-I

---

WFretrans 使用方法 : WFretrans [ -n 転送 ID ] [ -i ファイル名 ] [ -o ファイル名 ]

## KDWT4031-W

---

WFshowcq : 転送確認待ちリストにデータが存在しません。

## KDWT4032-W

---

WFshowcq : 転送確認待ちリストに指定されたワーク ID に該当するデータが存在しません。

## KDWT4033-I

---

WFshowcq 使用法 : WFshowcq [ -w ワーク ID ] [ -o ファイル名 ]

## KDWT4100-W

---

WFstartms : 既にメッセージ送信機能は起動しています。

要因

既にメッセージ送信機能は起動しています。

対処

必要ありません。

## KDWT4101-W

---

WFstartms : 既にメッセージ受信機能は起動しています。

要因

既にメッセージ受信機能は起動しています。

対処

必要ありません。

## KDWT4102-W

---

WFstartms : メッセージ送信機能は起動できませんでした。

要因

エラーが発生したため、メッセージ送信機能は起動できませんでした。

対処

直前に出力されたメッセージを見て対処し、再度コマンドを実行してください。

## KDWT4103-W

---

WFstartms : メッセージ受信機能は起動できませんでした。

要因

エラーが発生したため、メッセージ受信機能は起動できませんでした。

対処

直前に出力されたメッセージを見て対処し、再度コマンドを実行してください。

## KDWT4104-W

---

WFstartms : 起動処理中又は停止処理中のため、メッセージ送信機能とメッセージ受信機能は起動できませんでした。

要因

起動処理中又は停止処理中にメッセージ送信機能とメッセージ受信機能は起動できません。処理を中止します。

対処

時間をしばらくおいて、再度コマンドを実行してください。

## KDWT4110-W

---

WFstopms : 既にメッセージ送信機能は停止しています。

要因

既にメッセージ送信機能は停止しています。

対処

必要ありません。

## KDWT4111-W

---

WFstopms : 既にメッセージ受信機能は停止しています。

要因

既にメッセージ受信機能は停止しています。

対処

必要ありません。

## KDWT4112-W

---

WFstopms : 起動処理中又は停止処理中のため、メッセージ送信機能とメッセージ受信機能は停止できませんでした。

要因

起動処理中又は停止処理中にメッセージ送信機能とメッセージ受信機能は停止できません。処理を中止します。

対処

時間をしばらくおいて、再度コマンドを実行してください。

## KDWT4120-W

---

WFretrans : 指定された案件又は転送 ID が転送確認待ちリストに存在しません。ケース識別子 : xxx 転送 ID : xxx

要因

指定された案件が転送確認待ちリストにありません。次の要因によって発生します。

- 連携データ再送コマンドで、再送済み
- 指定されたケース識別子又は転送 ID が不正
- 案件又は転送要求が連携先に転送済み

ケース識別子

指定されたケース識別子が表示されます。

転送 ID

指定された転送 ID が表示されます。

対処

転送データ一覧取得コマンドでケース識別子又は転送 ID を確認した後、必要ならば、転送データ一覧取得コマンドを実行してください。

## KDWT4202-E

---

WFstartms : プロセスを生成できません。

要因

プロセスを生成できません。処理を中止します。

対処

スワップ領域を含めたメモリ容量を見直してください。

## KDWT4203-E

---

WFstartms : オペレーティングシステムとのインタフェースでエラーが発生しました。関数名 : xxx 詳細コード : xxx

要因

オペレーティングシステムとのインタフェース (システムコール) でエラーが発生しました。処理を中止します。

関数名

エラーの発生した関数名が表示されます。

詳細コード

保守情報が表示されます。

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWT4210-E

---

WFstopms : プロセス識別子を書き込んだファイルを見つけることができませんでした。ファイル名 : xxx

要因

プロセス識別子を書き込んだファイルが見付からなかったため、WFstopms コマンドが実行できませんでした。

対処

ps コマンドでメッセージ受信機能 ( WFreceive\_dm ) 又はメッセージ送信機能 ( WFsend\_dm ) のプロセス識別子を探し、「Kill -15 プロセス識別子」を実行してください。

## KDWT4211-E

---

WFstopms : プロセス識別子を書き込んだファイルにアクセス権がありません。

要因

プロセス識別子を記憶したファイルにアクセス権がないため、WFstopms コマンドが実行できませんでした。

対処

スーパーユーザで再度、WFstopms コマンドを実行してください。

## KDWT4212-E

---

WFstopms : オプションの指定に誤りがあります。オプション名 : xxx

要因

WFstopms コマンドのオプションに誤りがあります。処理を中止します。

オプション名

誤りのあるオプション名が表示されます。

対処

オプションの指定を見直して、再度、WFstopms コマンドを実行してください。

## KDWT4213-E

---

WFstopms : オプションが重複しています。オプション名 : xxx

要因

WFstopms コマンドのオプションが重複しています。処理を中止します。

オプション名

重複したオプション名が表示されます。

対処

オプションの指定を見直して、再度、WFstopms コマンドを実行してください。

## KDWT4214-E

---

WFstopms : -f オプションが指定されていません。

要因

WFstopms コマンドで -d オプションが指定されましたが、-f オプションが指定されていません。処理を中止します。

対処

オプションの指定を見直して、再度、WFstopms コマンドを実行してください。

## KDWT4215-E

---

WFstopms : オプションの指定が多すぎます。

要因

WFstopms コマンドのオプションの指定が多過ぎます。処理を中止します。

対処

オプションの指定を見直して、再度、WFstopms コマンドを実行してください。

## KDWT4220-W

---

WFretrans : 転送確認待ちリスト登録のリトライ回数が制限値を超えました。ケース識別子 : xxx 転送 ID : xxx

要因

転送確認待ちリストに登録できませんでした。オブジェクトが長時間ロックされているおそれがあります。連携データ再送コマンドを停止します。

ケース識別子

指定されたケース識別子が表示されます。

転送 ID

指定された転送 ID が表示されます。

対処

しばらく時間をおいて、再度実行してください。

## KDWT4221-W

---

WFretrans : 指定された案件又は転送 ID が存在しません。ケース識別子 : xxx 転送 ID : xxx

要因

指定された案件又は転送 ID がありませんでした。連携データ再送コマンドを停止します。

ケース識別子

指定されたケース識別子が表示されます。

転送 ID

指定された転送 ID が表示されます。

対処

転送データ一覧取得コマンドでケース識別子又は転送 ID を確認した後、再度実行してください。

## KDWT4230-W

---

WFshowcq : 転送確認待ちリストが存在しません。

要因

転送確認待ちリストがありません。転送データ一覧取得コマンドを終了します。

対処

Groupmax Workflow の動作環境を初期化した後、再度実行してください。

## KDWT5226-E

---

WFreceive\_dm : オペレーティングシステムとのインタフェースでエラーが発生しました。関数名 : xxx 理由コード : xxx ファイル名 : xxx 場所 : xxx

### 要因

オペレーティングシステムとのインタフェースでエラーが発生しました。処理を中止します。

#### 関数名

エラーの発生した関数名が表示されます。

#### 理由コード

保守情報が表示されます。

#### ファイル名

保守情報が表示されます。

#### 場所

保守情報が表示されます。

### 対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWT5292-E

---

aaaa : オペレーティングシステムとのインタフェースでエラーが発生しました。関数名 : xxx 理由コード : xxx ファイル名 : xxx 場所 : xxx

### 要因

オペレーティングシステムとのインタフェースでエラーが発生しました。処理を中止します。

#### 関数名

エラーの発生した関数名が表示されます。

#### 理由コード

保守情報が表示されます。

#### ファイル名

保守情報が表示されます。

#### 場所

保守情報が表示されます。

### 対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWT5382-E

---

aaaa : サイトのサーバが起動されていません。

### 要因

Groupmax Mail のサイトのサーバが起動されていません。

### 対処

Groupmax Mail のサイトを起動してください。その後、再度実行してください。

## KDWT8100-W

---

aaaa : 指定されたビジネスプロセス定義が定義されていないため、案件をシステム用のトレーに移動できません。ビジネスプロセス定義名 : xxx  
バージョン : xxx

### 要因

連携先に指定されたビジネスプロセス定義が定義されていないため、案件が投入できませんでした。

#### ビジネスプロセス定義名

連携先に指定されたビジネスプロセス名が表示されます。最新バージョンの場合は「LATEST」と表示されます。

### 対処

連携元サーバのワークフロー運用管理者から問い合わせがあった場合、このメッセージに表示されている情報を報告してください。次のどちらかの方法で、対処してください。

#### 《連携先のビジネスプロセス定義を登録する場合》

< 連携先サーバ >

連携先ビジネスプロセス定義を登録してください。

< 連携元サーバ >

エラーとなった案件を復帰してください。案件の復帰については、KDWT0215-E の対処を参照してください。

#### 《連携元のビジネスプロセス定義を修正する場合》

< 連携先サーバ >

対処する必要はありません。

< 連携元サーバ >

1. 連携元ビジネスプロセス定義のシンクノード又は階層連携ノードで、連携先に既にあるビジネスプロセス定義名を指定してください。
2. 修正したビジネスプロセス定義に、案件を再投入してください。案件の再投入については、KDWT0215-E の対処を参照してください。

## KDWT8101-W

---

aaaa : 指定されたビジネスプロセス定義の状態が運用不可能になっています。ビジネスプロセス定義名 : xxx バージョン番号 : xxx

### 要因

連携先に指定されたビジネスプロセス定義の状態が投入抑止のため、案件を投入できません。

#### ビジネスプロセス定義名

連携先に指定されたビジネスプロセス名が表示されます。

#### バージョン

連携先のビジネスプロセス定義のバージョンが表示されます。なお、LATESTは投入できる最新バージョンを示します。

### 対処

連携元サーバのワークフロー運用管理者から問い合わせがあった場合、このメッセージに表示されている情報を報告してください。

<連携先サーバ>

連携先ビジネスプロセス定義の状態を投入許可にしてください。

<連携元サーバ>

エラーとなった案件を復帰してください。案件の復帰については、KDWT0215-Eの対処を参照してください。

## KDWT8103-W

---

aaaa : 指定されたノードはソースノードではありません。ビジネスプロセス定義名 : xxx バージョン : xxx ノード名 : xxx

### 要因

連携先に指定されたノードはソースノードではないため、案件を投入できません。

#### ビジネスプロセス定義名

連携先に指定されたビジネスプロセス名が表示されます。

#### バージョン

連携先のビジネスプロセス定義のバージョンが表示されます。なお、LATESTは投入できる最新バージョンを示します。

#### ノード名

連携先に指定されたノード名が表示されます。

### 対処

連携元サーバのワークフロー運用管理者から問い合わせがあった場合、このメッセージに表示されている情報を報告してください。

< 連携先サーバ >

対処する必要はありません。

< 連携元サーバ >

1. 連携元ビジネスプロセス定義のシンクノード又は階層連携ノードで、連携先ビジネスプロセス定義のソースノード名を指定してください。
2. 修正したビジネスプロセス定義に、案件を再投入してください。案件の再投入については、KDWT0215-E の対処を参照してください。

## KDWT8104-W

---

aaaa : 実行したユーザには実行権限がありません。

要因

実行の権限がありません。

対処

実行権限のあるユーザでログインして、実行してください。

## KDWT8105-W

---

aaaa : 部署名定義ファイルで、同じ部署名が 2 回以上登録されています。当該行 : xxx

要因

部署名定義ファイルで、同じ部署名が 2 回以上登録されています。エラーの発生した行を無視します。

当該行

エラーの発生した行が表示されます。

対処

同じ部署名を 2 回以上登録しないように、部署名定義ファイルを修正してください。その後、メッセージ送信機能及びメッセージ受信機能を起動し直してください。

## KDWT8106-W

---

aaaa : 部署名定義ファイルで、登録数が制限値を超えています。当該行 : xxx

要因

部署名定義ファイルで、登録数が最大数を超えています。エラーの発生した行以降の行を無視します。

当該行

エラーの発生した行が表示されます。

対処

部署名定義ファイルでの登録数を 1,024 個以下にしてください。その後、メッセージ送信機能及びメッセージ受信機能を起動し直してください。

## KDWT8107-W

---

aaaa : 部署名定義ファイルで、部署名又は窓口名を表す文字列の長さが制限値を超えています。当該行 : xxx

要因

部署名定義ファイルで、部署名又は窓口名を表す文字列の長さが最大長を超えています。エラーの発生した行を無視します。

当該行

エラーの発生した行が表示されます。

対処

部署名定義ファイルのエラーの発生した行を修正してください。部署名は 127 バイト以下、窓口名は 31 バイト以下で指定してください。その後、メッセージ送信機能及びメッセージ受信機能を起動し直してください。

## KDWT8108-W

---

aaaa : 窓口名定義ファイルで、同じ窓口名が 2 回以上登録されていません。当該行 : xxx

要因

窓口名定義ファイル (exentran 又は entrance) で、同じ窓口名が 2 回以上登録されています。エラーの発生した行を無視します。

当該行

エラーの発生した行が表示されます。

対処

同じ窓口名を 2 回以上登録しないように、窓口名定義ファイルを修正してください。その後、メッセージ送信機能及びメッセージ受信機能を起動し直してください。

## KDWT8109-W

---

aaaa : 窓口名定義ファイルで、登録数が制限値を超えています。当該行 : xxx

### 要因

窓口名定義ファイル (exentran 又は entrance) で、登録数が最大数を超えています。エラーの発生した行以降の行を無視します。

### 当該行

エラーの発生した行が表示されます。

### 対処

窓口名定義ファイルの登録数を 1,024 個以下にしてください。その後、メッセージ送信機能及びメッセージ受信機能を起動し直してください。

## KDWT8110-W

---

aaaa : 窓口名定義ファイルで、窓口名、通信手段、通信パラメタを表す文字列の長さが制限値を超えています。当該行 : xxx

### 要因

窓口名定義ファイル (exentran 又は entrance) で、窓口名、アドレス、通信手段などを表す文字列の長さが最大長を超えています。

### 当該行

エラーの発生した行が表示されます。

### 対処

窓口名定義ファイルのエラーの発生した行を修正してください。窓口名は 31 バイト以下で指定してください。通信手段、宛先ユーザ名、アドレス及びバージョンの指定については、「2.5.2 窓口名と部署名の設定」を参照して、指定してください。その後、メッセージ送信機能及びメッセージ受信機能を起動し直してください。

## KDWT8111-W

---

aaaa : 窓口名定義ファイルに指定された通信手段はサポートされていません。当該行 : xxx 通信手段 : xxx

### 要因

窓口名定義ファイル (exentran 又は entrance) でサポートしていない通信手段が指定されました。エラーの発生した行を無視します。

### 当該行

エラーの発生した行が表示されます。

通信手段

指定された通信手段が表示されます。

対処

窓口名定義ファイルのエラーの発生した行を修正してください。その後、メッセージ送信機能及びメッセージ受信機能を起動し直してください。

## KDWT8112-W

---

aaaa : 窓口名定義ファイルに指定されたバージョンはサポートされていません。当該行 : xxx

要因

窓口名定義ファイル (exentran 又は entrance) でサポートしていないバージョンが指定されました。エラーの発生した行を無視します。

当該行

エラーの発生した行が表示されます。

対処

窓口名定義ファイルのエラーの発生した行を修正してください。その後、メッセージ送信機能及びメッセージ受信機能を起動し直してください。

## KDWT8113-W

---

aaaa : 処理対象の案件が転送確認待ちリストに存在しません。ケース識別子 : xxx

要因

処理対象の案件が転送確認待ちリストにありません。連携データ再送コマンドで、強制的に案件を転送した場合に、発生します。

ケース識別子

処理しようとした案件のケース識別子が表示されます。

対処

必要ありません。

## KDWT8114-W

---

aaaa : 受信メールが処理の途中で削除されたため、到達の通知メールの発信に失敗した可能性があります。ワーク ID : xxx 転送 ID : xxx

### 要因

案件転送用の受信メールが、処理の途中で削除されました。他のクライアントが操作した場合などに発生します。連携元に、データの受信完了を通知できなかったおそれがあります。通知に失敗した場合、連携元の転送データの状態が、転送中のまま変更できません。

### ワーク ID

処理対象の案件のワーク ID が表示されます。

### 転送 ID

エラーとなった転送 ID が表示されます。

### 対処

必要であれば、表示されているワーク ID のワークを連携元のサーバで削除してください。

## KDWT8115-W

---

aaaa : 案件投入は成功しましたが、到達の通知メールの発信に失敗しました。ワーク ID : xxx 転送 ID : xxx

### 要因

連携元に、案件の投入完了を通知しようとしたのですが、メールの発信に失敗しました。他のクライアントが操作した場合などに発生します。連携元の案件の状態が転送中のまま、変更できません。

### ワーク ID

エラーとなった案件のワーク ID が表示されます。

### 転送 ID

エラーとなった転送 ID が表示されます。

### 対処

必要であれば、表示されているワーク ID のワークを連携元のサーバで削除してください。

## KDWT8116-W

---

aaaa : 受信メールが処理の途中で削除されたため、不到達の通知メールの発信に失敗した可能性があります。ワーク ID : xxx 転送 ID : xxx

### 要因

受信メールが、処理の途中で削除されました。連携元に、エラーの発生を通知できなかったおそれがあります。通知に失敗した場合、連携元の転送確認待ちリストのデータが、エラートレイに送付されません。通知に成功した場合、連携元で KDWT0215-E が表示され、エラーとなった案件は、エラートレイに送付されます。

### ワーク ID

エラーとなった案件のワーク ID が表示されます。

### 転送 ID

エラーとなった転送 ID が表示されます。

### 対処

このメッセージと以前のメッセージを、連携元サーバのワークフロー運用管理者に連絡してください。

#### < 連携先サーバ >

以前のメッセージに従って、投入失敗の原因を取り除いてください。

#### < 連携元サーバ >

- KDWT0215-E が表示されている場合

メッセージの対処に従ってください。

- KDWT0215-E が表示されていない場合

1. 表示されているワーク ID を指定して、転送データ一覧取得コマンドを実行してください。
2. 転送確認待ちリストにデータがあれば、連携データ再送コマンドを実行してください。データがない場合は、エラーとなった案件を再度投入してください。

## KDWT8117-W

---

aaaa : 不到達の通知メールの発信に失敗しました、再転送してください。ケース識別子 : xxx 転送 ID : xxx

### 要因

連携元に、案件の投入失敗を通知しようとしたのですが、メールの発信に失敗しました。連携元の転送確認待ちリストのデータが、エラートレイに送付されません。

### ケース識別子

エラーとなった案件の連携元でのケース識別子が表示されます。

**転送 ID**

エラーとなった転送 ID が表示されます。

**対処**

このメッセージと以前のメッセージを連携元サーバのワークフロー運用管理者に、連絡してください。

**< 連携先サーバ >**

以前のメッセージに従って、投入失敗の原因を取り除いてください。

**< 連携元サーバ >**

1. 転送データ一覧取得コマンドを実行してください。
2. 転送データ一覧ファイルから、エラーとなった案件の転送 ID を見付けてください。
3. エラーとなった案件の転送 ID を指定して、連携データ再送コマンドを実行してください。

## KDWT8118-W

---

aaaa : 転送時にエラーが発生したため転送リトライインターバル時間後に再度転送します。転送 ID : xxx

**要因**

転送時にエラーが発生したため転送リトライインターバル時間後に再度転送します。

**転送 ID**

転送時の転送 ID が表示されます。

**対処**

このメッセージの前に出力されたメッセージに従って、障害の要因を取り除いてください。

その後、転送要求インターバル時間後に自動的に再度転送します。即時に転送したい場合は、連携データ再送コマンドで該当の要求を再送してください。

## KDWT8119-W

---

aaaa : 転送データの取得に失敗しました。転送データ種別 : xxx データ  
転送元 : xxx

**要因**

転送されたデータが不正なため、取得に失敗しました。

**転送データ種別**

受け取ったデータの種別が表示されます。

**データ転送元**

データの転送元が次のように表示されます。

1. 転送データ種別が "RMAIL" の場合、データ転送元には OR 名が表示されます。OR 名については、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド 基本操作編」を参照してください。
2. 転送データ種別が "REPORT"、又は "IPN" の場合、ホスト名が表示されません。
3. 転送データ種別が 1、2 以外の場合、何も表示されません。

#### 対処

転送データ種別が "RMAIL"、"REPORT"、"IPN" の場合、案件が遷移しない場合があります。データ転送元サーバの転送データ一覧取得コマンドで、不当に長時間残っているデータがないか確認し、ある場合は連携データ再送コマンドで該当する要求を再送してください。

転送データ種別がその他の場合はシステム管理者に連絡してください。

また、このメッセージの直前に出力されている KDWT8204-E のメッセージの UA-API エラーコードに従って対処してください。

## KDWT8201-E

---

aaaa : メモリ不足が発生しました。

#### 要因

メモリが確保できませんでした。プログラムを停止します。

#### 対処

不要なプロセスを終了させるか又はスワップ領域を増分してから、再度実行してください。

## KDWT8203-E

---

aaaa : プログラムエラーが発生しました。関数名 : xxx 詳細コード :  
xxx

#### 要因

プログラムエラーが発生しました。処理を続行できないエラーの場合、プログラムを停止します。

#### 関数名

保守情報が表示されます。

#### 詳細コード

保守情報が表示されます。

#### 対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWT8204-E

---

aaaa : UA-API でエラーが発生しました。関数名 : xxx エラー種別 : xxx  
レベル : xxx UA-API エラーコード : xxx OS や DB のエラーコード : xxx  
UA-API のエラーメッセージ : xxx API 以外のメッセージ : xxx

ファイル名 : xxx 行番号 : xxx

### 要因

メールサーバのアクセスでエラーが発生しました。処理を続行できないエラーの場合、プログラムを停止します。

#### 関数名

保守情報が表示されます。

#### エラー種別

保守情報が表示されます。

#### レベル

保守情報が表示されます。

#### UA-API エラーコード

UA-API のエラーコードが表示されます。

#### OS や DB のエラーコード

保守情報が表示されます。

#### UA-API のエラーメッセージ

保守情報が表示されます。

#### API 以外のメッセージ

保守情報が表示されます。

#### ファイル名

保守情報が表示されます。

#### 行番号

保守情報が表示されます。

### 対処

「付録 D UA-API のエラーコード」を参照して、対処してください。

## KDWT8205-E

---

aaaa : WF-API 又は IS-API でエラーが発生しました。関数名 : xxx 詳細コード : xxx

### 要因

サーバ機能へのアクセスでエラーが発生しました。処理を続行できないエラーの場合、プログラムを停止します。

### 関数名

保守情報が表示されます。

### 詳細コード

WF-API 又は IS-API のコードが表示されます。

### 対処

「付録D WF-API 及び IS-API のエラーコード」を参照して、対処してください。ワーク操作を行い、ビジネスプロセス配布先で次のメッセージが出力されている場合は資源確保に失敗したため再度転送を行います。

関数名 : WFSV\_EXCANCEL\_WORK 詳細コード : 13110

繰り返し表示されなければワーク操作は正常に終了しています。

## KDWT8210-E

---

aaaa : オブジェクトサーバとの接続に失敗しました。関数名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

### 要因

Groupmax Object Server との接続に失敗しました。

### 関数名

保守情報が表示されます。

### 理由コード

保守情報が表示されます。

### 詳細コード

保守情報が表示されます。

### サブコード

保守情報が表示されます。

### 対処

障害の発生原因を取り除いて、再度実行してください。

## KDWT8211-E

---

aaaa : メールサーバとの接続に失敗しました。エラー種別 : xxx レベル : xxx UA-API エラーコード : xxx OS や DB のエラーコード : xxx UA-API のエラーメッセージ : xxx API 以外のメッセージ : xxx ファイル名 : xxx 行番号 : xxx

### 要因

Groupmax Mail Server との接続に失敗しました。プログラムを停止します。

#### エラー種別

保守情報が表示されます。

#### レベル

保守情報が表示されます。

#### UA-API エラーコード

UA-API のエラーコードが表示されます。

#### OS や DB のエラーコード

保守情報が表示されます。

#### UA-API のエラーメッセージ

保守情報が表示されます。

#### API 以外のメッセージ

保守情報が表示されます。

#### ファイル名

保守情報が表示されます。

#### 行番号

保守情報が表示されます。

### 対処

「付録 D UA-API のエラーコード」を参照して、対処してください。

## KDWT8212-E

---

aaaa : メールサーバへのログインに失敗しました。エラー種別 : xxx レベル : xxx UA-API エラーコード : xxx OS や DB のエラーコード : xxx UA-API のエラーメッセージ : xxx API 以外のメッセージ : xxx ファイル名 : xxx 行番号 : xxx

### 要因

Groupmax Mail Server の未起動又はデータベースの障害によって、Groupmax Mail Server へのログインに失敗しました。プログラムを停止します。

エラー種別

保守情報が表示されます。

レベル

保守情報が表示されます。

UA-API エラーコード

UA-API のエラーコードが表示されます。

OS や DB のエラーコード

保守情報が表示されます。

UA-API のエラーメッセージ

保守情報が表示されます。

API 以外のメッセージ

API 以外のメッセージが表示されます。

ファイル名

保守情報が表示されます。

行番号

保守情報が表示されます。

対処

「付録D UA-API のエラーコード」を参照して、対処してください。

## KDWT8213-E

---

aaaa : サーバ機能との接続に失敗しました。関数名 : xxx 詳細コード :  
xxx

要因

サーバ機能との接続に失敗しました。プログラムを停止します。

関数名

保守情報が表示されます。

詳細コード

保守情報が表示されます。

対処

直前のサーバ機能のメッセージに従って、対処してください。

## KDWT8214-E

---

aaaa : サーバ機能が起動されていません。

要因

サーバ機能が起動されていません。プログラムを停止します。

#### 対処

サーバ機能を起動してください。その後、メッセージ受信機能及びメッセージ送信機能を起動してください。

## KDWT8216-E

---

aaaa : メールサーバからの切り離しに失敗しました。関数名 : xxx エラー種別 : xxx レベル : xxx UA-API エラーコード : xxx OS や DB のエラーコード : xxx UA-API のエラーメッセージ : xxx API 以外のメッセージ : xxx ファイル名 : xxx 行番号 : xxx

#### 要因

Groupmax Mail Server からの切り離しに失敗しました。プログラムを停止します。

##### 関数名

保守情報が表示されます。

##### エラー種別

保守情報が表示されます。

##### レベル

保守情報が表示されます。

##### UA-API エラーコード

UA-API のエラーコードが表示されます。

##### OS や DB のエラーコード

保守情報が表示されます。

##### UA-API のエラーメッセージ

保守情報が表示されます。

##### API 以外のメッセージ

保守情報が表示されます。

##### ファイル名

保守情報が表示されます。

##### 行番号

保守情報が表示されます。

#### 対処

「付録 D UA-API のエラーコード」を参照して、対処してください。

## KDWT8217-E

---

aaaa : サーバ機能からの切り離しに失敗しました。関数名 : xxx 詳細コード : xxx

### 要因

サーバ機能からの切り離しに失敗しました。プログラムを停止します。

### 関数名

保守情報が表示されます。

### 詳細コード

保守情報が表示されます。

### 対処

直前のサーバ機能のメッセージに従って、対処してください。

## KDWT8221-E

---

aaaa : オブジェクトサーバでエラーが発生しました。関数名 : xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

### 要因

Groupmax Object Server でエラーが発生しました。処理を続行できないエラーの場合、プログラムを停止します。

### 関数名

保守情報が表示されます。

### 理由コード

障害の発生元が表示されます。

20000 ~ 29999 : Groupmax Workflow Server

30000 ~ 39999 : Groupmax Object Server

40000 ~ 49999 : Groupmax Address Server

### 詳細コード

各プログラムの詳細コード又は WFSV\_errno が表示されます。

### サブコード

詳細コードのサブコードが表示されます。

### 対処

障害の発生原因を取り除いて、再度実行してください。

## KDWT8223-E

---

aaaa : 作業用ファイルの作成又はアクセスができません。関数名 : xxx  
詳細コード : xxx

### 要因

作業用ファイルを作成又はアクセスできません。プログラムを停止します。

### 関数名

保守情報が表示されます。

### 詳細コード

保守情報が表示されます。

### 対処

環境設定で「マルチサーバ作業ディレクトリ名」に設定したディレクトリの、ディスクの空き領域を増やしてください。又は、アクセス権限を確認し、読み書きができる状態に変更してください。

## KDWT8224-E

---

aaaa : 環境情報の設定が不正です。項目名 : xxx

### 要因

環境情報の設定が不正です。プログラムを停止します。

項目名が「NOT FOUND」の場合、前提となる Groupmax Workflow Server のバージョンが正しくないため項目が存在しないことを示します。

### 項目名

設定が不正な環境情報の項目名が表示されます。

### 対処

環境情報の値を確認し、正しい値を設定して、再度実行してください。

又は、前提となる Groupmax Workflow Server のバージョンを確認して再インストールしてから、再度実行してください。

## KDWT8225-E

---

aaaa : 環境情報のオープンに失敗しました。理由コード : xxx

### 要因

環境情報のオープンに失敗しました。プログラムを停止します。

### 理由コード

保守情報が表示されます。

対処

環境情報が正しく表示されるか確認し、再度実行してください。

## KDWT8226-E

---

aaaa : 環境情報の入力に失敗しました。理由コード : xxx

要因

環境情報の入力に失敗しました。プログラムを停止します。

理由コード

保守情報が表示されます。

対処

環境情報が正しく表示されるか確認し、再度実行してください。

## KDWT8228-E

---

aaaa : オプションの指定が不正です。

要因

オプションの指定に誤りがありました。

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWT8229-E

---

aaaa : 部署名定義ファイルが見つかりません。

要因

部署名定義ファイルが見つかりません。プログラムを停止します。

対処

環境設定で、「マルチサーバ環境設定ディレクトリ名」に設定したディレクトリに、部署名定義ファイル (section) を作成してください。その後、メッセージ受信機能及びメッセージ送信機能を起動してください。

## KDWT8230-E

---

aaaa : 窓口名定義ファイルが見つかりません。

要因

窓口名定義ファイルが見つかりません。プログラムを停止します。

## 対処

環境設定で、「マルチサーバ環境設定ディレクトリ名」に設定したディレクトリに、窓口名定義ファイル（exentran 又は entrance）を作成してください。その後、メッセージ受信機能及びメッセージ送信機能を起動してください。

## KDWT8231-E

---

aaaa : 部署名定義ファイルにアクセスできません。

## 要因

部署名定義ファイルにアクセスできません。プログラムを停止します。

## 対処

部署名定義ファイル（section）のアクセス権限を変更し、メッセージ受信機能及びメッセージ送信機能を起動してください。

## KDWT8232-E

---

aaaa : 窓口名定義ファイルにアクセスできません。

## 要因

窓口名定義ファイルにアクセスできません。プログラムを停止します。

## 対処

窓口名定義ファイル（exentran 又は entrance）のアクセス権限を変更し、メッセージ受信機能及びメッセージ送信機能を起動してください。

## KDWT8233-E

---

aaaa : 部署名定義ファイルの設定が不正です。当該行：xxx

## 要因

部署名定義ファイルに記述された内容に誤りがあります。エラーの発生した行を無視します。

## 当該行

エラーの発生した行が表示されます。

## 対処

部署名定義ファイルのエラーの発生した行を修正してください。その後、メッセージ受信機能及びメッセージ送信機能を起動し直してください。

## KDWT8234-E

---

aaaa : 窓口名定義ファイルの設定が不正です。当該行 : xxx

### 要因

窓口名定義ファイル (exentran 又は entrance) に記述された内容に誤りがあります。エラーの発生した行を無視します。

### 当該行

エラーの発生した行が表示されます。

### 対処

窓口名定義ファイルエラーの発生した行を修正してください。その後、メッセージ受信機能及びメッセージ送信機能を起動し直してください。

## KDWT8235-E

---

aaaa : 転送待ちリスト又は転送確認待ちリストが存在しません。

### 要因

転送待ちリスト又は転送確認待ちリストがありません。プログラムを停止します。

### 対処

サーバ機能環境初期化コマンドを実行してください。その後、再度実行してください。

## KDWT8236-E

---

aaaa : オブジェクトサーバからの切り離しに失敗しました。関数名 :  
xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx サブコード : xxx

### 要因

Groupmax Object Server からの切り離しに失敗しました。プログラムを停止します。

### 関数名

保守情報が表示されます。

### 理由コード

保守情報が表示されます。

### 詳細コード

保守情報が表示されます。

### サブコード

保守情報が表示されます。

## 対処

障害の発生要因を取り除いて、再度実行してください。

## KDWT8237-E

---

aaaa : 処理対象の案件が存在しません。ケース識別子 : xxx

## 要因

処理対象の案件がありません。強制的に案件を削除した場合に、発生します。表示された案件を処理しません。

## ケース識別子

処理対象の案件のケース識別子が表示されます。

## 対処

必要ありません。

## KDWT8238-E

---

aaaa : マルチサーバ機能で使用するメールアドレスが登録されていません。

## 要因

環境設定時に指定した Workflow システム組織に、マルチサーバ機能で使用するメールアドレスが登録されていません。

## 対処

環境設定時に指定した「Workflow システム組織 ID」を見直してください。

Workflow システム組織の指定が正しい場合は、マルチサーバ機能で使用するメールアドレスを登録してください。

## KDWT8239-E

---

aaaa : 部署名定義ファイルで、有効な部署名がありません。

## 要因

部署名定義ファイルで、有効な部署名がありません。プログラムを停止します。

## 対処

部署名定義ファイルを修正してください。その後、メッセージ受信機能及びメッセージ送信機能を起動してください。

## KDWT8240-E

---

aaaa : 窓口名定義ファイルで、通信手段に MYNAME を指定した窓口がありません。

### 要因

窓口名定義ファイル (entrance) で、通信手段に MYNAME を指定した窓口がありません。プログラムを停止します。

### 対処

窓口名定義ファイルで、通信手段に MYNAME を指定した窓口を追加してください。その後、メッセージ受信機能及びメッセージ送信機能を起動してください。

## KDWT8241-E

---

aaaa : 窓口名定義ファイルで、通信手段に MYNAME を指定した窓口が 2 回登録されています。当該行 : xxx

### 要因

窓口名定義ファイル (entrance) で、通信手段に MYNAME を指定した窓口が、2 回登録されています。プログラムを停止します。

### 当該行

エラーの発生した行が表示されます。

### 対処

窓口名定義ファイルのエラーとなった行を修正してください。その後、メッセージ受信機能及びメッセージ送信機能を起動してください。

## KDWT8242-E

---

aaaa : 環境情報の指定値が長すぎます。

### 要因

環境情報の指定値が長過ぎます。プログラムを停止します。

### 対処

環境情報を正しく設定し、再度実行してください。

## KDWT8243-E

---

aaaa : 送信要求が転送確認待ちリストに存在しません。転送 ID : xxx

### 要因

処理対象の送信要求が転送確認待ちトレイにありません。連携データ再送コマンドで強制的に転送要求した場合に、発生します。

### 転送 ID

処理しようとした転送 ID が表示されます。

### 対処

必要ありません。

## KDWT8250-E

---

ワークフローログ取得レベルの指定が不正です。

### 要因

不正なログ取得レベルが指定されています。プログラムを停止します。

### 対処

環境設定ファイル中の、「ワークフローログレベル」を正しく設定してください。その後、再度実行してください。

## KDWT8251-E

---

ワークフローログの出力でエラーが発生しました。理由コード : xxx

### 要因

ワークフローログ情報を出力できませんでした。プログラムを停止します。

### 理由コード

保守情報が表示されます。

### 対処

Groupmax Object Server システム共通定義ファイルの ujfile パラメタを正しく設定してください。その後、再度実行してください。

## KDWT8252-E

---

ワークヒストリの出力でエラーが発生しました。理由コード : xxx

### 要因

ワークヒストリを出力できませんでした。プログラムを停止します。

理由コード

保守情報が表示されます。

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWT8253-E

---

メモリ不足が発生しました。

要因

履歴取得に必要なメモリが確保できませんでした。プログラムを停止します。

対処

不要なプロセスを終了させるか又はスワップ領域を増分してください。その後、メッセージ受信機能及びメッセージ送信機能を起動してください。

## KDWT8254-E

---

プログラムエラーが発生しました。関数名：xxx 詳細コード：xxx

要因

プログラムエラーが発生しました。処理を続行できないエラーの場合、プログラムを停止します。

関数名

保守情報が表示されます。

詳細コード

保守情報が表示されます。

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWT8255-E

---

aaaa : ワークフローデータベースのバージョンが不正です。

要因

ワークフローデータベースのバージョンが古いため、プログラムが実行できません。

対処

1. マネージャ機能，サーバ機能を停止してください。
2. ワークフローデータベースを移行してください。

3. サーバ機能，マネージャ機能を起動した後，再度プログラムを実行してください。

## KDWT8256-E

---

aaaa : ワークフローデータベースのバージョンが取得できません。

### 要因

マネージャオブジェクトがないため，ワークフローデータベースのバージョンが取得できませんでした。プログラムを停止します。

### 対処

Groupmax Workflow の動作環境を初期化してください。その後，再度プログラムを実行してください。

## KDWT8257-E

---

aaaa : ワークフローデータベースの変更が完了していません。

### 要因

サーバ構成環境変更コマンドによるワークフローデータベースの変更が完了していません。サーバ機能の実行を中止します。

### 対処

サーバ構成環境変更コマンドを実行した後，再度実行してください。

## KDWT8258-E

---

aaaa : 他のプログラムと同時に実行できません。

### 要因

プログラムの競合が発生しました。

### 対処

他のプログラムの終了を待って，再度実行してください。

## KDWT8261-E

---

aaaa : アドレスサーバのアクセスでエラーが発生しました。関数名 : xxx エラーコード : xxx API エラーコード : xxx API 詳細コード : xxx

### 要因

Groupmax Address Server とのアクセスでエラーが発生しました。

関数名

保守情報が表示されます。

エラーコード

保守情報が表示されます。

API エラーコード

保守情報が表示されます。

API 詳細コード

保守情報が表示されます。

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWT8262-E

---

aaaa : Workflow システム組織の組織 ID が Groupmax Address に登録されていません。組織 ID : xxx

要因

環境設定時に設定した「Workflow システム組織 ID」が Groupmax Address に登録されていません。

組織 ID

Workflow システム組織の組織 ID が表示されます。

対処

環境設定時に設定した「Workflow システム組織 ID」が Groupmax Address に登録されているかどうか確認してください。

## KDWT8263-E

---

aaaa : Workflow ユーザが Groupmax Address に登録されていません。

処理種別 : xxx ユーザ ID : xxx

要因

案件又はユーザトレの情報を転送しようとしたユーザが、Groupmax Workflow のユーザとして Groupmax Address に登録されていません。

処理種別

処理種別が表示されます。

CASE : 案件の転送

USER : ユーザトレ情報の転送

ユーザ ID

ユーザ ID が表示されます。

#### 対処

Groupmax Address にユーザを登録してください。このとき、Groupmax Workflow のサーバのホスト名を指定しないと、Groupmax Workflow のユーザとはみなされません。

## KDWT8264-E

---

aaaa : 案件をエラートレーへ送付します。ビジネスプロセス定義名 :  
xxx ビジネスプロセス定義バージョン : xxx ワーク ID : xxx ユーザ ID :  
xxx サーバ名 : xxx 付加情報 : xxx

#### 要因

エラーを検知したため、案件をエラートレーへ送付します。

##### ビジネスプロセス定義名

エラートレーに送付する案件のビジネスプロセス定義名が表示されます。

##### ビジネスプロセス定義バージョン

エラートレーに送付する案件のビジネスプロセス定義のバージョンが表示されます。

##### ワーク ID

エラートレーに送付する案件のワーク ID が表示されます。

##### ユーザ ID

エラートレーのユーザ ID が表示されます。

##### サーバ名

保守情報が表示されます。

##### 付加情報

保守情報が表示されます。

#### 対処

このメッセージの前に出力されたメッセージに従って、障害の要因を取り除いてください。その後、案件が復帰できる状態であれば、Groupmax Workflow Monitor を使用して復帰してください。復帰できない状態であれば、該当するワークをキャンセルしてください。

## KDWT8265-E

---

aaaa : 案件を再配布できませんでした。ビジネスプロセス定義名 : xxx  
ワーク ID : xxx

### 要因

ユーザのホームサーバが変更されたか、又はユーザが削除されたため、ユーザト  
レーの案件を再配布しようとしたましたが、再配布できませんでした。

### ビジネスプロセス定義名

再配布しようとした案件のビジネスプロセス定義名が表示されます。

### ワーク ID

再配布しようとした案件のワーク ID が表示されます。

### 対処

必要ありません。

## KDWT8266-E

---

aaaa : メールサーバがバックアップ処理中のためプログラムを停止しま  
す。

### 要因

Groupmax Mail Server がバックアップ処理中のためプログラムを停止します。

### 対処

バックアップが終了した後、再度起動してください。

## KDWT8267-E

---

aaaa : 終了ワーク情報ファイルの入出力エラーが発生しました。ファイ  
ル名 : xxx 関数名 : xxx 詳細コード : xxx

### 要因

終了ワーク情報ファイルの入出力エラーが発生しました。

### ファイル名

エラーの発生したファイル名が表示されます。

### 関数名

エラーの発生した関数名が表示されます。

### 詳細コード

要求した処理の errno 値が表示されます。

## 対処

関数名及び詳細コードを参照して障害を取り除いてください。必要に応じてシステム管理者に連絡してください。

## KDWT8268-E

---

aaaa : ユーザ操作により処理が中断されました。保守情報 : xxx

## 要因

ユーザ操作によって処理が中断されました。コマンドの実行を中止します。

## 保守情報

保守情報が表示されます。

## 対処

必要であれば、再度実行してください。

## KDWT8269-E

---

aaaa : 案件履歴数が最大取得件数に到達した案件を転送しようとした。ビジネスプロセス定義名 : xxx ワーク ID : xxx

## 要因

案件履歴数が最大取得件数に到達した案件を転送しようとした。

## ビジネスプロセス定義名

案件履歴数が最大取得件数に到達した案件のビジネスプロセス定義名が表示されます。

## ワーク ID

案件履歴数が最大取得件数に到達した案件のワーク ID が表示されます。

## 対処

案件履歴数が最大取得件数に到達した案件は操作できませんので、ワークを削除してください。また、無限ループしていないかどうか、ビジネスプロセス定義を見直してください。必要であれば再度案件を投入してください。

## KDWT8270-E

---

aaaa : 稼働中バックアップ処理中のためプログラムを停止します。

## 要因

稼働中バックアップ処理中のためプログラムを起動できません。

## 対処

稼働中バックアップが終了した後，再起動してください。

## KDWT8271-E

---

aaaa : 稼働中バックアップチェックでエラーが発生しました。関数名 :  
xxx 行番号 : xxx システムコール名 : xxx エラーコード : xxx

### 要因

稼働中バックアップのチェック処理中にエラーが発生しました。

#### 関数名

保守情報が表示されます。

#### 行番号

保守情報が表示されます。

#### システムコール名

保守情報が表示されます。

#### エラーコード

errno の値が表示されます。

### 対処

errno の値を参照し，対処してください。それでもエラーが発生する場合は，システム管理者に連絡してください。

## KDWT9060-I

---

WFdelsmail : 送信メール削除処理を開始します。

## KDWT9061-I

---

WFdelsmail : 送信メール削除処理を終了します。

## KDWT9062-I

---

WFdelsmail : 送信メール削除処理を中止します。

## KDWT9201-E

---

WFdelsmail : メールサーバの環境設定が不正です。

**要因**

Groupmax Mail Server の環境設定に誤りがあります。メッセージ送信機能を停止します。

**対処**

Groupmax Mail の環境を確認した後、メッセージ受信機能及びメッセージ送信機能を起動してください。

## KDWT9202-E

---

WFdelsmail : 送信メール削除処理は既に実行中です。

**要因**

送信メール削除処理が起動済みです。

**対処**

システム管理者に連絡してください。

## KDWT9203-E

---

WFdelsmail : 転送確認待ちリストが見つかりません。

**要因**

転送確認待ちリストがありません。メッセージ送信機能を停止します。

**対処**

Groupmax Workflow の動作環境を初期化してください。その後、メッセージ受信機能及びメッセージ送信機能を起動してください。

## ワークフローディレクトリサービスのメッセージ

---

ワークフローディレクトリサービスのメッセージを以降に示します。

## KDWD0001-I

---

aaaa : ワークフローディレクトリサービスを開始しました。

## KDWD0002-I

---

aaaa : ワークフローディレクトリサービスを終了しました。

## KDWD0003-I

---

aaaa : ワークフローディレクトリサービスを強制終了しました。

## KDWD0004-I

---

aaaa : ワークフローディレクトリサービスを中止しました。

## KDWD0005-I

---

aaaa : 既存のキャッシュ情報を使用しました。バージョン : xxx サイズ : xxx 作成時間 : xxx

## KDWD0006-I

---

aaaa : アドレス情報のキャッシュローディング処理を開始しました。

## KDWD0007-I

---

aaaa : アドレス情報のキャッシュローディング処理を終了しました。

## KDWD0008-I

---

aaaa : 保守用情報 : [ xxx ] = xxx

## KDWD0009-I

---

aaaa : 使用法 : WFdictsv [-r]

## KDWD0010-I

---

aaaa : キャッシュにアクセスしているプロセスが終了するまで待機します。アクセスしているプロセス数 : xxx

### 要因

サーバ機能, マネージャ機能, マルチサーバ機能, 又はワークフローログ出力コマンドのどれかが動作しているため, アクセスしているプロセスが終了するまで, ワークフローディレクトリサービスの終了処理を待機します。

### 対処

サーバ機能, マネージャ機能, マルチサーバ機能, 又はワークフローログ出力コマンドを終了させてください。終了している場合は, -f オプションを指定して再度終了コマンドを実行してください。

## KDWD0011-I

---

aaaa : ワークフローディレクトリサービスが終了処理の待機中のため, キャッシュに読み込んだユーザ情報を使用できません。

## KDWD0012-I

---

aaaa : 停止コマンドは既に受け付けています。

## KDWD0018-I

---

WFdictsv : 指定された対象最上位組織 ID の中でキャッシュ上にローディングされない最上位組織 ID があります。最上位組織 ID : xxx

### 要因

対象最上位組織 ID ( company\_id ) に指定された最上位組織 ID が、キャッシュパラメタファイルに指定されていません。

### 最上位組織 ID

キャッシュ上にローディングされなかった対象最上位組織 ID が表示されます。

### 対処

キャッシュパラメタファイルに指定されていない最上位組織とその所属組織やユーザ情報はキャッシュ上にローディングされません。必要であれば、環境設定ファイルに指定した対象最上位組織 ID ( company\_id ), 及びキャッシュパラメタファイルに指定した最上位組織 ID ( LOAD\_COMP ) を見直した後、ワークフローディレトリサービスを `r` オプションを指定して再起動してください。

## KDWD0019-I

---

WFdictsv : ワークフローディレトリサービスが終了中です。

### 要因

ワークフローディレトリサービスの停止を受け付けました。

### 対処

必要ありません。

## KDWD0101-W

---

aaaa : ワークフローディレトリサービスは既に開始しています。

### 要因

ワークフローディレトリサービスは既に開始しています。

### 対処

既に起動しているワークフローディレトリサービスを停止させて、再度実行してください。

## KDWD0102-W

---

aaaa : ワークフローディレクトリサービスは既に停止しています。

要因

ワークフローディレクトリサービスは既に停止しています。

対処

必要ありません。

## KDWD0103-W

---

aaaa : 実行したユーザには実行権限がありません。

要因

実行権限のないユーザで実行されました。

対処

実行権限のあるユーザで、再度実行してください。

## KDWD0104-W

---

aaaa : キャッシュにユーザ ID がありません。ユーザ ID : xxx

要因

キャッシュにユーザ ID がありません。

ユーザ ID

ユーザ ID が表示されます。

対処

必要ありません。

## KDWD0105-W

---

aaaa : キャッシュに最上位組織 ID がありません。最上位組織 ID : xxx

要因

キャッシュに最上位組織 ID がありません。

最上位組織 ID

最上位組織 ID が表示されます。

対処

必要ありません。

## KDWD0106-W

---

aaaa : キャッシュに組織 ID がありません。組織 ID : xxx

要因

キャッシュに組織 ID がありません。

組織 ID

組織 ID が表示されます。

対処

必要ありません。

## KDWD0107-W

---

aaaa : キャッシュにユーザ名がありません。ユーザ名 : xxx

要因

キャッシュにユーザ名がありません。

ユーザ名

ユーザ名が表示されます。

対処

必要ありません。

## KDWD0108-W

---

aaaa : キャッシュに拡張ニックネームがありません。拡張ニックネーム : xxx

要因

キャッシュに拡張ニックネームがありません。

拡張ニックネーム

拡張ニックネームが表示されます。

対処

必要ありません。

## KDWD0109-W

---

aaaa : キャッシュパラメタファイルにアドレスサーバへ未登録の最上位組織 ID が指定されています。最上位組織 ID : xxx

### 要因

キャッシュパラメタファイルにアドレスサーバへ登録されていない最上位組織 ID が指定されています。

最上位組織 ID

最上位組織 ID が表示されます。

### 対処

キャッシュパラメタファイルの内容を見直してください。必要に応じて、ワークフローディレクトリサービスを再起動してください。

## KDWD0110-W

---

aaaa : キャッシュが不足したため、一部のユーザ情報がローディングできませんでした。最上位組織 ID : xxx

### 要因

キャッシュが不足したため、一部のユーザ情報がローディングできませんでした。

最上位組織 ID

保守情報が表示されます。

### 対処

キャッシュパラメタファイルの「CACHE\_COMP」の値を大きくするか、「LOAD\_COMP」に指定した最上位組織 ID を見直してください。必要に応じて、ワークフローディレクトリサービスを再起動してください。

## KDWD0111-W

---

aaaa : アドレス情報のキャッシュローディング処理は既に開始していません。

### 要因

アドレス情報のキャッシュローディング処理は既に開始しています。

### 対処

必要ありません。

## KDWD0112-W

---

aaaa : アドレス情報のキャッシュを読み込むことができませんでした。

理由コード : xxx 詳細コード : xxx

### 要因

アドレス情報のキャッシュを読み込むことができませんでした。

### 理由コード

保守情報が表示されます。

### 詳細コード

保守情報が表示されます。

### 対処

ワークフローディレクトリサービスが起動しているか確認してください。ワークフローディレクトリサービスが起動している場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWD0113-W

---

aaaa : AP ダンプの初期設定に失敗しました。

### 要因

AP ダンプの初期設定に失敗したため、AP ダンプを取得できません。

### 対処

AP ダンプデーモンが起動しているか確認してください。

## KDWD0114-W

---

aaaa : 既にアドレス情報の再ローディング要求は行われています。

### 要因

以前に Wfcache コマンドで要求した再ローディング要求がまだ実行されていないため、要求を無視しました。

### 対処

必要ありません。

## KDWD0131-W

---

WFdictsv : 対象外の最上位組織 ID はキャッシュ上にローディングできません。最上位組織 ID : xxx

### 要因

対象最上位組織 ID ( company\_id ) に指定されていない最上位組織 ID が、キャッシュパラメタファイルに指定されています。キャッシュパラメタファイルにだけ指定された最上位組織 ID は無効になります。

### 最上位組織 ID

キャッシュパラメタファイルにだけ指定された最上位組織 ID が表示されます。

### 対処

環境設定ファイルに指定した対象最上位組織 ID ( company\_id ) , 及びキャッシュパラメタファイルに指定した最上位組織 ID ( LOAD\_COMP ) を見直した後、次のどちらかで対処してください。

- キャッシュパラメタファイルから該当する最上位組織 ID を削除する場合は、このメッセージは無視してください。
- 環境設定ファイルに対象最上位組織 ID を新たに追加する場合は、ワークフローディレクトリサービスを `-r` オプションを指定して再起動してください。

## KDWD0132-W

---

WFdictsv : Groupmax Workflow の終了処理を受け付けており、ワークフローディレクトリサービスの停止要求は受け付けられませんでした。

### 要因

Groupmax Workflow の停止処理を受け付けており、ワークフローディレクトリサービスの停止要求は受け付けられませんでした。

### 対処

時間をおいて、再度ワークフローディレクトリサービスの停止コマンドを実行してください。

## KDWD0201-E

---

aaaa : プログラムエラーが発生しました。理由コード : xxx

### 要因

プログラムエラーが発生しました。

理由コード

保守情報が表示されます。

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWD0202-E

---

aaaa : オペレーティングシステムとのインタフェースでエラーが発生しました。関数名 : xxx 理由コード : xxx ファイル名 : xxx 場所 : xxx 付加情報 : xxx

要因

オペレーティングシステムとのインタフェースでエラーが発生しました。

関数名

保守情報が表示されます。

理由コード

保守情報が表示されます。

ファイル名

保守情報が表示されます。

場所

保守情報が表示されます。

付加情報

保守情報が表示されます。

対処

「aaaa : WfCache 関数名 : shmget」が表示されているときは、ワークフローディレクトリサービス起動時に `-r` オプションを指定して起動してください。それ以外のときは、再度実行してください。繰り返し発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWD0203-E

---

aaaa : ワークフローディレクトリサービスの開始に失敗しました。要因 : xxx 理由コード : xxx

要因

ワークフローディレクトリサービスの開始中にエラーが発生しました。

要因

保守情報が表示されます。

理由コード

保守情報が表示されます。

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWD0204-E

---

aaaa : 続行できないエラーが発生したため、ワークフローディレクトリサービスを異常終了します。要因：xxx 理由コード：xxx

要因

続行できない障害が発生したため、ワークフローディレクトリサービスを異常終了しました。

要因

保守情報が表示されます。

理由コード

保守情報が表示されます。

対処

このメッセージの前に表示されているメッセージの障害の要因を取り除いてください。必要に応じてシステム管理者に連絡してください。

## KDWD0206-E

---

aaaa : 排他処理でエラーが発生しました。関数名：xxx 詳細コード：xxx サブコード：xxx ファイル名：xxx 場所：xxx

要因

排他処理に失敗しました。

関数名

保守情報が表示されます。

詳細コード

保守情報が表示されます。

サブコード

保守情報が表示されます。

ファイル名

保守情報が表示されます。

場所

保守情報が表示されます。

対処

再度実行してください。繰り返し発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWD0207-E

---

aaaa : メモリ不足が発生しました。

要因

作業領域が確保できませんでした。

対処

不要なプロセスを終了させるか又はスワップ領域を増やしてから、再度実行してください。

## KDWD0208-E

---

aaaa : ディスク容量不足が発生しました。

要因

ディスク容量が一杯のため、書き込みができません。

対処

ディスク容量を見直してください。

## KDWD0209-E

---

aaaa : ファイルのオープンに失敗しました。パス名称 : xxx 関数名 : xxx  
理由コード : xxx 付加情報 : xxx

要因

ファイルのオープン時にエラーが発生しました。

パス名称

操作対象のパス名称が表示されます。

関数名

エラーの発生した処理名が表示されます。

理由コード

要求した処理の errno の値が表示されます。

付加情報

保守情報が表示されます。

対処

表示された関数名と理由コードを参照して、障害要因を取り除いてください。必要

に応じてシステム管理者に連絡してください。

## KDWD0210-E

---

aaaa : ファイルシステムにエラーが発生しました。パス名称 : xxx 関数名 : xxx 理由コード : xxx 付加情報 : xxx

### 要因

ファイルシステムにエラーが発生しました。

#### パス名称

操作対象のパス名称が表示されます。

#### 関数名

エラーの発生した処理名が表示されます。

#### 理由コード

要求した処理の errno の値が表示されます。

#### 付加情報

保守情報が表示されます。

### 対処

表示された関数名と理由コードを参照して、障害要因を取り除いてください。必要に応じてシステム管理者に連絡してください。

## KDWD0212-E

---

aaaa : インストール先ディレクトリの取得に失敗しました。関数名 : xxx 理由コード : xxx

### 要因

インストール先ディレクトリの取得時にエラーが発生しました。

#### 関数名

保守情報が表示されます。

#### 理由コード

保守情報が表示されます。

### 対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWD0213-E

---

aaaa : 環境変数の設定に失敗しました。環境変数名 : xxx

要因

実行プロセスに環境変数が反映できませんでした。

環境変数名

設定できなかった環境変数名が表示されます。

対処

実行中のアプリケーションプログラムを減らしてから、再度実行してください。

## KDWD0214-E

---

aaaa : 環境変数の取得に失敗しました。環境変数名 : xxx

要因

実行プロセスに環境変数が反映されていません。

環境変数名

取得できなかった環境変数名が表示されます。

対処

実行中のアプリケーションプログラムを減らしてから、再度実行してください。

## KDWD0215-E

---

aaaa : メッセージテキストの取得に失敗しました。メッセージ ID : xxx

要因

メッセージテキストの取得に失敗しました。

メッセージ ID

エラーとなったメッセージ ID が表示されます。

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWD0217-E

---

aaaa : メッセージ ID が不正なため、メッセージが出力できません。

メッセージ ID : xxx

要因

メッセージ ID の不正を検知しました。

メッセージ ID

不正なメッセージ ID が表示されます。

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWD0218-E

---

aaaa : ワークフローディレクトリサービスの環境が不正です。要因 :  
xxx 理由コード : xxx 付加情報 : xxx

要因

ワークフローディレクトリサービスの環境が不正です。

要因

環境不正の要因が表示されます。

理由コード

保守情報が表示されます。

付加情報

保守情報が表示されます。

対処

Groupmax Workflow Server を再度インストールしてください。その後、再度実行してもこのメッセージが出力される場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWD0219-E

---

aaaa : ファイルのパスの長さが制限値を超えました。ファイル名 : xxx

要因

ファイルのパスの長さがシステムの制限値を超えました。

ファイル名

保守情報が表示されます。

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWD0220-E

---

aaaa : デフォルト環境設定ファイルのオープンに失敗しました。理由  
コード : xxx

### 要因

デフォルト環境設定ファイルのオープン時にエラーが発生しました。

理由コード

保守情報が表示されます。

### 対処

繰り返し発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWD0221-E

---

aaaa : メッセージ管理ファイルのオープンに失敗しました。理由コー  
ド : xxx

### 要因

メッセージ管理ファイルのオープン時にエラーが発生しました。

理由コード

保守情報が表示されます。

### 対処

繰り返し発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWD0223-E

---

aaaa : アドレスサーバへのアクセスでエラーが発生しました。関数名 :  
xxx 理由コード : xxx 詳細コード : xxx

### 要因

Groupmax Address Server へのアクセスでエラーが発生しました。

関数名

保守情報が表示されます。

理由コード

保守情報が表示されます。

詳細コード

保守情報が表示されます。

### 対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWD0224-E

---

aaaa : 最上位組織の個数がシステムの制限を超えています。

### 要因

アドレスサーバに登録されている最上位組織の個数が、システムの制限を超えています。

### 対処

不要な最上位組織を削除してください。

## KDWD0225-E

---

aaaa : キャッシュパラメタファイルのオープンに失敗しました。パス名称 : xxx 関数名 : xxx 理由コード : xxx

### 要因

キャッシュパラメタファイルのオープン時にエラーが発生しました。

### パス名称

キャッシュパラメタファイルのパス名称が表示されます。

### 関数名

エラーの発生した処理名が表示されます。

### 理由コード

要求した処理の `errno` の値が表示されます。

### 対処

表示された関数名と理由コードを参照して、障害要因を取り除いてください。必要に応じてシステム管理者に連絡してください。

## KDWD0226-E

---

aaaa : キャッシュパラメタファイルが不正です。パス名称 : xxx 当該行 : xxx 理由コード : xxx

### 要因

キャッシュパラメタファイルの内容が不正です。

### パス名称

キャッシュパラメタファイルのパス名称が表示されます。

### 当該行

エラーの発生したファイル中の行番号が表示されます。

理由コード

エラーの理由を示すコードが表示されます。

- 1：一行の文字列長がシステムの制限を超えている。
- 2：パラメタを指定していない。
- 3：不正なパラメタを指定している。

対処

理由コードを参照してエラーの要因を取り除いた後、再度実行してください。

## KDWD0227-E

---

aaaa：キャッシュパラメタファイルが不正です。パラメタが重複して指定されています。パス名称：xxx パラメタ名称：xxx

要因

キャッシュパラメタファイルにパラメタが重複して指定されています。

パス名称

キャッシュパラメタファイルのパス名称が表示されます。

パラメタ名称

重複して指定されたパラメタ名称が表示されます。

対処

パラメタを重複して指定しないように、キャッシュパラメタファイルを修正してください。

## KDWD0228-E

---

aaaa：キャッシュパラメタファイルが不正です。パラメタに値が指定されていません。パス名称：xxx 当該行：xxx パラメタ名称：xxx

要因

キャッシュパラメタファイルに値が指定されていないパラメタがあります。

パス名称

キャッシュパラメタファイルのパス名称が表示されます。

当該行

エラーの発生したファイル中の行番号が表示されます。

パラメタ名称

値の指定されていないパラメタ名称が表示されます。

対処

パラメタに値を指定してください。

## KDWD0229-E

---

aaaa : キャッシュパラメタファイルが不正です。パラメタに不正な値が指定されています。パス名称 : xxx 当該行 : xxx パラメタ名称 : xxx 理由コード : xxx

### 要因

キャッシュパラメタファイルに不正な値を指定しているパラメタがあります。

#### パス名称

キャッシュパラメタファイルのパス名称が表示されます。

#### 当該行

エラーの発生したファイル中の行番号が表示されます。

#### パラメタ名称

不正な値が指定されているパラメタ名称が表示されます。

#### 理由コード

エラーの理由を示すコードが表示されます。

- 1 : 値の文字列長が制限を超えている。
- 2 : 値に数字以外を指定している。
- 3 : 値がシステムの制限を超えている。

### 対処

理由コードを参照してエラーの要因を取り除いた後、再度実行してください。

## KDWD0230-E

---

aaaa : キャッシュパラメタファイルの最上位組織 ID の文字列長がシステムの制限を超えています。パス名称 : xxx 当該行 : xxx 理由コード : xxx

### 要因

キャッシュパラメタファイルに指定した最上位組織 ID の文字列長が、システムの制限を超えています。

#### パス名称

キャッシュパラメタファイルのパス名称が表示されます。

#### 当該行

エラーの発生したファイル中の行番号が表示されます。

#### 理由コード

保守情報が表示されます。

対処

キャッシュパラメタファイルの最上位組織 ID を見直してください。

## KDWD0231-E

---

aaaa : キャッシュパラメタファイルの最上位組織 ID の個数がシステムの制限を超えています。パス名称 : xxx 当該行 : xxx

要因

キャッシュパラメタファイルに指定した最上位組織 ID の個数が、システムの制限を超えています。

パス名称

キャッシュパラメタファイルのパス名称が表示されます。

当該行

エラーの発生したファイル中の行番号が表示されます。

対処

キャッシュパラメタファイルの最上位組織 ID を見直してください。

## KDWD0232-E

---

aaaa : アドレス情報のキャッシュローディング処理中にエラーが発生しました。理由コード : xxx 付加情報 : xxx

要因

アドレス情報のキャッシュローディング処理中にエラーが発生しました。

理由コード

保守情報が表示されます。

付加情報

保守情報が表示されます。

対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWD0234-E

---

aaaa : キャッシュサイズが不足しました。

要因

キャッシュ容量が一杯のため、アドレス情報を書き込めませんでした。

## 対処

キャッシュパラメタファイルの「CACHE\_COMP」の値を増やした後、再度実行してください。

## KDWD0235-E

---

aaaa : オプションの指定に誤りがあります。

## 要因

オプションの指定が不正です。

## 対処

オプションの指定を見直して、再度実行してください。

## KDWD0236-E

---

aaaa : デフォルト環境設定ファイルの入力に失敗しました。理由コード : xxx

## 要因

デフォルトの環境設定ファイルの入力に失敗したため、処理を中止します。

## 理由コード

保守情報が表示されます。

## 対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWD0243-E

---

aaaa : ユーザ操作により処理が中断されました。保守情報 : xxx

## 要因

ユーザ操作によって処理が中断されました。コマンドの実行を中止します。

## 保守情報

保守情報が表示されます。

## 対処

必要であれば、再度実行してください。

## KDWD0244-E

---

aaaa : サービス名の取得に失敗しました。理由コード : xxx

### 要因

システムログメッセージに表示するためのサービス名の取得に失敗しました。

### 理由コード

保守情報が出力されます。

### 対処

次の要因が考えられます。要因を取り除いて再度実行してください。

- "WF\_PATH" 環境変数の指定が誤っている。
- WFsetup コマンドが未実行状態又は実行失敗状態である。
- /etc/services のサービス名が WFsetup コマンドの実行後、変更されている。

## KDWD0259-E

---

WFdictsv : 環境設定ファイル情報の取得に失敗しました。オペランド名 : xxx

### 要因

環境設定ファイルの指定に不正があるため値が取得できませんでした。

### オペランド名

指定値を取得しようとしたオペランド名が表示されます。

### 対処

表示されるオペランド名に指定した値を見直してください。

その後、ワークフローディレクトリサービスを再起動してください。

## KDWD0260-E

---

WFdictsv : 指定された対象最上位組織 ID の中でアドレスサーバに未登録の最上位組織 ID があります。最上位組織 ID : xxx

### 要因

環境設定ファイルに指定した対象最上位組織 ID ( company\_id ) がアドレスサーバに登録されていません。

### 最上位組織 ID

登録されていない最上位組織 ID が表示されます。二つ以上ある場合は、最初の一つが表示されます。

### 対処

環境設定ファイルに指定した対象最上位組織 ID ( company\_id ) を見直してください。

対象最上位組織 ID を訂正した場合は、ワークフローディレクトリサービスを `r` オプションを指定して再起動してください。

## KDWD4201-E

---

Can't get message text for Workflow Directory Service. POS\_CODE : xxx

### 要因

メッセージテキストの取得に失敗しました。

POS\_CODE

保守情報が表示されます。

### 対処

システム管理者に連絡してください。

## ドメイン間連携機能のメッセージ

---

ドメイン間連携機能のメッセージを以降に示します。

## KDWI0001-I

---

aaaa : メッセージ送信機能を開始しました。

## KDWI0002-I

---

aaaa : メッセージ送信機能を終了中です。

## KDWI0003-I

---

aaaa : メッセージ送信機能を終了しました。

## KDWI0004-I

---

aaaa : メッセージ受信機能を開始しました。

## KDWI0005-I

---

aaaa : メッセージ受信機能を終了中です。

## KDWI0006-I

---

aaaa : メッセージ受信機能を終了しました。

## KDWI0007-I

---

aaaa : コマンドを開始します。

## KDWI0008-I

---

aaaa : コマンドを終了しました。

## KDWI0009-I

---

aaaa : ドメイン間連携機能を開始します。

## KDWI0010-I

---

aaaa : ドメイン間連携機能を開始しました。

## KDWI0011-I

---

aaaa : ドメイン間連携機能を終了します。終了モード : xxx

終了モード

終了コマンドで指定したモードが表示されます。

## KDWI0012-I

---

aaaa : ドメイン間連携機能を終了しました。

## KDWI0013-I

---

aaaa : 連携情報削除機能を開始しました。

## KDWI0014-I

---

aaaa : 連携情報削除機能を終了中です。

## KDWI0015-I

---

aaaa : 連携情報削除機能を終了しました。

## KDWI0016-I

---

aaaa : メッセージ再送機能を開始しました。

## KDWI0017-I

---

aaaa : メッセージ再送機能を終了中です。

## KDWI0018-I

---

aaaa : メッセージ再送機能を終了しました。

## KDWI0100-W

---

aaaa : 既にメッセージ送信機能は起動しています。

要因

既にメッセージ送信機能が起動されています。

対処

再起動する場合は、一度停止してから起動してください。

## KDWI0101-W

---

aaaa : 既にメッセージ受信機能は起動しています。

要因

既にメッセージ受信機能が起動されています。

対処

再起動する場合は、一度停止してから起動してください。

## KDWI0102-W

---

aaaa : 既にメッセージ送信機能は停止しています。

要因

既にメッセージ送信機能は停止しています。

対処

必要ありません。

## KDWI0103-W

---

aaaa : 既にメッセージ受信機能は停止しています。

要因

既にメッセージ受信機能は停止しています。

対処

必要ありません。

## KDWI0104-W

---

aaaa : Wfif x x コマンドが他で実行中です。

要因

ほかのドメイン間連携関連の運用コマンドを実行中です。

対処

実行中のドメイン間連携関連の運用コマンド終了後に再実行してください。

## KDWI0105-W

---

aaaa : 既にドメイン間連携機能は起動しています。

要因

既にドメイン間連携機能は起動しています。

対処

必要ありません。

## KDWI0106-W

---

aaaa : 既にドメイン間連携機能は停止しています。

要因

既にドメイン間連携機能は停止しています。

対処

必要ありません。

## KDWI0107-W

---

aaaa : ドメイン間連携機能は起動中です。

要因

ドメイン間連携機能の起動処理中です。

対処

必要ありません。

## KDWI0108-W

---

aaaa : ドメイン間連携機能は停止中です。

要因

ドメイン間連携機能の停止処理中です。

対処

必要ありません。

## KDWI0109-W

---

aaaa : 不正な通信データを受信したためこの通信データを破棄します。

データ種別 : xxx 保守コード : xxx

要因

ドメイン間連携機能間のプロセス間通信で、不正なデータを受信しました。

データ種別

保守情報が表示されます。

保守コード

保守情報が表示されます。

対処

必要ありません。このメッセージが頻繁に出力される場合、システム管理者に連絡してください。

## KDWI0110-W

---

aaaa : 既に連携情報削除機能は起動しています。

要因

既に連携情報削除機能は起動しています。

対処  
必要ありません。

## KDWI0111-W

---

aaaa : 既にメッセージ再送機能は起動しています。

要因  
既にメッセージ再送機能は起動しています。

対処  
必要ありません。

## KDWI0200-E

---

aaaa : メッセージ送信機能は起動できませんでした。

要因  
何らかの要因でメッセージ送信機能が起動できませんでした。

対処  
このメッセージの直前に出力されているエラーメッセージの要因・対処に従ってエラー要因を取り除いた後、再起動してください。

## KDWI0201-E

---

aaaa : メッセージ受信機能は起動できませんでした。

要因  
何らかの要因でメッセージ受信機能が起動できませんでした。

対処  
このメッセージの直前に出力されているエラーメッセージの要因・対処にしたがってエラー要因を取り除いた後、再起動してください。

## KDWI0202-E

---

aaaa : メッセージ送信機能プロセスを生成できません。

要因  
オペレーティングシステムにプロセス生成要求しましたが、プロセス生成できませんでした。

対処

多くの場合、メモリ不足が考えられます。ほかのアプリケーションを終了させるか、仮想メモリを大きくして再度実行してください。メモリ不足以外の場合は、直前に出力されている KDWI2353-E メッセージのエラーコード（オペレーティングシステムのエラー番号）に従ってエラー要因を取り除いた後、再起動してください。

## KDWI0203-E

---

aaaa : メッセージ受信機能プロセスを生成できません。

要因

オペレーティングシステムにプロセス生成要求しましたが、プロセス生成できませんでした。

対処

多くの場合、メモリ不足が考えられます。ほかのアプリケーションを終了させるか、仮想メモリを大きくして再度実行してください。メモリ不足以外の場合は、直前に出力されている KDWI2353-E メッセージのエラーコード（オペレーティングシステムのエラー番号）に従ってエラー要因を取り除いた後、再起動してください。

## KDWI0204-E

---

aaaa : メッセージ送信機能を強制終了します。

要因

通常サービス停止以外の方法で WFifsend プロセスが強制終了されました。

対処

ドメイン間連携機能のサービスが停止している場合、再起動してください。サービスがまだ起動中の場合、通常サービス停止を実行後に再起動してください。

## KDWI0205-E

---

aaaa : メッセージ受信機能を強制終了します。

要因

通常サービス停止以外の方法で WFifrecv プロセスが強制終了されました。

対処

ドメイン間連携機能のサービスが停止している場合、再起動してください。サービスがまだ起動中の場合、通常サービス停止を実行後に再起動してください。

## KDWI0209-E

---

aaaa : 環境情報定義ファイルまたは環境設定ユーティリティの設定が不正です。不正項目名: xxx

### 要因

ドメイン間連携サーバ環境定義ファイルの設定値が不正です。

### 不正項目名

エラーが発生した、ドメイン間連携サーバ環境定義ファイルの項目が表示されます。

### 対処

ドメイン間連携サーバ環境定義ファイルの、不正項目名で示される項目を確認・修正後、再起動してください。

## KDWI0210-E

---

aaaa : 環境情報定義ファイルの取得に失敗しました。

### 要因

ドメイン間連携サーバ環境定義ファイルの取得中にオペレーティングシステムでエラーが発生しました。

### 対処

インストールが正しく終了しているか確認してください。正しく終了している場合は、直前に出力されている KDWI2353-E メッセージのエラーコード（オペレーティングシステムのエラー番号）に従ってエラー要因を取り除いた後、再起動してください。

## KDWI0211-E

---

aaaa : 連携情報定義ファイルがありません。

### 要因

連携情報定義ファイルが定義されていません。

### 対処

連携情報定義ファイルを正しく定義した後、再起動してください。

## KDWI0212-E

---

aaaa : 連携情報定義ファイルのアクセスに失敗しました。

要因

連携情報定義ファイルの取得中にオペレーティングシステムでエラーが発生しました。

対処

直前に出力されている KDWI2353-E メッセージのエラーコード（オペレーティングシステムのエラー番号）に従ってエラー要因を取り除いた後、再起動してください。

## KDWI0213-E

---

aaaa : 連携情報定義ファイルの内容が不正です。不正行番号 : xxx

要因

連携情報定義ファイルの設定値が不正です。

不正行番号

エラーが発生した、連携情報定義ファイルの行番号が表示されます。

対処

連携情報定義ファイルの、不正行番号で示される行の各項目を確認・修正後、再起動してください。

## KDWI0214-E

---

aaaa : メールサーバ定義ファイルがありません。

要因

メールサーバ定義ファイルが定義されていません。

対処

メールサーバ定義ファイルを正しく定義した後、再起動してください。

## KDWI0215-E

---

aaaa : メールサーバ定義ファイルのアクセスに失敗しました。

要因

メールサーバ定義ファイルの取得中にオペレーティングシステムでエラーが発生しました。

## 対処

直前に出力されている KDWI2353-E メッセージのエラーコード（オペレーティングシステムのエラー番号）に従ってエラー要因を取り除いた後、再起動してください。

## KDWI0216-E

---

aaaa : メールサーバ定義ファイルの内容が不正です。不正行番号 : xxx

## 要因

メールサーバ定義ファイルの設定値が不正です。

## 不正行番号

エラーが発生した、メールサーバ定義ファイルの行番号が表示されます。

## 対処

メールサーバ定義ファイルの、不正行番号で示される行の各項目を確認・修正後、再起動してください。有効行が無いが、又は有効行が複数指定されている場合は、不正行番号が 0 になります。

## KDWI0217-E

---

aaaa : 起動したユーザは管理者ではありません。

## 要因

管理者以外のユーザ（スーパーユーザ権限以外のユーザ）で起動されました。

## 対処

スーパーユーザの権限で起動してください。

## KDWI0218-E

---

aaaa : システム環境ファイルの取得に失敗しました。

## 要因

システムが提供する環境ファイルの取得に失敗しました。

## 対処

インストールが正しく終了しているか確認してください。正しく終了している場合はシステム管理者に連絡してください。

## KDWI0219-E

---

aaaa : コマンドは正常に処理できませんでした。

要因

コマンドは何らかの要因で正常に処理できませんでした。

対処

このメッセージの直前に出力されているエラーメッセージの要因・対処に従ってエラー要因を取り除いた後、再起動してください。

## KDWI0220-E

---

aaaa : コマンドを強制終了しました。

要因

コマンド実行中に強制停止を受け付けたため、強制終了しました。

対処

必要ありません。

## KDWI0221-E

---

aaaa : ドメイン間連携機能は起動できませんでした。詳細情報 : xxx 保守コード : xxx

要因

何らかの要因でドメイン間連携機能が起動できませんでした。

詳細情報

保守情報が表示されます。

保守コード

保守情報が表示されます。

対処

このメッセージの直前に出力されているエラーメッセージの要因・対処に従ってエラー要因を取り除いた後、再起動してください。

## KDWI0222-E

---

aaaa : 連携情報削除機能は起動できませんでした。

要因

何らかの要因で連携情報削除機能が起動できませんでした。

対処

このメッセージの直前に出力されているエラーメッセージの要因・対処に従ってエラー要因を取り除いた後、再起動してください。

## KDWI0223-E

---

aaaa : 連携情報削除機能プロセスを生成できません。

要因

オペレーティングシステムにプロセス生成要求しましたが、プロセス生成できませんでした。

対処

多くの場合、メモリ不足が考えられます。ほかのアプリケーションを終了させるか、仮想メモリを大きくして再実行してください。メモリ不足以外の場合は、直前に出力されている KDWI2353-E メッセージのエラーコード（オペレーティングシステムの errno）に従ってエラー要因を取り除いた後、再起動してください。

## KDWI0224-E

---

aaaa : 連携情報削除機能を強制終了します。

要因

通常サービス停止以外の方法で WFifdelc プロセスが強制終了されました。

対処

ドメイン間連携機能のサービスが停止している場合、再起動してください。サービスが起動中の場合、通常サービス停止を実行後に再起動してください。

## KDWI0225-E

---

aaaa : メッセージ再送機能は起動できませんでした。

要因

何らかの要因でメッセージ再送機能が起動できませんでした。

対処

このメッセージの直前に出力されているエラーメッセージの要因・対処に従ってエラー要因を取り除いた後、再起動してください。

## KDWI0226-E

---

aaaa : メッセージ再送機能プロセスを生成できません。

### 要因

オペレーティングシステムにプロセス生成要求しましたが、プロセス生成できませんでした。

### 対処

多くの場合、メモリ不足が考えられます。ほかのアプリケーションを終了させるか、仮想メモリを大きくして再実行してください。メモリ不足以外の場合は、直前に出力されている KDWI2353-E メッセージのエラーコード (オペレーティングシステムの errno) に従ってエラー要因を取り除いた後、再起動してください。

## KDWI0227-E

---

aaaa : メッセージ再送機能を強制終了します。

### 要因

通常サービス停止以外の方法で WFifdres プロセスが強制終了されました。

### 対処

ドメイン間連携機能のサービスが停止している場合、再起動してください。サービスがまだ起動中の場合、通常サービス停止を実行後に再起動してください。

## KDWI0228-E

---

aaaa : ドメイン間連携機能の停止に失敗しました。詳細情報 : xxx 保守コード : xxx

### 要因

何らかの要因でドメイン間連携機能が計画停止できませんでした。

### 詳細情報

保守情報が表示されます。

### 保守コード

保守情報が表示されます。

### 対処

このメッセージの直前に出力されているエラーメッセージの要因・対処に従ってエラー要因を取り除いた後、再起動してください。

## KDWI0229-E

---

aaaa : プロセスが異常終了したためドメイン間連携機能を停止します。  
プロセス名 : xxx 詳細情報 : xxx 保守コード : xxx

### 要因

何らかの要因でドメイン間連携機能のプロセスが異常終了しました。

### プロセス名

保守情報が表示されます。

### 詳細情報

保守情報が表示されます。

### 保守コード

保守情報が表示されます。

### 対処

このメッセージの直前に出力されているエラーメッセージの要因・対処に従ってエラー要因を取り除いた後、再起動してください。

## KDWI0230-E

---

aaaa : ドメイン間連携監視プロセスを生成できません。

### 要因

何らかの要因でドメイン間連携機能の監視プロセスが生成できませんでした。

### 対処

このメッセージの直前に出力されているエラーメッセージの要因・対処に従ってエラー要因を取り除いた後、再起動してください。

## KDWI0231-E

---

aaaa : 通信データ受信待ちでタイムアウトが発生しました。受信種別 :  
xxx 保守コード : xxx

### 要因

ドメイン間連携機能のプロセス間通信で受信待ちタイムアウトが発生しました。

### 受信種別

保守情報が表示されます。

### 保守コード

保守情報が表示されます。

### 対処

このメッセージの前後に出力されているエラーメッセージの要因・対処に従ってエラー要因を取り除いた後、再起動または再停止してください。

## KDWI0232-E

---

aaaa : コマンドからの要求の受信に失敗しました。受信種別 : xxx 保守コード : xxx

### 要因

通信データが不正なのでドメイン間連携機能のプロセス間通信でコマンドからのデータ受信に失敗しました。

### 受信種別

保守情報が表示されます。

### 保守コード

保守情報が表示されます。

### 対処

オペレーティングシステムの環境が不安定になっている可能性があります。オペレーティングシステムのメッセージが前後で出力されている場合、その要因を調査・対策後、再起動または再停止してください。ほかに要因が見付からない場合、システム管理者に連絡してください。

## KDWI0300-E

---

aaaa : オプションの指定が不正です。オプション : xxx

### 要因

コマンドに指定したオプションが不正です。

### オプション

エラーが発生したオプション名が表示されます。

### 対処

オプションに表示したオプションを見直し、再度実行してください。

オプションに「？」が表示される場合、許可されていないオプションが指定されています。

## KDWI0301-E

---

aaaa : 指定したファイルを作成できません。ファイル名 : xxx

### 要因

出力ファイルとして指定されたファイルが作成できませんでした。

## ファイル名

エラーが発生したファイル名が表示されます。

## 対処

ディスク容量・ディレクトリやファイルの権限を確認してください。これらが正常な場合、直前に出力されている KDWI2353-E メッセージのエラーコード（オペレーティングシステムのエラー番号）に従ってエラー要因を取り除いた後、再度実行してください。

## KDWI0302-E

---

aaaa : 指定した要求番号は存在しません。要求番号 : xxx

## 要因

指定された要求番号は、要求控えに存在しません。

## 要求番号

指定した要求番号が表示されます。

## 対処

要求番号を確認のうえ、再度実行してください。

## KDWI0303-E

---

aaaa : 指定した要求番号のデータは再処理できない状態です。要求番号 : xxx

## 要因

指定された要求番号は、再処理できない状態です。

## 要求番号

指定した要求番号が表示されます。

## 対処

要求番号、及び要求の状態を確認して再度実行してください。

## KDWI0304-E

---

aaaa : 指定した連携管理 ID は存在しません。連携管理 ID : xxx

## 要因

指定された連携管理 ID は存在しません。

## 連携管理 ID

指定した連携管理 ID が表示されます。

対処

連携管理 ID を確認して再度実行してください。

## KDWI0305-E

---

aaaa : 指定した要求番号は連携管理に存在しません。連携管理 ID : xxx  
要求番号 : xxx

要因

指定された要求番号は指定された連携管理 ID 中に存在しません。

連携管理 ID

指定した連携管理 ID が表示されます。

要求番号

指定した要求番号が表示されます。

対処

連携管理 ID 及び要求番号を確認して再度実行してください。

## KDWI0306-E

---

aaaa : 指定した要求番号は再送できない状態です。連携管理 ID : xxx 要  
求番号 : xxx

要因

指定された要求番号は再送できない状態です。

連携管理 ID

指定した連携管理 ID が表示されます。

要求番号

指定した要求番号が表示されます。

対処

連携管理 ID , 要求番号及び要求の状態を確認して再度実行してください。

## KDWI0307-E

---

aaaa : データベースのバージョンが不正です。

要因

ワークフローデータベースのバージョンが古いため、プログラムが実行できません。

対処

ワークフローデータベースを移行して再度実行してください。

## KDWI0308-E

---

aaaa : データベースの変更が完了していません。

### 要因

Workflow 管理サーバ構成環境変更ユティリティによるワークフローデータベースの変更が完了していません。

### 対処

Workflow 管理サーバ構成環境変更ユティリティを実行した後、再度実行してください。

## KDWI0309-E

---

aaaa : 他のプログラムと同時に実行できません。

### 要因

プログラムの競合が発生しました。

### 対処

ほかのプログラムの終了を待って、再度実行してください。

## KDWI0310-E

---

aaaa : 再送回数をオーバーしたため再送しません。連携管理 ID : xxx 要求番号 : xxx

### 要因

要求再送コマンド (WFifrsnd) の s オプションによるメールの再送 (WFifrsnd -s の形式) で、再送回数が、ドメイン間連携サーバ環境定義で指定されているドメイン間連携再送回数を超えたため、当該要求は再送しません。

### 連携管理 ID

指定した連携管理 ID が表示されます。

### 要求番号

指定した要求番号が表示されます。

### 対処

送信先からの応答メールが紛失したか、メールサーバとの通信で障害が発生している可能性があります。送信先で応答メールを再送してもらうか、メールサーバとの通信障害を取り除いてください。

この要求を再送する場合は、「WFifrsnd -c 連携管理 ID -m 要求番号」を指定して再送してください。

WFifrsnd の -s オプションによる自動再送はできません。

## KDWI0311-E

---

aaaa : 稼働中バックアップ処理中のためプログラムを停止します。

### 要因

稼働中バックアップ処理中のためプログラムを起動できません。

### 対処

稼働中バックアップが終了した後、再起動してください。

## KDWI0312-E

---

aaaa : 稼働中バックアップチェックでエラーが発生しました。関数名 :  
xxx 行番号 : xxx システムコール名 : xxx エラーコード : xxx

### 要因

稼働中バックアップのチェック処理中にエラーが発生しました。

### 関数名

保守情報が表示されます。

### 行番号

保守情報が表示されます。

### システムコール名

保守情報が表示されます。

### エラーコード

errno の値が表示されます。

### 対処

errno の値を参照し、対処してください。それでもエラーが発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWI2100-W

---

aaaa : メールサーバとの通信でエラーが発生しました。再接続処理します。リトライ回数 : xxx リトライ間隔 : xxx 保守コード : xxx

### 要因

メールサーバとの通信中にエラーが発生したため、設定されているリトライ回数・

リトライ間隔で再接続処理をおこないます。

リトライ回数

設定されているリトライ回数が表示されます。

リトライ間隔

設定されているリトライ間隔が表示されます。

保守コード

保守情報が表示されます。

対処

このメッセージ後に KDWI2101-W メッセージが出力されている場合は対処する必要はありません。

サービスが停止した場合、メールサーバが起動していることを確認してください。メールサーバが起動している場合は、メールサーバとの通信環境を見直し、障害に対処してから再起動してください。

## KDWI2101-W

---

aaaa : メールサーバとの通信を再開しました。

要因

メールサーバとの通信中にエラーが発生したため、設定されているリトライ回数・リトライ間隔で再接続処理を行った結果、通信を再開しました。

対処

必要ありません。

## KDWI2200-E

---

aaaa : メール格納ディレクトリに必要なファイルがありません。

要因

環境定義で指定したメール格納ディレクトリの下に必要なファイルがありません。

対処

メール格納ディレクトリの環境定義の指定を変更した場合、その下のすべてのディレクトリ及びファイルを移動する必要があります。これらを移動していない場合にこのエラーが発生します。メール格納ディレクトリの環境定義の指定を変更している場合、変更前のメール格納ディレクトリの下ディレクトリ及びファイルをすべて移動して、再起動してください。

メール格納ディレクトリを変更していない場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWI2203-E

---

aaaa : メールの作成に失敗しました。要求種別 : xxx 案件 ID : xxx 連携管理 ID : xxx

### 要因

送信するメールファイルが作成できませんでした。

### 要求種別

作成に失敗したメールの要求種別が表示されます。

### 案件 ID

作成に失敗したメールの案件 ID が表示されます。

### 連携管理 ID

作成に失敗したメールの連携管理 ID が表示されます。

### 対処

ディスク容量・メール格納ディレクトリの権限を確認してください。これらが正しい場合、システム管理者に連絡してください。

## KDWI2204-E

---

aaaa : メールの送信に失敗しました。要求種別 : xxx 案件 ID : xxx 連携管理 ID : xxx

### 要因

メールファイルの送信ができませんでした。

### 要求種別

送信に失敗したメールの要求種別が表示されます。

### 案件 ID

送信に失敗したメールの案件 ID が表示されます。

### 連携管理 ID

送信に失敗したメールの連携管理 ID が表示されます。

### 対処

このメッセージの直前・直後に出力されているエラーメッセージの要因・対処に従ってエラー要因を取り除いた後、再起動してください。前後にエラーメッセージがない場合、メールサーバとの通信環境を見直してください。

## KDWI2205-E

---

aaaa : メールの受信に失敗しました。

### 要因

メールファイルの受信ができませんでした。

### 対処

メール格納ディレクトリのディスク容量及び権限を確認してください。これらが正しい場合、メールサーバとの通信環境を見直してください。

## KDWI2206-E

---

aaaa : メールの状態変更失敗しました。メール ID : xxx 連携管理 ID : xxx

### 要因

メールファイルの状態変更ができませんでした。

### メール ID

状態変更失敗したメールのメール ID が表示されます。

### 連携管理 ID

状態変更失敗したメールの連携管理 ID が表示されます。

### 対処

メール格納ディレクトリのディスク容量及び権限を確認してください。これらが正しい場合、システム管理者に連絡してください。

## KDWI2207-E

---

aaaa : メールの解析に失敗しました。メール ID : xxx 連携管理 ID : xxx

### 要因

受信したメールファイルの内容が不正なため、メールが解析できません。

### メール ID

解析できなかったメールのメール ID が表示されます。

### 連携管理 ID

解析できなかったメールの連携管理 ID が表示されます。

### 対処

案件を再送してください。再度同じメッセージが出力される場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWI2208-E

---

aaaa : 送信メール制限サイズの限界を超えました。要求種別 : xxx 案件 ID : xxx 連携管理 ID : xxx

### 要因

送信するメールのサイズが、環境定義で指定した送信メール制限サイズを超えているため、送信できません。

### 要求種別

送信できなかったメールの要求種別が表示されます。

### 案件 ID

送信できなかったメールの案件 ID が表示されます。

### 連携管理 ID

送信できなかったメールの連携管理 ID が表示されます。

### 対処

環境定義の送信メール制限サイズを大きくして、停止・再起動してください。その後、このメッセージの後に出力されているメッセージの対処に従って、案件を復帰するか、送信メールを再処理してください。

## KDWI2209-E

---

aaaa : メールアクセス関数でエラーが発生しました。関数名 : xxx エラーコード : xxx 保守コード : xxx

### 要因

メールサーバに対するアクセス中にエラーが発生しました。

### 関数名

保守情報が表示されます。

### エラーコード

保守情報が表示されます。

### 保守コード

保守情報が表示されます。

### 対処

このメッセージの直後に出力されるメッセージの要因・対処に従ってエラー要因を取り除き対処してください。

## KDWI2210-E

---

aaaa : メールサーバ接続リトライ回数を超えました。

### 要因

メールサーバとの通信中にエラーが発生したため、再接続処理しましたが、通信障害が回復されませんでした。

### 対処

メールサーバの起動状態及びメールサーバの環境設定を見直し、再起動してください。

## KDWI2211-E

---

aaaa : メールアドレスの長さが制限を超えています。メールアドレス :  
xxx

### 要因

受信したメールの中で設定されている送信元のメールアドレスが制限長を超えているため、処理できません。

### メールアドレス

エラーが発生したメールアドレスが表示されます。

### 対処

このエラーが発生したメールは、不当メールとして扱われません。したがって、環境定義で指定した不当メール格納ディレクトリに格納、処理されません。送信元に連絡して、送信元のメールアドレスを 63 バイト以内に変更後、再度送信してもらってください。

## KDWI2212-E

---

aaaa : ホスト名の取得に失敗しました。

### 要因

自サーバ又はメールサーバのホスト名の取得に失敗しました。

### 対処

hosts ファイル及び DNS 環境を見直して、再起動してください。

## KDWI2213-E

---

aaaa : サービス名の取得に失敗しました。

### 要因

SMTP 又は POP3 サービスのサービス名の取得に失敗しました。

### 対処

services ファイルに SMTP 及び POP3 のサービス名を指定しているか確認した後、再起動してください。

## KDWI2214-E

---

aaaa : 自サーバのメールアドレスかまたは送信先のメールアドレスが不正です。自サーバメールアドレス : xxx 送信先メールアドレス : xxx

### 要因

メールサーバ定義ファイルに指定した自サーバメールアドレス、又は連携情報定義ファイルに指定した送信先メールアドレスが不正です。

#### 自サーバメールアドレス

指定した自サーバのメールアドレスが表示されます。

#### 送信先メールアドレス

指定した送信先のメールアドレスが表示されます。

### 対処

メールサーバ定義ファイルに指定した自サーバメールアドレス、又は連携情報定義ファイルに指定した送信先メールアドレスを修正後、ドメイン間連携機能を再起動してください。その後、エラーとなった案件を送受信エラー要求再処理コマンド (WFifrttry) で再処理してください。

## KDWI2300-E

---

aaaa : ワークフローサーバとの接続に失敗しました。

### 要因

ワークフローサーバとの接続ができませんでした。

### 対処

このメッセージの直前に出力されているワークフローサーバのエラーメッセージの要因・対処に従って、エラー要因を取り除いてください。

## KDWI2301-E

---

aaaa : ワークフローサーバが起動されていません。

要因

ワークフローサーバが起動されていません。

対処

ワークフローサーバを起動後に、ドメイン間連携機能を再起動してください。

## KDWI2302-E

---

aaaa : ワークフローサーバからの切り離しに失敗しました。

要因

ワークフローサーバとの切り離しでエラーが発生しました。

対処

このメッセージの直前に出力されているワークフローサーバのエラーメッセージの要因・対処に従ってエラー要因を取り除いてください。

## KDWI2303-E

---

aaaa : ワークフローアクセス関数でエラーが発生しました。関数名 :  
xxx エラーコード : xxx 保守コード : xxx

要因

ワークフローへのアクセス中にエラーが発生しました。

関数名

保守情報が表示されます。

エラーコード

保守情報が表示されます。

保守コード

保守情報が表示されます。

対処

このメッセージの直後に出力されるメッセージの要因・対処に従ってエラー要因を取り除いてください。

## KDWI2304-E

---

aaaa : 連携する案件がありません。要求種別 : xxx 案件 ID : xxx

### 要因

連携要求された案件が既にあります。連携要求後に該当案件は削除されました。

### 要求種別

エラーが発生した案件の要求種別が表示されます。

### 案件 ID

エラーが発生した案件の案件 ID が表示されます。

### 対処

必要ありません。

## KDWI2305-E

---

aaaa : 連携する案件の情報取得に失敗しました。要求種別 : xxx 案件 ID : xxx

### 要因

連携要求された案件の取得処理でエラーが発生しました。

### 要求種別

エラーが発生した案件の要求種別が表示されます。

### 案件 ID

エラーが発生した案件の案件 ID が表示されます。

### 対処

ワークフローサーバが正常に動作しているか確認してください。正常に動作している場合は、しばらく時間をおいて、このメッセージの直後に出力されているエラーメッセージの対処に従って案件を復帰するか再処理してください。時間をおいて再処理しても同じメッセージが出力される場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWI2306-E

---

aaaa : 連携するケース属性名の取得に失敗しました。ビジネスプロセス定義名称 : xxx ワーク ID : xxx

### 要因

連携するケース属性名取得の処理でワークフローサーバのエラーが発生しました。

ビジネスプロセス定義名称

エラーが発生したビジネスプロセス定義の名称が表示されます。

ワーク ID

エラーが発生したワーク ID が表示されます。

対処

ワークフローサーバが正常に動作しているか確認してください。正常に動作している場合は、しばらく時間をおいて、このメッセージの直後に出力されているエラーメッセージの対処に従って案件を復帰するか再処理してください。時間をおいて再処理しても同じメッセージが出力される場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWI2307-E

---

aaaa : 連携するケース属性値の取得に失敗しました。ビジネスプロセス定義名称 : xxx ワーク ID : xxx 属性名 : xxx

要因

連携するケース属性値取得の処理でワークフローサーバのエラーが発生しました。

ビジネスプロセス定義名称

エラーが発生したビジネスプロセス定義の名称が表示されます。

ワーク ID

エラーが発生したワーク ID が表示されます。

属性名

エラーが発生した属性名が表示されます。

対処

ワークフローサーバが正常に動作しているか確認してください。正常に動作している場合は、しばらく時間をおいて、このメッセージの直後に出力されているエラーメッセージの対処に従って案件を復帰するか再処理してください。時間をおいて再処理しても同じメッセージが出力される場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWI2308-E

---

aaaa : 連携するケース属性値の設定・更新に失敗しました。ビジネスプロセス定義名称 : xxx ワーク ID : xxx

要因

連携するケース属性名が定義されていないか、又は、連携属性の属性型が連携元と連携先とで異なるため、属性を設定・更新できませんでした。

ビジネスプロセス定義名称

エラーが発生したビジネスプロセス定義の名称が表示されます。

ワーク ID

エラーが発生したワーク ID が表示されます。

対処

ケースの属性定義の変更が可能な場合、正しく変更した後、案件を復帰させてください。属性定義の変更ができない場合は、該当案件をキャンセル又は削除した後、再投入してください。

## KDWI2309-E

---

aaaa : 文書の生成に失敗しました。ビジネスプロセス定義名称 : xxx

ワーク ID : xxx

要因

案件に添付されている文書の作成に失敗しました。

ビジネスプロセス定義名称

エラーが発生したビジネスプロセス定義の名称が表示されます。

ワーク ID

エラーが発生したワーク ID が表示されます。

対処

環境定義で指定したドメイン間連携作業ディレクトリのディスク容量及び権限を確認してください。これらが不正な場合、正しく変更した後、案件を復帰させてください。ディスク容量及び権限に問題がない場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWI2310-E

---

aaaa : 文書の取得に失敗しました。ビジネスプロセス定義名称 : xxx

ワーク ID : xxx

要因

案件に添付されている文書の取得に失敗しました。

ビジネスプロセス定義名称

エラーが発生したビジネスプロセス定義の名称が表示されます。

ワーク ID

エラーが発生したワーク ID が表示されます。

対処

ワークフローサーバの起動を確認してください。又は、このメッセージの直前に出

力されているエラーメッセージの要因・対処に従いエラー要因を取り除いてください。  
ワークフローサーバが正常に起動している場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWI2311-E

---

aaaa : 文書の削除に失敗しました。ビジネスプロセス定義名称 : xxx  
ワーク ID : xxx

### 要因

システムで仮作成した文書の削除に失敗しました。

ビジネスプロセス定義名称

エラーが発生したビジネスプロセス定義の名称が表示されます。

ワーク ID

エラーが発生したワーク ID が表示されます。

### 対処

環境定義で指定したドメイン間連携作業ディレクトリの権限を確認してください。  
これらが不正な場合、正しく変更してください。権限に問題がない場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWI2312-E

---

aaaa : メモの生成に失敗しました。ビジネスプロセス定義名称 : xxx  
ワーク ID : xxx

### 要因

案件に添付されているメモの作成に失敗しました。

ビジネスプロセス定義名称

エラーが発生したビジネスプロセス定義の名称が表示されます。

ワーク ID

エラーが発生したワーク ID が表示されます。

### 対処

環境定義で指定したドメイン間連携作業ディレクトリのディスク容量及び権限を確認してください。これらが不正な場合、正しく変更した後、案件を復帰させてください。ディスク容量及び権限に問題がない場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWI2313-E

---

aaaa : メモの取得に失敗しました。ビジネスプロセス定義名称 : xxx  
ワーク ID : xxx

### 要因

案件に添付されているメモの取得に失敗しました。

ビジネスプロセス定義名称

エラーが発生したビジネスプロセス定義の名称が表示されます。

ワーク ID

エラーが発生したワーク ID が表示されます。

### 対処

ワークフローサーバの起動を確認してください。又は、このメッセージの直前に出力されているエラーメッセージの要因・対処に従ってエラー要因を取り除いてください。

ワークフローサーバが正常に起動している場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWI2314-E

---

aaaa : メモの削除に失敗しました。ビジネスプロセス定義名称 : xxx  
ワーク ID : xxx

### 要因

システムで仮作成したメモの削除に失敗しました。

ビジネスプロセス定義名称

エラーが発生したビジネスプロセス定義の名称が表示されます。

ワーク ID

エラーが発生したワーク ID が表示されます。

### 対処

環境定義で指定したドメイン間連携作業ディレクトリの権限を確認してください。これらが不正な場合、正しく変更してください。権限に問題がない場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWI2315-E

---

aaaa : ワーク ID の取得に失敗しました。ビジネスプロセス定義名称 :  
xxx

### 要因

案件を投入するためにビジネスプロセス定義からワーク ID を取得しようとした  
が、取得できませんでした。

ビジネスプロセス定義名称

エラーが発生したビジネスプロセス定義の名称が表示されます。

### 対処

ソースノード数、及びソースノードで定義されているケース数や連携可能なビジネ  
スプロセス定義であることを確認してください。これらが正しく定義されている場  
合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWI2316-E

---

aaaa : 投入しようとしているサーバはビジネスプロセス登録サーバでは  
ありません。連携管理 ID : xxx ビジネスプロセス定義名称 : xxx

### 要因

ビジネスプロセス登録サーバ以外のサーバに対して案件を投入しようとしています。

連携管理 ID

エラーが発生した案件の連携管理 ID が表示されます。

ビジネスプロセス定義名称

エラーが発生したビジネスプロセス定義の名称が表示されます。

### 対処

案件はビジネスプロセス登録サーバにしか連携できません。連携元で連携先の定義  
をビジネスプロセス登録サーバに変更した後、再投入してください。

## KDWI2317-E

---

aaaa : 投入しようとしているビジネスプロセスはワーク ID が自動採番  
形式ではありません。連携管理 ID : xxx ビジネスプロセス定義名称 : xxx

### 要因

自動採番形式以外のビジネスプロセス定義に対して連携しようとしています。

連携管理 ID

エラーが発生した案件の連携管理 ID が表示されます。

ビジネスプロセス定義名称

エラーが発生したビジネスプロセス定義の名称が表示されます。

対処

自動採番形式以外のビジネスプロセス定義には連携できません。ビジネスプロセス定義を自動採番形式に変更した後、連携元で案件を復帰してください。

## KDWI2318-E

---

aaaa : ビジネスプロセス定義が登録されていないか投入が抑止されています。連携管理 ID : xxx ビジネスプロセス定義名称 : xxx

要因

連携元で指定されたビジネスプロセス定義が存在しないか、又は投入が抑止されているため、連携先で案件を投入できませんでした。

連携管理 ID

エラーが発生した案件の連携管理 ID が表示されます。

ビジネスプロセス定義名称

エラーが発生したビジネスプロセス定義の名称が表示されます。

対処

ビジネスプロセス定義を追加するか、投入可能に変更した後、連携元で案件を復帰させてください。

## KDWI2320-E

---

aaaa : 案件の生成に失敗しました。ビジネスプロセス定義名称 : xxx  
ワーク ID : xxx

要因

ビジネスプロセス定義で投入するための権限がないため、案件の生成ができないかまたは、ワークフローサーバの障害により投入できません。

ビジネスプロセス定義名称

エラーが発生したビジネスプロセス定義の名称が表示されます。

ワーク ID

エラーが発生したワーク ID が表示されます。

対処

連携元で窓口名定義ファイルに指定されたワークフローユーザがビジネスプロセス定義のソースノードに投入できるユーザがどうかを確認してください。投入できないユーザの場合は、連携元のワークフローユーザを投入できるユーザに変更した後、連携元の案件を復帰してください。ワークフローサーバの障害の場合、このメッ

ページの前後に出力されているエラーメッセージの要因・対処に従って対処してください。

## KDWI2321-E

---

aaaa : 案件の投入に失敗しました。ビジネスプロセス定義名称 : xxx  
ワーク ID : xxx

### 要因

ビジネスプロセス定義で、案件の必須属性として定義してある属性が設定されていないため投入できないか、又は、ワークフローサーバの障害により投入できません。

ビジネスプロセス定義名称

エラーが発生したビジネスプロセス定義の名称が表示されます。

ワーク ID

エラーが発生したワーク ID が表示されます。

### 対処

連携元のビジネスプロセス定義で、連携先投入時の案件の必須属性と同じ属性名の属性が連携属性として指定してあるか確認してください。指定していない場合、連携元で連携属性を追加するか、連携先の必須属性を任意属性に変更して、連携元の案件を復帰してください。ワークフローサーバの障害の場合、このメッセージの前後に出力されているエラーメッセージの要因・対処に従って対処してください。

## KDWI2322-E

---

aaaa : 案件の遷移に失敗しました。ビジネスプロセス定義名称 : xxx  
ワーク ID : xxx

### 要因

ワーク ID で示されるワークがキャンセル又は削除されているため、連携が終了して案件を遷移させようとしたが、遷移できませんでした。又は、ワークフローサーバで障害が発生しているため、遷移できませんでした。

ビジネスプロセス定義名称

エラーが発生したビジネスプロセス定義の名称が表示されます。

ワーク ID

エラーが発生したワーク ID が表示されます。

### 対処

ワーク ID で示されるワークがキャンセル又は削除されていないか確認してください。キャンセル又は削除されている場合は対処不要です。ワークフローサーバの障害の場合、このメッセージの前後に出力されているエラーメッセージの要因・対処

に従って対処してください。

## KDWI2323-E

---

aaaa : ワーク状態がシंक又はキャンセル状態のため案件を移動できません。ビジネスプロセス定義名称 : xxx ワーク ID : xxx

### 要因

ワーク ID で示されるワークがキャンセル又は削除されているため、連携が終了して案件を遷移させようとしたが、遷移できませんでした。

#### ビジネスプロセス定義名称

エラーが発生したビジネスプロセス定義の名称が表示されます。

#### ワーク ID

エラーが発生したワーク ID が表示されます。

### 対処

必要ありません。

## KDWI2324-E

---

aaaa : 案件のエラートレーへの移動に失敗しました。ビジネスプロセス定義名称 : xxx ワーク ID : xxx

### 要因

ワーク ID で示されるワークがキャンセル又は削除されているため、案件をエラートレーに移動できませんでした。又は、ワークフローサーバで障害が発生しているため、移動できませんでした。

#### ビジネスプロセス定義名称

エラーが発生したビジネスプロセス定義の名称が表示されます。

#### ワーク ID

エラーが発生したワーク ID が表示されます。

### 対処

ワーク ID で示されるワークがキャンセル又は削除されていないか確認してください。キャンセル又は削除されている場合は対処不要です。ワークフローサーバの障害の場合、このメッセージの前後に出力されているエラーメッセージの要因・対処に従って対処してください。

## KDWI2325-E

---

aaaa : 連携元と連携先で対応するケース属性が一致しません。ビジネスプロセス定義名称 : xxx ワーク ID : xxx

### 要因

連携元の連携するケース属性で指定されている属性名が連携先にありません。

ビジネスプロセス定義名称

エラーが発生したビジネスプロセス定義の名称が表示されます。

ワーク ID

エラーが発生したワーク ID が表示されます。

### 対処

連携元の連携するケース属性の属性名と、連携先のケースの属性名を合わせて再投入してください。

## KDWI2326-E

---

aaaa : 連携元と連携先で対応するケース属性のデータ型が一致しません。ビジネスプロセス定義名称 : xxx ワーク ID : xxx

### 要因

連携元の連携するケース属性で指定されている属性と同じ属性名の、連携先案件の属性型が異なります。

ビジネスプロセス定義名称

エラーが発生したビジネスプロセス定義の名称が表示されます。

ワーク ID

エラーが発生したワーク ID が表示されます。

### 対処

連携元の連携するケース属性の属性型と連携先の案件の属性型を合わせて再投入してください。

## KDWI2327-E

---

aaaa : メモの貼り付け先文書が存在しません。ビジネスプロセス定義名称 : xxx ワーク ID : xxx

### 要因

メモが貼り付いていた文書が存在しないため、案件を投入できませんでした。

ビジネスプロセス定義名称

エラーが発生したビジネスプロセス定義の名称が表示されます。

ワーク ID

エラーが発生したワーク ID が表示されます。

対処

ワークフローサーバが正常に起動しているか確認してください。正常に動作していない場合、正常に起動した後、連携元の案件を復帰させてください。ワークフローサーバが正常に動作している場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWI2328-E

---

aaaa : 案件を投入しようとしたユーザはワークフローユーザではありません。ビジネスプロセス定義名称 : xxx ユーザ ID : xxx

要因

連携元の窓口名定義ファイルで定義されているワークフローユーザが連携先では定義していないため、案件を投入できませんでした。

ビジネスプロセス定義名称

エラーが発生したビジネスプロセス定義の名称が表示されます。

ワーク ID

エラーが発生したワーク ID が表示されます。

対処

連携元の窓口名定義ファイルで定義されているワークフローユーザを変更して連携元の Groupmax Workflow Server - Connection サービスを再起動するか、又は連携先のワークフローシステムに該当ユーザを追加して、連携元の案件を復帰させてください。

## KDWI2329-E

---

aaaa : 契約 ID が一致しません。連携元契約 ID : xxx 連携先契約 ID : xxx

要因

連携元の契約 ID と連携先の契約 ID が異なるため、案件を投入できませんでした。

連携元契約 ID

エラーが発生した案件の連携元契約 ID が表示されます。

連携先契約 ID

エラーが発生した案件の連携先契約 ID が表示されます。

対処

連携元の契約 ID と連携先の契約 ID を合わせた後、連携元の案件を復帰させてください。

## KDWI2330-E

---

aaaa : 連携元で要求されたケース属性名がビジネスプロセス定義に定義されていません。ビジネスプロセス定義名称 : xxx ワーク ID : xxx 属性名 : xxx

### 要因

連携元のビジネスプロセス定義の階層連携ノードの受け取り情報で指定した属性名が、連携先のビジネスプロセス定義で定義されていません。

ビジネスプロセス定義名称

エラーが発生したビジネスプロセス定義名称が表示されます。

ワーク ID

エラーが発生したワーク ID が表示されます。

属性名

エラーが発生した属性名が表示されます。

### 対処

連携先のビジネスプロセス定義を変更した後、再度連携元から投入してください。

## KDWI2350-E

---

aaaa : オブジェクトサーバとの接続に失敗しました。

### 要因

オブジェクトサーバとの接続でエラーが発生しました。

### 対処

オブジェクトサーバが正常に起動しているか確認してください。正常に起動している場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWI2351-E

---

aaaa : オブジェクトサーバからの切り離しに失敗しました。

### 要因

オブジェクトサーバとの切り離しでエラーが発生しました。

### 対処

オブジェクトサーバが正常に起動しているか確認してください。正常に起動してい

る場合は、Groupmax Workflow Server - Connection サービスを再起動し、正常に再起動できれば、対処不要です。再起動できない場合、システム管理者に連絡してください。

## KDWI2352-E

---

aaaa : オブジェクトサーバアクセス関数でエラーが発生しました。関数名 : xxx エラーコード : xxx 保守コード : xxx

### 要因

オブジェクトサーバのアクセス関数でエラーが発生しました。

#### 関数名

保守情報が表示されます。

#### エラーコード

保守情報が表示されます。

#### 保守コード

保守情報が表示されます。

### 対処

このメッセージのエラーコードに「20000」が表示されている場合、環境設定ファイル(/Flowmate/etc/config)に不正なオペランドが指定されている可能性があります。環境設定ファイルを見直した後、再度実行してください。環境設定ファイルが正しい場合、又は他のエラーコードが表示されている場合は、このメッセージの直後に出力されているエラーメッセージの要因・対処に従って対処してください。

## KDWI2353-E

---

aaaa : オペレーティングシステムとのインタフェースでエラーが発生しました。関数名 : xxx エラーコード : xxx 保守コード : xxx

### 要因

オペレーティングシステムのシステムコールでエラーが発生しました。

#### 関数名

保守情報が表示されます。

#### エラーコード

保守情報が表示されます。

#### 保守コード

保守情報が表示されます。

### 対処

関数名・エラーコードからエラー要因を特定し、エラー要因を取り除いた後、この

メッセージの後に出力されるエラーメッセージの要因・対処に従って対処してください。

## KDWI2354-E

---

aaaa : メモリの確保に失敗しました。

### 要因

必要なメモリの確保に失敗しました。

### 対処

不要なプロセスを終了させるか、又はスワップ領域を増やして再起動してください。

## KDWI3000-I

---

aaaa : 再処理要求しました。要求番号 : xxx

### 要因

送受信エラー要求再処理コマンド (WFifrtry) により再処理要求されました。

### 要求番号

再処理要求したメールの要求番号が表示されます。

### 対処

必要ありません。

## KDWI3001-I

---

aaaa : 再送要求しました。連携管理 ID : xxx 要求番号 : xxx 要求種別 :  
xxx 再送回数 : xxx

### 要因

要求再送コマンド (WFifrsnd) により再送要求されました。

### 連携管理 ID

再送要求したメールの連携管理 ID が表示されます。

### 要求番号

再送要求したメールの要求番号が表示されます。

### 要求種別

再送要求したメールの要求種別が表示されます。

### 再送回数

再送要求したメールの再送回数が表示されます。

対処

必要ありません。

## KDWI3002-I

---

aaaa : 処理要求を削除しました。要求番号 : xxx

要因

送受信エラー要求再処理コマンド (WFiftry) により処理要求を削除しました。

要求番号

処理要求を削除したメールの要求番号が表示されます。

対処

必要ありません。

## KDWI3003-I

---

aaaa : 連携管理情報を削除しました。連携管理 ID : xxx

要因

要求再送コマンド (WFifrsnd) により連携管理情報を削除しました。

連携管理 ID

連携管理情報を削除したメールの連携管理 ID が表示されます。

対処

必要ありません。

## KDWI3100-W

---

aaaa : 対応できない送信要求を受け付けました。要求種別 : xxx

要因

このバージョンではサポートしていない送信要求を受け付けました。

要求種別

エラーが発生した送信要求の要求種別が表示されます。

対処

Groupmax Workflow Server - Connection のバージョンを確認してください。バージョンが古い場合、新しいバージョンをインストールした後、案件を復帰させてください。バージョンに問題がない場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWI3101-W

---

aaaa : 対応できないメールを受信しました。

要因

本バージョンではサポートしていない要求を受信しました。

対処

Groupmax Workflow Server - Connection のバージョンを確認してください。バージョンが古い場合、新しいバージョンをインストールした後、案件を復帰させてください。バージョンに問題がない場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWI3102-W

---

aaaa : 再度受信処理します。連携管理 ID : xxx

要因

連携データ受信処理中に何らかのエラーが発生したため、再度受信処理要求します。

連携管理 ID

エラーが発生した案件の連携管理 ID が表示されます。

対処

Groupmax Workflow Server - Connection のバージョンを確認してください。バージョンが古い場合、新しいバージョンをインストールした後、案件を復帰させてください。バージョンに問題がない場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWI3200-E

---

aaaa : 送信要求キューの取得に失敗しました。

要因

送信要求を受け取るキューの取得ができませんでした。

対処

Groupmax Object Server が正常に起動しているか確認してください。正常に動作している場合、システム管理者に連絡してください。

## KDWI3201-E

---

aaaa : 送信要求キューの要素取得に失敗しました。

要因

送信要求の取得ができませんでした。

対処

Groupmax Object Server が正常に起動しているか確認して Groupmax Workflow Server - Connection を再起動してください。正常に動作している場合、システム管理者に連絡してください。

## KDWI3202-E

---

aaaa : 送信要求キューの要素登録に失敗しました。

要因

送信要求を設定できませんでした。

対処

Groupmax Object Server が正常に起動しているか、及びデータベースエリアの容量を確認して Groupmax Workflow Server - Connection を再起動してください。これらが正常な場合、システム管理者に連絡してください。

## KDWI3203-E

---

aaaa : 送信要求キューの要素削除に失敗しました。

要因

送信済みの送信要求を削除できませんでした。

対処

Groupmax Object Server が正常に起動しているか確認して Groupmax Workflow Server - Connection を再起動してください。正常に動作している場合、システム管理者に連絡してください。

## KDWI3204-E

---

aaaa : メール受信キューの取得に失敗しました。

要因

受信メール再処理用のキューを取得できませんでした。

対処

Groupmax Object Server が正常に起動しているか確認して Groupmax Workflow Server - Connection を再起動してください。正常に動作している場合、システム管理者に連絡してください。

## KDWI3205-E

---

aaaa : メール受信キューの要素取得に失敗しました。

要因

受信メール再処理用のデータを取得できませんでした。

対処

Groupmax Object Server が正常に起動しているか確認して Groupmax Workflow Server - Connection を再起動してください。正常に動作している場合、システム管理者に連絡してください。

## KDWI3206-E

---

aaaa : メール受信キューの要素登録に失敗しました。

要因

受信メール再処理用のデータを登録できませんでした。

対処

Groupmax Object Server が正常に起動しているか、及びデータベースエリアの容量を確認して、Groupmax Workflow Server - Connection を再起動してください。これらが正常な場合、システム管理者に連絡してください。

## KDWI3207-E

---

aaaa : メール受信キューの要素削除に失敗しました。

要因

受信メール再処理用のデータを削除できませんでした。

対処

Groupmax Object Server が正常に起動しているか確認して、Groupmax Workflow Server - Connection を再起動してください。正常に動作している場合、システム管理者に連絡してください。

## KDWI3208-E

---

aaaa : 連携管理情報の取得に失敗しました。連携管理 ID : xxx

要因

連携管理情報を管理する情報の取得に失敗しました。

連携管理 ID

エラーが発生した連携管理 ID が表示されます。

対処

Groupmax Object Server が正常に起動しているか確認して、Groupmax Workflow Server - Connection を再起動してください。正常に動作している場合、システム管理者に連絡してください。

## KDWI3209-E

---

aaaa : 連携管理情報の作成に失敗しました。

要因

連携管理情報を管理する情報の作成に失敗しました。

対処

Groupmax Object Server が正常に起動しているか、及びデータベースエリアの容量を確認して、Groupmax Workflow Server - Connection を再起動してください。これらが正常な場合、システム管理者に連絡してください。

## KDWI3210-E

---

aaaa : 連携管理情報の更新に失敗しました。連携管理 ID : xxx

要因

連携管理情報を管理する情報の更新に失敗しました。

連携管理 ID

エラーが発生した連携管理 ID が表示されます。

対処

Groupmax Object Server が正常に起動しているか確認して、Groupmax Workflow Server - Connection を再起動してください。正常に動作している場合、システム管理者に連絡してください。

## KDWI3211-E

---

aaaa : 連携管理情報の削除に失敗しました。連携管理 ID : xxx

要因

連携管理情報を管理する情報の削除に失敗しました。

連携管理 ID

エラーが発生した案件の連携管理 ID が表示されます。

**対処**

Groupmax Object Server が正常に起動しているか確認して、Groupmax Workflow Server - Connection を再起動してください。正常に動作している場合、システム管理者に連絡してください。

## KDWI3212-E

---

aaaa : 送信要求キューの要素更新に失敗しました。

**要因**

送信済みの送信要求を更新できませんでした。

**対処**

Groupmax Object Server が正常に起動しているか確認して、Groupmax Workflow Server - Connection を再起動してください。正常に動作している場合、システム管理者に連絡してください。

## KDWI3213-E

---

aaaa : メッセージ受信キューの要素更新に失敗しました。

**要因**

受信メール再処理用のデータを更新できませんでした。

**対処**

Groupmax Object Server が正常に起動しているか確認して、Groupmax Workflow Server - Connection を再起動してください。正常に動作している場合、システム管理者に連絡してください。

## KDWI3214-E

---

aaaa : 連携情報保存キューの取得に失敗しました。

**要因**

連携情報保存用のデータを取得できませんでした。

**対処**

Groupmax Object Server が正常に起動しているか確認して、Groupmax Workflow Server - Connection を再起動してください。正常に動作している場合、システム管理者に連絡してください。

## KDWI3215-E

---

aaaa : 連携情報保存キューの要素取得に失敗しました。

要因

連携情報保存用のデータを取得できませんでした。

対処

Groupmax Object Server が正常に起動しているか確認して、Groupmax Workflow Server - Connection を再起動してください。正常に動作している場合、システム管理者に連絡してください。

## KDWI3216-E

---

aaaa : 連携情報保存キューの要素登録に失敗しました。

要因

連携情報保存用のデータを登録できませんでした。

対処

Groupmax Object Server が正常に起動しているか確認して、Groupmax Workflow Server - Connection を再起動してください。正常に動作している場合、システム管理者に連絡してください。

## KDWI3217-E

---

aaaa : 連携情報保存キューの要素削除に失敗しました。

要因

連携情報保存用のデータを削除できませんでした。

対処

Groupmax Object Server が正常に起動しているか確認して、Groupmax Workflow Server - Connection を再起動してください。正常に動作している場合、システム管理者に連絡してください。

## KDWI3300-E

---

aaaa : 連携先が、連携情報定義ファイルに定義されていません。要求種別 : xxx 窓口名またはメールアドレス : xxx

要因

ビジネスプロセス定義又は連携時に設定された、連携先窓口名が連携情報定義ファイルに連携先が定義されていないか、又は、受信したメールの送信元のメールアドレスが連携情報定義ファイルに定義されていませんでした。

**要求種別**

エラーが発生した案件の要求種別が表示されます。

**窓口名またはメールアドレス**

連携情報定義ファイルに設定されている窓口名又は E-Mail アドレスが表示されます。

**対処**

連携情報定義ファイルに正しく窓口名及びメールアドレスを定義して、Groupmax Workflow Server - Connection を再起動し、連携元で案件を復帰してください。

## KDWI3301-E

---

aaaa : メール送信リトライ回数が制限値を超えました。要求種別 : xxx

**要因**

環境定義のドメイン間連携メール送受信リトライ回数を超えました。

**要求種別**

エラーが発生したメールの要求種別が表示されます。

**対処**

このメッセージの前に出力されているエラーメッセージの要因を対策後、このメッセージの後に出力されているエラーメッセージの対処に従って、案件の復帰又は再処理をしてください。

## KDWI3302-E

---

aaaa : メール受信リトライ回数が制限値を超えました。連携管理 ID : xxx

**要因**

環境定義のドメイン間連携メール送受信リトライ回数を超えました。

**連携管理 ID**

エラーが発生したメールの連携管理 ID が表示されます。

**対処**

このメッセージの前に出力されているエラーメッセージの要因を対策後、このメッセージの後に出力されているエラーメッセージの対処に従って、案件の復帰又は再処理をしてください。

## KDWI3305-E

---

aaaa : 要求メールの受信処理に失敗しました。

要因

要求メールを受信しましたが、その要求を完全に処理できませんでした。

対処

このメッセージの直前に出力されているメッセージの要因に従って対策した後、このメッセージの後に出力されているメッセージの対処に従って、案件を復帰又は再処理をしてください。

## KDWI3306-E

---

aaaa : 応答メールの受信処理に失敗しました。

要因

応答メールを受信しましたが、その処理を完全に処理できませんでした。

対処

このメッセージの直前に出力されているメッセージの要因に従って対策した後、送信エラー要求再処理コマンド (WFifrttry) で再処理してください。

## KDWI3307-E

---

aaaa : 受信メールが重複しています。連携管理 ID : xxx 要求番号 : xxx

要因

送信元で同じメールを複数回送信したため、同じメールを受信しました。

連携管理 ID

エラーが発生したメールの連携管理 ID が表示されます。

要求番号

エラーが発生したメールの要求番号が表示されます。

対処

必要ありません。

## KDWI3308-E

---

aaaa : 受信メール中のオペレーションデータが不正です。連携管理 ID :  
xxx 要求番号 : xxx オペレーション名 : xxx

### 要因

受信したメールの中の各処理を記述してあるデータが不正です。

#### 連携管理 ID

エラーが発生したメールの連携管理 ID が表示されます。

#### 要求番号

エラーが発生したメールの要求番号が表示されます。

#### オペレーション名

保守情報が表示されます。

### 対処

送信元の Groupmax Workflow Server - Connection のバージョンを確認してください。バージョンが正しい場合は、システム管理者に連絡してください。

## KDWI3309-E

---

aaaa : 作業用ファイルの作成又はアクセスに失敗しました。ファイル  
名 : xxx

### 要因

環境定義で指定したドメイン間連携作業ディレクトリの下のファイルの作成又はアクセスに失敗しました。

#### ファイル名

エラーが発生したファイルのファイル名が表示されます。

### 対処

環境定義で指定したドメイン間連携作業ディレクトリのディスク容量及びアクセス権限を確認してください。これらが正常な場合、直前に出力されている KDWI2353-E メッセージのエラーコード (オペレーティングシステムのエラー番号) に従ってエラー要因を取り除いた後、再起動してください。

## KDWI3310-E

---

aaaa : 連携開始要求のエラー応答を受信しました。連携管理 ID : xxx ビ  
ジネスプロセス定義名 : xxx ワーク ID : xxx

### 要因

連携先で何らかのエラーが発生し、そのエラー応答を受信しました。

連携管理 ID

エラーが発生した案件の連携管理 ID が表示されます。

ビジネスプロセス定義名

エラーが発生したビジネスプロセス定義名が表示されます。

ワーク ID

エラーが発生したワーク ID が表示されます。

対処

連携先のエラーの内容に従って対策した後、案件を復帰させてください。

## KDWI3311-E

---

aaaa : 連携終了要求のエラー応答を受信しました。連携管理 ID : xxx

要因

連携終了要求送信先で何らかのエラーが発生し、そのエラー応答を受信しました。

連携管理 ID

エラーが発生した案件の連携管理 ID が表示されます。

対処

連携終了要求送信先のエラーの内容に従って対策した後、案件を復帰させてください。

## KDWI3312-E

---

aaaa : 連携管理情報の解放に失敗しました。連携管理 ID : xxx

要因

連携終了後の連携管理情報の解放に失敗しました。

連携管理 ID

エラーが発生した案件の連携管理 ID が表示されます。

対処

このメッセージの直前に出力されているエラーメッセージの要因・対処に従って障害を取り除いた後、連携元で、連携情報解放要求 (stpc) を再送してください。

## KDWI3313-E

---

aaaa : プログラムエラーが発生しました。関数名 : xxx エラーコード :  
xxx 保守コード : xxx

### 要因

内部矛盾が発生し、プログラムエラーとなりました。

### 関数名

保守情報が表示されます。

### エラーコード

保守情報が表示されます。

### 保守コード

保守情報が表示されます。

### 対処

システム管理者に連絡してください。

## KDWI3314-E

---

aaaa : 情報の取得に失敗しました。

### 要因

コマンドを処理するために連携管理情報を取得しようとしたましたが、失敗しました。

### 対処

このメッセージの直前に出力されているエラーメッセージの要因・対処に従って障害を取り除いた後、コマンドを再度実行してください。

## KDWI3315-E

---

aaaa : 情報の出力に失敗しました。

### 要因

コマンドのパラメタに指定された出力ファイルへの情報出力に失敗しました。

### 対処

パラメタに指定した出力ファイルのディスク容量及びアクセス権限を確認してください。これらが問題ない場合、このメッセージの直前に出力されているエラーメッセージの要因・対処に従って障害を取り除いた後、コマンドを再度実行してください。

## KDWI3316-E

---

aaaa : 連携先ビジネスプロセス名が指定されていません。

要因

連携先ビジネスプロセス名が指定されていない連携開始要求を受け付けました。

対処

連携元のビジネスプロセス定義を見直して、連携先ビジネスプロセス名が指定されるようにしてください。その後、案件を復帰させるか再投入してください。

## KDWI3317-E

---

aaaa : 同一ファイル名の文書またはメモを持つ案件は連携できません。  
ファイル名 : xxx

要因

案件中に同じファイル名の文書又はメモを持つ案件の連携要求を受け付けました。

ファイル名

エラーが発生したファイルのファイル名が表示されます。

対処

連携元のビジネスプロセス定義を見直して、連携先ビジネスプロセス名が指定されるようにしてください。その後、案件を復帰させるか再投入してください。

## KDWI3318-E

---

aaaa : 連携先でメールが受信できませんでした。エラーコード : xxx 連携管理 ID : xxx

要因

連携元で送信したメールが連携先で解析できないため受信できませんでした。

エラーコード

保守情報が表示されます。

連携管理 ID

エラーが発生した案件の連携管理 ID が表示されます。

対処

連携元のビジネスプロセス定義を見直して、連携先ビジネスプロセス名が指定されるようにしてください。その後、案件を復帰させるか再投入してください。

## KDWI3319-E

---

aaaa : 送受信ログファイルの作成・オープンに失敗しました。エラーコード : xxx

### 要因

送受信ログファイルの作成かオープンができませんでした。

エラーコード

保守情報が表示されます。

### 対処

環境定義で指定したドメイン間連携送受信ログ出力ディレクトリのアクセス権限を確認してください。アクセス権限に問題がない場合、エラーコードに示されるオペレーションシステムのエラーコードの要因・対処に従って対処してください。

## KDWI3320-E

---

aaaa : 送受信ログファイルの待避に失敗しました。エラーコード : xxx

### 要因

送受信ログファイルの待避ができませんでした。

エラーコード

保守情報が表示されます。

### 対処

環境定義で指定したドメイン間連携送受信ログ出力ディレクトリのアクセス権限を確認してください。アクセス権限に問題がない場合、エラーコードに示されるオペレーションシステムのエラーコードの要因・対処に従って対処してください。

## KDWI3321-E

---

aaaa : 送受信ログデータの書き込みに失敗しました。エラーコード : xxx  
出力サイズ : xxx

### 要因

送受信ログデータを送受信ログファイルに書き込めませんでした。

エラーコード

保守情報が表示されます。

出力サイズ

送受信ログデータの容量が表示されます。

### 対処

環境定義で指定したドメイン間連携送受信ログ出力ディレクトリのディスク容量及びアクセス権限を確認してください。これらに問題がない場合、エラーコードに示されるオペレーションシステムのエラーコードの要因・対処に従って対処してください。

## KDWI3322-E

---

aaaa : 送受信ログの出力に失敗しました。連携管理 ID : xxx 要求番号 : xxx

### 要因

送受信ログの出力に失敗したため、ドメイン間連携機能を停止します。

#### 連携管理 ID

エラーが発生した連携管理 ID が表示されます。

#### 要求番号

エラーが発生した要求番号が表示されます。

### 対処

このメッセージの直前に出力されているエラーメッセージの要因・対処に従って障害を取り除いた後、再起動してください。

また、このメッセージに表示されている連携管理 ID・要求番号の要求は、送受信ログにない場合があるので、要求内容を確認して、必ず控えておいてください。

## KDWI3323-E

---

aaaa : メール処理期限を超えたメールを受信したため受信処理をスキップしました。連携元連携管理 ID : xxx 連携先連携管理 ID : xxx

### 要因

メールを受信しましたが、処理期限を超えていたためメールを処理しません。

#### 連携元連携管理 ID

エラーが発生した連携元連携管理 ID が表示されます。

#### 連携先連携管理 ID

エラーが発生した連携先連携管理 ID が表示されます。

### 対処

連携元に、連携元管理 ID のメールを再送してもらってください。また、このメッセージが多発する場合は、環境定義のメール処理期限及びメール通信環境を見直してください。

## KDWI3324-E

---

aaaa : 送信したメールは連携先のメール処理期限を超えていました。連携元連携管理 ID : xxx 連携先連携管理 ID : xxx

### 要因

送信したメールが連携先で処理期限を超えていたため処理されませんでした。

連携元連携管理 ID

エラーが発生したメールの連携元連携管理 ID が表示されます。

連携先連携管理 ID

エラーが発生したメールの連携先連携管理 ID が表示されます。

### 対処

連携元管理 ID のメールを再送してください。また、このメッセージが多発する場合は、メール通信環境を見直してください。

## KDWI3350-E

---

aaaa : 再度送信処理しました。要求種別 : xxx 連携管理 ID : xxx ビジネスプロセス定義名称 : xxx ワーク ID : xxx

### 要因

連携データ送信処理中に何らかのエラーが発生したため、再度送信処理要求しました。

要求種別

エラーが発生した案件の要求種別が表示されます。

連携管理 ID

エラーが発生した案件の連携管理 ID が表示されます。

ビジネスプロセス定義名称

エラーが発生した案件のビジネスプロセス定義名称が表示されます。

ワーク ID

エラーが発生した案件のワーク ID が表示されます。

### 対処

必要ありません。

## KDWI3351-E

---

aaaa : 送信を中止しました。要求種別 : xxx 連携管理 ID : xxx ビジネス  
プロセス定義名称 : xxx ワーク ID : xxx

### 要因

連携データ送信処理中に何らかのエラーが発生したため、再度送信処理要求しました。

### 要求種別

エラーが発生した案件の要求種別が表示されます。

### 連携管理 ID

エラーが発生した案件の連携管理 ID が表示されます。

### ビジネスプロセス定義名称

エラーが発生した案件のビジネスプロセス定義名称が表示されます。

### ワーク ID

エラーが発生した案件のワーク ID が表示されます。

### 対処

このメッセージの直前に出力されているメッセージの要因・対処に従って障害を取り除いた後、送受信エラー要求再処理コマンド (WFifrttry) で再処理要求してください。

## KDWI3352-E

---

aaaa : 送信要求をスキップしました。要求種別 : xxx 連携管理 ID : xxx  
ビジネスプロセス定義名称 : xxx ワーク ID : xxx

### 要因

連携データを送信しようとしたのですが、送信対象の案件が既に存在しないため、送信要求をスキップしました。

### 要求種別

エラーが発生した案件の要求種別が表示されます。

### 連携管理 ID

エラーが発生した案件の連携管理 ID が表示されます。

### ビジネスプロセス定義名称

エラーが発生した案件のビジネスプロセス定義名称が表示されます。

### ワーク ID

エラーが発生した案件のワーク ID が表示されます。

### 対処

必要ありません。

## KDWI3354-E

---

aaaa : 受信処理を中止しました。連携管理 ID : xxx

### 要因

連携データを受信処理中にエラーが発生したため、この要求の受信処理を中止しました。

### 連携管理 ID

エラーが発生した案件の連携管理 ID が表示されます。

### 対処

このメッセージの直前に出力されているエラーメッセージの要因・対処に従って障害を取り除いた後、送受信エラー要求再処理コマンド (WFiftrtry) で再処理要求してください。

## KDWI3355-E

---

aaaa : 受信メールをスキップしました。連携管理 ID : xxx

### 要因

受信済みのメールを受信したため、受信した要求をスキップしました。

### 連携管理 ID

エラーが発生した案件の連携管理 ID が表示されます。

### 対処

必要ありません。

## KDWI3356-E

---

aaaa : 案件をエラートレーに移動します。ビジネスプロセス定義名称 :  
xxx ワーク ID : xxx

### 要因

携案件の送受信処理でエラーが発生したため、案件をエラートレーに移動します。

### ビジネスプロセス定義名称

エラーが発生したビジネスプロセス定義名称が表示されます。

### ワーク ID

エラーが発生したワーク ID が表示されます。

## 対処

このメッセージの直前に出力されているエラーメッセージの要因・対処に従って障害を取り除いた後、Groupmax Workflow Monitor を使用してエラーとなった案件を復帰させてください。案件が復帰不可となっている場合は、案件をキャンセル又は削除後に再投入してください。

## KDWI3357-E

aaaa : 受信メールを不当メール格納ディレクトリへ移動します。

## 要因

ドメイン間連携機能で使用するメール以外のメールを受信したため、不当メール格納ディレクトリへメールを移動します。

## 対処

不当メール格納ディレクトリ下のファイルを確認してください。ドメイン間連携機能での対処は不要です。

## WFSV\_errno のコード

コード	要因	ユーザの処置
4004	オブジェクトは既にロックされています。	再度実行してください。
4010	サーバ機能が終了しているか、又はサーバ機能とのセッションが切れています。	サーバ機能が出力したメッセージを参照して障害の要因を取り除き、再度実行してください。又は、サーバ機能、マネージャ機能を再起動してください。
4011	サーバ機能が起動されていません。	サーバ機能を起動してください。
4041	ハードディスクに異常があります。	バックアップから回復した後、再度実行してください。
4059	メモリ不足が発生しました。	不要なプロセスを終了させて、再度実行してください。又は、メモリ所要量を見直してください。
4060	サーバ機能でメモリ不足が発生しました。	
4064	指定したオブジェクトがありませんでした。	サーバ機能が出力したメッセージを参照して障害の要因を取り除き、再度実行してください。
4066	資源不足のため、サーバ機能が処理を終了しました。	
4068	ディスク容量が不足したため、サーバ機能が処理を終了しました。	
4097	サーバ機能で続行できないエラーが発生しました。	

コード	要 因	ユーザの処置
4098	サーバ機能の環境設定に誤りがありました。	
4132 ~ 4134	指定された文書又はクラスは使用されています。	再度実行してください。
4180	ディスク容量が不足しました。	ディスク容量を見直して、再度実行してください。
5000	Groupmax Object Server でロックの取得に失敗しました。	再度実行してください。
5001	Groupmax Object Server で入出力エラーが発生しました。	直前に出力された Groupmax Object Server のメッセージを調査し、障害の原因を取り除いてください。
5002	Groupmax Object Server でディスク容量が不足しました。	ディスク容量を見直してください。
5003	Groupmax Object Server が起動されていません。	Groupmax Object Server を起動して、再度実行してください。
	Groupmax Object Server の環境変数が設定されていません。	Groupmax Object Server 環境変数の XODDIR, XODCONFPATH を設定してください。
5011	Groupmax Object Server の制限値を超えました。	不要なオブジェクトを削除してください。
5012	Groupmax Object Server でメモリ不足が発生しました。	不要なプロセスを終了させて、再度実行してください。又は、メモリ所要量を見直してください。
5019	データベース名称(スキーマ名)が不正です。	「2.4.3 Groupmax Workflow での環境設定」を参照して、サーバ機能環境を正しく初期化した後、再度実行してください。
5035	Groupmax Object Server でロックリソースが不足しています。	Groupmax Object Server のシステム共通定義ファイルの lck_limit の値を増やして、Groupmax Object Server を再起動した後、再度実行してください。
5037	Groupmax Object Server がワークフローオプションなしで起動されています。	ワークフローオプションを指定して Groupmax Object Server を起動し、再度実行してください。
上記以外	-	メッセージに Groupmax Object Server の詳細コードが出力されている場合、マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照して、原因を調査してください。また、必要に応じてシステム管理者に連絡してください。

( 凡例 )

- : 該当しません。

## UA-API のエラーコード

コード	要 因	ユーザの処置
10002	メモリが不足しています。	不要なプロセスを終了させるか、又はスワップ領域を増やした後、マルチサーバ機能を再起動してください。
10003 10004 10005 10007 30005 30006 30007 30010 40002	メールのデータが不完全です。	システムで自動的に不完全データを削除します。業務終了時、Groupmax Mail のサイトを終了し、自サーバの Workflow メールユーザに対して X400_MAIL_SYNC コマンドを実行してください。X400_MAIL_SYNC コマンドの詳細については、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド 基本操作編」を参照してください。
10009	Groupmax Mail の共有メモリエラーが発生しました。	Groupmax Mail の共有メモリを見直した後、マルチサーバ機能を再起動してください。
10010	Groupmax Mail のセマフォエラーが発生しました。	Groupmax Mail の環境を見直した後、マルチサーバ機能を再起動してください。
30002	窓口名定義ファイルに指定されている OR 名が不正です。	OR 名を見直した後、マルチサーバ機能を再起動してください。
30004 40001	データベースでエラーが発生しました。	Groupmax Mail のデータベース環境を見直した後、メッセージ送信機能 (WFsend_dm Function) 及びメッセージ受信機能 (WFreceive_dm Function) を再起動してください。
30010	メールのデータが不正です。	Groupmax Mail のサイトを終了し、自サーバの Workflow メールユーザに対して X400_MAIL_SYNC コマンドを実行してください。その後、Groupmax Workflow Multi-Server の各サービスを再起動してください。X400_MAIL_SYNC コマンドの詳細については、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド 基本操作編」を参照してください。
30012	環境設定時に設定した Workflow システム組織下で、自サーバをメールサーバとするメールユーザの OR 名が不正です。	OR 名を見直した後、マルチサーバ機能を再起動してください。
30026	Workflow メールユーザが閉塞中です。	Workflow メールユーザの閉塞を解除後、メッセージ送信機能 (WFsend_dm Function) 及びメッセージ受信機能 (WFreceive_dm Function) を再起動してください。
30101	環境設定時に設定した Workflow システム組織下で、自サーバをメールサーバとするメールユーザが他で使用中です。	ユーザ識別子の使用を中止した後、マルチサーバ機能を再起動してください。

コード	要 因	ユーザの処置
30103	セマフォ ID がありません。	Groupmax Mail が起動していないおそれがあります。Groupmax Mail を起動した後、マルチサーバ機能を再起動してください。
30104	Groupmax Mail の共有メモリが不足しています。	Groupmax Mail の共有メモリを見直した後、マルチサーバ機能を再起動してください。
30105	メール環境をバックアップ中です。	バックアップが終了後、メッセージ送信機能 (WFsend_dm Function) 及びメッセージ受信機能 (WFreceive_dm Function) を再起動してください。
40001	データベースでエラーが発生しました。	Groupmax Mail のデータベース環境を見直した後、マルチサーバ機能を再起動してください。
40002	UA-API 名で SnxuaLogin の場合は、窓口名ファイルに MYNAME を指定しているユーザ ID がサーバ内にありません。	ユーザ ID がサーバ内の Groupmax Mail に登録されているか見直した後、マルチサーバ機能を再起動してください。
-99997	Groupmax Mail が正しくインストールされていません。	Groupmax Mail の環境を見直した後、マルチサーバ機能を再起動してください。なお、Groupmax Mail の環境を見直す場合は、Groupmax Mail の管理者に相談してください。
-99998		
-99999		
-1	-	Groupmax Mail のデータベース環境を見直した後、マルチサーバ機能を再起動してください。
0	関数名が SnxuaFetchSmail の場合、Groupmax Server - Scan でエラーが発生しました。関数名がその他の場合、メールデータが不正です。	関数名が SnxuaFetchSmail の場合、Groupmax Server - Scan の環境を見直してください。関数名がその他の場合、30010 と同様です。
上記以外	-	メッセージに Groupmax Object Server の詳細コードが出力されている場合、マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照して、原因を調査してください。また、必要に応じてシステム管理者に連絡してください。

( 凡例 )

- : 該当しません。

## WF-API 及び IS-API のエラーコード

コード	要 因	ユーザの処置
10042	サーバがユティリティなどで占有されています。	時間を置いて、再度実行してください。
10540	TCP/IP のソケットが不足しています。	TCP/IP を使ったアプリケーションプログラムを終了してから再度実行してください。
10550	次に示す要因のため、クライアントが終了しました。 1. 通信障害が発生し、サーバとの接続が切れたため 2. サーバが異常終了したため	要因 1. の場合、通信の設定を確認して接続障害の要因を取り除き、再起動してください。要因 2. の場合、サーバに出力されるメッセージを確認して障害を取り除き、再起動してください。
11010	データベースシステムでの限界値を超えました。	再起動してください。
13210	作成できるリストの数が限界値を超えました。	再起動してください。
14510	作成できるオブジェクトの上限値を超えたため、処理できません。	再起動してください。
15010	サーバに障害が発生しました。	サーバに出力されるメッセージを確認して障害を取り除き、再起動してください。
15020		
15030	サービス名が登録されていないため、処理を中止しました。	サービス名を登録して、再度実行してください。
13660	サーバの資源が不足しているため処理を中止しました。	サーバに出力されるメッセージを確認してください。さらに、サーバの資源を確保して、再度実行してください。
上記以外	-	システム管理者に連絡してください。

(凡例)

- : 該当しません。

## 付録 E ディスク占有量の計算式

### 付録 E.1 ワークフローデータベースのディスク占有量

ワークフローデータベースのディスク占有量の計算式を次に示します。

#### (1) ディスク占有量算出時の注意

ここでは、計算式に関する注意事項について説明します。

- 計算式中の「S」は Groupmax Object Server の初期設定パラメタファイルで指定したセグメントサイズです。セグメントは、Groupmax Object Server でのファイルの割り当て及び増分の単位で、ページという単位で指定されます。1 ページのページ長は 8,192 バイトです。  
     , 1, 2... の値がセグメントサイズより大きくなると、ファイルが増分されます。初期設定パラメタファイルについては、マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。
- ファイル増分の単位は、セグメントサイズですが、セグメントサイズが 128 以下の場合は無条件に 1 メガバイト増分します。  
     セグメントサイズが 128 以下のディスク占有量については、計算値より実測値の方が大きくなる場合がありますので注意してください。
- 次に示す場合は、データの削除をしてもその領域が再利用されないことがあります。その場合は、削除するデータの数も含めて計算してください。ただし、1 ページ内の全データを削除すれば再利用されます。
  - ファイル増分の発生後で、増分前の領域に格納しているデータを削除する場合
  - 削除データのページ (8,192 バイト) 内に他のデータがある場合
- ディスク占有量の見積もりのときは、余裕をもって見積もってください。  
     データを削除した領域を効率良く再利用するためには、データベースを適切な配置に再編成し、データベースのスペース効率を最適にする必要があります。データベースの再編成には、Groupmax Object Server の [データベースの再編成ユティリティ] を使用します。データベースのスペース効率を最適にするために、定期的にデータベースを再編成してください。  
     また、データベースを再編成する場合は、必ず、あらかじめデータベースのバックアップを取得してください。  
     データベースの再編成ユティリティについては、マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。

#### (2) マスタディレクトリエリア

master (単位: メガバイト)

1.5

(3) データディレクトリエリア

datadir (単位:メガバイト)  
1

(4) デイクシヨナリエリア

dictionary (単位:メガバイト)  
2.7

(5) oid インデクスエリア

oidindex (単位:キロバイト)

$$\left\{ 9 + \uparrow \frac{\alpha}{S} \uparrow \times S + \left[ \frac{\uparrow \frac{\alpha}{S} \uparrow}{8120} \right] \downarrow \left[ 40 + \uparrow \frac{S}{32} \uparrow \times 12 \right] \right\} \times 8.192$$

の求め方を次に示します。

$$\alpha = \sum_{i=1}^n P_i$$

これは漸化式を解く計算式で、次の計算式で  $P_1$  を求め、 $P_{n+1} = 1$  になるまで  $P_{i+1}$  の計算式を繰り返します。

$$P_i = \uparrow \frac{498 + Cd}{141} \uparrow$$

$$P_{i+1} = \uparrow \frac{P_i}{284} \uparrow$$

Cd

総オブジェクト数 (削除した数も含む)

(=  $B \times (20 + N \times 4) + R \times 26 + U \times 16 + W \times 4 + A \times 11 + D \times 9 + M \times 3 + 30$ )

B

総ビジネスプロセス定義数

(ワークフロー管理サーバの場合) = システム内の全ビジネスプロセス定義数

(ワークフロー管理サーバ以外の場合) = サーバ内のビジネスプロセス定義数

R

総ロール数

(ワークフロー管理サーバの場合) = システム内の全ロール数

(ワークフロー管理サーバ以外の場合) = サーバ内のロール数

- N  
ビジネスプロセス定義内のノード数 (平均値)
- U  
そのサーバをホームサーバにする総ユーザ数
- W  
総ワーク数
- A  
総案件数
- D  
総文書数
- M  
総メモ数

備考

初期割り当て量が 2 以上の場合, Groupmax Workflow Server の初期化直後のディスク占有量は, 次に見積もり式を参考にしてください。  
 $(10 + S \times \text{初期割り当て量}) \times 8.192$  (単位: キロバイト)

(6) ユーザデータベースエリア

WF\_is\_system (単位: メガバイト)

1.5

WF\_is\_class (単位: キロバイト)

$$\left\{ 7 + A \times S + \left( \frac{\frac{A}{S}}{8120} \right) \left( 40 + \frac{S}{32} \times 12 \right) \right\} \times 8.192$$

$$A = 1 + \frac{\alpha_1}{S} \times 3 + \frac{\alpha_2}{S}$$

$$\alpha_1 = \frac{B}{25} \quad \alpha_2 = \frac{D}{25}$$

B  
全ビジネスプロセス定義数

D  
最大文書数と最大メモ数の和

WF\_is\_string (単位: キロバイト)

$$\left\{ 7+A \times S + \left( \frac{\frac{A}{S}}{40 + \frac{S}{32} \times 12} \right) \right\} \times 8.192$$

$$A = 3 + 3 \times \left( \frac{\alpha_1}{S} + \frac{\alpha_2}{S} + \frac{\alpha_3}{S} + \frac{\alpha_4}{S} \right) + \frac{\alpha_5}{S} + \frac{\alpha_6}{S} + \frac{\alpha_7}{S} + \frac{\alpha_8}{S}$$

$$\alpha_1 = \frac{B}{112} \quad \alpha_2 = \frac{B}{24} \quad \alpha_3 = \frac{B}{140} \quad \alpha_4 = \frac{B}{160}$$

$$\alpha_5 = \frac{D}{112} \quad \alpha_6 = \frac{D}{24} \quad \alpha_7 = \frac{D}{140} \quad \alpha_8 = \frac{D}{160}$$

B

全ビジネスプロセス定義数

D

最大文書数と最大メモ数の和

WF\_manager\_area (単位：キロバイト)

$$\left\{ 7+A \times S + \left( \frac{\frac{A}{S}}{40 + \frac{S}{32} \times 12} \right) \right\} \times 8.192$$

$$A = \frac{2}{S} + \frac{\alpha}{S}$$

$$\alpha = \left( 1 + \frac{6 + 2 \times \frac{C}{80}}{3} \right) \times 1.1$$

C

送付待ち案件数 (マネージャのスリープ間隔中にユーザが送付する案件数と同じです)

WF\_bp\_area (単位：キロバイト)

$$\left\{ 7+A \times S + \frac{\frac{A}{S}}{40 + \frac{S}{32} \times 12} \right\} \times 8.192$$

$$A = \frac{\alpha}{S}$$

$$\alpha = \left( \frac{B}{10} + \frac{B}{78} + \frac{B}{44} + \frac{B \times \frac{N}{10}}{3} + \frac{B \times \frac{T}{10}}{59} + \frac{B \times \frac{W}{128}}{7} + \frac{B \times 3}{58} + \frac{1}{46} \times (B \times 2 \times \left( \frac{R+1}{10} + \frac{U+1}{10} + \frac{K+1}{10} + \frac{U2+1}{10} + \frac{U3+1}{10} + \frac{U4+1}{10} \right) + 2 \right) + \frac{B}{27} \right) \times 1.1$$

B

ビジネスプロセス定義数

N

ビジネスプロセス定義内のノード数 (平均値)

T

ビジネスプロセス定義内のケース定義数 (平均値)

W

ビジネスプロセス定義内のワーク数 (平均値)

R

ビジネスプロセス定義内のロール数 (平均値)

U

ビジネスプロセス定義内のノードに割り当てたユーザ数 (平均値)

(02-10 より前のバージョンのビジネスプロセス定義の場合にだけ対象となります。)

U2

ビジネスプロセス定義当たりの BP 管理者数 (平均値)

U3

ビジネスプロセス定義当たりの BP 配布権限者数 (平均値)

U4

ビジネスプロセス定義当たりの BP 参照権限者数 (平均値)

K

ビジネスプロセス定義当たりの自動配布キー数 (平均値)

備考

平均値 = 0 の場合, 1 で計算してください。

WF\_work\_area (単位: キロバイト)

$$\left\{ 7 + A \times S + \left( \frac{\frac{A}{S}}{8120} \right) \left( 40 + \frac{S}{32} \times 12 \right) \right\} \times 8.192$$

$$A = \frac{\alpha}{S}$$

$$\alpha = \left( \frac{W}{21} + \frac{W \times \frac{C}{16}}{44} + \frac{W \times \frac{H}{10}}{6} + \frac{W \times \frac{R}{8}}{10} \right) \times 1.1$$

W

最大ワーク数

C

ワーク内のケース数 (平均値)

H

ワーク内のヒストリ数 (平均値)

R

ワーク内のロール数 (平均値)

備考

平均値 = 0 の場合, 1 で計算してください。

WF\_case\_area (単位: キロバイト)

$$\left\{ 7 + A \times S + \frac{\frac{A}{S}}{40 + \frac{S}{32} \times 12} \times 8120 \right\} \times 8.192$$

$$A = \frac{\alpha}{S}$$

$$\alpha = \left( \frac{C}{7} + \frac{C}{21} \times 2 + \frac{C \times \frac{M}{1}}{11} + \frac{C \times \frac{D}{5}}{21} + \frac{C \times \frac{K}{10}}{59} + \frac{C \times \frac{F}{10}}{21} + \frac{C \times \frac{E}{1}}{67} + \frac{C}{97} \right) \times 1.1$$

C

全ケース数

M

ケース内のメモ数 (平均値)

D

ケース内の文書数 (平均値)

K

ケース内の下位ケース数 (平均値)

F

ケース内の相談件数 (平均値)

E

ケース内の拡張ユーザ属性数 (平均値)

ケース内の拡張ユーザ属性数 (平均値) とは、ケース内に設定する属性の中で、最多に設定するデータ型の属性数が 6 個以上ある場合の、5 個を超えた数です (例えば、文字型の属性が 9 個、整数型の属性が 6 個の場合、4 を設定してください)。

備考

平均値 = 0 の場合、1 で計算してください。

WF\_role\_area (単位: キロバイト)

$$\left\{ 7 + A \times S + \left( \frac{\frac{A}{S}}{8120} \right) \times 12 \right\} \times 8.192$$

$$A = \frac{\alpha}{S}$$

$$\alpha = \left( \frac{R}{15} + \frac{R \times \frac{C}{128}}{7} + \frac{R \times U}{70} + \frac{R \times C}{70} + \frac{R \times \left( \frac{K+1}{10} + \frac{U2+1}{10} + \frac{U3+1}{10} + \frac{R2+1}{10} \right)}{46} + \frac{R}{27} \right) \times 1.1$$

R

ロール数

C

ロールトレーの案件数（平均値）

U

業務ロール内のユーザ数（平均値）

R2

階層化ロールに含まれるロール数

U2

ロール配布権限を与えたユーザ数（平均値）

U3

ロール更新権限を与えたユーザ数（平均値）

K

ロール定義当たりの自動配布キー数（平均値）

備考

平均値 = 0 の場合，1 で計算してください。

WF\_user\_area（単位：キロバイト）

$$\left\{ 7 + A \times S + \left( \frac{\frac{A}{S}}{40 + \frac{S}{32} \times 12} \times 8120 \right) \right\} \times 8.192$$

$$A = \frac{\alpha}{S}$$

$$\alpha = \left( \frac{U}{9} + \frac{U \times \frac{C}{128}}{7} + \frac{U \times \frac{H}{10}}{6} + \frac{U \times 3}{30} + \frac{U \times (2 \times (\frac{R+1}{10} + \frac{B+1}{10}) + \frac{K+1}{10} + 1)}{46} + \frac{U}{27} \right) \times 1.1$$

U

そのサーバをホームサーバにするユーザ数

C

ユーザトレイの案件数 (平均値)

H

ユーザの作業履歴数 (平均値)

R

ユーザが割り当てられているロール数 (平均値)

B

ユーザが割り当てられているビジネスプロセス定義数 (平均値)  
(02-10 より前のバージョンのビジネスプロセス定義の場合にだけ対象となります。)

K

代行者を持つユーザ数 (平均値)

備考

平均値 = 0 の場合, 1 で計算してください。

WF\_op\_list\_area (単位: キロバイト)

$$\left\{ 7+A \times S + \left( \frac{\frac{A}{S}}{8120} \right) \left( 40 + \frac{S}{32} \times 12 \right) \right\} \times 8.192$$

$$A = \frac{\alpha}{S}$$

$$\alpha = \left( \frac{L}{37} + \frac{L \times \frac{W}{5}}{3} \right) \times 1.1$$

L

全ビジネスプロセス数  
 全ユーザ処理リスト =  $\sum$  そのビジネスプロセス定義で  
 指定された処理ノードの数  
 (シンクノードは除く)

W

処理ノードで指定するユーザ処理リスト内作業数(平均値)

備考

平均値 = 0 の場合, 1 で計算してください。

WF\_case\_inf\_area (単位: キロバイト)

$$\left\{ 7+A \times S + \left( \frac{\frac{A}{S}}{8120} \right) \left( 40 + \frac{S}{32} \times 12 \right) \right\} \times 8.192$$

$$A = \frac{\alpha}{S}$$

$$\alpha = \left( \frac{T}{33} + \frac{T}{44} + \frac{T \times \frac{C}{5}}{15} \right) \times 1.1$$

T

全ビジネスプロセス数  
 全ケース定義数 =  $\sum$  そのビジネスプロセス定義で  
 設定されたケース定義数

C

ケース内の属性数 (平均値)

備考

平均値 = 0 の場合, 1 で計算してください。

WF\_counter\_area (単位: キロバイト)

$$\left\{ 7 + A \times S + \left( \frac{\frac{A}{S}}{8120} \right) \times 40 + \left( \frac{S}{32} \right) \times 12 \right\} \times 8.192$$

$$A = \frac{\alpha}{S}$$

$$\alpha = \left( \frac{U}{52} + \frac{U \times \frac{N}{11}}{5} \right) \times 1.1$$

U

全ユーザ数 (system を含む)

N

ユーザが案件を処理したノード数 (平均値)

備考

平均値 = 0 の場合, 1 で計算してください。

WF\_class\_lock\_area (単位: キロバイト)

$$(8 + S) \times 8.192$$

WF\_send\_area (単位: キロバイト)

$$\left\{ 7 + A \times S + \frac{\frac{A}{S} \times 8120}{40 + \frac{S}{32} \times 12} \right\} \times 8.192$$

$$A = \frac{\alpha}{S}$$

$$\alpha = (2 + \alpha 1 + \alpha 2 + \alpha 3 + \alpha 4 + \alpha 5) \times 1.1$$

$$\alpha 1 = \frac{2 \times \frac{C1}{5} + 2}{3}$$

$$\alpha 2 = \frac{3 \times C2 + 1}{14}$$

$$\alpha 3 = \frac{3 \times \frac{C3 \times \frac{D}{1440}}{5}}{3}$$

$$\alpha 4 = \frac{16 \times C4 \times \frac{D}{1440}}{55}$$

$$\alpha 5 = \frac{C4 \times \frac{D}{1440} \times \frac{CA1 + CA2}{15}}{4}$$

C1

V1 のビジネスプロセス定義で他のビジネスプロセスで処理中の案件数 (平均値)

C2

(そのサーバをビジネスプロセス登録サーバとするビジネスプロセス定義での、他のサーバで処理中の案件数 (平均値)) + (そのサーバに配布されたビジネスプロセス定義で処理中の案件数 (平均値))

C3

ドメイン間連携する案件数 (平均値)

C4

ドメイン間連携中の最大案件数

CA1

ドメイン間連携で引き継ぐケース属性数  
文書を引き継ぐ場合, 1 を加算

CA2

ドメイン間連携で受け取るケース属性数

文書を受け取る場合、1 を加算

D

ドメイン間連携管理情報最大保存期間

備考

平均値 = 0 の場合、1 で計算してください。

WF\_case\_add\_area (単位：キロバイト)

$$\left\{ 7 + A \times S + \left( \frac{\frac{A}{S}}{40 + \frac{S}{32} \times 12} \right) \right\} \times 8.192$$

$$A = \frac{\alpha}{S}$$

$$\alpha = \left( \frac{C}{14} + \frac{C \times L}{24} \right) \times 1.1$$

C

階層連携ビジネスプロセスの最大ケース数

L

階層連携ビジネスプロセスの案件を処理したユーザ数 (平均値)

備考

平均値 = 0 の場合、1 で計算してください。

WF\_auto\_deliver\_area (単位：キロバイト)

$$\left\{ 7 + A \times S + \left( \frac{\frac{A}{S}}{40 + \frac{S}{32} \times 12} \right) \right\} \times 8.192$$

$$A = \frac{\alpha}{S}$$

$$\alpha = \left( \frac{K}{36} + \frac{U \times K}{42} + \frac{K}{10} \times 2 + \frac{K \times 2 \times \left( \frac{B+1}{10} + 1 \right)}{46} + \frac{K}{27} \right) \times 1.1$$

K

自動配布キーの総数

$$K = P \times \text{ロール定義数}$$

P

ロール定義当たりの自動配布キー数 (平均値)

U

自動配布キー当たりのユーザ数 (平均値)

B

自動配布キー当たりのビジネスプロセス定義数 (平均値)

備考

平均値 = 0 の場合, 1 で計算してください。

WF\_data\_obj\_area (単位: キロバイト)

$$\left\{ 7 + A \times S + \left( \frac{\frac{A}{S}}{8120} \times \left( 40 + \frac{S}{32} \times 12 \right) \right) \right\} \times 8.192$$

$$A = \frac{\alpha}{S}$$

$$\alpha = \frac{(D \times 1024 + 189) \times N}{8120} \times 1.1$$

N

全メモ数

D

メモサイズ (平均値)

備考

平均値 = 0 の場合, 1 で計算してください。

WF\_relation\_area (単位: キロバイト)

$$\left\{ 7+A \times S + \left( \frac{\frac{A}{S}}{8120} \right) \left( 40 + \frac{S}{32} \times 12 \right) \right\} \times 8.192$$

$$A = \frac{\alpha_1}{S} + \frac{\alpha_2}{S} + \frac{\alpha_3}{S} + \frac{\alpha_4}{S} + \frac{\alpha_5}{S} + \frac{\alpha_6}{S} + \frac{\alpha_7}{S} + \frac{\alpha_8}{S} + \frac{\alpha_9}{S}$$

$$\alpha_1 = \frac{B+R}{339} \times 3.3 \quad \alpha_2 = \frac{R+U}{339} \times 3.3 \quad \alpha_3 = \frac{B+U}{339} \times 4.4$$

$$\alpha_4 = \frac{U+U}{339} \times 1.1 \quad \alpha_5 = \frac{B+K}{339} \times 1.1 \quad \alpha_6 = \frac{K+R}{339} \times 1.1$$

$$\alpha_7 = \frac{R2}{339} \times 1.1 \quad \alpha_8 = \frac{R3}{339} \times 1.1 \quad \alpha_9 = \frac{R4+R2}{339} \times 1.1$$

B

ビジネスプロセス定義数

R

ロール数

R2

組織ロール数

R3

そのサーバをロール登録サーバとする組織ロール数

R4

階層化ロール数

U

そのサーバをホームサーバにするユーザ数

K

自動配布キーの総数

WF\_mb\_master\_bp\_manager\_area (単位：キロバイト)

$$\left\{ 7+A \times S + \frac{\frac{A}{S}}{40 + \frac{S}{32} \times 12} \times 8120 \right\} \times 8.192$$

$$A = \frac{\alpha}{S}$$

$$\alpha = \left( \frac{B}{20} \right) \times 1.1$$

B

ビジネスプロセス定義数

WF\_db\_bp\_distribution\_area (単位：キロバイト)

$$\left\{ 7+A \times S + \frac{\frac{A}{S}}{40 + \frac{S}{32} \times 12} \times 8120 \right\} \times 8.192$$

$$A = \frac{\alpha}{S}$$

$$\alpha = \left( \frac{B}{33} + \frac{B \times 2}{9} \right) \times 1.1$$

B

ビジネスプロセス定義数

WF\_dr\_role\_distribution\_area (単位：キロバイト)

- ワークフロー管理サーバの場合

$$\left\{ 7 + A \times S + \left( \frac{\frac{A}{S}}{40 + \frac{S}{32} \times 12} \times 8120 \right) \right\} \times 8.192$$

$$A = \frac{\alpha}{S}$$

$$\alpha = \left( \frac{R}{33} + \frac{R \times 2}{9} \right) \times 1.1$$

R

ロール数

- ワークフロー管理サーバ以外の場合  
73.728

WF\_oa\_operation\_auth\_area (単位：キロバイト)

$$\left\{ 7 + A \times S + \left( \frac{\frac{A}{S}}{40 + \frac{S}{32} \times 12} \times 8120 \right) \right\} \times 8.192$$

$$A = \frac{\alpha}{S}$$

$$\alpha = \left( \frac{B \times N}{56} + \frac{B \times N \times 3}{44} \right) \times 1.1$$

B

ビジネスプロセス定義数

N

ビジネスプロセス定義内のノード数 (平均値)

備考

平均値 = 0 の場合, 1 で計算してください。

WF\_or\_role\_manager\_area (単位：キロバイト)

$$\left\{ 7 + A \times S + \frac{\frac{A}{S}}{8120} \times \left( 40 + \frac{S}{32} \times 12 \right) \right\} \times 8.192$$

$$A = \frac{\alpha}{S}$$

$$\alpha = \left( 2 + \frac{2 \times \left( \frac{R+1}{10} + \frac{R2+1}{10} + \frac{B1+1}{10} + \frac{B2+1}{10} \right)}{46} \right) \times 1.1$$

B1

ソースノードにユーザを割り当てたビジネスプロセス定義数

B2

ノードにユーザを割り当てたビジネスプロセス定義数

R

組織ロール数

R2

そのサーバをロール登録サーバとする組織ロール数

備考

値 = 0 の場合, 1 で計算してください。

WF\_ua\_user\_auth\_area (単位: キロバイト)

- ワークフロー管理サーバの場合

$$\left\{ 7 + A \times S + \left( \frac{\frac{A}{S}}{40 + \frac{S}{32} \times 12} \right) \times 8.192 \right\}$$

$$A = \frac{\alpha}{S}$$

$$\alpha = \left( \frac{U}{45} + \frac{U}{59} + \right.$$

$$\left. \frac{U \times 2 \times \left( \frac{B1+1}{10} + \frac{B2+1}{10} + \frac{B3+1}{10} + \frac{R1+1}{10} + \frac{R2+1}{10} \right)}{46} \right) +$$

$$\left( \frac{U1 + U2 + U3 + U4 + U5}{27} \right) \times 1.1$$

U

ドメイン管理者，ワークフロー運用管理者，ビジネスプロセス管理者であるか又はビジネスプロセス定義に参照権限を持つユーザの数

B1

Uのユーザ当たりのビジネスプロセス管理者に指定されているビジネスプロセス数（平均値）

U1

ビジネスプロセス管理者数

B2

Uのユーザ当たりのビジネスプロセス配布権限を持つビジネスプロセス数（平均値）

U2

ビジネスプロセス配布権限を持つユーザ数

B3

Uのユーザ当たりの参照権限を持つビジネスプロセス数（平均値）

U3

ビジネスプロセス定義の参照権限を持つユーザ数

R1

ユーザ当たりのロール配布権限を持つロール数（平均値）

U4

ロール配布権限を持つユーザ数

R2

ユーザ当たりのロール更新権限を持つロール数 (平均値)

U5

ロール更新権限を持つユーザ数

- ワークフロー管理サーバ以外の場合  
73.728

備考

平均値 = 0 の場合, 1 で計算してください。

### (7) インデクスエリア

WF\_index\_area (単位: キロバイト)

注

次の計算式で使用するワーク, ユーザ, ロール及びビジネスプロセスの数には, データベースを再編成するまでに削除した数を含みます。特に, ワークの数の場合は, Groupmax Object Server のデータベースの再編成を実施してから, 次に再編成を実施するまでの間に, ワーク削除ユーティリティで削除したワーク数を含めた総数で見積もってください。

$$\left\{ 9 + \sum_{i=1}^7 \frac{\alpha_i}{S} \times S + \left\{ \frac{\sum_{i=1}^7 \frac{\alpha_i}{S}}{8120} \right\} \left\{ \frac{8120}{40 + \frac{S}{32} \times 12} \right\} \right\} \times 8.192$$

$\alpha_i$  の求め方を次に示します。

$$\alpha_i = \left( \sum_{j=1}^n P_j + PD \right) \times 1.1$$

これは漸化式を解く計算式で, 次の計算式で  $P_1$  を求め,  $P_{n+1}=1$  になるまで  $P_{j+1}$  の計算式を繰り返します。

$$P_1 = \left\{ \frac{C}{5662} \right\} \left\{ \frac{5662}{84 + \frac{14 \times D}{4} \times 4} \right\} + \frac{E}{70}$$

$$P_{j+1} = \frac{P_j}{75} \quad PD = \left( \frac{F}{549} + 1 \right) \times E$$

C

ワーク ID の重複が 200 個以下のワーク ID の種類の数

D

ワーク ID の重複が 200 個以下のワーク ID の平均重複数

E

ワーク ID の重複が 201 個以上のワーク ID の種類の数

F

ワーク ID の重複が 201 個以上のワーク ID の平均重複数

(ワーク ID がユニークな場合, C = ワーク数, D = 1, E = F = 0 になります)

<sub>2</sub> の計算式を次に示します。

$$P_1 = \left( \frac{K}{\frac{5662}{24 + \frac{14 \times L}{4} \times 4}} \right) + \left( \frac{M}{283} \right)$$

$$P_{j+1} = \left( \frac{P_j}{354} \right) \quad PD = \left( \frac{N}{549} + 1 \right) \times M$$

K

ワークの処理期限の重複が 200 個以下のワークの処理期限の種類の数

L

ワークの処理期限の重複が 200 個以下のワークの処理期限の平均重複数

M

ワークの処理期限の重複が 201 個以上のワークの処理期限の種類の数

N

ワークの処理期限の重複が 201 個以上のワークの処理期限の平均重複数

<sub>3</sub> の計算式を次に示します。

$$P_1 = \left( \frac{W}{5662} \right) \left( 24 + \frac{14 \times X}{4} \times 4 \right) + \frac{Y}{283}$$

$$P_{j+1} = \frac{P_j}{354} \quad PD = \left( \frac{Z}{549} + 1 \right) \times Y$$

W

ワークの遷移状態の重複が 200 個以下のワークの遷移状態の種類の数

X

ワークの遷移状態の重複が 200 個以下のワークの遷移状態の平均重複数

Y

ワークの遷移状態の重複が 201 個以上のワークの遷移状態の種類の数

Z

ワークの遷移状態の重複が 201 個以上のワークの遷移状態の平均重複数

<sub>4</sub> の計算式を次に示します。

$$P_1 = \frac{U}{128} \quad P_{j+1} = \frac{P_j}{284}$$

$$PD = 0$$

U

そのサーバをホームサーバとする総ユーザ数

<sub>5</sub> の計算式を次に示します。

$$P_1 = \left( \frac{B1}{5662} \right) \left( 84 + \frac{14 \times B2}{4} \times 4 \right) + \frac{B3}{70}$$

$$P_{j+1} = \frac{P_j}{75} \quad PD = \left( \frac{B4}{549} + 1 \right) \times B3$$

B1

そのサーバに登録されているビジネスプロセス名称の重複が 200 個以下のビジネスプロセスの種類の数

B2

そのサーバに登録されているビジネスプロセス名称の重複が 200 個以下のビジネスプロセスの平均重複数

B3

そのサーバに登録されているビジネスプロセス名称の重複が 201 個以上のビジネスプロセスの種類の数

B4

そのサーバに登録されているビジネスプロセス名称の重複が 201 個以上のビジネスプロセスの平均重複数

<sub>6</sub> の計算式を次に示します。

$$P_1 = \left\lceil \frac{R}{56} \right\rceil \quad P_{j+1} = \left\lceil \frac{P_j}{75} \right\rceil$$

$$PD = 0$$

R

そのサーバに登録されている総ロール数

<sub>7</sub> の計算式を次に示します。

$$P_1 = \left\lceil \frac{R}{141} \right\rceil \quad P_{j+1} = \left\lceil \frac{P_j}{354} \right\rceil$$

$$PD = 0$$

R

そのサーバに登録されている総ロール数

<sub>8</sub> の計算式を次に示します。

$$P_1 = \left\lceil \frac{K}{56} \right\rceil \quad P_{j+1} = \left\lceil \frac{P_j}{74} \right\rceil$$

$$PD = 0$$

K

ドメイン間連携中の最大案件数 (ドメイン間連携機能により投入された案件数を含む)

## 付録 E.2 Groupmax High-end Object Server を使用するときのシステムジャーナル容量

Groupmax High-end Object Server 上で Groupmax Workflow Server を使用する場合、Groupmax High-end Object Server のシステムジャーナル容量に Groupmax Workflow Server の動作によるジャーナル出力を加算する必要があります。

次の見積もり式によって、システムジャーナル運用期間 (システムジャーナルをアンロードする間隔) 中の Groupmax Workflow Server の全動作についてのシステムジャーナル出力量を合算し、その 1.5 倍を容量に追加してください。

### (1) Groupmax Workflow Server の初期設定 (WFinitmgr)

ジャーナルサイズ (単位: キロバイト)  
3000

### (2) BP 定義の登録

パラメタ  
n

↑ノード数↑  
10

ジャーナルサイズ (単位: キロバイト)  
 $8 + 4 \times n$

### (3) ロールの作成

ジャーナルサイズ (単位: キロバイト)  
8

### (4) ユーザの作成

ジャーナルサイズ (単位: キロバイト)  
32

### (5) 終了ワークの一括削除 (WFdelwork)

パラメタ  
j  
削除対象ワーク数  
k

平均案件数 / ワーク

m

平均文書数 / 案件

n

平均メモ数 / 案件

ジャーナルサイズ (単位: キロバイト)

$$(36 \times j) + (4 \times j \times k) + (4 \times j \times k \times m) + (4 \times j \times k \times n)$$

## (6) 案件の発信

パラメタ

j

案件数

k

定義するユーザ属性数

m

追加文書数

n

追加メモ数

ジャーナルサイズ (単位: キロバイト)

$$\sum_{i=1}^j (24 + 4 \times (\frac{k}{5+m+n}))$$

## (7) 案件の処理

パラメタ

n

設定するユーザ属性数

ジャーナルサイズ (単位: キロバイト)

$$8 + 4 \times n$$

## (8) 案件の同報

パラメタ

m

案件数

n

同報数

ジャーナルサイズ (単位: キロバイト)

$$4 \times (m + 1) \times n$$

### (9) 案件の回収

パラメタ

m

案件数

n

回収数

ジャーナルサイズ (単位: キロバイト)

$$4 \times (m + 1) \times n$$

### (10) 案件の複写

パラメタ

j

案件内の文書数

k

案件内のメモ数

m

案件数

n

複写数

ジャーナルサイズ (単位: キロバイト)

$$4 \times n \times (m + 1) + 2 \times m \times (j + k)$$

### (11) 案件の待ち合わせ

パラメタ

n

待ち合わせ案件数

ジャーナルサイズ (単位: キロバイト)

$$4 + 8 \times n$$

### (12) 案件の分割

パラメタ

n

分割案件数

ジャーナルサイズ (単位: キロバイト)

$$4 + 8 \times n$$

## (13) 案件の遷移

ジャーナルサイズ (単位: キロバイト)  
12

## 付録 E.3 セグメントサイズと初期割り当て量

セグメントは, Groupmax Object Server でのファイルの割り当て及び増分の単位で, ページという単位で指定されます。1 ページのページ長は 8,192 バイトです。

## (1) master

セグメントサイズ (単位: ページ)  
50

初期割り当て量 (単位: セグメント)  
2

## (2) datadir

セグメントサイズ (単位: ページ)  
50

初期割り当て量 (単位: セグメント)  
1

## (3) dictionary

セグメントサイズ (単位: ページ)  
8

初期割り当て量 (単位: セグメント)  
25

## (4) oidindex

セグメントサイズ (単位: ページ)

$$32 \sim \left\lceil \frac{C_v}{8} \right\rceil$$

$C_v$

ディスクのシリンダ容量 (単位: キロバイト)

初期割り当て量 (単位: セグメント)

$$\left\lceil \frac{C_d}{150 \times S} \right\rceil$$

Cd

$$B \times (20 + N \times 4) + R \times 26 + U \times 16 + W \times 4 + A \times 11 + D \times 9 + M \times 3 + 30$$

B

ビジネスプロセス定義数（ワークフロー管理サーバの場合システム内の全ビジネスプロセス定義）

R

ロール数（ワークフロー管理サーバの場合システム内の全ロール数）

N

ビジネスプロセス定義内のノード数（平均値）

U

そのサーバをホームサーバにするユーザ数

W

ワーク数

A

案件数

D

文書数

M

メモ数

備考

ファイルの自動増分を実行しますので、初期割り当て量は計算値より小さくてもかまいません。

#### (5) WF\_is\_system

セグメントサイズ（単位：ページ）

1

初期割り当て量（単位：セグメント）

32

#### (6) WF\_is\_class

セグメントサイズ（単位：ページ）

$$\uparrow \max(S1, S2) \times 1.1 \uparrow$$

$\max(S1, S2)$

次の二つのセグメントサイズ S1, S2 のより大きい値を選択

$$S1 = \left\lceil \frac{B}{20} \right\rceil$$

$$S2 = \left\lceil \frac{(P+R) \times W \times C \times (D+1)}{20} \right\rceil$$

B

ビジネスプロセス定義総数

W

1日に発生するワーク数(平均値)

P

ワークの処理日数(平均値)

R

ワークの保存日数(平均値)

C

ワーク内のケース数(平均値)

D

ケース内の文書数(平均値)

初期割り当て量(単位:セグメント)

5

## (7) WF\_is\_string

セグメントサイズ(単位:ページ)

$$\left\lceil \max(S1, S2) \times 1.1 \right\rceil$$

max(S1, S2)

次の二つのセグメントサイズ S1, S2 のより大きい値を選択

$$S1 = \frac{B}{8000 \times (\max(N1, N2, 24) + 50)}$$

$$S2 = \frac{(P+R) \times W \times C \times (D+1)}{8000 \times (\max(N3, 24) + 50)}$$

$\max(N1, N2, 24)$

N1, N2, 24 のより大きい値を選択

$\max(N3, 24)$

N3, 24 のより大きい値を選択

B

ビジネスプロセス定義総数

W

1日に発生するワーク数(平均値)

P

ワークの処理日数(平均値)

R

ワークの保存日数(平均値)

C

ワーク内のケース数(平均値)

D

ケース内の文書数(平均値)

N1

ビジネスプロセス定義名称長(平均値)

N2

ビジネスプロセス定義ファイル名称長(平均値)

N3

添付ファイル名称長(平均値)

初期割り当て量(単位:セグメント)

16

## (8) WF\_manager\_area

セグメントサイズ (単位: ページ)

$$\left( 1 + \frac{6 + 2 \times \frac{C}{80}}{3} \right) \times 1.1$$

C

送付待ち案件数 (マネージャのスリープ間隔中にユーザが送付する案件数と同じ)

初期割り当て量 (単位: セグメント)

3

## (9) WF\_bp\_area

セグメントサイズ (単位: ページ)

128

初期割り当て量 (単位: セグメント)

1

## (10) WF\_work\_area

セグメントサイズ (単位: ページ)

$$\left( \frac{W}{21} + \frac{W \times \frac{C}{16}}{44} + \frac{W \times \frac{H}{10}}{6} + \frac{W \times \frac{R}{8}}{10} \right) \times 1.1$$

W

最大ワーク数

C

ワーク内のケース数 (平均値)

H

ワーク内のヒストリ数 (平均値)

H は、次の式で計算してください。

(ワーク内のヒストリ数) (ケースが通過するノードの数) × 2 + (相談, 差し戻し, 引き戻し, 代行, 振り替え, 一時停止, 再開始, キャンセルの数)

R

ワーク内のロール数 (平均値)

初期割り当て量 (単位: セグメント)

1

備考

平均値 = 0 の場合, 1 で計算してください。

( 11 ) WF\_case\_area

セグメントサイズ (単位: ページ)

$$\left( \left( \frac{C}{7} + \frac{C}{21} \times 2 + \frac{C \times M}{11} + \frac{C \times \frac{D}{5}}{21} + \frac{C \times \frac{K}{10}}{59} + \frac{C \times \frac{F}{10}}{21} + \frac{C \times E}{67} + \frac{C}{97} \right) \times 1.1 \right)$$

C

最大ケース数

M

ケース内のメモ数 (平均値)

D

ケース内の文書数 (平均値)

K

ケース内の下位ケース数 (平均値)

(ケース内の下位ケース数) (ケース定義数) で計算してください。

F

ケース内の相談件数 (平均値)

E

ケース内の拡張ユーザ属性数 (平均値)

ケース内の拡張ユーザ属性数 (平均値) とは, ケース内に設定する属性の中で, 最多に設定するデータ型の属性数が 6 個以上ある場合の, 5 個を超えた数です (例えば, 文字型の属性が 9 個, 整数型の属性が 6 個の場合, 4 を設定してください)。

初期割り当て量 (単位: セグメント)

1

備考

平均値 = 0 の場合, 1 で計算してください。

( 12 ) WF\_role\_area

セグメントサイズ (単位: ページ)

128

初期割り当て量 (単位: セグメント)

1

## ( 13 ) WF\_user\_area

セグメントサイズ (単位 : ページ)

256

初期割り当て量 (単位 : セグメント)

1

## ( 14 ) WF\_op\_list\_area

セグメントサイズ (単位 : ページ)

128

初期割り当て量 (単位 : セグメント)

1

## ( 15 ) WF\_case\_inf\_area

セグメントサイズ (単位 : ページ)

128

初期割り当て量 (単位 : セグメント)

1

## ( 16 ) WF\_counter\_area

セグメントサイズ (単位 : ページ)

$$\left( \left\lceil \frac{U}{52} \right\rceil + \left\lceil \frac{U \times \left\lceil \frac{N}{11} \right\rceil}{5} \right\rceil \right) \times 1.1$$

U

全ユーザ数 (system を含む)

N

ユーザが案件を処理したノード数 (平均値)

初期割り当て量 (単位 : セグメント)

1

備考

平均値 = 0 の場合 , 1 で計算してください。

## ( 17 ) WF\_class\_lock\_area

セグメントサイズ (単位 : ページ)

1

初期割り当て量 (単位 : セグメント)

1

( 18 ) WF\_send\_area

セグメントサイズ ( 単位 : ページ )

$$\left( 1 + \left( \frac{2 \times \frac{C1}{5} + 2}{3} \right) + \left( \frac{3 \times C2 + 1}{14} \right) + 1 + \left( \frac{2 \times \frac{C3}{5}}{3} \right) + \left( \frac{16 \times C4}{55} \right) + \left( \frac{C4 \times \frac{CA1 + CA2}{15}}{4} \right) \right) \times 1.1$$

C1

V1 のビジネスプロセス定義で他のビジネスプロセスで処理中の案件数 ( 平均値 )

C2

( そのサーバをビジネスプロセス登録サーバとするビジネスプロセス定義での、他のサーバで処理中の案件数 ( 平均値 ) ) + ( そのサーバに配布されたビジネスプロセス定義で処理中の案件数 ( 平均値 ) )

CA1

ドメイン間連携で引き継ぐケース属性数  
文書を引き継ぐ場合、1 を加算

CA2

ドメイン間連携で受け取るケース属性数  
文書を受け取る場合、1 を加算

C3

ドメイン間連携する案件数 ( 平均値 )

C4

ドメイン間連携中の最大案件数

初期割り当て量 ( 単位 : セグメント )

3

備考

1. サーバ間連携機能で使用するエリアです。処理中の案件数とは、サーバ間で転送する案件数です。
2. 平均値 = 0 の場合、1 で計算してください。

( 19 ) WF\_case\_add\_area

セグメントサイズ ( 単位 : ページ )

$$\left( \left\lceil \frac{C}{14} \right\rceil + \left\lceil \frac{C \times L}{24} \right\rceil \right) \times 1.1$$

C

階層連携ビジネスプロセスの最大ケース数

L

階層連携ビジネスプロセスの案件を処理したユーザ数（平均値）

初期割り当て量（単位：セグメント）

1

備考

平均値 = 0 の場合，1 で計算してください。

## (20) WF\_auto\_deliver\_area

セグメントサイズ（単位：ページ）

$$\left( \left\lceil \frac{K}{36} \right\rceil + \left\lceil \frac{U \times K}{42} \right\rceil + \left\lceil \frac{K}{10} \right\rceil \times 2 + \left\lceil \frac{K \times 2 \times \left( \left\lceil \frac{B+1}{10} \right\rceil + 1 \right)}{46} \right\rceil + \left\lceil \frac{K}{27} \right\rceil \right) \times 1.1$$

K

全自動配布キー数（K= P × 全ロール定義数）

P

ロール定義当たりの自動配布キー数（平均値）

U

自動配布キー当たりのユーザ数（平均値）

B

自動配布キー当たりのビジネスプロセス定義数（平均値）

初期割り当て量（単位：セグメント）

1

備考

平均値 = 0 の場合，1 で計算してください。

## (21) WF\_data\_obj\_area

セグメントサイズ（単位：ページ）

$$\left\lceil \left( \left\lceil \frac{(D \times 1024 + 189) \times N}{8120} \right\rceil \right) \times 1.1 \right\rceil$$

N

全メモ数

D

メモサイズ (平均値)

初期割り当て量 (単位: セグメント)

1

備考

平均値 = 0 の場合, 1 で計算してください。

( 22 ) WF\_relation\_area

セグメントサイズ (単位: ページ)

128

初期割り当て量 (単位: セグメント)

1

( 23 ) WF\_mb\_master\_bp\_manager\_area

セグメントサイズ (単位: ページ)

$$\left\lceil \left( \left\lceil \frac{B}{20} \right\rceil \right) \times 1.1 \right\rceil$$

B

ビジネスプロセス定義数

初期割り当て量 (単位: セグメント)

1

( 24 ) WF\_db\_bp\_distribution\_area

セグメントサイズ (単位: ページ)

$$\left\lceil \left( \left\lceil \frac{B}{33} \right\rceil + \left\lceil \frac{B \times 2}{9} \right\rceil \right) \times 1.1 \right\rceil$$

B

ビジネスプロセス定義数

初期割り当て量 (単位: セグメント)

1

## (25) WF\_dr\_role\_distribution\_area

セグメントサイズ (単位: ページ)

- ワークフロー管理サーバの場合

$$\uparrow \left( \uparrow \frac{R}{33} \uparrow + \uparrow \frac{R \times 2}{9} \uparrow \right) \times 1.1 \uparrow$$

R

ロール数

- ワークフロー管理サーバ以外の場合

1

初期割り当て量 (単位: セグメント)

1

## (26) WF\_oa\_operation\_auth\_area

セグメントサイズ (単位: ページ)

$$\uparrow \left( \uparrow \frac{B \times N}{56} \uparrow + \uparrow \frac{B \times N \times 3}{44} \uparrow \right) \times 1.1 \uparrow$$

B

ビジネスプロセス定義数

N

ビジネスプロセス定義内のノード数 (平均値)

初期割り当て量 (単位: セグメント)

1

備考

平均値 = 0 の場合, 1 で計算してください。

## (27) WF\_or\_role\_manager\_area

セグメントサイズ (単位: ページ)

$$\uparrow \left[ 2 + \left( \frac{\uparrow \frac{R+1}{10} \uparrow + \uparrow \frac{R2+1}{10} \uparrow + \uparrow \frac{B1+1}{10} \uparrow + \uparrow \frac{B2+1}{10} \uparrow}{46} \right) \right] \times 1.1 \uparrow$$

B1

ソースノードにユーザを割り当てたビジネスプロセス定義数

B2

ノードにユーザを割り当てたビジネスプロセス定義数

R

組織ロール数

R2

そのサーバをロール登録サーバとする組織ロール数

初期割り当て量 (単位: セグメント)

1

備考

値 = 0 の場合, 1 で計算してください。

( 28 ) WF\_ua\_user\_auth\_area

セグメントサイズ (単位: ページ)

- ワークフロー管理サーバの場合

$$\left( \left( \frac{U}{45} + \frac{U}{59} + \frac{U \times 2 \times \left( \frac{B1+1}{10} + \frac{B2+1}{10} + \frac{B3+1}{10} + \frac{R1+1}{10} + \frac{R2+1}{10} \right)}{46} \right) + \frac{U1+U2+U3+U4+U5}{27} \right) \times 1.1$$

U

ドメイン管理者, ワークフロー運用管理者, ビジネスプロセス管理者であるか又はビジネスプロセス定義に参照権限を持つユーザの数

B1

U のユーザ当たりのビジネスプロセス管理者に指定されているビジネスプロセス数 (平均値)

U1

ビジネスプロセス管理者数

B2

U のユーザ当たりのビジネスプロセス配布権限を持つビジネスプロセス数 (平均値)

U2

ビジネスプロセス配布権限を持つユーザ数

B3

U のユーザ当たりの参照権限を持つビジネスプロセス数 (平均値)

U3

ビジネスプロセス定義の参照権限を持つユーザ数

R1

ユーザ当たりのロール配布権限を持つロール数 (平均値)

U4

ロール配布権限を持つユーザ数

R2

ユーザ当たりのロール更新権限を持つロール数 (平均値)

U5

ロール更新権限を持つユーザ数

- ワークフロー管理サーバ以外の場合

1

初期割り当て量 (単位: セグメント)

1

備考

平均値 = 0 の場合, 1 で計算してください。

## (29) WF\_index\_area

セグメントサイズ (単位: ページ)

$$\max(S1, S2, S3, S4, S5, S6, S7, S8) \times 1.1$$

$\max(S1, S2, S3, S4, S5, S6, S7, S8)$

次に示すセグメントサイズから大きい値を選択

注

次の (a) から (h) までの計算式で使用するワーク, ビジネスプロセス, ユーザ及びロールの数には, データベースを再編成するまでに削除した数を含みます。特に, ワークの数の場合は, Groupmax Object Server のデータベースの再編成を実施してから次に再編成を実施するまでの間に, ワーク削除ユティリティで削除したワークの数を含めた総数で見積もってください。

### (a) S1

$$S1 = \sum_{j=1}^n P_j + PD$$

これは漸化式を解く計算式で, 次の計算式で  $P_1$  を求め,  $P_{n+1}=1$  になるまで  $P_{j+1}$  の計算式を繰り返します。

$$P_1 = \left( \frac{C}{84 + \frac{5662}{4 + \frac{14 \times D}{4}} \times 4} \right) + \frac{E}{70}$$

$$P_{j+1} = \frac{P_j}{75} \quad PD = \left( \frac{F}{549} + 1 \right) \times E$$

C

ワーク ID の重複が 200 個以下のワーク ID の種類の数

D

ワーク ID の重複が 200 個以下のワーク ID の平均重複数

E

ワーク ID の重複が 201 個以上のワーク ID の種類の数

F

ワーク ID の重複が 201 個以上のワーク ID の平均重複数

ワーク ID がユニークな場合、C = ワーク数、D = 1、E = F = 0 になります

(b) S2

$$S2 = \sum_{j=1}^n P_j + PD$$

これは漸化式を解く計算式で、次の計算式で  $P_1$  を求め、 $P_{n+1}=1$  になるまで  $P_{j+1}$  の計算式を繰り返します。

$$P_1 = \left( \frac{K}{24 + \frac{5662}{4 + \frac{14 \times L}{4}} \times 4} \right) + \frac{M}{283}$$

$$P_{j+1} = \frac{P_j}{354} \quad PD = \left( \frac{N}{549} + 1 \right) \times M$$

K

ワークの処理制限の重複が 200 個以下のワークの処理制限の種類の数

L

ワークの処理制限の重複が 200 個以下のワークの処理制限の平均重複数

M

ワークの処理制限の重複が 201 個以上のワークの処理制限の種類の数

N

ワークの処理制限の重複が 201 個以上のワークの処理制限の平均重複数

(c) S3

$$S3 = \sum_{j=1}^n P_j + PD$$

これは漸化式を解く計算式で、次の計算式で  $P_1$  を求め、 $P_{n+1}=1$  になるまで  $P_{j+1}$  の計算式を繰り返します。

$$P_1 = \frac{W}{24 + \frac{5662}{4 \times \frac{14 \times X}{4}}} + \frac{Y}{283}$$

$$P_{j+1} = \frac{P_j}{354} \quad PD = \left( \frac{Z}{549} + 1 \right) \times Y$$

W

ワークの遷移状態の重複が 200 個以下のワークの遷移状態の種類の数

X

ワークの遷移状態の重複が 200 個以下のワークの遷移状態の平均重複数

Y

ワークの遷移状態の重複が 201 個以上のワークの遷移状態の種類の数

Z

ワークの遷移状態の重複が 201 個以上のワークの遷移状態の平均重複数

(d) S4

$$S4 = \sum_{j=1}^n P_j$$

これは漸化式を解く計算式で、次の計算式で  $P_1$  を求め、 $P_{n+1}=1$  になるまで  $P_{j+1}$  の計算

式を繰り返します。

$$P_i = \left\lceil \frac{U}{128} \right\rceil$$

$$P_{j+1} = \left\lceil \frac{P_j}{284} \right\rceil$$

U

そのサーバをホームサーバとする総ユーザ数

(e) S5

$$S5 = \sum_{j=1}^n P_j + PD$$

これは漸化式を解く計算式で、次の計算式で  $P_1$  を求め、 $P_{n+1}=1$  になるまで  $P_{j+1}$  の計算式を繰り返します。

$$P_i = \left\lceil \frac{B1}{84 + \left\lceil \frac{14 \times B2}{4} \right\rceil \times 4} \right\rceil + \left\lceil \frac{B3}{70} \right\rceil$$

$$P_{j+1} = \left\lceil \frac{P_j}{75} \right\rceil \quad PD = \left( \left\lceil \frac{B4}{549} \right\rceil + 1 \right) \times B3$$

B1

そのサーバに登録されたビジネスプロセス名称の重複が 200 個以下のビジネスプロセスの種類の数

B2

そのサーバに登録されたビジネスプロセス名称の重複が 200 個以下のビジネスプロセスの平均重複数

B3

そのサーバに登録されたビジネスプロセス名称の重複が 201 個以上のビジネスプロセスの種類の数

B4

そのサーバに登録されたビジネスプロセス名称の重複が 201 個以上のビジネスプロセスの平均重複数

(f) S6

$$S6 = \sum_{j=1}^n P_j$$

これは漸化式を解く計算式で、次の計算式で  $P_1$  を求め、 $P_{n+1}=1$  になるまで  $P_{j+1}$  の計算式を繰り返します。

$$P_1 = \left\lceil \frac{R}{56} \right\rceil$$

$$P_{j+1} = \left\lceil \frac{P_j}{75} \right\rceil$$

R

そのサーバに登録された総ロール数

(g) S7

$$S7 = \sum_{j=1}^n P_j$$

これは漸化式を解く計算式で、次の計算式で  $P_1$  を求め、 $P_{n+1}=1$  になるまで  $P_{j+1}$  の計算式を繰り返します。

$$P_1 = \left\lceil \frac{R}{141} \right\rceil$$

$$P_{j+1} = \left\lceil \frac{P_j}{354} \right\rceil$$

R

そのサーバに登録された総ロール数

(h) S8

$$P_1 = \left\lceil \frac{K}{56} \right\rceil \quad P_{j+1} = \left\lceil \frac{P_j}{74} \right\rceil$$

$$PD = 0$$

K

ドメイン間連携中の最大案件数（ドメイン間連携機能により投入された案件数を含

む)

初期割り当て量 (単位: セグメント)

7

備考

ワークの数が最大になる場合の数です。

## 付録 E.4 マルチサーバの作業用ディレクトリのディスク占有量

### (1) 作業ディレクトリ

$$Smsg = \left\{ \frac{Stag + Sint + \sum_{i=1}^{Ncase} Scase(i) + \sum_{j=1}^{Ndoc} Sdoc(j) + \sum_{k=1}^{Nmemo} Smemo(k) + \sum_{l=1}^{Nback} Sback(l)}{1000000} + \frac{\sum_{m=1}^{Ndata} Sdata(m) + 48 + \sum_{n=1}^{Nwork} Swork(n) + 904}{1000000} \right\}$$

Smsg

転送データの最大メッセージサイズ

Stag=80

Sint=512

Scase(i)=1008+96×(ケース属性数)+80×(ケース拡張属性数)+  
640×(案件が経由したビジネスプロセス数)+32×(最大相談ネスト数)

Sdoc(j)=464+{(文書サイズ)+284+16}

Smemo(k)=1024+{(メモ文書サイズ)+284+16}

Sback(l)=512

Sdata(m)=4096

Swork(n)=128

Ncase

案件内のケース数

Ndoc

案件内の文書数

Nmemo

案件内のメモ数

Nback

転送元のビジネスプロセスで処理したユーザ数

Ndata

DB に格納するメモ数

Nwork

ワーク履歴数

## 付録 E.5 Groupmax Workflow Server - Connection のディスク容量

### (1) ドメイン間連携作業ディレクトリ

SCwork : ドメイン間連携作業ディレクトリのディスク容量 (単位: キロバイト)

$$SCwork = \left( \sum_{l=1}^{Ndoc} SCdoc(l) + \sum_{j=1}^{Nmemo} SCmemo(j) + \sum_{k=1}^{Ndata} SCdata(k) \right) / 1000$$

$$SCdoc(l) = 464 + \{ \text{文書サイズ} + 284 + 16 \}$$

$$SCmemo(j) = 1024 + \{ \text{メモ文書サイズ} + 284 + 16 \}$$

$$SCdata(k) = 4096$$

Ndoc

連携案件内の文書数

Nmemo

連携案件内のメモ数

Ndata

連携案件内の DB に格納するメモ数

### (2) ドメイン間連携メール格納ディレクトリ

SCmail : ドメイン間連携メール格納ディレクトリのディスク容量 (単位: キロバイト)

$$SCmail = SCwork \times 2 + ((SCcase/1000) + SCwork) \times 52$$

$$SCcase = 2 \times (1000 + (144 \times (\text{連携ケース属性数} + \text{連携文書数} + \text{連携メモ数})))$$

### (3) ドメイン間連携送受信ログ出力ディレクトリ

SCsrlog : ドメイン間連携送受信ログ出力ディレクトリのディスク容量 (単位: キロバイト)

- ドメイン間連携送受信ログに rnd を指定した場合  
 $SCsrlog = 6000$
- ドメイン間連携送受信ログに all を指定した場合  
 $SCsrlog = 3000 \times \text{バックアップ取得までのログファイルの世代数}$

## 付録 F システム共通定義ファイルの設定

ここでは、Groupmax Workflow を使用する場合に設定する、Groupmax Object Server のシステム共通定義項目の算出方法について説明します。

システム共通定義ファイルの各項目の指定範囲など、詳細については、マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。

### 付録 F.1 常駐化の指定 (resipool, resiobj)

Groupmax Object Server のデータベースページを共有メモリ上に常駐化することによって、データベースの入出力回数を削減することができます。

常駐化の指定は、Groupmax Object Server のシステム共通定義ファイルに、resipool パラメタ及び resiobj パラメタで記述します。常駐化の指定が有効になるのは、システム共通定義ファイルを変更した後に、Groupmax Object Server を再起動したときです。

Groupmax Workflow Server のサーバ機能環境初期化コマンドを実行する前にシステム共通定義ファイルを変更した場合、Groupmax Workflow Server のデータベース名が未定義であるため、Groupmax Object Server 起動時に常駐指定のスキーマ名誤りの警告メッセージが出力されます。この場合、Groupmax Workflow Server のサーバ機能環境初期化コマンドを実行してから、Groupmax Object Server を再起動してください。

resipool パラメタ及び resiobj パラメタに設定する、Groupmax Workflow としての値の算出方法を次に示します。

#### (1) resipool パラメタ

Groupmax Workflow を使用する場合の、各オペランドの値の算出方法は次のとおりです。

##### (a) -m (常駐ページプール面数) オペランド

- DICTIONARY 用常駐ページプールの指定

Groupmax Workflow が使用する面数は、180 (固定) です。

- USER 用常駐ページプールの指定

次に示す見積もり式を参考に算出した値を加算してください。

なお、見積もり式の中で使用するエリアと の値については、「付録 E ディスク占有量の計算式」を参照してください。

$$C=C1 \times 2+C2+C3+C4+C5+C6+C7+C8+C9+C10+C11+C12+C13+C14+49$$

C1

WF\_manager\_area の面数 = WF\_manager\_area のディスク占有量 の値

C2

WF\_bp\_area の面数 = WF\_bp\_area のディスク占有量 の値

C3

WF\_role\_area の面数 = WF\_role\_area のディスク占有量 の値

C4

WF\_user\_area の面数 = WF\_user\_area のディスク占有量 の値

C5

WF\_op\_list\_area の面数 = WF\_op\_list\_area のディスク占有量 の値

C6

WF\_counter\_area の面数 = WF\_counter\_area のディスク占有量 の値

C7

WF\_send\_area の面数 = WF\_send\_area のディスク占有量 の値

C8

WF\_auto\_deliver\_area の面数  
= WF\_auto\_deliver\_area のディスク占有量 の値

C9

WF\_mb\_master\_bp\_manager\_area の面数  
= WF\_mb\_master\_bp\_manager\_area のディスク占有量 の値

C10

WF\_db\_bp\_distribution\_area の面数  
= WF\_db\_bp\_distribution\_area のディスク占有量 の値

C11

WF\_dr\_role\_distribution\_area の面数  
= WF\_dr\_role\_distribution\_area のディスク占有量 の値

C12

WF\_oa\_operation\_auth\_area の面数  
= WF\_oa\_operation\_auth\_area のディスク占有量 の値

C13

WF\_or\_role\_manager\_area の面数  
= WF\_or\_role\_manager\_area のディスク占有量 の値

C14

WF\_ua\_user\_auth\_area の面数  
= WF\_ua\_user\_auth\_area のディスク占有量 の値

(b) -u (常駐ページプールの用途) オペランド

- DICTIONARY 用常駐ページプールの指定  
[DICTIONARY] 固定
- USER 用常駐ページプールの指定  
[USER] 固定

## (2) resiobj パラメタ

Groupmax Workflow を使用する場合の、各オペランドの値の算出方法は次のとおりです。

### (a) -s (スキーマ名称) オペランド

サーバ機能環境初期化コマンドで指定するワークフローデータベースの、データベース名を指定します。

### (b) -t (常駐化するオブジェクトのタイプ名称) オペランド

常駐する場合のオブジェクトのタイプ名称として指定するものを次に示します。

- WF\_manager\_class
- WF\_bp\_class
- WF\_role\_class
- WF\_user\_class
- WF\_operation\_list\_class
- WF\_counter\_class
- WF\_send\_class
- WF\_auto\_deliver\_key\_class
- WF\_manager\_que\_class
- WF\_mb\_master\_bp\_manager\_class
- WF\_db\_bp\_distribution\_manager\_class
- WF\_dr\_role\_distribution\_manager\_class
- WF\_oa\_operation\_auth\_class
- WF\_or\_role\_manager\_class
- WF\_ua\_user\_auth\_class
- WF\_working\_que\_class

## 付録 F.2 グローバルキャッシュパラメタの指定 (gcache)

グローバルキャッシュとは、Groupmax Object Server のデータベースページの、入出力用のバッファキャッシュです。グローバルキャッシュは共有メモリ上に確保されます。

次に示すグローバルキャッシュパラメタの識別子に、Groupmax Workflow Server が使用するグローバルキャッシュの面数を加算してください。

### AREA 識別子

WF\_is\_class, WF\_is\_string, WF\_work\_area, WF\_case\_area, WF\_case\_inf\_area, WF\_relation\_area, WF\_case\_add\_area, WF\_data\_obj\_area 及び WF\_send\_area の、各エリアの入出力用にグローバルキャッシュを使用します。

-m オペランドの値に、次に示す見積もり式を参考に算出した値を加算してください。  
 $C=C1+C2+C3+C4+C5+C6+C7+C8+C9+100$

C1

WF\_is\_class の面数 =  $(3 \times 1 + 2 + 1) / 100$   
 ( 1 及び 2 は、WF\_is\_class のディスク占有量の見積もり式の値 )

C2

WF\_is\_string の面数  
 =  $\{3 \times (1 + 2 + 3 + 4) + 5 + 6 + 7 + 8 + 3\} / 100$   
 ( 1 ~ 8 は、WF\_is\_string のディスク占有量の見積もり式の値 )

C3

WF\_work\_area の面数  
 = ( WF\_work\_area のディスク占有量の 値 ) ×  
 ( ログインユーザ数 × 2 ) / ( 最大ワーク数 )

C4

WF\_case\_area の面数  
 = ( WF\_case\_area のディスク占有量の 値 ) × ( ログインユーザ数 )  
 × ( ユーザに滞留しているケース数 ) / ( 最大ケース数 )

C5

WF\_case\_inf\_area の面数  
 = WF\_case\_inf\_area のディスク占有量の 値

C6

WF\_relation\_area の面数  
 =  $1 + 2 + 3 + 4 + 5 + 6 + 7 + 8 + 9$   
 ( 1 ~ 9 は、WF\_relation\_area のディスク占有量の 値 )

C7

WF\_case\_add\_area の面数  
 = ( WF\_case\_add\_area のディスク占有量の 値 ) × ( ログインユーザ数 )  
 × ( ユーザに滞留しているケース数 ) / ( 最大ケース数 )

C8

WF\_data\_obj\_area の面数  
 = ( WF\_data\_obj\_area のディスク占有量の 値 ) ×  
 ( ログインユーザ数 ) × ( ユーザに滞留しているケース数 ) /  
 ( 最大ケース数 )

C9

WF\_send\_area の面数  
 = ( WF\_send\_area のディスク占有量の , 4 + 5 の値 )

注

見積もり式の中で使用する 及び 1 ~ 9 の値については、「付録 E ディスク占有量の計算式」を参照してください。また、最大ワーク数及び最大ケース数は、次のように算出します。

最大ワーク数

= (1日当たりのワーク件数) × {(ワークの処理日数) + (ワーク保存日数)}

最大ケース数

= (最大ワーク数) × (1ワーク当たりの平均ケース数)

OIDINDEX 識別子

OID インデックスの入出力用にグローバルキャッシュを使用します。

-m オペランドの値に、次に示す見積もり式を参考に算出した値を加算してください。

C=oidindex の面数

= ( +10 ) × (ワーク処理日数) / {(ワーク処理日数) + (ワーク保存日数)}

注

は oidindex のディスク占有量の見積もり式の値です。 については、「付録 E ディスク占有量の計算式」を参照してください。

INDEX 識別子

インデックスの入出力用にグローバルキャッシュを使用します。

-m オペランドの値に、次に示す見積もり式を参考に算出した値を加算してください。

C=WF\_index\_area の面数 = 1+ 2+ 3+ 4+ 5+ 6+ 7+20

注

1 ~ 7 は、WF\_index\_area のディスク占有量の見積もり式の値です。 1 ~ 7 については、「付録 E ディスク占有量の計算式」を参照してください。

### 付録 F.3 静的共有メモリ数 (static\_shmpool\_size)

静的共有メモリ数とは、Groupmax Object Server のシステム開始から終了までの間に占有する共有メモリの総量です。

静的共有メモリ数の算出方法は、マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。

Groupmax Workflow Server の trn\_tran\_process\_count 値には、「76」を設定して計算してください。

### 付録 F.4 最大同時排他要求数 (lck\_limit)

同時に要求できる、データベースの排他の最大数を定義します。

Workflow での同時排他要求数の計算式を、次に示します。「ユーザに滞留しているケース数」とは、ユーザに滞留しているケース数の平均値を示します。

Workflow での同時排他要求数

= { 56 + (ユーザに滞留しているケース数) } × 74 + (登録ユーザ数)  
+ (登録ロール数) + (登録ビジネスプロセス定義数) + 100

他のプログラムについても同時排他要求数を算出し、これらの数値を加算します。加算結果を基に、次に示すように最大同時排他要求数を算出します。

加算結果が 8800 以下の場合

`lck_limit = 8800`

加算結果が 8800 を超える場合

`lck_limit`

= Workflow での同時排他要求数 + 他のプログラムでの同時排他要求数

## 付録 G Groupmax Workflow Server - Connection がサポートする機能の範囲

Groupmax Workflow Server - Connection がサポートする機能の範囲を、表 G-1 と表 G-2 に示します。

表 G-1 ドメイン間連携機能の概要

機能		送信	受信	備考	
連携方式	直列 (Chain)			-	
	階層 (Nest)	-			-
		状態変更 <sup>1</sup> 要求	×	×	連携元ビジネスプロセス 連携先ビジネスプロセスへの要求は、notStarted running 変更だけ処理できます。
		状態変更 <sup>1</sup> 通知			連携先ビジネスプロセス 連携元ビジネスプロセスへの通知
		属性取得 <sup>2</sup> 要求	×	×	連携元ビジネスプロセス 連携先ビジネスプロセスへの要求
		属性変更 <sup>3</sup> 通知			連携先ビジネスプロセス 連携元ビジネスプロセスへの通知
メッセージ	単一オペレーション	×		応答送信は Request に対応した形で返却します。	
	複数オペレーション				
Audit Data	WfMC Audit Data	×	×	-	
	メール送受信ログ			ドメイン間連携送受信ログ	
添付ファイル (Attachment)	Groupmax Workflow データ (Groupmax メモ)			Groupmax 同士のドメイン間連携の場合だけ添付します。	
	その他のデータ (Groupmax 文書：Word , Excel など)			Groupmax Workflow 専用データとして連携可能とします。Groupmax Integrated Desktop での添付ファイルを含みます。	
連携可能案件 (連携ノード)	単一ケース			-	
	複数ケース	×	×	-	

( 凡例 )

○ : サポート

× : 未サポート

注 1

状態変更とは、案件の状態を変更することを指し、Workflow ではワークのキャンセル、削除、一時停止、再開始、遷移終了に該当します。

注 2

属性取得とは、案件情報を取得することを指し、Workflow ではワーク、ケースの属性取得に該当します。

注 3

属性変更とは、案件情報を変更することを指し、Workflow ではワーク、ケースの属性値の変更に該当します。

表 G-2 IF4 規定オペレーションのサポート範囲

オペレーション	送信	受信	備考
ChangeProcessInstanceState		×	notStarted running 変更だけ処理できません。それ以外は、Operation not implemented を返します。
CreateProcessInstance			-
GetProcessInstanceAttributes	×	×	このオペレーションを受信した場合、Operation not implemented を返します。
GetProcessInstanceState	×	×	このオペレーションを受信した場合、Operation not implemented を返します。
ProcessInstanceAttributeChanged			-
ProcessInstanceStateChanged			-
SetProcessInstanceAttributes			-
StartConversation			-
StopConversation			-

(凡例)

- : サポート
- × : 未サポート

## 付録 H ドメイン間連携機能の送受信ログ

ここでは、ドメイン間連携の送受信ログの次の項目について説明します。

メッセージ送受信ログの出力内容

出力項目一覧

オペレーションエラーコード一覧

メッセージ送受信ログの出力ディレクトリと出力ファイル名

世代ファイルの管理

### 付録 H.1 メッセージ送受信ログの出力内容

メッセージ送受信ログの出力内容を表 H-1 に示します。

表 H-1 メッセージ送受信ログの出力内容

出力項目	データ型	最大データ長 (バイト)	説明
タイムスタンプ	文字列	24	<p>ログを取得した日時をローカルタイムで出力します。</p> <p>形式：aaa bbb dd hh:mm:ss yyyy  aaa : 省略形式の曜日  bbb : 省略形式の月名  dd : 日付  hh : 時  mm : 分  ss : 秒  yyyy : 年</p>
要求種別	文字列	4	<p>連携に関する要求コードを出力します。</p> <p>"go" : 直列連携要求送信  "call" : 階層連携開始要求送信  "retn" : 階層連携終了要求送信  "stpc" : 会話終了要求送信  "repo" : レスポンス (処理結果) 通知送信  "reqt" : リクエスト (処理要求) 受信  "resp" : レスポンス受信  "err" : エラー通知受信</p>
要求サブコード	文字列	1	<p>要求コードが "retn" の場合、1, 2, 3 のどれかを出力します。</p> <p>1 : 階層連携の案件が正常に遷移終了  2 : 階層連携の遷移中案件をキャンセル  3 : 階層連携の遷移中案件を削除</p> <p>要求コードが "retn" 以外の場合、0 を出力します。</p>
連携元メールアドレス	文字列	64	連携元の E-Mail アドレス

出力項目	データ型	最大データ長 (バイト)	説明
連携先メールアドレス	文字列	64	連携先の E-Mail アドレス
契約 ID(ContractID)	文字列	31	契約 ID(ContractID) を出力します。 送信ログ：送信先の契約 ID 受信ログ：送信したワークフローの契約 ID
連携元会話 ID (SourceConversationID)	文字列	64	連携元ワークフローエンジンの SourceConversationID を出力します。
連携先会話 ID (TargetConversationID)	文字列	64	連携先ワークフローエンジンの SourceConversationID を出力します。
要求番号	数値型 文字列	10	送受信するメールの要求ごとに付けられた番号を出力します。
ワーク ID(RootPID)	文字列	64	最初に起案された案件のワーク ID (プロセスインスタンス ID) を出力します。
連携元ワーク ID (SourcePID)	文字列	64	連携元の案件のワーク ID (プロセスインスタンス ID) を出力します。
連携先ワーク ID (TargetPID)	文字列	64	連携先の案件のワーク ID (プロセスインスタンス ID) を出力します。
連携元ビジネスプロセス定義名 (Source BP 名)	文字列	64	連携元のビジネスプロセス定義名を出力します。
連携先ビジネスプロセス定義名 (Target BP 名)	文字列	64	連携先のビジネスプロセス定義名を出力します。
オペレーション数	数値型 文字列	10	1 メールメッセージ内に格納されているオペレーション数を出力します。
オペレーションコード <sup>1</sup>	文字列	4	IF4 で規定されているオペレーションの種別コードを出力します。 STCV : StartConversation SPCV : StopConversation CRIT : CreateProcessInstance STAT : SetProcessInstanceAttributes CHST : ChangeProcessInstanceState ATCH : ProcessInstanceAttributeChanged STCH : ProcessInstanceStateChanged GTST : GetProcessInstanceState GTAT : GetProcessInstanceAttribute
オペレーションエラーコード <sup>1</sup>	数値型 文字列	-	IF4 で規定されているオペレーションのエラーコードを数値で出力します。 内容については、「付録 H.3 オペレーションエラーコード一覧」を参照してください。

出力項目	データ型	最大データ長 (バイト)	説明
属性数	数値型 文字列	2	連携時に引き継ぐケース属性数を出力します。
属性名 <sup>2</sup>	文字列	64	ケース属性名称を出力します。
属性タイプ <sup>2</sup>	数値型 文字列	1	ケース属性のデータ型を示す値を出力します。 0: 文字列型 1: 数値型 2: 日付型
ファイル数	数値型 文字列	10	案件に添付されていた添付文書、メモの総ファイル数を出力します。
添付ファイル名 <sup>3</sup>	文字列	256	添付されていたファイル名称を出力します。
添付ファイル種別 <sup>3</sup>	文字列	4	添付ファイルの種類を示すコードを出力します。 FILE: 添付文書 MEMO: 添付メモ (Groupmax From のデータを含みます。)

## 注 1

オペレーションコード、オペレーションエラーコードを対としてオペレーション数分、繰り返し出力します。

## 注 2

属性名、属性タイプを対として属性数分、繰り返し出力します。

## 注 3

添付ファイル名、添付ファイル種別を対としてファイル数分、繰り返し出力します。

## 付録 H.2 メッセージ送受信ログの出力項目一覧

メッセージ送受信ログが出力する項目を表 H-2 に示します。要求コードによって出力の有無が異なります。

表 H-2 メッセージ送受信ログの出力項目一覧

出力項目	取得ログ	送信ログ				受信ログ		
	要求コード	go,cal l	retn	stpc	repo	rept	resp	err
タイムスタンプ								
要求種別								
要求サブコード		-		-	-	-	-	-
連携元メールアドレス								
連携先メールアドレス								
契約 ID(ContractID)								

出力項目	取得ログ	送信ログ				受信ログ		
	要求コード	go,cal l	retn	stpc	repo	rept	resp	err
連携元会話 ID (SourceConversationID)								
連携先会話 ID (TargetConversationID)								
要求番号								
ワーク ID(RootPID)								
連携元ワーク ID(SourcePID)								
連携先ワーク ID(TargetPID)								
連携元ビジネスプロセス定義 名 (Source BP 名)								
連携先ビジネスプロセス定義 名 (Target BP 名)								
オペレーション数		-	-	-				
オペレーションコード		-	-	-				
オペレーションエラーコード		-	-	-				
属性数				-	-	-	-	-
属性名				-	-	-	-	-
属性タイプ				-	-	-	-	-
ファイル数				-	-	-	-	-
添付ファイル名				-	-	-	-	-
添付ファイル種別				-	-	-	-	-

(凡例)

- : 出力します。
- : 出力しません。

### 付録 H.3 オペレーションエラーコード一覧

オペレーションエラーコード一覧を表 H-3 に示します。

表 H-3 オペレーションエラーコード一覧

エラーコード	内容
0	正常です。
1	認識できないオペレーションを検知しました。
2	権限がありません。
3	ビジネスプロセス定義 (プロセス ID) がありません。

エラーコード	内容
4	ステータスの不正を検知しました。
5	不正,又は定義されていないケース属性名称を検知しました。
7	不正なケース属性タイプを検知しました。
8	ケース属性値を取得できません。
10	契約 ID(ContractID) が不正です。
11	言語種別の指定が不正です。
12	MIME バージョンが不正です。
20	会話中以外のメッセージを受け取りました。
30	オペレーションの処理に失敗しました。
40	ビジネスプロセス定義名称が不正です。
41	未サポートのオペレーションを検知しました。
201	メッセージの切り捨てを検知しました。
202	メッセージのチェックサムが不正です。
203	未サポートエンコーディングを検知しました。
204	メッセージを破棄しました。
205	不正メッセージを検知しました。
206	ConversationID が不正です。
207	メッセージ順序が不正です。
208	タイムスタンプが不正です。
209	エスケープシーケンスが不正です。
255	メッセージを重複して検知しました。

## 付録 H.4 メッセージ送受信ログの出力ディレクトリと出力ファイル名

メッセージ送受信ログの出力ディレクトリは、環境設定ファイル (wfmerc) で指定されたディレクトリ下に出力されます。

メッセージ送受信ログの出力ファイル名は、表 H-4 に示すとおりです。

表 H-4 メッセージ送受信ログの出力ファイル名

メッセージログ	ドメイン間連携 送受信ログ保存形式	カレントファイル名	世代ファイル名
メッセージ送信ログ	all	IFSEND.cur	IFSENDYYYYMMDDhhmmss
	rnd		IFSEND.pre
メッセージ受信ログ	all	IFRECV.cur	IFRECVYYYYMMDDhhmmss
	rnd		IFRECV.pre

注 1

ファイルの容量は、最大 1.5 メガバイト

注 2

世代ファイル名のアルファベットの意味は次のとおりです。

YYYY：年，MM：月，DD：日，hh：時，mm：分，ss：秒

## 付録 H.5 世代ファイルの管理

世代ファイルの管理は、データベースのバックアップ取得と同じタイミングでバックアップを取得した後、世代ファイルを削除します。

メッセージ送受信ログ出力ファイル（カレントファイル及び世代ファイル）は、案件の連携先、及び連携元のサーバで障害が発生した場合に、障害回復対象の案件を特定するために必要です。なお、案件の連携先、及び連携元のサーバのバックアップ取得以前の自サーバのバックアップは不要になります。

---

## 付録 I 用語解説

### (英字)

---

#### SPU ( System Processor Unit )

クラスタ・システム内の個々のコンピュータのことです。

#### Workflow 管理サーバ

Groupmax Address が管理するドメイン内に一つだけあり、各 Workflow サーバを管理するサーバです。Groupmax Workflow では、定義したビジネスプロセスやロールは、いったん Workflow 管理サーバに登録してから各 Workflow サーバに配布します。

#### Workflow サーバ

Groupmax Workflow が動作するサーバです。Workflow 管理サーバの管理下にあります。

### (ア行)

---

#### 案件

トレーに配布された文書と、その文書に対してユーザがする作業です。トレーに配布される文書がその単位になります。ビジネスプロセス定義に従って案件が処理されることで、ワークが完成します。

#### 一般ユーザ

Groupmax Workflow を利用するユーザのうち、自分のユーザトレーの案件だけを処理できるユーザです。

#### エラートレー

ビジネスプロセス管理者又はユーザ ID 「system」のユーザトレーのことです。何かの原因で送付できなくなった案件が配布されます。

### (カ行)

---

#### 階層化ロール

ロールを更にグループ化したロールです。業務ロールと組織ロールを組み合わせて階層的に管理できます。

#### 管理者用ログイン

次に示すプログラムからログインすることを示します。

- Groupmax Workflow Definer (ワークフロー定義、ワークフローロール定義、ワークフローユーザ定義、配布管理)
- Groupmax Workflow Monitor
- Groupmax Workflow Client・Library Extension 及び Groupmax Workflow Server・Library

- Extension で作成したアプリケーション
- Groupmax Workflow - Specialist Tools for WWW 及び Groupmax Workflow - End-user Tools for WWW
  - バージョン 02-10 より前の C/S クライアント ( Flowmate/Definer , Monitor , Groupshop , Flowmate/Client-Library , Flowmate/Server-Library , Flowmate/Development Kit で作成したアプリケーションなど )
  - バージョン 02-20 より前の Groupmax World Wide Web Version 2.0/ ワークフロー

## 業務ロール

業務の役割でグループ化したもので、組織と対応しないユーザの集まりです。

## クラスタ

一つ以上の SPU 及びディスクドライブがネットワーク接続されたグループのことです。一つの SPU 又はネットワークに障害が発生した場合、お互いをサポートし合うように設計されています。

## ケース

Groupmax Workflow で閲覧される文書又はメモを格納する入れ物です。ケースには複数の文書とメモを格納でき、ケース名、ケース属性はビジネスプロセス定義のソースノードで定義します。ケースには、ビジネスプロセス定義で定義するケースのほかに、システムが自動的に作成するルートケースがあります。

## ( サ行 )

---

### 処理ノード

ビジネスプロセス定義上で、ユーザ又はユーザの代わりにするプログラムが処理する場所をアイコンで表現したものです。ソースノード、シンクノード及び作業機ノードがあります。

### 制御ノード

ビジネスプロセス定義上で、Groupmax Workflow が処理する場所をアイコンで表現したものです。待合ノード、分割ノード、複写ノード、分岐ノード、同報ノード、回収ノード及び統合ノードがあります。

### 組織ロール

Groupmax Address での組織に相当するロールです。課や部など、部署単位にユーザをグループ化したものです。

## ( 夕行 )

---

### 代行者

正規の作業者が不在のときに、不在者のトレーから処理を代行できるユーザのトレーに案件を振り替えられるユーザです。例えば、正規の作業者が突然不在になったために、案件の処理が遅れてしまうのを防ぎます。代行者は、不在者のトレーにある案件であればどのビジネスプロセスの案件でも振り替えられます。

## 代行者用ログイン

次に示すプログラムの操作又は関数（メソッド）を発行することを示します。

- Groupmax Integrated Desktop で「不在者のトレイを開く」という操作をします。
- Groupmax Workflow Client - Library から HwfSubstitutionLogin 関数又は WFocSubstitutionLogin メソッドを発行します。
- Groupmax Workflow for Active Server Pages から WFaxSubstitutionLogin メソッドを発行します。
- Groupmax Workflow Library for Java から wfjaSubstitutionLogin メソッドを発行します。

## 代行配布ユーザ

正規の作業者が不在のときに、案件が自動的に送付されるユーザです。代行配布ユーザはビジネスプロセスごとに指定されます。各ビジネスプロセスに適任のユーザを指定できるので、正規の作業者が不在になると事前に分かっている場合に有効です。

## ドメイン

Groupmax Address の最上位の階層で、マスタ管理サーバが管理する範囲です。Groupmax Workflow は、サーバが複数ある構成でも、同一ドメイン内であればサーバを意識しないで利用できます。

## ドメイン管理者

Groupmax Workflow を利用するユーザのうち、ドメイン内の Groupmax Workflow のすべての業務を管理する権限を持つユーザです。

## ドメイン間連携ノード

ビジネスプロセス定義上で、他のワークフローシステムと連携するための処理を行う場所をアイコンで表現したものです。直列連携ノード、階層連携ノードがあります。

## トレイ

送付又は配布されてきた案件が格納される入れ物のことです。Groupmax Workflow が、ユーザ又はロールごとに一つ割り当てます。

## (八行)

---

### 配布

次の二つの意味があります。

1. ノードに送付された案件を作業者のトレイに格納することです。
2. 定義したビジネスプロセスを Workflow 管理サーバに登録した後、各 Workflow サーバに送信することです。

### ビジネスプロセス

同じ組織（グループ）内に所属する人達が作業を分担、協調して成し遂げる仕事（業務）のことです。

### ビジネスプロセス管理者

次の二つの意味があります。

1. Groupmax Workflow を利用するユーザのうち、業務を管理する管理者に相当するユーザです。

ビジネスプロセスやロールを定義して Workflow 管理サーバに登録したり、ドメイン内のすべての業務の流れを監視したりする権限を持っています。

2. Groupmax Workflow Definer で定義した各ビジネスプロセスを管理する権限を持つ人のことです。ビジネスプロセスを定義するときに、ビジネスプロセス管理者、ワークフロー運用管理者又はドメイン管理者の権限を持つユーザを指定します。ビジネスプロセス管理者は、自分が管理するビジネスプロセスについて、定義内容を更新したり、業務管理をしたりできます。また、主ビジネスプロセス管理者に指定されたユーザのトレーは、特にエラートレーと呼ばれます。

## ビジネスプロセス定義

業務での案件の流れを Groupmax Workflow Definer で定義したものです。Groupmax Workflow は、ビジネスプロセス定義に従って案件の流れを制御します。

## ビジネスプロセス登録サーバ

ビジネスプロセスを管理するサーバです。ビジネスプロセス定義を Workflow 管理サーバへ登録するとき、配布先の Workflow サーバの中から 1 台指定します。対象のビジネスプロセスに投入された案件の実体があるサーバの位置や、案件の履歴情報をワークフローデータベースで管理します。

## ホームサーバ

Groupmax Address でユーザを登録したときに指定したサーバで、各ユーザのユーザトレーがあります。ユーザは、ホームサーバに配布されたビジネスプロセス定義で案件を処理します。

## (マ行)

---

### マスタ管理サーバ

Groupmax Address のドメインを管理するサーバです。

## (ヤ行)

---

### ユーザ

Groupmax Workflow の利用者のことです。処理の権限によってドメイン管理者、ワークフロー運用管理者、ビジネスプロセス管理者、及び一般ユーザに分かれます。

### ユーザトレー

ユーザごとに割り当てられたトレーです。

## (ラ行)

---

### ルートケース

案件の待ち合わせなどで一つの案件に複数のケースがあるとき、ケースを管理するためにシステムが自動的に生成するケースのことです。

### ロール

仕事をする上での役割です。個々のユーザは、ロールでグループ化できます。ビジネスプロセス定義で作業者にロールを割り当てると、ロールに割り当てられたユーザが変更されてもビジネスプロ

セス定義を変更する必要がなくなります。ロールには、目的によって組織ロール、業務ロール及び階層化ロールがあります。

### ロールトレー

ロールに割り当てられたトレーです。ロールトレーに入れられた案件は、ビジネスプロセス管理者を除き、ロールに割り当てられたユーザだけが処理できます。ロールトレー内の案件は、いったんロールトレーからユーザトレーへ取り出してから処理します。

## (ワ行)

---

### ワーク

ある業務の一つの実例（ビジネスプロセスインスタンス）のことです。ビジネスプロセス定義のソースノードから投入された案件を、シンクノードまでの各ノードでユーザが処理することで成し遂げられる仕事です。

### ワークフロー運用管理者

Groupmax Workflow を利用するユーザです。ビジネスプロセス管理者の業務に加えて、Workflow 管理サーバに登録したビジネスプロセス定義やロール定義を各 Workflow サーバに配布する権限を持っています。

### ワークフロー管理システム

ビジネスプロセスを一連の仕事（ワーク）の流れ（フロー）として構築し、運用できるようにしたシステムです。

### ワークフローデータベース

Groupmax Workflow の情報を管理するデータベースです。文書の実体を格納する文書実体ファイルと、文書の属性を管理するオブジェクト管理ファイルとに分かれています。



---

# 索引

## 記号

---

/dev/console へのメッセージ出力を抑制する機能 131  
/Flowmate/etc/config 26  
「兼任ユーザ」の扱い 59

## 数字

---

1 ユーザ当たりの同時接続セッション数 37

## A

---

addr\_update\_auto\_reflect 41  
Address ユーザ情報の Workflow 自動反映 41  
AIX 版 Groupmax Workflow のポート番号に関する注意事項 67  
ap\_download\_type 33  
AP ダンプ 235

## B

---

BP 定義の登録 724  
broadcast\_send\_back 35

## C

---

CACHE\_COMP 60  
case\_select\_data\_cache\_size 39  
connection\_info\_keep\_interval 54  
connection\_log\_directory 53  
connection\_log\_save\_type 53  
core 237

## D

---

default\_user\_history\_max 38  
dictsv\_stop\_time\_out 40  
document\_name\_check 42

## E

---

error\_skip\_in\_auto\_reflect 41

Excel でのファイルの読み込み 75, 255  
exentran 63

## G

---

gcache 749  
Groupmax Address - Assist の Groupmax 連携機能を使用した運用 91  
Groupmax Address Server 4  
Groupmax Address Server アンインストール時の対処 50  
Groupmax Address Server 上で組織を変更する場合の操作の流れ 111  
Groupmax Address Server 上の組織変更後の組織ロールへの影響 111  
Groupmax Address Server 上の組織変更後のユーザ権限への影響とその対処方法 113  
Groupmax Address Server 上での組織変更時の Workflow の運用 110  
Groupmax Address 関連ファイル 238  
Groupmax Form で案件を処理する場合の注意事項 115  
Groupmax High-end Object Server 3  
Groupmax High-end Object Server を使用するときのシステムジャーナル容量 724  
Groupmax Integrated Desktop 4  
Groupmax Mail Server 4  
Groupmax Object Server 3  
Groupmax Object Server 関連ファイル 238  
Groupmax Object Server 障害時の回復方法 240  
Groupmax Object Server での環境設定 25  
Groupmax System Agent 4  
Groupmax System Manager 4  
Groupmax Workflow のプログラム構成 2  
Groupmax Workflow Client - Library Extension 3  
Groupmax Workflow Client - Library 3  
Groupmax Workflow Definer 3  
Groupmax Workflow Monitor 3  
Groupmax Workflow Multi-Server 2

Groupmax Workflow Multi-Server 障害時の回復方法 240  
 Groupmax Workflow Server 2  
 Groupmax Workflow Server - Connection 2  
 Groupmax Workflow Server - Connection がサポートする機能の範囲 753  
 Groupmax Workflow Server - Library 2  
 Groupmax Workflow Server - Library Extension 2  
 Groupmax Workflow Server 障害時の回復方法 240  
 Groupmax Workflow Server の初期設定 (WFinitmgr) 724  
 Groupmax Workflow Simulator 3  
 Groupmax Workflow での環境設定 26  
 Groupmax Workflow の運用 69  
 Groupmax Workflow の運用コマンド 137  
 Groupmax Workflow の運用コマンド一覧 138  
 Groupmax Workflow の運用の流れ 70  
 Groupmax Workflow の環境設定 11  
 Groupmax Workflow の環境設定の流れ 13  
 Groupmax Workflow の環境の初期化 47  
 Groupmax Workflow の起動 72  
 Groupmax Workflow の組み込み 17  
 Groupmax Workflow のシステム構成 5  
 Groupmax Workflow の終了 73  
 Groupmax Workflow の前提・関連プログラム 3  
 Groupmax Workflow の前提プログラム 16  
 Groupmax Workflow のユーザの登録 56  
 Groupmax Workflow を構成するプログラム 2  
 Groupmax Workflow を使用する環境 1

## L

---

LANG 23  
 lck\_limit 751  
 LOAD\_COMP 60  
 load\_scripts 28  
 lock\_retry\_interval 28

## M

---

mail\_directory 52  
 mail\_receive\_interval 30  
 mail\_receive\_limit\_interval 53  
 mail\_response\_interval 52  
 mail\_send\_limit\_size 52  
 mail\_send\_retry\_times 30  
 management\_server 33  
 manager\_stop\_time\_out 40  
 max\_login\_user 30  
 max\_login\_userV2 31  
 max\_session\_service\_process 32  
 multi\_server\_config\_path 29  
 multi\_server\_func 29  
 multi\_server\_mail\_message\_max\_size 30  
 multi\_server\_send\_interval 30  
 multi\_server\_send\_retry\_interval 35  
 multi\_server\_send\_retry\_times 35  
 multi\_server\_stop\_time\_out 40  
 multi\_server\_working\_dir 30

## N

---

NLSPATH 23  
 no\_session\_time\_out 36

## O

---

oid インデクスエリア 702

## P

---

PATH 23  
 post\_rank\_display 38

## R

---

re\_login 44  
 receive\_mail\_interval 52  
 resend\_interval 53  
 resend\_mail\_watch\_interval 52  
 resend\_times 53  
 resiobj パラメタ 749  
 resipool パラメタ 747

## S

---

section 64  
 send\_mail\_interval 52  
 send\_mail\_retry\_times 52  
 server\_session\_timeout 36  
 server\_stop\_time\_out 40  
 session\_resource\_per\_user 37  
 sleep\_interval 28  
 socket\_option\_keepalive 35  
 source\_node\_send\_back 35  
 specify\_worker\_check 33  
 SPU 761  
 static\_shmpool\_size 751  
 SYSLOG 235  
 SYSRAS 235  
 system\_organization\_id 33

## U

---

UA-API のエラーコード 698  
 UJ 情報レコード 275, 279, 283  
 user\_data\_dir 33

## W

---

WF-API 及び IS-API のエラーコード 700  
 wf\_log\_dir 29  
 wf\_log\_level 28  
 WFajscdc 142  
 WFajscade 142  
 WFajscads 144  
 WFajsmgc 145  
 WFajsmge 145  
 WFajsmgs 146  
 WFajsmsc 147  
 WFajsmse 148  
 WFajsmss 149  
 WFajsscc 150  
 WFajssce 151  
 WFajsscs 152  
 WFajssvc 153  
 WFajssve 153  
 WFajssvs 154  
 WFanalyst\_bp 155

WFanalyst\_log 156  
 WFanalyst\_log コマンドのパラメタファイル 257  
 WFanalyst\_result 158  
 WFanalyst\_result コマンドのパラメタファイル 258  
 WFcachc 160  
 WFconvertdb 161  
 WFdefrl 162  
 WFdefusr 172  
 WFdeldb 181  
 WFdework 184  
 WFdestlg 187  
 WFexprl 190  
 WFexpusr 193  
 Wffsck 197  
 WFgetlog 198  
 WFfirsnd 199  
 WFfiftry 200  
 WFfifscn 200  
 WFfifreq 203  
 WFfinitmgr 205  
 WFfinitsv 205  
 WFfinsdst 206  
 wfmc\_domain\_connect\_function 42  
 Wfpakage 208  
 WFregusr 209  
 WFretrans 216  
 WFshowcq 217  
 WFshowcq コマンドの出力内容 219  
 WFstartad 220  
 WFstartif 220  
 WFstartmgr 220  
 WFstartms 221  
 WFstartsv 222  
 WFstopad 222  
 WFstopif 223  
 WFstopmgr 224  
 WFstopms 224  
 WFstopsv 225  
 WFSV\_errno のコード 696  
 WFuserls 225  
 work\_directory 52

work\_effective\_period 28  
 workflow\_server\_watch\_interval 34  
 Workflow 管理サーバ 761  
 Workflow 管理サーバホスト名 33  
 Workflow サーバ 761  
 Workflow サーバ監視インターバル時間 34  
 Workflow サーバの変更 59  
 Workflow システム組織 ID 33  
 Workflow 通信データダンプファイル 239  
 Workflow 通信バッファダンプファイル 239  
 workid\_information\_delayed\_write 39

## X

---

XODCONFPATH 24  
 XODDIR 24

## あ

---

アドレスキャッシュ情報ファイル 238  
 アドレス情報のキャッシュの設定 59  
 アプリケーションダウンロード方式 33  
 アプリケーションダンプ 235  
 案件 761  
 案件一覧表示用作業領域のサイズ 39  
 案件操作の注意事項 114  
 案件の回収 726  
 案件の再配布 105  
 案件の再配布の概要 105  
 案件の上長への自動配布の概要 109  
 案件の処理 725  
 案件の遷移 727  
 案件の遷移エラー時の回復方法 240  
 案件の同報 725  
 案件の配布規則 102  
 案件の発信 725  
 案件の複写 726  
 案件の分割 726  
 案件の待ち合わせ 726

## い

---

一般ユーザ 761  
 インターネットメールサーバ 4  
 インデクスエリア 720

## う

---

運用コマンド一覧 138  
 運用コマンド実行時の注意事項 228  
 運用コマンドの指定方法 141  
 運用コマンドのパラメタファイル 256  
 運用コマンドの文法 142

## え

---

エラートレイ 761  
 エラートレイへの配布 109

## お

---

オブジェクトサーバシステム共通定義ファイル  
 バス名 24  
 オブジェクトサーバホームディレクトリ 24  
 オプションの指定による処理の違い 216  
 オペレーションエラーコード一覧 758  
 オペレーティングシステム 3  
 オペレーティングシステムでの環境設定 22

## か

---

開始ヘッダレコード 274, 278, 282  
 回収後の同報前への差し戻し 35  
 解析結果の利用方法 255  
 階層化ロール 761  
 稼働実績集計結果のマージ方法 254  
 稼働実績集計コマンド 158  
 稼働実績集計コマンドの運用 253  
 稼働実績集計コマンドの実行 253  
 稼働実績の集計 253  
 稼働実績ファイル 248  
 稼働実績ファイルのディスク容量 253  
 稼働状況解析機能 248  
 稼働状況解析機能の概要 248  
 稼働状況解析機能の入出力の概要 249  
 稼働状況を解析するための準備 250  
 環境削除コマンド 181  
 環境設定時の障害対策 245  
 環境設定の準備 14  
 環境設定の流れ 12  
 環境設定ファイル 26

環境設定ファイルの記述形式 26  
 環境設定ファイルの参照プログラム 45  
 環境の再構築 49  
 環境の初期化 48  
 環境の設定 26  
 環境変数の設定 23  
 管理者用ログイン 761  
 管理情報レコード 275, 278, 282  
 関連プログラム 4

## き

---

キャッシュ制御情報ファイル 238  
 キャッシュパラメタファイル 59  
 キャッシュパラメタファイルの作成 59  
 キャッシュメモリサイズ 60  
 キャッシュローディングコマンド 160  
 旧バージョンとの互換のための環境設定 61  
 旧バージョンのワークフローログの出力 248  
 旧バージョンのワークフローログのデータ形式 274  
 業務ルール 762

## く

---

クライアントで動作するプログラム 3  
 クラスタ 762  
 グローバルキャッシュパラメタの指定 749

## け

---

ケース 762

## こ

---

コアファイル 237  
 構成変更パラメタファイル 66  
 構成変更パラメタファイルの作成 66  
 コマンドパス名 23

## さ

---

サーバ間通信監視時間 36  
 サーバ間連携機能指定 29  
 サーバ機能 2  
 サーバ機能環境初期化コマンド 205

サーバ機能起動コマンド 222  
 サーバ機能起動コマンド :JP1/AJS 対応 154  
 サーバ機能終了監視時間 40  
 サーバ機能終了コマンド 225  
 サーバ機能終了コマンド :JP1/AJS 対応 153  
 サーバ機能状態取得コマンド :JP1/AJS 対応 153  
 サーバ機能停止情報ファイル 239  
 サーバ機能トレースファイル 236  
 サーバ機能のメッセージ 484  
 サーバで動作するプログラム 2  
 サーバでの環境設定時の対処 245  
 サーバでの設定 22  
 サーバでユーザ・ロールの登録内容を変更する運用 98  
 サーバの IP アドレスの登録 22  
 サーバのディレクトリ構成 19, 20  
 サーバへログインができない場合の対処 246  
 サービス操作コマンド :クラスタ対応 208  
 サービス名の登録 22  
 最上位組織 ID 60  
 最大転送データサイズ 30  
 最大同時排他要求数 751  
 最大ログインユーザ数 30  
 再配布 105  
 再配布対象ノードを指定した場合 107  
 再配布ユーザ 105  
 再ログイン 44  
 再ログイン時の設定値に対するクライアントのログイン結果一覧 132  
 作業員指定時のノードスキップ指定 105  
 作業員指定の作業権限チェック 33  
 作業員にユーザを指定したときの配布規則 106  
 作業員にロールを指定したときの配布規則 106  
 作業員の指定 103  
 差し戻し時の配布規則 109  
 差し戻し・引き戻し時の配布規則 109

## し

---

システム・ログに関する設定 25  
 システム・ログに関する注意事項 131

システム共通定義ファイル 26  
 システム共通定義ファイルの設定 747  
 システム構成変更に関する注意事項 117  
 システム統合運用管理機能を使用した運用  
 82  
 システム統合運用管理機能を使用した起動  
 82  
 システム統合運用管理機能を使用した停止  
 85  
 システムに障害が発生して正常に戻るまで  
 230  
 システムの起動 72  
 システムの終了 73  
 自動配布 104  
 自動配布の指定 104  
 ジャーナル回復に関する注意事項 80  
 ジャーナルのスワップエラー発生時の要因と  
 対処方法 184  
 集計結果のマージ 254  
 集計情報レコード 276, 280  
 集計範囲の分割 253  
 終了ヘッダレコード 277, 281, 293  
 終了ワークに関する注意事項 77  
 終了ワークの一括削除 (WFdelwork) 724  
 障害情報収集コマンド 198  
 障害情報の採取 232  
 障害情報の種類 232  
 障害対策 229  
 障害の回復 240  
 障害の切り分け 231  
 障害への対処 232  
 障害要因の排除 232  
 使用言語 23  
 条件配布を指定した場合 107  
 常駐化の指定 747  
 上長への自動配布 108  
 初期設定パラメタファイル 26  
 処理情報レコード 275, 279, 282  
 処理ノード 762

## せ

---

制御ノード 762  
 静的共有メモリ数 751

セグメントサイズと初期割り当て量 727  
 セッション異常終了時の回復方法 240  
 セッションサービスプロセス数 32  
 世代ファイルの管理 760  
 前提プログラム 3  
 前提プログラムの起動 72  
 前提プログラムの組み込み 16  
 前提プログラムの終了 73

## そ

---

送受信エラー要求再処理コマンド 200  
 送受信要求表示コマンド 203  
 送信メール制限サイズ 52  
 組織権限を利用した案件配布を定義したビジ  
 ネスプロセス定義上を流れている案件への影  
 響 113  
 組織ロール 762  
 組織ロールの変更手順 98  
 その他の運用と運用時の注意事項 92  
 ソフトウェアエラーログ 235

## た

---

代行者 104, 762  
 代行者と代行配布ユーザ 104  
 代行者用ログイン 763  
 代行配布ユーザ 104, 763

## つ

---

通信環境の設定 22  
 通信ソケット KEEPALIVE オプション指定  
 35

## て

---

定義スクリプト読み込み数 28  
 ディクショナリエリア 702  
 ディスク占有量の計算式 701  
 ディレクトリ構成の決定 14  
 データディレクトリエリア 702  
 データの形式 262  
 データベース移行コマンド 161  
 データベースの常駐指定の有効化 48

転送データ一覧取得コマンド 217  
 転送リトライインターバル時間 35  
 転送リトライ回数 35  
 添付文書ファイル名称チェック 42

## と

---

ドメイン 763  
 ドメイン管理者 763  
 ドメイン間連携管理情報最大保存期間  
 54, 123  
 ドメイン間連携機能 SNAP ダンプ 239  
 ドメイン間連携機能起動コマンド 220  
 ドメイン間連携機能起動コマンド :JP1/AJS  
 対応 152  
 ドメイン間連携機能指定 42  
 ドメイン間連携機能終了コマンド 223  
 ドメイン間連携機能終了コマンド :JP1/AJS  
 対応 151  
 ドメイン間連携機能使用時の注意事項 81  
 ドメイン間連携機能状態取得コマンド :JP1/  
 AJS 対応 150  
 ドメイン間連携機能送受信ログファイル 238  
 ドメイン間連携機能トレースファイル 238  
 ドメイン間連携機能の運用上の注意事項 120  
 ドメイン間連携機能のシステム構成 7  
 ドメイン間連携機能の送受信ログ 755  
 ドメイン間連携機能の定義ファイルの作成  
 51  
 ドメイン間連携機能のメッセージ 637  
 ドメイン間連携機能の連携先サーバの追加・  
 削除 120  
 ドメイン間連携サーバ環境定義ファイルの作  
 成 51  
 ドメイン間連携再送インターバル時間  
 53, 122  
 ドメイン間連携再送回数 53, 122  
 ドメイン間連携再送メール監視間隔 52, 123  
 ドメイン間連携作業ディレクトリ名 52  
 ドメイン間連携受信メールチェックインター  
 バル時間 52  
 ドメイン間連携送受信ログ出力ディレクトリ  
 名 53  
 ドメイン間連携送受信ログ保存形式 53, 124

ドメイン間連携中の障害回復方法 241  
 ドメイン間連携ノード 763  
 ドメイン間連携メール格納ディレクトリ名  
 52  
 ドメイン間連携メール処理期限 53, 123  
 ドメイン間連携メール送受信リトライ回数  
 52  
 ドメイン間連携メール送信インターバル時間  
 52  
 トレー 763

## の

---

ノードの属性 102

## は

---

バージョン 02-10 以降のクライアントの最大  
 ログインユーザ数 31  
 バージョンによるビジネスプロセス定義の機  
 能差 61  
 配布 763  
 配布管理機能トレースファイル 237  
 配布規則 105  
 配布指示コマンド 206  
 配布指示ユティリティ機能トレースファイル  
 237  
 バックアップからのリストア 79  
 バックアップの取得方法 79  
 バックアップの対象となるファイル 78  
 パラメタファイルの記述形式 256

## ひ

---

引き戻し時の配布規則 110  
 ビジネスプロセス 763  
 ビジネスプロセス管理者 763  
 ビジネスプロセス間連携での部署名と窓口名  
 の関係 62  
 ビジネスプロセス実績ファイル 253  
 ビジネスプロセス実績ファイルのデータ形式  
 277  
 ビジネスプロセス実績レコード 280  
 ビジネスプロセス定義 764  
 ビジネスプロセス定義情報 235

ビジネスプロセス定義情報抽出コマンド 155  
 ビジネスプロセス定義情報の抽出 250  
 ビジネスプロセス定義情報ファイル 250  
 ビジネスプロセス定義登録時の注意事項 93  
 ビジネスプロセス定義の定義時の注意事項  
 92  
 ビジネスプロセス登録サーバ 764

## ふ

---

ファイル整合性チェックコマンド 197  
 ファイルのバックアップとリストア 78  
 複数ケースソースノードへの差し戻し 35  
 部署名 62  
 部署名定義ファイル 62  
 部署名定義ファイルの作成 64  
 プログラムの組み込み 16

## へ

---

別サーバマシンでの実行 252, 254  
 編集情報レコード 283

## ほ

---

ホームサーバ 764

## ま

---

マスタ管理サーバ 764  
 マスタディレクトリエリア 701  
 窓口名 62  
 窓口名及び部署名の変更・削除 64  
 窓口名定義ファイル 62  
 窓口名定義ファイルの作成 63  
 窓口名と部署名の設定 62  
 マネージャ機能 2  
 マネージャ機能環境初期化コマンド 205  
 マネージャ機能起動コマンド 220  
 マネージャ機能起動コマンド :JP1/AJS 対応  
 146  
 マネージャ機能終了監視時間 40  
 マネージャ機能終了コマンド 224  
 マネージャ機能終了コマンド :JP1/AJS 対応  
 145

マネージャ機能状態取得コマンド :JP1/AJS  
 対応 145  
 マネージャ機能遷移ログファイル 236  
 マネージャ機能トレースファイル 236  
 マネージャ機能のメッセージ 295  
 マネージャスリープ時間 28  
 マルチサーバ環境設定ディレクトリ名 29  
 マルチサーバ機能 2  
 マルチサーバ機能起動コマンド 221  
 マルチサーバ機能起動コマンド :JP1/AJS 対  
 応 149  
 マルチサーバ機能終了監視時間 40  
 マルチサーバ機能終了コマンド 224  
 マルチサーバ機能終了コマンド :JP1/AJS 対  
 応 148  
 マルチサーバ機能状態取得コマンド :JP1/  
 AJS 対応 147  
 マルチサーバ機能送受信ログファイル 237  
 マルチサーバ機能トレースファイル 237  
 マルチサーバ機能のメッセージ 531  
 マルチサーバ機能で使用するメールアドレスの  
 登録 56  
 マルチサーバ構成時のサーバ間接続形態に関  
 する注意事項 128  
 マルチサーバ作業ディレクトリ名 30  
 マルチサーバ送信インターバル時間 30  
 マルチサーバの作業用ディレクトリのディス  
 ク占有量 744

## み

---

未応答要求表示コマンド 200

## む

---

無通信セッション監視時間 36

## め

---

メールサーバ通信監視インターバル時間 52  
 メールサーバ定義ファイル及び連携情報定義  
 ファイルの作成 54  
 メール再送リトライ回数 30  
 メール受信インターバル時間 30  
 メッセージ ID ごとのデータの有無 263, 284

メッセージ受信機能 2  
 メッセージ種別 251, 257  
 メッセージ送受信ログの出力項目一覧 757  
 メッセージ送受信ログの出力ディレクトリと出力ファイル名 759  
 メッセージ送受信ログの出力内容 755  
 メッセージ送信機能 2  
 メッセージとコード 294  
 メッセージの形式 294  
 メッセージファイルパス名 23  
 メッセージロギング 235

## や

---

役職名の順位付け番号表示 38

## ゆ

---

ユーザ 764  
 ユーザ, ロールの登録内容の変更 98  
 ユーザ ID が「system」のユーザの扱い 58  
 ユーザ実績ファイル 253  
 ユーザ実績ファイルのデータ形式 274  
 ユーザ実績レコード 276  
 ユーザジャーナルのアンロード 250  
 ユーザ情報自動反映時のエラースキップ 41  
 ユーザ定義更新コマンド 172  
 ユーザ定義更新ユティリティ機能トレースファイル 236  
 ユーザ定義更新ユティリティ機能ログファイル 236  
 ユーザ定義コマンド 209  
 ユーザ定義情報出力コマンド 193  
 ユーザ定義ユティリティ機能登録ログファイル 236  
 ユーザ定義ユティリティ機能トレースファイル 236  
 ユーザデータ格納ディレクトリ名 33  
 ユーザデータベースエリア 703  
 ユーザトレイ 764  
 ユーザトレイの作成 57  
 ユーザに配布できなかった場合のリカバリ設定 104  
 ユーザの権限及び属性の変更 57

ユーザの作成 724  
 ユーザの設定 55  
 ユーザの登録 56  
 ユーザ履歴取得最大数 38

## よ

---

要求再送コマンド 199  
 要求種別 219  
 用語解説 761

## ら

---

ランダム配布を指定した場合 106

## る

---

累積リソースに関する運用上の注意事項 128  
 ルートケース 764

## れ

---

連携データ再送コマンド 216

## ろ

---

ロール 764  
 ロール定義更新コマンド 162  
 ロール定義更新情報入力ファイルの項目の詳細 166  
 ロール定義更新ユティリティ機能トレースファイル 236  
 ロール定義更新ユティリティ機能ログファイル 236  
 ロール定義情報出力コマンド 190  
 ロール定義情報出力ユティリティ機能トレースファイル 237  
 ロールトレイ 765  
 ロールの作成 724  
 ログインユーザ表示コマンド 225  
 ログファイル 235  
 ロックエラーリトライスリープ時間 28

## わ

---

ワーク 765

- ワーク ID 採番用管理情報遅延更新機能 39
- ワーク ID の形式 92
- ワーク ID の形式指定時の注意事項 92
- ワーク削除コマンド 184
- ワーク削除ユティリティ機能トレースファイル 237
- ワーク削除ユティリティワーク削除ログファイル 237
- ワークフロー運用管理者 765
- ワークフロー管理システム 765
- ワークフローディレクトリサービス 59
- ワークフローディレクトリサービス起動コマンド 220
- ワークフローディレクトリサービス起動コマンド :JP1/AJS 対応 144
- ワークフローディレクトリサービス終了監視時間 40
- ワークフローディレクトリサービス終了コマンド 222
- ワークフローディレクトリサービス終了コマンド :JP1/AJS 対応 142
- ワークフローディレクトリサービス状態取得コマンド :JP1/AJS 対応 142
- ワークフローディレクトリサービスのメッセージ 615
- ワークフローデータベース 765
- ワークフローデータベースの移行 65
- ワークフローデータベースの移行手順 65
- ワークフローデータベースの更新 57
- ワークフローデータベースのディスク占有量 701
- ワークフローデータベース容量の決定 14
- ワークフローログ 74, 235
- ワークフローログ出力コマンド 187
- ワークフローログ出力ディレクトリ名 29
- ワークフローログの出力 74
- ワークフローログの種類 74
- ワークフローログのデータ形式 262
- ワークフローログの編集 251
- ワークフローログの利用方法 75
- ワークフローログファイルのディスク容量見積もり 75
- ワークフローログ編集コマンド 156
- ワークフローログ編集コマンドの運用 251
- ワークフローログ編集コマンドの実行 251
- ワークフローログレコード 284
- ワークフローログレコードの項目データの有無 263
- ワークフローログレコードのデータ形式 262
- ワークフローログレコードのメッセージ内容 265, 285
- ワークフローログレコードファイル 248
- ワークフローログレコードファイルの管理 251
- ワークフローログレコードファイルの使用例 75, 255
- ワークフローログレコードファイルのディスク容量 75, 251
- ワークフローログレコードファイルのデータ形式 281
- ワークフローログレベル 28
- ワーク保存期間 28



(株) 日和 出版センター 行き

FAX 番号 0120-210-454 (フリーダイヤル)

## 日立マニュアル注文書

ご注文日	年 月 日
送付先ご住所	〒 ..... ..... .....
お客様名 (団体名, 又は法人名など)	
お名前	
電話番号	( )
FAX 番号	( )

資料番号	マニュアル名	数量
合計		

マニュアルのご注文について、ご不明な点は  
(株) 日和 出版センター (☎03-5281-5054) へお問い合わせください。